

履修要覧

University of the Sacred Heart, Tokyo

2023

聖心女子大学

2023年度 聖心女子大学学部 教務関係事務日程

授業開講日
 授業および試験期間
 補講日
 休日・祝日

4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29 昭和の日
30						

3/29(水)～4/7(金) 資格課程等ガイダンス・オリエンテーション
 4/ 3(月)～4/12(水) 前期抽選および履修登録
 ・詳細は履修登録ガイドを参照のこと
 4/ 8(土) 入学式
 4/16(日) 春期休暇終了
 4/17(月) 前期授業開始
 4/21(金) 前期抽選
 4/24(月)～4/26(水) 履修登録確認

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9 スポーツの日	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

10/ 9(月) スポーツの日→授業開講
 10/12(木) 後期履修登録確定
 10/20(金) 聖心祭準備(終日休講)
 10/21(土)・22日(日) 聖心祭
 10/23(月) 聖心祭後片付け(終日休講)

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

5/ 1(月)～5/ 2(火) 創立記念週間(休日)
 5/ 8(月) 前期履修登録確定
 5/20、5/27(いずれも土曜日午後) 補講日

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 文化の日	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23 勤労感謝の日	24	25
26	27	28	29	30		

11/ 3(金) 文化の日→授業開講
 11/ 4(土) 大学創立75周年記念式典(終日休講)
 11/ 7(火) 卒業論文提出案内(Sophie)
 11/ 6(月)～11/ 8(水) 履修取消期間
 11/15(水) 履修取消確定

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

6/ 5(月)～6/ 7(水) 履修取消期間
 6/ 3、6/10(いずれも土曜日午後) 補講日
 6/14(水) 履修取消確定

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

12/13(水)～12/15(金) <4年次生>卒業論文提出日
 12/25(月) 冬期休暇開始
 12月上旬 学科希望予備調査(Ush-Cloud)

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 海の日	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

7/15、7/22(いずれも土曜日午後) 補講日
 7/31(月) 補講日
 7/24(月)～7/29(土) 授業及び前期試験期間
 定期試験にかわるレポート(教務課提出)受付期間
 7月中旬 海の日→授業開講
 7/17(月) 前期授業終了
 7/31(月) 前期授業終了

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1 元旦	2	3	4	5	6
7	8 成人の日	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1/ 6(土) 冬期休暇終了
 1/ 9(火) 授業再開・補講日
 1/18(水) 卒業論文審査結果発表(Sophie)
 1月中旬 学科希望予備調査(Ush-Cloud)
 1/16(火)～1/22(月) 授業及び後期試験
 1月中旬 定期試験にかわるレポート(教務課提出)受付期間
 1/10(水)、1/23(火)～1/29(月) 補講日
 1/25(木)、1/26(金) 追審査
 1/29(月) 授業終了
 1/30(火) 春期休暇開始
 1/30(火) 追試験

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11 山の日	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8/ 1(火) 夏期休暇開始
 8/ 2(水) 追試験・追審査

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 建国記念の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23 天皇誕生日	24
25	26	27	28	29		

2/ 9(金)～成績公開(Sophie)
 2/ 9(金) (1日間) <1年次生・3年次生・4年次生>「成績評価確認」受付期間
 2/ 9(金)～2/22(木) <2年次生>「成績評価確認」受付期間
 2/26(月) 卒業内定者発表(Sophie)
 副専攻修了内定者発表(Sophie)
 教員免許状大学一括申請最終申請者発表(Sophie)
 日本語教員課程修了内定者発表(Sophie)
 博物館学芸員課程修了内定者発表(Sophie)
 学科決定内定 2・4年次進級内定者発表(Sophie)

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18 敬老の日	19	20	21	22	23 秋分の日
24	25	26	27	28	29	30

9/ 1(金)～成績公開(Sophie)
 9/ 1(金)～9/15(金) 「成績評価確認」受付期間
 9/14(木)～9/21(木) 後期抽選および履修登録
 ・詳細は履修登録ガイドを参照のこと
 9/22(金) 夏期休暇終了
 9/23(土) 秋分の日→授業開講
 9/28(木) 後期抽選
 9/29(金)～10/ 3(火) 履修登録確認
 9月下旬 学科決定説明会

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20 春分の日	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

3/16(土) 卒業式

履修要覧

2023年度

聖心女子大学

履修要覧 目 次

大学の理念・教育の3つのポリシー・研究倫理ガイド・教育組織	3
学年暦（学部）（大学院）	11
教務課取扱事務等について	12
教学支援システム「Sophie」について	13

学 部

第1部 共通事項

第1章 履修の基本	16
（カリキュラム・単位・卒業要件）	
第2章 履修登録	20
（履修ルール・履修登録の方法）	
第3章 授業	24
第4章 試験・レポート	26
第5章 成績評価	28
第6章 留学	31
第7章 交流学生制度	34
第8章 渋谷4大学連携単位互換制度	34

第2部 カリキュラム

第1章 全学共通事項	
2012～2022年度入学者	37
2023年度以降入学者	52
第2章 専攻課程	
英語文化コミュニケーション学科	70
日本語日本文学科	86
史学科	103
人間関係学科	133
国際交流学科	148
哲学科	176
教育学科	189
心理学科	274
卒業論文	290
第3章 副専攻／特別プログラム	292
第4章 資格課程	
1. 教職課程履修要項（2019～2021年度入学者）	310
2. 教職課程履修要項各学科別 （2019年度以降入学者）	315
3. 教職課程履修要項（2022年度入学者）	331
4. 教職課程履修要項各学科別 （2022年度入学者）	336
5. 教職課程履修要項（2023年度以降入学者）	352
6. 教職課程履修要項各学科別 （2023年度以降入学者）	357
7. 博物館学芸員課程履修要項	373
8. 日本語教員課程履修要項 （2019～2022年度入学者）	375
9. 日本語教員課程履修要項 （2023年度以降入学者）	377
10. 司書教諭課程履修要項	379
11. 司書課程履修要項	379
12. 学校司書課程履修要項	380

大学院

第1部 大学院共通事項

第1章 履修の基本	382
（修了要件・論文）	
第2章 履修登録	400
（履修ルール・履修登録の方法）	
第3章 授業	403
第4章 試験・レポート	404
第5章 成績評価	406
第6章 留学	407
第7章 資格課程	408
参考 委託聴講制度協定書	413
大学院学生の皆さんへ	416

第2部 大学院カリキュラム

[修士・博士前期課程]	
英語英文学専攻	418
日本語日本文学専攻	419
史学専攻	420
社会文化学専攻	421
哲学専攻	422
人間科学専攻	423
[博士後期課程]	
人文学専攻	430
社会文化学専攻	432
人間科学専攻	433

諸規則	439
-----	-----

科目リスト	470
-------	-----

大学の理念

聖心女子大学は、マグダレナ・ソフィア・バラが1801年にフランスで創立した聖心女子学院の教育理念に基づいて、設立された大学である。その教育理念は、一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深めることにある。この精神（「聖心スピリット」）は、世界各地の聖心姉妹校に共通するものである。

本学は、この建学の精神に基づき、

- ・高度な学術的・専門的知識の探求を通じ、新たな知の世界を切り拓く創造力と批判力を養い、それにより高められる豊かな教養を備えた人間を育成する。
- ・個としての自己を確立し、かつ地球を共有する人類の一員とし

て世界を視、人々と交わり、そしてこれらの重要な関心事に自ら関わることのできる広い視野、感受性、柔軟性および実践的な行動力を持つ人間を育成する。

- ・社会の急激な変動に対応できる思考力と判断力を持ち、現代のみならず、未来に向けても自らの考えを自らの言葉で発信できる人間を育成する。

この目標を実現するために、大学・教職員・学生・卒業生は、一体となって聖心の教育コミュニティを形成する。

大学および教職員は常に研究・教育水準の向上に努め、学生および卒業生は、その育まれた資質や成果を、在学中に培われた「聖心スピリット」とともに広く社会に還元できるよう、それぞれにおいてその責任と積極性が求められるものである。

聖心女子大学 教育の3つのポリシー

2023年度以前入学者

〈アドミッション・ポリシー〉—このような人に入学してほしいと願っています—

聖心女子大学では、大学の理念に共感し、国際化した社会のなかで自立した女性として実践的に活動することをめざし、そのための幅広い教養と高い専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望する皆さんに入学していただきたいと願っています。そのため、高等学校では国語、外国語、地理歴史、公民はもとより、数学、理科、総合的な学習、特別活動などあらゆる授業の履修を通じて、またさらに課外活動、読書などを通じて、知識・技能を十分に磨くとともに豊かな体験を積み、積極的に興味・関心の幅を広げてください。そうした主体的な学習姿勢こそが、本学入学後の学修に大いに役立ちます。さらに、聖心女子大学では、自らの問題意識に基づいて探究を行い、自分の意見を正確に発信し、異なる意見も尊重しながら議論を進め、適切な判断を下す力も重要だと考えています。そのため高校時代には、興味・関心のある事柄について協力し合って調べることを体験し、また論理的に考え、書き、話す力、すなわち論理的思考力とコミュニケーション能力を養っておくことが望まれます。このような学習姿勢や能力を身につけた皆さんに入学していただくため、聖心女子大学では、次の3つの方針を掲げています。

1. 皆さんに聖心女子大学をより良く知っていただく機会を広く設けます。そのためにオープンキャンパスや大学公式WEBサイトなどによって、在学生や教員のような方をさまざまな形でご紹介していきます。
2. 一人ひとりの受験生に丁寧に向き合います。そのために皆さんの能力・特性が発揮できるよう一般選抜をはじめ、さまざまな選抜方式を用意しています。どの選抜方式でも記述式を採用し、また学校推薦型選抜や総合型選抜などではじっくりと面接を行うことなどによって、皆さんの「発信力・表現力」を評価します。
3. 聖心で学びたい、という気持ちを大切にします。そのために学科・専攻を入学時に決めるのではなく、入学後の日々の勉学を通して、自分にふさわしい方向性を見出し、2年次に学科・専攻を決める、そのような制度を採用しています。また、聖心女子大学では資質・能力や背景の異なる多様な学生を受け入れるために、さまざまな入学者選抜方式を採用していま

す。○一般選抜（3教科方式）国語、外国語（英語または仏語）、地理歴史（日本史または世界史）の3教科3科目の筆記試験（記述式・マークシート式の双方を含む）により評価します。高等学校で身につけた基礎的な学力と思考力、知識を応用する力を評価し、あわせて記述式問題では的確に表現する力を評価します。○一般選抜（総合小論文方式）特定のテーマに関係する資料（論説文等の日本語の資料、英語の資料、表・グラフなどの統計資料など）を読み、それをふまえて小論文を書く形式の試験で、資料を正確に読み取る力と、論理的で、説得力のある、筋の通った文章を構成する力を評価します。○総合型選抜（アドミッション・オフィス方式）本学の理念や教育方針をよく理解し、本学を第一志望とする入学意欲、勉学意欲の高い学生を対象とします。エントリーシート、小論文、面接、高校の成績（調査書）などによって、入学意欲や勉学意欲、高校での勉学や諸活動、思考力や自身の言葉による表現力、コミュニケーション力などを、多面的、総合的に評価します。なお、この選抜方式の一部に卒業生子女対象選抜を採用しています。○総合型選抜（帰国子女入試）外国の高等学校出身で、異文化の中で生活した経験のある帰国子女（日本国籍を有するか日本国の永住許可を得ている女子）を対象とします。英語4技能資格・検定試験の成績によって英語力を、小論文試験と面接では日本語の力と論理的な思考力と表現力を評価します。○総合型選抜（外国人留学生入試）外国の高等学校出身で外国籍を有し、入学後に日本人学生と同様に授業を受けられる日本語能力のある学生を対象とします。「日本留学試験」もしくは「日本語能力試験」の成績によって基本的な日本語運用能力を評価し、一部英語の問題を含む総合科目試験と面接では、基本的な学力と論理的な思考力、表現力を評価します。○学校推薦型選抜（指定校制、姉妹校制）本学が指定した高等学校より、本学を第一志望とし一定の成績条件を満たして高等学校長による推薦のある学生を対象とします。調査書と提出資料・書類、面接などと、高校での基礎学力・人物・勉学意欲・諸活動などを総合して評価します。

〈アドミッション・ポリシー〉—このような人に入学してほしいと願っています—

聖心女子大学では大学の理念に共感し、カリキュラム・ポリシー、及び学科・専攻の教育目標・教育内容をよく理解し、大学における教育課程を履修するために必要な、高等学校卒業に相当する学力の3要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を備えた人に入学していただきたいと願っています。

そのため、次の3つの観点に合致する学生を募集しています。

1. 自分の意見や価値観を持ち、自分の言葉で発言して周囲の理解を得る力を身につけたい人
2. 日常的に学習する習慣を身につけ、新たな知識や経験によって自分の世界を広げたい人
3. 社会や周囲の人々が必要としていることに敏感に気づき、自らの知識と心と手足を使って 社会に貢献する力を身につけたい人

〈ディプロマ・ポリシー〉—このような卒業生を社会に送り出します—

聖心女子大学は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心(みこころ)に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」女性を社会に送り出すことを建学の精神として掲げています。したがって、学業もまた、単なる専門知識や技能を修得することにとどまらず、精神的に豊かな人間の成長を実現し、他者との共生の場を開くためのものであると考えています。このような考え方から、本学の卒業生には、次のような能力と資質を身につけることが求められます。

1. 世界と人間についての幅広い視野と深い洞察を備えた教養
2. 専攻する学問分野に関する高度な専門知識と基本的な研究・調査能力
3. 論理的な思考力と柔軟かつ的確な判断力
4. 自己の立場や価値観を見定め、自らの意見を自らの言葉で発信する力

5. 他者と共感的に関わり、他者を尊重し、理解し、協働する態度
6. 現代の諸問題をグローバルな視野でとらえ、具体的、現実的に取り組む行動力
7. 各自の置かれた場で、根本的な問題や隠れたニーズを発見して、対応する力
8. 生涯にわたり、知的関心を発展させ、主体的に学び続ける姿勢

これらの能力と資質は、各自が大学の学業と生活の全体を通して、自覚的かつ主体的に追求することで有機的に結びつき、全人的な自己を確立し、生涯にわたり向上していく支えとなるものです。さらにそれによって、物事が急速に変化し、複雑化する現代において、真の価値を追求し、対立や無関心を乗り越えて、他者と共に生きる世界の建設に貢献できるようになるのです。

〈カリキュラム・ポリシー〉—このような方針でカリキュラムを編成しています—

上記のディプロマ・ポリシーに基づき、本学はリベラルアーツの考え方を基盤とするカリキュラムを採用しています。本学が掲げるリベラルアーツとは、専門知識の準備段階として誰もが身につけるべき一般的な知識・技能（一般教養）にとどまらず、高度な学術的専門知識を探究しつつ、世界や人間に対する根本的な問いを発し、多様な観点を統合して「生きた教養」とする学びを意味します。本学では学士課程の全体を通して、こうした学びを、各自が主体的に追求することのできるカリキュラムを置いています。

I 科目種別

科目種別としては、以下の四種類を置き、各自の目的と関心に応じた多様な学びを柔軟に追求することができるようになっていきます。

- (1) 全学必修分野 全学生が共通に身につけるべき基礎知識、観点、能力を身につけるもの
キリスト教学、第一外国語、第二外国語、体育運動学
- (2) 専攻分野 所属学科・専攻の専門的知識や学術的能力を身につけるもの
所属学科・専攻の専門科目
- (3) 関連分野 専攻分野の研究に関連づけて、また各自の関心に応じて自由に履修するもの
総合現代教養科目、基礎課程科目、他学科の専門科目
- (4) 卒業論文 4年間の学びの集大成として全員が取り組むもの
これらのうち、自分が所属する学科・専攻以外の授業科目を「関連分野」として数多く履修するよう定めているのが、本学の特徴です。

II 課程編制

入学時には学科専攻を定めず、1年次には全員が基礎課程に所属します。1年次の終わりに進学先を決定し、2年次以後の専攻課程では各学科・専攻に所属して学びます。

基礎課程 基礎課程においては、専門的学問の基礎となる知識・技能の習得と同時に、リベラルアーツ的な学びを追求するために必要な、統合的なものの見方や学び方の基礎を身につけます。同時に、専門分野に対する理解を深めながら、自らの適性と意欲を見極め、所属学科専攻の決定につなげます。

(1) 全学必修分野

<キリスト教学I> 本学の教育の基盤であるキリスト教の世界観・人間観・価値観を、多面的、多角的な視点から学び、世界と人間に対する深い洞察力と心の豊かさを身につけます。キリスト教学Iにおいては、特にキリスト教への基本的な理解を深めます。

<第一外国語・第二外国語> 第一外国語（英語）・第二外国語（フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・コリア語から選択）では、上質かつ多彩な外国語の授業を通して地球化時代に求められる語学力を身につけるとともに、言語を通じて異文化に対する理解を深め、国際的な視野や関心を広げます。

<体育運動学> 健康の科学や運動文化への理解を深め、適切な運動習慣を身につけ、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくります。

(2) 関連分野

<基礎課程演習> 専任教員の指導のもと少人数のゼミ形式で、学術研究の基礎的な方法や観点を学び、また主体的な学習姿勢を身につけます。

＜総合現代教養科目＞ 地球規模で考え、行動し、交流することが求められる現代において、世界の多様な社会と文化を理解し、時代を見通し、課題を発見し、自身の生き方を考えていくための幅広い知識と教養を獲得するものです。基礎課程段階では、幅広い多様な視点にふれ、リベラルアーツ的な学びの基礎を身につけることを目指します。

＜専攻科目＞ 1年次生向けの入門科目や導入科目を通して、専門分野に対する基礎的な理解を深めるだけでなく、1年次生も受講できる専攻科目を通して、専門分野についてより深い理解を先取りすることもできます。

専攻課程 専攻課程においては、所属学科・専攻の専門的な授業科目を中心に、専門的な学術的能力の習得を目指すと同時に、リベラルアーツ的な学びに必要な能力や視点をさらに深めます。

(1) 全学必修分野

＜キリスト教学Ⅱ＞ 主として3年次で学ぶキリスト教学Ⅱでは、キリスト教に対する理解をさらに深めると共に、歴史、文化、社会などにおけるキリスト教の多様な展開を学びます。

＜第一外国語・第二外国語＞ 2年次においては、1年次において築いた基礎の上にさらに高い語学力や国際的視野を獲得します。さらに、希望者は3・4年次においてもより高度な語学学習を行うことができます。

(2) 専攻分野

＜専攻科目＞ 各学科・専攻が開設する専攻分野の授業科目を履修し、演習、講義、実習等を通して専門性を深めます。とくにカリキュラムの中心に据えられる演習は少人数のゼミ形式で行われ、学生が主体となって行う研究や発表を通して、専門領域についての知識や理解を深めるとともに、課題発見能力と課題解決能力を高め、的確な判断力や十分な発信力・説得力を身につけます。演習での議論を通じて、論理的・批判的な思考力が鍛えられ、他者

の多様な見解に耳を傾け、学び合う姿勢も育ちます。

(3) 関連分野

＜他学科・専攻の授業科目＞ 各学科・専攻が開講する授業科目の多くは、他学科・専攻所属の学生にも開かれており、各自の関心に応じて自由に修得することで、幅広い視野や複眼的な思考力を身につけます。

＜総合現代教養科目＞ 専攻課程段階では、自らが専攻する学問分野を相対化する多様な視点や、現代を生きる社会人として必要な知識や視点を獲得することも期待されています。

*副専攻制度 関連分野履修を体系的に行うことで、主専攻に加えて「もう一つの専攻」を学ぶ制度です。自分の属する学科・専攻で学ぶのとは異なる学問分野や主題のもとで体系的に授業科目を選択履修します。所定の要件を満たした学生には副専攻修了の認定がなされます。

・各学科副専攻 自分が専攻する以外の学科専攻が定める授業科目の中から、各自の関心に応じて選択履修するものです。専攻する以外の学問分野についての一定の知識を獲得すると同時に、複眼的な学問的視野や多様な学術的方法が身につきます。

・総合リベラルアーツ副専攻 モデルプランを参考に、自分で主題を定め、計画を立てて学部全体の授業科目から選択履修するものです。物事に対する多面的な視点や複眼的な視点をはぐくみ、主体的な課題発見と課題解決能力を身につけます。

(4) 卒業論文

4年次には、4年間にわたる学問成果の集大成として、指導教員（メンター）の丁寧な個別の指導のもと、全員が卒業論文を執筆します。各自でテーマを設定し、学問的な研究・調査方法に基づいて探求し、得られた内容を論文としてまとめることによって、思考力、判断力、表現力の大きな伸長が期待されます。

2023年度以降入学者

〈カリキュラム・ポリシー〉—このような方針でカリキュラムを編成しています—

上記のディプロマ・ポリシーに基づき、本学はリベラル・アーツの考え方を基盤とするカリキュラムを採用しています。本学が掲げるリベラル・アーツとは、専門知識の準備段階として誰もが身につけるべき一般的な知識・技能（一般教養）にとどまらず、高度な学術的専門知識を探究しつつ、世界や人間に対する根本的な問いを発し、多様な観点を統合して「生きた教養」とする学びを意味します。本学では学士課程の全体を通して、こうした学びを、各自が主体的に追求することのできるカリキュラムを置いています。

I 科目種別

科目種別としては、以下の四種類を置き、各自の目的と関心に応じた多様な学びを柔軟に追求することができるようになっていきます。

(1) 全学必修分野 全学生が共通に身につけるべき基礎知識、観点、能力を身につけるものキリスト教学、第一外国語、第二外国語、ウェルネス・身体活動、AI・データサイエンス

(2) 専攻分野 所属学科・専攻の専門的知識や学術的能力を身につけるもの

所属学科・専攻の専門科目

(3) 関連分野 専攻分野の研究に関連づけて、また各自の関心に応じて自由に履修するもの

総合現代教養科目、基礎課程科目、他学科の専門科目

(4) 卒業論文 4年間の学びの集大成として全員が取り組むもの

II 課程編制

入学時には学科専攻を定めず、1年次には全員が基礎課程に所属します。1年次の終わりに進学先を決定し、2年次以後の専攻課程では各学科・専攻に所属して学びます。

基礎課程（1年次生）

基礎課程においては、専門的学問の基礎となる知識・技能の習得と同時に、リベラル・アーツ的な学びを追求するために必要な、統合的なものの見方や学び方の基礎を身につけます。同時に、専門分野に対する理解を深めながら、自らの適性と意欲を見極め、所属学科専攻の決定につなげます。

(1) 全学必修分野

＜キリスト教学Ⅰ＞ 本学の教育の基盤であるキリスト教の世界観・人間観・価値観を、多面的、多角的な視点から学び、世界と人間に対する深い洞察力と心の豊かさを身につけます。キリスト教学Ⅰにおいては、特にキリスト教への基本的な理解を深めます。

＜第一外国語・第二外国語＞ 第一外国語（英語）・第二外国語（フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・韓国語）から選択）では、上質かつ多彩な外国語の授業を通して高い語学力を身につけるとともに、言語を通じて異文化に対する理解を深め、国際的な視野や関心を広げます。

＜ウェルネス・身体活動＞ 身体的、精神的、社会的によりよい健康状態をつくりだすための基本的な理解と身体活動の実践的理

解を深め、生涯にわたる健康の保持増進と豊かな身体活動に取り組むための基礎的な能力を身につけます。

<AI・データサイエンス> Society 5.0時代に必要「数理・データサイエンス・AI」に関する知識と技術を学び、それを活用する基礎的な能力を獲得します。

(2) 関連分野

<基礎課程演習> 専任教員の指導のもと少人数のゼミ形式で、学術研究の基礎的な方法や観点を学び、また主体的な学習姿勢を身につけます。

<各学科入門科目> 各学科での学びの全体像や学科教員全員の研究分野を知ることができます。

<総合現代教養科目> 地球規模で考え、行動し、交流することが求められる現代において、世界の多様な社会と文化を理解し、時代を見通し、課題を発見し、自身の生き方を考えていくための幅広い知識と教養を獲得するものです。基礎課程段階では、幅広い多様な視点にふれ、リベラル・アーツ的な学びの基礎を身につけることを目指します。

<専攻科目> 各学科が開講する1年次生向け科目を通して、専門分野に対する基礎的な理解を深めるだけでなく、1年次生も受講できる専攻科目を通して、専門分野についてより深い理解を先取りすることもできます。

専攻課程(2～4年次生) 専攻課程においては、所属学科・専攻の専門的な授業科目を中心に、専門的な学術的能力の習得を目指すと同時に、リベラル・アーツ的な学びに必要な能力や視点をさらに深めます。

(1) 全学必修分野

<キリスト教Ⅱ> 主として3年次で学ぶキリスト教Ⅱでは、キリスト教に対する理解をさらに深めると共に、歴史、文化、社会などにおけるキリスト教の多様な展開を学びます。

<第一外国語・第二外国語> 2年次においては、1年次において築いた基礎の上にさらに高い語学力や国際的視野を獲得します。

(2) 専攻分野

<専攻科目> 各学科・専攻が開講する専攻分野の授業科目を履修し、演習、講義、実習等を通して専門性を深めます。とくにカ

リキュラムの中心に据えられる演習は少人数のゼミ形式で行われ、学生が主体となって行う研究や発表を通して、専門領域についての知識や理解を深めるとともに、課題発見能力と課題解決能力を高め、的確な判断力や十分な発信力・説得力を身につけます。演習での議論を通じて、論理的・批判的な思考力が鍛えられ、他者の多様な見解に耳を傾け、学び合う姿勢も育ちます。

(3) 関連分野

<他学科・専攻の授業科目> 各学科・専攻が開講する授業科目の多くは、他学科・専攻所属の学生にも開かれており、各自の関心に応じて自由に修得することで、幅広い視野や複眼的な思考力を身につけます。

<総合現代教養科目> 専攻課程段階では、自らが専攻する学問分野を相対化する多様な視点や、現代を生きる社会人として必要な知識や視点を獲得することも期待されています。

***副専攻制度** 関連分野履修を体系的に行うことで、主専攻に加えて「もう一つの専攻」を学ぶ制度です。自分の属する学科・専攻で学ぶのとは異なる学問分野や主題のもとで体系的に授業科目を選択履修します。所定の要件を満たした学生には副専攻修了の認定がなされます。

・各学科副専攻 自分が専攻する以外の学科専攻が定める授業科目の中から、各自の関心に応じて選択履修するものです。専攻する以外の学問分野についての一定の知識を獲得すると同時に、複眼的な学問的視野や多様な学術的方法が身につきます。

・グローバル共生副専攻 指定科目の中から、定められた履修要件を満たすように選択履修するものです。人と人が共生する持続可能な社会を目指したグローバル共生を実践するために必要な資質・能力が身につきます。

(4) 卒業論文

4年次には、4年間にわたる学問成果の集大成として、指導教員(メンター)の丁寧な個別の指導のもと、全員が卒業論文を執筆します。各自でテーマを設定し、学問的な研究・調査方法に基づいて探求し、得られた内容を論文としてまとめることによって、思考力、判断力、表現力の大きな伸長が期待されます。

聖心女子大学大学院 教育の3つのポリシー

1. 大学院学生受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

聖心女子大学大学院は、大学の理念に共感するとともに、高度な専門性と学識、研究能力によってグローバル化が進む現代の文化と社会の発展に寄与することを目指し、学術研究への道を志す皆さんに入学していただきたいと願っています。

(1) 修士課程・博士前期課程

修士課程・博士前期課程への入学者の受入れにあたっては、次のようなことを重視します。

まず、大学院入学以前に、専攻する学問分野についての学士課程修了程度の専門知識と研究・調査能力、論理的で柔軟な思考力・判断力、適切に意見を発信する力を獲得し、大学院での学業に主体的に取り組む姿勢を身につけてください。大学院での研究活動を効果的、計画的に進める上では、自身の研究の目的意識と課題を明確にしておくことも大切です。

また、学士課程での学業や社会での活動を通じて、幅広く深い

教養や語学力、他者と協働する姿勢、豊かな人間性、高い倫理性を培い、広く人間の生き方やその歴史、多様な社会のあり方に対して深い関心を寄せてください。これらのことは、大学院での学業を現代社会への貢献に結びつける際に重要なことです。

学術研究への道を多様な研究関心と背景を持つ皆さんにも開くため、多くの専攻で外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設けています。社会や家庭などにおける活動経験を基に、生涯にわたる様々なステージにおいて学問的探究を志す方を積極的に受け入れます。

(2) 博士後期課程

博士後期課程の入学者の受入れにあたっては、旺盛な探究心と深い洞察力を備えた信頼できる人格であることに加え、1. 学位授与方針(1)に示す修士課程・博士前期課程修了程度以上の十分な学識と研究能力を備えていることが必要とされます。

さらに独自性、発展性のある明確な研究課題があらかじめ設定されており、課題を着実に推進できる明確な研究計画が立てられ

ていることが重視されます。

2. 大学院学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

聖心女子大学大学院の修士生には、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神を体現する女性として自己の人格を磨くとともに、次のような能力と資質を身につけることが求められます。

(1) 修士課程・博士前期課程

- 1 専攻する学問分野を中心とする、広い視野に立つ精深な学識
- 2 研究倫理の遵守と、専攻分野に関する適切な研究方法に支えられた高度な研究能力
- 3 専攻する分野において自ら課題を見出し、柔軟な思考力と、的確で総合的な判断力によって、課題を解決する能力
- 4 独自性のある研究成果を導き出し、それを精確に発信する力
- 5 多様な他者を尊重しつつ、能動的に関わり、協働する態度
- 6 自らの研究と専門性を基礎に、グローバル化する社会の諸問題を理解し、その解決をつうじて地域および国際社会に貢献する力

- 7 生涯にわたり、知的、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢

修士の学位は、2年以上在学し、所定の方法により30単位以上修得し、かつ研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格することによって授与されます。

(2) 博士後期課程

博士後期課程では、上記(1) 1～7に加えて、次のような能力と資質を身につけることが求められます。

- 8 専攻する学問分野を中心とする、該博にして精深な学識
- 9 独創性ある研究者として自立した研究を行い得る能力
- 10 専攻する学問分野の発展に寄与し、他の研究者と協働できる力
- 11 修めた学業に基づき、社会において高度に専門的な業務を遂行し得る能力

博士の学位は、3年以上在学し、所定の方法により10単位以上修得し、かつ研究指導を受けて博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格することによって授与されます。

3. 大学院教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

聖心女子大学大学院は、学位授与方針に基づき、次のような方針で教育課程を編成し実施します。

- 1 「聖心女子大学の理念」および「聖心女子大学大学院学則」に基づき、体系的、順次性を考慮し、標準修業年限以内に確実かつ効果的に目的、目標を達成できるよう教育課程を編成します。
- 2 学問分野の研究蓄積を十分に踏まえ、体系的で幅広い学識を培うコースワークと、研究活動の遂行をとおして研究能力を育成するリサーチワークとの順次性とバランスに配慮して教育課程を編成します。
- 3 授業形態については、講義、演習、実習等の適切性とバランスに配慮して、十分な数の科目を開設し、全体として効果が上がるように教育課程を編成します。少人数制を基本とする授業と研究活動をとおして「聖心女子大学の理念」および研究倫理への理解を深め、思考力、判断力を伸ばし、自発性、創造性を発揮することができるよう、特に配慮します。
- 4 各専攻の設置目的と特性とを生かし、専攻ごとにその「修士生像」の実現に向けて最新の研究状況を反映させて教育課程を編成します。

(1) 修士課程・博士前期課程

修士課程・博士前期課程では、上記1～4に加えて、次のような方針で教育課程を編成し実施します。

- 5 研究活動の集大成として、2年次以降において全員が修士論文を提出します。専攻にふさわしいテーマを自ら設定し、先行研究を適切に踏まえて論文を作成するため、特に、修士論文作成に向けた研究指導、論文作成指導の機会を十分に保証します。
- 6 幅広い学識と多角的な視点を身につけるため、他専攻の科目の履修を一定の範囲内で認め、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。国際的な視野を養い、研究活動の活性化を図るために、外国の大学院への留学による履修を一定の範囲内で認めます。

(2) 博士後期課程

博士後期課程では、上記1～4に加えて、次のような方針で教育課程を編成し実施します。

- 7 博士論文の作成を博士後期課程の研究活動の中心として重視し、専攻にふさわしく価値の高いテーマを自ら設定し、学界の研究水準を十分に踏まえつつ独創性のある論文を作成するため、特に、論文作成に向けた研究指導、論文作成指導の機会を十分に保証します。
- 8 授業と研究活動をとおして自発的精神と応用力を養い、研究者としての独創性を発揮し、自立して研究活動を行い得る研究能力を身につけることができるよう、特に配慮します。

学生も研究者の一人です

聖心女子大学における学術的な研究活動は、「聖心女子大学の理念」に基づいて行われ、新たな知の創造と価値の提起をつうじて人類文化の発展と福祉の向上に寄与することを目的としています。

学術的な研究活動を行っているのは、大学教員だけではなく、学部および大学院の学生も、自らの問題意識に基づいて、指導教員の責任の下に高度な学術的・専門的知識の探究を行っています。すなわち、学生の皆さんも学術的な研究活動を行っている研究者の一人なのです。

理解したい3つの研究倫理指針

学術研究に携わる者には、学術研究の目的から常に高い倫理を求められています。

そこで、聖心女子大学では、本学における学術研究の信頼性と公正性を確保し、健全な研究活動が展開されることを目的として、研究活動の倫理に関し大学構成員が遵守すべき基本的な方針を明らかにするために「聖心女子大学研究倫理指針」（以下、「研究倫理指針」と呼ぶ）を定めています。

皆さんも、聖心女子大学における研究者の一人として、この研究倫理指針に従って研究活動を行わなければなりません。研究倫理指針の全文は、『履修要覧』に掲載されていますので、よく読んで理解してください。

ここでは、次にあげる3つの指針について取り上げ、順に説明をしていきます。

point 1. 公正な研究の確保

- 研究活動にあたっては、
「ねつ造」（存在しないデータ、研究結果等の作成）
「改ざん」（データ、研究結果等の加工、変造）
「盗用（剽窃／ひょうせつ）」
（他者の研究アイデア、データや研究成果、著作物等の適切な表示なき流用）
などの不正行為を決して行ってはなりません。

point 2. 法令、規則の遵守

- 研究活動にあたっては、
関連する法令、規則、ガイドライン等に従わなければなりません。
著作権・著作権等を遵守し、他者の知的財産を守らなければなりません。

point 3. 研究対象者、研究協力者への配慮

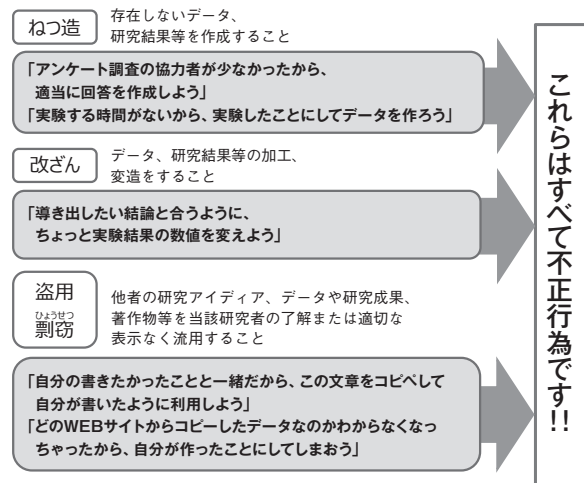
- 研究者が実験、観察、調査などを行う対象者である個人、団体などに対しては事前に研究の趣旨について説明し、協力の了承を得なければなりません。
- 研究の過程と成果の公表に際して研究対象者の個人情報、プライバシー、および尊厳性の保持等に十分配慮し、差別、ハラスメント等の言動があってはなりません。

point 1：公正な研究の確保 ～研究活動における不正行為とは～

皆さんは、試験におけるカンニングは不正行為だと理解していると思います。では、研究活動における不正行為とは何でしょうか？

次に掲げる行為は、研究活動においては不正行為となります。

研究活動にこれらの不正行為が一つでもあった場合、その価値が失われてしまいますので、正しい研究活動を行ってください。



その他にも、研究成果の重複発表、不適切なオーサーシップ、研究データの不適切な管理等が不正行為としてあげられます。

自分の研究に不正行為がなかったことを証明するためにも、日ごろから研究データや研究資料を適切に保存・管理しておきましょう。

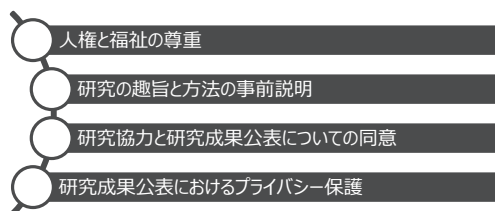
point 2：法令、規則の遵守 ～皆さんに読んでほしい本学の規程等～

著作権法など国などが定めた法令、規則を守り守ることはもちろんですが、本学が定めた規則等も本学で研究活動を行う者は守らなければなりません。本学で研究活動を行うにあたっては、次にあげる本学の規程、ガイドライン等を読んで理解につとめてください。わからないことがあったら、指導教員等に質問してみてください。

- 聖心女子大学研究倫理指針（『履修要覧』に掲載）
https://www.u-sacred-heart.ac.jp/assets/images/research/research-ethics/kenkyu_3.pdf
- 聖心女子大学における「人を対象とする研究」ガイドライン（『履修要覧』に掲載）
- 聖心女子大学研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程
https://www.u-sacred-heart.ac.jp/assets/images/research/research-ethics/kenkyu_6.pdf

point 3：研究対象者、研究協力者への配慮 ～人を対象とする研究～

「人を対象とする研究」とは、個人または集団を対象として、個人情報、行動、価値観等に関する情報・データを、実験、観察、調査（インタビュー、質問紙調査の類）等により収集・採取して行う研究活動をいいます。学問分野によっては、学生の皆さんも、卒業論文等の執筆のために、アンケート調査を行ったり、インタビュー調査を行ったりすることがあるかもしれません。その場合、例えば下記に関する配慮が求められます。



「人を対象とする研究」を行うにあたっては、上記の他、必要な配慮等について指導教員から十分な説明を受けるようにしてください。

学生への研究倫理教育

本学では、以下の通り、学生に対して研究倫理教育を実施しています。

区分	内容
大学院 学生	1年次 研究倫理リーフレットの配付(研究室を通じて配付)
	全年次 全年次 研究倫理eラーニングの受講 (隔年での受講必須、有効期限は2年間とする)
	全年次 全年次 研究倫理研修会への参加
学部 学生	1年次 1年次 研究倫理リーフレットの配付 (基礎課程演習担当教員を通じて配付)
	4年次 4年次 研究倫理リーフレットの配付 (卒業論文指導教員を通じて配付)
	全年次 全年次 研究倫理研修会への参加

USH-Cloud「研究倫理」ページ

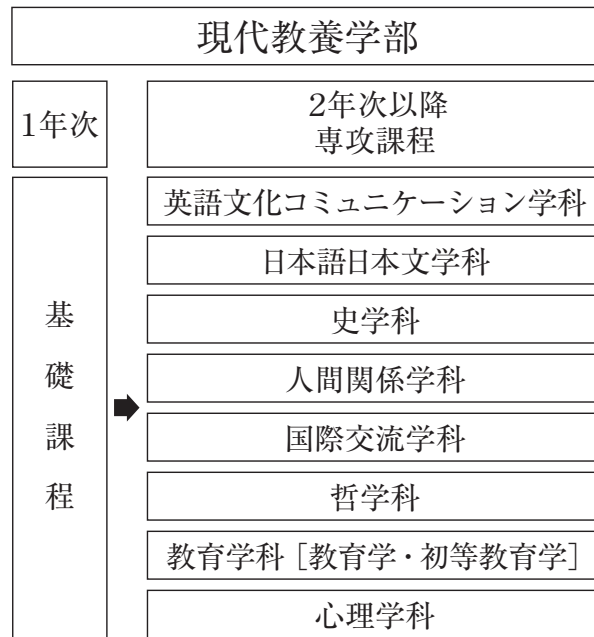
<https://sites.google.com/u-sacred-heart.ac.jp/kikaku-info2/研究倫理?authuser=0>

- ・対人調査ガイドライン及びチェックリスト (学部学生対象)
- ・研究倫理リーフレット
- ・研究倫理研修会資料

など、本学学生向けの研究倫理関連情報を掲載しています。

教育組織

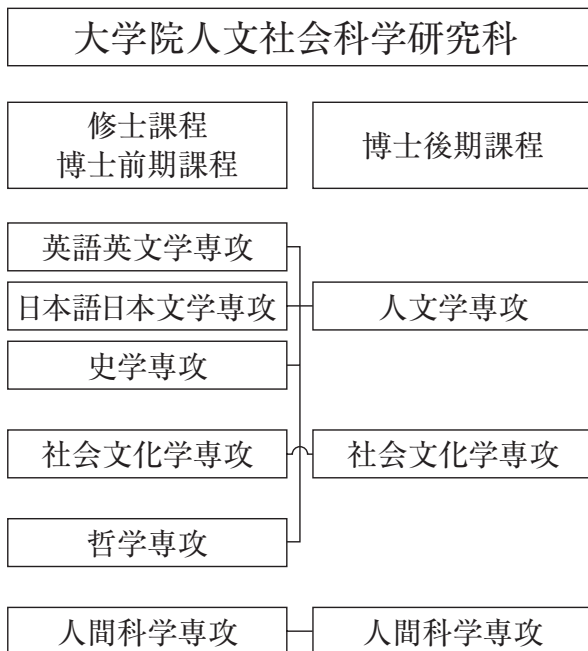
【学部】



※ 「2018年度以前入学者」の表は2021年度以前の履修要覧で確認してください。

【大学院】

2023年度以降入学者



2022年度以前入学者



2023年度 学 年 暦 (2023 ~ 2024)

学 部

前期

入学式	4月8日(土) 大学院は4月1日(土)
資格課程ガイダンス・オリエンテーション	3月29日(水)～4月14日(金)
前期授業開始	4月17日(月)
前期事前登録～登録確定	4月上旬～5月上旬 ●詳細は履修要覧教務関係事務日程を参照のこと
創立記念週間(休日)	5月1日(月)～5月2日(火)
履修取消	6月5日(月)～6月7日(水)
履修取消確定	6月14日(水)
授業及び前期試験	7月24日(月)～7月29日(土)
前期授業終了	7月31日(月) 補講日
夏期休暇	8月1日(火)～9月22日(金)

前期土曜開講科目授業実施(みなし土曜日)	なし
----------------------	----

前期祝日授業実施	7月17日(月) (海の日)
----------	----------------

前期補講日	5月20日、27日、6月3日、10日、7月15日、22日(いずれも土曜午後)、7月31日(月)
-------	---

後期

後期授業開始	9月23日(土) (※祝日授業実施)
後期事前登録～登録確定	9月中旬～10月中旬 ●詳細は履修要覧教務関係事務日程を参照のこと
聖心祭	10月21日(土)・10月22日(日)
聖心祭準備(終日休講)	10月20日(金)
聖心祭後片付け(終日休講)	10月23日(月)
大学創立75周年記念式典(終日休講)	11月4日(土)
履修取消	11月6日(月)～11月8日(水)
履修取消確定	11月15日(水)
卒業論文提出日	12月13日(水)・12月14日(木)・12月15日(金)
冬期休暇	12月25日(月)～1月6日(土)
授業再開	1月9日(火) 補講日
授業及び後期試験	1月16日(火)～1月22日(月)
後期授業終了	1月29日(月)
卒業式	3月16日(土)

後期土曜開講科目授業実施(みなし土曜日)	なし
----------------------	----

後期祝日授業実施	9月23日(土) (秋分の日)・10月9日(月) (スポーツの日)・11月3日(金) (文化の日)
----------	---

後期補講日	1月9日(火)、10日(水)、23日(火)～29日(月)
-------	------------------------------

※補講が必要な場合は原則としてオンデマンドとする。

ただし対面での補講は原則として補講日に実施することとする。

大学院

前期

入学式・履修ガイダンス	4月1日(土) 学部は4月8日(土)
前期授業開始	4月17日(月)
修士論文テーマ・指導教員届及び博士論文題目・指導教員届	～4月21日(金)
前期履修登録～登録確定	4月上旬～5月上旬 ●詳細は履修要覧教務関係事務日程を参照のこと
創立記念週間(休日)	5月1日(月)～5月2日(火)
授業及び前期試験	7月24日(月)～7月29日(土)
前期授業終了	7月31日(月) 補講日
夏期休暇	8月1日(火)～9月22日(金)

前期土曜開講科目授業実施(みなし土曜日)	なし
----------------------	----

前期祝日授業実施	7月17日(月) (海の日)
----------	----------------

前期補講日	5月20日、27日、6月3日、10日、7月15日、22日(いずれも土曜午後)、7月31日(月)
-------	---

後期

後期授業開始	9月23日(土) (※祝日授業実施)
後期履修登録～登録確定	9月中旬～10月中旬 ●詳細は履修要覧教務関係事務日程を参照のこと
聖心祭	10月21日(土)・10月22日(日)
聖心祭準備(終日休講)	10月20日(金)
聖心祭後片付け(終日休講)	10月23日(月)
博士論文提出期限	10月31日(火)
大学創立75周年記念式典(終日休講)	11月4日(土)
冬期休暇	12月25日(月)～1月6日(土)
授業再開	1月9日(火) 補講日
修士論文提出日	1月19日(金)・1月22日(月)
授業及び後期試験	1月16日(火)～1月22日(月)
後期授業終了	1月29日(月)
学位記授与式	3月16日(土)

後期土曜開講科目授業実施(みなし土曜日)	なし
----------------------	----

後期祝日授業実施	9月23日(土) (秋分の日)・10月9日(月) (スポーツの日)・11月3日(金) (文化の日)
----------	---

後期補講日	1月9日(火)、10日(水)、23日(火)～29日(月)
-------	------------------------------

教務課取扱事務等について

1. 取扱事務

教務課（3号館2階）では以下の事務を行なっています。

- ・履修登録
- ・授業（教室、休講・補講、公欠届）
- ・試験・試験にかかわるレポート提出
- ・成績評価
- ・単位認定
- ・卒業論文・修士論文・博士論文提出
- ・副専攻、特別プログラム
- ・資格課程（教職課程、保育士課程、博物館学芸員課程、日本語教員課程、司書・司書教諭課程）
- ・交流学生、特別聴講学生、科目等履修生、研究生、委託聴講生
- ・証明書（成績・卒業に関する証明書、資格関係の証明書、留学・進学関係の推薦書）
- ・授業評価

2. 開室時間

教務課の開室時間は以下のとおりです。この他大学行事等により、開室時間が変更になる場合があります。

掲示に注意してください。

※教務課窓口での手続きには、学生証を提示する必要があります。
常に携帯するようにしてください。

	通常	夏期休暇 期間	冬期休暇 期間	後期授業終了後～ 当年度前期授業開始前日
月～	9:00～11:30	9:00～11:30		9:00～11:30
金曜日	12:30～17:30	12:30～16:00	閉室	12:30～17:00
土曜日	9:00～12:00	閉室	閉室	9:00～12:00

3. 教務課への連絡・質問

新型コロナウイルス感染症の拡大防止への対応として、教務課への質問や連絡は、以下の質問・連絡フォームを使用してください。電話での質問は受け付けませんので、ご了承ください。

【教務課質問フォーム】（Sophieトップ画面に掲載）

https://docs.google.com/forms/d/1nM6RLdaCN_yx_7i5Sv1IR9S_pFGFohYmXckF9f3Eg-8/edit?ts=5e8d3630



4. 掲示板

大学から学生に対するお知らせは、教学支援システム「Sophie（ソフィー）」の掲示によって行います。あわせて3号館2階でも掲示することがあります。掲示されたものについては各自が確認しているものとして取り扱いますので、毎日の習慣として掲示を確認するようにしてください。

5. ガイダンス

履修登録に関する各種ガイダンス（4月）、資格関係のガイダンス（随時）、学科決定のガイダンス（9月・1月）、卒業論文のガイダンス（11月）等、年間を通して複数のガイダンスがあります。ガイダンスへの出席自体が手続きの一部となるものもありますので、各自掲示で日時を確認し、必要なガイダンスには必ず出席してください。


教学支援システム「Sophie」について

「Sophie（ソフィー）」とは…

この名前は、カトリック女子修道会（聖心会）の創立者 Madeleine Sophie Barat（マグダレナ・ソフィア・バラ）の愛称に由来していると同時に、以下の頭文字を取っています。

SOPHisticated Interactive Environment for the Seishin Human Network

1. ログイン方法

USH-Cloud（学生向けページ）から  のアイコンをクリックしてください。



USH-Cloud アカウントのユーザー名とパスワードを入力し、ログインします。

❖ユーザー名：大学メールの@ 以前の文字（半角）

（例）xxxxxx@u-sacred-heart.ac.jp

❖パスワード：任意の英数字（半角）

※ 携帯電話からのログインはこちらから



2. Sophie による掲示

授業に関する情報、学生への個人連絡などをSophieに掲示します。掲示にはメール通知のあるものとないものがありますので下表を参照してください。また、毎日必ずSophieの掲示板を確認するよう習慣づけてください。その他、大学からのお知らせはUSH-Cloud、または、大学公式HPで掲示しますのであわせて確認してください。掲示を見なかったために生じる不利益は学生本人の責任となります。

〈Sophie 掲示板〉重要な情報が掲示されることがありますので、毎日確認するようにしましょう。

掲示板のジャンル	掲示内容	通知
授業担当者からのお知らせ	授業担当教員や開講学科研究室等からのお知らせを掲示します	原則としてメール通知あり
呼び出し	各部署からの呼び出しに関する情報が表示されますので、速やかに対応してください	原則としてメール通知あり
お知らせ	各部署、各資格課程等からの連絡事項が表示されます	原則としてメール通知あり
全学掲示	大学からのお知らせ等を掲示します	メール通知なし
学科・専攻別掲示板	各学科・専攻からのお知らせを掲示します	メール通知なし
奨学金	奨学金に関するお知らせを掲示します	メール通知なし
学科決定	学科決定に関するお知らせを掲示します	メール通知なし
履修登録（人数制限・クラス分け含む）	人数制限などを含む、履修登録に関するお知らせを掲示します	メール通知なし
その他	主に教員向けの情報を掲示します	メール通知なし

3. Sophie のできる事柄

- 履修登録と登録状況の確認
- シラバスの参照
- 教室の確認
- 休講・補講・一時的な教室変更情報の確認
- 成績の確認（各年度GPA および累積GPA の確認含む）
- 出欠情報の参照
- 自己判定機能の利用
- 個人呼び出しなど各種掲示の確認（授業に関する掲示を含む）

4. Sophie ダウンロードセンター掲載情報

- 学年暦
- 学寮暦
- オリエンテーション日程
- 学生生活ハンドブック
- 履修要覧
- シラバス
- オフィスアワー（専任教員及び各研究室のメールアドレス掲載）
- Sophie 操作マニュアル
- 教務関連情報（履修取消、試験・レポート、卒論・修論・博論・交流学生など）
- 資格課程関連情報（教職課程履修カルテ、博物館学芸員課程など）
- 証明書関連情報（申込方法、証明書自動発行機スケジュール等）

※ 上記以外でも必要と思われるものを適宜掲載します。

第1部 共通事項

学 部

第1章 履修の基本

1. 大学での履修

(1) カリキュラムとは

大学の授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したものを「カリキュラム(教育課程)」といいます。所属する学科・専攻・コースのカリキュラムに沿って学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

カリキュラムは入学年度ごとに定められており、原則として卒業まで変更はありません。

(2) 履修とは

各学科・専攻・コースのカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請し(履修登録)、授業を受け、成績評価を受け単位を修得する一連の流れを「履修」といいます。

大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を自分の学問的関心や将来の進路、勉学の目的等に合わせて選択し、独自の時間割を作ることができます。カリキュラム等については『履修要覧』を、授業内容については、Sophieのシラバス参照でよく確認し、履修計画を立てるようにしてください。

また、カリキュラムの範囲で独自の履修計画を立てることができる一方で、卒業するまでの一切の過程は自己責任で行うことになります。各自の責任において、履修登録確認時に正しく履修登録できているかを確認し、Sophieの単位修得状況照会画面で学修の達成状況を確認するにしなければなりません。必要な手続きを怠った場合、授業の受講や単位修得、卒業が不可能となる場合もあります。この『履修要覧』を熟読し、自分自身で学修計画を立て、掲示を毎日確認し、必要な手続きは自己責任において行うようにしてください。学修計画を立てるうえで不明な点、不安な点がある場合は、そのまま放置せず事前に教務課に質問・相談し、問題を解決するように心がけてください。

(3) 単位とは

単位は、学修量を表すものです。授業科目を履修し、定められた達成目標に到達していると担当教員が判断し、以下に定める単位修得要件を満たしている場合、所定の単位が与えられます。

大学設置基準により、1単位の標準=“45時間の学修が必要な内容”と規定されています。大学設置基準の“1時間”は授業時間45分に置き換えて表し、本学での1時限の授業は100分で行われており、単位計算上、1時限は2時間分以上の授業となります。

単位数は、授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。本学では授業科目の性質によって次のように単位修得上1単位の時間数を定めています(学則第25条)。また、単位を修得するためには授業時間数の2倍の授業時間外の学習(準備学習・復習等)が前提となりますので、それも考慮しながら学修計画をたて、無理のない履修を心がけてください。

- (1) 講義および演習科目……………15時間～30時間の授業
- (2) 実験、実習および実技……………30時間～45時間の授業
- (3) 講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う授業科目……………(1)(2)で示した組み合わせに応じた時間の授業
- (4) 外国語科目……………30時間の授業

(4) 単位の修得要件

各授業科目の単位を修得するためには、次の要件を満たさな

ければなりません。

- (1) 授業科目の履修登録がなされていること
- (2) 授業回数の3分の2以上出席していること
- (3) 授業担当者から合格の評価(AA・A・B・Cのいずれか)が与えられること
- (4) 授業料等納付金を所定の期日までに納入していること
(事情がある場合は、所定の期日までに学生生活課に申し出ること)
- (5) 所定の健康診断を原則として受診していること

(5) 本学外で修得した単位の認定

本学以外で修得した単位について、所定の審査を経て、本学の卒業所要単位として認定する場合があります。

(⇒編入学p.19、留学pp.31-34、交流学生等p.34)

2. 本学のカリキュラム

本学のカリキュラムは、1年次生が所属する基礎課程と2年次からの専攻課程によって編成されています。基礎課程を修了して専攻課程に進むためには2年次への進級要件を、大学を卒業するためには卒業要件を満たす必要があります。履修科目を決める際には、その年度だけでなく4年間を通じた履修計画を立て、進級要件、卒業要件を満たすように履修科目を選択する必要があります。

(1) カリキュラムマップの活用

履修にあたっては『履修要覧』の各カリキュラムマップのページを参照し、履修計画を立てる際の参考にしてください。

教職課程に関するカリキュラムマップはp.310またはp.331またはp.352を参照してください。

(2) 基礎課程と進級要件

1年次生は基礎課程に所属します。この課程は、大学での基礎的な学問や幅広い視点に触れることを通して、各自の興味を広げつつ、学修の方針を決定するための課程です。基礎課程では「1年英語」「第二外国語」「体育運動学(2012～2022年度以前入学者/ウェルネス・身体活動(2023年度以降入学者))」「AI・データサイエンス(2023年度以降入学者)」「基礎課程演習」を全員が履修し、その他「キリスト教学Ⅰ」の科目、1年次生向けに開講されている各学科の入門的な科目、総合現代教養科目の中から選択して履修します。

2年次からの専攻課程に進むためには、前期・後期の1年を在学し、1年次終了時に最低20単位(卒業要件外単位を含む)を修得していなければなりません。2年次以降は、各年次前期・後期の在学期間を満たせば、単位の修得状況に関わらず進級します。ただし、2019年度以降入学者は4年次への進級要件が別途定められています。(⇒p.18)

(⇒1年次生の履修pp.50-51、学科決定日程…表紙裏)

(3) 専攻課程

所属学科が決定し進級要件を満たすと、2年次より専攻課程に所属することになります。本学の専攻課程は【表1】のとおりです。各専攻課程のカリキュラムは、『履修要覧』のカリキュラムのページを参照して下さい。科目群(分野・系列)ごとに、卒業所要単位【表2】が定められています。卒業所要単位を満たすと

うに履修計画をたて、授業科目を履修登録して学修します。

【表1】 本学における専攻課程

<2018年度以前入学者> 2021年度以前の履修要覧で確認してください。

<2019年度以降入学者>

英語文化コミュニケーション学科*		⇒ p.70, 78	
日本語日文学科		⇒ p.86, 95	
史学科	日本史	⇒ p.105, 121	
	世界史	⇒ p.112, 127	
人間関係学科		⇒ p.133, 141	
国際交流学科	グローバル社会	⇒ p.148, 155	
	異文化コミュニケーション	⇒ p.162, 170	
哲学科		⇒ p.176, 183	
教育学専攻	教育学専攻	⇒ p.189, 197, 205	
	初等教育学専攻	初等教育	⇒ p.212, 221, 230
		幼児教育	⇒ p.239, 251, 263
心理学科		⇒ p.274, 284	

※2018年度入学者は英語英文学科

【表2】 卒業所要単位

<2022年度以前入学者>

分野	系列 (科目群)	初等教育学専攻以外	初等教育学専攻 (幼児教育以外)	初等教育学専攻 (幼児教育)
全学必修分野 (⇒pp.38-44)	キリスト教学Ⅰ	4	4	4
	キリスト教学Ⅱ	4	4	4
	第一外国語	8	8	8
	第二外国語	8	8	8
	体育運動学	2	2	2
専攻分野	所属学科の専攻科目	60	84	92
関連分野 (⇒pp.45-49)	総合現代教養科目 基礎課程科目 所属学科以外の専攻科目 他	26	98*	14
	卒業論文 (⇒p.290)	8	8	8
合計		132	132	132

※専攻分野60単位、関連分野26単位を満たし、さらに専攻分野と関連分野の合計が98単位以上になるように専攻分野または関連分野から12単位以上を修得すること。

<2023年度以降入学者>

分野	系列 (科目群)	8学科 (初等教育学専攻を除く)	初等教育学専攻 (初等教育コース)	初等教育学専攻 (幼児教育コース)
全学必修分野 (⇒pp.53-58)	キリスト教学Ⅰ	4	4	4
	キリスト教学Ⅱ	4	4	4
	第一外国語	8	8	8
	第二外国語	8	8	8
	ウェルネス・身体活動	2	2	2
	AI・データサイエンス	2	2	2
専攻分野	所属学科の専攻科目	56	82	82
関連分野 (⇒pp.59-61)	総合現代教養科目 基礎課程演習 所属学科以外の専攻科目 他	22	90*	8
	卒業論文 (⇒p.290)	8	8	8
合計		126	126	126

※専攻分野56単位、関連分野22単位を満たし、さらに専攻分野と関連分野の合計が90単位以上になるように専攻分野または関連分野から12単位以上を修得すること。

(4) 卒業要件と在学年限

本学を卒業するためには、次の条件を満たすことが必要です。卒業要件を満たした者については、教授会の議を経て卒業が決定し、学士の学位が授与されます。

- ① 4年間で在学すること (学則第14条による)
- ② 履修要項に定められた卒業所要単位を修得すること
- ③ 最終年次に卒業論文を提出し、その審査に合格すること

*卒業所要単位を4年間で修得できない場合は留年となり、在学期間を延長することになります。ただし、通算して8年を超えて在学することはできません (学則第15条)。

(5) 副専攻 (⇒pp.292-305)

副専攻制度は、2年次から所属する学科である主専攻 (メジャー) に加えて、もう一つの専攻を副専攻 (マイナー) として体系的に学ぶことができるシステムです。副専攻には、各学科が設置する副専攻と、学科横断的に開設する副専攻の二種類があります【表3】。

本学の教育システムは、基礎課程の1年間で多様に学ぶ機会を経験し、3年間の専攻課程で研究テーマを選び、深く追求するとともに広い視野で学修していくことをめざしています。今日の複雑な社会には解決すべき多くの問題点とともに、自身を成長させ輝かすことのできる多くのチャンスが潜んでいます。これらを敏感に察知し、適切に対応するためには、社会の動きを的確に理解するための深い教養と自身の関心領域を拓げるための多様で柔軟な価値観が必要です。そこで、主専攻に加えてもうひとつの専攻を体系的に学修することで、現代社会が求めている複眼的な視野と多面的な能力を養う機会となることが期待されています。

履修中の副専攻は、成績通知書および和文の成績証明書に記載されます。副専攻を修了した場合、卒業時に副専攻修了証が授与され、卒業後は和文の成績証明書に修了した副専攻が記載されます。

*副専攻は卒業要件ではなく、希望者が履修する制度です。他学科開講科目を自由に選択して学修することができます。

【表3】 副専攻の種類

種類	副専攻
学科が開設する副専攻	英語文化コミュニケーション副専攻 英語学・英語教育学分野 英米文学分野 メディア・コミュニケーション分野 メディアと社会分野 (2021年度登録者より)
	日本語日文学副専攻
	史学副専攻 日本史コース 世界史コース
	人間関係副専攻
	国際交流副専攻
学科横断的に開設される副専攻	哲学副専攻
	教育学副専攻
	心理学副専攻
	総合リベラル・アーツ副専攻 (2023年度登録者まで) グローバル共生副専攻

(6) グローバルリーダーシップ・プログラム (⇒pp.306-308)

グローバル化の時代に世界が直面する、難民問題や気候変動をはじめとした地球規模の課題に対応できるリーダーシップの資質や能力、スキルの習得を目指すものです。グローバルリーダーシップ・プログラムは、2年間の特別プログラムであり、基本的に英語で実施されます。

また、本プログラムを修了した場合、卒業時にディプロマ (修

了証)が授与されます。

(7) 資格課程

教職課程 (pp.310-372)、博物館学芸員課程 (p.373-374)、日本語教員課程 (pp.375-378)、司書教諭課程および司書課程 (p.379)、学校司書課程 (p.380) があります。

3. 本学での履修における要件(2019年度~2022年度入学者に適用)

(1) 基礎課程(1年次生)での履修

1年次生は基礎課程に所属します。この課程は、大学での基礎的な学問や幅広い視点に触れることを通して、各自の興味・関心を広げつつ、学修の方針を決定するための課程です。基礎課程では「1年英語」「第二外国語」「体育運動学」「基礎課程演習」を全員が履修し、その他「キリスト教学I」の科目、1年次生向けに開講されている各学科の入門的な科目、総合現代教養科目の中から選択して履修します。

(2) 学年ごとの年間登録単位数の上限と進級要件

無理のない学修計画を立てるよう、大学設置基準第27条の2に基づき、各年次の年間登録単位数の上限を【表1】のとおり定めています。

【表1】学年ごとの年間登録単位数の上限

1年次	2年次	3年次	4年次
42	48	48	42

(注) 短期留学等で認定された単位、卒業論文8単位は、年間登録単位数の上限には含まれません。なお、国際交流学科の異文化コミュニケーションコース生が、短期留学をGP93「海外異文化研究」として履修登録した場合は、年間登録単位数の上限に含まれます。

1年次生が2年次からの専攻課程に進むためには、前期・後期の1年在学し、1年次終了時に、【表2】のように最低20単位を修得していなければなりません。

専攻課程においては、各年次前期・後期の在学期間を満たすことと合わせて、3年次終了時には【表2】に示した単位を修得していなければなりません。修得できない場合は、進級できず、4年次指定科目の履修登録ができません。そのため4年間での卒業はできません。

なお、進級できなかった場合は、その旨を本人及び保証人に通知します。

【表2】2年次進級、4年次進級の要件(修得単位数)

2年次への進級要件	4年次への進級要件
1年次終了時20単位修得済み(卒業要件外単位を含む)	3年次終了時82単位修得済み(卒業要件外単位を含まず)

ただし、次に該当する場合には上表の年間登録単位数の上限の超過と進級要件が特別に認められます。

- ① 教職課程登録者は、毎年度最大12単位の年間登録単位数超過が許可されます。
- ② 3年次終了時に82単位修得できない者で、3年次終了時に72単位以上修得しており、かつ、3年次終了時の累積GPAが2.5以上の者は4年次へ進級とし、4年次に42単位を超えて履修することができます。

(3) 進級が許されない場合

- 次に該当する場合には進級が許されません。
 - ・進級の条件としている単位【表2】を修得できない場合。

(単位不足) ※(2)の②の条件に当てはまる場合を除く

- ・休学により、進級の条件を満たすことができない場合。(在学期間不足)
- ・やむをえない事由によりその学期の全ての授業科目の登録を取り消し、進級の条件を満たすことができない場合。

4. 本学での履修における要件(2023年度以降入学者より適用)

(1) 基礎課程(1年次生)での履修

1年次生は基礎課程に所属します。この課程は、大学での基礎的な学問や幅広い視点に触れることを通して、各自の興味・関心を広げつつ、学修の方針を決定するための課程です。基礎課程では「1年英語」「第二外国語」「ウェルネス・身体活動」「AI・データサイエンス」「基礎課程演習」を全員が履修し、その他「キリスト教学I」の科目、1年次生向けに開講されている各学科の入門的な科目、総合現代教養科目の中から選択して履修します。

(2) 学年ごとの年間登録単位数の上限と進級要件

無理のない学修計画を立てるよう、大学設置基準第27条の2に基づき、各年次の年間登録単位数の上限を【表1】のとおり定めています。

【表1】学年ごとの登録単位数の上限と進級要件

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	20	20	22	22	22	22	20	20
(注2)	1年前期成績優秀者超過可能単位 2	1年後期成績優秀者超過可能単位 2	2年前期成績優秀者超過可能単位 2	2年後期成績優秀者超過可能単位 2	3年前期成績優秀者超過可能単位 2	3年後期成績優秀者超過可能単位 2	4年前期成績優秀者超過可能単位 2	

- (注1) 短期留学等で認定された単位は、年間登録単位数の上限には含まれません。
- (注2) 1年次後期以降について、直近の学期(前期又は後期)GPAが2.75以上の者は、学期の登録上限単位数を2単位超過して履修登録が可能。
- (注3) 通年科目の単位は、半期(前期・後期)それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の2分の1が算入されます。

1年次生が2年次からの専攻課程に進むためには、前期・後期の1年在学し、1年次終了時に、【表2】のように最低20単位を修得していなければなりません。

専攻課程においては、各年次前期・後期の在学期間を満たすことと合わせて、3年次終了時には【表2】に示した単位を修得していなければなりません。修得できない場合は、進級できず、4年次指定科目の履修登録ができません。そのため4年間での卒業はできません。なお、進級できなかった場合は、その旨を本人及び保証人に通知します。

【表2】2年次進級、4年次進級の要件(修得単位数)

2年次への進級要件	4年次への進級要件
1年次終了時20単位修得済み(卒業要件外単位を含む)	3年次終了時86単位修得済み(卒業要件外単位を含まず)

ただし、次に該当する場合には上表の年間登録単位数の上限の超過と進級要件が特別に認められます。

- ① 教職課程履修者は、GPAによる登録上限の緩和とは別に、最大半期6単位の年間登録単位数超過が許可されます。
- ② 3年次終了時に86単位修得できない者であっても、3年次終了時に76単位以上修得しており、かつ、3年次終了時の累積GPAが2.50以上の場合には4年次へ進級とし、4年次に40単位を超えて卒業所要単位数を満たす単位までの履修が許可されます。(この場合の超過履修には学科の許可が必要となります。)

(3) 進級が許されない場合

次に該当する場合には進級が許されません。

- ・進級の条件としている単位【表2】を修得できない場合。
(単位不足) ※(2)の②の条件に当てはまる場合を除く
- ・休学により、進級の条件を満たすことができない場合。(在学期間不足)
- ・やむをえない事由によりその学期の全ての授業科目の登録を取り消し、進級の条件を満たすことができない場合。

5. 授業科目について

(1) 授業科目の種類

<履修方法による分類>

- 必修科目 : 必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
- 選択必修科目 : 指定された科目群の中から定められた単位数分以上を選択して修得しなければならない科目
- 選択科目 : 自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

<授業実施時期による分類>

- 通年科目 : 前期、後期の1年を通じて授業が行われる科目
(継続履修(⇒p.33)が認められた場合に限り、前期と後期を異なる年度に分けて履修することが可能)
- 前期科目 : 前期に授業が行われる科目
- 後期科目 : 後期に授業が行われる科目
- ※上記の中には、一定の時期に集中して授業を行う「集中講義」として開講される科目もある。

6. オフィスアワーについて

(1) オフィスアワーとは

本学では、教員が主として学習状況についての相談に応じる「オフィスアワー」の時間を設定しています。授業内容に関する質問や、単位修得について、学習の進め方、履修登録の相談など、学習全般に関する相談をすることができます。広く学生に対して開かれた時間ですので、有効に活用してください。

一方で、本学教員は、学生の質問や相談に対して、可能な限りいつでも対応するよう努めています。「オフィスアワー」の時間以外でも教員への相談は可能ですので、不明な点は各学科研究室に問い合わせてください。

(2) オフィスアワーの活用方法

オフィスアワーを活用する際は、Sophieに掲載されている「専任教員オフィスアワー一覧」の時間帯を各自で確認し、教員の個人研究室を訪問してください。ただし、急用などにより教員がいない場合もありますので、各学科研究室を通じて事前連絡をとることをお勧めします。

非常勤講師（「専任教員オフィスアワー一覧」に掲載されていない教員）については、授業開始前・終了後の時間に教室や各研究室にて質問・相談に応じます。

7. その他

(1) 編入学生に係る特記事項

<在学年限>

学則第15条および21条の定めるところによります。

<単位認定>

本学に編入学した場合、編入学前に短期大学・大学等で修得した単位の一部について、所定の審査後、教授会の議を経て、本学の卒業所要単位として認定されます。認定された科目の分野系列は単位認定時に決定し、変更することはできません。

ただし、編入学後に第二外国語を変更する場合、認定された第二外国語の分野系列は「関連分野」になります。

<カリキュラム>

編入学生のカリキュラムは、編入学年度の前年度のカリキュラムとなります。編入学時に認定された既修得単位数と本学に編入学後に修得した単位数の合計をもって卒業所要単位を満たすようにしてください。

(2) 入学前単位認定について

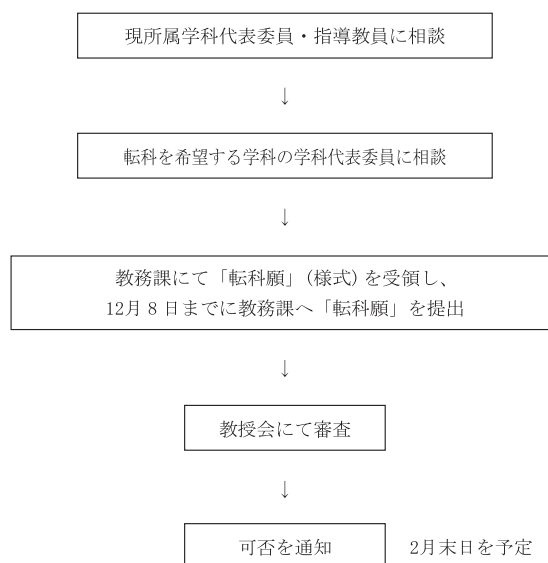
既修得単位（入学前に大学等において修得した単位）の認定を希望する場合は、入学前の指定された期日までに教務課に申し出てください。

(3) 転科について

定員に空きがある場合に限り次年度4月より転科が認められる場合があります。転科願の締切りは12月8日です。期限に間に合うように所属学科の教員に相談の上準備を進めてください。教授会で転科が了承された場合、4月より2年次に在籍します。ただし、教育学専攻と初等教育学専攻の間の転科に限り3年次に在籍することができます。

転科前の副専攻の登録は無効となります。なお、休学中の転科の願出は認められません。

●転科の審査の流れ



(4) 転コースについて

次年度4月より転コースが認められる場合があります。転コースの可否については右表を参照してください。転コース願の締切りは12月8日です。期限に間に合うように所属学科の教員に相談の上準備を進めてください。教授会で転コースが了承された場合の4月からの在籍年次も右表を参照してください。なお、休学中の転コース願出は認められません。

現所属コース	希望コース	転コースの可否	4月からの在籍年次
日本史コース	世界史コース	○	3年次
世界史コース	日本史コース	○	2年次
グローバル社会コース	異文化コミュニケーションコース	○	2年次
異文化コミュニケーションコース	グローバル社会コース	○	2年次
初等教育コース	幼児教育コース	○	2年次 または 3年次 ^{※1}
幼児教育コース	初等教育コース	○	3年次

※1 保育士養成課程を履修する場合は、4月からの在籍年次は2年次となり、保育士養成課程を履修しない場合は4月からの在籍年次は3年次となります。

第2章 履修登録

1. 履修登録について

(1) 履修登録とは

履修登録とは、定められた時期にその年度・期に履修しようとする科目を、本人の責任において、登録する手続きのことです。履修する全ての科目をSophieにて登録します。登録されていない科目は履修することができないので、登録事項に間違いのないよう注意して登録を行ってください。

(2) 履修登録準備

年度・期の初めにSophie上で、単位の修得状況を確認します。『履修要覧』により今年度の履修計画を立て、シラバスで授業内容を参考にしながら履修科目を選び、履修登録を行います。なお、冊子類の内容には変更が生じることがあるので、必ず毎日Sophieの掲示を確認してください。

(3) 履修登録の時期

	1～3年次生	4年次生
前期履修登録	前期科目・後期科目	前期科目・後期科目
後期履修登録	後期科目	なし ※

※ 4年次生の後期履修登録

前期の単位修得状況により、卒業、副専攻修了、資格取得のために後期科目をさらに履修登録する必要が生じた場合は、本人の責任において後期履修登録が可能です。

2. 履修登録単位数のルールと諸注意

(1) 登録単位数の上限

無理のない学修計画を立てるよう、大学設置基準第27条の2に基づき、各年次の年間登録単位数の上限を以下のとおり定めています。

年間登録単位数とは、その年度に履修登録したすべての単位（修得できなかった科目の単位も含む）の合計です。自動登録科目、資格関係科目の単位も含まれます。また、短期留学等で認定された単位、卒業論文8単位は、登録単位数の上限には含まれません。なお、国際交流学科の異文化コミュニケーションコース生が、短期留学をGP93「海外異文化研究」として履修登録した場合は、年間登録単位数の上限に含まれます。

<2022年度以前入学者>

	1年次	2年次	3年次	4年次
年間登録単位数	42	48	48	42

2019年度～2022年度入学者は、次に該当する場合にのみ上表の年間登録単位数の上限超過が特別に認められます。

- ① 2年次から登録する教職課程履修者は、最大12単位の年間登録単位数超過が許可されます。
- ② 3年次終了時に82単位修得できない者で、3年次終了時に72単位以上修得しており、かつ、3年次終了時の累積GPAが2.5以上の者は、4年次に42単位を超えて履修することができます。

<2023年度入学者>【表1】学年ごとの登録単位数の上限と進級要件

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	20	20	22	22	22	22	20	20
(注2)	1年前期 成績優秀者 超過可能単位 2	1年後期 成績優秀者 超過可能単位 2	2年前期 成績優秀者 超過可能単位 2	2年後期 成績優秀者 超過可能単位 2	3年前期 成績優秀者 超過可能単位 2	3年後期 成績優秀者 超過可能単位 2	4年前期 成績優秀者 超過可能単位 2	

- (注1) 短期留学等で認定された単位は、年間登録単位数の上限には含まれません。
 (注2) 1年次後期以降について、直近の学期（前期又は後期）GPAが2.75以上の者は、学期の登録上限単位数を2単位超過して履修登録が可能。
 (注3) 通年科目の単位は、半期（前期・後期）それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の2分の1が算入されます。

2023年度以降入学者は次に該当する場合には上表の年間登録単位数の上限の超過と進級要件が特別に認められます。

- ① 教職課程履修者は、GPAによる登録上限の緩和とは別に、最大半期6単位の年間登録単位数超過が許可されます。
- ② 3年次終了時に86単位修得できない者であっても、3年次終了時に76単位以上修得しており、かつ、3年次終了時の累積GPAが2.50以上の場合には4年次へ進級とし、4年次に40単位を超えて卒業所要単位数を満たす単位までの履修が許可されます。（この場合の超過履修には学科の許可が必要となります。）

(2) クラス

1つの科目について複数の「クラス」が設けられている場合があります。カリキュラム上、1つの科目を複数のクラスに分けて授業を行うので、この場合、履修できるクラスは1つに限られます。

(3) クラス指定科目

以下の科目は授業開始前にクラス分けが行われます。指定されたクラスを履修登録してください。クラスの変更は原則受け付けません。

- ・クラスが指定される科目…第一外国語、第二外国語など
- ・希望クラスの調査後にクラス指定される科目…体育運動学、基礎課程演習、情報活用演習、教職に関わる科目など

(4) 自動登録科目

以下の科目は履修登録を希望する場合でも、履修登録期間前までにあらかじめ履修画面に登録されている科目です。

- ・第一外国語
- ・第二外国語
- ・2年日本語1

【外国人留学生1年次生】

- ・AL19 日本事情1
- ・AL21 日本事情2

【履修を許可された外国人留学生3～4年次生】

- ・AS57 Advanced Japanese Studies (1)
- ・AS58 Advanced Japanese Studies (2)

【新1年次生（再入学生含む）、教務課が指定した学生】

- ・BA01 AI・データサイエンス基礎

【実習資格試験合格者で所定の要件を満たした学生】

- ・CF31 日本語教育実習

【4年次「博物館実習」クラス分けガイダンスに出席した学生】

- ・DJ41 博物館実習

【教職課程所定の手続きをした学生】

- ・RC14 教育実習指導1（中学・高校）
- ・KG13 教育実習指導2（小学校）
- ・KG23 教育実習指導3（幼稚園）
- ・RC15 教育実習指導4（中学・高校）
- ・KG14 教育実習指導5（小学校）
- ・KG24 教育実習指導6（幼稚園）
- ・RC16 教育実習指導1
- ・KG15 教育実習指導2
- ・KG25 教育実習指導3
- ・RC17 教育実習指導4
- ・KG16 教育実習指導5
- ・KG26 教育実習指導6
- ・RC31 教育実習1
- ・RC32 教育実習2
- ・KH09 教育実習3
- ・KH10 教育実習4
- ・RC51 教職実践演習（中学・高校）
- ・KG42 教職実践演習（小学校）
- ・KG43 保育・教職実践演習
- ・KG44 教職実践演習

【初等教育学専攻幼児教育コースの学生で保育士養成課程所定の手続きをした学生】

- ・PE01 保育実習指導I
- ・PJ07 保育実習指導II
- ・PE05 保育実習指導I（保育所）
- ・PE06 保育実習指導I（施設）
- ・PE02 保育実習I
- ・PJ08 保育実習II
- ・PE03 保育実習I（保育所）
- ・PE04 保育実習I（施設）

【グローバルリーダーシップ・プログラム履修中の2・3年次】

- ・AS64 インターンシップ

【経済同友会連携インターンシップの履修許可を受けた学生】

- ・AS88 経済同友会連携インターンシップ

【4年次生】

- ・SA11 卒業論文

【前年度に継続履修の申請手続きを行い、当年度前期に留学中の学生】

- ・継続履修が認められた科目⇒p.33も参照

【英語英文学科、英語文化コミュニケーション学科2年次生】

- ・MA34 英文学史概説1
- ・MA35 英文学史概説2
- ・MA16 英語学概論1
- ・MA17 英語学概論2

【英語英文学科、英語文化コミュニケーション学科3年次生】

- ・ML32 英作文1
- ・ML33 英作文2
- ・MD01 3年英語学演習1-1
- ・MD02 3年英語学演習1-2
- ・MD03 3年英語学演習2-1
- ・MD04 3年英語学演習2-2
- ・MD05 3年英語学演習3-1
- ・MD06 3年英語学演習3-2
- ・MD07 3年英米文学演習1-1
- ・MD08 3年英米文学演習1-2
- ・MD09 3年英米文学演習2-1
- ・MD10 3年英米文学演習2-2
- ・MD11 3年英米文学演習3-1
- ・MD12 3年英米文学演習3-2
- ・MD13 3年英米文学演習4-1
- ・MD14 3年英米文学演習4-2
- ・MD15 3年英米文学演習5-1
- ・MD16 3年英米文学演習5-2
- ・MD23 3年メディア・コミュニケーション演習1-1
- ・MD24 3年メディア・コミュニケーション演習1-2
- ・MD25 3年メディア・コミュニケーション演習2-1
- ・MD26 3年メディア・コミュニケーション演習2-2
- ・MD27 3年メディア・コミュニケーション演習3-1
- ・MD28 3年メディア・コミュニケーション演習3-2

【英語英文学科、英語文化コミュニケーション学科4年次生】

- ・MD51 4年英語学演習1-1
- ・MD52 4年英語学演習1-2
- ・MD53 4年英語学演習2-1
- ・MD54 4年英語学演習2-2
- ・MD55 4年英語学演習3-1
- ・MD56 4年英語学演習3-2
- ・MD57 4年英米文学演習1-1
- ・MD58 4年英米文学演習1-2
- ・MD59 4年英米文学演習2-1
- ・MD60 4年英米文学演習2-2
- ・MD61 4年英米文学演習3-1
- ・MD62 4年英米文学演習3-2
- ・MD63 4年英米文学演習4-1
- ・MD64 4年英米文学演習4-2
- ・MD65 4年英米文学演習5-1
- ・MD66 4年英米文学演習5-2
- ・MD73 4年メディア・コミュニケーション演習1-1
- ・MD74 4年メディア・コミュニケーション演習1-2

- ・MD75 4年メディア・コミュニケーション演習2-1
- ・MD76 4年メディア・コミュニケーション演習2-2
- ・MD77 4年メディア・コミュニケーション演習3-1
- ・MD78 4年メディア・コミュニケーション演習3-2

【人間関係学科生の2年次生】

- ・EN11 人間関係共通演習

【国際交流学科グローバル社会コースの2年次生】

- ・GK11 グローバル社会概論1
- ・GK12 グローバル社会概論2
- ・GK61 Global Communication in English 1
- ・GK62 Global Communication in English 2

【国際交流学科異文化コミュニケーションコースの2年次生】

- ・GN60 異文化コミュニケーション概論
- ・GN61 English Communication I (1)
- ・GN62 English Communication I (2)

【心理学科生の2年次生】

- ・LK23 心理学実験

【年次指定科目の未修得者】

- ・各学科の年次指定科目

(5) 人数制限科目

人数制限科目とは、授業内容等により授業開始前に選抜等を行い、受講人数を制限する科目です。あらかじめ人数を制限する科目については、シラバスに記載されているので、Sophieの事前登録画面または研究室指定の手続きを経て申請してください。また、人数制限の欄に記載がない場合でも、教室等の利用施設の定員数を超えた場合に選抜等が行われることがあります。履修を希望する科目については以下を徹底してください。

- ①選抜等が行われるかどうかをシラバスおよびSophieで確認する
- ②人数制限科目抽選にエントリーする
人数制限は、以下の3つの方法で実施します。

	削除不可科目抽選	削除可科目抽選	研究室抽選
応募方法	Sophie事前登録にて申込	Sophie事前登録にて申込	研究室指定の方法による(Google Form等) Sophieの履修登録掲示板参照
申請期間	削除不可(Sophie)抽選受付期間	削除可(受講者)抽選受付期間	研究室抽選受付期間
結果発表	Sophieの事前登録照会	Sophieの事前登録照会	Sophieの履修登録掲示板
履修登録	自動登録(当選者のみ)	自動登録(当選者のみ)	登録期間中に各自で登録
登録削除・履修取消	不可	取消対象外科目でなければ可(⇒p.24)	取消対象外科目でなければ可(⇒p.24)

<後期科目について>

- ・後期科目であっても前期の事前登録期間に人数制限のための選抜等が行われることがあります。選抜等が行われるかどうかをシラバスおよびSophieで確認してください。

(6) 履修年次

「年次指定科目」は必ず指定された年次に履修してください。推奨される履修年次が、「標準履修年次」、「履修の目安」、「履修モデル」として記されている場合がありますので参考にしてください。またシラバスには「対象学年」として、履修できる年次を示しています。科目の難易度や学修の習熟度に応じて決められていますので、これに従い履修登録するようにしてください。科目によっては指定された年次においてのみ履修できる科目もありますので注意してください。

<1年次生が履修できる科目>

1年次生の履修ページ(pp.50-51)を参照してください。

(7) 再履修

原則として、すでに修得済みの科目を履修することはできません。ただし、『科目リスト』に再履修できる科目として掲載されている科目に限り履修が認められ、修得した単位は卒業所要単位に含めることができます。

(8) 時間割重複

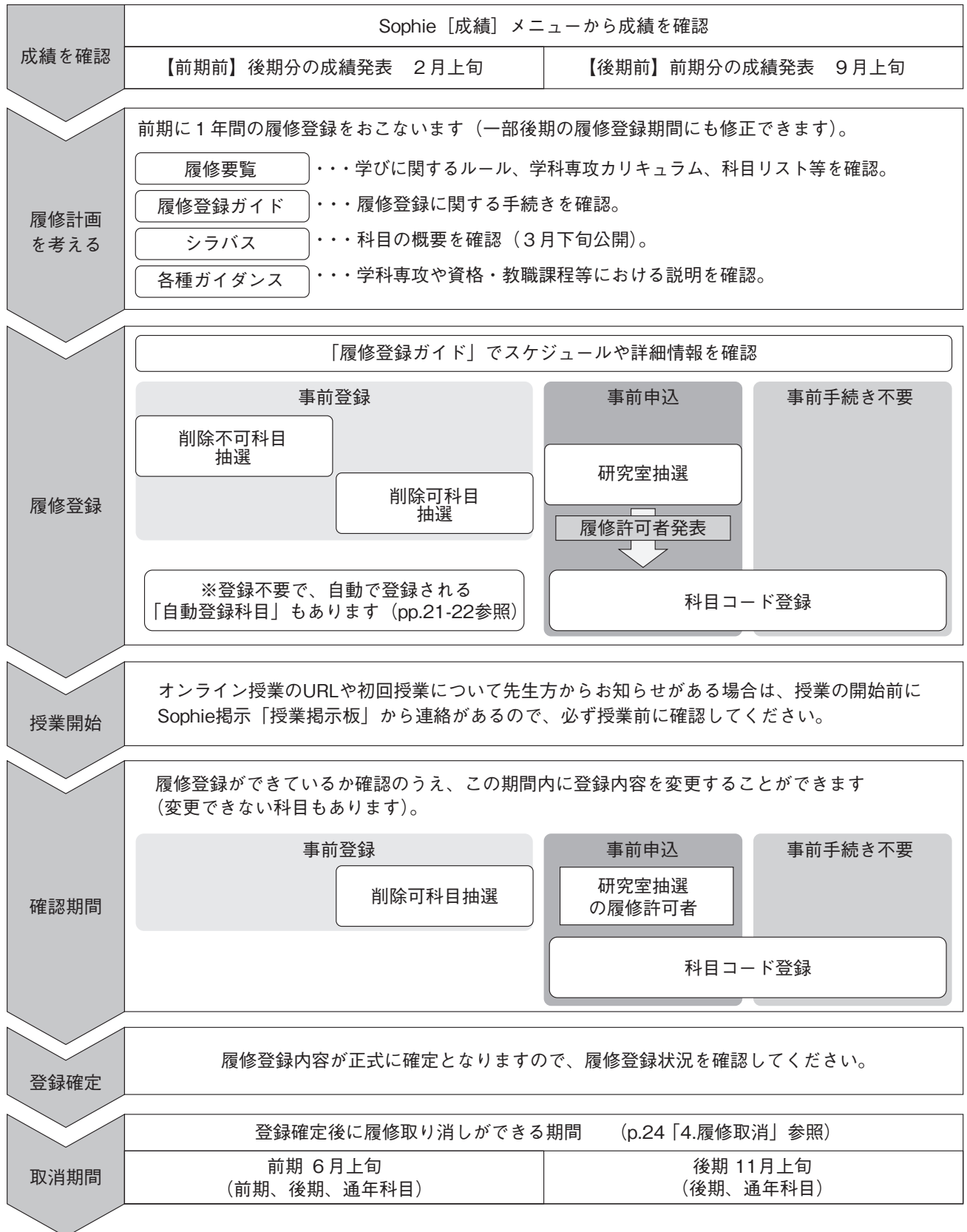
同一時間に複数科目を重複して履修することはできません。また、集中講義の日程が重複して行われる場合(含、一部日程重複)、登録することはできません。

(9) 開講取止め

履修登録確定時点で、以下の科目は開講取止めとなります(履修取消期間に履修登録者が減少した場合、履修登録者がいる限りは継続して授業を行います)。

- ・学部生の履修登録者が0名となった科目。
- ・学部生の履修登録者が5名未満となった、非常勤講師による学部開講科目(ただし、①必修、選択必修、副専攻、グローバルリーダーシップ・プログラム、教職課程、博物館学芸員課程、日本語教員課程として履修登録者がいる場合、②公認心理師受験資格選抜試験に合格した者を対象としている場合、③同時限開講科目が成立する場合は開講する)。
- ・学部生が履修可能な科目で大学院学生の履修登録者が0名の大学院開講科目

2023年度 履修登録について



※あくまで大まかなながれのため、履修登録の詳細については「履修登録ガイド」を確認してください。

4. 履修取消

(1) 履修取消とは

履修取消制度とは、授業を受けてみた結果授業内容が勉強したい内容と異なっていた、あるいは授業についていくだけの知識が不足していた等、そのままでは単位を修得することが難しいと判断した場合、履修登録した科目の取り消しを申請することができます。ただし、4年次生のみ取り消しの申請は前期までとし、後期（11月）の取り消しはできません。

(2) 取消対象外科目

以下のいずれかに該当する科目は、取り消すことができません。

- ①必修科目（全学必修分野、所属学科の専攻課程分野）
- ②以下の全学必修分野の選択必修科目のうち卒業所要単位が未修得のもの
 - a. キリスト教学Ⅰ
 - b. キリスト教学Ⅱ
 - c. 第二外国語
- ③以下の実習科目
 - a. 教育実習
 - b. 保育実習Ⅰ・Ⅱ
 - c. 博物館実習
 - d. 日本語教育実習
 - e. 心理実習Ⅰ・Ⅱ
- ④履修取消の申請期間より前に成績が確定する科目（一部の集中講義、通年科目で前期の中間評価がF（OC）となった科目など）
- ⑤削除不可科目（Sophie）抽選により履修が確定した人数制限科目（ただしキリスト教学Ⅰ・Ⅱは卒業所要単位を修得済であれば取消す）
- ⑥卒業論文

(3) 申請方法

＜申請期間＞ ※時間等詳細は掲示参照のこと

前期：6月5日～7日

前期、後期、通年科目の取り消しを申請する。

後期：11月6日～8日

後期および通年科目の取り消しを申請する。4年次生は取り消し不可。F（OC）の評価がついた通年科目も取り消し不可。

〔例外〕履修取消期間と学外実習（教育実習など）が重なる学生の対応について

申請期間と学外実習期間がすべて重なる場合のみ、学外実習1週間前から申請手続きを受け付ける。

＜申請方法＞

期間中、下記URLにアクセスし、GoogleFormに必要な事項を入力する（1科目につき1回申請）

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeOpuM470cbHbaL7EWIZmugsIfGyJa0J6y0_C85SUbp3u6_DQ/viewform



(4) 履修取消の確認

履修取消確定後にSophieにログインし、履修登録照会画面上で取り消し内容を確認してください。申請要件を満たしている科目のみ取り消しが認められます。なお、申請期間後の申請内容の変更、および、追加は認められません。

(5) 注意事項

- ・取り消した科目は成績通知書および成績証明書には記載されません。
- ・取り消した科目の単位は登録単位数から減ずることができません（単位の上限p.20）
- ・特別な申し出がない限り、退学時点、休学・留学開始時点で履修中の科目がある場合は、履修取消となります。

第3章 授業

●授業期間

半期科目は14週、通年科目は28週が通常の授業期間となります。初回授業では授業に関するオリエンテーションが行われますので必ず出席してください。

●授業時間

授業時間は、以下のとおりです。土曜日は、集中講義等を除き2時限まで授業が行われます。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～ 10:40	10:50～ 12:30	13:30～ 15:10	15:20～ 17:00	17:10～ 18:50

●祝日授業実施

授業日数を確保するため、特定の祝日にも授業を行うことがあります。当該年度の祝日授業実施日程については、学年暦で確認してください。

●土曜開講科目授業実施（みなし土曜日）

土曜日の授業日数を確保するために設けられた日程で、特定の土曜日に2回分の授業を行います。通常の授業時間とは異なりますので、実施日1週間前頃に掲示される内容を必ず確認してください。なお、当該年度の土曜開講科目授業実施（みなし土曜日）日程については、学年暦で確認してください。

【参考】 過年度に実施されたみなし土曜日の時間割は、以下の通りです。

■通常【土1】開講科目 ⇒ 1限・2限に授業実施

■通常【土2】開講科目 ⇒ 3限・4限に授業実施

●休講

授業担当者の公務、学会出席、病気等によりやむを得ず授業を休講することがあります。大学からの休講連絡はSophieで配信します。電話やメール等での照会には応じません。休講の情報がなく授業時間を20分経過しても授業担当者が入室しない場合は、教務課に連絡して指示を受けてください。

●補講

休講となった授業は、補講が行なわれます。補講日時等は、Sophieで配信します。

オンデマンド配信で行われる補講について、Sophieで通知される補講日時は配信日時の目安です。詳細は各授業担当者の指示に従ってください。

補講日については学年暦に定めているとおりですが、その他の日程で行われる場合もあります。

●出欠席

- (1) 出欠席の確認は授業開始日より行なわれ、その方法は授業担当者が決定し学生に伝えます。
「遅刻または早退3回で1回欠席」といったルールはSophie [授業担当者からのお知らせ] に掲示またはシラバス [その他、履修上の注意事項や特記事項] に示します。
- (2) 2020年度より、授業担当者が入力した出欠席情報が、Sophieにより学生にも開示されます。ただし、出欠席情報の更新頻度は、授業担当者・授業の履修人数等により異なりますので、ご承知おきください。
- (3) 交通機関による遅延、病気などによってやむを得ず欠席する(した)場合は、各自で授業担当者に事情を説明してください。教務課で欠席の連絡を取りつぐことはできません。
- (4) 大学を長期(2週間以上)にわたって欠席する(した)場合、および忌引きの場合は学生生活課に連絡してください。【『学生生活』参照】また、単位の修得要件(2) (⇒p.16)にも気をつけてください。

●公欠

「公欠」とは、次に掲げるものについて、教務課へ公欠届を提出することにより、所定期間内の履修科目の欠席を認めることを意味します。公欠届が提出された場合の欠席は、授業出席回数に算入されます。公欠届の申請方法、様式はSophieのダウンロードセンターに掲載されています。

(3) の場合を除き、必ず事前に公欠の手続きを教務課で行ってください。

- (1) 教育実習、介護等体験、日本語教育実習、博物館実習(学外)、心理実習(学外)等
- (2) 「災害救援ボランティア講座」に大学から派遣される場合
- (3) 忌引公欠：
公欠期間の最終日の翌日から起算して5日以内(土・日・休校日を除く)に、忌引公欠届(保証人の署名・捺印を要する指定用紙。Sophieに掲載)およびこれを証明する書類(会葬御礼・死亡診断書の写し等)を提出したもの(最長公欠認定日数は次のとおり)。
 - ・配偶者の場合は、死亡した日から起算して連続7日(休日を含む。)の範囲内の期間
 - ・1親等(父母、義父母、子)の場合は、死亡した日から起算して連続7日(休日を含む。)の範囲内の期間
 - ・2親等(祖父母・兄弟姉妹、孫)の場合は、死亡した日から起算して連続3日(休日を含む。)の範囲内の期間
- (4) その他特別な事情(災害等)により、大学が認めたもの(就職活動による授業欠席については「公欠」の扱いは認められません)。

なお、(1)~(4)に関して、保育士養成課程における授業欠席については「公欠」の扱いは認められません。

▼出席停止

「学校保健安全法」により定められた感染症(インフルエンザ、麻疹、百日咳等。本学ホームページから確認ができます)に罹患した場合、その旨大学保健センターに速やかに連絡をし、医師の指導に基づき大学への通学を控えてください。その間は「出席停止」の扱いとなり、出席停止期間中の欠席回数は、出席すべき回数から除外されます。病院で医師の診断書を取得し、体調回復後、大学保健センターに提出してください。

●集中講義

授業科目によっては、一定の時期に集中して授業を行う「集中講義」として開講される科目があります。各集中講義の日程は、Sophieの掲示で確認してください。

[履修上の注意事項]

- ①授業形式が対面、対面(一部オンライン)、オンライン(リアルタイム型)で実施される集中講義科目において、曜時が他の授業科目と重なっている場合や、集中講義科目同士の日程が一部でも重複している場合、出席できる授業はいずれか一科目のみです。
日時の重複等により出席できなかった集中講義は欠席扱いとなりますのでご注意ください。
- ②集中講義期間中に、「学校保健安全法」により定められた感染症罹患による出席停止になった場合、教務課への申請により、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。集中講義最終日から2週間以内に教務課に手続きを行ってください。

●交通機関の大幅な乱れを伴う災害・交通ストライキや、感染症などの場合の休講・休校について

1. 大学からの連絡・通知手段

大学公式ウェブサイトのトップページの「重要なお知らせ」に本学の対応を掲載します。

(また、代替手段として大学公式SNSで告知する場合があります。)

2. 休講・休校の措置について

- (1) 台風の接近や暴風雨雪などが予想される場合は、前日の午後6時を目途に措置内容を掲載します。休講・休校を解除し授業・諸活動を再開する又は対応を延長するなど、前日の午後6時に告知した対応内容に変更・追加がある場合は当日の午前6時に、午前6時掲載の対応内容に変更・追加がある場合には当日の午前11時を目途に掲載します。
- (2) 本学への主たる交通機関であるJR山手線、東京メトロ日比谷線の運行状況により判断し、上記1.大学からの連絡・通知手段により措置内容を告知します。
- (3) 学校保健安全法の<学校において予防すべき感染症>による患者が一定数を超えた場合の休校措置については、上記1.大学からの連絡・通知手段により措置内容を告知します。
- (4) 大学が休講・休校になった場合には、学外からご来学の一般の方の活動や課外活動も同時に中止とします。在校中の場合は諸活動を取りやめ、身の安全を図ってください。

※上記2. は原則です。予測ができない災害(大地震等)の場合など、緊急の対応を要する場合や、そのほか広く本学の対応・措置を告知する必要がある事柄についても、随時大学公式ウェブサイトのトップページの「重要なお知らせ」に掲載しますのでご確認ください。

※登校中または帰宅途中の場合は、原則として帰宅することとし、在校中は大学の指示に従ってください。

大学からの緊急連絡や重要なお知らせがある場合には、大学公式ウェブサイトの「重要なお知らせ」にてお知らせします。在学生の皆さんは、毎日必ず確認するとともに、USH-Cloudからのメールを自分の携帯端末等で確認できるように設定してください。

大学公式ウェブサイト
<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/>



聖心歳時記facebook
<https://www.facebook.com/SeishinDiary>



聖心TopicsTwitter
<https://twitter.com/SeishinTopics>



第4章 試験・レポート

1. 試験・レポートについて

学期末、学年末の成績評価の方法は授業科目によって異なります。評価方法はシラバスに記載されていますので必ず確認するようにしてください。

「定期試験」として実施される場合には、学年暦の「授業および試験」期間に行われます。「教務課提出のレポート」として実施される場合には、所定の期日に教務課に提出します。提出日・提出方法は別途Sophie上に掲示します。それ以外の場合は授業担当者の指示に従ってください。

●試験時間

定期試験の場合の試験時間割は、以下のとおりです。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～ 10:40	10:55～ 12:35	13:30～ 15:10	15:25～ 17:05	17:20～ 19:00

●試験受験上の注意

次の各項を確認の上、試験時間中は試験監督者の指示にすべて従ってください。

- 学生証は常に携帯し、試験時間中は必ず机の上に置く。学生証を忘れた場合は、試験開始までに証明書自動発行機にて「在学証明書」発行の手続きを行う。
- 座席が指定されている場合は、試験監督者の指示に従い、定められた席に着く。
- 学生証、筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・万年筆・ボールペン・消しゴム・その他特別に指示があるもの）以外のものは、机の上に置かない。
- 携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器は、アラームの設定を切り電源も切ってカバンの中に入れておく。これらは時計としても使用できない。持ち物は各自の椅子の脇に置く。
- 時計のアラームの設定を切り、時刻表示以外の他の機能がついた時計は使用しない。
- 試験開始後50分までは、試験場から退出しない。
- 遅刻者は試験場に入ることが許されず、受験することができない。ただし試験開始後30分以内の遅刻で、公共交通機関の事故など不可抗力による遅刻であれば、試験監督者の指示に従い、受験することができる。

●レポート作成・提出についての注意

提出するすべてのレポートについて、本学の研究倫理ガイド（⇒p.8）および研究倫理指針（⇒p.467）を熟読し、不正に相当する行為を行わないよう注意してください。

【教務課へのレポート提出に関する注意】

次のことに注意してください。

- 授業担当者に直接届ける、郵送する等しても受理されない。指定された期日に提出すること。
- 教務課指定の「レポート提出票」に必要事項を記入し、掲示の見本どおりの体裁に整えて提出すること。
- 学生証を提示し、本人が提出すること。

2. 追試験・追審査について

以下の理由で、定期試験が受験できなかった、または教務課提出のレポートを提出できなかった場合、指定期間に必要な書類を教務課に提出し、授業担当教員の許可が得られれば、所定の手数料を納付し、追試験・追審査の受験が認められます。（出席停止（⇒p.25）の場合は手数料免除）詳細についてはSophieの掲示を確認してください。

理由	受験料	証明書
病気・怪我	有料	医師の診断書（試験当日に通院・療養中であったことを証明するもの）。他は不可
学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症による欠席（インフルエンザ等）	免除	
忌引（両親、兄弟、姉妹、祖父母）	有料	死亡に関する公的証明書（会葬礼状でも可）
災害（台風、水害、火災等）	免除	官公庁による被災証明書
交通関係（事故、遅延）	有料	（自宅からの通常の通学経路における）交通機関が発行した証明書（インターネット上の遅延証明書は不可）
単位互換科目との試験日程重複	有料	受入れ大学の試験日程を証明するもの（交流学生制度、渋谷4大学間単位互換制度のみ対象）
その他学務部長が正当な理由として認めた場合		必要に応じて求められた書類

●対象となる科目

定期試験、教務課提出のレポート
ただし、第一外国語・第二外国語の追試験は行いません。

●受付期間等（詳細は掲示で確認すること）

追試験 試験日翌日から試験期間最終日まで
※最終日の科目についてはその翌日まで
追審査 レポート提出期限翌日と翌々日
※実施時期 前期8月上旬 後期1月下旬

●申し込みに必要な書類等（詳細は掲示で確認すること）

- (1) 追試験願、または追審査願
 - (2) 理由に応じた証明書類（上記の表参照、予め取得しておくこと）
- ・追試験願、または追審査願が承認されたか否かについては、Sophieで通知します。
 - ・受験が認められた場合は、Sophieでの通知にしたがい、追試験料／追審査料3,000円分の証紙を購入してください（出席停止の場合は免除）。何らかの理由で追試験を受験しなかった場合、または追審査レポートを提出しなかった場合でも返還しません。
 - ・追試験を受験する際には、学生証と追試験受験票（証紙帖付）を必ず持参してください。受験票は試験開始前に教務課にて交付します。受験上の注意は、定期試験に準じます。
 - ・追審査レポートを提出する際には、所定の提出票に必要事項を記入した上、追審査受験票（証紙帖付）とともに、学生証を提示して教務課に提出してください。受験票はレポート提出前に教務課にて交付します。提出上の注意は、教務課提出のレポートに準じます。
 - ・追試験／追審査による成績評価は定期試験に準じて各授業担当者が行います。

3. 再試験（4年次後期のみ）について

4年次生で、次の(1)～(4)の条件を満たす者に、再試験の受験が認められます。

- (1) 卒業論文審査に合格している者
- (2) 卒業に必要な後期科目又は通年科目が不合格（「F」）となったものの、その科目に合格すれば、その年度に卒業できる見込みがある者
※前期科目は対象外
- (3) 上記(2)でその年度に「F」が2科目以内の者
※「F(OC)」「F(UG)」の科目は再試験の対象外
- (4) 上記(1)～(3)の条件を満たしたうえで再試験の受験願を提出した者のうち、(2)の科目の担当者が再試験の実施を認めた者

●受付期間：2月中旬（成績通知期間）

再試験実施期間：2月中旬の指定日
※詳細はSophieの掲示で確認すること
※理由の如何に関わらず受付期間内に申請しなかった場合、受験は認められません。
同様に、指定日に受験しなかった場合は、成績評価の訂正は認められません。

●受験手続等

- ・成績発表期間に成績を確認し、再試験の受験を希望する者は、教務課にて手続きを行うこと。
- ・Sophieでの通知にしたがい、再試験料3,000円分の証紙を購入し提出すること。
※一旦納入された再試験料は理由の如何に関わらず返還しません。

【注意】

- ・再試験受験による成績評価は「C」「F」のいずれかとなります。

4. 不正行為について

【試験における不正行為について】

次の各項の行為は不正行為とします。また、この各項以外でも試験監督者が不正行為と認めた場合は、不正行為とみなす場合があります。

- (1) 試験監督者の指示・注意等に従わない、所定の答案を提出しない、偽名または故意により無記名答案を提出する、不要なことを答案に書くこと。
- (2) 代人受験するまたは代人受験させる、他人の学生証を使用したり受験資格のない者が受験すること。
- (3) 答案・解答を他人と交換する、他人の答案・解答を写すまたは写させる、あるいは盗み見る、答案・解答について声・動作等で伝達を受ける又は伝達すること。
- (4) 試験監督者により使用が許された文献類・辞書類以外の物を使用する、または借りたり貸したりすること。
- (5) 試験監督者により使用が許された文献類・辞書類以外の物を机の上に置いたり見たりすること（身体や衣服、机等への書き込み等も含む）。
- (6) 通信機能を有する機器または通信機能を有しないことが不明確な機器（音楽プレーヤー等）を、かばん等にしまわず身につけているまたは触れていた場合。
- (7) その他、上記の各項に類すると試験監督者が認めた場合。

【レポートにおける不正行為について】

提出されたすべてのレポートについて、研究倫理ガイド（⇒p.8）および研究倫理指針（⇒p.467）に反する行為があったと認められた場合は、これを不正行為とします。

●不正行為を行なったと認められた場合の処置

試験およびレポートにおいて不正行為を行ったと認められた場合は、次の処置が科されます。

- ・その学期の履修科目（後期の場合は通年科目も含む）の評価はすべて不合格とする
- ・教授会での報告
- ・保証人（保護者）への通知
- ・誓約書（再度不正行為を行なわない旨が記されたもの）の提出

なお、不正行為の内容によっては、学則第54条に則り退学・停学または訓告の懲戒とします。また、これらの処置は、事後（卒業後を含む）に不正行為が発覚した場合も、遡って適用されます。

第5章 成績評価

1. 成績評価

各授業科目の評価は、その科目の授業担当者が行います。成績は、AA・A・B・C・F・出席回数不足・評価不能および認定の評価が与えられます。AA・A・B・Cおよび認定が合格、F・出席回数不足および評価不能が不合格です。

●成績評価の達成水準

評点	評価	可否	達成基準
100～90	AA	合格	学習目標を十分満たし、秀でている
89～80	A	合格	学習目標を満たしている
79～70	B	合格	学習目標をほぼ満たしている
69～60	C	合格	合格と認められる最低水準を満たしている
59～0	F	不合格	合格と認められる最低水準を満たしていない
出席回数不足	F (OC)	不合格	下記参照
評価不能	F (UG)	不合格	

●中間評価：「*」（アスタリスク）が記載されている評価

通年科目によっては、前期終了時点での中間評価を行うことがあります。通年科目における前期評価が出席回数不足以外の場合は、その前期評価にかかわらず、最終的に単位修得できるか否かは後期終了時点での評価によって決まります。

●出席回数不足：F (OC)

欠席が授業回数の3分の1を超えたと授業担当者が判断した場合、評価は「出席回数不足」となり、単位修得はできません。

通年科目については、前期終了時点での欠席が通年の授業回数の3分の1を超えると授業担当者が判断した場合、出席回数不足となり中間評価の時点で評価が確定するので単位修得はできません。（単位修得要件（⇒p.16））この場合、その授業の履修資格は失われないので、履修を継続することは許可されます。

●評価不能：F (UG)

履修科目について、授業担当者が成績評価を与えることができない場合、評価は「評価不能」となり、単位修得はできません。

通年科目における前期評価が、評価不能（成績通知書の記載：F(UG)*）の場合、最終的に単位修得できるか否かは後期終了時点での評価によって決まります。

評価不能となるのは、次の場合です。

- (1) 卒業論文について、提出しなかった場合
- (2) 成績評価時の在籍状態が、休学・退学・留学のいずれかで特別な申し出があった場合
- (3) 試験および提出したレポート、出席確認等において不正行為を行ったと認められた場合

また、次の場合も評価不能となることがあります。

- (4) 試験を受けなかった場合
- (5) レポートを提出しなかった場合
- (6) 追試験・追審査を許可されたにもかかわらず受けなかった場合
- (7) まわりの学生に迷惑をかける等、受講態度に問題があり、教職員等から指導を受けても改善が見られない場合

●評価における特記事項

- (1) 追試験および追審査の成績評価は、定期試験に準じて各授業担当者が行います。
- (2) 再試験の成績評価は、AA・A・Bを除く、C・Fのいずれかとなります。
- (3) 卒業論文の成績評価は、AA・A・B・C・Fのいずれかとなります。卒業論文を履修登録し、期日までに提出しなかった場合は、「評価不能」となります。
- (4) 編入学時や留学等で認定された単位は、成績証明書・成績通知書等の成績評価欄には「Tr.」と表記されます。
- (5) 継続履修申請が受理された通年科目は、前期評価については、通常の評価が行われますが、申請年度の学年末の評価は、「継続履修」となり、単位は修得できません。留学後に継続履修が認められなかった場合、あるいは継続履修を取り止めた場合は、この「継続履修」は変更されません。留学後に、継続履修が認められ、後期分の履修を再開すれば、留学前に履修した前期分とあわせた成績評価が後期履修後に与えられます。

2. GPA制度

GPA制度は、学生自身が学習成果を把握することによって、主体的に学修を進めていくことを目的とした制度です。

●GPA (Grade Point Average) とは

GPAとは、成績評価(AA・A・B・C・F)をポイント(GP: Grade Point)に置き換えて、科目の単位数をかけ、その総和(GPT: Grade Point Total)を履修登録単位数の合計で割った平均値のことです。

成績評価	グレード・ポイント (GP)
AA	4
A	3
B	2
C	1
F、F (UG)、F (OC)	0

●GPA算出計算式

$$\frac{AAの単位数 \times 4 + Aの単位数 \times 3 + Bの単位数 \times 2 + Cの単位数 \times 1}{総履修登録単位数}$$

※中間評価は対象外

※小数点第3位を四捨五入し小数点第2位までの数値を表記

※不合格科目(F評価)を再履修し合格の評価を得た場合、最初のF評価を含め全ての評価をGPAに算入します。

※通年科目のF(OC)は前期中間評価でも成績が確定しますが、後期が終了するまではGPAに算入されません。

●GPA対象科目

- ・卒業要件となる科目（全学共通／必修分野、専攻課程分野、卒業論文）
 - ・卒業要件外の科目のうち「資格関係分野」以外の科目
 - ・1年次に履修した全ての科目（1年次のみ）
- ※卒業要件となる科目は入学年度、学科により異なるので各履修要項で確認すること

●GPA対象外の科目

- ・編入学、留学等により認定された科目（評価=Tr.）
- ・継続履修申請が受理された通年科目（評価=継続履修）
- ・卒業要件外の科目のうち「資格関係分野」の科目

※所属学科により対象科目が異なります。各学科の履修要項の【履修上の諸注意】卒業要件外の科目をよく読み、卒業要件外の科目を確認してください。

●成績通知書・成績証明書への表示

- ・入学してから現在までの全ての成績をもとに計算する「累積GPA」を記載します。
- ・成績通知書、成績証明書（和・英）、和文の成績証明書（含卒業見込）に記載されます。

3. 成績通知

●学生本人への通知

成績通知は、下記の日程にてSophieで通知します。

【学生本人への成績通知日】

	通知対象者	成績通知日
前期成績	学部生、大学院学生、交換留学生、科目等履修生、委託聴講生	2023年 9月1日(金)
後期成績		2024年 2月9日(金)

※9月に開講される集中講義や、留学などにより他大学で修得した単位の認定は、上記とは異なる日程で通知することがあります。
※保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱは、3月末以降の通知になります。

●保証人への通知

保証人に対する成績通知は、学期ごとに行います。保証人への成績通知を希望しない場合は、学期ごとに授業終了日までを期限とし、教務課での手続きが必要です。手続きが完了したら、保証人宛に成績は通知しませんが、【学生本人の希望があったので成績は通知しない】旨を通知します。

【保証人への成績通知日】

	通知対象者	成績通知日
前期成績	学部生、大学院学生の保証人（博士後期課程を除く）	2023年 9月1日(金)
後期成績	学部4年次生、修士2年次生の保証人	2024年 2月26日(月)
	学部1～3年次生、修士1年次生の保証人	2024年 3月8日(金)

●成績通知書の見方

- ・AA・A・B・CおよびTr.が合格、F・F(OC)・F(UG)および継続履修が不合格
- ・「*」（アスタリスク）が記載されている評価は通年科目の中間評価で、確定点ではありません
- ・履修登録済みの科目のうち、前期終了時に成績評価が与えられていない科目の評価欄は「履修中」と表示

【右側の欄】

	記載内容
学部1年次生	進級要件、および、これまでに修得した単位、履修中の単位の集計を記載
学部2～4年次生	卒業要件、および、これまでに修得した単位、履修中の単位の集計を記載

成績通知書の評価

	最終評価	中間評価	備考
合格	AA	AA*	
	A	A*	
	B	B*	
	C	C*	
	Tr.		認定科目
不合格	F	F*	成績証明書には記載されない
	F(UG)	F(UG)*	成績証明書には記載されない（評価不能）
	F(OC)		成績証明書には記載されない（出席回数不足）
	継続履修	継続履修	成績証明書には記載されない

4. 成績評価確認願

成績評価について、具体的な根拠に基づく確認事項がある場合には、定められた期間内に「成績評価確認願」を教務課に提出することができます。

	「成績評価確認願」受付期間	対象者
前期成績	2023年9月1日(金) ～9月15日(金)	学部生、大学院学生、交換留学生、科目等履修生
後期成績	2024年2月9日(金)	学部1・3・4年次生、修士2年次生、博士2・3年次生、交換留学生、科目等履修生
	2024年2月9日(金) ～2月22日(木)	学部2年次生、修士1年次生、博士1年次生

【注意】期間外の申し出は一切認められません。

【注意】シラバスの評価方法欄に記載された評価基準と照らし合わせ、具体的な根拠に基づいていることが必要です。

またこの申し出は、成績評価の確認を求めるものであり、成績評価への異議や再考を求めるものではありません。したがって、以下のような理由による「成績評価確認願」の提出は受け付けません。

- ①再考を求めるもの。
- ②担当教員に情状を求めるもの。
- ③他の学生との対比のうえ不満を訴えるもの。（「友人はA評価だが、なぜ自分はC評価なのか」など）
- ④具体的な内容の記載がないもの。（「自分なりの努力はした」など）

5. 学業不振者への対応

●対象者

次のいずれかに該当する学生は、1年次センター及び各学科・専攻において前期履修登録前に面談を実施し、修学支援を行います。教職課程の履修者に対しては、履修継続の意思確認も合わせて行います。

1年次	①1年次の修得単位が20単位未満
2年次	①前年度の不合格科目数が5科目以上 ②合計単位数が30単位未満 ③英語および第二外国語がまったく修得できていない ④年度GPA1.00未満
3年次	①前年度の不合格科目数が5科目以上 ②合計単位数が60単位未満 ③英語または第二外国語がまったく修得できていない、両方に未修得点がある ④年度GPA1.00未満
4年次	①前年度の不合格科目数が5科目以上 ②合計単位数が90単位未満 ③英語または第二外国語に未修得科目がある ④年度GPA1.00未満

●面談を担当する教員

1年次生……1年次センター長

2年次生～4年次生

……所属学科代表委員または所属学科の教員

●保証人への連絡

学生との面談が実施できなかった場合、教務課から保証人に連絡します。

6. 進級・卒業要件と自己判定について

●進級要件(在学期間を除く)について…2019～2022年度入学者対象

在学期間以外の進級要件は、学部1年次と学部3年次で以下の通り定められています。修得できない場合は進級できず、4年次指定科目の履修登録ができません。そのため4年間での卒業はできません。進級が許されない条件などの詳細はpp.18-19の「3. 本学での履修における要件」を参照してください。

なお、進級できなかった場合は、その旨を本人及び保証人に通知します。

学部2年次への進級要件	1年次終了時に最低20単位(卒業要件外単位を含む)修得していること
学部4年次への進級要件	3年次終了時に最低82単位(卒業要件外単位を含まず)修得していること

ただし、3年次終了時に82単位修得できない者で、3年次終了時に72単位以上修得しており、かつ、3年次終了時の累積GPAが2.5以上の者は4年次への進級が特別に認められます。

●進級要件(在学期間を除く)について…2023年度以降入学者対象

在学期間以外の進級要件は、学部1年次と学部3年次で以下の通り定められています。修得できない場合は進級できず、4年次指定科目の履修登録ができません。そのため4年間での卒業はできません。進級が許されない条件などの詳細はpp.18-19の「3. 本学での履修における要件」を参照してください。

なお、進級できなかった場合は、その旨を本人及び保証人に通知します。

学部2年次への進級要件	1年次終了時に最低20単位(卒業要件外単位を含む)修得していること
学部4年次への進級要件	3年次終了時に最低86単位(卒業要件外単位を含まず)修得していること

ただし、3年次終了時に82単位修得できない者で、3年次終了時に72単位以上修得しており、かつ、3年次終了時の累積GPAが2.5以上の者は4年次への進級が特別に認められます。

●卒業・修了要件(在学期間を除く)について

在学期間以外の卒業・修了に必要な科目および単位数は、所属の学科によって異なります。自分が所属する学科のカリキュラム(⇒pp.70-289)を熟読し、要件となっている科目および単位数の修得を目指してください。

●Sophieによる自己判定機能について

(1) 自己判定機能とは

現在履修中の科目を「合格」とみなして判定する機能です。この判定機能は目安であり、進級・卒業を保証するものではありません。判定結果についての質問、進級・卒業要件に関する相談は教務課で受け付けます。

(2) 自己判定機能の注意点

- 特殊な履修などは、正しく計算されないケースがあります。
- 通年科目の中間評価で出席回数不足「F(OC)」と評価された場合は、前期終了時点で評価が確定になり、単位修得はできません。しかしながら、システム上は通年科目の期間終了時点まで成績評価が確定にならないため、自己判定では「合格」という結果になってしまいます。Sophieの履修成績照会で成績評価も必ず確認するようにしてください。

(3) 自己判定機能の利用対象者と利用方法

利用対象者：学部生、大学院生

※交換留学生、科目等履修生は利用できません。

自己判定機能の利用は、Sophieにログインして行います。履修登録期間中は、正しく表示されない場合があります。

7. 成績証明書

成績証明書とは、履修した科目のうち、単位を修得した科目の成績評価のみが記載されており、証明書として対外的に発行される書類です。中間評価、および、不合格の科目は記載されません。(成績通知書は履修した全科目の成績評価が記載されており、学生本人に通知されるものになります。)

8. 卒業見込証明書の発行基準について

卒業見込証明書とは、その年度の3月に大学を卒業する見込みであることを大学が証明する書類です。4年次に進級し就職活動をする際には、企業等から提出を求められることがあります。

「卒業見込」とは、4年次に履修登録した単位を修得することにより、年度末には卒業所要単位を満たし卒業が可能と見込まれる状態を指します。3年次終了時において、卒業所要単位のうち82単位以上を修得できていない場合は、卒業が見込まれないこととなりますので、卒業見込証明書は発行されません。

(⇒p.20、登録単位数の上限)

第6章 留学(含 単位認定・継続履修)

本学には、海外の大学(協定校)との協定に基づいた長期留学と短期留学の制度があります。

長期留学(半年または1年)には「交換留学・推薦留学」と「認定留学」があります。長期留学はその種類によって、留学審査・留学手続き、在学年限への算入の可否、本学及び留学先大学への納付金等が異なります。留学を考えている場合は、国際センター発行の『長期留学の手引き』をよく読み早めに準備を進めることが大切です。

また、留学先で修得した単位の扱いや本学での履修計画については、Sophieダウンロードセンター「長期留学の学びに関する手続き」を確認してください。長期留学の説明会は例年4月と10月に行われます。また、前年度留学していた学生による「帰国者報告会」も開催していますので参考にしてください。

短期留学(オンラインを含む)は、例年夏期休暇等に開催しています。詳細は国際センター発行の『短期留学募集要項』及びUSH-Cloud 学生向けページの国際センターのWebサイトを参考にしてください。

上記制度ではなく、休学して留学する場合は、休学の手続き期限や、継続履修科目の有無に注意してください。

1. 交換・推薦留学

本学の協定校に長期留学する留学制度を「交換・推薦留学」といい、学内選考が行われます。詳細については、国際センター発行の『長期留学の手引き』を参照してください。

●単位

留学中の修得単位の一部は、教授会の議を経て本学の卒業所要単位として認められます。

●留学期間と在籍

留学期間は半年または1年です。1年以内の留学期間は本学の在学年数に算入することができます。特に必要と認められた場合には、引き続き1年に限り留学期間を延長することができますが、2年目は休学扱いとなります。

4年次に留学期間がかかる場合は、pp.33-34を参照してください。

●学生納付金

『長期留学の手引き』を参照してください。

●出願方法および審査

交換・推薦留学希望者の募集については国際センター掲示板(及びUSH-Cloud学生向けページの国際センターのWebサイト)により通知します。希望者は期日までに出願書類を国際センターに提出してください。書類審査、語学審査および面接審査による学内選考を経て、留学候補者が確定します。

<協定大学一覧>

交換	韓国カトリック大学	韓国
	ソウル女子大学	
	輔仁大学	台湾
	文藻外語大学	
	国立東洋言語文化大学(INALCO)	フランス
	ヴェルツブルク大学	ドイツ
	モントリオール大学	カナダ
ラバル大学		
推薦	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学	イタリア
	シアトル大学	アメリカ
	マンハッタンビル大学	
	サンフランシスコ大学	
	カリフォルニア大学デイビス校	
	ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ	
	オーストラリア・カトリック大学	オーストラリア
	ローハンプトン大学	イギリス
	リーズ・トリニティ大学	
	パリ・カトリック大学	フランス
リヨン・カトリック大学		
サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学		
ソウル女子大学	韓国	

●出願資格

交換・推薦留学希望者は、出願にあたり次の条件を満たしていなければなりません。

- (1) 本学に1年以上在学し、かつ2年次生以上であること
- (2) 2年次で出願する場合、出願時に30単位以上の卒業所要単位数を修得済みであること。また、留学開始までに64単位以上を修得見込であること
3年次で出願する場合、出願時に64単位以上の卒業所要単位数を修得済みであること。また、長期留学開始までに98単位以上を修得見込であること
- (3) 心身ともに健康であること
- (4) 下記のとおり規定の外国語能力があること

英語圏：TOEFL-iBT(Internet Based Test) 79点以上、IELTS6.0以上、又は、TOEFL-ITP(学内ペーパーテスト) 550点以上取得済み
※学内留学審査合格後、各大学に出願する際は、各大学の応募資格を満たしたTOEFL-iBT、又は、IELTSのスコアが必要になります。スコアを満たさない場合は、留学が取り消しになります。

フランス語圏：中級程度(本学の「1年フランス語」(文法・オラルを含む) 修了程度)

ドイツ語圏：中級程度(本学の「1年ドイツ語」(文法・オラルを含む) 修了程度)

スペイン語圏：中級程度(本学の「1年スペイン語」(文法・オラルを含む) 修了程度)

韓国語圏：中級程度(本学の「1年韓国語」(文法・オラルを含む) 修了程度)

中国語圏：中級程度(本学の「1年中国語」(文法・オラルを含む) 修了程度)

※第二外国語圏への出願は原則として、留学先大学での使用言語を本学の第二外国語として履修していることとする。
※各大学の応募資格は、『長期留学の手引き』を参照してください。

●出願・審査日程

出発時期にあわせて留学する約1年前の6月、10月に行われます。応募状況などにより1月に秋出発二次募集の審査があります。

日程の詳細は『長期留学の手引き』、国際センター掲示板（及びUSH-Cloud学生向けページの国際センターのWebサイト）をご覧ください。

2. 認定留学

協定校以外の海外大学に長期留学する場合、事前に本学に願い出て承認を得られれば、在学資格を保持したまま留学し、修得単位の一部を本学の卒業所要単位に算入することができます。この制度を「認定留学」といいます。

●単位

留学中の修得単位の一部は、教授会の議を経て本学の卒業所要単位として認められます。

●留学期間と在籍

留学期間は半年または1年です。1年以内の留学期間は本学での在学年数に算入することができます。特に必要と認められた場合には、引き続き1年に限り留学期間を延長することができますが、2年目は休学扱いとなります。

4年次に留学期間がかかる場合は、pp.33-34を参照してください。

●学生納付金

『長期留学の手引き』を参照してください。

●出願方法および審査

認定留学を希望する場合、留学先への手続きは留学希望者本人が行います。認定留学希望者の募集については国際センター掲示板（及びUSH-Cloud学生向けページの国際センターのWebサイト）により通知します。希望者は期日までに書類を国際センターに提出してください。書類審査および面接審査による学内選考を経て、認定留学が許可されます。

●留学先大学

学生が認定留学の留学先として申請できる大学は次の条件を満たす大学です。

- (1) 学士相当以上の学位授与権を有する大学
- (2) 成績証明書を本学に直接送ることができる大学
- (3) 外国人のための外国語習得コースではなく、学科もしくは学部の授業を履修して単位を修得することができる大学
※語学の習得を目的とする留学は、認定留学として認められませんので、大学付属語学校および民間の語学校は対象となりません。

●出願資格

認定留学希望者は、出願にあたり次の条件を満たしていなければなりません。

- (1) 本学に1年以上在学し、かつ2年次生以上であること
- (2) 2年次で出願する場合、出願時に30単位以上の卒業所要単位数を修得済みであること。また、留学開始までに64単位以上修得見込であること
3年次で出願する場合、出願時に64単位以上の卒業所要単位数を修得済みであること。また、留学開始までに98単位以上を修得見込であること
- (3) 留学先大学の入学許可を得ていること

- (4) 外国語能力が留学先大学の指定するレベルに達していること
交換・推薦留学への出願とは異なり、認定留学の出願については、留学先大学での使用言語を本学の第二外国語として履修しているかどうかは任意とする。

- (5) 心身ともに健康であること

●出願・審査日程

提出期限：前期からの留学を希望する場合
前年度9月・12月を目安とする
後期からの留学を希望する場合
留学年度5月を目安とする

提出場所：国際センター

※詳細については、国際センターに相談してください。

3. 短期留学

短期留学とは夏期休暇等に本学指定の海外大学の語学研修プログラムに参加しながら、文化を学び海外生活を体験する留学制度です。短期留学についての詳細は、国際センター発行の『短期留学募集要項』及びUSH-Cloud学生向けページの国際センターのWebサイトを参照してください。

4. 単位認定

(1) 長期留学の場合

交換・推薦留学および認定留学によって、海外の大学等で修得した単位は、単位認定願によりその一部について、教授会の議を経て、本学の卒業所要単位として認定されます。留学前に必ず所属学科代表委員に相談のうえ、留学先での学修や単位認定について計画を立ててください。帰国後は速やかに国際センターに帰国を報告し、必ず所属学科代表委員に相談のうえ、教務課で単位認定のための手続きを行ってください。

留学先での履修科目のうち、①「キリスト教学Ⅱ」②「専攻分野のうち必修及び選択必修科目」に相当すると認定された場合は、本学開講科目として読み替えます。③「その他の科目」に相当すると認定された場合は、専攻分野又は関連分野科目として認定できる場合があります。

なお、認定された科目の分野系列は変更することはできません。認定単位数の上限は30単位です。

(2) 本学指定の短期留学の場合

本学指定の短期留学に参加し、所定の成績を収めた場合は、教授会の議を経て、本学の卒業所要単位として2単位が認定されます。認定された科目の分野系列は「関連分野」となります。ただし、英語文化コミュニケーション学科（英語圏の留学先のみ）と国際交流学科のみ本人の申請に基づき「専攻分野」としても認められます。単位認定は1プログラムにつき2単位とし、同一大学におけるプログラムの複数回の単位認定は認められません。

5. 単位認定後の処理（科目削除等）

単位認定された以下の科目については、必要な手続きを行ってください。

(1) 科目読替の認定により、履修の必要がなくなった、再履修が認められていない科目

教務課からの掲示の指示に従い、科目削除の手続きを行ってください。

(2) 卒業要件単位を満たしたため、履修の必要がなくなった科目
教務課からの掲示の指示に従い、科目削除の手続きを行ってください。

(3) 卒業要件単位を満たしたが、履修の継続を希望する科目
科目削除を行う必要はありません。

6. 継続履修

継続履修制度とは、後期から長期留学をする学生が、前期に履修登録をした通年授業科目の後期部分について、次年度（隔年開講の場合は次々年度）に履修することができる制度です。

ただし、長期留学前に継続履修の申請が受理されていても、留学後に同一科目が開講されていない、授業担当者や講義内容が異なる等の理由で継続履修が認められない場合もあります。よく考慮したうえで、履修計画を立てるようにしてください。

●継続履修願の提出資格

- 通年授業科目を履修登録し、前期授業に出席していること
- 交換・推薦留学、認定留学、または長期留学のための休業であること
- 留学あるいは休業の期間が当年度後期であるか、または当年度後期から次年度前期まで継続すること
- 当該授業科目担当者と開講学科及び所属学科の許可を得ていること

●成績評価

継続履修申請が受理された通年科目の成績評価は、前期は通常どおり行われますが、後期は評価ができないため、申請年度の最終評価は「継続履修」となります。

継続履修が認められ、後期分の履修を再開すれば、留学前に履修した前期分とあわせた成績評価が後期履修年度の最終評価となります。

●留学前の手続き

「継続履修願」を授業担当者、継続履修申請科目の開講学科、所属学科から承認を得て、教務課へ提出してください。詳細はSophieダウンロードセンター「長期留学の学びに関する手続き」を確認してください。

なお、休学して長期留学をする者については、留学を証明する書類（入学許可書等）のコピーを併せて提出してください。

●留学後の手続き

- 履修登録期間前に継続履修の適用可否をSophie掲示でお知らせします。不明な点などについては教務課にお尋ねください。
- 継続履修科目については、教務課で履修登録します。
- 履修登録確認時に登録内容を必ず確認してください。
- 後期のみの半期留学の場合、継続履修科目と同時に置かれている他の前期科目を履修登録することはできません。（時間割重複となる）
- 継続履修科目の単位も含めて、履修登録上限単位を超えないように履修計画を立ててください。履修期間が半期でも、単位計算上は通年科目として扱われます。
- 休学して長期留学をした者については、留学を証明する書類（修了証等）のコピーを教務課まで提出してください。

7. 長期留学にともなう卒業論文の履修登録について

本学では、留学期間を含めて4年間で卒業できるよう、留学制度を利用した学生を対象に、卒業論文の履修登録を期間外に手続きする制度を2017年度から導入しました。長期留学にともなう卒業論文の履修登録を希望する場合は、事前に所属学科で相談の上、以下を読み、手続きを行ってください。

詳細はSophieダウンロードセンター「長期留学の学びに関する手続き」を確認してください。

●卒業論文の履修登録について

- 対象留学期間
 - 学部3年次後期～学部4年次前期（1年間）
 - 学部4年次前期（半年間）
- 対象留学制度
 - ・交換・推薦留学
 - ・認定留学
- 卒業論文の履修登録

上記の条件を満たす学生は、所属学科で相談の上、教務課等で必要な手続きを行う。

（下記参照）

※所属学科の卒業論文執筆の要件によっては、上記の登録が認められない場合があります。

事前に所属学科で確認してください。なお本件は、留学期間が1年を超える留学には適用できません。

●卒業論文の履修登録方法

留学期間 A学部3年次後期～学部4年次前期(1年間)の場合

3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期
	留学		
①履修登録申請 (提出先:教務課)	②計画書の提出 (提出先:指導教員)		③報告書の提出 (提出先:指導教員)

- 履修登録申請 留学前
留学前に所定書式の書類に必要事項を記入し、**教務課**へ提出する。
- 卒業論文執筆に係わる計画書の提出 留学中
留学期間中の「卒論作成計画書」を作成し、学部3年次の年度末までに**指導教員**へ提出する。
- 卒業論文執筆に係わる報告書の提出 帰国後
留学期間中の「卒論作成報告書」を作成し、帰国後に**指導教員**へ提出する。

●卒業論文の履修登録方法

留学期間 B学部4年次前期(半年間)の場合

3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期
		留学	
	①履修登録申請 (提出先:教務課) ②計画書の提出 (提出先:指導教員)		③報告書の提出 (提出先:指導教員)

- 履修登録申請 留学前
留学前に所定書式の書類に必要事項を記入し、**教務課**へ提出する。

②卒業論文執筆に係わる計画書の提出 留学前

留学期間中の「卒論作成計画書」を作成し、学部3年次の年度末までに**指導教員**へ提出する。

③卒業論文執筆に係わる報告書の提出 帰国後

留学期間中の「卒論作成報告書」を作成し、帰国後に**指導教員**へ提出する。

第7章 交流学生制度

●交流学生制度

交流学生制度とは、本学に籍を置きながら、本学と学生交流協定を締結している大学（上智大学、東京音楽大学、日本赤十字看護大学）において、協定先大学が開講する科目を履修することができる制度です。

●協定校において履修する場合

- ・聖心女子大学と上智大学、東京音楽大学、日本赤十字看護大学との協定により、各大学で開講される科目を交流学生の身分で履修できます。
- ・協定する大学での履修を希望する場合は、Sophieに掲示する募集要項を確認の上、申し込んでください。前期は3月下旬、後期は9月上旬にSophie全学掲示板で発表。
- ・申し込み対象は、学部2～4年次生（卒業判定にかかる学期の出願は不可）です。
- ・出願時の累積GPAが2.7以上の者のみ出願できます。また、年次必修科目を標準履修年次に修得できなかった学生は出願できません。
- ・交流学生制度により履修した単位は、各年次の年間登録単位数上限に含まれます。

・履修できる科目、履修登録の手続きおよび履修方法は協定先大学の規定に従います。

学校名	上智大学	東京音楽大学	日本赤十字看護大学
各科目の履修定員	若干名	若干名	3名以内
	希望者が多い場合は累積GPA値により選考を行います。		
年間履修可能単位数	6単位まで	10単位まで	4単位まで
各大学との履修単位数の合計	年間50単位まで (東京音楽大学は年間5名まで)		

- ・交流期間は半期（4月～9月、10月～翌年3月）または、1年間（4月～翌年3月まで）です。
- ・東京音楽大学の一部科目（主に実技系科目）は、事前に面談または審査が必要です。

●単位認定

- ・協定先の大学で修得した単位は、教授会の議を経て、本学の所要単位として認定されます。
- ・認定された単位の分野系列は「関連分野」となります。

第8章 渋谷4大学連携単位互換制度

●渋谷4大学連携単位互換制度

- ・渋谷にキャンパスのある4大学（青山学院大学、國學院大学、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、聖心女子大学）が、以下の6つのテーマに沿った科目を相互に提供することにより、渋谷で学ぶ意義を高めると共に、大学間の交流を深め、学生に対して、所属大学における学びにとどまらない多様な価値観に基づく学修機会を提供することを目的とする制度です。

- テーマ①：まち・渋谷の歴史、各大学の歴史を学ぶ
- テーマ②：宗教・思想を学ぶ
- テーマ③：外国の文化・芸術・歴史を学ぶ
- テーマ④：日本の文化・芸術・歴史を学ぶ
- テーマ⑤：生活・健康・人生（キャリア）を学ぶ
- テーマ⑥：人権・ジェンダー・女性論を学ぶ

●協定校において履修する場合

- ・渋谷4大学の協定により、協定校で開講される科目を特別聴講学生の身分で履修できます。
- ・協定校での履修を希望する場合は、Sophieに掲示する募集要項を確認の上、申し込んでください。前期は3月下旬、後期

は9月上旬にSophie全学掲示板で発表。

- ・申し込み対象者は、学部2～4年次生（卒業判定にかかる学期の出願は不可）です。
- ・出願時の累積GPAが2.7以上の者のみ出願できます。また、年次必修科目を標準履修年次に修得できなかった学生は出願できません。
- ・各科目の本学における履修定員は若干名です。定員を超過した場合は、累積GPA値により選抜を行います。
- ・本制度で年間に履修できる単位は8単位までで、本学を除く3大学合計の単位数となります。なお、本制度で履修した単位は各年次の年間登録単位数上限に含まれます。
- ・特別聴講学生として協定校での履修が認められた場合、申請年度毎に一大学につき事務手数料として1,000円が必要です。事務手数料以外の受講に必要な教材費等の経費も、各自の負担となります。

●単位認定

- ・協定先の大学で修得した単位は、教授会の議を経て、本学の所要単位として認定されます。
- ・認定された単位の分野系列は「関連分野」となります。

第2部 カリキュラム

学 部

第1章 全学共通事項

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>全学-1 キリスト教学Ⅰ</p> <p>聖心女子大学の教育基盤であるキリスト教の価値観について、多角的な視点で学ぶ</p>		<p>全学-2 キリスト教学Ⅱ</p>	
<p>全学-3 英語・ 全学-4 第二外国語</p> <p>語学力・コミュニケーション能力の習得を通じて、諸外国の文化を学び、国際的視野を広げる</p>		<p>Advanced Studies in Foreign Languages</p> <p>語学力・コミュニケーション能力の更なる向上を目指す</p>	
<p>全学-5 体育運動学</p> <p>健康の科学や運動文化への理解を深め、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる</p>		<p>全学-7 総合現代教養科目</p> <p>世界の多様な社会と文化を理解し、その中で自身の生き方を考えることのできる、幅広い知識と教養を獲得する</p>	
<p>全学-6 基礎課程科目</p> <p>大学での学修の基礎を学ぶとともに、各学科・専攻の専門分野について理解を深める</p>			
<p>基礎課程演習</p> <p>各学科の入門科目</p> <p>データサイエンス</p>		<p>他学科の専門科目</p> <p>副専攻・関連科目として履修し、物事を多面的に見る力をはぐくむ</p>	
<p>各学科カリキュラムマップ参照</p> <p>(⇒p.70～p.289)</p>			

全学-8

卒業論文

自ら定めた課題について学問的に探求し、四年間の学修を集大成する

全学共通事項(2012～2022年度入学者)

卒業所要単位

2012～2022年度入学者

- ・2012年度以降入学者の卒業所要単位です。
- ・全学必修分野の各分野系列と関連分野の履修方法の説明は、次ページ以降にあります。
- ・専攻分野の履修方法については、各学科の履修要項を参照してください。
- ・卒業論文については卒業論文のページ（⇒p.290）を参照してください。
- ・資格関係分野については資格課程のページ（⇒p.310～）を参照してください。

分野系列	科目分類	卒業所要単位
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-5)		合計：最低26単位
[1-1] キリスト教学Ⅰ	全学必修科目	4単位
[1-2] キリスト教学Ⅱ	全学必修科目	4単位
[1-3] 第一外国語	全学必修科目	8単位
[1-4] 第二外国語	全学必修科目	8単位
[1-5] 体育運動学	全学必修科目	2単位
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)		合計：最低98単位
2-a 専攻分野		
所属学科・専攻のカリキュラムに従い履修する		
2-b 関連分野		
	基礎課程科目（基礎課程演習・1年次生限定科目）	
	総合現代教養科目	
	他学科開講科目（所属の学科以外で開講されている科目）	
	博物館関連科目（博物館学芸員課程の一部科目）	
	日本語関連科目（外国人留学生・帰国生のための科目、日本語教員課程の一部科目）	
	その他の外国語（卒業所要単位を超えて修得した外国語科目）	
[3] ■ 卒業論文		8単位
卒業所要単位合計 [1][2][3] の合計：最低132単位		
[4] ■ 資格関係分野		
	資格課程科目（卒業要件外）	
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1～5-2)		
[5-1]	1年次生限定科目超過分	
[5-2]	運動学超過分	

◆ 2～4年次生の成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が記載されます。

全学必修分野 2012～2022年度入学者

キリスト教学

●履修の目的

本学の教育の基盤であるキリスト教の価値観について、多面的・多角的な視点で学ぶ。キリスト教の教えと聖書全体の理解を通して、またキリスト教をめぐる文化、社会、歴史、思考等の多様な主題の考察を通して、世界と人間に対する深い洞察力と心の豊かさを涵養することを目指す。

[1-1] キリスト教学 I (選択必修・最低4単位) 標準履修年次：1・2年次

コード	授業科目	単位	備考
AM11	キリスト教学 I - 1	4	廃止 (～2022)
AM12	キリスト教学 I - 2	4	廃止 (～2022)
AM13	キリスト教学 I - 3	4	廃止 (～2022)
AM14	キリスト教学 I - 4	4	廃止 (～2022)
AM15	キリスト教学 I - 5	4	廃止 (～2022)
AM16	キリスト教学 I - 6	4	廃止 (～2022)
AM17	キリスト教学 I - 7	4	廃止 (～2022)
AM18	キリスト教学 I - 8	4	廃止 (～2022)
AM19	キリスト教学 I - 9	4	廃止 (～2022)
AM21	キリスト教学 I - 10	4	廃止 (～2022)
AM22	キリスト教学 I - 11	4	廃止 (～2022)
AM23	キリスト教学 I - 12	4	廃止 (～2022)
AM24	キリスト教学 I - 13	4	廃止 (～2022)
AM31	キリスト教学 I - 1 (1)	2	
AM32	キリスト教学 I - 1 (2)	2	
AM33	キリスト教学 I - 2 (1)	2	
AM34	キリスト教学 I - 2 (2)	2	
AM35	キリスト教学 I - 3 (1)	2	
AM36	キリスト教学 I - 3 (2)	2	
AM37	キリスト教学 I - 4 (1)	2	
AM38	キリスト教学 I - 4 (2)	2	
AM39	キリスト教学 I - 5 (1)	2	
AM40	キリスト教学 I - 5 (2)	2	
AM41	キリスト教学 I - 6 (1)	2	
AM42	キリスト教学 I - 6 (2)	2	
AM43	キリスト教学 I - 7 (1)	2	
AM44	キリスト教学 I - 7 (2)	2	
AM45	キリスト教学 I - 8 (1)	2	
AM46	キリスト教学 I - 8 (2)	2	

▼卒業要件
左記の科目から最低4単位を修得していること

- ▼履修上の注意
- ① 必修単位を超えて修得した単位は卒業要件に含まれません。
 - ② (1) (2) はペアで修得する必要があります。
 - ③ 廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

キリスト教学の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
AM11	キリスト教学 I - 1 < 4 >	AM41	キリスト教学 I - 6 (1) < 2 >
		AM42	キリスト教学 I - 6 (2) < 2 >
AM12	キリスト教学 I - 2 < 4 >	AM43	キリスト教学 I - 7 (1) < 2 >
		AM44	キリスト教学 I - 7 (2) < 2 >
AM13	キリスト教学 I - 3 < 4 >	AM45	キリスト教学 I - 8 (1) < 2 >
		AM46	キリスト教学 I - 8 (2) < 2 >
AM15	キリスト教学 I - 5 < 4 >	AM37	キリスト教学 I - 4 (1) < 2 >
		AM38	キリスト教学 I - 4 (2) < 2 >
AM17	キリスト教学 I - 7 < 4 >	AM31	キリスト教学 I - 1 (1) < 2 >
		AM32	キリスト教学 I - 1 (2) < 2 >
AM18	キリスト教学 I - 8 < 4 >	AM35	キリスト教学 I - 3 (1) < 2 >
		AM36	キリスト教学 I - 3 (2) < 2 >
AM19	キリスト教学 I - 9 < 4 >	AM33	キリスト教学 I - 2 (1) < 2 >
		AM34	キリスト教学 I - 2 (2) < 2 >
AM21	キリスト教学 I - 10 < 4 >	AM39	キリスト教学 I - 5 (1) < 2 >
		AM40	キリスト教学 I - 5 (2) < 2 >

全学共通事項 (2012～2022年度入学者)

[1-2] キリスト教学Ⅱ (選択必修・最低4単位)

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
AN11	キリスト教学Ⅱ-1	4	廃止(～2022)
AN12	キリスト教学Ⅱ-2	4	廃止(～2022)
AN13	キリスト教学Ⅱ-3	4	廃止(～2022)
AN14	キリスト教学Ⅱ-4	4	廃止(～2022)
AN15	キリスト教学Ⅱ-5	4	廃止(～2022)
AN16	キリスト教学Ⅱ-6	4	廃止(～2022)
AN17	キリスト教学Ⅱ-7	4	廃止(～2022)
AN18	キリスト教学Ⅱ-8	4	廃止(～2022)
AN19	キリスト教学Ⅱ-9	4	廃止(～2022)
AN20	キリスト教学Ⅱ-10	4	廃止(～2022)
AN21	キリスト教学Ⅱ-11	4	廃止(～2022)
AN22	キリスト教学Ⅱ-12	4	廃止(～2022)
AN23	キリスト教学Ⅱ-13	4	廃止(～2022)
AN24	キリスト教学Ⅱ-14	4	廃止(～2022)
AN25	キリスト教学Ⅱ-15	4	廃止(～2022)
AN26	キリスト教学Ⅱ-16	4	廃止(～2022)
AN31	キリスト教学Ⅱ-1(1)	2	
AN32	キリスト教学Ⅱ-1(2)	2	
AN33	キリスト教学Ⅱ-2(1)	2	
AN34	キリスト教学Ⅱ-2(2)	2	
AN35	キリスト教学Ⅱ-3(1)	2	
AN36	キリスト教学Ⅱ-3(2)	2	
AN37	キリスト教学Ⅱ-4(1)	2	
AN38	キリスト教学Ⅱ-4(2)	2	
AN39	キリスト教学Ⅱ-5(1)	2	
AN40	キリスト教学Ⅱ-5(2)	2	
AN41	キリスト教学Ⅱ-6(1)	2	
AN42	キリスト教学Ⅱ-6(2)	2	
AN43	キリスト教学Ⅱ-7(1)	2	
AN44	キリスト教学Ⅱ-7(2)	2	
AN45	キリスト教学Ⅱ-8(1)	2	
AN46	キリスト教学Ⅱ-8(2)	2	

▼卒業要件

□左記の科目から最低4単位を修得していること

▼履修上の注意

- ① 必修単位を超えて修得した単位は卒業要件に含まれません。
- ② (1)(2)はペアで修得する必要があります。
- ③ 廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

キリスト教学の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
AN11	キリスト教学Ⅱ-1 <4>	AN43	キリスト教学Ⅱ-7(1)<2>
		AN44	キリスト教学Ⅱ-7(2)<2>
AN14	キリスト教学Ⅱ-4 <4>	AN45	キリスト教学Ⅱ-8(1)<2>
		AN46	キリスト教学Ⅱ-8(2)<2>
AN15	キリスト教学Ⅱ-5 <4>	AN39	キリスト教学Ⅱ-5(1)<2>
		AN40	キリスト教学Ⅱ-5(2)<2>
AN17	キリスト教学Ⅱ-7 <4>	AN37	キリスト教学Ⅱ-4(1)<2>
		AN38	キリスト教学Ⅱ-4(2)<2>
AN18	キリスト教学Ⅱ-8 <4>	AN39	キリスト教学Ⅱ-5(1)<2>
		AN40	キリスト教学Ⅱ-5(2)<2>
AN19	キリスト教学Ⅱ-9 <4>	AN37	キリスト教学Ⅱ-4(1)<2>
		AN38	キリスト教学Ⅱ-4(2)<2>
AN20	キリスト教学Ⅱ-10 <4>	AN31	キリスト教学Ⅱ-1(1)<2>
		AN32	キリスト教学Ⅱ-1(2)<2>
AN21	キリスト教学Ⅱ-11 <4>	AN33	キリスト教学Ⅱ-2(1)<2>
		AN34	キリスト教学Ⅱ-2(2)<2>
AN22	キリスト教学Ⅱ-12 <4>	AN35	キリスト教学Ⅱ-3(1)<2>
		AN36	キリスト教学Ⅱ-3(2)<2>
AN25	キリスト教学Ⅱ-15 <4>	AN41	キリスト教学Ⅱ-6(1)<2>
		AN42	キリスト教学Ⅱ-6(2)<2>

外国語科目

●履修の目的

国際化の時代にふさわしい語学力、コミュニケーション能力を身につける。これを通じて、諸外国の文化的背景を学び、国際的視野を広げ、また専攻課程での学習研究活動の準備とする。

[1-3] 第一外国語 (必修・8単位)

1年英語			
コード	授業科目	単位	備考
AE11	1年英語	4	廃止 (～2018)
AE21	1年英語 1	2	
AE22	1年英語 2	2	

2年英語 (英語英文学科・英語文化コミュニケーション学科生)			
コード	授業科目	単位	備考
AE12	2年英語 1	2	廃止 (～2018)
AE13	2年英作文	2	廃止 (～2018)
AE25	Academic Reading 1	1	
AE26	Academic Reading 2	1	
AE27	Academic Writing 1	1	
AE28	Academic Writing 2	1	

2年英語 (英語英文学科・英語文化コミュニケーション学科生以外)			
コード	授業科目	単位	備考
AE15	2年英語 2 (リーディング)	2	廃止 (～2018)
AE16	2年英語 2 (オラル)	2	廃止 (～2018)
AE31	2年英語 (Reading) 1	1	
AE32	2年英語 (Reading) 2	1	
AE33	2年英語 (Oral) 1	1	
AE34	2年英語 (Oral) 2	1	

第一外国語の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
AE11	1年英語 <4>	AE21	1年英語 1 <2>
		AE22	1年英語 2 <2>
AE12	2年英語 1 <2>	AE25	Academic Reading 1 <1>
		AE26	Academic Reading 2 <1>
AE13	2年英作文 <2>	AE27	Academic Writing 1 <1>
		AE28	Academic Writing 2 <1>
AE15	2年英語 2 (リーディング) <2>	AE31	2年英語 (Reading) 1 <1>
		AE32	2年英語 (Reading) 2 <1>
AE16	2年英語 2 (オラル) <2>	AE33	2年英語 (Oral) 1 <1>
		AE34	2年英語 (Oral) 2 <1>

▼卒業要件

【英語英文学科・英語文化コミュニケーション学科生】

- 「1年英語」または「1年英語 1」「1年英語 2」を修得していること
- 「2年英語 1」「2年英作文」または「Academic Reading 1」「Academic Reading 2」「Academic Writing 1」「Academic Writing 2」を修得していること

【英語英文学科・英語文化コミュニケーション学科生以外】

- 「1年英語」または「1年英語 1」「1年英語 2」を修得していること
- 「2年英語 2 (リーディング)」「2年英語 2 (オラル)」または「2年英語 (Reading) 1」「2年英語 (Reading) 2」「2年英語 (Oral) 1」「2年英語 (Oral) 2」を修得していること

▼年次指定科目

- 1年英語の各科目：1年次指定科目
- 2年英語の各科目：2年次指定科目

▼履修上の注意

- ① 必ず指定されたクラスを履修してください。
- ② 1年英語の履修には、授業に加えてメディア学習支援センターにおいて、週1回、各60分間以上の学習が必修となっています。詳しいことは、4月中旬に行われる1年英語メディア授業のオリエンテーションに必ず出席して、説明を受けてください。オリエンテーションの詳しい日程は、各クラスの先生から指示があります。
- ③ 廃止科目を未修得の場合は、左記に指定した代替科目を修得してください。

[1-4] 第二外国語（選択必修・8単位）

▼1年次対象科目

コード	授業科目	単位	備考
フランス語選択者			
AF21	1年フランス語文法 (1)	2	
AF22	1年フランス語文法 (2)	2	
AF23	1年フランス語オラル (1)	1	
AF24	1年フランス語オラル (2)	1	
ドイツ語選択者			
AG21	1年ドイツ語文法 (1)	2	
AG22	1年ドイツ語文法 (2)	2	
AG23	1年ドイツ語オラル (1)	1	
AG24	1年ドイツ語オラル (2)	1	
スペイン語選択者			
AH21	1年スペイン語文法 (1)	2	
AH22	1年スペイン語文法 (2)	2	
AH23	1年スペイン語オラル (1)	1	
AH24	1年スペイン語オラル (2)	1	
中国語選択者			
AJ21	1年中国語文法 (1)	2	
AJ22	1年中国語文法 (2)	2	
AJ23	1年中国語オラル (1)	1	
AJ24	1年中国語オラル (2)	1	
コリア語選択者			
AK21	1年コリア語文法 (1)	2	
AK22	1年コリア語文法 (2)	2	
AK23	1年コリア語オラル (1)	1	
AK24	1年コリア語オラル (2)	1	
外国人留学生			
AL22	1年日本語 1	3	
AL23	1年日本語 2	3	

▼2年次対象科目

コード	授業科目	単位	備考
フランス語選択者			
AF26	2年フランス語講読 (1)	1	廃止 (～2022)
AF27	2年フランス語講読 (2)	1	廃止 (～2022)
AF28	2年フランス語会話 (1)	1	廃止 (～2022)
AF29	2年フランス語会話 (2)	1	廃止 (～2022)
AF30	2年フランス語 (1)	1	
AF31	2年フランス語 (2)	1	
ドイツ語選択者			
AG26	2年ドイツ語講読 (1)	1	廃止 (～2021)
AG27	2年ドイツ語講読 (2)	1	廃止 (～2021)
AG28	2年ドイツ語会話 (1)	1	廃止 (～2021)
AG29	2年ドイツ語会話 (2)	1	廃止 (～2021)
AG30	2年ドイツ語 (1)	1	
AG31	2年ドイツ語 (2)	1	
スペイン語選択者			
AH25	2年スペイン語 (1)	1	
AH26	2年スペイン語 (2)	1	

▼卒業要件

- 選択した言語について、左に指定した1年次対象科目計6単位を修得していること
- 1年次対象科目で選択した言語と同一言語について、左に指定した2年次対象科目のうち最低2単位を修得していること
- 外国人留学生は、「1年日本語1」「1年日本語2」「2年日本語1」を履修すること

▼年次指定科目

- 1年次対象科目：1年次指定科目
- 2年次対象科目：2年次指定科目

▼履修上の注意

- ① 必ず指定されたクラスを履修してください。発表されたクラスは原則として変更できません。
- ② UNHCR難民高等教育プログラム (RHEP) による推薦入試で入学した学生は、第二外国語研究室の指示に従ってください。
- ③ 外国語系列科目には、授業時間とは別にメディア学習支援センターでの学習が必要な授業科目があります。
- ④ 廃止科目を未修得の場合は、次ページに指定した代替科目を修得してください。
- ⑤ 2年次対象科目を履修するためには1年次対象科目の文法 (1)、(2) またはオラル (1)、(2) のいずれかをペアで修得している必要があります。

コード	授業科目	単位	備考
中国語選択者			
AJ25	2年中国語講読 (1)	1	廃止 (～2022)
AJ26	2年中国語講読 (2)	1	廃止 (～2022)
AJ27	2年中国語会話 (1)	1	廃止 (～2022)
AJ28	2年中国語会話 (2)	1	廃止 (～2022)
AJ29	2年中国語 (1)	1	
AJ30	2年中国語 (2)	1	
コリア語選択者			
AK25	2年コリア語 (1)	1	
AK26	2年コリア語 (2)	1	
外国人留学生			
AL12	2年日本語1	2	

▼第二外国語の変更

1年次に選択した言語が第二外国語となります。第二外国語の言語変更を希望する場合は、第二外国語研究室（1号館3階）へ申し出ること。選択した言語を変える場合は、1年次対象科目から履修することになります。すでに修得した科目については「関連分野」の単位となります。

▼第二外国語の余剰分

2年次対象科目について2単位を超えて修得した単位は、関連分野の卒業所要単位に算入されます。成績通知書の右側の集計欄で確認してください。

第二外国語の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
AF26	2年フランス語講読 (1) <1>	AF30	2年フランス語 (1) <1>
AF28	2年フランス語会話 (1) <1>		
AF27	2年フランス語講読 (2) <1>	AF31	2年フランス語 (2) <1>
AF29	2年フランス語会話 (2) <1>		
AG26	2年ドイツ語講読 (1) <1>	AG30	2年ドイツ語 (1) <1>
AG28	2年ドイツ語会話 (1) <1>		
AG27	2年ドイツ語講読 (2) <1>	AG31	2年ドイツ語 (2) <1>
AG29	2年ドイツ語会話 (2) <1>		
AJ25	2年中国語講読 (1) <1>	AJ29	2年中国語 (1) <1>
AJ27	2年中国語会話 (1) <1>		
AJ26	2年中国語講読 (2) <1>	AJ30	2年中国語 (2) <1>
AJ28	2年中国語会話 (2) <1>		

体育運動学

●履修の目的

健康の科学や運動文化への理解を深め、適切な運動習慣を身につけ、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる。

[1-5] 体育運動学 (必修：2 単位)

コード	授業科目	単位	備考
AA10	体育運動学	2	廃止（～2022）
AA01	ウェルネス・身体活動（講義）	1	
AA02	ウェルネス・身体活動（実技）	1	

▼卒業要件

- 「体育運動学」または「ウェルネス・身体活動（講義）」「ウェルネス・身体活動（実技）」を修得していること

▼年次指定科目

体育運動学：1年次指定科目

▼履修上の注意

- ① 各クラスには定員があるのでオリエンテーション期間に調整を行いません。調整の結果指定されたクラスを履修登録するようにしてください。
- ② 必修単位を超えて修得した単位は卒業要件に含まれません。

関連分野の単位となる科目

2012～2022年度入学者

基礎課程科目

履修年次：1年次限定

基礎課程科目は、入学時には全員が基礎課程に所属する本学独自のカリキュラムにより設けられた科目です。基礎課程科目として、少人数の演習（ゼミ）形式の「基礎課程演習」と1年次生のみが履修できる1年次限定科目が開講されています。

基礎課程演習（準必修・2単位）

●履修の目的

- (1) 大学での学修・研究活動に求められる主体的な姿勢・意欲や積極性を身につけること。また、このような資質・能力を1年次から養うことにより、社会への主体的参加の準備とすること。
- (2) 大学で効果的に学修を進めるための基盤として、「文章等による表現力」「発表の力」「情報収集の力」を重点的に強くすること。
- (3) 専任教員の専門性を通じて、学問に対する知的・興味関心を深め、視野を広げていくこと。

基礎課程演習の授業では、図書館ガイダンスを行い、図書館の利用方法、蔵書の検索、データベースの活用などについて学びます。

コード	授業科目	単位	備考
BD30	基礎課程演習	2	

▼年次指定科目

基礎課程演習は1年次指定科目です。
(入学年度に限り、1度だけ履修できます)

▼履修上の注意

- ① 単位修得が卒業要件ではありませんが、準必修科目ですので、全員履修するようにしてください。各クラスには定員があるのでオリエンテーション期間に調整を行ないます。調整の結果指定されたクラスを履修してください。
- ② 基礎課程演習は、1クラスのみ履修できます。

1年次生限定科目

コード	授業科目	単位	備考
AB10	英語文化コミュニケーション入門	2	
AB11	日本語日本文学入門	2	
AB12	史学入門	2	
AB01	人間関係入門	2	
AB02	国際交流入門	2	
AB13	哲学入門	2	
AB14	教育学入門	2	
AB03	心理学入門	2	
AB04	英語の世界	2	廃止(～2022)
AB07	日本史への招待	2	廃止(～2022)
AB09	異文化コミュニケーション入門	2	廃止(～2022)
AB08	発達科学入門	2	廃止(～2021)

▼履修上の注意

- ① 1年次生のみが履修できます。
- ② 修得した単位のうち6単位までを卒業所要単位として算入することができます。(6単位を超えて修得した場合、超過した単位は卒業要件外となります。)

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

データサイエンス（準必修・2単位）**標準履修年次：1年次****●履修の目的**

Society 5.0時代に必要な「数理・データサイエンス・AI」に関する知識と技術を学び、それを活用する基礎的な能力を獲得する。

コード	授業科目	単位	備考
BA01	AI・データサイエンス基礎	2	

▼年次指定科目

AI・データサイエンス基礎は1年次指定科目です。（原則として、入学年度に限り履修できます）

▼履修上の注意

- ① この科目はオンライン形式（オンデマンド型）で行われる授業です。
- ② 単位修得が卒業要件ではありませんが、準必修科目ですので、全員修得を目指してください。
- ③ 前期に修得できなかった学生は、後期に再度履修し、修得を目指すことになります。これにより後期履修登録時点で、当該年度の年間履修登録単位数の上限を超える場合は、2単位分の登録科目の見直しが必要になります。
- ④ 当該科目を履修初年度に修得できなかった学生のうち、卒業までに履修するよう指定された場合は、eラーニングシステム延長利用費として5,000円（税別）の実費を納入しなければなりません。

また、納入されたeラーニングシステム延長利用費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

総合現代教養科目（選択）

●履修の目的

地球規模で人々が考え、行動し、交流することが求められる現代において、世界の多様な社会と文化を理解し、時代を見通し、その中で自身の生き方を考えていくことのできる、幅広い知識と教養を獲得する。

● I 群：聖心女子大学生としての自己の確立……………

▼聖心のアイデンティティーに直結する科目

コード	授業科目	単位	備考
AS10	社会福祉論	2	隔年
AS11	児童福祉論	2	隔年
AS24	聖心スピリットと共生	2	
AT50	ボランティア研究概論	2	
AT54	ボランティア研究概論 1	2	廃止（～2019）
AS40	ボランティア体験の振り返り	2	
AS80	総合現代教養演習	2	
AS81	学生提案型授業	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼地球時代の人類課題解決に取り組む科目

コード	授業科目	単位	備考
AR32	国際平和と開発援助	2	廃止（～2019）
AR35	人間の安全保障	2	廃止（～2019）
AS33	災害と人間	2	廃止（～2019）

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼自らの生き方を考えキャリアの形成を促す科目

コード	授業科目	単位	備考
AR31	女性とキャリア形成	2	
AS30	キャリアデザイン入門	2	
AT18	ジェンダー学 1	2	
AT21	ジェンダー学 2	2	
AT24	ジェンダー学 3	2	
AT27	ジェンダー学 4	2	
AT22	ジェンダー学 2 - 1	2	廃止（～2019）
AT23	ジェンダー学 2 - 2	2	廃止（～2019）
AT25	ジェンダー学 3 - 1	2	廃止（～2019）
AT33	ジェンダー学 5 - 2	2	廃止（～2019）
AS88	経済同友会連携インターンシップ	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

● II 群：多様な社会と文化……………

▼現代社会を生き抜く上での実践的な科目

コード	授業科目	単位	備考
AR21	憲法 1	2	
AR23	憲法 3	2	
AS17	情報活用演習	2	
AS35	暮らしのファイナンス	2	
AS36	環境と経済	2	
AS38	ジャーナリズムの現在	2	
AS18	日本の伝統文化	2	
AS14	ビートルズの詩と音楽	2	
AS34	現代を考える	2	
AS59	生活と法律	2	
AS60	現代イスラム論	2	
AS68	地域づくり演習	2	廃止（～2020）
AS84	地域づくり演習 1	2	
AS85	地域づくり演習 2	2	
AS82	世界の身体表現文化	2	
AS87	音楽と人間	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼言語を通して世界の多様な社会と文化に関心を広げる

コード	授業科目	単位	備考
AS41	Advanced English Studies (1)	2	廃止（～2022）
AS42	Advanced English Studies (2)	2	廃止（～2022）
AS43	Advanced French Studies (1)	2	廃止（～2022）
AS44	Advanced French Studies (2)	2	廃止（～2022）
AS45	Advanced German Studies (1)	2	廃止（～2022）
AS46	Advanced German Studies (2)	2	廃止（～2022）
AS47	Advanced Spanish Studies (1)	2	廃止（～2022）
AS48	Advanced Spanish Studies (2)	2	廃止（～2022）
AS49	Advanced Chinese Studies (1)	2	廃止（～2022）
AS50	Advanced Chinese Studies (2)	2	廃止（～2022）
AS51	Advanced Korean Studies (1)	2	廃止（～2022）
AS52	Advanced Korean Studies (2)	2	廃止（～2022）
AS57	Advanced Japanese Studies (1)	2	
AS58	Advanced Japanese Studies (2)	2	
AS21	アラビア語の世界	4	
AS20	イタリア語の世界	4	
AS26	トルコ語の世界	4	廃止（～2020）
AS39	ロシア語入門	4	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●Ⅲ群：自然と人間.....

▼社会生活や人間観に影響をもたらす先端科学の科目

コード	授業科目	単位	備考
AS07	科学史 1	2	
AS08	科学史 2	2	
AS37	進化論の世界	2	
AS05	現代の脳科学	2	
AS79	生命科学の最前線	2	
AS25	健康な生活と健康科学	2	
AC11	運動学 1	1	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●Ⅳ群：グローバル共生.....

コード	授業科目	単位	備考
AS69	グローバル共生基礎 I	2	
AS70	グローバル共生基礎 II	2	
AS71	グローバル共生研究 I	2	
AS72	グローバル共生研究 II	2	
AS73	グローバル共生研究 III	2	
AS74	グローバル共生研究 IV	2	
AS75	グローバル共生研究 V	2	
AS76	グローバル共生研究 VI	2	
AS77	グローバル共生研究 VII	4	
AS78	グローバル共生研究 VIII	2	
AS83	グローバル共生研究 IX	2	
AS89	グローバル共生研究 X	2	
AS90	グローバル共生研究 XI	2	
AS91	グローバル共生研究 XII	2	
AS86	グローバル共生総合演習	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●Ⅴ群：グローバルリーダーシップ.....

コード	授業科目	単位	備考
AS61	リーダーシップとチームづくり ワークショップ	1	
AS62	グローバルリーダーシップ演習	2	
AS63	サーバントリーダー体験型セミナー	1	
AS64	インターンシップ	2	
AS65	リーダーシップ 1	2	
AS66	リーダーシップ 2	2	
AS67	リーダーシップ評価	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●総合リベラル・アーツ.....

コード	授業科目	単位	備考
SB12	副専攻修了レポート	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

- ① 各科目の履修条件はシラバスで確認してください。
- ② 「運動学 1」は 3 単位まで卒業所要単位の算入できます。(3 単位を超えて修得した場合、超過した単位は卒業要件外となります。) なお、「体育運動学」を修得済みでなければ履修することはできません。
- ③ 初等教育学専攻生は、免許法施行規則第六十六条に定める科目の「日本国憲法」として「憲法 1」「憲法 3」から最低 2 単位を修得しなければなりません。
- ④ 「Advanced Japanese Studies (1)」「Advanced Japanese Studies (2)」は、帰国生・インターナショナルスクール出身生の 1 年次必修科目です。UNHCR 難民高等教育プログラム (RHEP) による推薦入試で入学した学生と、3～4 年次の外国人留学生も履修できます。3～4 年次の外国人留学生で自動登録の取下げを希望する場合は初回授業開始前までにご連絡ください。
- ⑤ 国際交流学科の外国人留学生が「Advanced Japanese Studies (1)」「Advanced Japanese Studies (2)」を修得した場合、分野系列が専攻分野の「言語コミュニケーション」になる場合があります (⇒p.166)。
- ⑥ 聖心リベラル・アーツ群については pp.62-65 を参照にしてください。

博物館関連科目（選択）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
DJ21	博物館概論	2	
DJ24	博物館学各論 1	4	廃止（～2022）
DJ28	博物館経営論	2	
DJ29	博物館展示論	2	
DJ25	博物館学各論 2	4	廃止（～2022）
DJ30	博物館資料論	2	
DJ32	博物館資料保存論	2	
DJ26	博物館情報・メディア論	2	
DJ27	博物館教育論	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

- ① 博物館学芸員課程を修了するための選択必修科目です。
- ② 廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
DJ24	博物館学各論 1 < 4 >	DJ28	博物館経営論 < 2 >
		DJ29	博物館展示論 < 2 >
DJ25	博物館学各論 2 < 4 >	DJ30	博物館資料論 < 2 >
		DJ32	博物館資料保存論 < 2 >

日本語関連科目

コード	授業科目	単位	備考
AL13	2年日本語 2	2	
AL19	日本事情 1	2	
AL21	日本事情 2	2	

▼履修上の注意

以下の学生のみが履修できます。

・外国人留学生

「日本事情 1」「日本事情 2」は1年次指定科目です。

▼国際交流学科の外国人留学生

修得した科目の分野系列が専攻分野の「言語コミュニケーション」になる場合があります。(⇒ p.166)

その他の外国語（選択）

▼履修上の注意

原則として、第二外国語について卒業所要単位を修得した場合のみ、選択した第二外国語以外の言語を履修することができます。(日本語教員課程希望者を含む)

他学科開講科目

▼履修上の注意

- ① 他学科開講科目は巻末の「科目リスト」で履修できるか確認してください。
- ② 履修条件は巻末の科目リストやシラバスでよく確認してください。副専攻や資格課程等によって履修できるかどうか異なります。

1 年次生の履修

2012～2022年度入学者

大学では、開講されている科目の中から自分自身で科目を選択して時間割を作ります。時間割を作る際には、ルールがあり、それがカリキュラムです。カリキュラムには卒業までに履修する科目とその履修方法が定められていて、定められた年次に順序よく必ず修得しなければならない科目（必修科目）、科目群から指定の単位数修得しなければならない科目（選択必修科目）を履修し、それに加え、自由に選択して履修できる科目（選択科目）を学修する仕組みになっています。4年次には学修の集大成として「卒業論文」を執筆します。

学科・専攻・コースに分かれての学修は2年次から始まります。本学では1年次を「基礎課程」と呼び、2年次からの各学科・専攻に向けての基礎をしっかりと作るための学修を進めます。1年次に履修すべき「年次指定科目」を中心に履修計画をたてていきます。

まず、この『履修要覧』の全学共通事項のページをよく読んでください。卒業までに修得しなければならない科目のうち、1年次で履修すべき科目から順番に時間割を作っていきます。

【クラス分けの方法】

1年次の年次指定科目は「1年英語」「第二外国語」「体育運動学」「基礎課程演習」です。それぞれクラスに分かれて履修することになるので、自分のクラスを間違えないように履修のための手続きを進めることが重要です。クラス分けは次のような順序で行いますので、一つ一つ順番に進めてください。

- ① 第二外国語の希望をWebで申請する→第二外国語の言語とクラスが決まる→Sophieの履修登録状況照会画面上に表示される。
- ② プレイスメントテストを受ける→「1年英語」のクラスが決まる→Sophieに表示される。
- ③ 基礎課程演習の希望をSophieの事前登録で申請する→クラスが決まる→Sophieに表示される。
- ④ 第二外国語の時間割に重ならないように体育運動学の希望をSophieの事前登録で申請する→クラスが決まる→Sophieに表示される。

【科目の選び方】

科目を選ぶ際には『授業計画書』（通称：シラバス）を見てください。シラバスには、授業の内容等が記載されています。1年次生が履修できる科目は、『履修要覧』巻末の「科目リスト」の「学年」欄に「1」と記載されている科目です。科目を選択する際には、下記、および次ページの【1年次生が履修できる科目】の内容を、良く確認してください。

- ・1年次生の登録単位数の上限は42単位です。42単位に収まるよう、1年次の前期後期を通じた履修計画を立て、前期登録時には通年科目と前期科目、後期科目を履修登録してください。後期履修登録時に、後期科目を追加で履修登録することもできます。
- ・「ジェネラルレクチャー」のある水曜4時限目は、履修登録をすることができません。
- ・「AI・データサイエンス基礎」は1年次の年次指定科目および準必修科目ですので、修得を目指してください。前期に修得できなかった学生は、後期に再度履修し、修得を目指すことになります。これにより後期履修登録時点で、登録単位数の上限（42単位）を超える場合は、2単位分の登録科目の見直しが必要になります。
- ・クラス分けが行われた①～④の時間割に重ならないように科目を選んでください。
- ・「キリスト教学Ⅰ」は1、2年次の年次指定科目ですので、1年次での履修が推奨されます。
- ・毎日Sophieで掲示を確認してください。開講情報の変更や、人数制限や抽選の方法についての情報があります。最新の情報にしたがって履修計画を立ててください。
- ・履修したい科目は初回の授業に必ず出席してください。人数制限のための抽選が行われる場合もあります。
- ・1年次生限定科目は、6単位まで卒業所要単位に含めることができます。6単位を超えて履修して修得した単位は、卒業所要単位に含めることができないので注意が必要です。

<時間割表(例)>

◆Sophie 時間割表 ※履修登録に際しては、『履修要覧』および掲示をよく読んでください

履修登録・登録状況照会

氏名				学籍番号		
所属	現代教養学部 基礎課程			学年	1年	
年度・学期	20〇〇年度 前期	期限	前期	年度登録単位数	42単位	
副専攻 資格情報						

最終更新日時：

前期	後期		集中講義・副専攻修了レポート等を登録 ※時間割の科目名の下に教員名が入ります			
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	未登録	AE21-16 1年英語1 Z	未登録	未登録	AE21-16 1年英語1 Z	未登録
2限		AK21-01 1年コリア語文法 (1) Z	未登録	AS35-01 暮らしのファイナンス	AK21-01 1年コリア語文法 (1) Z	AK23-01 1年コリア語オラル (1) Z
3限	AB04-01 英語の世界	未登録	未登録	AA10-11 体育運動学 11	AM17-01 キリスト教学Ⅰー7	未登録
4限		AS38-01 ジャーナリズムの現在	ジェネラル レクチャー	AS69-01 グローバル共生基礎Ⅰ	未登録	未登録
5限	BD30-11 基礎課程演習 11	未登録	GP12-01 グローバル・メディア Ⅰ (2)	GM55-01 難民・移民論	未登録	未登録

集中講義など				集中講義・副専攻修了 レポート等を登録
曜日	時限	講義コード	科目	担当教員名
その他	その他	BA01-01	AI・データサイエンス基礎	*

【1 年次生が履修できる科目】

1 年次生が履修可能な科目については、次の3種類に分けて『履修要覧』巻末の「科目リスト」の「備考」欄に表示しています。

A	1 年次生推奨科目（入門的・概説的な科目）
B	2 年次生以上対象の科目であるが、1 年次生も履修が認められる科目（人数制限では2 年次生以上優先）
(B)	2 年次生以上対象の科目であるが、1 年次生で教職課程履修希望者のみ履修が認められる科目（人数制限では2 年次生以上優先）

Bおよび(B)の科目を履修する場合には、途中放棄することのないよう、シラバスで授業内容等を確認してから履修登録してください。

【アカデミック・アドバイザー制度】

基礎課程演習のクラスは前期科目ですが、基礎課程演習で選択したクラスの授業担当者（本学専任教員）が、1年間を通じてアカデミック・アドバイザーとなります。授業のこと、将来の進路と学びの関係、専攻決定、学生生活などアドバイスを受けることができます。

【1 年次センター】

各学科には学生研究室があり、学科に分かれる前の基礎課程1 年次生のためには、1 年次センターがあります。専任職員が常駐していて、学生生活全般にわたる相談や質問を受け付けています。センター内には1 年次生が自由に使用できるパソコンがあり、授業の準備や予習・復習などもできます。また、学生同士の交流の場としても活用できます。

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>全学-1 キリスト教学Ⅰ</p> <p>聖心女子大学の教育基盤であるキリスト教の価値観について、多角的な視点で学ぶ</p>		<p>全学-2 キリスト教学Ⅱ</p>	
<p>全学-3 英語・ 全学-4 第二外国語</p> <p>語学力・コミュニケーション能力の習得を通じて、諸外国の文化を学び、国際的視野を広げる</p>		<p>全学-7 総合現代教養科目</p> <p>世界の多様な社会と文化を理解し、 その中で自身の生き方を考えることのできる、 幅広い知識と教養を獲得する</p>	
<p>全学-5 ウェルネス・ 身体活動</p> <p>健康の科学や運動文化への理解を深め、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる</p>			
<p>全学-9 AI・データサイエンス</p> <p>Society 5.0時代に必要な「数理・データサイエンス・AI」の基礎を学ぶ</p>			
<p>全学-6 基礎課程科目</p> <p>大学での学修の基礎を学ぶとともに、各学科・専攻の専門分野について理解を深める</p> <p>基礎課程演習</p> <p>各学科の入門科目</p>		<p>他学科の専門科目</p> <p>副専攻・関連科目として履修し、物事を多面的に見る力をはぐくむ</p>	
<p>各学科カリキュラムマップ参照</p> <p>(⇒p.70～p.289)</p>			

全学Ⅰ-8

卒業論文

自ら定めた課題について学問的に探求し、四年間の学修を集大成する

卒業所要単位

2023年度以降入学者

- ・2023年度以降入学者の卒業所要単位です。
- ・全学必修分野の各分野系列と関連分野の履修方法の説明は、次ページ以降にあります。
- ・専攻分野の履修方法については、各学科の履修要項を参照してください。
- ・卒業論文については卒業論文のページ（⇒p.290）を参照してください。
- ・資格関係分野については資格課程のページ（⇒p.310～）を参照してください。

分野系列	科目分類	卒業所要単位
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-6)		合計：最低28単位
[1-1] キリスト教学Ⅰ	全学必修科目	4単位
[1-2] キリスト教学Ⅱ	全学必修科目	4単位
[1-3] 第一外国語	全学必修科目	8単位
[1-4] 第二外国語	全学必修科目	8単位
[1-5] ウェルネス・身体活動	全学必修科目	2単位
[1-6] AI・データサイエンス	全学必修科目	2単位
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)		合計：最低90単位
2-a 専攻分野		
所属学科・専攻のカリキュラムに従い履修する		
2-b 関連分野		
	基礎課程科目（基礎課程演習・1年次生限定科目）	
	総合現代教養科目	
	他学科開講科目（所属の学科以外で開講されている科目）	
	博物館関連科目（博物館学芸員課程の一部科目）	
	その他の外国語（卒業所要単位を超えて修得した外国語科目）	
[3] ■ 卒業論文		8単位
卒業所要単位合計 [1][2][3]の合計：最低126単位		
[4] ■ 資格関係分野		
	資格課程科目（卒業要件外）	
[5] ■ その他卒業要件外		
	1年次生限定科目超過分	

◆2～4年次生の成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が記載されます。

全学必修分野

2023年度以降入学者

キリスト教学

●履修の目的

本学の教育の基盤であるキリスト教の価値観について、多面的・多角的な視点で学ぶ。キリスト教の教えと聖書全体の理解を通して、またキリスト教をめぐる文化、社会、歴史、思考等の多様な主題の考察を通して、世界と人間に対する深い洞察力と心の豊かさを涵養することを目指す。

[1-1] キリスト教学Ⅰ（選択必修・最低4単位）

標準履修年次：1・2年次

コード	授業科目	単位	備考
AM31	キリスト教学Ⅰ-1(1)	2	
AM32	キリスト教学Ⅰ-1(2)	2	
AM33	キリスト教学Ⅰ-2(1)	2	
AM34	キリスト教学Ⅰ-2(2)	2	
AM35	キリスト教学Ⅰ-3(1)	2	
AM36	キリスト教学Ⅰ-3(2)	2	
AM37	キリスト教学Ⅰ-4(1)	2	
AM38	キリスト教学Ⅰ-4(2)	2	
AM39	キリスト教学Ⅰ-5(1)	2	
AM40	キリスト教学Ⅰ-5(2)	2	
AM41	キリスト教学Ⅰ-6(1)	2	
AM42	キリスト教学Ⅰ-6(2)	2	
AM43	キリスト教学Ⅰ-7(1)	2	
AM44	キリスト教学Ⅰ-7(2)	2	
AM45	キリスト教学Ⅰ-8(1)	2	
AM46	キリスト教学Ⅰ-8(2)	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低4単位を修得していること

▼履修上の注意

- ① 必修単位を超えて修得した単位は卒業要件に含まれません。
- ② (1)(2)はペアで修得する必要があります。

[1-2] キリスト教学Ⅱ（選択必修・最低4単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
AN31	キリスト教学Ⅱ-1(1)	2	
AN32	キリスト教学Ⅱ-1(2)	2	
AN33	キリスト教学Ⅱ-2(1)	2	
AN34	キリスト教学Ⅱ-2(2)	2	
AN35	キリスト教学Ⅱ-3(1)	2	
AN36	キリスト教学Ⅱ-3(2)	2	
AN37	キリスト教学Ⅱ-4(1)	2	
AN38	キリスト教学Ⅱ-4(2)	2	
AN39	キリスト教学Ⅱ-5(1)	2	
AN40	キリスト教学Ⅱ-5(2)	2	
AN41	キリスト教学Ⅱ-6(1)	2	
AN42	キリスト教学Ⅱ-6(2)	2	
AN43	キリスト教学Ⅱ-7(1)	2	
AN44	キリスト教学Ⅱ-7(2)	2	
AN45	キリスト教学Ⅱ-8(1)	2	
AN46	キリスト教学Ⅱ-8(2)	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低4単位を修得していること

▼履修上の注意

- ① 必修単位を超えて修得した単位は卒業要件に含まれません。
- ② (1)(2)はペアで修得する必要があります。

外国語科目

●履修の目的

国際化の時代にふさわしい語学力、コミュニケーション能力を身につける。これを通じて、諸外国の文化的背景を学び、国際的視野を広げ、また専攻課程での学習研究活動の準備とする。

[1-3] 第一外国語 (必修・8単位)

1年英語			
コード	授業科目	単位	備考
AE21	1年英語 1	2	
AE22	1年英語 2	2	

2年英語 (英語英文学科・英語文化コミュニケーション学科生)			
コード	授業科目	単位	備考
AE25	Academic Reading 1	1	
AE26	Academic Reading 2	1	
AE27	Academic Writing 1	1	
AE28	Academic Writing 2	1	

2年英語 (英語英文学科・英語文化コミュニケーション学科生以外)			
コード	授業科目	単位	備考
AE31	2年英語 (Reading) 1	1	
AE32	2年英語 (Reading) 2	1	
AE33	2年英語 (Oral) 1	1	
AE34	2年英語 (Oral) 2	1	

▼卒業要件

【英語英文学科・英語文化コミュニケーション学科生】

- 「1年英語 1」「1年英語 2」を修得していること
- 「Academic Reading 1」「Academic Reading 2」「Academic Writing 1」「Academic Writing 2」を修得していること

【英語英文学科・英語文化コミュニケーション学科生以外】

- 「1年英語 1」「1年英語 2」を修得していること
- 「2年英語(Reading) 1」「2年英語(Reading) 2」「2年英語 (Oral) 1」「2年英語 (Oral) 2」を修得していること

▼年次指定科目

- 1年英語の各科目：1年次指定科目
- 2年英語の各科目：2年次指定科目

▼履修上の注意

- ① 必ず指定されたクラスを履修してください。
- ② 1年英語の履修には、授業に加えてメディア学習支援センターにおいて、週1回、各60分間以上の学習が必修となっています。詳しいことは、4月中旬に行われる1年英語メディア授業のオリエンテーションに必ず出席して、説明を受けてください。オリエンテーションの詳しい日程は、各クラスの先生から指示があります。

[1-4] 第二外国語（選択必修・8単位）

▼1年次対象科目

コード	授業科目	単位	備考
フランス語選択者			
AF21	1年フランス語文法 (1)	2	
AF22	1年フランス語文法 (2)	2	
AF23	1年フランス語オラル (1)	1	
AF24	1年フランス語オラル (2)	1	
ドイツ語選択者			
AG21	1年ドイツ語文法 (1)	2	
AG22	1年ドイツ語文法 (2)	2	
AG23	1年ドイツ語オラル (1)	1	
AG24	1年ドイツ語オラル (2)	1	
スペイン語選択者			
AH21	1年スペイン語文法 (1)	2	
AH22	1年スペイン語文法 (2)	2	
AH23	1年スペイン語オラル (1)	1	
AH24	1年スペイン語オラル (2)	1	
中国語選択者			
AJ21	1年中国語文法 (1)	2	
AJ22	1年中国語文法 (2)	2	
AJ23	1年中国語オラル (1)	1	
AJ24	1年中国語オラル (2)	1	
韓国語選択者			
AK21	1年韓国語文法 (1)	2	
AK22	1年韓国語文法 (2)	2	
AK23	1年韓国語オラル (1)	1	
AK24	1年韓国語オラル (2)	1	
外国人留学生			
AL22	1年日本語 1	3	
AL23	1年日本語 2	3	

▼2年次対象科目

コード	授業科目	単位	備考
フランス語選択者			
AF30	2年フランス語 (1)	1	
AF31	2年フランス語 (2)	1	
ドイツ語選択者			
AG30	2年ドイツ語 (1)	1	
AG31	2年ドイツ語 (2)	1	
スペイン語選択者			
AH25	2年スペイン語 (1)	1	
AH26	2年スペイン語 (2)	1	
中国語選択者			
AJ29	2年中国語 (1)	1	
AJ30	2年中国語 (2)	1	
韓国語選択者			
AK25	2年韓国語 (1)	1	
AK26	2年韓国語 (2)	1	
外国人留学生			
	2年日本語 (1)	1	
	2年日本語 (2)	1	

▼卒業要件

- 選択した言語について、左に指定した1年次対象科目計6単位を修得していること
- 1年次対象科目で選択した言語と同一言語について、左に指定した2年次対象科目のうち最低2単位を修得していること
- 外国人留学生は、「1年日本語1」「1年日本語2」「2年日本語(1)」「2年日本語(2)」を履修すること

▼年次指定科目

- 1年次対象科目：1年次指定科目
- 2年次対象科目：2年次指定科目

▼履修上の注意

- ① 必ず指定されたクラスを履修してください。
発表されたクラスは原則として変更できません。
- ② UNHCR難民高等教育プログラム (RHEP) による推薦入試で入学した学生は、第二外国語研究室の指示に従ってください。
- ③ 外国語系列科目には、授業時間とは別にメディア学習支援センターでの学習が必要な授業科目があります。
- ④ 2年次対象科目を履修するためには1年次対象科目の文法(1)、(2)またはオラル(1)、(2)のいずれかをペアで修得している必要があります。

▼第二外国語の変更

1年次に選択した言語が第二外国語となります。第二外国語の言語変更を希望する場合は、第二外国語研究室（1号館3階）へ申し出ること。選択した言語を変える場合は、1年次対象科目から履修することになります。すでに修得した科目については「関連分野」の単位となります。

▼第二外国語の余剰分

卒業所要単位を超えて異なる言語を修得した場合は、関連分野の卒業所要単位に導入されます。

▼外国語外部検定試験による単位の認定について

第二外国語検定試験合格者は第二外国語の単位の認定を願うことができます。

第二外国語の単位の認定を希望する方は、下記を参照してください。

1. 申請手続き

- (1) 「外国語外部検定試験単位認定申請書」に必要事項を記入の上、資格取得証明書（コピー1部）を添えて提出すること。

- (2) 申請時期、申請書類提出方法などについては、下記を参照すること。

2. 単位認定の補足事項

- (1) 成績評価は「Tr. (認定)」とする。認定された科目はGPA算出の対象外とする。
- (2) 認定単位数は、年次および学期で定められた登録単位数の上限に含む。
- (3) 期日を過ぎての受付は一切行わない。認定を考える者はスコア到着日も含め受検日をよく確認のうえ早めに受検すること。
- (4) 申請により単位認定が認められた場合は、第二外国語として選択した言語の文法 (1) と (2) の合計4単位を認定する。9月15日 (金) 15:00までの教務課窓口申請により単位認定が認められた場合は、第二外国語として選択した言語の文法 (2) の2単位を認定する。
- (5) 第二外国語による単位認定の上限は、検定科目に関わらず4単位を上限とする。
- (6) 単位認定を申請できるのは、選択した言語に限る。
- (7) 一度単位修得した科目について認定を申請することはできない。
- (8) 長期留学、短期留学などと合わせて、在学中に認定を受けられる単位数の上限は60単位までとする。

3. 認定基準と認定対象科目

* 申請の有効スコア：前年4月以降受検のもの

言語の種類	試験の種類	認定基準	本学における認定対象科目
フランス語	実用フランス語 技能検定	3級以上	1年フランス語文法 (1) 2単位 1年フランス語文法 (2) 2単位
ドイツ語	ドイツ語技能検定 Goethe Zertifikat	4級以上 A1以上	1年ドイツ語文法 (1) 2単位 1年ドイツ語文法 (2) 2単位
スペイン語	スペイン語 技能検定試験	4級以上	1年スペイン語文法 (1) 2単位 1年スペイン語文法 (2) 2単位
中国語	中国語検定	3級以上	1年中国語文法 (1) 2単位 1年中国語文法 (2) 2単位
韓国語	ハングル能力 検定試験 韓国語能力試験	3級以上 3級以上	1年韓国語文法 (1) 2単位 1年韓国語文法 (2) 2単位

ウェルネス・身体活動

●履修の目的

健康の科学や運動文化への理解を深め、適切な運動習慣を身につけ、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる。

[1-5] ウェルネス・身体活動（必修：2単位）

コード	授業科目	単位	備考
AA01	ウェルネス・身体活動（講義）	1	
AA02	ウェルネス・身体活動（実技）	1	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

ウェルネス・身体活動の各科目は1年次指定科目です。

▼履修上の注意

各クラスには定員があるのでオリエンテーション期間に調整を行ないます。調整の結果指定されたクラスを履修登録するようにしてください。

AI・データサイエンス

●履修の目的

すべての大学生が学ぶことを目的に設立された文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）において求められるモデルカリキュラムで、Society 5.0時代に必要な「数理・データサイエンス・AI」の基礎を学ぶ。

[1-6] AI・データサイエンス（必修・2単位）

コード	授業科目	単位	備考
BA01	AI・データサイエンス基礎	2	

▼年次指定科目

AI・データサイエンス基礎は1年次指定科目です。

▼履修上の注意

- ① この科目はオンライン形式（オンデマンド型）で行われる授業です。
- ② 前期に修得できなかった学生は、後期に再度履修し、修得を目指すことになります。これにより後期履修登録時点で、当該年度の年間履修登録単位数の上限を超える場合は、2単位分の登録科目の見直しが必要になります。
- ③ 当該科目を履修初年度に修得できなかった学生は、翌年度以降、履修する年度ごとに、eラーニングシステム延長利用費として5,000円（税別）の実費を納入しなければなりません。また、納入されたeラーニングシステム延長利用費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

関連分野の単位となる科目

2023年度以降入学者

基礎課程科目

履修年次：1年次限定

基礎課程科目は、入学時には全員が基礎課程に所属する本学独自のカリキュラムにより設けられた科目です。基礎課程科目として、少人数の演習（ゼミ）形式の「基礎課程演習」と1年次生のみが履修できる1年次限定科目が開講されています。

基礎課程演習（準必修・2単位）

●履修の目的

- (1) 大学での学修・研究活動に求められる主体的な姿勢・意欲や積極性を身につけること。また、このような資質・能力を1年次から養うことにより、社会への主体的参加の準備とすること。
- (2) 大学で効果的に学修を進めるための基盤として、「文章等による表現力」「発表の力」「情報収集の力」を重点的に強くすること。
- (3) 専任教員の専門性を通じて、学問に対する知的・興味関心を深め、視野を広げていくこと。

基礎課程演習の授業では、図書館ガイダンスを行い、図書館の利用方法、蔵書の検索、データベースの活用などについて学びます。

コード	授業科目	単位	備考
BD30	基礎課程演習	2	

▼年次指定科目

基礎課程演習は1年次指定科目です。
(入学年度に限り、1度だけ履修できます)

▼履修上の注意

- ① 単位修得が卒業要件ではありませんが、準必修科目ですので、全員履修するようにしてください。各クラスには定員があるのでオリエンテーション期間に調整を行ないます。調整の結果指定されたクラスを履修してください。
- ② 基礎課程演習は、1クラスのみ履修できます。

1年次生限定科目

コード	授業科目	単位	備考
AB10	英語文化コミュニケーション入門	2	
AB11	日本語日本文学入門	2	
AB12	史学入門	2	
AB01	人間関係入門	2	
AB02	国際交流入門	2	
AB13	哲学入門	2	
AB14	教育学入門	2	
AB03	心理学入門	2	
AB04	英語の世界	2	廃止(～2022)
AB07	日本史への招待	2	廃止(～2022)
AB09	異文化コミュニケーション入門	2	廃止(～2022)
AB08	発達科学入門	2	廃止(～2021)

▼履修上の注意

- ① 1年次生のみが履修できます。
- ② 修得した単位のうち8単位までを卒業所要単位として算入することができます。(8単位を超えて修得した場合、超過した単位は卒業要件外となります。)

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

総合現代教養科目（選択）

●履修の目的

地球規模で人々が考え、行動し、交流することが求められる現代において、世界の多様な社会と文化を理解し、時代を見通し、その中で自身の生き方を考えていくことのできる、幅広い知識と教養を獲得する。

●Ⅰ群 言語と思考

▼語学、言語学、ディスカッションベース、史料講読、交渉・対話

コード	授業科目	単位	備考
AS34	現代を考える	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●Ⅱ群 文学と芸術

▼美学、芸能、文学、身体表現、文化史、サブカルチャー、ポップカルチャー、映画

コード	授業科目	単位	備考
AS14	ビートルズの詩と音楽	2	
AS82	世界の身体表現文化	2	
AS87	音楽と人間	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●Ⅲ群 社会システム

▼政治（史）、経済（史）・金融、法律・法学

コード	授業科目	単位	備考
AU01	グローバル時代の国際協力概論	2	
AU08	平和構築と非暴力の諸課題	2	
AU10	グローバル・シチズンシップ育成論	2	
AR21	憲法1	2	
AS95	憲法2	2	
AS35	暮らしのファイナンス	2	
AS10	社会福祉論	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●Ⅳ群 コミュニティと環境

▼社会学、環境、持続可能性、文化人類、比較文化、カルチュラルスタディーズ、ジャーナリズム、メディア

コード	授業科目	単位	備考
AU03	人新世時代の環境問題	2	
AU05	持続的開発目標（SDGs）を捉え直す	2	
AU09	多文化共生社会論：現代社会とマイノリティ	2	
AS88	経済同友会連携インターンシップ	2	
AL19	日本事情1	2	
AL21	日本事情2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●Ⅴ群 心と科学

▼自然科学、科学史、健康科学、宗教、民俗学・民衆史・心性史、社会心理、組織心理、倫理、自然観・人間観、比較行動、進化心理、認知心理

コード	授業科目	単位	備考
AU12	グローバル・ヘルス	2	
AS37	進化論の世界	2	
AS79	生命科学の最前線	2	
AS25	健康な生活と健康科学	2	
AS05	現代の脳科学	2	
AS07	科学史1	2	
AS08	科学史2	2	
AS96	研究の方法論	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●Ⅵ群 キャリアと生涯発達

▼キャリア、女性・ジェンダー、教育工学、職業社会、ライフコース、親子関係、発達心理、生活や暮らしに密着した科目

コード	授業科目	単位	備考
AU07	現代社会における食料問題とオルタナティブ	2	
AS92	ジェンダー学入門	2	
AS93	キャリアデザイン入門1	2	
AS94	キャリアデザイン入門2	2	
AS59	生活と法律	2	
AS80	総合現代教養演習	2	
AS11	児童福祉論	2	
AS97	Introduction to Leadership	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●Ⅶ群 聖心スピリット

▼難民、ボランティア、共生、地域連携

コード	授業科目	単位	備考
AS69	グローバル共生基礎Ⅰ	2	
AS70	グローバル共生基礎Ⅱ	2	
AS86	グローバル共生総合演習	2	
AU02	赤十字によるグローバルな人道支援の状況	2	
AU04	災害と人間 -3.11以後の社会と文化-	2	
AU06	地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト	2	
AU11	地球規模課題を探究する	2	
AS24	聖心スピリットと共生	2	
AT50	ボランティア研究概論	2	
AS40	ボランティア体験の振り返り	2	
AS84	地域づくり演習1	2	
AS85	地域づくり演習2	2	
AS81	学生提案型授業	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

博物館関連科目（選択）

コード	授業科目	単位	備考
DJ21	博物館概論	2	
DJ28	博物館経営論	2	
DJ29	博物館展示論	2	
DJ30	博物館資料論	2	
DJ32	博物館資料保存論	2	
DJ26	博物館情報・メディア論	2	
DJ27	博物館教育論	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

博物館学芸員課程を修了するための選択必修科目です。

その他の外国語（選択）

▼履修上の注意

原則として、第二外国語について卒業所要単位を修得した場合のみ、選択した第二外国語以外の言語を履修することができます。

他学科開講科目

▼履修上の注意

- ① 他学科開講科目は巻末の「科目リスト」で履修できるか確認してください。
- ② 履修条件は巻末の科目リストやシラバスでよく確認してください。副専攻や資格課程等によって履修できるかどうか異なります。

聖心・リベラルアーツ群

「聖心・リベラルアーツ群」では、世界の多様な社会と文化を理解し、自身の生き方を考えていくことのできる総合現代教養科目と、8学科の専門科目のうち他学科生も受講できる科目を7領域に整理しています。これらの科目を自由に履修することによって、学科で学ぶ専門的内容とは異なるより多くの分野に触れる、学科を横断する学際的な内容に触れる、学科の専門的内容とリンクしながら地球的規模で考え行動するなど、自由で創造的な学びを実現することができます。

▼履修上の注意

- ① pp.62-65の聖心・リベラルアーツ群科目の開講状況はシラバス等で確認すること。
- ② 対象学年などの条件は巻末の科目リストやシラバスでよく確認してください。

聖心リベラル・アーツ群



開講所属	I群 言語と思考	II群 文学と芸術	III群 社会システム	IV群 コミュニティと環境	V群 心と科学	VI群 キャリアと生涯発達	VII群 聖心スピリット
キーワード	語学、言語学、ディスカッションベース、史料講読、交渉・対話	美学、芸能、文学、身体表現、文化史、サブカルチャー、ポップカルチャー、映画	政治(史)、経済(史)・金融、法律・法学	社会学、環境、持続可能性、文化人類、比較文化、カルチュラルスタディーズ、ジャーナリズム、メディア	自然科学、科学史、健康科学、宗教、民俗学・民衆史・心性史、社会心理、組織心理、倫理、自然観・人間観、比較行動、進化心理、認知心理	キャリア、女性・ジェンダー、教育工学、職業社会、ライフコース、親子関係、発達心理、生活や暮らしに密着した科目	難民、ボランティア、共生、地域連携
総現教	<ul style="list-style-type: none"> 現代を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ベートルズの詩と音楽 世界の身体表現文化 音楽と人間 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル時代の国際協力概論 平和構築と非暴力の諸課題 グローバル・シチズンシップ育成論 憲法1 憲法2 暮らしのファイナンス 社会福祉論 	<ul style="list-style-type: none"> 人新世代の環境問題 持続的開発目標(SDGs)を捉え直す 多文化共生社会論：現代社会とマイノリティ 経済同友会連携インターンシップ 日本事情1 日本事情2 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル・ヘルス 進化論の世界 生命科学の最前線 健康な生活と健康科学 現代の脳科学 科学史1 科学史2 研究の方法論 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会における食料問題とオルタナティブ ジェンダー学入門 キャリアデザイン入門1 キャリアデザイン入門2 生活と法律 総合現代教養演習 児童福祉論 Introduction to Leadership 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル共生基礎I グローバル共生基礎II グローバル共生総合演習 赤十字によるグローバルな人道支援の状況 災害と人間-3.11以後の社会と文化- 地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト 地球規模課題を探究する 聖心スピリットと共生 ボランティア研究概論 ボランティア体験の振り返り 地域づくり演習1 地域づくり演習2 学生提案型授業

網掛けの科目は1年生から受講可能。その他の科目は2年生以上または3年生以上が受講可能。今年度の開講状況はシラバス等で確認すること。

開講所属	I群 言語と思考	II群 文学と芸術	III群 社会システム	IV群 コミュニティと環境	V群 心と科学	VI群 キャリアと生涯発達	VII群 聖心スピリット
英文	<ul style="list-style-type: none"> 英語学概論1 英語学概論2 オラルコミュニケーション1 オラルコミュニケーション2 異文化理解 英語基礎研究1-1 英語基礎研究3-1 英語基礎研究3-2 英語基礎研究8-1 英語基礎研究9-1 英語基礎研究9-2 英語史1 英語史2 英語学特講3-1 英語学特講3-2 英文法 英会話1 英会話2 	<ul style="list-style-type: none"> 英文学史概説1 英文学史概説2 英語文学への招待1 英語文学への招待2 米文学史概説1 米文学史概説2 英語文化論1-1 英語文化論1-2 英語基礎研究4-1 英語基礎研究4-2 英語基礎研究5-1 英語基礎研究5-2 英語基礎研究7-1 英語基礎研究7-2 		<ul style="list-style-type: none"> メディア・コミュニケーション入門1 メディア・コミュニケーション入門2 英語基礎研究8-2 英語基礎研究10-1 メディア・コミュニケーション特講1 英語文化論6-1 			
日文	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教育の世界 日本語の世界 日本語学研究2 日本語教授法I(1) 日本語教授法I(2) 日本語学概説1 日本語学概説2 日本語史概説1 日本語史概説2 日本語学研究1 言語学概論1 言語学概論2 中国文学概論1 中国文学概論2 	<ul style="list-style-type: none"> 古典文学の世界 近代文学の世界 古典文学研究3 近代文学研究3 日本文学史1 日本文学史2 日本文学史3 日本文学史4 日本文学史5 日本文学史6 古典文学研究1 古典文学研究2 古典文学研究4 近代文学研究1 近代文学研究2 近代文学研究4 文芸創作入門(1) 文芸創作入門(2) 					
哲学	<ul style="list-style-type: none"> 哲学概論1 哲学概論2 ギリシア語I(1) ギリシア語I(2) ラテン語I(1) ラテン語I(2) 哲学・倫理学特講3 哲学・倫理学特講7 哲学・倫理学特講8 ギリシア語II(1) ギリシア語II(2) ラテン語II(1) ラテン語II(2) 哲学・倫理学演習1(1) 哲学・倫理学演習1(2) 哲学・倫理学演習2(1) 哲学・倫理学演習2(2) 哲学・倫理学演習3(1) 哲学・倫理学演習3(2) 哲学・倫理学演習5(1) 哲学・倫理学演習5(2) 哲学・倫理学演習6(1) 哲学・倫理学演習6(2) 哲学・倫理学演習7(1) 哲学・倫理学演習7(2) 哲学・倫理学演習8(1) 哲学・倫理学演習8(2) 	<ul style="list-style-type: none"> 美学・芸術学概論1 美学・芸術学概論2 日本美術史1 日本美術史2 東洋美術史1 東洋美術史2 西洋美術史1 西洋美術史2 美学・芸術学特講1 美学・芸術学特講2 美学・芸術学特講3 美学・芸術学特講4 美学・芸術学特講5 美学・芸術学特講6 キリスト教美術(1) キリスト教美術(2) キリスト教音楽(1) キリスト教音楽(2) キリスト教文学(1) キリスト教文学(2) 美学・芸術学演習1(1) 美学・芸術学演習1(2) 美学・芸術学演習2(1) 美学・芸術学演習2(2) 美学・芸術学演習3(1) 美学・芸術学演習3(2) 日本思想史演習2(1) 日本思想史演習2(2) 	<ul style="list-style-type: none"> 倫理学概論1 倫理学概論2 社会思想史1 社会思想史2 哲学・倫理学演習9(1) 哲学・倫理学演習9(2) 	<ul style="list-style-type: none"> 宗教学概論1 哲学・倫理学特講4 西洋古代・中世哲学史1 西洋古代・中世哲学史2 西洋近現代哲学史1 西洋近現代哲学史2 キリスト教学特講2(1) キリスト教学特講2(2) 日本思想史演習1(1) 日本思想史演習1(2) 	<ul style="list-style-type: none"> キリスト教学概論1 キリスト教学概論2 宗教学概論2 キリスト教思想史1 キリスト教思想史2 宗教思想史1 宗教思想史2 哲学・倫理学特講1 哲学・倫理学特講2 キリスト教学特講1(1) キリスト教学特講1(2) キリスト教学特講3(1) キリスト教学特講3(2) 聖書学特講1 聖書学特講2 宗教学特講1 宗教学特講2 宗教学特講3 宗教学特講4 キリスト教学演習1(1) キリスト教学演習1(2) キリスト教学演習2(1) キリスト教学演習2(2) キリスト教学演習3(1) キリスト教学演習3(2) キリスト教学演習4(1) キリスト教学演習4(2) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本思想史概論1 日本思想史概論2 哲学・倫理学特講5 哲学・倫理学特講6 哲学・倫理学演習4(1) 哲学・倫理学演習4(2) 	
史学	<ul style="list-style-type: none"> 日本史史料論1 日本史史料論2 日本史史料論3 日本史史料論4 史料講読1 史料講読2 史料講読3 史料講読4 	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化史1 日本文化史2 	<ul style="list-style-type: none"> 教養としての歴史1 教養としての歴史2 教養としての歴史3 教養としての歴史4 教養としての歴史5 教養としての歴史6 教養としての歴史7 教養としての歴史8 教養としての歴史9 教養としての歴史10 	<ul style="list-style-type: none"> 日本考古学 日本民俗学 日本史フィールドワーク1 日本史フィールドワーク2 			

網掛けの科目は1年生から受講可能。その他の科目は2年生以上または3年生以上が受講可能。今年度の開講状況はシラバス等で確認すること。

開講所属	I群 言語と思考	II群 文学と芸術	III群 社会システム	IV群 コミュニティと環境	V群 心と科学	VI群 キャリアと生涯発達	VII群 聖心スピリット	
史学	<ul style="list-style-type: none"> 世界史文献講読 II-1 (1) 世界史文献講読 II-1 (2) 世界史文献講読 II-2 (1) 世界史文献講読 II-2 (2) 世界史文献講読 II-3 (1) 世界史文献講読 II-3 (2) 世界史文献講読 II-4 (1) 世界史文献講読 II-4 (2) 世界史文献講読 II-5 (1) 世界史文献講読 II-5 (2) 		<ul style="list-style-type: none"> 教養としての歴史11 教養としての歴史12 教養としての歴史13 教養としての歴史14 日本古代史 1 (1) 日本古代史 1 (2) 日本古代史 2 (1) 日本古代史 2 (2) 日本中世史 1 (1) 日本中世史 1 (2) 日本中世史 2 (1) 日本中世史 2 (2) 日本近世史 1 (1) 日本近世史 1 (2) 日本近世史 2 (1) 日本近世史 2 (2) 日本近現代史 1 (1) 日本近現代史 1 (2) 日本近現代史 2 (1) 日本近現代史 2 (2) 中国史 朝鮮史 東南アジア史 西アジア史 (1) 西アジア史 (2) 南アジア史 古代地中海世界 ヨーロッパ中世史 1 (1) ヨーロッパ中世史 1 (2) ヨーロッパ中世史 2 (1) ヨーロッパ中世史 2 (2) ヨーロッパ近代史 1 (1) ヨーロッパ近代史 1 (2) ヨーロッパ近代史 2 (1) ヨーロッパ近代史 2 (2) ヨーロッパ現代史 1 (1) ヨーロッパ現代史 1 (2) ヨーロッパ現代史 2 (1) ヨーロッパ現代史 2 (2) ロシア史 アメリカ史 (1) アメリカ史 (2) ラテンアメリカ史 地誌学 日本史概説 外国史概説 日本史演習 II-1 (1) 日本史演習 II-1 (2) 日本史演習 II-2 (1) 日本史演習 II-2 (2) 日本史演習 II-3 (1) 日本史演習 II-3 (2) 日本史演習 II-4 (1) 日本史演習 II-4 (2) 日本史演習 III-1 (1) 日本史演習 III-1 (2) 日本史演習 III-2 (1) 日本史演習 III-2 (2) 日本史演習 III-3 (1) 日本史演習 III-3 (2) 日本史演習 III-4 (1) 日本史演習 III-4 (2) 世界史演習 II-2 (1) 世界史演習 II-2 (2) 世界史演習 II-3 (1) 世界史演習 II-3 (2) 世界史演習 II-4 (1) 世界史演習 II-4 (2) 世界史演習 II-5 (1) 世界史演習 II-5 (2) 世界史演習 III-2 (1) 世界史演習 III-2 (2) 世界史演習 III-3 (1) 世界史演習 III-3 (2) 世界史演習 III-4 (1) 世界史演習 III-4 (2) 世界史演習 III-5 (1) 世界史演習 III-5 (2) 					

網掛けの科目は1年生から受講可能。その他の科目は2年生以上または3年生以上が受講可能。今年度の開講状況はシラバス等で確認すること。

開講所属	I群 言語と思考	II群 文学と芸術	III群 社会システム	IV群 コミュニティと環境	V群 心と科学	VI群 キャリアと生涯発達	VII群 聖心スピリット
人間		<ul style="list-style-type: none"> 文化人類学特講 3 		<ul style="list-style-type: none"> 社会学特講 3 社会学 文化人類学特講 7 観光と文化 ファッションの社会学 社会学特講 2 社会学特講 4 文化人類学 文化人類学特講 6 自然地理学 1 人文地理学 1 自然地理学 2 人文地理学 2 開発と文化 環境と人間 	<ul style="list-style-type: none"> メディアと社会心理 社会心理学特講 1 社会心理学特講 3 社会心理学特講 6 社会心理学特講 7 社会心理学 社会心理学特講 4 社会心理学特講 8 社会心理学特講 9 社会心理学特講 10 社会心理学特講 11 	<ul style="list-style-type: none"> 社会学特講 1 人間関係特講 1 職業社会学 家族社会学 社会学特講 5 社会学特講 6 	
国交	<ul style="list-style-type: none"> English for Global Communicators Talking about Global Issues リーダーシップ論 Japan in the Global Context 情報処理入門I 情報処理入門II 交渉と対話 言語とアイデンティティ グローバル社会と言語 異文化理解とコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> フランスの社会と文化 1 フランスの社会と文化 2 異文化メディア論 2 異文化メディア論 1 国際文化政策論 1 	<ul style="list-style-type: none"> 国際政治学 1 国際政治学 2 政治学 1 ※ 政治学 2 法律学 I ※ 法律学 II マクロ経済学 ※ ミクロ経済学 経済政策論 ※ 国際問題ワークショップ 1 国際問題ワークショップ 2 国際法 現代人権論 2 現代人権論 1 国際機構論 EU論 難民・移民論 国際経済学 1 国際経済学 2 ICT社会論 開発経済論 現代家族法 1 現代家族法 2 メディアと社会 3 	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアの社会と文化 1 東アジアの社会と文化 2 フランス事情 1 フランス事情 2 東アジア地域論 東南アジア地域論 中東地域論 ラテンアメリカ地域論 アフリカ地域論 国際協力基礎ワークショップ 国際文化協力論 NGO基礎ワークショップ 国際環境論 1 メディアと社会 1 国際メディア論 1 メディアと社会 2 国際メディア論 2 メディアと社会 4 国際文化政策論 2 国際協力プロジェクト実習 国際環境論 2 環境学 1 環境学 2 ソーシャルビジネス論 国際ニュースワークショップ 1 国際ニュースワークショップ 2 メディアワークショップ 1 メディアワークショップ 2 比較文化論 			
教育		<ul style="list-style-type: none"> 人間学習 3 人間学習 4 人間学習 7 		<ul style="list-style-type: none"> 比較教育学 1 発展途上国における教育問題 (1) 発展途上国における教育問題 (2) 教育哲学 人間学習 2 人間学習 8 	<ul style="list-style-type: none"> 人間学習 1 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習概論 比較教育学 2 人間学習 9 	
心理	<ul style="list-style-type: none"> 発達・認知心理学特講 7 学習・言語心理学 				<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学特講 2 福祉心理学 感情・人格心理学 精神疾患とその治療 臨床心理学特講 5 発達・認知心理学特講 5 	<ul style="list-style-type: none"> 発達・認知心理学特講 1 臨床心理学特講 1 発達・認知心理学特講 2 発達・認知心理学特講 6 発達・認知心理学特講 8 	

網掛けの科目は1年生から受講可能。その他の科目は2年生以上または3年生以上が受講可能。今年度の開講状況はシラバス等で確認すること。

1 年次生の履修

2023年度以降入学者

大学では、開講されている科目の中から自分自身で科目を選択して時間割を作ります。時間割を作る際には、ルールがあり、それがカリキュラムです。カリキュラムには卒業までに履修する科目とその履修方法が定められていて、定められた年次に順序よく必ず修得しなければならない科目（必修科目）、科目群から指定の単位数修得しなければならない科目（選択必修科目）を履修し、それに加え、自由に選択して履修できる科目（選択科目）を学修する仕組みになっています。4年次には学修の集大成として「卒業論文」を執筆します。

学科・専攻・コースに分かれての学修は2年次から始まります。本学では1年次を「基礎課程」と呼び、2年次からの各学科・専攻に向けての基礎をしっかりと作るための学修を進めます。1年次に履修すべき「年次指定科目」を中心に履修計画をたてていきます。

まず、この『履修要覧』の全学共通事項のページをよく読んでください。卒業までに修得しなければならない科目のうち、1年次で履修すべき科目から順番に時間割を作っていきます。

【クラス分けの方法】

1年次の年次指定科目は「1年英語」「第二外国語」「ウェルネス・身体活動」「基礎課程演習」「AI・データサイエンス」です。それぞれクラスに分かれて履修することになるので、自分のクラスを間違えないように履修のための手続きを進めることが重要です。クラス分けは次のような順序で行いますので、一つ一つ順番に進めてください。

- ① 第二外国語の希望をWebで申請する→第二外国語の言語とクラスが決まる→Sophieの履修登録状況照会画面上に表示される。
- ② プレイスメントテストを受ける→「1年英語」のクラスが決まる→Sophieに表示される。
- ③ 基礎課程演習の希望をSophieの事前登録で申請する→クラスが決まる→Sophieに表示される。
- ④ 第二外国語の時間割に重ならないようにウェルネス・身体活動（実技）の希望をSophieの事前登録で申請する→クラスが決まる→Sophieに表示される。

【科目の選び方】

科目を選ぶ際には『授業計画書』（通称：シラバス）を見てください。シラバスには、授業の内容等が記載されています。1年次生が履修できる科目は、『履修要覧』巻末の「科目リスト」の「学年」欄に「1」と記載されている科目です。科目を選択する際には、下記、および次ページの【1年次生が履修できる科目】の内容を、良く確認してください。

- ・1年次生の登録単位数の上限は40単位です。40単位に収まるよう、1年次の前期後期を通じた履修計画を立て、前期登録時には通年科目と前期科目、後期科目を履修登録してください。後期履修登録時に、後期科目を追加で履修登録することもできます。
- ・「ジェネラルレクチャー」のある水曜4時限目は、履修登録をすることができません。
- ・「AI・データサイエンス基礎」は1年次の年次指定科目および必修科目ですので、修得してください。前期に修得できなかった学生は、後期に再度履修し、修得を目指すことになります。これにより後期履修登録時点で、登録単位数の上限（40単位）を超える場合は、2単位分の登録科目の見直しが必要になります。
- ・クラス分けが行われた①～④の時間割に重ならないように科目を選んでください。
- ・「キリスト教学Ⅰ」は1、2年次の年次指定科目ですので、1年次での履修が推奨されます。
- ・毎日Sophieで掲示を確認してください。開講情報の変更や、人数制限や抽選の方法についての情報があります。最新の情報にしたがって履修計画を立ててください。
- ・履修したい科目は初回の授業に必ず出席してください。人数制限のための抽選が行われる場合もあります。
- ・1年次生限定科目は、8単位まで卒業所要単位に含めることができます。8単位を超えて履修して修得した単位は、卒業所要単位に含めることができないので注意が必要です。

<時間割表(例)>

◆Sophie 時間割表 ※履修登録に際しては、『履修要覧』および掲示をよく読んでください

履修登録・登録状況照会

氏名				学籍番号		
所属	現代教養学部 基礎課程			学年	1年	
年度・学期	20〇〇年度 前期	期限	前期	年度登録単位数	40単位	
副専攻 資格情報						

最終更新日時：

前期	後期	集中講義・副専攻修了レポート等を登録 ※時間割の科目名の下に教員名が入ります					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	
1限	未登録	AE21-16 1年英語1 Z	未登録	未登録	AE21-16 1年英語1 Z	未登録	
2限		AK21-01 1年コリア語文法 (1) Z	未登録	AS35-01 暮らしのファイナンス	AK21-01 1年コリア語文法 (1) Z	AK23-01 1年コリア語オラル (1) Z	
3限	AB04-01 英語の世界	未登録	未登録	AA10-11 体育運動学 11	AM17-01 キリスト教学I-7	未登録	
4限		AS38-01 ジャーナリズムの現在	ジェネラル レクチャー	AS69-01 グローバル共生基礎 I	未登録	未登録	
5限	BD30-11 基礎課程演習 11	未登録	GP12-01 グローバル・メディア I (2)	GM55-01 難民・移民論	未登録	未登録	

集中講義など				集中講義・副専攻修了 レポート等を登録	
曜日	時限	講義コード	科目	担当教員名	
その他	その他	BA01-01	AI・データサイエンス基礎	*	

【1 年次生が履修できる科目】

1 年次生が履修可能な科目については、次の3種類に分けて『履修要覧』巻末の「科目リスト」の「備考」欄に表示しています。

A	1 年次生推奨科目（入門的・概説的な科目）
B	2 年次生以上対象の科目であるが、1 年次生も履修が認められる科目（人数制限では2 年次生以上優先）
(B)	2 年次生以上対象の科目であるが、1 年次生で教職課程履修希望者のみ履修が認められる科目（人数制限では2 年次生以上優先）

Bおよび(B)の科目を履修する場合には、途中放棄することのないよう、シラバスで授業内容等を確認してから履修登録してください。

【アカデミック・アドバイザー制度】

基礎課程演習のクラスは前期科目ですが、基礎課程演習で選択したクラスの授業担当者（本学専任教員）が、1年間を通じてアカデミック・アドバイザーとなります。授業のこと、将来の進路と学びの関係、専攻決定、学生生活などアドバイスを受けることができます。

【1 年次センター】

各学科には学生研究室があり、学科に分かれる前の基礎課程1 年次生のためには、1 年次センターがあります。専任職員が常駐していて、学生生活全般にわたる相談や質問を受け付けています。センター内には1 年次生が自由に使用できるパソコンがあり、授業の準備や予習・復習などもできます。また、学生同士の交流の場としても活用できます。

第2章 專攻課程

㉟ アドミッションポリシー ㉞

英語文化コミュニケーション学科に進学・編入学する学生は、卒業時までには学科のディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力や姿勢を身に着けることが目標になります。そのため、本学科に進学・編入学を希望する学生には次のような能力や資質が必要と考えます。

1. 英語の4技能についての「基礎力」をしっかりと身につけ、英語による卒業論文執筆に求められる論理的思考力・批評力・創造力を養うべく、授業だけでなく日頃の生活においても英語の運用能力を高めようという前向きの姿勢を持っていること。
2. 「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディアと社会」という三つの専門的な研究分野を体系的かつ体験的に学ぶ上で大切な、読書、創作や社会貢献などの「経験の積み重ね」をしてきていること。また、自分の興味・関心に応じて、その場限りに終わらない「経験の積み重ね」や「知識の蓄積」を3年間じっくりしていこうという姿勢があること。
3. 積極的に新しい世界を見よう、つながろう、開こうとする「とらわれない姿勢」と「前向きのチャレンジ精神」をもっていること。
4. グローバル社会における多文化共生や社会の多様性とインクルージョンの重要性を理解し、自らもその一員として積極的に行動しようとする意欲をもっていること。

㉟ ディプロマポリシー ㉞

英語文化コミュニケーション学科は、学科の用意する様々な授業での学習・研究の経験を積み重ねた結果として、卒業時に次のような三種類の力を身につけていることを期待します。

1. 過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会について、的確な理解と判断をする力。そのために必要な、豊富な知識と柔軟な英語運用力。
2. 物事を筋道立てて説明したり、場や状況に応じて有効で効果的な英語コミュニケーションに必要な発信力と表現力。そのために必要な批判的思考力と豊かな想像力。
3. 多様な人や社会がつながってグローバル化する世界の一員として、積極的かつ創造的に行動できる計画力・指導力・協働力。

英語文化コミュニケーション学科の卒業生には、生涯を通じて、どのような立場や状況に置かれても、必要に応じて上記三種類の能力を発揮できる、次のような働き手となることを期待します。

- a. 普段から身近な場所や機会に自分の英語体験を豊かに積み重ね、様々な機会に様々な媒体を通して得られる情報に対して的確な理解・判断ができる人。
- b. 様々な媒体を柔軟に活用して積極的かつ創造的に発信や表現のできる人。
- c. 計画力・指導力・協働力を発揮して、積極的かつ創造的に人や社会に働きかけられる人。

㉟ カリキュラムポリシー ㉞

英語文化コミュニケーション学科は、ディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力を身に着けるために、英語を軸として相互に有機的に結びつき、支えあう研究推進母体として、「土台」「三つの柱」「屋根」という「家」の構造になぞらえた分野系列と年次ごとのカリキュラム体系を示す時系列の二つの視点から以下のようにカリキュラムを編成しています。

また、英語による授業を多数用意して、学生が日常的に英語を使う機会をできるだけ多く持てるようにしています。

(分野系列)

「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディアと社会」という三つの専門的な研究の分野が家を支える柱として「過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会」という幅広い領域を研究対象にしながら、学生一人一人の「英語の世界」の探求を後押しする科目を用意しています。土台となる「英語コミュニケーション」の系列では「読む・書く・話す・聴く」という英語の運用能力をトータルに訓練し、あわせてオンラインツール・デジタル媒体を学習・研究に活用する技術も習得します。

「世界の多様な文化」の系列では、英語が実際に運用される様々な具体的「世界」を取りあげて、上記三つの研究に直接的・間接的に役立つ英語文化の多様な広がりや厚みを生きた体験として理解します。

(時系列)

年次ごとに、段階的に研究分野の知識や研究能力を積み重ね、深めていけるよう、授業科目を編成しています。

2年次では本学科で学ぶ学問領域の入門、概論等の導入コースを学びます。ディプロマ・ポリシーで掲げる三種類の能力の基礎を学ぶ「英語基礎研究」や、研究分野の理解意に必要な英語基礎力を「Academic Reading」「Academic Writing」で身につけます。

3-4年次にはそれぞれの学生が所属するゼミの学習・研究で、英語を自由に駆使しながら、経験・体験をとおして論理的思考力・批評力・創造力・計画力・指導力・協働力を養います。2年次で培った英語の基礎運用能力が段階的に積み重ねていけるよう、3年次必修の「英作文」でさらに高度な論文構成力を身に付け、4年次には、自分の選んだテーマについて主体的・計画的に研究を進め、その成果を論理的で筋道立った英語の卒業論文にまとめます。

そのほか、ゼミの学習・研究以外に、多数用された自由選択科目や特講類の授業で三つの研究分野や多様な世界の文化について知見を広げ、英語力の向上を目指します。

卒業生像

英語文化コミュニケーション学科生は卒業時に次のような力が身につけている：

- ・過去から現在に至る多様な英語圏文化・社会についての確な理解と判断をするために必要な、豊富な知識と柔軟な英語運用力
- ・批評的思考力と豊かな想像力、およびその内容を筋道立てて表現できる発信力
- ・積極的かつ創造的に行動できる計画力・指導力・協働力
- ・普段から身近な場所や機会に自分の英語体験を豊かに積み重ねていく姿勢

これらを総合して卒業時に形成されている人材像は次のようになる：

- ・今日の多様な英語圏文化・社会とその歴史についての豊富な知識に基づいて、目的や必要に応じた適切な英語運用能力を発揮しながら、様々な機会に様々な媒体を通して得られる情報に対する的確な理解・判断ができる人、計画力・指導力・協働力を発揮して、積極的かつ創造的に社会への働きかけができる人。

このような人材として、卒業後には次のような姿での活躍が期待される：

- ・グローバル化する社会・世界の構成員として、どのような立場や状況に置かれても、上記の知識・能力・姿勢・実践力等を兼ね備えた、積極的かつ創造的な働き手となること。

英語文化コミュニケーション学科カリキュラムマップ

- ・全学共通カリキュラムマップについては、p.37 を参照してください。
- ・英文カリキュラムマップの該当科目については、シラバスを参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方を身につける			
英語文化コミュニケーション学科の様々な学問領域に出会いながら、英語で読書や情報収集、レポート等の制作、口頭での討論や発表する力を伸ばす	所属ゼミの学習・研究を中心に英語を自由に駆使しながら論理的思考力・批評力・創造力・計画力・指導力・協働力を身につける	自分の選んだテーマに主体的計画的に研究を進め、その成果を論理的で筋道立った英語の卒業論文にまとめる	
英文-1 必修科目・基礎研究		英文-2 必修科目・専門ゼミ	
英文-3 特講類			
自由選択科目 英語の多様なコミュニケーション技術を身につける。また多彩な研究分野を学びながら、文化や場に即した英語の運用能力を高める			
英文-4 英語コミュニケーション			
英文-5 英語文化論等			

※1 2019年度から学科名称が「英語文化コミュニケーション学科」になりました。ただし2018年度以前に入学した者の所属学科名称は従前のおり「英語英文学科」となります。

※2 2014年度以前入学者は、2017年度以前の履修要覧で確認してください。

▼卒業までに必要とする最低単位数（2015～2022年度入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-5)		合計：最低26単位		39-44ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)		合計：最低98単位		73-77ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1～a6)		合計：最低60単位		73-77ページ
a1	必修科目	12	必修	
a2	英語基礎研究	4	選択必修	
a3	3年演習	4	選択必修	
a4	4年演習	4	選択必修	
a5	特講類	8	選択必修	
a6	自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野		合計：最低26単位		77ページ
うち第二外国語余剰分				43ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3]の合計：132単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1～5-2)				
5-1	1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2	運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要があるので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a6）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 必修科目（必修・12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
MA34	英文学史概説 1	2	
MA35	英文学史概説 2	2	
ML32	英作文 1	2	
ML33	英作文 2	2	
MA12	英語学概論	4	廃止（～2022）
MA16	英語学概論 1	2	
MA17	英語学概論 2	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること（英文学史概説は、2単位科目2科目を修得していること）

▼年次指定科目

英文学史概説 1、英文学史概説 2、英語学概論 1、英語学概論 2 は 2 年次指定科目です。

英作文 1、英作文 2 は 3 年次指定科目です。

▼履修上の注意

英文学史概説、英語学概論を 1 年次に修得した場合も、分野系列「必修科目」の単位として認められます。

▼廃止科目を未修得の場合

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

代替指定科目

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
MA12	英語学概論	MA16	英語学概論 1 <2>
		MA17	英語学概論 2 <2>

a2 英語基礎研究（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
MP01	英語基礎研究1-1	2	
MP02	英語基礎研究1-2	2	
MP03	英語基礎研究2-1	2	
MP04	英語基礎研究2-2	2	
MP05	英語基礎研究3-1	2	
MP06	英語基礎研究3-2	2	
MP07	英語基礎研究4-1	2	
MP08	英語基礎研究4-2	2	
MP09	英語基礎研究5-1	2	
MP10	英語基礎研究5-2	2	
MP11	英語基礎研究6-1	2	
MP12	英語基礎研究6-2	2	
MP13	英語基礎研究7-1	2	
MP14	英語基礎研究7-2	2	
MP15	英語基礎研究8-1	2	
MP16	英語基礎研究8-2	2	
MP17	英語基礎研究9-1	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
MP18	英語基礎研究9-2	2	
MP19	英語基礎研究10-1	2	
MP20	英語基礎研究10-2	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低4単位修得していること

▼年次指定科目

英語基礎研究の各科目は2年次指定科目です。

▼履修上の注意

1年次に修得した単位も分野系列「英語基礎研究」の単位として認められます。

a3 3年演習（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
MD01	3年英語学演習1-1	2	
MD02	3年英語学演習1-2	2	
MD03	3年英語学演習2-1	2	
MD04	3年英語学演習2-2	2	
MD05	3年英語学演習3-1	2	
MD06	3年英語学演習3-2	2	
MD07	3年英米文学演習1-1	2	
MD08	3年英米文学演習1-2	2	
MD09	3年英米文学演習2-1	2	
MD10	3年英米文学演習2-2	2	
MD11	3年英米文学演習3-1	2	
MD12	3年英米文学演習3-2	2	
MD13	3年英米文学演習4-1	2	
MD14	3年英米文学演習4-2	2	
MD15	3年英米文学演習5-1	2	
MD16	3年英米文学演習5-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
MD23	3年メディア・コミュニケーション演習1-1	2	
MD24	3年メディア・コミュニケーション演習1-2	2	
MD25	3年メディア・コミュニケーション演習2-1	2	
MD26	3年メディア・コミュニケーション演習2-2	2	
MD27	3年メディア・コミュニケーション演習3-1	2	
MD28	3年メディア・コミュニケーション演習3-2	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低4単位修得していること

▼年次指定科目

3年演習の各科目は3年次指定科目です。

▼履修上の注意

3年演習を必要単位を超えて履修したい場合は、担当者の許可が必要です。

なお、必要単位を超えて修得した単位は、学科の承認が得られれば、分野系列「特講類」の単位に振替えることができます。詳細は、分野系列「特講類」の項を参照してください。

a4 4年演習（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
MD51	4年英語学演習1-1	2	
MD52	4年英語学演習1-2	2	
MD53	4年英語学演習2-1	2	
MD54	4年英語学演習2-2	2	
MD55	4年英語学演習3-1	2	
MD56	4年英語学演習3-2	2	
MD57	4年英米文学演習1-1	2	
MD58	4年英米文学演習1-2	2	
MD59	4年英米文学演習2-1	2	
MD60	4年英米文学演習2-2	2	
MD61	4年英米文学演習3-1	2	
MD62	4年英米文学演習3-2	2	
MD63	4年英米文学演習4-1	2	
MD64	4年英米文学演習4-2	2	
MD65	4年英米文学演習5-1	2	
MD66	4年英米文学演習5-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
MD73	4年メディア・コミュニケーション演習1-1	2	
MD74	4年メディア・コミュニケーション演習1-2	2	
MD75	4年メディア・コミュニケーション演習2-1	2	
MD76	4年メディア・コミュニケーション演習2-2	2	
MD77	4年メディア・コミュニケーション演習3-1	2	
MD78	4年メディア・コミュニケーション演習3-2	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低4単位修得していること

▼年次指定科目

4年演習の各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

4年演習を必要単位を超えて履修したい場合は、担当者の許可が必要です。

なお、必要単位を超えて修得した単位は、学科の承認が得られれば、分野系列「特講類」の単位に振替えることができます。詳細は、分野系列「特講類」の項を参照してください。

a5 特講類（選択必修・最低8単位）—— 専攻分野

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
MF21	英語学特講1-1	2	
MF22	英語学特講1-2	2	
MF23	英語学特講2-1	2	
MF24	英語学特講2-2	2	
MF25	英語学特講3-1	2	
MF26	英語学特講3-2	2	
MF27	英語学特講4-1	2	
MF28	英語学特講4-2	2	
MF29	英語学特講5-1	2	
MF30	英語学特講5-2	2	
MF31	英語学特講6-1	2	
MF32	英語学特講6-2	2	
MG12	英米文学特講2-1	2	
MG13	英米文学特講2-2	2	
MG14	英米文学特講3-1	2	
MG15	英米文学特講3-2	2	
MG16	英米文学特講4-1	2	
MG17	英米文学特講4-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
MG18	英米文学特講5-1	2	
MG19	英米文学特講5-2	2	
MG21	英米文学特講6-1	2	
MG22	英米文学特講6-2	2	
MG23	英米文学特講7-1	2	
MG24	英米文学特講7-2	2	
MG27	英米文学特講8-1	2	
MG28	英米文学特講8-2	2	
MJ19	メディア・コミュニケーション特講1	2	
MJ31	メディア・コミュニケーション特講4-1	2	
MJ32	メディア・コミュニケーション特講4-2	2	
MJ33	メディア・コミュニケーション特講5-1	2	
MJ34	メディア・コミュニケーション特講5-2	2	
MJ35	メディア・コミュニケーション特講6-1	2	
MJ36	メディア・コミュニケーション特講6-2	2	
MJ27	メディア・コミュニケーション特講7-1	2	
MJ28	メディア・コミュニケーション特講7-2	2	
MJ30	メディア・コミュニケーション特講8-2	2	

(次ページにつづく)

▼特講類つづき

大学院（英語英文学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
WL17	英語学研究Ⅰ－1	2	
WL18	英語学研究Ⅰ－2	2	
WL98	英語学研究Ⅲ－1	2	
WL99	英語学研究Ⅲ－2	2	
WM02	英語学研究Ⅳ－1	2	
WM03	英語学研究Ⅳ－2	2	
WL34	言語学研究Ⅱ－1	2	
WL35	言語学研究Ⅱ－2	2	
WL29	英文学研究法Ⅰ－1	2	
WL30	英文学研究法Ⅰ－2	2	
WL79	19世紀英米文学研究Ⅰ－1	2	
WL80	19世紀英米文学研究Ⅰ－2	2	
WL42	20世紀英米文学研究Ⅰ－1	2	
WL43	20世紀英米文学研究Ⅰ－2	2	
WL88	現代作品研究Ⅱ－2	2	
WL96	近現代文芸論Ⅰ－1	2	
WL97	近現代文芸論Ⅰ－2	2	
WM04	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ－1	2	
WM05	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ－2	2	
WM08	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ－1	2	
WM09	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ－2	2	
WL89	現代作品研究Ⅲ－1	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

前頁または左記の科目から最低8単位修得していること

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

▼分野系列変更

左記の科目のほか、分野系列「3年演習」、「4年演習」の対象科目のうち卒業に必要な単位を超えて修得した単位を、学科の承認を得た場合は、分野系列「特講類」の単位に変更することができます。希望者は、学科に申し出てください。

a6 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
MA13	英語史	4	廃止（～2022）	MM41	英語文化論 [映画批評] 1	2	廃止（～2020）
MB15	英語史 1	2		MM33	英語文化論 [アメリカ研究] 1	2	廃止（～2020）
MB16	英語史 2	2		MM43	英語文化論 [文学と電子メディア] 1	2	廃止（～2020）
MA45	英文学入門	4	廃止（～2022）	MM44	英語文化論 [文学と電子メディア] 2	2	廃止（～2020）
MB17	英語文学への招待 1	2		MM35	英語文化論 [翻訳実践] 2	2	廃止（～2020）
MB18	英語文学への招待 2	2		MM37	英語文化論 [文化における女性表象] 2	2	廃止（～2020）
MB13	米文学史概説 1	2		MM38	英語文化論 [絵本論] 1	2	廃止（～2020）
MB14	米文学史概説 2	2		MM45	英語文化論 [多民族と共生] 1	2	廃止（～2020）
MB23	メディア・コミュニケーション入門 1	2		MM63	英語文化論 1－1	2	
MB25	メディア・コミュニケーション入門 2	2		MM64	英語文化論 1－2	2	
ML21	メディア・リテラシー	2		MM65	英語文化論 2－1	2	
ML34	英語発音法	2		MM66	英語文化論 2－2	2	
ML41	英会話	4	廃止（～2022）	MM67	英語文化論 3－1	2	
MB19	英会話 1	2		MM68	英語文化論 3－2	2	
MB20	英会話 2	2		MM69	英語文化論 4－1	2	
ML42	オラルコミュニケーション	4	廃止（～2022）	MM70	英語文化論 4－2	2	
MB26	オラルコミュニケーション 1	2		MM71	英語文化論 5－1	2	
MB27	オラルコミュニケーション 2	2		MM72	英語文化論 5－2	2	
ML22	英文法	2		MM73	英語文化論 6－1	2	
ML43	Impromptu Communication Skills	2		MM54	異文化理解	2	
ML44	資格英語 1	2		MB24	Introduction to Leadership	2	廃止（～2022）
ML45	資格英語 2	2		MM74	翻訳を通じた企業協力	2	
ML46	Build Your English Skills	2		MC44	2年英文講義 1－1	2	廃止（～2015）
MM11	英語文化論 [英語と聖書] 1	2	廃止（～2020）	MC27	2年英文演習 8－2	2	廃止（～2015）
MM12	英語文化論 [英語と聖書] 2	2	廃止（～2020）				

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼廃止科目を未修得の場合

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
MA13	英語史	MB15	英語史 1 <2>
		MB16	英語史 2 <2>
ML41	英会話	MB19	英会話 1 <2>
		MB20	英会話 2 <2>
ML42	オラルコミュニケーション	MB26	オラルコミュニケーション1 <2>
		MB27	オラルコミュニケーション2 <2>

▼分類される科目

英語文化コミュニケーション学科開講科目（科目コード左1文字=M）のうち、上記a1～a5を除いた科目

▼履修上の注意

英文学入門は、英語文化コミュニケーション学科生は履修できませんが、1年次に修得していた場合、「自由選択科目」の単位として認められます。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

㊦ アドミッションポリシー ㊧

英語文化コミュニケーション学科に進学・編入学する学生は、卒業時までには学科のディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力や姿勢を身に着けることが目標になります。そのため、本学科に進学・編入学を希望する学生には次のような能力や資質が必要と考えます。

1. 英語の4技能についての「基礎力」をしっかりと身につけ、英語による卒業論文執筆に求められる論理的思考力・批評力・創造力を養うべく、授業だけでなく日頃の生活においても英語の運用能力を高めようという前向きな姿勢を持っていること。
2. 「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディアと社会」という三つの専門的な研究分野を体系的かつ体験的に学ぶ上で大切な、読書、創作や社会貢献などの「経験の積み重ね」をしてきていること。また、自分の興味・関心に応じて、その場限りに終わらない「経験の積み重ね」や「知識の蓄積」を3年間じっくりしていこうという姿勢があること。
3. 積極的に新しい世界を見よう、つながろう、開こうとする「とらわれない姿勢」と「前向きのチャレンジ精神」をもっていること。
4. グローバル社会における多文化共生や社会の多様性とインクルージョンの重要性を理解し、自らもその一員として積極的に行動しようとする意欲をもっていること。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

英語文化コミュニケーション学科は、学科の用意する様々な授業での学習・研究の経験を積み重ねた結果として、卒業時に次のような三種類の力を身につけていることを期待します。

1. 過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会について、的確な理解と判断をする力。そのために必要な、豊富な知識と柔軟な英語運用力。
2. 物事を筋道立てて説明したり、場や状況に応じて有効で効果的な英語コミュニケーションに必要な発信力と表現力。そのために必要な批判的思考力と豊かな想像力。
3. 多様な人や社会がつながってグローバル化する世界の一員として、積極的かつ創造的に行動できる計画力・指導力・協働力。

英語文化コミュニケーション学科の卒業生には、生涯を通じて、どのような立場や状況に置かれても、必要に応じて上記三種類の能力を発揮できる、次のような働き手となることを期待します。

- a. 普段から身近な場所や機会に自分の英語体験を豊かに積み重ね、様々な機会に様々な媒体を通して得られる情報に対して的確な理解・判断ができる人。
- b. 様々な媒体を柔軟に活用して積極的かつ創造的に発信や表現のできる人。
- c. 計画力・指導力・協働力を発揮して、積極的かつ創造的に人や社会に働きかけられる人。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

英語文化コミュニケーション学科は、ディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力を身に着けるために、英語を軸として相互に有機的に結びつき、支えあう研究推進母体として、「土台」「三つの柱」「屋根」という「家」の構造になぞらえた分野系列と年次ごとのカリキュラム体系を示す時系列の二つの視点から以下のようにカリキュラムを編成しています。

また、英語による授業を多数用意して、学生が日常的に英語を使う機会をできるだけ多く持てるようにしています。

(分野系列)

「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディアと社会」という三つの専門的な研究の分野が家を支える柱として「過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会」という幅広い領域を研究対象にしながら、学生一人一人の「英語の世界」の探求を後押しする科目を用意しています。

土台となる「英語コミュニケーション」の系列では「読む・書く・話す・聴く」という英語の運用能力をトータルに訓練し、あわせてオンラインツール・デジタル媒体を学習・研究に活用する技術も習得します。

「世界の多様な文化」の系列では、英語が実際に運用される様々な具体的「世界」を取りあげて、上記三つの研究に直接的・間接的に役立つ英語文化の多様な広がりや厚みを生きた体験として理解します。

(時系列)

年次ごとに、段階的に研究分野の知識や研究能力を積み重ね、深めていけるよう、授業科目を編成しています。

2年次では本学科で学ぶ学問領域の入門、概論等の導入コースを学びます。ディプロマ・ポリシーで掲げる三種類の能力の基礎を学ぶ「英語基礎研究」や、研究分野の理解意に必要な英語基礎力を「Academic Reading」「Academic Writing」で身につけます。

3-4年次にはそれぞれの学生が所属するゼミの学習・研究で、英語を自由に駆使しながら、経験・体験とおして論理的思考力・批評力・創造力・計画力・指導力・協働力を養います。2年次で培った英語の基礎運用能力が段階的に積み重ねていけるよう、3年次必修の「英作文」でさらに高度な論文構成力を身に着け、4年次には、自分の選んだテーマについて主体的・計画的に研究を進め、その成果を論理的で筋道立った英語の卒業論文にまとめます。

そのほか、ゼミの学習・研究以外に、多数用された自由選択科目や特講類の授業で三つの研究分野や多様な世界の文化について知見を広げ、英語力の向上を目指します。

卒業生像

英語文化コミュニケーション学科生は卒業時に次のような力が身につけている：

- ・過去から現在に至る多様な英語圏文化・社会についての確な理解と判断をするために必要な、豊富な知識と柔軟な英語運用力
- ・批評的思考力と豊かな想像力、およびその内容を筋道立てて表現できる発信力
- ・積極的かつ創造的に行動できる計画力・指導力・協働力
- ・普段から身近な場所や機会に自分の英語体験を豊かに積み重ねていく姿勢

これらを総合して卒業時に形成されている人材像は次のようになる：

- ・今日の多様な英語圏文化・社会とその歴史についての豊富な知識に基づいて、目的や必要に応じた適切な英語運用能力を発揮しながら、様々な機会に様々な媒体を通して得られる情報に対して的確な理解・判断ができる人、計画力・指導力・協働力を発揮して、積極的かつ創造的に社会への働きかけができる人。

このような人材として、卒業後には次のような姿での活躍が期待される：

- ・グローバル化する社会・世界の構成員として、どのような立場や状況に置かれても、上記の知識・能力・姿勢・実践力等を兼ね備えた、積極的かつ創造的な働き手となること。

英語文化コミュニケーション学科カリキュラムマップ

- ・全学共通カリキュラムマップについては、p.52 を参照してください。
- ・英文カリキュラムマップの該当科目については、シラバスを参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方を身につける			
英語文化コミュニケーション学科の様々な学問領域に出会いながら、英語で読書や情報収集、レポート等の制作、口頭での討論や発表する力を伸ばす	所属ゼミの学習・研究を中心に英語を自由に駆使しながら論理的思考力・批評力・創造力・計画力・指導力・協働力を身につける	自分の選んだテーマに主体的計画的に研究を進め、その成果を論理的で筋道立った英語の卒業論文にまとめる	
英文-1 必修科目・基礎研究		英文-2 必修科目・専門ゼミ	
英文-3 特講類			
自由選択科目 英語の多様なコミュニケーション技術を身につける。また多彩な研究分野を学びながら、文化や場に即した英語の運用能力を高める			
英文-4 英語コミュニケーション			
英文-5 英語文化論等			

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-6）		合計：最低28単位		54-58ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6	AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b）		合計：最低90単位		81-85ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a6）		合計：最低56単位		81-84ページ
a1	必修科目	12	必修	
a2	英語基礎研究	4	選択必修	
a3	3年演習	4	選択必修	
a4	4年演習	4	選択必修	
a5	特講類	8	選択必修	
a6	自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野		合計：最低22単位		85ページ
うち第二外国語余剰分				56ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：126単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外（5-1）				
5-1	1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要があるので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a6）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 必修科目（必修・12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
MA34	英文学史概説 1	2	
MA35	英文学史概説 2	2	
ML32	英作文 1	2	
ML33	英作文 2	2	
MA16	英語学概論 1	2	
MA17	英語学概論 2	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること（英文学史概説は、2単位科目2科目を修得していること）

▼年次指定科目

英文学史概説 1、英文学史概説 2、英語学概論 1、英語学概論 2 は 2 年次指定科目です。

英作文 1、英作文 2 は 3 年次指定科目です。

▼履修上の注意

英文学史概説、英語学概論を 1 年次に修得した場合も、分野系列「必修科目」の単位として認められます。

a2 英語基礎研究（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
MP01	英語基礎研究1-1	2	
MP02	英語基礎研究1-2	2	
MP03	英語基礎研究2-1	2	
MP04	英語基礎研究2-2	2	
MP05	英語基礎研究3-1	2	
MP06	英語基礎研究3-2	2	
MP07	英語基礎研究4-1	2	
MP08	英語基礎研究4-2	2	
MP09	英語基礎研究5-1	2	
MP10	英語基礎研究5-2	2	
MP11	英語基礎研究6-1	2	
MP12	英語基礎研究6-2	2	
MP13	英語基礎研究7-1	2	
MP14	英語基礎研究7-2	2	
MP15	英語基礎研究8-1	2	
MP16	英語基礎研究8-2	2	
MP17	英語基礎研究9-1	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
MP18	英語基礎研究9-2	2	
MP19	英語基礎研究10-1	2	
MP20	英語基礎研究10-2	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低4単位修得していること

▼年次指定科目

英語基礎研究の各科目は2年次指定科目です。

▼履修上の注意

1年次に修得した単位も分野系列「英語基礎研究」の単位として認められます。

a3 3年演習（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
MD01	3年英語学演習1-1	2	
MD02	3年英語学演習1-2	2	
MD03	3年英語学演習2-1	2	
MD04	3年英語学演習2-2	2	
MD05	3年英語学演習3-1	2	
MD06	3年英語学演習3-2	2	
MD07	3年英米文学演習1-1	2	
MD08	3年英米文学演習1-2	2	
MD09	3年英米文学演習2-1	2	
MD10	3年英米文学演習2-2	2	
MD11	3年英米文学演習3-1	2	
MD12	3年英米文学演習3-2	2	
MD13	3年英米文学演習4-1	2	
MD14	3年英米文学演習4-2	2	
MD15	3年英米文学演習5-1	2	
MD16	3年英米文学演習5-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
MD23	3年メディア・コミュニケーション演習1-1	2	
MD24	3年メディア・コミュニケーション演習1-2	2	
MD25	3年メディア・コミュニケーション演習2-1	2	
MD26	3年メディア・コミュニケーション演習2-2	2	
MD27	3年メディア・コミュニケーション演習3-1	2	
MD28	3年メディア・コミュニケーション演習3-2	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低4単位修得していること

▼年次指定科目

3年演習の各科目は3年次指定科目です。

▼履修上の注意

3年演習を必要単位を超えて履修したい場合は、担当者の許可が必要です。

なお、必要単位を超えて修得した単位は、学科の承認が得られれば、分野系列「特講類」の単位に振替えることができます。詳細は、分野系列「特講類」の項を参照してください。

a4 4年演習（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
MD51	4年英語学演習1-1	2	
MD52	4年英語学演習1-2	2	
MD53	4年英語学演習2-1	2	
MD54	4年英語学演習2-2	2	
MD55	4年英語学演習3-1	2	
MD56	4年英語学演習3-2	2	
MD57	4年英米文学演習1-1	2	
MD58	4年英米文学演習1-2	2	
MD59	4年英米文学演習2-1	2	
MD60	4年英米文学演習2-2	2	
MD61	4年英米文学演習3-1	2	
MD62	4年英米文学演習3-2	2	
MD63	4年英米文学演習4-1	2	
MD64	4年英米文学演習4-2	2	
MD65	4年英米文学演習5-1	2	
MD66	4年英米文学演習5-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
MD73	4年メディア・コミュニケーション演習1-1	2	
MD74	4年メディア・コミュニケーション演習1-2	2	
MD75	4年メディア・コミュニケーション演習2-1	2	
MD76	4年メディア・コミュニケーション演習2-2	2	
MD77	4年メディア・コミュニケーション演習3-1	2	
MD78	4年メディア・コミュニケーション演習3-2	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低4単位修得していること

▼年次指定科目

4年演習の各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

4年演習を必要単位を超えて履修したい場合は、担当者の許可が必要です。

なお、必要単位を超えて修得した単位は、学科の承認が得られれば、分野系列「特講類」の単位に振替えることができます。詳細は、分野系列「特講類」の項を参照してください。

a5 特講類（選択必修・最低8単位）—— 専攻分野

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
MF21	英語学特講1-1	2	
MF22	英語学特講1-2	2	
MF23	英語学特講2-1	2	
MF24	英語学特講2-2	2	
MF25	英語学特講3-1	2	
MF26	英語学特講3-2	2	
MF27	英語学特講4-1	2	
MF28	英語学特講4-2	2	
MF29	英語学特講5-1	2	
MF30	英語学特講5-2	2	
MF31	英語学特講6-1	2	
MF32	英語学特講6-2	2	
MG12	英米文学特講2-1	2	
MG13	英米文学特講2-2	2	
MG14	英米文学特講3-1	2	
MG15	英米文学特講3-2	2	
MG16	英米文学特講4-1	2	
MG17	英米文学特講4-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
MG18	英米文学特講5-1	2	
MG19	英米文学特講5-2	2	
MG21	英米文学特講6-1	2	
MG22	英米文学特講6-2	2	
MG23	英米文学特講7-1	2	
MG24	英米文学特講7-2	2	
MG27	英米文学特講8-1	2	
MG28	英米文学特講8-2	2	
MJ19	メディア・コミュニケーション特講1	2	
MJ31	メディア・コミュニケーション特講4-1	2	
MJ32	メディア・コミュニケーション特講4-2	2	
MJ33	メディア・コミュニケーション特講5-1	2	
MJ34	メディア・コミュニケーション特講5-2	2	
MJ35	メディア・コミュニケーション特講6-1	2	
MJ36	メディア・コミュニケーション特講6-2	2	
MJ27	メディア・コミュニケーション特講7-1	2	
MJ28	メディア・コミュニケーション特講7-2	2	
MJ30	メディア・コミュニケーション特講8-2	2	

(次ページにつづく)

▼特講類つづき

大学院（英語英文学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
WL17	英語学研究Ⅰ－1	2	
WL18	英語学研究Ⅰ－2	2	
WL98	英語学研究Ⅲ－1	2	
WL99	英語学研究Ⅲ－2	2	
WM02	英語学研究Ⅳ－1	2	
WM03	英語学研究Ⅳ－2	2	
WL34	言語学研究Ⅱ－1	2	
WL35	言語学研究Ⅱ－2	2	
WL29	英文学研究法Ⅰ－1	2	
WL30	英文学研究法Ⅰ－2	2	
WL79	19世紀英米文学研究Ⅰ－1	2	
WL80	19世紀英米文学研究Ⅰ－2	2	
WL42	20世紀英米文学研究Ⅰ－1	2	
WL43	20世紀英米文学研究Ⅰ－2	2	
WL88	現代作品研究Ⅱ－2	2	
WL96	近現代文芸論Ⅰ－1	2	
WL97	近現代文芸論Ⅰ－2	2	
WM04	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ－1	2	
WM05	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ－2	2	
WM08	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ－1	2	
WM09	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ－2	2	
WL89	現代作品研究Ⅲ－1	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□前頁または左記の科目から最低8単位修得していること

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

▼分野系列変更

左記の科目のほか、分野系列「3年演習」、「4年演習」の対象科目のうち卒業に必要な単位を超えて修得した単位を、学科の承認を得た場合は、分野系列「特講類」の単位に変更することができます。希望者は、学科に申し出てください。

a6 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
MB15	英語史1	2	
MB16	英語史2	2	
MB17	英語文学への招待1	2	
MB18	英語文学への招待2	2	
MB13	米文学史概説1	2	
MB14	米文学史概説2	2	
MB23	メディア・コミュニケーション入門1	2	
MB25	メディア・コミュニケーション入門2	2	
ML21	メディア・リテラシー	2	
ML34	英語発音法	2	
MB19	英会話1	2	
MB20	英会話2	2	
MB26	オラルコミュニケーション1	2	
MB27	オラルコミュニケーション2	2	
ML22	英文法	2	
ML43	Impromptu Communication Skills	2	
ML44	資格英語1	2	
ML45	資格英語2	2	
ML46	Build Your English Skills	2	
MM63	英語文化論1－1	2	
MM64	英語文化論1－2	2	
MM65	英語文化論2－1	2	
MM66	英語文化論2－2	2	
MM67	英語文化論3－1	2	
MM68	英語文化論3－2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
MM69	英語文化論4－1	2	
MM70	英語文化論4－2	2	
MM71	英語文化論5－1	2	
MM72	英語文化論5－2	2	
MM73	英語文化論6－1	2	
MM54	異文化理解	2	
MM74	翻訳を通じた企業協力	2	

▼分類される科目

英語文化コミュニケーション学科開講科目（科目コード左1文字=M）のうち、上記a1～a5を除いた科目

▼履修上の注意

英文学入門は、英語文化コミュニケーション学科生は履修できませんが、1年次に修得していた場合、「自由選択科目」の単位として認められます。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】**1. 卒業要件外の科目**

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

㊦ アドミッションポリシー ㊧

日本語日本文学科では、学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づく授業科目を履修し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に見合う能力・姿勢を身につけて行くための素地として、高等学校での学習を通じて、入学前に次の能力・資質を身につけていることを期待します。編入学生に対しても、入学前の学業を通じて同様の能力・資質を備えていることを求めます。

1. 日本語日本文学科が提供する3つの学問分野、日本語学・日本文学・日本語教育学は、いずれも言葉、人間、社会への関心を基盤としています。そのため、言葉に関わる科目である国語、英語（外国語）をはじめ、社会科学などの文系諸科目の学習を通じて、言葉・人間・社会に関する正確な知識と、知的好奇心を身につけていることを求めます。
2. 上記3つの学問分野はまた、いずれも学問として論理性を備えています。そのため、数学、理科などの理系諸科目の学習を通じて、論理的思考に慣れていることを求めます。
3. 上記4つの学問分野はまた、言葉を読み取ること、言葉によって表現することに関わっており、豊かな感性や他者への共感力を必要とします。そのため、国語や芸術科（音楽、美術等）の授業、課外活動、授業外の読書などを通して、自ら表現したり、作品を鑑賞したりする経験を重ね、豊かな感性や共感力を育てていることを望みます。
4. 日本語日本文学科の演習、実習などの授業では、学生どうしの議論や共同作業が重要な位置を占めます。そのため、課外活動、社会活動などを通じて多様な人と接し、一定の社会性とコミュニケーション力を身につけていることを望みます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

日本語日本文学科では、学科の設ける日本語学・日本文学・日本語教育学に関する授業科目（ただし、外国の言語・文学・言語教育との対照に関する授業科目を含む）、および卒業論文作成のための授業科目を履修し、授業内外の活動を通して自身の知見と体験を豊かにし、卒業時に次のような能力と姿勢を身につけることを期待します。

1. 過去から今日までの日本の言語・文学・文化に関する、正確で深い理解。さらに日本の言語・文学・文化を、世界のさまざまな言語・文学・文化との関連において捉えるグローバルな視野。そうした理解と視野の上に、日本の言語・文学・文化を世界に向けて発信し、多様な文化的背景をもつ世界の人々との相互理解を促進する姿勢。
2. 日本の、また世界の言語・文学・文化の多様性を知ることによって養われる、多様な他者を理解し、協調する姿勢。また、既成の枠組みにとらわれず柔軟に思考する力。
3. 日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野において、考察すべき問題を発見する力。その問題の解明に向けて、信頼できる情報を適切な方法で収集する力。それらの情報に基づき論理的に思考する力。思考の結果を的確に表現する力。そのようにして自らの意見を他者と共有し、他者との議論や協働を通じてよりよいものに高める姿勢。
4. 学問的訓練を通じて身につけた、問題発見・情報収集・論理的な思考・的確な表現・他者との協働という能力を、身近な、また社会的な問題に適用し、自らが置かれた立場でさまざまな問題に対応できる力。また、そうした力をいっそう伸ばすべく、生涯にわたって学び続ける姿勢。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

日本語日本文学科では、学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野に関する専門知識を修得し、複数の分野における標準的かつ基本的な研究方法を確実に身につけ、学部における知的訓練の集大成として卒業論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成します。

1. 日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野において、概説類、演習類、特講類、自由選択科目という4つの授業科目群を設けます。概説類は各分野の基礎的な知識や理論を学ぶ科目群。演習類は各分野の研究方法を身につける科目群。特講類は各分野についてより専門的に学ぶ科目群。自由選択科目は各分野の隣接領域などを幅広く学ぶ科目群です。これらを2年次から4年次にかけて並行して履修するよう、カリキュラムを編成します。その際、履修モデルの提示と履修ガイダンスを通じて段階的な学修を指導します。
2. 卒業論文作成のためのゼミナールである研究法実習を4年次の必修とする以外は、全科目を選択必修または履修とします。これにより学生は各自の関心に応じた履修計画を立てることが可能です。ただし、複数の学問分野をバランスよく学ぶよう一定の履修条件を課します。
3. 履修モデルは次のとおりです。2年次は概説類を中心に学び、演習類を1科目履修。3年次は特講類を中心に学び、演習類を2科目履修。4年次は特講類を中心に学ぶとともに、自らの専門分野を選択して研究法実習を履修。このように基礎的な知識の修得に始まり、段階的に専門性と研究能力を高め、卒業論文へと学修を進めます。
4. 卒業論文は、自分が選んだ研究テーマの分野の指導教員から指導を受け、4年次に作成、提出します。学部における学修の集大成として、少人数制のきめ細かな指導体制を敷きます。

卒業生像

日本語日本文学科は、次の能力を身につけた卒業生を社会に送り出すことをめざします。

- ・的確な日本語の知識にもとづく、高いコミュニケーション能力
- ・過去の、また今日の日本の言語・文学・文化を理解し、世界に向けて発信できる能力
- ・言語や文学の多様なあり方を知り、既成の枠組みにとらわれずに柔軟に思考できる能力

日本語日本文学科の学生は卒業後これらの力を生かし、中学校・高等学校の国語教員や外国人に日本語を教える日本語教員など専門性の高い職業をはじめ、航空、通信、放送、出版などさまざまな分野での活躍が期待されます。大学院に進学した場合も、これらの力を生かすことで学問の向上と成果の社会還元が可能となるはずで

これらの能力を育てるため、日本語日本文学科は「日本語学」「日本文学」「日本語教育学」の3分野を設けています。2年次の学生は「概説類」を中心に学び、各分野の基礎的な知識・理論を身につけます。3年次は「演習類・特講類」を主に履修し、各分野の研究手法と専門知識を習得します。4年次には自分が最も関心のある1分野を選択して卒業論文を執筆し、専門知識を増やすとともに、情報収集力、思考力、文章表現力を磨きます。

日本語日本文学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	【概説】を中心に、〈日本語学〉〈日本文学〉〈日本語教育学〉の3分野の基礎を学ぶ	【特講】【演習】を中心に、左記3分野について専門的に学ぶ	左記3分野から自分の専門分野を1つ選び、【研究法実習】【特講】を中心に学び、専門性を深める
	日文-1 概 説		日文-6 研究法実習
	日文-2 特 講		
	日文-3 演 習		
日文-5 入門科目	日文-4 自由選択科目		

▼卒業までに必要とする最低単位数（2012～2022年度入学者）

分野系列	卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-5) 合計：最低26単位			39-44ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低98単位			89-93ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1～a5) 合計：最低60単位			89-92ページ
a1 研究法実習	2	選択必修	
a2 概説類	12	選択必修	
a3 ●演習類 小計	12	選択必修	
演習類A			
演習類B			
演習類C			
a4 特講類	16	選択必修	
a5 自由選択科目	－	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低26単位		選択必修	93ページ
うち第二外国語余剰分			43ページ
[3] ■ 卒業論文	8単位	必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3]の合計：132単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1～5-2)			
5-1 1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2 運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目をよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a5）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 研究法実習（選択必修・2単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
CC76	研究法実習 1 (1)	1	
CC77	研究法実習 1 (2)	1	
CC78	研究法実習 2 (1)	1	
CC79	研究法実習 2 (2)	1	
CC80	研究法実習 3 (1)	1	
CC81	研究法実習 3 (2)	1	
CC82	研究法実習 4 (1)	1	
CC83	研究法実習 4 (2)	1	
CE33	研究法実習 5 (1)	1	
CE34	研究法実習 5 (2)	1	
CE35	研究法実習 6 (1)	1	
CE36	研究法実習 6 (2)	1	
CE37	研究法実習 7 (1)	1	
CE38	研究法実習 7 (2)	1	
CC71	研究法実習 I	2	廃止（～2022）
CC72	研究法実習 II	2	廃止（～2022）
CC73	研究法実習 III	2	廃止（～2022）
CC74	研究法実習 IV	2	廃止（～2022）
CC75	研究法実習 V	2	廃止（～2022）
CE31	研究法実習 VI	2	廃止（～2022）
CE32	研究法実習 VII	2	廃止（～2022）
CF41	研究法実習 VIII	2	廃止（～2022）

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

- 左記の科目から2単位を修得していること

▼年次指定科目

研究法実習の各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

卒業論文のテーマにあわせて選択してください。
廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
CC71	研究法実習 I	CC78	研究法実習 2 (1) <1>
		CC79	研究法実習 2 (2) <1>
CC72	研究法実習 II	CC76	研究法実習 1 (1) <1>
		CC77	研究法実習 1 (2) <1>
CC73	研究法実習 III	CC82	研究法実習 4 (1) <1>
		CC83	研究法実習 4 (2) <1>
CC74	研究法実習 IV	CC80	研究法実習 3 (1) <1>
		CC81	研究法実習 3 (2) <1>
CE31	研究法実習 VI	CE33	研究法実習 5 (1) <1>
		CE34	研究法実習 5 (2) <1>
CE32	研究法実習 VII	CE35	研究法実習 6 (1) <1>
		CE36	研究法実習 6 (2) <1>
CF41	研究法実習 VIII	CE37	研究法実習 7 (1) <1>
		CE38	研究法実習 7 (2) <1>

a2 概説類（選択必修・最低12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
CA71	日本文学史 1	2		CA65	日本文学史 V	2	廃止(～2022)
CA72	日本文学史 2	2		CA66	日本文学史 VI	2	廃止(～2022)
CA73	日本文学史 3	2		CD19	日本語学概説 1	2	
CA74	日本文学史 4	2		CD20	日本語学概説 2	2	
CA75	日本文学史 5	2		CD27	日本語史概説 1	2	
CA76	日本文学史 6	2		CD28	日本語史概説 2	2	
CA61	日本文学史 I	2	廃止(～2022)	CD13	日本語学概論 I	2	廃止(～2022)
CA62	日本文学史 II	2	廃止(～2022)	CD14	日本語学概論 II	2	廃止(～2022)
CA63	日本文学史 III	2	廃止(～2022)	CD15	日本語史概説 I	2	廃止(～2022)
CA64	日本文学史 IV	2	廃止(～2022)	CD16	日本語史概説 II	2	廃止(～2022)

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低12単位を修得していること

▼標準履修単位

2年次：8単位 3年次：4単位
4年次：任意

▼履修上の注意

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

代替指定科目

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
CA61	日本文学史 I	CA71	日本文学史 1 <2>
CA62	日本文学史 II	CA72	日本文学史 2 <2>
CA63	日本文学史 III	CA73	日本文学史 3 <2>
CA64	日本文学史 IV	CA74	日本文学史 4 <2>
CA65	日本文学史 V	CA75	日本文学史 5 <2>

コード	旧科目名	コード	代替科目
CA66	日本文学史 VI	CA76	日本文学史 6 <2>
CD13	日本語学概論 I	CD19	日本語学概説 1 <2>
CD14	日本語学概論 II	CD20	日本語学概説 2 <2>
CD15	日本語史概説 I	CD27	日本語史概説 1 <2>
CD16	日本語史概説 II	CD28	日本語史概説 2 <2>

a3 演習類（選択必修・最低12単位）—— 専攻分野

演習類A				演習類B			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
CC15	古典文学演習 1 (1)	2		CC45	近代文学演習 1 (1)	2	
CC16	古典文学演習 1 (2)	2		CC46	近代文学演習 1 (2)	2	
CC17	古典文学演習 2 (1)	2		CC47	近代文学演習 2 (1)	2	
CC18	古典文学演習 2 (2)	2		CC48	近代文学演習 2 (2)	2	
CC19	古典文学演習 3 (1)	2		CC49	近代文学演習 3 (1)	2	
CC20	古典文学演習 3 (2)	2		CC50	近代文学演習 3 (2)	2	
CC21	古典文学演習 4 (1)	2		CC51	近代文学演習 4 (1)	2	
CC22	古典文学演習 4 (2)	2		CC52	近代文学演習 4 (2)	2	
CC11	古典文学演習 I	4	廃止(～2022)	CC41	近代文学演習 I	4	廃止(～2022)
CC12	古典文学演習 II	4	廃止(～2022)	CC42	近代文学演習 II	4	廃止(～2022)
CC13	古典文学演習 III	4	廃止(～2022)	CC43	近代文学演習 III	4	廃止(～2022)
CC14	古典文学演習 IV	4	廃止(～2022)	CC44	近代文学演習 IV	4	廃止(～2022)

演習類C			
コード	授業科目	単位	備考
CE16	日本語学演習 1 (1)	2	
CE17	日本語学演習 1 (2)	2	
CE18	日本語学演習 2 (1)	2	
CE19	日本語学演習 2 (2)	2	
CE20	日本語学演習 3 (1)	2	
CE21	日本語学演習 3 (2)	2	
CE22	日本語学演習 4 (1)	2	
CE23	日本語学演習 4 (2)	2	
CE11	日本語学演習 I	4	廃止(～2022)
CE12	日本語学演習 II	4	廃止(～2022)
CE13	日本語学演習 III	4	廃止(～2022)
CE14	日本語学演習 IV	4	廃止(～2022)

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低12単位を修得していること

演習類A、演習類B、演習類Cの3分野から少なくとも異なる2分野を含むように修得していること

▼標準履修単位

2年次：4単位 3年次：8単位
4年次：任意

▼履修上の注意

演習科目は人数調整を行います。優先順位等は、p.93「履修者の人数調整」で確認してください。

廃止科目を未修得の場合は、次ページに指定した代替科目を修得してください。

代替指定科目

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目	コード	旧科目名	コード	代替科目
CC11	古典文学演習Ⅰ	CC15	古典文学演習Ⅰ(1)<2>	CC43	近代文学演習Ⅲ	CC49	近代文学演習Ⅲ(1)<2>
		CC16	古典文学演習Ⅰ(2)<2>			CC50	近代文学演習Ⅲ(2)<2>
CC12	古典文学演習Ⅱ	CC17	古典文学演習Ⅱ(1)<2>	CC44	近代文学演習Ⅳ	CC51	近代文学演習Ⅳ(1)<2>
		CC18	古典文学演習Ⅱ(2)<2>			CC52	近代文学演習Ⅳ(2)<2>
CC13	古典文学演習Ⅲ	CC19	古典文学演習Ⅲ(1)<2>	CE11	日本語学演習Ⅰ	CE16	日本語学演習Ⅰ(1)<2>
		CC20	古典文学演習Ⅲ(2)<2>			CE17	日本語学演習Ⅰ(2)<2>
CC14	古典文学演習Ⅳ	CC21	古典文学演習Ⅳ(1)<2>	CE12	日本語学演習Ⅱ	CE18	日本語学演習Ⅱ(1)<2>
		CC22	古典文学演習Ⅳ(2)<2>			CE19	日本語学演習Ⅱ(2)<2>
CC41	近代文学演習Ⅰ	CC45	近代文学演習Ⅰ(1)<2>	CE13	日本語学演習Ⅲ	CE20	日本語学演習Ⅲ(1)<2>
		CC46	近代文学演習Ⅰ(2)<2>			CE21	日本語学演習Ⅲ(2)<2>
CC42	近代文学演習Ⅱ	CC47	近代文学演習Ⅱ(1)<2>	CE14	日本語学演習Ⅳ	CE22	日本語学演習Ⅳ(1)<2>
		CC48	近代文学演習Ⅱ(2)<2>			CE23	日本語学演習Ⅳ(2)<2>

a4 特講類(選択必修・最低16単位) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
CB17	古典文学研究Ⅰ	2		CB76	近代文学研究Ⅵ	2	廃止(~2025)
CB18	古典文学研究Ⅱ	2		CB77	近代文学研究Ⅶ	2	廃止(~2022)
CB19	古典文学研究Ⅲ	2		CB78	近代文学研究Ⅷ	2	廃止(~2022)
CB20	古典文学研究Ⅳ	2		CB39	児童文学研究	2	
CB31	古典文学研究Ⅰ	2	廃止(~2022)	CB82	児童文学研究Ⅰ	2	廃止(~2022)
CB32	古典文学研究Ⅱ	2	廃止(~2022)	CB83	児童文学研究Ⅱ	2	廃止(~2025)
CB33	古典文学研究Ⅲ	2	廃止(~2022)	CD29	日本語の文法	2	
CB34	古典文学研究Ⅳ	2	廃止(~2022)	CD23	日本語の文法Ⅰ	2	廃止(~2022)
CB35	古典文学研究Ⅴ	2	廃止(~2025)	CD24	日本語の文法Ⅱ	2	廃止(~2025)
CB36	古典文学研究Ⅵ	2	廃止(~2025)	CD30	日本語の音声	2	
CB37	古典文学研究Ⅶ	2	廃止(~2022)	CD25	日本語の音声Ⅰ	2	廃止(~2022)
CB38	古典文学研究Ⅷ	2	廃止(~2022)	CD26	日本語の音声Ⅱ	2	廃止(~2025)
CB42	近代文学研究Ⅰ	2		CD58	日本語学研究Ⅰ	2	
CB43	近代文学研究Ⅱ	2		CD59	日本語学研究Ⅱ	2	
CB44	近代文学研究Ⅲ	2		CD54	日本語学研究Ⅰ	2	廃止(~2022)
CB45	近代文学研究Ⅳ	2		CD55	日本語学研究Ⅱ	2	廃止(~2022)
CB71	近代文学研究Ⅰ	2	廃止(~2022)	CD56	日本語学研究Ⅲ	2	廃止(~2025)
CB72	近代文学研究Ⅱ	2	廃止(~2022)	CD57	日本語学研究Ⅳ	2	廃止(~2025)
CB73	近代文学研究Ⅲ	2	廃止(~2022)	CB92	古典文学講読Ⅰ	2	廃止(~2022)
CB74	近代文学研究Ⅳ	2	廃止(~2022)	CB93	古典文学講読Ⅱ	2	廃止(~2022)
CB75	近代文学研究Ⅴ	2	廃止(~2025)				

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

- 左記の科目から最低16単位を修得していること
- 少なくとも異なる8科目を含むように修得していること

▼標準履修単位

- 2年次：4単位
- 3年次：8単位
- 4年次：4単位

▼履修上の注意

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

代替指定科目

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目	コード	旧科目名	コード	代替科目
CB31	古典文学研究Ⅰ	CB17	古典文学研究Ⅰ<2>	CB74	近代文学研究Ⅳ	CB45	近代文学研究Ⅳ<2>
CB32	古典文学研究Ⅱ	CB18	古典文学研究Ⅱ<2>	CB82	児童文学研究Ⅰ	CB39	児童文学研究<2>
CB33	古典文学研究Ⅲ	CB19	古典文学研究Ⅲ<2>	CD23	日本語の文法Ⅰ	CD29	日本語の文法<2>
CB34	古典文学研究Ⅳ	CB20	古典文学研究Ⅳ<2>	CD25	日本語の音声Ⅰ	CD30	日本語の音声<2>
CB71	近代文学研究Ⅰ	CB42	近代文学研究Ⅰ<2>	CD54	日本語学研究Ⅰ	CD58	日本語学研究Ⅰ<2>
CB72	近代文学研究Ⅱ	CB43	近代文学研究Ⅱ<2>	CD55	日本語学研究Ⅱ	CD59	日本語学研究Ⅱ<2>
CB73	近代文学研究Ⅲ	CB44	近代文学研究Ⅲ<2>				

a5 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
CA13	古典文学の世界	2	②
CA14	近代文学の世界	2	②
CD17	日本語の世界	2	②
CG11	ことばの世界	2	② 廃止（～2022）
CD18	日本語教育の世界	2	③
CF12	日本語教授法Ⅰ（1）	2	③
CF13	日本語教授法Ⅰ（2）	2	③
CF22	日本語教授法Ⅱ（1）	2	③
CF23	日本語教授法Ⅱ（2）	2	③
CF11	日本語教授法Ⅰ	4	廃止（～2022）
CF21	日本語教授法Ⅱ	4	廃止（～2022）
CF32	日本語教育実習（1）	1	③
CF33	日本語教育実習（2）	1	③
CF31	日本語教育実習	2	廃止（～2022）
CG12	言語学概論Ⅰ	2	
CG13	言語学概論Ⅱ	2	
CG23	言語学概論Ⅰ	2	廃止（～2022）
CG24	言語学概論Ⅱ	2	廃止（～2022）
CG25	対照言語学Ⅰ	2	廃止（～2025）
CG26	対照言語学Ⅱ	2	廃止（～2025）
CG14	文芸創作入門（1）	2	
CG15	文芸創作入門（2）	2	
CG32	文芸創作入門	4	廃止（～2022）
CG16	日本文化研究Ⅰ	2	
CG17	日本文化研究Ⅱ	2	
CG35	日本文化研究Ⅰ	2	廃止（～2022）
CG36	日本文化研究Ⅱ	2	廃止（～2022）
CG37	日本文化研究Ⅲ	2	廃止（～2022）
CG38	日本文化研究Ⅳ	2	廃止（～2022）
CG18	文章表現法（1）	2	④
CG19	文章表現法（2）	2	④
CG41	文章表現法	4	廃止（～2022）
CG20	書道	2	
CG52	書道Ⅰ	2	廃止（～2022）
CG53	書道Ⅱ	2	廃止（～2023）
CG27	中国文学概論Ⅰ	2	
CG28	中国文学概論Ⅱ	2	
CG64	中国文学概論Ⅰ	2	廃止（～2022）
CG65	中国文学概論Ⅱ	2	廃止（～2022）

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

日本語日本文学科開講科目（科目コード左1文字=C）のうち、a1～a4を除いた科目

▼履修上の注意

- ① 人数調整が行われる科目もありますので、p.93「履修者の人数調整」で確認してください。
- ② 次の科目は、日本語日本文学科生は2年次生のみが履修できます。
古典文学の世界、近代文学の世界、日本語の世界、ことばの世界
- ③ 次の科目は、日本語教員課程登録者のみが履修できます。
日本語教育の世界、日本語教授法Ⅰ（1）、日本語教授法Ⅰ（2）、日本語教授法Ⅱ（1）、日本語教授法Ⅱ（2）、日本語教育実習（1）、日本語教育実習（2）
- ④ 国語科教員免許状取得希望者は、3年次の終わりまでに「文章表現法（1）」と「文章表現法（2）」を修得しておかなければなりません。

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
CF11	日本語教授法Ⅰ	CF12	日本語教授法Ⅰ（1）<2>
		CF13	日本語教授法Ⅰ（2）<2>
CF21	日本語教授法Ⅱ	CF22	日本語教授法Ⅱ（1）<2>
		CF23	日本語教授法Ⅱ（2）<2>
CF31	日本語教育実習	CF32	日本語教育実習（1）<1>
		CF33	日本語教育実習（2）<1>
CG23	言語学概論Ⅰ	CG12	言語学概論Ⅰ<2>
CG24	言語学概論Ⅱ	CG13	言語学概論Ⅱ<2>
CG32	文芸創作入門	CG14	文芸創作入門（1）<2>
		CG15	文芸創作入門（2）<2>
CG35	日本文化研究Ⅰ	CG16	日本文化研究Ⅰ<2>
CG36	日本文化研究Ⅱ	CG17	日本文化研究Ⅱ<2>
CG41	文章表現法	CG18	文章表現法（1）<2>
		CG19	文章表現法（2）<2>
CG52	書道Ⅰ	CG20	書道<2>
CG64	中国文学概論Ⅰ	CG27	中国文学概論Ⅰ<2>
CG65	中国文学概論Ⅱ	CG28	中国文学概論Ⅱ<2>

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. 履修者の人数調整

- (1) 大学院日本語日本文学専攻修士課程開講科目を学部生（4年次生）が履修する場合は、学部生は5名以内とします。

以下の科目の履修希望者はあらかじめ日文研究室所定の手続き（年度初めのガイダンスで説明）を済ませてください。

- (2) 演習科目の履修者数は18名以内とします。なお、18名を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
 - ① 4年次生
 - ② 日本語日本文学科生（3年次生）
 - ③ 日本語日本文学科生（2年次生）
 - ④ 日本語教員課程登録者
 - ⑤ 日本語日本文学副専攻生（3年次生。ただし、3年次に新規登録した学生は、4年次で履修可能。）
- (3) 「文芸創作入門（1）」「文芸創作入門（2）」の履修者数は25名以内とします。なお、履修者が25名を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
 - ① 日本語日本文学科生（4年次生、3年次生、2年次生の順）
 - ② 日本語日本文学副専攻生（4年次生、3年次生、2年次生の順）
 - ③ 他学科生（4年次生、3年次生、2年次生の順）
- (4) 「文章表現法（1）」「文章表現法（2）」の履修者数は、1クラス25名以内とします。なお、履修者が25名を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
 - ① 国語科教員免許状取得希望者および日本語教員課程登録者
 - ② 日本語日本文学科生（4年次生、3年次生、2年次生の順）

(5) 「書道」「書道Ⅱ」の履修者数は20名以内とします。なお、履修者が20名を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。

- ① 国語科教員免許状取得希望者
- ② 日本語日本文学科生（4年次生、3年次生、2年次生の順）
- ③ 国語科教員免許状取得希望の科目等履修生
- ④ 小学校教員免許状取得希望者および小学校教員免許状取得希望の科目等履修生

3. 1年次に修得した単位について

次に挙げる科目を1年次に修得している場合は、日本語日本文学科の専攻分野の単位として認められます。

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
CA13	古典文学の世界	2		CB35	古典文学研究Ⅴ	2	廃止(～2025)	CB76	近代文学研究Ⅵ	2	廃止(～2025)
CA14	近代文学の世界	2		CB36	古典文学研究Ⅵ	2	廃止(～2025)	CB77	近代文学研究Ⅶ	2	廃止(～2022)
CD17	日本語の世界	2		CB37	古典文学研究Ⅶ	2	廃止(～2022)	CB78	近代文学研究Ⅷ	2	廃止(～2022)
CG11	ことばの世界	2	廃止(～2022)	CB38	古典文学研究Ⅷ	2	廃止(～2022)	CD58	日本語学研究Ⅰ	2	
CD18	日本語教育の世界	2		CB42	近代文学研究Ⅰ	2		CD59	日本語学研究Ⅱ	2	
CB17	古典文学研究Ⅰ	2		CB43	近代文学研究Ⅱ	2		CD56	日本語学研究Ⅲ	2	廃止(～2025)
CB18	古典文学研究Ⅱ	2		CB44	近代文学研究Ⅲ	2		CD57	日本語学研究Ⅳ	2	廃止(～2025)
CB19	古典文学研究Ⅲ	2		CB45	近代文学研究Ⅳ	2		CF12	日本語教授法Ⅰ(1)	2	
CB20	古典文学研究Ⅳ	2		CB75	近代文学研究Ⅴ	2	廃止(～2025)	CF13	日本語教授法Ⅰ(2)	2	

代替指定科目

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目	コード	旧科目名	コード	代替科目
CB31	古典文学研究Ⅰ	CB17	古典文学研究Ⅰ < 2 >	CB73	近代文学研究Ⅲ	CB44	近代文学研究Ⅲ < 2 >
CB32	古典文学研究Ⅱ	CB18	古典文学研究Ⅱ < 2 >	CB74	近代文学研究Ⅳ	CB45	近代文学研究Ⅳ < 2 >
CB33	古典文学研究Ⅲ	CB19	古典文学研究Ⅲ < 2 >	CD54	日本語学研究Ⅰ	CD58	日本語学研究Ⅰ < 2 >
CB34	古典文学研究Ⅳ	CB20	古典文学研究Ⅳ < 2 >	CD55	日本語学研究Ⅱ	CD59	日本語学研究Ⅱ < 2 >
CB71	近代文学研究Ⅰ	CB42	近代文学研究Ⅰ < 2 >	CF11	日本語教授法Ⅰ	CF12	日本語教授法Ⅰ(1) < 2 >
CB72	近代文学研究Ⅱ	CB43	近代文学研究Ⅱ < 2 >			CF13	日本語教授法Ⅰ(2) < 2 >

4. 国語科教員免許状取得希望者の履修

3年次の終わりまでに「文章表現法(1)」「文章表現法(2)」を修得しておかなければなりません。

㊦ アドミッションポリシー ㊧

日本語日本文学科では、学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づく授業科目を履修し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に見合う能力・姿勢を身につけて行くための素地として、高等学校での学習を通じて、入学前に次の能力・資質を身につけていることを期待します。編入学生に対しても、入学前の学業を通じて同様の能力・資質を備えていることを求めます。

1. 日本語日本文学科が提供する3つの学問分野、日本語学・日本文学・日本語教育学は、いずれも言葉、人間、社会への関心を基盤としています。そのため、言葉に関わる科目である国語、英語（外国語）をはじめ、社会科学などの文系諸科目の学習を通じて、言葉・人間・社会に関する正確な知識と、知的好奇心を身につけていることを求めます。
2. 上記3つの学問分野はまた、いずれも学問として論理性を備えています。そのため、数学、理科などの理系諸科目の学習を通じて、論理的思考に慣れていることを求めます。
3. 上記3つの学問分野はまた、言葉を読み取ること、言葉によって表現することに関わっており、豊かな感性や他者への共感力を必要とします。そのため、国語や芸術科（音楽、美術等）の授業、課外活動、授業外の読書などを通して、自ら表現したり、作品を鑑賞したりする経験を重ね、豊かな感性や共感力を育んでいることを望みます。
4. 日本語日本文学科の演習、実習などの授業では、学生どうしの議論や共同作業が重要な位置を占めます。そのため、課外活動、社会活動などを通じて多様な人と接し、一定の社会性とコミュニケーション力を身につけていることを望みます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

日本語日本文学科では、学科の設ける日本語学・日本文学・日本語教育学に関する授業科目（ただし、外国の言語・文学・言語教育との対照に関する授業科目を含む）、および卒業論文作成のための授業科目を履修し、授業内外の活動を通して自身の知見と体験を豊かにし、卒業時に次のような能力と姿勢を身につけることを期待します。

1. 過去から今日までの日本の言語・文学・文化に関する、正確で深い理解。さらに日本の言語・文学・文化を、世界のさまざまな言語・文学・文化との関連において捉えるグローバルな視野。そうした理解と視野の上に、日本の言語・文学・文化を世界に向けて発信し、多様な文化的背景をもつ世界の人々との相互理解を促進する姿勢。
2. 日本の、また世界の言語・文学・文化の多様性を知ることによって養われる、多様な他者を理解し、協調する姿勢。また、既成の枠組みにとらわれず柔軟に思考する力。
3. 日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野において、考察すべき問題を発見する力。その問題の解明に向けて、信頼できる情報を適切な方法で収集する力。それらの情報に基づき論理的に思考する力。思考の結果を的確に表現する力。そのようにして自らの意見を他者と共有し、他者との議論や協働を通じてよりよいものに高める姿勢。
4. 学問的訓練を通じて身につけた、問題発見・情報収集・論理的な思考・的確な表現・他者との協働という能力を、身近な、また社会的な問題に適用し、自らが置かれた立場でさまざまな問題に対応できる力。また、そうした力をいっそう伸ばすべく、生涯にわたって学び続ける姿勢。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

日本語日本文学科では、学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野に関する専門知識を修得し、複数の分野における標準的かつ基本的な研究方法を確実に身につけ、学部における知的訓練の集大成として卒業論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成します。

1. 日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野において、概説類、演習類、特講類、自由選択科目という4つの授業科目群を設けます。概説類は各分野の基礎的な知識や理論を学ぶ科目群。演習類は各分野の研究方法を身につける科目群。特講類は各分野についてより専門的に学ぶ科目群。自由選択科目は各分野の隣接領域などを幅広く学ぶ科目群です。これらを2年次から4年次にかけて並行して履修するよう、カリキュラムを編成します。その際、履修モデルの提示と履修ガイダンスを通じて段階的な学修を指導します。
2. 卒業論文作成のためのゼミナールである研究法実習を4年次の必修とする以外は、全科目を選択必修または選択とします。これにより学生は各自の関心に応じた履修計画を立てることが可能です。ただし、複数の学問分野をバランスよく学ぶよう一定の履修条件を課します。
3. 履修モデルは次のとおりです。2年次は概説類を中心に学び、演習類を1科目履修。3年次は特講類を中心に学び、演習類を2科目履修。4年次は特講類を中心に学ぶとともに、自らの専門分野を選択して研究法実習を履修。このように基礎的な知識の修得に始まり、段階的に専門性と研究能力を高め、卒業論文へと学修を進めます。
4. 卒業論文は、自分が選んだ研究テーマの分野の指導教員から指導を受け、4年次に作成、提出します。学部における学修の集大成として、少人数制のきめ細かな指導体制を敷きます。

卒業生像

日本語日本文学科は、次の能力を身につけた卒業生を社会に送り出すことをめざします。

- ・的確な日本語の知識にもとづく、高いコミュニケーション能力
- ・過去の、また今日の日本の言語・文学・文化を理解し、世界に向けて発信できる能力
- ・言語や文学の多様なあり方を知り、既成の枠組みにとらわれずに柔軟に思考できる能力

日本語日本文学科の学生は卒業後これらの力を生かし、中学校・高等学校の国語教員や外国人に日本語を教える日本語教員など専門性の高い職業をはじめ、航空、通信、放送、出版などさまざまな分野での活躍が期待されます。大学院に進学した場合も、これらの力を生かすことで学問の向上と成果の社会還元が可能となるはずです。

これらの能力を育てるため、日本語日本文学科は「日本語学」「日本文学」「日本語教育学」の3分野を設けています。2年次の学生は「概説類」を中心に学び、各分野の基礎的な知識・理論を身につけます。3年次は「演習類・特講類」を主に履修し、各分野の研究手法と専門知識を習得します。4年次には自分が最も関心のある1分野を選択して卒業論文を執筆し、専門知識を増やすとともに、情報収集力、思考力、文章表現力を磨きます。

日本語日本文学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	【概説】を中心に、〈日本語学〉〈日本文学〉〈日本語教育学〉の3分野の基礎を学ぶ	【特講】【演習】を中心に、左記3分野について専門的に学ぶ	左記3分野から自分の専門分野を1つ選び、【研究法実習】【特講】を中心に学び、専門性を深める
	日文-1 概 説		日文-6 研究法実習
	日文-2 特 講		
	日文-3 演 習		
日文-5 入門科目	日文-4 自由選択科目		

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列	卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-6) 合計：最低28単位			54-58ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6 AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低90単位			98-100ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a5) 合計：最低56単位			98-100ページ
a1 研究法実習	2	選択必修	
a2 概説類	12	選択必修	
a3 ●演習類 小計	12	選択必修	
演習類A			
演習類B			
演習類C			
a4 特講類	16	選択必修	
a5 自由選択科目	-	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低22単位		選択必修	100ページ
うち第二外国語余剰分			56ページ
[3] ■ 卒業論文	8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：126単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1)			
5-1 1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目をよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a5）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 研究法実習（選択必修・2単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
CC76	研究法実習 1 (1)	1	
CC77	研究法実習 1 (2)	1	
CC78	研究法実習 2 (1)	1	
CC79	研究法実習 2 (2)	1	
CC80	研究法実習 3 (1)	1	
CC81	研究法実習 3 (2)	1	
CC82	研究法実習 4 (1)	1	
CC83	研究法実習 4 (2)	1	
CE33	研究法実習 5 (1)	1	
CE34	研究法実習 5 (2)	1	
CE35	研究法実習 6 (1)	1	
CE36	研究法実習 6 (2)	1	
CE37	研究法実習 7 (1)	1	
CE38	研究法実習 7 (2)	1	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

- 左記の科目から2単位を修得していること

▼年次指定科目

研究法実習の各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

卒業論文のテーマにあわせて選択してください。

a2 概説類（選択必修・最低12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
CA71	日本文学史 1	2		CA76	日本文学史 6	2	
CA72	日本文学史 2	2		CD19	日本語学概説 1	2	
CA73	日本文学史 3	2		CD20	日本語学概説 2	2	
CA74	日本文学史 4	2		CD27	日本語史概説 1	2	
CA75	日本文学史 5	2		CD28	日本語史概説 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低12単位を修得していること

▼標準履修単位

2年次：8単位 3年次：4単位
4年次：任意

a3 演習類（選択必修・最低12単位）—— 専攻分野

演習類A				演習類B			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
CC15	古典文学演習 1 (1)	2		CC45	近代文学演習 1 (1)	2	
CC16	古典文学演習 1 (2)	2		CC46	近代文学演習 1 (2)	2	
CC17	古典文学演習 2 (1)	2		CC47	近代文学演習 2 (1)	2	
CC18	古典文学演習 2 (2)	2		CC48	近代文学演習 2 (2)	2	
CC19	古典文学演習 3 (1)	2		CC49	近代文学演習 3 (1)	2	
CC20	古典文学演習 3 (2)	2		CC50	近代文学演習 3 (2)	2	
CC21	古典文学演習 4 (1)	2		CC51	近代文学演習 4 (1)	2	
CC22	古典文学演習 4 (2)	2		CC52	近代文学演習 4 (2)	2	

演習類C			
コード	授業科目	単位	備考
CE16	日本語学演習 1 (1)	2	
CE17	日本語学演習 1 (2)	2	
CE18	日本語学演習 2 (1)	2	
CE19	日本語学演習 2 (2)	2	
CE20	日本語学演習 3 (1)	2	
CE21	日本語学演習 3 (2)	2	
CE22	日本語学演習 4 (1)	2	
CE23	日本語学演習 4 (2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低12単位を修得していること

演習類A、演習類B、演習類Cの3分野から少なくとも異なる2分野を含むように修得していること

▼標準履修単位

2年次：4単位 3年次：8単位
4年次：任意

▼履修上の注意

演習科目は人数調整を行います。優先順位等は、p.101「履修者の人数調整」で確認してください。

a4 特講類（選択必修・最低16単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
CB17	古典文学研究 1	2		CB45	近代文学研究 4	2	
CB18	古典文学研究 2	2		CB39	児童文学研究	2	
CB19	古典文学研究 3	2		CD29	日本語の文法	2	
CB20	古典文学研究 4	2		CD30	日本語の音声	2	
CB42	近代文学研究 1	2		CD58	日本語学研究 1	2	
CB43	近代文学研究 2	2		CD59	日本語学研究 2	2	
CB44	近代文学研究 3	2		CG29	日本語日本文学特殊研究	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低16単位を修得していること

▼標準履修単位

2年次：4単位
3年次：8単位
4年次：4単位

a5 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
CA13	古典文学の世界	2	②
CA14	近代文学の世界	2	②
CD17	日本語の世界	2	②
CD18	日本語教育の世界	2	③
CF12	日本語教授法Ⅰ（1）	2	③
CF13	日本語教授法Ⅰ（2）	2	③
CF22	日本語教授法Ⅱ（1）	2	③
CF23	日本語教授法Ⅱ（2）	2	③
CF32	日本語教育実習（1）	1	③
CF33	日本語教育実習（2）	1	③
CG12	言語学概論1	2	
CG13	言語学概論2	2	
CG14	文芸創作入門（1）	2	
CG15	文芸創作入門（2）	2	
CG16	日本文化研究1	2	
CG17	日本文化研究2	2	
CG18	文章表現法（1）	2	④
CG20	書道	2	
CG27	中国文学概論1	2	
CG28	中国文学概論2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

日本語日本文学科開講科目（科目コード左1文字=C）のうち、a1～a4を除いた科目

▼履修上の注意

- ① 人数調整が行われる科目もありますので、p.101「履修者の人数調整」で確認してください。
- ② 次の科目は、日本語日本文学科生は2年次生のみが履修できます。
古典文学の世界、近代文学の世界、日本語の世界
- ③ 次の科目は、日本語教員課程登録者のみが履修できます。
日本語教育の世界、日本語教授法Ⅰ（1）、日本語教授法Ⅰ（2）、日本語教授法Ⅱ（1）、日本語教授法Ⅱ（2）、日本語教育実習（1）、日本語教育実習（2）
- ④ 国語科教員免許状取得希望者は、3年次の終わりまでに「文章表現法（1）」を修得しておかなければなりません。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

- 関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】**1. 卒業要件外の科目**

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. 履修者の人数調整

- (1) 大学院日本語日本文学専攻修士課程開講科目を学部生（4年次生）が履修する場合は、学部生は5名以内とします。

以下の科目の履修希望者はあらかじめ日文研究室所定の手続き（年度初めのガイダンスで説明）を済ませてください。

- (2) **演習科目**の履修者数は**18名以内**とします。なお、18名を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
 - ① 4年次生
 - ② 日本語日文学科生（3年次生）
 - ③ 日本語日文学科生（2年次生）
 - ④ 日本語教員課程登録者
 - ⑤ 日本語日文学副専攻生（3年次生。ただし、3年次に新規登録した学生は、4年次で履修可能。）
- (3) **「文芸創作入門（1）」「文芸創作入門（2）」**の履修者数は**25名以内**とします。なお、履修者が25名を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
 - ① 日本語日文学科生（4年次生、3年次生、2年次生の順）
 - ② 日本語日文学副専攻生（4年次生、3年次生、2年次生の順）
 - ③ 他学科生（4年次生、3年次生、2年次生の順）
- (4) **「文章表現法（1）」**の履修者数は、1クラス**25名以内**とします。なお、履修者が25名を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
 - ① 国語科教員免許状取得希望者
 - ② 日本語日文学科生（4年次生、3年次生、2年次生の順）
- (5) **「書道」**の履修者数は**20名以内**とします。なお、履修者が20名を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
 - ① 国語科教員免許状取得希望者
 - ② 日本語日文学科生（4年次生、3年次生、2年次生の順）
 - ③ 国語科教員免許状取得希望の科目等履修生
 - ④ 小学校教員免許状取得希望者および小学校教員免許状取得希望の科目等履修生

3. 1年次に修得した単位について

次に挙げる科目を1年次に修得している場合は、日本語日本文学科の専攻分野の単位として認められます。

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
CA13	古典文学の世界	2		CB19	古典文学研究 3	2		CD58	日本語学研究 1	2	
CA14	近代文学の世界	2		CB20	古典文学研究 4	2		CD59	日本語学研究 2	2	
CD17	日本語の世界	2		CB42	近代文学研究 1	2		CF12	日本語教授法 I (1)	2	
CD18	日本語教育の世界	2		CB43	近代文学研究 2	2		CF13	日本語教授法 I (2)	2	
CB17	古典文学研究 1	2		CB44	近代文学研究 3	2					
CB18	古典文学研究 2	2		CB45	近代文学研究 4	2					

4. 国語科教員免許状取得希望者の履修

3年次の終わりまでに「文章表現法 (1)」を修得しておかなければなりません。

㊦ アドミッションポリシー ㊧

史学科では、日本史と世界史の別にかかわらず、歴史に対する強い好奇心をもち、過去や異文化に対する誤解や思い込みに気づけるような柔軟な姿勢を備えた人に進学してもらいたいと考えています。そのため、高等学校では、次のような学びを深めて欲しいと考えています。

1. 地理歴史科の日本史や世界史などの科目を通じて、歴史や地域に関する正確な知識を身につけておく必要があります。また、同時に日本史コースでは古文や漢文、世界史コースでは英語などの外国語の技能が求められます。
2. 卒業論文を作成するためには高い思考力・判断力・表現力が求められますので、国語や現代文に親しんでいることはもちろんとして、数学や理科などの授業で必要とされる論理的思考に慣れていることも望まれます。
3. 演習科目では主体性を持ちつつ周囲と協働して学ぶ態度が必要とされますので、課外活動などによって、多種多様な人々と接する経験を多く積み重ねていることが大切です。編入学生についても、上記のアドミッション・ポリシーを満たした学生生活を送っていることが求められます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

史学科では、バランスのとれた歴史観と視野の広い国際感覚を持ち、絶えず変化する社会において、歴史的視点から新たな問題への対処方法を見出すことのできる人材を育成することを目指しています。そのために、3年間の専門課程教育を通して、卒業までに以下のような力を養うことを期待します。

1. 我々の社会に生起するさまざまな事象について、歴史的な背景や社会の成り立ちを理解したうえで分析・評価する力。現実の問題に適切に対処するための知識と判断力。
2. 教育機関、官公庁や企業などの職場や日々の社会生活において直面するさまざまな問題に対応しうる緻密な思考力と、問題解決に向けて計画を立てる力。
3. 過去から現在にいたる日本および世界の文化や社会について、資料や情報を収集する力。また、その資料や情報を自ら分析する力。
4. 多様な文化や社会の歴史的成り立ちに関する理解に基づく、高度なコミュニケーション能力と、主体性を持ちつつ周囲と協働する姿勢。
5. 歴史知識と十分な情報をもとに考え、その考えを口頭発表や文章の著述を通して、自らの言葉で他者にわかりやすく的確に表現する力。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

史学科は、日本史コース、世界史コースに分かれており、必修科目、選択必修科目に加えて、「日本史系列科目」「世界史系列科目」「史学共通科目」を履修するカリキュラムを採用しています。

2年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅰ」「日本史史料論」、世界史コースは「世界史演習Ⅰ」「世界史文献講読Ⅰ」を中心に、それぞれが所属する日本史または世界史コースの教員全員から、幅広い時代や地域のテーマを通じて、大学で歴史を学ぶための基礎を学びます。

3年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅱ」、世界史コースは「世界史演習Ⅱ」を履修します。それにより、各自が関心を持つ研究テーマについて、専門的な歴史研究を始めます。同時に、広い歴史的視野を養う目的で、学科の様々な専門的講義も受講します。

4年次生は、自ら設定したテーマを学問的に探究し、卒業論文を執筆します。日本史コースは「日本史演習Ⅲ」、世界史コースは「世界史演習Ⅲ」を履修し、漢文史料や外国語文献を正確に理解する力を強化します。あわせて、2年次、3年次で身につけてきた情報収集力、分析力、論理的な文章力をさらに高めます。それらの集大成として、ゼミの教員の指導のもと、卒業論文を完成させます。

卒業生像

史学科では、日本や世界各地における人類の歩みを多様な授業を通じて学びます。そのうえで、学生ひとりひとりが自分の問題関心に沿って研究テーマを決定し、教員の指導の下、残された諸史料や諸研究を収集して、これらをひとつひとつ厳密に分析し、自分なりの歴史像として再構成し、卒業論文として提示することが求められます。こうして3年間の専門課程の教育を受けることで、バランスのとれた歴史観や視野の広い国際感覚が磨かれることとなります。つまり、現実の社会で生起するさまざまな事象を何よりも歴史的な視点から分析・評価し、それらに適切に対処できる力を身につけた卒業生として社会に巣立っていくことを願っています。卒業後も、教育機関、官公庁、企業などの職場や日々の社会生活においてさまざまな問題に直面することになるでしょう。そうしたときに、大学で歴史を深く学ぶことで得られた緻密な分析能力をぜひ発揮してもらいたいと思います。

史学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップ及び該当科目については、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	それぞれ自分が所属するコース（日本史または世界史）の教員全員と接する機会を得て、各教員から「大学での歴史の学び方」の基礎を、幅広い時代や地域について学ぶ 【日本史コース】 「日本史演習Ⅰ」 「日本史史料論」 【世界史コース】 「世界史演習Ⅰ」 「世界史文献講読Ⅰ」	各自が関心を持つ研究テーマについて、ゼミに所属しながら専門的な歴史研究をスタートさせる。同時に、広い歴史的視野を養う目的で、学科のさまざまな専門的講義も受講する 【日本史コース】 「日本史演習Ⅱ」 【世界史コース】 「世界史演習Ⅱ」	卒業論文の制作に向けて、ゼミでは漢文史料や外国語文献を正確に理解する力を強化する 【日本史コース】 「日本史演習Ⅲ」 【世界史コース】 「世界史演習Ⅲ」
		史学-1 日本史系列科目	
		史学-2 世界史系列科目	
		史学-3 史学共通科目	
博物館関連科目（他学科の学生も資格取得可）			

▼卒業までに必要とする最低単位数（2012～2022年度入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-5）		合計：最低26単位		39-44ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b）		合計：最低98単位		106-111ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a6）		合計：最低60単位		106-111ページ
a1	必修科目	8	必修	
a2	演習Ⅱ	4	選択必修	
a3	演習Ⅲ	4	選択必修	
a4	史学共通	—		
a5	日本史系列	—		
a6	世界史系列	8	選択必修	
2-b ▼ 関連分野		合計：最低26単位		111ページ
うち第二外国語余剰分				43ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3]の合計：132単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外（5-1～5-2）				
5-1	1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2	運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a6）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 必修科目（必修・8単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DB11	日本史史料論	4	廃止（～2022）
DC11	日本史演習 I	4	廃止（～2022）
DB80	日本史史料論 1	2	
DB82	日本史史料論 3	2	
DC26	日本史演習 I（1）	2	
DC27	日本史演習 I（2）	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

日本史演習 I は 2 年次指定科目です。

▼履修上の注意

- ① 2023年度以降は「日本史史料論」にかえて、下記の代替科目を修得してください。

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
DB11	日本史史料論 < 4 >	DB80	日本史史料論 1 < 2 >
		DB82	日本史史料論 3 < 2 >

- ② 2023年度以降は「日本史演習 I」にかえて、下記の代替科目を修得してください。

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
DC11	日本史演習 I < 4 >	DC26	日本史演習 I（1）< 2 >
		DC27	日本史演習 I（2）< 2 >

a2 演習Ⅱ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DC21	日本史演習Ⅱ-1	4	廃止（～2022）
DC22	日本史演習Ⅱ-2	4	廃止（～2022）
DC23	日本史演習Ⅱ-3	4	廃止（～2022）
DC24	日本史演習Ⅱ-4	4	廃止（～2022）
DC28	日本史演習Ⅱ-1（1）	2	
DC29	日本史演習Ⅱ-1（2）	2	
DC30	日本史演習Ⅱ-2（1）	2	
DC31	日本史演習Ⅱ-2（2）	2	
DC32	日本史演習Ⅱ-3（1）	2	
DC33	日本史演習Ⅱ-3（2）	2	
DC34	日本史演習Ⅱ-4（1）	2	
DC35	日本史演習Ⅱ-4（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

上記の科目から最低4単位を修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅱの各科目は3年次指定科目です。

▼履修上の注意

① 日本史コースに所属する場合、演習Ⅱの各科目は、「日本史演習Ⅰ」を修得済みでなければ、履修することはできません（同時履修も不可）。ただし、後期半年の留学をする学生で、「日本史演習Ⅰ」の継続履修（⇒p.33）が認められている場合は同時履修が可能です。

また、演習Ⅱの科目は3年次に複数選択して履修することができます。

なお、世界史コースに所属する3年次生以上、および、史学副専攻（日本史コース）を履修する3年次生以上は、所定の手続きを経た上で履修することができます。

② 2023年度以降は下記に指定した代替科目を修得してください。

演習Ⅱの代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
DC21	日本史演習Ⅱ-1 <4>	DC28	日本史演習Ⅱ-1（1）<2>
		DC29	日本史演習Ⅱ-1（2）<2>
DC22	日本史演習Ⅱ-2 <4>	DC30	日本史演習Ⅱ-2（1）<2>
		DC31	日本史演習Ⅱ-2（2）<2>
DC23	日本史演習Ⅱ-3 <4>	DC32	日本史演習Ⅱ-3（1）<2>
		DC33	日本史演習Ⅱ-3（2）<2>
DC24	日本史演習Ⅱ-4 <4>	DC34	日本史演習Ⅱ-4（1）<2>
		DC35	日本史演習Ⅱ-4（2）<2>

a3 演習Ⅲ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DC41	日本史演習Ⅲ-1	4	廃止（～2022）
DC42	日本史演習Ⅲ-2	4	廃止（～2022）
DC43	日本史演習Ⅲ-3	4	廃止（～2022）
DC44	日本史演習Ⅲ-4	4	廃止（～2022）
DC36	日本史演習Ⅲ-1（1）	2	
DC37	日本史演習Ⅲ-1（2）	2	
DC38	日本史演習Ⅲ-2（1）	2	
DC39	日本史演習Ⅲ-2（2）	2	
DC40	日本史演習Ⅲ-3（1）	2	
DC46	日本史演習Ⅲ-3（2）	2	
DC47	日本史演習Ⅲ-4（1）	2	
DC48	日本史演習Ⅲ-4（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

上記の科目から最低4単位を修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅲの各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

① 演習Ⅲの各科目は、演習Ⅱを修得済みでなければ、履修することはできません（同時履修も不可）。ただし、後期半年の留学をする学生で、演習Ⅱの継続履修（⇒p.33）が認められている場合は同時履修が可能です。

なお、演習Ⅲの科目は4年次に複数選択して履修することができます。

② 2023年度以降は下記に指定した代替科目を修得してください。

演習Ⅲの代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
DC41	日本史演習Ⅲ-1 <4>	DC36	日本史演習Ⅲ-1（1）<2>
		DC37	日本史演習Ⅲ-1（2）<2>
DC42	日本史演習Ⅲ-2 <4>	DC38	日本史演習Ⅲ-2（1）<2>
		DC39	日本史演習Ⅲ-2（2）<2>
DC43	日本史演習Ⅲ-3 <4>	DC40	日本史演習Ⅲ-3（1）<2>
		DC46	日本史演習Ⅲ-3（2）<2>
DC44	日本史演習Ⅲ-4 <4>	DC47	日本史演習Ⅲ-4（1）<2>
		DC48	日本史演習Ⅲ-4（2）<2>

a4 史学共通（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DA11	古文献入門	4	廃止（～2022）
DA23	国際関係史Ⅰ	2	廃止（～2022）
DA22	国際関係史Ⅱ	4	廃止（～2022）
DA54	日本史概説	2	
DA52	日本史概説Ⅰ	2	廃止（～2020）
DA53	日本史概説Ⅱ	2	廃止（～2020）
DA61	外国史概説	4	廃止（～2022）
DA91	世界史への招待Ⅰ	2	廃止（～2022）
DA92	世界史への招待Ⅱ	2	廃止（～2022）
DA31	世界音楽地誌	4	廃止（～2022）
DA33	地誌学Ⅰ	2	2018年度～廃止（～2022）
DA34	地誌学Ⅱ	2	2018年度～廃止（～2022）
DA35	教養としての歴史Ⅰ	2	
DA36	教養としての歴史Ⅱ	2	
DA37	教養としての歴史Ⅲ	2	
DA38	教養としての歴史Ⅳ	2	
DA39	教養としての歴史Ⅴ	2	
DA40	教養としての歴史Ⅵ	2	
DA41	教養としての歴史Ⅶ	2	
DA42	教養としての歴史Ⅷ	2	
DA43	教養としての歴史Ⅸ	2	
DA44	教養としての歴史Ⅹ	2	
DA45	教養としての歴史Ⅺ	2	
DA46	教養としての歴史Ⅻ	2	
DA47	教養としての歴史Ⅼ	2	
DA48	教養としての歴史Ⅽ	2	
DA64	外国史概説	2	
DA73	地誌学	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

史学科開講科目のうち、史学共通科目
（科目コード左2文字=DA）

▼履修上の注意

「地誌学Ⅰ」「地誌学Ⅱ」は、2018年度以降に修得した場合、「史学共通」に集計されますが、2017年度以前に修得した場合、「関連分野」に集計されま

a5 日本史系列（選択）—— 専攻分野

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
DB09	史料講読Ⅰ-1	2	廃止(～2022)
DB10	史料講読Ⅰ-2	2	廃止(～2022)
DB14	史料講読Ⅰ	4	廃止(～2021)
DB15	史料講読Ⅱ	4	廃止(～2019)
DB17	史料講読Ⅱ-1	2	廃止(～2022)
DB18	史料講読Ⅱ-2	2	廃止(～2022)
DB16	資料整理実習	2	廃止(～2022)
DB21	日本考古学	4	廃止(～2022)
DB22	日本民俗学	4	廃止(～2022)
DB31	日本古代史Ⅰ	4	廃止(～2021)
DB33	日本古代史Ⅰ-1	2	廃止(～2022)
DB34	日本古代史Ⅰ-2	2	廃止(～2022)
DB32	日本古代史Ⅱ	4	廃止(～2022)
DB41	日本中世史Ⅰ	4	廃止(～2021)
DB39	日本中世史Ⅰ-1	2	廃止(～2022)
DB40	日本中世史Ⅰ-2	2	廃止(～2022)
DB42	日本中世史Ⅱ	4	廃止(～2022)
DB43	日本中世史Ⅱ-1	2	廃止(～2022)
DB51	日本近世史Ⅰ	4	廃止(～2021)
DB52	日本近世史Ⅱ	4	廃止(～2021)
DB61	日本近現代史Ⅰ	4	廃止(～2021)
DB62	日本近現代史Ⅱ	4	廃止(～2021)
DB55	日本近世史Ⅰ-1	2	廃止(～2022)
DB56	日本近世史Ⅰ-2	2	廃止(～2022)
DB57	日本近世史Ⅱ-1	2	廃止(～2022)
DB58	日本近世史Ⅱ-2	2	廃止(～2022)
DB60	日本近現代史Ⅰ-1	2	廃止(～2022)
DB63	日本近現代史Ⅰ-2	2	廃止(～2022)
DB65	日本近現代史Ⅱ-1	2	廃止(～2022)
DB66	日本近現代史Ⅱ-2	2	廃止(～2022)
DB72	日本文化史Ⅰ	2	廃止(～2022)
DB73	日本文化史Ⅱ	2	廃止(～2022)
DB81	日本史史料論2	2	
DB83	日本史史料論4	2	
DB84	史料講読1	2	
DB85	史料講読2	2	
DB86	史料講読3	2	
DB87	史料講読4	2	
DB19	日本考古学	2	
DB20	日本民俗学	2	
DB35	日本古代史1(1)	2	
DB36	日本古代史1(2)	2	
DB37	日本古代史2(1)	2	
DB38	日本古代史2(2)	2	

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
DB44	日本中世史1(1)	2	
DB45	日本中世史1(2)	2	
DB46	日本中世史2(1)	2	
DB47	日本中世史2(2)	2	
DB67	日本近世史1(1)	2	
DB68	日本近世史1(2)	2	
DB69	日本近世史2(1)	2	
DB70	日本近世史2(2)	2	
DB74	日本近現代史1(1)	2	
DB75	日本近現代史1(2)	2	
DB76	日本近現代史2(1)	2	
DB77	日本近現代史2(2)	2	
DB78	日本史フィールドワーク1	2	
DB79	日本史フィールドワーク2	2	
DB23	日本文化史1	2	
DB24	日本文化史2	2	

大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TC11	日本古代史特講	4	廃止(～2022)
TC12	日本古代史研究	4	廃止(～2022)
TC21	日本中世史特講	4	廃止(～2022)
TC22	日本中世史研究	4	廃止(～2022)
TC31	日本近世史特講	4	廃止(～2022)
TC32	日本近世史研究	4	廃止(～2022)
TC61	日本近現代史特講	4	廃止(～2022)
TC62	日本近現代史研究	4	廃止(～2022)
TC51	日本文化史研究	4	廃止(～2022)
TC23	日本史特講1(1)	2	
TC24	日本史特講1(2)	2	
TC13	日本史研究1(1)	2	
TC14	日本史研究1(2)	2	
TC25	日本史特講2(1)	2	
TC26	日本史特講2(2)	2	
TC15	日本史研究2(1)	2	
TC16	日本史研究2(2)	2	
TC27	日本史特講3(1)	2	
TC28	日本史特講3(2)	2	
TC17	日本史研究3(1)	2	
TC18	日本史研究3(2)	2	
TC29	日本史特講4(1)	2	
TC30	日本史特講4(2)	2	
TC19	日本史研究4(1)	2	
TC20	日本史研究4(2)	2	

▼分類される科目

1. a1～a3の対象科目を除く日本史系列の科目（科目コード左2文字=DB）
2. 指定された大学院史学専攻修士課程開講の日本史科目（科目コード左2文字=TC）

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a6 世界史系列（選択必修・最低8単位）—— 専攻分野

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
DD19	中国古代史	4	廃止(～2022)
DD11	中国古代文化史	4	廃止(～2022)
DD12	中国近代史	4	廃止(～2022)
DD22	朝鮮近現代史	4	廃止(～2022)
DD23	東アジア社会史	2	廃止(～2022)
DD14	東南アジア史	4	廃止(～2022)
DD15	西アジア近代史	4	廃止(～2022)
DD16	西アジア文化史	4	廃止(～2022)
DD21	南アジア近代史	4	廃止(～2022)
DD58	東洋陶磁史	2	廃止(～2022)
DD55	イスラム社会史入門	2	廃止(～2022)
DD56	古代オリエント史	4	廃止(～2022)
DF22	ヨーロッパ中世史Ⅰ	4	廃止(～2022)
DF23	ヨーロッパ中世史Ⅱ	4	廃止(～2022)
DF41	ヨーロッパ近代史Ⅰ	4	廃止(～2022)
DF42	ヨーロッパ近代史Ⅱ	4	廃止(～2022)
DF51	ヨーロッパ現代史Ⅰ	4	廃止(～2022)
DF52	ヨーロッパ現代史Ⅱ	4	廃止(～2022)
DF11	古代ローマ史	4	廃止(～2022)
DF61	ロシア文化史	4	廃止(～2022)
DF72	アメリカ史	4	廃止(～2022)
DF91	ラテンアメリカ史	4	廃止(～2022)
DH61	世界史演習Ⅱ-1	4	廃止(～2022)
DH62	世界史演習Ⅱ-2	4	廃止(～2022)
DH63	世界史演習Ⅱ-3	4	廃止(～2022)
DH64	世界史演習Ⅱ-4	4	廃止(～2022)
DH65	世界史演習Ⅱ-5	4	廃止(～2022)
DH66	世界史演習Ⅱ-6	4	廃止(～2022)
DH71	世界史演習Ⅲ-1	4	廃止(～2022)
DH72	世界史演習Ⅲ-2	4	廃止(～2022)
DH73	世界史演習Ⅲ-3	4	廃止(～2022)
DH74	世界史演習Ⅲ-4	4	廃止(～2022)
DH75	世界史演習Ⅲ-5	4	廃止(～2022)
DH76	世界史演習Ⅲ-6	4	廃止(～2022)
DH13	世界史文献講読Ⅱ-1	2	廃止(～2022)
DH14	世界史文献講読Ⅱ-2	2	廃止(～2022)
DH15	世界史文献講読Ⅲ-1	2	廃止(～2022)
DH16	世界史文献講読Ⅲ-2	2	廃止(～2022)
DH17	世界史文献講読Ⅳ-1	2	廃止(～2022)
DH18	世界史文献講読Ⅳ-2	2	廃止(～2022)
DH19	世界史文献講読Ⅴ-1	2	廃止(～2022)
DH20	世界史文献講読Ⅴ-2	2	廃止(～2022)
DH21	世界史文献講読Ⅵ-1	2	廃止(～2022)
DH22	世界史文献講読Ⅵ-2	2	廃止(～2022)

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
DD24	中国史	2	
DD25	朝鮮史	2	
DD26	東南アジア史	2	
DD27	西アジア史(1)	2	
DD28	西アジア史(2)	2	
DD29	南アジア史	2	
DD30	古代地中海世界	2	
DF24	ヨーロッパ中世史1(1)	2	
DF25	ヨーロッパ中世史1(2)	2	
DF26	ヨーロッパ中世史2(1)	2	
DF27	ヨーロッパ中世史2(2)	2	
DF28	ヨーロッパ近代史1(1)	2	
DF29	ヨーロッパ近代史1(2)	2	
DF30	ヨーロッパ近代史2(1)	2	
DF32	ヨーロッパ近代史2(2)	2	
DF34	ヨーロッパ現代史1(1)	2	
DF35	ヨーロッパ現代史1(2)	2	
DF36	ヨーロッパ現代史2(1)	2	
DF37	ヨーロッパ現代史2(2)	2	
DF38	ロシア史	2	
DF39	アメリカ史(1)	2	
DF40	アメリカ史(2)	2	
DF45	ラテンアメリカ史	2	
DH67	世界史演習Ⅱ-1(1)	2	
DH68	世界史演習Ⅱ-1(2)	2	
DH69	世界史演習Ⅱ-2(1)	2	
DH70	世界史演習Ⅱ-2(2)	2	
DH77	世界史演習Ⅱ-3(1)	2	
DH78	世界史演習Ⅱ-3(2)	2	

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
DH79	世界史演習Ⅱ-4(1)	2	
DH80	世界史演習Ⅱ-4(2)	2	
DH81	世界史演習Ⅱ-5(1)	2	
DH82	世界史演習Ⅱ-5(2)	2	
DH83	世界史演習Ⅱ-6(1)	2	
DH84	世界史演習Ⅱ-6(2)	2	
DH85	世界史演習Ⅲ-1(1)	2	
DH86	世界史演習Ⅲ-1(2)	2	
DH87	世界史演習Ⅲ-2(1)	2	
DH88	世界史演習Ⅲ-2(2)	2	
DH89	世界史演習Ⅲ-3(1)	2	
DH90	世界史演習Ⅲ-3(2)	2	
DH91	世界史演習Ⅲ-4(1)	2	
DH92	世界史演習Ⅲ-4(2)	2	
DH93	世界史演習Ⅲ-5(1)	2	
DH94	世界史演習Ⅲ-5(2)	2	
DH95	世界史演習Ⅲ-6(1)	2	
DH96	世界史演習Ⅲ-6(2)	2	
DH25	世界史文献講読Ⅱ-1(1)	2	
DH26	世界史文献講読Ⅱ-1(2)	2	
DH27	世界史文献講読Ⅱ-2(1)	2	
DH28	世界史文献講読Ⅱ-2(2)	2	
DH29	世界史文献講読Ⅱ-3(1)	2	
DH30	世界史文献講読Ⅱ-3(2)	2	
DH31	世界史文献講読Ⅱ-4(1)	2	
DH32	世界史文献講読Ⅱ-4(2)	2	
DH33	世界史文献講読Ⅱ-5(1)	2	
DH34	世界史文献講読Ⅱ-5(2)	2	

(次ページにつづく)

▼卒業要件

世界史系列、大学院史学専攻修士課程開講の東洋史・西洋史科目の中から最低8単位を修得していること

▼分類される科目

1. 世界史系列の科目
(科目コード左2文字=DD、DF、DH **ただし一部DH科目を除く**)
2. 指定された大学院史学専攻修士課程開講の東洋史科目と西洋史科目
(科目コード左2文字=TD、TE)

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

▼世界史系列つづき

大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TD12	東洋古代史特講	4	廃止(~2022)
TD21	東洋中世史特講	4	廃止(~2022)
TD31	東洋近世史特講	4	廃止(~2022)
TD32	東洋近世史研究	4	廃止(~2022)
TD41	東洋近代史特講	4	廃止(~2022)
TD42	東洋近代史研究	4	廃止(~2022)
TD43	東洋現代史特講	4	廃止(~2022)
TE22	西洋中世史研究	4	廃止(~2022)
TE35	西洋近代史研究	4	廃止(~2022)
TE45	西洋現代史研究	4	廃止(~2022)
TD22	東洋史特講 1 (1)	2	
TD23	東洋史特講 1 (2)	2	

大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TD13	東洋史研究 1 (1)	2	
TD14	東洋史研究 1 (2)	2	
TD24	東洋史特講 2 (1)	2	
TD25	東洋史特講 2 (2)	2	
TD15	東洋史研究 2 (1)	2	
TD16	東洋史研究 2 (2)	2	
TE13	西洋史研究 1 (1)	2	
TE14	西洋史研究 1 (2)	2	
TE15	西洋史研究 2 (1)	2	
TE16	西洋史研究 2 (2)	2	
TE17	西洋史研究 3 (1)	2	
TE18	西洋史研究 3 (2)	2	

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

▼卒業までに必要とする最低単位数（2012～2022年度入学者）

分野系列	卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-5） 合計：最低26単位			39-44ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b） 合計：最低98単位			113-118ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a7） 合計：最低60単位			113-117ページ
a1 文献講読Ⅰ	4	必修	
a2 演習Ⅰ	4	必修	
a3 演習Ⅱ	4	選択必修	
a4 演習Ⅲ	4	選択必修	
a5 史学共通	—		
a6 世界史系列	—		
a7 日本史系列	8	選択必修	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低26単位		選択必修	118ページ
うち第二外国語余剰分			43ページ
[3] ■ 卒業論文	8単位	必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3]の合計：132単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外（5-1～5-2）			
5-1 1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2 運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

専攻分野の各分野系列（a1～a7）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 文献講読 I（必修・4単位） —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DH11	世界史文献講読 I - 1	2	廃止（～2022）
DH12	世界史文献講読 I - 2	2	廃止（～2022）
DH23	世界史文献講読 I（1）	2	
DH24	世界史文献講読 I（2）	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

文献講読 I の各科目は2年次指定科目です。

▼履修上の注意

① 2023年度以降は下記に指定した代替科目を修得してください。

文献講読 I の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
DH11	世界史文献講読 I - 1 < 2 >	DH23	世界史文献講読 I（1） < 2 >
DH12	世界史文献講読 I - 2 < 2 >	DH24	世界史文献講読 I（2） < 2 >

② 上記の科目のほか、世界史文献講読 II - 1～II - 5の（1）と（2）の組み合わせで2科目4単位を履修することができます。希望者は、履修登録前に所属コースの教員および履修を希望する科目担当者と相談し、さらに学科代表委員の承認を得なければなりません。承認を得られた場合は、学科の承認を示す文書を添えて、分野系列変更の手続きをしてください。

a2 演習 I（必修・4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DH51	世界史演習 I - 1	2	廃止（～2022）
DH52	世界史演習 I - 2	2	廃止（～2022）
DH53	世界史演習 I（1）	2	
DH54	世界史演習 I（2）	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

演習 I の各科目は 2 年次指定科目です。

▼履修上の注意

2023年度以降は下記に指定した代替科目を修得してください。

演習 I の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
DH51	世界史演習 I - 1 < 2 >	DH53	世界史演習 I（1） < 2 >
DH52	世界史演習 I - 2 < 2 >	DH54	世界史演習 I（2） < 2 >

a3 演習 II（選択必修・最低 4 単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DH61	世界史演習 II - 1	4	廃止（～2022）
DH62	世界史演習 II - 2	4	廃止（～2022）
DH63	世界史演習 II - 3	4	廃止（～2022）
DH64	世界史演習 II - 4	4	廃止（～2022）
DH65	世界史演習 II - 5	4	廃止（～2022）
DH66	世界史演習 II - 6	4	廃止（～2022）
DH67	世界史演習 II - 1（1）	2	
DH68	世界史演習 II - 1（2）	2	
DH69	世界史演習 II - 2（1）	2	
DH70	世界史演習 II - 2（2）	2	
DH77	世界史演習 II - 3（1）	2	
DH78	世界史演習 II - 3（2）	2	
DH79	世界史演習 II - 4（1）	2	
DH80	世界史演習 II - 4（2）	2	
DH81	世界史演習 II - 5（1）	2	
DH82	世界史演習 II - 5（2）	2	
DH83	世界史演習 II - 6（1）	2	
DH84	世界史演習 II - 6（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低 4 単位を修得していること

▼年次指定科目

演習 II の各科目は 3 年次指定科目です。

▼履修上の注意

2023年度以降は下記に指定した代替科目を修得してください。

演習 II の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
DH61	世界史演習 II - 1 < 4 >	DH67	世界史演習 II - 1（1） < 2 >
		DH68	世界史演習 II - 1（2） < 2 >
DH62	世界史演習 II - 2 < 4 >	DH69	世界史演習 II - 2（1） < 2 >
		DH70	世界史演習 II - 2（2） < 2 >
DH63	世界史演習 II - 3 < 4 >	DH77	世界史演習 II - 3（1） < 2 >
		DH78	世界史演習 II - 3（2） < 2 >
DH64	世界史演習 II - 4 < 4 >	DH79	世界史演習 II - 4（1） < 2 >
		DH80	世界史演習 II - 4（2） < 2 >
DH65	世界史演習 II - 5 < 4 >	DH81	世界史演習 II - 5（1） < 2 >
		DH82	世界史演習 II - 5（2） < 2 >
DH66	世界史演習 II - 6 < 4 >	DH83	世界史演習 II - 6（1） < 2 >
		DH84	世界史演習 II - 6（2） < 2 >

a4 演習Ⅲ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DH71	世界史演習Ⅲ-1	4	廃止（～2022）
DH72	世界史演習Ⅲ-2	4	廃止（～2022）
DH73	世界史演習Ⅲ-3	4	廃止（～2022）
DH74	世界史演習Ⅲ-4	4	廃止（～2022）
DH75	世界史演習Ⅲ-5	4	廃止（～2022）
DH76	世界史演習Ⅲ-6	4	廃止（～2022）
DH85	世界史演習Ⅲ-1（1）	2	
DH86	世界史演習Ⅲ-1（2）	2	
DH87	世界史演習Ⅲ-2（1）	2	
DH88	世界史演習Ⅲ-2（2）	2	
DH89	世界史演習Ⅲ-3（1）	2	
DH90	世界史演習Ⅲ-3（2）	2	
DH91	世界史演習Ⅲ-4（1）	2	
DH92	世界史演習Ⅲ-4（2）	2	
DH93	世界史演習Ⅲ-5（1）	2	
DH94	世界史演習Ⅲ-5（2）	2	
DH95	世界史演習Ⅲ-6（1）	2	
DH96	世界史演習Ⅲ-6（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から最低4単位を修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅲの各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

2023年度以降は下記に指定した代替科目を修得してください。

演習Ⅲの代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
DH71	世界史演習Ⅲ-1 <4>	DH85	世界史演習Ⅲ-1（1）<2>
		DH86	世界史演習Ⅲ-1（2）<2>
DH72	世界史演習Ⅲ-2 <4>	DH87	世界史演習Ⅲ-2（1）<2>
		DH88	世界史演習Ⅲ-2（2）<2>
DH73	世界史演習Ⅲ-3 <4>	DH89	世界史演習Ⅲ-3（1）<2>
		DH90	世界史演習Ⅲ-3（2）<2>
DH74	世界史演習Ⅲ-4 <4>	DH91	世界史演習Ⅲ-4（1）<2>
		DH92	世界史演習Ⅲ-4（2）<2>
DH75	世界史演習Ⅲ-5 <4>	DH93	世界史演習Ⅲ-5（1）<2>
		DH94	世界史演習Ⅲ-5（2）<2>
DH76	世界史演習Ⅲ-6 <4>	DH95	世界史演習Ⅲ-6（1）<2>
		DH96	世界史演習Ⅲ-6（2）<2>

a5 史学共通（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DA11	古文献入門	4	廃止（～2022）
DA23	国際関係史Ⅰ	2	廃止（～2022）
DA22	国際関係史Ⅱ	4	廃止（～2022）
DA54	日本史概説	2	
DA52	日本史概説Ⅰ	2	廃止（～2020）
DA53	日本史概説Ⅱ	2	廃止（～2020）
DA61	外国史概説	4	廃止（～2022）
DA91	世界史への招待Ⅰ	2	廃止（～2022）
DA92	世界史への招待Ⅱ	2	廃止（～2022）
DA31	世界音楽地誌	4	廃止（～2022）
DA33	地誌学Ⅰ	2	2018年度～廃止（～2022）
DA34	地誌学Ⅱ	2	2018年度～廃止（～2022）
DA35	教養としての歴史Ⅰ	2	
DA36	教養としての歴史Ⅱ	2	
DA37	教養としての歴史Ⅲ	2	
DA38	教養としての歴史Ⅳ	2	
DA39	教養としての歴史Ⅴ	2	
DA40	教養としての歴史Ⅵ	2	
DA41	教養としての歴史Ⅶ	2	
DA42	教養としての歴史Ⅷ	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
DA43	教養としての歴史Ⅸ	2	
DA44	教養としての歴史Ⅹ	2	
DA45	教養としての歴史Ⅺ	2	
DA46	教養としての歴史Ⅻ	2	
DA47	教養としての歴史Ⅼ	2	
DA48	教養としての歴史Ⅽ	2	
DA64	外国史概説	2	
DA73	地誌学	2	

▼分類される科目

史学科開講科目のうち、史学共通科目（科目コード左2文字=DA）

▼履修上の注意

「地誌学Ⅰ」「地誌学Ⅱ」は、2018年度以降に修得した場合、「史学共通」に集計されますが、2017年度以前に修得した場合、「関連分野」に集計されません。

a6 世界史系列（選択）—— 専攻分野

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
DD19	中国古代史	4	廃止(～2022)
DD11	中国古代文化史	4	廃止(～2022)
DD12	中国近代史	4	廃止(～2022)
DD22	朝鮮近現代史	4	廃止(～2022)
DD23	東アジア社会史	2	廃止(～2022)
DD14	東南アジア史	4	廃止(～2022)
DD15	西アジア近代史	4	廃止(～2022)
DD16	西アジア文化史	4	廃止(～2022)
DD21	南アジア近代史	4	廃止(～2022)
DD58	東洋陶磁史	2	廃止(～2022)
DD55	イスラム社会史入門	2	廃止(～2022)
DD56	古代オリエント史	4	廃止(～2022)
DF22	ヨーロッパ中世史Ⅰ	4	廃止(～2022)
DF23	ヨーロッパ中世史Ⅱ	4	廃止(～2022)
DF41	ヨーロッパ近代史Ⅰ	4	廃止(～2022)
DF42	ヨーロッパ近代史Ⅱ	4	廃止(～2022)
DF51	ヨーロッパ現代史Ⅰ	4	廃止(～2022)
DF52	ヨーロッパ現代史Ⅱ	4	廃止(～2022)
DF11	古代ローマ史	4	廃止(～2022)
DF61	ロシア文化史	4	廃止(～2022)
DF72	アメリカ史	4	廃止(～2022)
DF91	ラテンアメリカ史	4	廃止(～2022)
DH13	世界史文献講読Ⅱ-1	2	廃止(～2022)
DH14	世界史文献講読Ⅱ-2	2	廃止(～2022)
DH15	世界史文献講読Ⅲ-1	2	廃止(～2022)
DH16	世界史文献講読Ⅲ-2	2	廃止(～2022)
DH17	世界史文献講読Ⅳ-1	2	廃止(～2022)
DH18	世界史文献講読Ⅳ-2	2	廃止(～2022)
DH19	世界史文献講読Ⅴ-1	2	廃止(～2022)
DH20	世界史文献講読Ⅴ-2	2	廃止(～2022)
DH21	世界史文献講読Ⅵ-1	2	廃止(～2022)
DH22	世界史文献講読Ⅵ-2	2	廃止(～2022)
DD24	中国史	2	
DD25	朝鮮史	2	
DD26	東南アジア史	2	
DD27	西アジア史(1)	2	
DD28	西アジア史(2)	2	
DD29	南アジア史	2	
DD30	古代地中海世界	2	
DF24	ヨーロッパ中世史1(1)	2	
DF25	ヨーロッパ中世史1(2)	2	
DF26	ヨーロッパ中世史2(1)	2	
DF27	ヨーロッパ中世史2(2)	2	
DF28	ヨーロッパ近代史1(1)	2	
DF29	ヨーロッパ近代史1(2)	2	
DF30	ヨーロッパ近代史2(1)	2	
DF32	ヨーロッパ近代史2(2)	2	

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
DF34	ヨーロッパ現代史1(1)	2	
DF35	ヨーロッパ現代史1(2)	2	
DF36	ヨーロッパ現代史2(1)	2	
DF37	ヨーロッパ現代史2(2)	2	
DF38	ロシア史	2	
DF39	アメリカ史(1)	2	
DF40	アメリカ史(2)	2	
DF45	ラテンアメリカ史	2	
DH25	世界史文献講読Ⅱ-1(1)	2	
DH26	世界史文献講読Ⅱ-1(2)	2	
DH27	世界史文献講読Ⅱ-2(1)	2	
DH28	世界史文献講読Ⅱ-2(2)	2	
DH29	世界史文献講読Ⅱ-3(1)	2	
DH30	世界史文献講読Ⅱ-3(2)	2	
DH31	世界史文献講読Ⅱ-4(1)	2	
DH32	世界史文献講読Ⅱ-4(2)	2	
DH33	世界史文献講読Ⅱ-5(1)	2	
DH34	世界史文献講読Ⅱ-5(2)	2	

大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TD12	東洋古代史特講	4	廃止(～2022)
TD21	東洋中世史特講	4	廃止(～2022)
TD31	東洋近世史特講	4	廃止(～2022)
TD32	東洋近世史研究	4	廃止(～2022)
TD41	東洋近代史特講	4	廃止(～2022)
TD42	東洋近代史研究	4	廃止(～2022)
TD43	東洋現代史特講	4	廃止(～2022)
TE22	西洋中世史研究	4	廃止(～2022)
TE35	西洋近代史研究	4	廃止(～2022)
TE45	西洋現代史研究	4	廃止(～2022)
TD22	東洋史特講1(1)	2	
TD23	東洋史特講1(2)	2	
TD13	東洋史研究1(1)	2	
TD14	東洋史研究1(2)	2	
TD24	東洋史特講2(1)	2	
TD25	東洋史特講2(2)	2	
TD15	東洋史研究2(1)	2	
TD16	東洋史研究2(2)	2	
TE13	西洋史研究1(1)	2	
TE14	西洋史研究1(2)	2	
TE15	西洋史研究2(1)	2	
TE16	西洋史研究2(2)	2	
TE17	西洋史研究3(1)	2	
TE18	西洋史研究3(2)	2	

▼分類される科目

1. a1～a4の対象科目を除く世界史系列の科目（科目コード左2文字=DD、DF、DHの科目）
2. 指定された大学院史学専攻修士課程開講の東洋史科目と西洋史科目（科目コード左2文字=TD、TE）

▼履修上の注意

- ① 大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。
- ② 世界史文献講読Ⅱ-1～Ⅱ-5の(1)と(2)の組み合わせで2科目4単位を、学科の承認を得た場合は、分野系列「文献講読Ⅰ」の単位に変更することができます。希望者は、分野系列「文献講読Ⅰ」の項を参照し、手続きをしてください。
(⇒p.113)

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a7 日本史系列（選択必修・最低8単位）—— 専攻分野

学部科目				学部科目				大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
DB11	日本史史料論	4	廃止(～2022)	DB84	史料講読 1	2		TC11	日本古代史特講	4	廃止(～2022)
DB14	史料講読 I	4	廃止(～2021)	DB85	史料講読 2	2		TC12	日本古代史研究	4	廃止(～2022)
DB09	史料講読 I - 1	2	廃止(～2022)	DB86	史料講読 3	2		TC21	日本中世史特講	4	廃止(～2022)
DB10	史料講読 I - 2	2	廃止(～2022)	DB87	史料講読 4	2		TC22	日本中世史研究	4	廃止(～2022)
DB15	史料講読 II	4	廃止(～2019)	DB19	日本考古学	2		TC31	日本近世史特講	4	廃止(～2022)
DB17	史料講読 II - 1	2	廃止(～2022)	DB20	日本民俗学	2		TC32	日本近世史研究	4	廃止(～2022)
DB18	史料講読 II - 2	2	廃止(～2022)	DB35	日本古代史 1 (1)	2		TC61	日本近現代史特講	4	廃止(～2022)
DB16	資料整理実習	2	廃止(～2022)	DB36	日本古代史 1 (2)	2		TC62	日本近現代史研究	4	廃止(～2022)
DB21	日本考古学	4	廃止(～2022)	DB37	日本古代史 2 (1)	2		TC51	日本文化史研究	4	廃止(～2022)
DB22	日本民俗学	4	廃止(～2022)	DB38	日本古代史 2 (2)	2		TC23	日本史特講 1 (1)	2	
DB31	日本古代史 I	4	廃止(～2021)	DB44	日本中世史 1 (1)	2		TC24	日本史特講 1 (2)	2	
DB33	日本古代史 I - 1	2	廃止(～2022)	DB45	日本中世史 1 (2)	2		TC13	日本史研究 1 (1)	2	
DB34	日本古代史 I - 2	2	廃止(～2022)	DB46	日本中世史 2 (1)	2		TC14	日本史研究 1 (2)	2	
DB32	日本古代史 II	4	廃止(～2022)	DB47	日本中世史 2 (2)	2		TC25	日本史特講 2 (1)	2	
DB41	日本中世史 I	4	廃止(～2021)	DB67	日本近世史 1 (1)	2		TC26	日本史特講 2 (2)	2	
DB39	日本中世史 I - 1	2	廃止(～2022)	DB68	日本近世史 1 (2)	2		TC15	日本史研究 2 (1)	2	
DB40	日本中世史 I - 2	2	廃止(～2022)	DB69	日本近世史 2 (1)	2		TC16	日本史研究 2 (2)	2	
DB42	日本中世史 II	4	廃止(～2022)	DB70	日本近世史 2 (2)	2		TC27	日本史特講 3 (1)	2	
DB43	日本中世史 II - 1	2	廃止(～2022)	DB74	日本近現代史 1 (1)	2		TC28	日本史特講 3 (2)	2	
DB51	日本近世史 I	4	廃止(～2021)	DB75	日本近現代史 1 (2)	2		TC17	日本史研究 3 (1)	2	
DB52	日本近世史 II	4	廃止(～2021)	DB76	日本近現代史 2 (1)	2		TC18	日本史研究 3 (2)	2	
DB61	日本近現代史 I	4	廃止(～2021)	DB77	日本近現代史 2 (2)	2		TC29	日本史特講 4 (1)	2	
DB62	日本近現代史 II	4	廃止(～2021)	DB78	日本史フィールドワーク 1	2		TC30	日本史特講 4 (2)	2	
DB55	日本近世史 I - 1	2	廃止(～2022)	DB79	日本史フィールドワーク 2	2		TC19	日本史研究 4 (1)	2	
DB56	日本近世史 I - 2	2	廃止(～2022)	DB23	日本文化史 1	2		TC20	日本史研究 4 (2)	2	
DB57	日本近世史 II - 1	2	廃止(～2022)	DB24	日本文化史 2	2					
DB58	日本近世史 II - 2	2	廃止(～2022)								
DB60	日本近現代史 I - 1	2	廃止(～2022)								
DB63	日本近現代史 I - 2	2	廃止(～2022)								
DB65	日本近現代史 II - 1	2	廃止(～2022)								
DB66	日本近現代史 II - 2	2	廃止(～2022)								
DB72	日本文化史 I	2	廃止(～2022)								
DB73	日本文化史 II	2	廃止(～2022)								
DB80	日本史史料論 1	2									
DB81	日本史史料論 2	2									
DB82	日本史史料論 3	2									
DB83	日本史史料論 4	2									

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

- 日本史系列、大学院史学専攻修士課程開講の日本史科目の中から最低8単位を修得していること

▼分類される科目

1. 日本史系列の科目（科目コード左2文字=DB）
2. 指定された大学院史学専攻修士課程開講の日本史科目（科目コード左2文字=TC）

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

㊦ アドミッションポリシー ㊧

史学科では、日本史と世界史の別にかかわらず、歴史に対する強い好奇心をもち、過去や異文化に対する誤解や思い込みに気づけるような柔軟な姿勢を備えた人に進学してもらいたいと考えています。そのため、高等学校では、次のような学びを深めて欲しいと考えています。

1. 地理歴史科の日本史や世界史などの科目を通じて、歴史や地域に関する正確な知識を身につけておく必要があります。また、同時に日本史コースでは古文や漢文、世界史コースでは英語などの外国語の技能が求められます。
2. 卒業論文を作成するためには高い思考力・判断力・表現力が求められますので、国語や現代文に親しんでいることはもちろんとして、数学や理科などの授業で必要とされる論理的思考に慣れていることも望まれます。
3. 演習科目では主体性を持ちつつ周囲と協働して学ぶ態度が必要とされますので、課外活動などによって、多種多様な人々と接する経験を多く積み重ねていることが大切です。編入学生についても、上記のアドミッション・ポリシーを満たした学生生活を送っていることが求められます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

史学科では、バランスのとれた歴史観と視野の広い国際感覚を持ち、絶えず変化する社会において、歴史的視点から新たな問題への対処方法を見出すことのできる人材を育成することを目指しています。そのために、3年間の専門課程教育を通して、卒業までに以下のような力を養うことを期待します。

1. 我々の社会に生起するさまざまな事象について、歴史的な背景や社会の成り立ちを理解したうえで分析・評価する力。現実の問題に適切に対処するための知識と判断力。
2. 教育機関、官公庁や企業などの職場や日々の社会生活において直面するさまざまな問題に対応しうる緻密な思考力と、問題解決に向けて計画を立てる力。
3. 過去から現在にいたる日本および世界の文化や社会について、資料や情報を収集する力。また、その資料や情報を自ら分析する力。
4. 多様な文化や社会の歴史的成り立ちに関する理解に基づく、高度なコミュニケーション能力と、主体性を持ちつつ周囲と協働する姿勢。
5. 歴史知識と十分な情報をもとに考え、その考えを口頭発表や文章の著述を通して、自らの言葉で他者にわかりやすく的確に表現する力。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

史学科は、日本史コースと世界史コースに分かれており、必修科目、選択必修科目に加えて、「史学共通科目」並びにそれぞれのコースで開講されている自由選択科目を幅広く履修するカリキュラムを採用しています。そのほか、「教職必修科目」や「博物館関連科目」も開講されています。

2年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅰ」、世界史コースは「世界史演習Ⅰ」「世界史文献講読Ⅰ」を中心に、それぞれが所属する日本史または世界史コースの教員全員から、幅広い時代や地域のテーマを通じて、大学で歴史を学ぶための基礎を学びます。

3年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅱ」、世界史コースは「世界史演習Ⅱ」を履修します。それにより、各自が関心を持つ研究テーマについて、専門的な歴史研究を始めます。同時に、広い歴史的視野を養う目的で、学科の様々な専門的講義も受講します。

4年次生は、自ら設定したテーマを学問的に探究し、卒業論文を執筆します。日本史コースは「日本史演習Ⅲ」、世界史コースは重ねて「世界史演習Ⅱ」を履修し、漢文史料や外国語文献を正確に理解する力を強化します。あわせて、2年次、3年次で身につけてきた情報収集力、分析力、論理的な思考力、文章力をさらに高めます。それらの集大成として、ゼミの教員の指導のもと、卒業論文を完成させます。

卒業生像

史学科では、日本や世界各地における人類の歩みを多様な授業を通じて学びます。そのうえで、学生ひとりひとりが自分の問題関心に沿って研究テーマを決定し、教員の指導の下、残された諸史料や諸研究を収集して、これらをひとつひとつ厳密に分析し、自分なりの歴史像として再構成し、卒業論文として提示することが求められます。こうして3年間の専門課程の教育を受けることで、バランスのとれた歴史観や視野の広い国際感覚が磨かれることとなります。つまり、現実の社会で生起するさまざまな事象を何よりも歴史的な視点から分析・評価し、それらに適切に対処できる力を身につけた卒業生として社会に巣立っていくことを願っています。卒業後も、教育機関、官公庁、企業などの職場や日々の社会生活においてさまざまな問題に直面することになるでしょう。そうしたときに、大学で歴史を深く学ぶことで得られた緻密な分析能力をぜひ発揮してもらいたいと思います。

史学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップ及び該当科目については、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	それぞれ自分が所属するコース（日本史または世界史）の教員全員と接する機会を得て、各教員から「大学での歴史の学び方」の基礎を、幅広い時代や地域について学ぶ 【日本史コース】 「日本史演習Ⅰ」 【世界史コース】 「世界史演習Ⅰ」 「世界史文献講読Ⅰ」	各自が関心を持つ研究テーマについて、ゼミに所属しながら専門的な歴史研究をスタートさせる。同時に、広い歴史的視野を養う目的で、学科のさまざまな専門的講義も受講する 【日本史コース】 「日本史演習Ⅱ」 【世界史コース】 「世界史演習Ⅱ」	卒業論文の制作に向けて、ゼミでは漢文史料や外国語文献を正確に理解する力を強化する 【日本史コース】 「日本史演習Ⅲ」 【世界史コース】 「世界史演習Ⅱ」
史学-1 史学共通科目			
史学-2 日本史コース講義科目			
史学-3 世界史コース講義科目			
史学-4 教職必修科目			
博物館関連科目（他学科の学生も資格取得可）			

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-6)		合計：最低28単位		54-58ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6	AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)		合計：最低90単位		122-126ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a7)		合計：最低56単位		122-125ページ
a1	演習Ⅰ	4	必修	
a2	演習Ⅱ	4	選択必修	
a3	演習Ⅲ	4	選択必修	
a4	史学共通科目	-	選択	
a5	日本史コース講義科目	-	選択	
a6	世界史コース講義科目	-	選択	
a7	教職必修科目	-	選択	
2-b ▼ 関連分野		合計：最低22単位		126ページ
うち第二外国語余剰分				56ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3] の合計：126単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1)				
5-1	1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a7）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 演習 I（必修・4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DC26	日本史演習 I（1）	2	
DC27	日本史演習 I（2）	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

演習 I は 2 年次指定科目です。

a2 演習Ⅱ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DC28	日本史演習Ⅱ－1（1）	2	
DC29	日本史演習Ⅱ－1（2）	2	
DC30	日本史演習Ⅱ－2（1）	2	
DC31	日本史演習Ⅱ－2（2）	2	
DC32	日本史演習Ⅱ－3（1）	2	
DC33	日本史演習Ⅱ－3（2）	2	
DC34	日本史演習Ⅱ－4（1）	2	
DC35	日本史演習Ⅱ－4（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から（1）と（2）の組み合わせで最低4単位を修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅱの各科目は3年次指定科目です。

▼履修上の注意

日本史コースに所属する場合、演習Ⅱの各科目は、「日本史演習Ⅰ」を修得済みでなければ、履修することはできません（同時履修も不可）。ただし、後期半年の留学をする学生で、「日本史演習Ⅰ」の継続履修（⇒p.33）が認められている場合は同時履修が可能です。

また、演習Ⅱの科目は3年次に複数選択して履修することができます。

なお、世界史コースに所属する3年次生以上、および、史学副専攻（日本史コース）を履修する3年次生以上は、所定の手続きを経た上で履修することができます。

a3 演習Ⅲ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DC36	日本史演習Ⅲ－1（1）	2	
DC37	日本史演習Ⅲ－1（2）	2	
DC38	日本史演習Ⅲ－2（1）	2	
DC39	日本史演習Ⅲ－2（2）	2	
DC40	日本史演習Ⅲ－3（1）	2	
DC46	日本史演習Ⅲ－3（2）	2	
DC47	日本史演習Ⅲ－4（1）	2	
DC48	日本史演習Ⅲ－4（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から（1）と（2）の組み合わせで最低4単位を修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅲの各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

演習Ⅲの各科目は、演習Ⅱを修得済みでなければ、履修することはできません（同時履修も不可）。ただし、後期半年の留学をする学生で、演習Ⅱの継続履修（⇒p.33）が認められている場合は同時履修が可能です。

なお、演習Ⅲの科目は4年次に複数選択して履修することができます。

a4 史学共通科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DA35	教養としての歴史1	2	
DA36	教養としての歴史2	2	
DA37	教養としての歴史3	2	
DA38	教養としての歴史4	2	
DA39	教養としての歴史5	2	
DA40	教養としての歴史6	2	
DA41	教養としての歴史7	2	
DA42	教養としての歴史8	2	
DA43	教養としての歴史9	2	
DA44	教養としての歴史10	2	
DA45	教養としての歴史11	2	
DA46	教養としての歴史12	2	
DA47	教養としての歴史13	2	
DA48	教養としての歴史14	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

史学科開講科目のうち、史学共通科目
(科目コード左2文字=DA)

a5 日本史コース講義科目（選択）—— 専攻分野

学部科目				学部科目			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
DB80	日本史史料論1	2		DB77	日本近現代史2(2)	2	
DB81	日本史史料論2	2		DB78	日本史フィールドワーク1	2	
DB82	日本史史料論3	2		DB79	日本史フィールドワーク2	2	
DB83	日本史史料論4	2		DB23	日本文化史1	2	
DB84	史料講読1	2		DB24	日本文化史2	2	
DB85	史料講読2	2					
DB86	史料講読3	2					
DB87	史料講読4	2					
DB19	日本考古学	2					
DB20	日本民俗学	2					
DB35	日本古代史1(1)	2					
DB36	日本古代史1(2)	2					
DB37	日本古代史2(1)	2					
DB38	日本古代史2(2)	2					
DB44	日本中世史1(1)	2					
DB45	日本中世史1(2)	2					
DB46	日本中世史2(1)	2					
DB47	日本中世史2(2)	2					
DB67	日本近世史1(1)	2					
DB68	日本近世史1(2)	2					
DB69	日本近世史2(1)	2					
DB70	日本近世史2(2)	2					
DB74	日本近現代史1(1)	2					
DB75	日本近現代史1(2)	2					
DB76	日本近現代史2(1)	2					

大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TC23	日本史特講1(1)	2	
TC24	日本史特講1(2)	2	
TC13	日本史研究1(1)	2	
TC14	日本史研究1(2)	2	
TC25	日本史特講2(1)	2	
TC26	日本史特講2(2)	2	
TC15	日本史研究2(1)	2	
TC16	日本史研究2(2)	2	
TC27	日本史特講3(1)	2	
TC28	日本史特講3(2)	2	
TC17	日本史研究3(1)	2	
TC18	日本史研究3(2)	2	
TC29	日本史特講4(1)	2	
TC30	日本史特講4(2)	2	
TC19	日本史研究4(1)	2	
TC20	日本史研究4(2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

1. a1～a3の対象科目を除く日本史コースの講義科目（科目コード左2文字=DB）
2. 指定された大学院史学専攻修士課程開講の日本史科目（科目コード左2文字=TC）

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

a6 世界史コース講義科目（選択）—— 専攻分野

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
DD24	中国史	2	
DD25	朝鮮史	2	
DD26	東南アジア史	2	
DD27	西アジア史（1）	2	
DD28	西アジア史（2）	2	
DD29	南アジア史	2	
DD30	古代地中海世界	2	
DF24	ヨーロッパ中世史1（1）	2	
DF25	ヨーロッパ中世史1（2）	2	
DF26	ヨーロッパ中世史2（1）	2	
DF27	ヨーロッパ中世史2（2）	2	
DF28	ヨーロッパ近代史1（1）	2	
DF29	ヨーロッパ近代史1（2）	2	
DF30	ヨーロッパ近代史2（1）	2	
DF32	ヨーロッパ近代史2（2）	2	
DF34	ヨーロッパ現代史1（1）	2	
DF35	ヨーロッパ現代史1（2）	2	
DF36	ヨーロッパ現代史2（1）	2	
DF37	ヨーロッパ現代史2（2）	2	
DF38	ロシア史	2	
DF39	アメリカ史（1）	2	
DF40	アメリカ史（2）	2	
DF45	ラテンアメリカ史	2	
DH67	世界史演習Ⅱ-1（1）	2	
DH68	世界史演習Ⅱ-1（2）	2	
DH69	世界史演習Ⅱ-2（1）	2	
DH70	世界史演習Ⅱ-2（2）	2	
DH77	世界史演習Ⅱ-3（1）	2	

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
DH78	世界史演習Ⅱ-3（2）	2	
DH79	世界史演習Ⅱ-4（1）	2	
DH80	世界史演習Ⅱ-4（2）	2	
DH81	世界史演習Ⅱ-5（1）	2	
DH82	世界史演習Ⅱ-5（2）	2	
DH83	世界史演習Ⅱ-6（1）	2	
DH84	世界史演習Ⅱ-6（2）	2	
DH25	世界史文献講読Ⅱ-1（1）	2	
DH26	世界史文献講読Ⅱ-1（2）	2	
DH27	世界史文献講読Ⅱ-2（1）	2	
DH28	世界史文献講読Ⅱ-2（2）	2	
DH29	世界史文献講読Ⅱ-3（1）	2	
DH30	世界史文献講読Ⅱ-3（2）	2	
DH31	世界史文献講読Ⅱ-4（1）	2	
DH32	世界史文献講読Ⅱ-4（2）	2	
DH33	世界史文献講読Ⅱ-5（1）	2	
DH34	世界史文献講読Ⅱ-5（2）	2	

大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TD22	東洋史特講1（1）	2	
TD23	東洋史特講1（2）	2	
TD13	東洋史研究1（1）	2	
TD14	東洋史研究1（2）	2	
TD24	東洋史特講2（1）	2	
TD25	東洋史特講2（2）	2	
TD15	東洋史研究2（1）	2	
TD16	東洋史研究2（2）	2	

大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TE13	西洋史研究1（1）	2	
TE14	西洋史研究1（2）	2	
TE15	西洋史研究2（1）	2	
TE16	西洋史研究2（2）	2	
TE17	西洋史研究3（1）	2	
TE18	西洋史研究3（2）	2	

▼分類される科目

1. 世界史コースの講義・演習科目
(科目コード左2文字=DD、DF、DH ただし一部DH科目を除く)
2. 指定された大学院史学専攻修士課程開講の東洋史科目と西洋史科目(科目コード左2文字=TD、TE)

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a7 教職必修科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DA54	日本史概説	2	
DA64	外国史概説	2	
DA73	地誌学	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列	卒業必要最低単位数	区分	履修要項掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-6)	合計：最低28単位		54-58ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6 AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)	合計：最低90単位		128-131ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a7)	合計：最低56単位		128-131ページ
a1 文献講読Ⅰ	4	必修	
a2 演習Ⅰ	4	必修	
a3 演習Ⅱ	8	選択必修	
a4 史学共通科目	-	選択	
a5 日本史コース講義科目	-	選択	
a6 世界史コース講義科目	-	選択	
a7 教職必修科目	-	選択	
2-b ▼ 関連分野	合計：最低22単位	選択必修	131ページ
うち第二外国語余剰分			56ページ
[3] ■ 卒業論文	8単位	必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3] の合計：126単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1)			
5-1 1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要があるので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a7）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 文献講読 I（必修・4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DH23	世界史文献講読 I（1）	2	
DH24	世界史文献講読 I（2）	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

文献講読 I の各科目は 2 年次指定科目です。

a2 演習 I（必修・4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DH53	世界史演習 I（1）	2	
DH54	世界史演習 I（2）	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

演習 I の各科目は 2 年次指定科目です。

a3 演習 II（選択必修・最低 8 単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DH67	世界史演習 II - 1（1）	2	
DH68	世界史演習 II - 1（2）	2	
DH69	世界史演習 II - 2（1）	2	
DH70	世界史演習 II - 2（2）	2	
DH77	世界史演習 II - 3（1）	2	
DH78	世界史演習 II - 3（2）	2	
DH79	世界史演習 II - 4（1）	2	
DH80	世界史演習 II - 4（2）	2	
DH81	世界史演習 II - 5（1）	2	
DH82	世界史演習 II - 5（2）	2	
DH83	世界史演習 II - 6（1）	2	
DH84	世界史演習 II - 6（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目の中から（1）と（2）の組み合わせで最低 8 単位を修得していること

▼年次指定科目

演習 II の各科目は 3・4 年次指定科目です。

a4 史学共通科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DA35	教養としての歴史 1	2	
DA36	教養としての歴史 2	2	
DA37	教養としての歴史 3	2	
DA38	教養としての歴史 4	2	
DA39	教養としての歴史 5	2	
DA40	教養としての歴史 6	2	
DA41	教養としての歴史 7	2	
DA42	教養としての歴史 8	2	
DA43	教養としての歴史 9	2	
DA44	教養としての歴史 10	2	
DA45	教養としての歴史 11	2	
DA46	教養としての歴史 12	2	
DA47	教養としての歴史 13	2	
DA48	教養としての歴史 14	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

史学科開講科目のうち、史学共通科目（科目コード左 2 文字=DA）

a5 世界史コース講義科目（選択）—— 専攻分野

学部科目				学部科目			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
DD24	中国史	2		DH27	世界史文献講読Ⅱ-2(1)	2	
DD25	朝鮮史	2		DH28	世界史文献講読Ⅱ-2(2)	2	
DD26	東南アジア史	2		DH29	世界史文献講読Ⅱ-3(1)	2	
DD27	西アジア史(1)	2		DH30	世界史文献講読Ⅱ-3(2)	2	
DD28	西アジア史(2)	2		DH31	世界史文献講読Ⅱ-4(1)	2	
DD29	南アジア史	2		DH32	世界史文献講読Ⅱ-4(2)	2	
DD30	古代地中海世界	2		DH33	世界史文献講読Ⅱ-5(1)	2	
DF24	ヨーロッパ中世史1(1)	2		DH34	世界史文献講読Ⅱ-5(2)	2	
DF25	ヨーロッパ中世史1(2)	2					
DF26	ヨーロッパ中世史2(1)	2					
DF27	ヨーロッパ中世史2(2)	2					
DF28	ヨーロッパ近代史1(1)	2					
DF29	ヨーロッパ近代史1(2)	2					
DF30	ヨーロッパ近代史2(1)	2					
DF32	ヨーロッパ近代史2(2)	2					
DF34	ヨーロッパ現代史1(1)	2					
DF35	ヨーロッパ現代史1(2)	2					
DF36	ヨーロッパ現代史2(1)	2					
DF37	ヨーロッパ現代史2(2)	2					
DF38	ロシア史	2					
DF39	アメリカ史(1)	2					
DF40	アメリカ史(2)	2					
DF45	ラテンアメリカ史	2					
DH25	世界史文献講読Ⅱ-1(1)	2					
DH26	世界史文献講読Ⅱ-1(2)	2					

大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TD22	東洋史特講1(1)	2	
TD23	東洋史特講1(2)	2	
TD13	東洋史研究1(1)	2	
TD14	東洋史研究1(2)	2	
TD24	東洋史特講2(1)	2	
TD25	東洋史特講2(2)	2	
TD15	東洋史研究2(1)	2	
TD16	東洋史研究2(2)	2	
TE13	西洋史研究1(1)	2	
TE14	西洋史研究1(2)	2	
TE15	西洋史研究2(1)	2	
TE16	西洋史研究2(2)	2	
TE17	西洋史研究3(1)	2	
TE18	西洋史研究3(2)	2	

▼分類される科目

1. a1～a3の対象科目を除く世界史コースの講義科目（科目コード左2文字=DD、DF、DHの科目）
2. 指定された大学院史学専攻修士課程開講の東洋史科目と西洋史科目（科目コード左2文字=TD、TE）

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a6 日本史コース講義科目（選択）—— 専攻分野

学部科目				学部科目			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
DB80	日本史史料論 1	2		DB77	日本近現代史 2 (2)	2	
DB81	日本史史料論 2	2		DB78	日本史フィールドワーク 1	2	
DB82	日本史史料論 3	2		DB79	日本史フィールドワーク 2	2	
DB83	日本史史料論 4	2		DB23	日本文化史 1	2	
DB84	史料講読 1	2		DB24	日本文化史 2	2	
DB85	史料講読 2	2					
DB86	史料講読 3	2					
DB87	史料講読 4	2					
DB19	日本考古学	2					
DB20	日本民俗学	2					
DB35	日本古代史 1 (1)	2					
DB36	日本古代史 1 (2)	2					
DB37	日本古代史 2 (1)	2					
DB38	日本古代史 2 (2)	2					
DB44	日本中世史 1 (1)	2					
DB45	日本中世史 1 (2)	2					
DB46	日本中世史 2 (1)	2					
DB47	日本中世史 2 (2)	2					
DB67	日本近世史 1 (1)	2					
DB68	日本近世史 1 (2)	2					
DB69	日本近世史 2 (1)	2					
DB70	日本近世史 2 (2)	2					
DB74	日本近現代史 1 (1)	2					
DB75	日本近現代史 1 (2)	2					
DB76	日本近現代史 2 (1)	2					

大学院（史学専攻修士課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TC23	日本史特講 1 (1)	2	
TC24	日本史特講 1 (2)	2	
TC13	日本史研究 1 (1)	2	
TC14	日本史研究 1 (2)	2	
TC25	日本史特講 2 (1)	2	
TC26	日本史特講 2 (2)	2	
TC15	日本史研究 2 (1)	2	
TC16	日本史研究 2 (2)	2	
TC27	日本史特講 3 (1)	2	
TC28	日本史特講 3 (2)	2	
TC17	日本史研究 3 (1)	2	
TC18	日本史研究 3 (2)	2	
TC29	日本史特講 4 (1)	2	
TC30	日本史特講 4 (2)	2	
TC19	日本史研究 4 (1)	2	
TC20	日本史研究 4 (2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a7 教職必修科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
DA54	日本史概説	2	
DA64	外国史概説	2	
DA73	地誌学	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

▼分類される科目

1. 日本史コースの講義科目（科目コード左2文字=DB）
2. 指定された大学院史学専攻修士課程開講の日本史科目（科目コード左2文字=TC）

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

㊦ アドミッションポリシー ㊧

人間関係学科では、社会調査の方法論を用いて、社会と人間について研究を行います。そのためには、入学者には、研究の視点と社会調査スキルの土台となる素養として、以下の4点を求めます。

1. 人間や社会に対して関心があり、日常生活の何気ない場面に埋もれている研究の芽に気づく視点が前提となります。そのためには、日ごろからあちこちにアンテナを張り、さまざまなメディアから情報を豊富に得てください。
2. 文献の読解、調査の実施のために、国語や現代文のみならず、図表の読解やデータ処理を行う上で、統計学の素養も求められます。統計学については、入学後に初歩から指導しますが、高校までに機会があれば修得することを推奨します。または、高校までに挫折した場合でも、もう一度、新たな気持ちで初歩から学び直すという勤勉な姿勢が望ましいです。
3. 一部の調査法や分析方法を除いて、学科生のほぼ全員が対人調査を実施することから、対人調査の倫理として、コミュニケーション・スキル、礼儀作法や社会常識は、社会人と同等に求められます。誰とでも良好なコミュニケーションを構築できるよう、課外活動、学外活動などを通じて、さまざまな属性の人との交流を経験することが望ましいです。
4. どの方法論でも自分でデータを収集しますので、現場に出ていく行動力やバイタリティが求められます。

編入学生についても、アドミッション・ポリシーは上記と同様に考えています。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

人間関係学科では、社会が大きな転換点を迎える中、「現代社会とそこに生きる人間」の諸問題について、社会調査の方法論を用いて、多角的な視点から実証的に分析し、広く発信する能力を涵養し、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

1. 現代社会の諸問題に対して、理論を適用して説明していくトップダウンと、現場から問題を上げるボトムアップの両方の視点を持ち、問題の構造を的確に理解し、判断する力。そのための知的好奇心、社会に対する関心、幅広い知識と多様な視点。
2. 自らフィールドに赴き、現場でデータを収集するバイタリティと、コミュニケーション・スキル。調査自体が現場に改善をもたらすアクション・リサーチを含む。そのために必要な社会調査の基本的スキルや、対人調査に関連する倫理意識。
3. 収集したデータを客観的に分析し、新しい知見を得る力。質的データと量的データをそれぞれ分析する能力。
4. 自律と他者との協働に価値を置き、社会に積極的に関わっていく行動力、表現力、指導力。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

人間関係学科には「心理学」「社会学」「文化学」の3つのアプローチがあります。これらは独立したものではなく互いに連関しており、多様な視点から「人間と社会」について探求していきます。また、探求するための「社会調査」のスキルを専門的に修得し、全員が卒業論文では社会調査を実践します。社会調査の専門家であることを示す「社会調査士」の取得カリキュラムも導入しています。

2年次では、まず「心理学」「社会学」「文化学」の各アプローチの概論7科目を履修し、社会を探求していく学問的視座の基礎を習得します。社会調査についても、「社会調査入門」「社会調査の技法」「社会統計学」「質的研究法」といった基礎的な方法論を学び、3年次以降の調査の実践に備えます。また、2年次生の演習（「共通演習」）では、過去の卒論や実習報告書を教材として、社会調査に関連する各授業の復習をしながら、グループワークで研究全体の流れを確認し、プレゼンテーションのスキルも身に着けます。

3年次では、「心理学」「社会学」「文化学」の概論を土台として、その中で研究の主軸を置く学問分野を決めてメンターを選び、卒論に向けて個人指導が始まります。また、2年次までに座学で学んできた社会調査の方法論を踏まえて、それらを実践していく段階に入ります。「データ分析の基礎」「多変量解析法」といった量的データの処理を高度なレベルで学びつつ、「社会調査実習」では、テーマの選定、先行研究のレビュー、仮説の設定、フィールドワークや対人調査などの実査を通じたデータの収集、分析と考察、報告書の執筆まで、卒論と同じ流れをグループワークで経験します。ここで、一通り研究の実践を学ぶことで社会調査の手法や論文の執筆といった基礎的なスキルを修得し、4年次の卒論に備えます。

4年次では、これまでに学んできた専門的な知識と、社会調査のスキルを融合する形で、学科の学びの集大成として卒業論文が位置づけられています。年度末の卒論発表会では、各自が卒論の研究についてプレゼンテーションを行い、教員や学生との質疑応答を経てより成長します。なお、人間関係学科では社会調査士の認定科目を開講しており、これらを履修すれば、卒業時に社会調査士を取得することができます。

卒業生像

人間関係学科では、社会調査を通じて、「現代社会とそこに生きる人間」の諸問題について、「多角的な視点」から「実証的」に分析し、広く「発信する」能力を涵養し、社会に貢献できる人材の育成を目的としている。期待される卒業生像は、学際的教育によって培われた柔軟な視点と実証研究を通して学んだ論理的な分析能力を活かしながら、幅広い分野で自らの目的・使命を自覚しつつ、自らの意見を発信し、行動できる人間である。企業や行政機関、あるいは、マスコミや教育機関、国内外の研究機関においても、多角的な視点から社会を客観的に分析し、リーダーシップを発揮することが期待される。

人間関係学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	組織心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・比較文化学の5つの学問領域の基礎を学び、社会と人間を学際的・総合的に理解する視点を身につける	ゼミに所属し、専門分野を深く追究すると同時に、「社会調査実習」を通じて社会調査の実践を経験し、調査研究のスキルを修得する	3年次までに修得したスキルに基づいて、各自の研究テーマで調査を行い、論文にまとめる。1月末には卒論発表会でプレゼンを行う
演習科目			
	人間関係共通演習	人間-6 「3年次演習」	人間-7 「4年次演習」
講義科目			
	人間-1 各分野の「概論」	人間-2 各分野の「特講」	
社会調査士関連科目			
	人間-3 【理論の学習】	人間-4 【データ処理スキルの学習】	人間-5 【社会調査の実践】

▼卒業までに必要とする最低単位数（2012～2022年度入学者）

分野系列	卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-5) 合計：最低26単位			39-44ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低98単位			136-140ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1～a4) 合計：最低60単位			136-139ページ
a1 基礎科目	18	必修	
a2 演習1	4	選択必修	
a3 演習2	4	選択必修	
a4 自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低26単位		選択必修	140ページ
うち第二外国語余剰分			43ページ
[3] ■ 卒業論文	8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：132単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1～5-2)			
5-1 1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2 運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位集計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a4）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 基礎科目（必修・18単位） — 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
EA01	対人社会心理学 1	2	
EA05	マスコミ社会心理学 1	2	
EA16	組織心理学 1	2	
EE21	家族社会学 1	2	
EE32	職業社会学 1	2	
EF01	文化人類学 1	2	
EP01	比較文化学 1	2	
EH21	社会調査入門	2	
EN11	人間関係共通演習	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

人間関係共通演習は2年次指定科目です。

▼履修上の注意

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

基礎科目の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
EA01	対人社会心理学 1 <2>	EN01	人間関係概論 1 <2>
EA16	組織心理学 1 <2>	EA10	社会心理学 <2>
EE21	家族社会学 1 <2>	EE23	家族社会学 <2>
EE32	職業社会学 1 <2>	EE34	職業社会学 <2>
EP01	比較文化学 1 <2>	EN03	人間関係概論 3 <2>
EF01	文化人類学 1 <2>	EF03	文化人類学 <2>

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a2 演習1 (選択必修・最低4単位) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
ER01	対人社会心理学演習1-1	2	
ER02	対人社会心理学演習1-2	2	
ER05	マスコミ社会心理学演習1-1	2	
ER06	マスコミ社会心理学演習1-2	2	
ER29	組織心理学演習1-1	2	
ER30	組織心理学演習1-2	2	
ER13	家族社会学演習1-1	2	
ER14	家族社会学演習1-2	2	
ER17	職業社会学演習1-1	2	
ER18	職業社会学演習1-2	2	
ER21	文化人類学演習1-1	2	
ER22	文化人類学演習1-2	2	
ER25	比較文化学演習1-1	2	
ER26	比較文化学演習1-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から同じ分野のペアで最低4単位を修得していること

▼年次指定科目

演習1の各科目は3年次指定科目です。

▼履修上の注意

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

演習1の代替指定科目 < >内は単位数

コード	演習科目 (旧科目名)	コード	代替科目
ER01	対人社会心理学演習1-1<2>	ER33	社会心理学演習I-1(1)<2>
ER02	対人社会心理学演習1-2<2>	ER34	社会心理学演習I-1(2)<2>
ER05	マスコミ社会心理学演習1-1<2>	ER35	社会心理学演習I-2(1)<2>
ER06	マスコミ社会心理学演習1-2<2>	ER36	社会心理学演習I-2(2)<2>
ER29	組織心理学演習1-1<2>	ER37	社会心理学演習I-3(1)<2>
ER30	組織心理学演習1-2<2>	ER38	社会心理学演習I-3(2)<2>
ER13	家族社会学演習1-1<2>	ER45	社会学演習I-1(1)<2>
ER14	家族社会学演習1-2<2>	ER46	社会学演習I-1(2)<2>
ER17	職業社会学演習1-1<2>	ER47	社会学演習I-2(1)<2>
ER18	職業社会学演習1-2<2>	ER48	社会学演習I-2(2)<2>
ER21	文化人類学演習1-1<2>	ER57	文化人類学演習I-1(1)<2>
ER22	文化人類学演習1-2<2>	ER58	文化人類学演習I-1(2)<2>
ER25	比較文化学演習1-1<2>	ER59	文化人類学演習I-2(1)<2>
ER26	比較文化学演習1-2<2>	ER60	文化人類学演習I-2(2)<2>

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a3 演習2 (選択必修・最低4単位) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
ER03	対人社会心理学演習2-1	2	
ER04	対人社会心理学演習2-2	2	
ER07	マスコミ社会心理学演習2-1	2	
ER08	マスコミ社会心理学演習2-2	2	
ER31	組織心理学演習2-1	2	
ER32	組織心理学演習2-2	2	
ER15	家族社会学演習2-1	2	
ER16	家族社会学演習2-2	2	
ER19	職業社会学演習2-1	2	
ER20	職業社会学演習2-2	2	
ER23	文化人類学演習2-1	2	
ER24	文化人類学演習2-2	2	
ER27	比較文化学演習2-1	2	
ER28	比較文化学演習2-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から同じ分野のペアで最低4単位を修得していること

▼年次指定科目

演習2の各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

演習2の代替指定科目 < >内は単位数

コード	演習科目 (旧科目名)	コード	代替科目
ER03	対人社会心理学演習2-1 <2>	ER39	社会心理学演習Ⅱ-1 (1) <2>
ER04	対人社会心理学演習2-2 <2>	ER40	社会心理学演習Ⅱ-1 (2) <2>
ER07	マスコミ社会心理学演習2-1 <2>	ER41	社会心理学演習Ⅱ-2 (1) <2>
ER08	マスコミ社会心理学演習2-2 <2>	ER42	社会心理学演習Ⅱ-2 (2) <2>
ER31	組織心理学演習2-1 <2>	ER43	社会心理学演習Ⅱ-3 (1) <2>
ER32	組織心理学演習2-2 <2>	ER44	社会心理学演習Ⅱ-3 (2) <2>
ER15	家族社会学演習2-1 <2>	ER51	社会学演習Ⅱ-1 (1) <2>
ER16	家族社会学演習2-2 <2>	ER52	社会学演習Ⅱ-1 (2) <2>
ER19	職業社会学演習2-1 <2>	ER53	社会学演習Ⅱ-2 (1) <2>
ER20	職業社会学演習2-2 <2>	ER54	社会学演習Ⅱ-2 (2) <2>
ER23	文化人類学演習2-1 <2>	ER61	文化人類学演習Ⅱ-1 (1) <2>
ER24	文化人類学演習2-2 <2>	ER62	文化人類学演習Ⅱ-1 (2) <2>
ER27	比較文化学演習2-1 <2>	ER63	文化人類学演習Ⅱ-2 (1) <2>
ER28	比較文化学演習2-2 <2>	ER64	文化人類学演習Ⅱ-2 (2) <2>

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a4 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
EA08	メディアと社会心理	2	
EB01	社会心理学特講 1	2	
EB02	社会心理学特講 2	2	
EB13	社会心理学特講 3	2	
EB14	社会心理学特講 4	2	
EB15	社会心理学特講 5	2	
EB16	社会心理学特講 6	2	
EB17	社会心理学特講 7	2	
EB18	社会心理学特講 8	2	
EB19	社会心理学特講 9	2	
EB20	社会心理学特講10	2	
EB21	社会心理学特講11	2	
EB22	社会心理学特講12	2	
EB24	社会心理学特講14	2	廃止（～2020）
EB25	社会心理学特講15	2	廃止（～2020）
EB92	社会心理学論文演習	4	
EB93	情報活用の社会的実践	2	
EE11	社会学	4	
EE22	家族社会学 2	2	
EE33	職業社会学 2	2	
EE40	キャリア形成の社会学	2	廃止（～2022）
EE76	モードの社会学	2	廃止（～2019）
EE77	ファッションの社会学	2	
EE91	社会学特講 1	2	
EE92	社会学特講 2	2	
EE93	社会学特講 3	2	
EE94	社会学特講 4	2	
EE97	社会学特講 5	2	
EE98	社会学特講 6	2	
EF12	文化人類学特講 1	2	
EG12	文化人類学特講 2	2	
EG13	文化人類学特講 3	2	
EF13	文化人類学特講 4	2	
EG15	文化人類学特講 5	2	
EG16	文化人類学特講 6	2	
EG17	文化人類学特講 7	2	
EG22	文化人類学特講11	2	
EG24	文化人類学特講12	2	廃止（～2020）
EP02	比較文化学 2	2	廃止（～2022）
EP11	比較文化学特講 1	2	廃止（～2022）
EP12	比較文化学特講 2	2	
EP13	比較文化学特講 3	2	
EP14	比較文化学特講 4	2	廃止（～2022）
EP15	比較文化学特講 5	2	廃止（～2022）
EP16	比較文化学特講 6	2	
EP17	比較文化学特講 7	2	廃止（～2022）
EP18	比較文化学特講 8	2	廃止（～2022）
EP19	観光と文化	2	
EP20	開発と文化	2	
EP21	環境と人間	2	
EK01	比較文化宗教学 1	2	
EE95	人間関係特講 1	2	
EE96	人間関係特講 2	2	
EL12	自然地理学 1	2	
EL13	自然地理学 2	2	
EL14	自然地理学	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
EL21	人文地理学 1	2	
EL22	人文地理学 2	2	
EL23	人文地理学	2	
EH22	社会調査の技法 1	2	廃止（～2022）
EH23	社会調査の技法 2	2	廃止（～2022）
EH30	社会統計学	2	
EH31	データ分析の基礎	2	
EH32	多変量解析法	2	
EH33	質的調査法 1	2	
EH34	質的調査法 2	2	
EH01	社会調査実習 1	4	
EH02	社会調査実習 2	4	
EH03	社会調査実習 3	4	
EH04	社会調査実習 1 (1)	2	
EH05	社会調査実習 1 (2)	2	
EH06	社会調査実習 2 (1)	2	
EH07	社会調査実習 2 (2)	2	
EH08	社会調査実習 3 (1)	2	
EH09	社会調査実習 3 (2)	2	
EH10	社会心理学論文演習 (1)	2	
EH12	社会心理学論文演習 (2)	2	
EE17	社会学	2	
EH24	社会調査の技法	2	
EH35	質的調査法 3	2	

大学院（社会文化学専攻博士前期課程）

コード	授業科目	単位	備考
TG27	中国思想文化研究特論 I - 1	2	
TG28	中国思想文化研究特論 I - 2	2	
TG41	フランス文化研究特論 I - 1	2	
TG42	フランス文化研究特論 I - 2	2	

▼分類される科目

- 人間関係学科開講科目（科目コード左1文字=E）のうち、a1～a3を除いた科目
- 指定された大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目（科目コード左2文字=TF、TG）

▼履修上の注意

- ① 「地誌学 1」「地誌学 2」は、2017年度以前に修得した場合、「自由選択科目」に集計されますが、2018年度以降に修得した場合「関連分野」に集計されます。
- ② 大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。
- ③ 以下科目は、(1)・(2)セットで履修すること。
「社会調査実習 1 (1)・(2)」
「社会調査実習 2 (1)・(2)」
「社会調査実習 3 (1)・(2)」
「社会心理学論文演習 (1)・(2)」

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. 社会調査士の資格

人間関係学科では社会調査士の資格を取得するために必要なカリキュラムが整っています。卒業時までには6つの指定科目の単位を修得し、社会調査協会に証明書類を送付し、同協会の書類審査に合格することで資格を取得することができます。

なお、社会調査士資格は、人間関係学科生のみが取得可能です。

3. 社会調査実習費

- ① 本学科の学生は2年次の4月の所定期間に社会調査実習費【¥15,000】を納入しなければなりません。
この費用は学科のPC室の環境整備等に充てられます。
- ② 一度納入された社会調査実習費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

㊦ アドミッションポリシー ㊧

人間関係学科では、社会調査の方法論を用いて、社会と人間について研究を行います。そのためには、入学者には、研究の視点と社会調査スキルの土台となる素養として、以下の4点を求めます。

1. 人間や社会に対して関心があり、日常生活の何気ない場面に埋もれている研究の芽に気づく視点が前提となります。そのためには、日ごろからあちこちにアンテナを張り、さまざまなメディアから情報を豊富に得てください。
2. 文献の読解、調査の実施のために、国語や現代文のみならず、図表の読解やデータ処理を行う上で、統計学の素養も求められます。統計学については、入学後に初歩から指導しますが、高校までに機会があれば修得することを推奨します。または、高校までに挫折した場合でも、もう一度、新たな気持ちで初歩から学び直すという勤勉な姿勢が望ましいです。
3. 一部の調査法や分析方法を除いて、学科生のほぼ全員が対人調査を実施することから、対人調査の倫理として、コミュニケーション・スキル、礼儀作法や社会常識は、社会人と同等に求められます。誰とでも良好なコミュニケーションを構築できるよう、課外活動、学外活動などを通じて、さまざまな属性の人との交流を経験することが望ましいです。
4. どの方法論でも自分でデータを収集しますので、現場に出ていく行動力やバイタリティが求められます。

編入学生についても、アドミッション・ポリシーは上記と同様に考えています。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

人間関係学科では、社会が大きな転換点を迎える中、「現代社会とそこに生きる人間」の諸問題について、社会調査の方法論を用いて、多角的な視点から実証的に分析し、広く発信する能力を涵養し、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

1. 現代社会の諸問題に対して、理論を適用して解明していくトップダウンと、現場から問題を上げるボトムアップの両方の視点を持ち、問題の構造を的確に理解し、判断する力。そのための知的好奇心、社会に対する関心、幅広い知識と多様な視点。
2. 自らフィールドに赴き、現場でデータを収集するバイタリティと、コミュニケーション・スキル。調査自体が現場に改善をもたらすアクション・リサーチを含む。そのために必要な社会調査の基本的スキルや、対人調査に関連する倫理意識。
3. 収集したデータを客観的に分析し、新しい知見を得る力。質的データと量的データをそれぞれ分析する能力。
4. 自律と他者との協働に価値を置き、社会に積極的に関わっていく行動力、表現力、指導力。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

人間関係学科には「心理領域」「社会領域」「文化領域」の3つのアプローチがあります。これらは独立したものではなく互いに連関しており、多様な視点から「人間と社会」について探求していきます。また、探求するための「社会調査」のスキルを専門的に修得し、全員が卒業論文では社会調査を実践します。社会調査の専門家であることを示す「社会調査士」の取得カリキュラムも導入しています。

2年次では、まず「心理領域」「社会領域」「文化領域」の各アプローチの概論3科目を履修し、社会を探求していく学問的視座の基礎を習得します。社会調査についても、「社会調査入門」「社会調査の技法」「社会統計学」「質的調査法」といった基礎的な方法論を学び、3年次以降の調査の実践に備えます。また、2年次生の演習（「人間関係共通演習」）では、社会調査に関連する各授業の復習をしながら、グループワークで研究全体の流れを確認し、プレゼンテーションのスキルも身に着けます。

3年次では、「心理領域」「社会領域」「文化領域」の概論を土台として、その中で研究の軸を置く学問分野を決めてメンターを選び、卒論に向けて個人指導が始まります。また、2年次までに座学で学んできた社会調査の方法論を踏まえて、それらを実践していく段階に入ります。「データ分析の基礎」「多変量解析法」といった量的データの処理を高度なレベルで学びつつ、「社会調査実習」では、テーマの選定、先行研究のレビュー、仮説の設定、フィールドワークや対人調査などの実査を通じたデータの収集、分析と考察、報告書の執筆まで、卒論と同じ流れをグループワークで経験します。ここで、一通り研究の実践を学ぶことで社会調査の手法や論文の執筆といった基礎的なスキルを修得し、4年次の卒論に備えます。

4年次では、これまでに学んできた専門的な知識と、社会調査のスキルを融合する形で、学科の学びの集大成として卒業論文が位置づけられています。年度末の卒論発表会では、各自が卒論の研究についてプレゼンテーションを行い、教員や学生との質疑応答を経てより成長します。なお、人間関係学科では社会調査士の認定科目を開講しており、これらを履修すれば、卒業時に社会調査士を取得することができます。

卒業生像

人間関係学科では、社会調査を通じて、「現代社会とそこに生きる人間」の諸問題について、「多角的な視点」から「実証的」に分析し、広く「発信する」能力を涵養し、社会に貢献できる人材の育成を目的としている。期待される卒業生像は、学際的教育によって培われた柔軟な視点と実証研究を通して学んだ論理的な分析能力を活かしながら、幅広い分野で自らの目的・使命を自覚しつつ、自らの意見を発信し、行動できる人間である。企業や行政機関、あるいは、マスコミや教育機関、国内外の研究機関においても、多角的な視点から社会を客観的に分析し、リーダーシップを発揮することが期待される。

人間関係学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	社会心理学・社会学・文化人類学という学科の基礎となる学問領域を学び、社会と人間を学際的・総合的に理解する視点を身につける	ゼミに所属し、専門分野を深く追究すると同時に、「社会調査実習」を通じて社会調査の実践を経験し、調査研究のスキルを修得する	3年次までに修得したスキルに基づいて、各自の研究テーマで調査を行い、論文にまとめる。1月末には卒論発表会でプレゼンを行う
演習科目			
	「人間関係共通演習」	人関-6 「3年次演習」	人関-7 「4年次演習」
講義科目			
	人関-1 各分野の「概論」	人関-2 各分野の「特講」	
社会調査士関連科目			
	人関-3 【理論の学習】	人関-4 【データ処理スキルの学習】	人関-5 【社会調査の実践】

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列	卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-6) 合計：最低28単位			54-58ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6 AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低90単位			144-146ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a5) 合計：最低56単位			144-146ページ
a1 基礎科目	8	必修	
a2 2年次演習	2	準必修	
a3 演習1	4	選択必修	
a4 演習2	4	選択必修	
a5 自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低22単位		選択必修	146ページ
うち第二外国語余剰分			56ページ
[3] ■ 卒業論文 8単位		必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3]の合計：126単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1)			
5-1 1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位集計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要があるので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a4）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 基礎科目（必修・8単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
EN01	人間関係概論1	2	
EN02	人間関係概論2	2	
EN03	人間関係概論3	2	
EH21	社会調査入門	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

人間関係概論1、人間関係概論2、人間関係概論3、社会調査入門は2年次指定科目です。

a2 2年次演習（準必修・2単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
EN11	人間関係共通演習	2	

▼履修上の注意

人間関係共通演習は卒業要件ではありませんが、2年次で必ず履修すること。2年次指定科目のため、3年次以降は履修できません。

a3 演習1 (選択必修・最低4単位) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
ER33	社会心理学演習Ⅰ-1(1)	2	
ER34	社会心理学演習Ⅰ-1(2)	2	
ER35	社会心理学演習Ⅰ-2(1)	2	
ER36	社会心理学演習Ⅰ-2(2)	2	
ER37	社会心理学演習Ⅰ-3(1)	2	
ER38	社会心理学演習Ⅰ-3(2)	2	
ER45	社会学演習Ⅰ-1(1)	2	
ER46	社会学演習Ⅰ-1(2)	2	
ER47	社会学演習Ⅰ-2(1)	2	
ER48	社会学演習Ⅰ-2(2)	2	
ER49	社会学演習Ⅰ-3(1)	2	
ER50	社会学演習Ⅰ-3(2)	2	
ER57	文化人類学演習Ⅰ-1(1)	2	
ER58	文化人類学演習Ⅰ-1(2)	2	
ER59	文化人類学演習Ⅰ-2(1)	2	
ER60	文化人類学演習Ⅰ-2(2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から同じ分野のペアで最低4単位を修得

▼年次指定科目

演習1の各科目は3年次指定科目です。

a4 演習2 (選択必修・最低4単位) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
ER39	社会心理学演習Ⅱ-1(1)	2	
ER40	社会心理学演習Ⅱ-1(2)	2	
ER41	社会心理学演習Ⅱ-2(1)	2	
ER42	社会心理学演習Ⅱ-2(2)	2	
ER43	社会心理学演習Ⅱ-3(1)	2	
ER44	社会心理学演習Ⅱ-3(2)	2	
ER51	社会学演習Ⅱ-1(1)	2	
ER52	社会学演習Ⅱ-1(2)	2	
ER53	社会学演習Ⅱ-2(1)	2	
ER54	社会学演習Ⅱ-2(2)	2	
ER55	社会学演習Ⅱ-3(1)	2	
ER56	社会学演習Ⅱ-3(2)	2	
ER61	文化人類学演習Ⅱ-1(1)	2	
ER62	文化人類学演習Ⅱ-1(2)	2	
ER63	文化人類学演習Ⅱ-2(1)	2	
ER64	文化人類学演習Ⅱ-2(2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から同じ分野のペアで最低4単位を修得

▼年次指定科目

演習2の各科目は4年次指定科目です。

a5 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
EA08	メディアと社会心理	2		EG13	文化人類学特講 3	2	
EA10	社会心理学	2		EF13	文化人類学特講 4	2	
EB01	社会心理学特講 1	2		EG15	文化人類学特講 5	2	
EB02	社会心理学特講 2	2		EG16	文化人類学特講 6	2	
EB13	社会心理学特講 3	2		EG17	文化人類学特講 7	2	
EB14	社会心理学特講 4	2		EG22	文化人類学特講11	2	
EB15	社会心理学特講 5	2		EH04	社会調査実習 1 (1)	2	
EB16	社会心理学特講 6	2		EH05	社会調査実習 1 (2)	2	
EB17	社会心理学特講 7	2		EH06	社会調査実習 2 (1)	2	
EB18	社会心理学特講 8	2		EH07	社会調査実習 2 (2)	2	
EB19	社会心理学特講 9	2		EH08	社会調査実習 3 (1)	2	
EB20	社会心理学特講10	2		EH09	社会調査実習 3 (2)	2	
EB21	社会心理学特講11	2		EH21	社会調査入門	2	
EB22	社会心理学特講12	2		EH24	社会調査の技法	2	
EH10	社会心理学論文演習 (1)	2		EH30	社会統計学	2	
EH12	社会心理学論文演習 (2)	2		EH31	データ分析の基礎	2	
EB93	情報活用の社会的実践	2		EH32	多変量解析法	2	
EE17	社会学	2		EH33	質的調査法 1	2	
EE23	家族社会学	2		EH34	質的調査法 2	2	
EE34	職業社会学	2		EH35	質的調査法 3	2	
EE77	ファッションの社会学	2		EL14	自然地理学	2	
EE91	社会学特講 1	2		EL23	人文地理学	2	
EE92	社会学特講 2	2		EN11	人間関係共通演習	2	
EE93	社会学特講 3	2		EP19	観光と文化	2	
EE94	社会学特講 4	2		EP20	開発と文化	2	
EE95	人間関係特講 1	2		EP21	環境と人間	2	
EE96	人間関係特講 2	2					
EE97	社会学特講 5	2					
EE98	社会学特講 6	2					
EF03	文化人類学	2					
EF12	文化人類学特講 1	2					
EG12	文化人類学特講 2	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. 社会調査士の資格

人間関係学科では社会調査士の資格を取得するために必要なカリキュラムが整っています。卒業時までA～Gに対応する6つの指定科目の単位を修得し（EとFはどちらかを選択）、社会調査協会に証明書類を送付し、同協会の書類審査に合格することで資格を取得することができます（詳細は一般社団法人社会調査協会を参照のこと）。なお、社会調査士資格は、人間関係学科生のみが取得可能です。

卒業要件ではありませんが、卒業論文では全員が社会調査を実施することから、人間関係学科では社会調査士科目の履修を推奨します。

社会調査士カリキュラム

【A】	社会調査の基本的事項に関する科目
【B】	調査設計と実施方法に関する科目
【C】	基本的な資料とデータの分析に関する科目
【D】	社会調査に必要な統計学に関する科目
【E】	多変量解析の方法に関する科目
【F】	質的な調査と分析の方法に関する科目社会調査を実際に経験し学習する科目
【G】	社会調査を実際に経験し学習する科目

EとFはどちらかを選択

人間関係学科における社会調査士科目履修モデル（領域別）

	人間関係学科開講科目	対象学年	心理領域	社会領域	文化領域	備考
【A】	社会調査入門	234	○	○	○	卒業要件の必修科目
【B】	社会調査の技法A	234	○ ^{*1}	○ ^{*1}	○ ^{*1}	
	社会調査の技法B	234	○ ^{*1}	○ ^{*1}	○ ^{*1}	
【C】	データ分析の基礎A	34	○			多変量解析法Aとセット受講
	データ分析の基礎B	34		○	○	
【D】	社会統計学	234	○	○	○	
【E】	多変量解析法A	34	○			データ分析の基礎Aとセット受講 2023年度は開講取り止め
	多変量解析法B	34	—	—	—	
【F】	質的調査法1	234	○ ^{*2}	○ ^{*2}	○ ^{*2}	
	質的調査法2	234	○ ^{*2}	○ ^{*2}	○ ^{*2}	
	質的調査法3	234	○ ^{*2}	○ ^{*2}	○ ^{*2}	
【G】	社会調査実習1	34	○			
	社会調査実習2	34		○		
	社会調査実習3	34			○	

※1、※2は、いずれか1科目の履修で可。社会調査士取得においてはE科目とF科目はどちらか一方のみでよいが、学科の学びとしてF科目はすべての分野に履修を推奨する。

3. 社会調査実習費

- ① 本学科の学生は2年次の4月の所定期間に社会調査実習費【¥15,000】を納入しなければなりません。この費用は学科のPC室の環境整備等に充てられます。
- ② 一度納入された社会調査実習費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

㊦ アドミッションポリシー ㊧

国際交流学科では、大学の理念に共感し、国際化した社会のなかで自立した女性として実践的に活動することをめざし、そのための幅広い教養と高い専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望する皆さんに進学していただきたいと願っています。本学科では、自らの問題意識に基づいて探究を行い、自分の意見を正確に発信し、異なる意見も尊重しながら議論を進め、適切な判断を下す力も重要だと考えています。そのため、興味・関心のある事柄について協力し合って調べることが体験し、また論理的に考え、書き、話す力、すなわち論理的思考力とコミュニケーション能力を養っておくことが望まれます。本学科では、コース別に受け入れますが、どちらのコースで学んでも高い言語コミュニケーション能力と、深く幅広い専門知識を身に付け、将来、異文化を理解し国際社会に貢献できる人物になりたいと考える学生を望んでいます。そのため、国際交流の学生には国際社会における様々な現象、動態に関心を持ち、それらの分析や問題解決のために多角的な視野を持って論理的に判断、考察できる能力を身に付けることを期待されます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

国際交流学科は、「一人一人の人間をかけがえない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づいて卒業生を社会に送り出します。

1. 国際社会が直面する課題について、専門的な知識と柔軟な思考力、的確な判断力を持って、自分の意見を発信する力と広い視野から国際貢献および異文化理解を实践しうる能力
2. 高い語学力を持つことに加えて、世界の様々な社会や文化に対する深い理解に裏付けられた、異なる文化的背景を持った人々と協働するために真に役立つ外国語コミュニケーション能力
3. 言語・文化・社会についての学びを通じ「自分とは異なる他者・文化・社会」を理解する力を獲得し、主体的かつ協働的なコミュニケーションを実践することのできる力
4. 政治、経済、社会、文化など様々な面でのグローバル化が進行する中、それらを伝えるメディアや社会のあり方について、多角的な視座から把握し正確に分析する力
5. 1つの問題を深く追究することによって養われる探求力と最後までやり抜く課題遂行能力
6. それぞれの専門領域での研究を通して養われる批判的読解力と思考力、アクティブラーニングの実践を通じて獲得される協働力、実践力

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

国際交流学科では、国際社会の諸問題を研究するためには幅広い学問領域を学ぶことが重要であると考えるカリキュラムを組んでいます。国際交流学科に所属する学生は、2年次からグローバル社会コースまたは異文化コミュニケーションコースが開講する専攻分野の授業科目を履修し、各コースの必修授業、演習、講義、実習等を通して専門性を深めます。

カリキュラムの中心に据えられる演習は両コースとも少人数のゼミ形式で行われ、学生が中心になって行う研究や発表を通して、専門領域についての知識や理解を深めるとともに、十分な発信力や説得力を身につけます。

4年次には学科およびコースで深めた学問の集大成として、両コースとも全員が卒業論文を作成します。このように専門性を深める一方で、所属するコース・学科以外の授業科目を関連分野の科目として履修したり、総合現代教養科目を履修したりすることで、専攻分野だけに限定されることなく、現代人として世界を理解し、積極的に社会に関わるための視野を広げます。

グローバル社会コースでは、国際貢献能力を開発する「INSPIREプログラム」を2年次から履修し、ネイティブによる実践的英語演習、ICT活用、国内外での社会・地域連携を体験するアクティブラーニングを通じて、グローバルマインド、グローバルスキル、協働力を養います。多様性に富むグローバル社会を理解するために必要な知識と実践は、2・3・4年次生を対象とする豊富な専門科目によって、とくに思考力と発信力を身につけます。歴史・制度・理論・現状・課題などを、国際政治、国際経済、国際法、国際協力の柱を中心に、一人一人の志向に沿った自由度の高いティラーメイド型の科目選択方式で、多角的に学びます。

異文化コミュニケーションコースでは、2年次に英語（必修）とフランス語、ドイツ語、中国語、韓国語、スペイン語（ひとつを選ぶ選択必修）のコミュニケーション科目からなる「言語コミュニケーション」を履修し、実践的な語学コミュニケーション能力を身に付け、「留学プロジェクト1」および「海外異文化研究」を履修して海外での学びに向けた準備を行います。異文化コミュニケーションを理解するために必要な知識と実践は、「グローバル・コミュニケーション領域」「グローバル・メディア領域」「グローバル・スタディ領域」の3領域の専門科目を体系的に学び、広い視野と柔軟な思考力を養います。

両コースとも、3年次から4年次にかけて演習科目を履修することにより、より深い専門的な研究を行います。そして、多様な情報の整理、問題に対する多角的な考察および論理的な分析を通して卒業論文に接続していきます。

卒業生像

国際交流学科グローバル社会コースは、社会変化に適切に対応できる見識と幅広い国際的視野を備え、文化間の相互理解や交流に貢献できる人間教育を目的としている。そのような観点から、当学科は、次のような卒業生の輩出を目指している。すなわち、多様な文化に関する学問的知識を深め、同時に高い言語コミュニケーション能力を持ち、広く国際問題を理解するための政治・経済・法律などの社会科学や情報処理の専門知識を有し、総合的な思考力と判断力と行動力を身に付けた者、という姿である。

国際交流学科：グローバル社会コース カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
コースの専門科目 専門領域について深く学び、国際社会に貢献するグローバル・マインドを確立する			
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的教養を学びグローバルに視野を拡大しつつ、英語で自分の意見を発信する能力やICT運用力などのスキルを高める。 ・自己実現の第一歩を、アクティブラーニングを通じて実践する (INSPIREプログラム) ・国際政治、国際経済、国際文化協力、国際人権論、国際環境論という、専門領域の基礎を学ぶ。 ・語学研修、フィールドプロジェクトを通じた学びが推奨される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的教養を多角的に習得して深め、所属ゼミで専門的研究に着手する。情報収集能力・論理的思考力・協働力・発信力・創造力・実践力を高める。 ・母語および英語で、国際的に対話可能な発信力を、実践レベルへと向上させる。 ・留学やインターンシップの実践を通じた学びが推奨される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミを中心に専門分野での研究を深め、それまでの学習の集大成として学術的に質の高い卒業論文を完成させる。 ・英語運用能力は研究調査のツールとして活用可能なレベルに到達。
国際(グローバル)-1 INSPIRE プログラム			
グローバル社会概論 Global Communication in English		国際(グローバル)-3 演習I (3年ゼミ)	国際(グローバル)-4 演習II (4年ゼミ)
国際(グローバル)-2 グローバル社会コース専門科目			
異文化コミュニケーションコース科目			

※1 2018年度入学者から国際交流学科は、グローバル社会コースと異文化コミュニケーションコースの2コース制になります。2017年度以前入学者は、2020年度以前の履修要覧で確認してください。

▼卒業までに必要とする最低単位数（2018～2022年度入学者）

分野系列	卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-5) 合計：最低26単位			39-44ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低98単位			151-154ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1～a7) 合計：最低60単位			151-154ページ
a1 INSPIREプログラム必修科目	8	必修	
a2 INSPIREプログラム選択科目	6	選択必修	
a3 グローバル社会コース専門科目	18	選択必修	
a4 演習Ⅰ	4	選択必修	
a5 演習Ⅱ	4	選択必修	
a6 異文化コミュニケーションコース科目	—		
a7 自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低26単位		選択必修	154ページ
うち第二外国語余剰分			43ページ
[3] ■ 卒業論文 8単位		必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：132単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1～5-2)			
5-1 1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2 運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要があるので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a7）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 INSPIREプログラム必修科目（必修・8単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GK11	グローバル社会概論 1	2	
GK12	グローバル社会概論 2	2	
GK61	Global Communication in English 1	2	
GK62	Global Communication in English 2	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

グローバル社会概論、Global Communication in Englishは2年次指定科目です。

a2 INSPIRE プログラム選択科目（選択必修・最低6単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GL11	Global Agenda and Trends	2	廃止（～2022）
GL12	Talking about Global Issues	2	
GL13	グローバル・リーダーシップ論	2	廃止（～2022）
GL14	Project Planning for International Cooperation	2	
GL15	Japan in the Global Context	2	
GL16	情報リテラシー	2	廃止（～2022）
GL17	統計学への招待	2	廃止（～2022）
GL18	情報処理入門 1	2	
GL19	情報処理入門 2	2	
GN67	English for Global Communicators	2	
GP53	リーダーシップ論	2	

▼卒業要件

- 左記の科目から最低6単位修得していること

▼履修上の注意

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

INSPIREプログラムの代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
GL11	Global Agenda and Trends <2>	GN67	English for Global Communicators <2>
GL13	グローバル・リーダーシップ論 <2>	GP53	リーダーシップ論 <2>

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a3 グローバル社会コース専門科目（選択必修・最低18単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
GM11	国際政治学 1	2		GM55	難民・移民論	2	
GM12	国際政治学 2	2		GM57	現代人権論	2	
GD22	国際経済学 1	2		GM58	世界の人権	2	
GD23	国際経済学 2	2		GM61	国際問題特殊講義 1	2	
GM15	政治学 1	2		GM62	国際問題特殊講義 2	2	
GM16	政治学 2	2		GM66	中国の法と政治	2	
GM17	マクロ経済学	2		GM71	地域研究 1	2	
GM18	ミクロ経済学	2		GM72	地域研究 2	2	
GM19	経済政策論	2		GM73	地域研究 3	2	
GM20	開発経済論	2		GM74	地域研究 4	2	
GD32	ICT社会論	2		GM75	地域研究 5	2	
GM25	ソーシャルビジネス論	2		GM81	国際環境論 1	2	
GM31	国際機関論	2		GM82	国際環境論 2	2	
GM35	公法とガバナンス	2	廃止（～2022）	GM83	NGOと市民社会	2	
GM37	国際法	2		GM84	食と環境	2	
GM41	地球環境論	2	廃止（～2022）	GM85	資源と環境	2	
GM45	UNESCO and the World Heritage Convention	2					
GM46	International Policies for Cultural Sustainability	2					
GM51	文化多様性実習	2					
GM52	文化遺産学	2					
GM53	国際開発論 1	2	廃止（～2022）				
GM54	国際開発論 2	2	廃止（～2022）				

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

上記の科目から最低18単位修得していること

a4 演習 I（選択必修・最低 4 単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GC81	国際政治演習 I（1）	2	
GC82	国際政治演習 I（2）	2	
GD71	国際経済演習 I（1）	2	
GD72	国際経済演習 I（2）	2	
GT11	国際文化協力演習 I（1）	2	
GT12	国際文化協力演習 I（2）	2	
GT31	国際人権論演習 I（1）	2	
GT32	国際人権論演習 I（2）	2	
GT41	国際環境論演習 I（1）	2	
GT42	国際環境論演習 I（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から(1)(2)科目ペアで最低4単位修得していること

▼年次指定科目

演習 I の各科目は3年次指定科目です。

a5 演習Ⅱ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GC91	国際政治演習Ⅱ（1）	2	
GC92	国際政治演習Ⅱ（2）	2	
GD81	国際経済演習Ⅱ（1）	2	
GD82	国際経済演習Ⅱ（2）	2	
GT13	国際文化協力演習Ⅱ（1）	2	
GT14	国際文化協力演習Ⅱ（2）	2	
GT33	国際人権論演習Ⅱ（1）	2	
GT34	国際人権論演習Ⅱ（2）	2	
GT43	国際環境論演習Ⅱ（1）	2	
GT44	国際環境論演習Ⅱ（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から(1)(2)科目ペアで最低4単位修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅱの各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

演習Ⅱは、原則として演習Ⅰと同じものを履修しなければなりません。ただし、双方の授業担当者が認めた場合に限り、演習Ⅰとは異なる演習Ⅱを履修することができます。

a6 異文化コミュニケーションコース科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GP11	グローバル・メディアⅠ（1）	2	
GP12	グローバル・メディアⅠ（2）	2	
GP13	グローバル・メディアⅡ（1）	2	
GP14	グローバル・メディアⅡ（2）	2	
GP15	グローバル・メディアⅢ（1）	2	
GP16	グローバル・メディアⅢ（2）	2	
GP17	グローバル・メディアⅣ（1）	2	
GP18	グローバル・メディアⅣ（2）	2	
GP19	グローバル・メディアⅤ（1）	2	
GP20	グローバル・メディアⅤ（2）	2	廃止（～2022）
GP21	グローバル・メディアⅥ（1）	2	
GP22	グローバル・メディアⅥ（2）	2	
GP23	グローバル・メディアⅦ（1）	2	
GN63	English CommunicationⅡ（1）	2	
GN64	English CommunicationⅡ（2）	2	廃止（～2022）
GP41	グローバル・コミュニケーションⅠ（1）	2	
GP42	グローバル・コミュニケーションⅠ（2）	2	廃止（～2022）
GP43	グローバル・コミュニケーションⅡ（1）	2	廃止（～2022）
GP44	グローバル・コミュニケーションⅡ（2）	2	廃止（～2022）
GP45	グローバル・コミュニケーションⅢ（1）	2	
GP46	グローバル・コミュニケーションⅢ（2）	2	
GP47	グローバル・コミュニケーションⅣ（1）	2	
GP48	グローバル・コミュニケーションⅣ（2）	2	
GP49	グローバル・コミュニケーションⅤ（1）	2	廃止（～2022）
GP50	グローバル・コミュニケーションⅤ（2）	2	廃止（～2022）
GP51	グローバル・コミュニケーションⅥ（1）	2	廃止（～2022）
GP52	グローバル・コミュニケーションⅥ（2）	2	
GP71	グローバル・スタディーズⅠ（1）	2	
GP72	グローバル・スタディーズⅠ（2）	2	
GP73	グローバル・スタディーズⅡ（1）	2	
GP74	グローバル・スタディーズⅡ（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
GP75	グローバル・スタディーズⅢ（1）	2	
GP76	グローバル・スタディーズⅢ（2）	2	
GP77	グローバル・スタディーズⅣ（1）	2	廃止（～2022）
GP78	グローバル・スタディーズⅣ（2）	2	廃止（～2022）
GP79	グローバル・スタディーズⅤ（1）	2	廃止（～2022）
GP80	グローバル・スタディーズⅤ（2）	2	廃止（～2022）
GP81	グローバル・スタディーズⅥ（1）	2	廃止（～2022）
GP82	グローバル・スタディーズⅥ（2）	2	廃止（～2022）
GP83	グローバル・スタディーズⅦ（1）	2	
GP84	グローバル・スタディーズⅦ（2）	2	
GP85	グローバル・スタディーズⅧ（1）	2	廃止（～2022）
GB12	法律学〔含国際法〕	4	廃止（～2022）
GB13	法律学Ⅰ	2	
GB14	法律学Ⅱ	2	
GJ25	フランス語コミュニケーション（1）	2	
GJ26	フランス語コミュニケーション（2）	2	
GJ35	ドイツ語コミュニケーション（1）	2	
GJ36	ドイツ語コミュニケーション（2）	2	
GJ45	スペイン語コミュニケーション（1）	2	
GJ46	スペイン語コミュニケーション（2）	2	
GJ55	中国語コミュニケーション（1）	2	
GJ56	中国語コミュニケーション（2）	2	
GJ65	コリア語コミュニケーション（1）	2	
GJ66	コリア語コミュニケーション（2）	2	

▼履修上の注意

各言語コミュニケーションは、(1)⇒(2)の順に履修しなければなりません。

※「履修していなければなりません」とは、履修したことがあるかどうかのみを条件としていて、単位が修得できているかどうかは問いません。

a7 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

大学院（社会文化学専攻博士前期課程）

コード	授業科目	単位	備考
TG27	中国思想文化研究特論Ⅰ-1	2	
TG28	中国思想文化研究特論Ⅰ-2	2	
TG41	フランス文化研究特論Ⅰ-1	2	
TG42	フランス文化研究特論Ⅰ-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

指定された大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目（科目コード左2文字=TF、TG）。

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

㊦ アドミッションポリシー ㊧

国際交流学科では、大学の理念に共感し、国際化した社会のなかで自立した女性として実践的に活動することをめざし、そのための幅広い教養と高い専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望する皆さんに進学していただきたいと願っています。

本学科では、自らの問題意識に基づいて探究を行い、自分の意見を正確に発信し、異なる意見も尊重しながら議論を進め、適切な判断を下す力も重要だと考えています。

そのため、興味・関心のある事柄について協力し合って調べることを体験し、また論理的に考え、書き、話す力、すなわち論理的思考力とコミュニケーション能力を養っておくことが望まれます。

本学科では、コース別に受け入れますが、どちらのコースで学んでも高い言語コミュニケーション能力と、深く幅広い専門知識を身に付け、将来、異文化を理解し国際社会に貢献できる人物になりたいと考える学生を望んでいます。

そのため、国際交流の学生には国際社会における様々な現象、動態に関心を持ち、それらの分析や問題解決のために多角的な視野を持って論理的に判断、考察できる能力を身に付けることを期待されます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

国際交流学科は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づいて「関わる力」を備えた卒業生を社会に送り出します。

1. 国際社会が直面する課題について、専門的な知識と柔軟な思考力、的確な判断力を持って、自分の意見を発信し広い視野での国際貢献を实践しうる能力
2. 世界のさまざまな社会や立場に対する深い理解に裏付けられた、異なる背景を持った人々と協働するために真に役立つ言語コミュニケーション能力
3. 言語・文化・社会についての学びを通じ「自分とは異なる他者・文化・社会」を理解する力を獲得し、多様性の中で主体的に協働できる力
4. 政治、経済、社会、文化などさまざまな面でグローバル化が進行する中、それらを伝えるメディアや社会のあり方について、多角的な視座から把握し正確に分析する力
5. ひとつの問題を深く追究することによって養われる探求力と最後までやり抜く課題遂行能力
6. それぞれの専門領域での研究を通して養われる批判的読解力と思考力、アクティブラーニングを通じて獲得される協働力、実践力

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

国際交流学科では、国際社会の諸問題を研究するためには幅広い学問領域を学ぶことが重要であると考えてカリキュラムを組んでいます。国際交流学科に所属する学生は、2年次からグローバル社会コースまたは異文化コミュニケーションコースが開講する専攻分野の必修科目、その他講義科目、演習科目を通して専門性を深めます。

グローバル社会コースでは、国際貢献力を高める「INSPIREプログラム」を2年次から履修し、実践的英語、ICT活用、国内外でのアクティブラーニングを通じて、グローバルマインドとスキル、協働力を養います。また政治、経済、法、人権、文化、環境の諸分野について国際的規模での歴史・理論・制度・課題を、各自の志向に沿った自由度の高い選択方式で多角的に学び、多様性に富むグローバル社会を理解するための知識と思考力を身につけます。

異文化コミュニケーションコースでは、2年次に「異文化コミュニケーション概論」を履修し、異文化間で生じる作用、現象について考察を深めます。異文化コミュニケーションを理解するために必要な知識は、「グローバル・コミュニケーション領域」「グローバル・メディア領域」「グローバル・スタディーズ領域」の3領域の専門科目を体系的に学ぶことによって修得し、広い視野と柔軟な思考力を養います。

3年次から4年次にかけては、演習科目を履修することによって、より専門的な研究を行います。演習科目は少人数のゼミ形式で行われ、学生が中心になって行う研究や発表を通して、専門領域に関する知識や理解を深めるとともに、十分な発信力や説得力を身につけます。そして、多様な情報の整理、問題に対する論理的な考察と分析を通して、4年次にはそれまでに深めた学問の集大成として、卒業論文を執筆します。

現代人として世界を理解し積極的に社会に関わるためには、リベラル・アーツの学びを尊重し、他学科の授業科目や総合現代教養科目も関連分野、全学共通科目として履修することで専門分野との関連性を見出し、教養を深めます。

卒業生像

国際交流学科グローバル社会コースは、社会変化に適切に対応できる見識と幅広い国際的視野を備え、文化間の相互理解や交流に貢献できる人間教育を目的としている。そのような観点から、当学科は、次のような卒業生の輩出を目指している。すなわち、多様な文化に関する学問的知識を深め、同時に高い言語コミュニケーション能力を持ち、広く国際問題を理解するための政治・経済・法律などの社会科学や情報処理の専門知識を有し、総合的な思考力と判断力と行動力を身に付けた者、という姿である。

国際交流学科：グローバル社会コース カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
コースの専門科目 専門領域について深く学び、国際社会に貢献するグローバル・マインドを確立する			
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的教養を学びグローバルに視野を拡大しつつ、英語で自分の意見を発信する能力やICT運用力などのスキルを高める。 ・自己実現の第一歩を、アクティブラーニングを通じて実践する（INSPIREプログラム） ・国際政治、国際経済、国際文化協力、国際人権論、国際環境論という、専門領域の基礎を学ぶ。 ・語学研修、フィールドプロジェクトを通じた学びが推奨される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的教養を多角的に習得して深め、所属ゼミで専門的研究に着手する。情報収集能力・論理的思考力・協働力・発信力・創造力・実践力を高める。 ・母語および英語で、国際的に対話可能な発信力を、実践レベルへと向上させる。 ・留学やインターンシップの実践を通じた学びが推奨される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミを中心に専門分野での研究を深め、それまでの学習の集大成として学術的に質の高い卒業論文を完成させる。 ・英語運用能力は研究調査のツールとして活用可能なレベルに到達。
国際(グローバル)-1 INSPIRE プログラム			
グローバル社会概論 Global Communication in English		国際(グローバル)-3 演習I (3年ゼミ)	国際(グローバル)-4 演習II (4年ゼミ)
国際(グローバル)-2 グローバル社会コース専門科目			
異文化コミュニケーションコース科目			

※1 2018年度入学者から国際交流学科は、グローバル社会コースと異文化コミュニケーションコースの2コース制になります。2017年度以前入学者は、2020年度以前の履修要覧で確認してください。

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区 分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-6) 合計：最低28単位				54-58ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6	AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低90単位				158-161ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a7) 合計：最低56単位				158-160ページ
a1	INSPIREプログラム必修科目	8	必修	
a2	INSPIREプログラム選択科目	4	選択必修	
a3	グローバル社会コース専門科目	-	選択	
a4	演習Ⅰ	4	選択必修	
a5	演習Ⅱ	4	選択必修	
a6	異文化コミュニケーションコース科目	-		
a7	自由選択科目	-	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低22単位			選択必修	161ページ
うち第二外国語余剰分				56ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：126単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1)				
5-1	1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a7）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 INSPIREプログラム必修科目（必修・8単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GK13	グローバル社会概論（1）	2	
GK14	グローバル社会概論（2）	2	
GK63	Global Communication in English（1）	2	
GK64	Global Communication in English（2）	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

グローバル社会概論、Global Communication in Englishは2年次指定科目です。

a2 INSPIREプログラム選択科目（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GN67	English for Global Communicators	2	
GL12	Talking about Global Issues	2	
GP53	リーダーシップ論	2	
GL20	国際協力プロジェクト実習	2	
GL15	Japan in the Global Context	2	
GL21	情報処理入門Ⅰ	2	
GL22	情報処理入門Ⅱ	2	

▼卒業要件

- 左記の科目から最低4単位修得していること

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a3 グローバル社会コース専門科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
GM11	国際政治学 1	2		GM78	現代人権論 1	2	
GM12	国際政治学 2	2		GM79	現代人権論 2	2	
GD22	国際経済学 1	2		GM59	国際問題ワークショップ 1	2	
GD23	国際経済学 2	2		GM60	国際問題ワークショップ 2	2	
GM15	政治学 1	2		GM68	東アジア地域論	2	
GM16	政治学 2	2		GM69	東南アジア地域論	2	
GM17	マクロ経済学	2		GM56	EU論	2	
GM18	ミクロ経済学	2		GM70	中東地域論	2	
GM19	経済政策論	2		GM76	ラテンアメリカ地域論	2	
GM20	開発経済論	2		GM77	アフリカ地域論	2	
GD32	ICT社会論	2		GM81	国際環境論 1	2	
GM25	ソーシャルビジネス論	2		GM82	国際環境論 2	2	
GM67	国際機構論	2		GM63	NGO基礎ワークショップ	2	
GM37	国際法	2		GM64	環境学 1	2	
GM50	国際協力基礎ワークショップ	2		GM65	環境学 2	2	
GM47	国際文化協力論	2					
GM48	国際文化政策論 1	2					
GM49	国際文化政策論 2	2					
GM55	難民・移民論	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

上記の科目から少なくとも 9 科目（18単位）は履修するようにしてください。

a4 演習 I（選択必修・最低 4 単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GC81	国際政治演習 I（1）	2	
GC82	国際政治演習 I（2）	2	
GD71	国際経済演習 I（1）	2	
GD72	国際経済演習 I（2）	2	
GT11	国際文化協力演習 I（1）	2	
GT12	国際文化協力演習 I（2）	2	
GT31	国際人権論演習 I（1）	2	
GT32	国際人権論演習 I（2）	2	
GT41	国際環境論演習 I（1）	2	
GT42	国際環境論演習 I（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から (1) (2) 科目ペアで最低 4 単位修得していること

▼年次指定科目

演習 I の各科目は 3 年次指定科目です。

a5 演習Ⅱ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GC91	国際政治演習Ⅱ（1）	2	
GC92	国際政治演習Ⅱ（2）	2	
GD81	国際経済演習Ⅱ（1）	2	
GD82	国際経済演習Ⅱ（2）	2	
GT13	国際文化協力演習Ⅱ（1）	2	
GT14	国際文化協力演習Ⅱ（2）	2	
GT33	国際人権論演習Ⅱ（1）	2	
GT34	国際人権論演習Ⅱ（2）	2	
GT43	国際環境論演習Ⅱ（1）	2	
GT44	国際環境論演習Ⅱ（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から(1)(2)科目ペアで最低4単位修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅱの各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

演習Ⅱは、原則として演習Ⅰと同じものを履修しなければなりません。ただし、双方の授業担当者が認めた場合に限り、演習Ⅰとは異なる演習Ⅱを履修することができます。

a6 異文化コミュニケーションコース科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GP24	メディアと社会1	2	
GP25	メディアと社会2	2	
GP26	メディアと社会3	2	
GP27	メディアと社会4	2	
GP28	国際メディア論1	2	
GP29	国際メディア論2	2	
GP30	国際ニュースワークショップ1	2	
GP31	国際ニュースワークショップ2	2	
GP32	メディアワークショップ1	2	
GP33	メディアワークショップ2	2	
GP34	異文化メディア論1	2	
GP35	異文化メディア論2	2	
GP36	比較文化論	2	
GP37	交渉と対話	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
GP38	言語とアイデンティティ	2	
GP39	グローバル社会と言語	2	
GP40	異文化理解とコミュニケーション	2	
GP54	フランスの社会と文化1	2	
GP55	フランスの社会と文化2	2	
GP56	フランス事情1	2	
GP57	フランス事情2	2	
GP58	東アジアの社会と文化1	2	
GP59	東アジアの社会と文化2	2	
GP60	現代家族法1	2	
GP61	現代家族法2	2	
GB13	法律学Ⅰ	2	
GB14	法律学Ⅱ	2	

a7 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

大学院（社会文化学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TG27	中国思想文化研究特論Ⅰ-1	2	
TG28	中国思想文化研究特論Ⅰ-2	2	
TG41	フランス文化研究特論Ⅰ-1	2	
TG42	フランス文化研究特論Ⅰ-2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

指定された大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目（科目コード左2文字=TF、TG）。

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】**1. 卒業要件外の科目**

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

㊦ アドミッションポリシー ㊧

国際交流学科では、大学の理念に共感し、国際化した社会のなかで自立した女性として実践的に活動することをめざし、そのための幅広い教養と高い専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望する皆さんに進学していただきたいと願っています。本学科では、自らの問題意識に基づいて探究を行い、自分の意見を正確に発信し、異なる意見も尊重しながら議論を進め、適切な判断を下す力も重要だと考えています。そのため、興味・関心のある事柄について協力し合って調べることがを体験し、また論理的に考え、書き、話す力、すなわち論理的思考力とコミュニケーション能力を養っておくことが望まれます。本学科では、コース別に受け入れますが、どちらのコースで学んでも高い言語コミュニケーション能力と、深く幅広い専門知識を身に付け、将来、異文化を理解し国際社会に貢献できる人物になりたいと考える学生を望んでいます。そのため、国際交流の学生には国際社会における様々な現象、動態に関心を持ち、それらの分析や問題解決のために多角的な視野を持って論理的に判断、考察できる能力を身に付けることを期待されます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

国際交流学科は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づいて卒業生を社会に送り出します。

1. 国際社会が直面する課題について、専門的な知識と柔軟な思考力、的確な判断力を持って、自分の意見を発信する力と広い視野から国際貢献および異文化理解を実践しうる能力
2. 高い語学力を持つことに加えて、世界の様々な社会や文化に対する深い理解に裏付けられた、異なる文化的背景を持った人々と協働するために真に役立つ外国語コミュニケーション能力
3. 言語・文化・社会についての学びを通じ「自分とは異なる他者・文化・社会」を理解する力を獲得し、主体的かつ協働的なコミュニケーションを実践することのできる力
4. 政治、経済、社会、文化など様々な面でのグローバル化が進行する中、それらを伝えるメディアや社会のあり方について、多角的な視座から把握し正確に分析する力
5. 1つの問題を深く追究することによって養われる探求力と最後までやり抜く課題遂行能力
6. それぞれの専門領域での研究を通して養われる批判的読解力と思考力、アクティブラーニングの実践を通じて獲得される協働力、実践力

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

国際交流学科では、国際社会の諸問題を研究するためには幅広い学問領域を学ぶことが重要であると考えるカリキュラムを組んでいます。国際交流学科に所属する学生は、2年次からグローバル社会コースまたは異文化コミュニケーションコースが開講する専攻分野の授業科目を履修し、各コースの必修授業、演習、講義、実習等を通して専門性を深めます。

カリキュラムの中心に据えられる演習は両コースとも少人数のゼミ形式で行われ、学生が中心になって行う研究や発表を通して、専門領域についての知識や理解を深めるとともに、十分な発信力や説得力を身につけます。

4年次には学科およびコースで深めた学問の集大成として、両コースとも全員が卒業論文を作成します。このように専門性を深める一方で、所属するコース・学科以外の授業科目を関連分野の科目として履修したり、総合現代教養科目を履修したりすることで、専攻分野だけに限定されることなく、現代人として世界を理解し、積極的に社会に関わるための視野を広げます。

グローバル社会コースでは、国際貢献能力を開発する「INSPIREプログラム」を2年次から履修し、ネイティブによる実践的英語演習、ICT活用、国内外での社会・地域連携を体験するアクティブラーニングを通じて、グローバルマインド、グローバルスキル、協働力を養います。多様性に富むグローバル社会を理解するために必要な知識と実践は、2・3・4年次生を対象とする豊富な専門科目によって、とくに思考力と発信力を身につけます。歴史・制度・理論・現状・課題などを、国際政治、国際経済、国際法、国際協力の柱を中心に、一人一人の志向に沿った自由度の高いティラーメイド型の科目選択方式で、多角的に学びます。

異文化コミュニケーションコースでは、2年次に英語（必修）とフランス語、ドイツ語、中国語、韓国語、スペイン語（ひとつを選ぶ選択必修）のコミュニケーション科目からなる「言語コミュニケーション」を履修し、実践的な語学コミュニケーション能力を身に付け、「留学プロジェクト1」および「海外異文化研究」を履修して海外での学びに向けた準備を行います。異文化コミュニケーションを理解するために必要な知識と実践は、「グローバル・コミュニケーション領域」「グローバル・メディア領域」「グローバル・スタディ領域」の3領域の専門科目を体系的に学び、広い視野と柔軟な思考力を養います。

両コースとも、3年次から4年次にかけて演習科目を履修することにより、より深い専門的な研究を行います。そして、多様な情報の整理、問題に対する多角的な考察および論理的な分析を通して卒業論文に接続していきます。

卒業生像

国際交流学科異文化コミュニケーションコースは、幅広い国際的視野を備え、急速に変化を遂げる世界の現状に柔軟に対応できる人間、すなわち「グローバル・コミュニケーター」の育成を目的とする。本コースの学生は、留学や海外異文化研究等を通して、異文化との接触の現場に実際に身を置く。そこで生じるさまざまな事象—理解や摩擦—を体験し、現代の世界に通じる国際的感覚を養う。このようにして育つ「グローバル・コミュニケーター」は、高い言語コミュニケーション能力を持ち、広く国際問題を理解するための専門知識を有する人物である。

国際交流学科：異文化コミュニケーションコース カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップ及び該当科目については、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
コースの専門科目 専門領域について深く学び、物事の方法を身につける			
	メディア論、異文化コミュニケーション論、地域社会文化研究というコースの3つの学問領域の基礎を学ぶと同時に、自らの意見を外国語によって発信する能力を身につけ、海外異文化研究、留学に向けた実践的準備を行う。	海外異文化研究、ないし留学（半年、1年）を通して実際に海外での学習経験を積むことで、実践的かつ柔軟な異文化理解のスキル、ならびに専門的知識を身につける。	演習での学びを中心に、専門分野の知識を深めると同時に、外国語による発信能力にさらに磨きをかけ、アカデミックで、かつ質の高い卒業論文の完成を目指す。
	異文化コミュニケーション概論 English Communication I 言語コミュニケーション	国際(異文化) -4 演習 I (3年次演習)	国際(異文化) -5 演習 II (4年次演習)
国際(異文化) -6 スタディ・アブロード領域			
【専門科目】			
国際(異文化) -1 グローバル・メディア領域			
国際(異文化) -2 グローバル・コミュニケーション領域			
国際(異文化) -3 グローバル・スタディーズ領域			
グローバル社会コース科目			

※1 2018年度入学者から国際交流学科は、グローバル社会コースと異文化コミュニケーションコースの2コース制になります。2017年度以前入学者は、2020年度以前の履修要覧で確認してください。

▼卒業までに必要とする最低単位数（2018～2022年度入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-5) 合計：最低26単位				39-44ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低98単位				165-169ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1～a8) 合計：最低60単位				165-169ページ
a1	必修科目	6	必修	
a2	言語コミュニケーション	4	選択必修	
a3	演習Ⅰ	4	選択必修	
a4	演習Ⅱ	4	選択必修	
a5	スタディ・アブロード領域	(注1)	必修/選択必修	
a6	●領域科目	12	選択必修	
	グローバル・メディア領域	4	選択必修	
	グローバル・コミュニケーション領域	4	選択必修	
	グローバル・スタディーズ領域	4	選択必修	
a7	グローバル社会コース科目	—		
a8	自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低26単位			選択必修	169ページ
うち第二外国語余剰分				43ページ
[3] ■ 卒業論文 8単位			必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3] の合計：132単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1～5-2)				
5-1	1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2	運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

(注1) p.163のスタディ・アブロード領域を参照してください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要があるので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a8）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 必修科目（必修・6単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GN60	異文化コミュニケーション概論	2	
GN61	English Communication I (1)	2	
GN62	English Communication I (2)	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

異文化コミュニケーション概論、English Communication I は2年次指定科目です。

▼履修上の注意

English Communicationは、次の順序で履修をしなければなりません。

I (1) → I (2)

詳しくは、後述の「English Communication・言語コミュニケーションの履修順序」(⇒p.169)を参照してください。

a2 言語コミュニケーション（選択必修・4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
フランス語選択者			
GJ25	フランス語コミュニケーション (1)	2	
GJ26	フランス語コミュニケーション (2)	2	
ドイツ語選択者			
GJ35	ドイツ語コミュニケーション (1)	2	
GJ36	ドイツ語コミュニケーション (2)	2	
スペイン語選択者			
GJ45	スペイン語コミュニケーション (1)	2	
GJ46	スペイン語コミュニケーション (2)	2	
中国語選択者			
GJ55	中国語コミュニケーション (1)	2	
GJ56	中国語コミュニケーション (2)	2	
コリア語選択者			
GJ65	コリア語コミュニケーション (1)	2	
GJ66	コリア語コミュニケーション (2)	2	
日本語選択者 (注1)			
AL13	2年日本語 2	2	
AS57	Advanced Japanese Studies (1)	2	
AS58	Advanced Japanese Studies (2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

(注1) 日本語を選択できるのは、日本語を外国語として履修している外国人留学生に限ります。

▼卒業要件

- フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、コリア語から一言語（原則として第二外国語と同一言語）を選択し、その言語について左に指定した科目をすべて修得していること

※ただし、外国人留学生日本語履修者は、「外国人留学生の言語コミュニケーション」(⇒p.169)で指示された科目を修得すること

▼年次指定科目

言語コミュニケーションは2年次指定科目です。

▼履修上の注意

各言語コミュニケーション科目は、次の順序で履修をしなければなりません。

(1) → (2)

詳しくは、「English Communication・言語コミュニケーションの履修順序」(⇒p.169)を参照してください。

a3 演習 I（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GH81	国際比較文化演習 I (1)	2	廃止 (～2021)
GH82	国際比較文化演習 I (2)	2	廃止 (～2021)
GH85	国際比較法演習 I (1)	2	
GH86	国際比較法演習 I (2)	2	
GT61	国際メディア論演習 I (1)	2	
GT62	国際メディア論演習 I (2)	2	
GH11	フランス文化演習 I (1)	2	
GH12	フランス文化演習 I (2)	2	
GH45	中国社会文化演習 I (1)	2	
GH46	中国社会文化演習 I (2)	2	
GH89	表象文化論演習 I (1)	2	
GH90	表象文化論演習 I (2)	2	
GH93	言語コミュニケーション演習 I (1)	2	
GH94	言語コミュニケーション演習 I (2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

- 左記の科目から(1)(2)科目ペアで最低4単位修得していること

▼年次指定科目

演習 I の各科目は3年次指定科目です。

a4 演習Ⅱ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GH83	国際比較文化演習Ⅱ(1)	2	廃止（～2022）
GH84	国際比較文化演習Ⅱ(2)	2	廃止（～2022）
GH87	国際比較法演習Ⅱ(1)	2	
GH88	国際比較法演習Ⅱ(2)	2	
GT63	国際メディア論演習Ⅱ(1)	2	
GT64	国際メディア論演習Ⅱ(2)	2	
GH13	フランス文化演習Ⅱ(1)	2	
GH14	フランス文化演習Ⅱ(2)	2	
GH47	中国社会学文化演習Ⅱ(1)	2	
GH48	中国社会学文化演習Ⅱ(2)	2	
GH91	表象文化論演習Ⅱ(1)	2	
GH92	表象文化論演習Ⅱ(2)	2	
GH95	言語コミュニケーション演習Ⅱ(1)	2	
GH96	言語コミュニケーション演習Ⅱ(2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から(1)(2)科目ペアで最低4単位修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅱの各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

演習Ⅱは、原則として演習Ⅰと同じものを履修しなければなりません。ただし、双方の授業担当者が認めた場合に限り、演習Ⅰとは異なる演習Ⅱを履修することができます。

a5 スタディ・アブロード領域（必修・2単位／選択必修・最低2単位）—— 専攻分野

必修（2単位）

コード	授業科目	単位	備考
GP91	留学プロジェクト1	2	

選択必修（最低2単位）

コード	授業科目	単位	備考
GP93	海外異文化研究	2	廃止（～2022）
GP92	留学プロジェクト2	2	
-	留学	-	留学は、留学期間等により認定単位数が変わります
GP94	海外異文化研究1	2	
GP95	海外異文化研究2	2	

▼卒業要件

- 上記の必修科目を修得していること
□上記の選択必修科目から最低2単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 「留学プロジェクト1」は、2年次指定科目です。
- ② 「留学」は「留学プロジェクト1」を履修していることが条件となります。
- ③ 「留学」は単位認定科目です。履修登録とは別の手続きが必要になるため、学科の指示に従ってください。（「海外異文化研究」は履修登録を行います。）

④ 異文化コミュニケーションコース生が「海外異文化研究」に参加し、所定の成績を収めた場合は、教授会の議を経て、スタディ・アブロード領域の単位として2単位が認定されます。なお、「海外異文化研究」は「異文化コミュニケーション概論」を履修していることが条件となります。

⑤ 異文化コミュニケーションコース生が国際センター主催の「短期留学」に参加し、所定の成績を収め、手続きを行った場合は、教授会の議を経て「海外異文化研究」として、スタディ・アブロード領域の単位として2単位が認定されます。なお、本単位の認定に当たっては、「異文化コミュニケーション概論」を履修していることが条件となります。

⑥ スタディ・アブロード領域の「海外異文化研究1、2」として認定された「短期留学」以外の「短期留学」は、本人の申請により、自由選択科目に算入されます。

⑦ 「海外異文化研究1、2」及び「短期留学」は別途費用がかかります。

詳細については別途お知らせします。

a6 領域科目（選択必修・最低12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
グローバル・メディア領域			
GP11	グローバル・メディア I (1)	2	
GP12	グローバル・メディア I (2)	2	
GP13	グローバル・メディア II (1)	2	
GP14	グローバル・メディア II (2)	2	
GP15	グローバル・メディア III (1)	2	
GP16	グローバル・メディア III (2)	2	
GP17	グローバル・メディア IV (1)	2	
GP18	グローバル・メディア IV (2)	2	
GP19	グローバル・メディア V (1)	2	
GP20	グローバル・メディア V (2)	2	廃止（～2022）
GP21	グローバル・メディア VI (1)	2	
GP22	グローバル・メディア VI (2)	2	
GP23	グローバル・メディア VII (1)	2	
グローバル・コミュニケーション領域			
GN63	English Communication II (1)	2	
GN64	English Communication II (2)	2	廃止（～2022）
GP41	グローバル・コミュニケーション I (1)	2	
GP42	グローバル・コミュニケーション I (2)	2	廃止（～2022）
GP43	グローバル・コミュニケーション II (1)	2	廃止（～2022）
GP44	グローバル・コミュニケーション II (2)	2	廃止（～2022）
GP45	グローバル・コミュニケーション III (1)	2	
GP46	グローバル・コミュニケーション III (2)	2	
GP47	グローバル・コミュニケーション IV (1)	2	
GP48	グローバル・コミュニケーション IV (2)	2	
GP49	グローバル・コミュニケーション V (1)	2	廃止（～2022）
GP50	グローバル・コミュニケーション V (2)	2	廃止（～2022）
GP51	グローバル・コミュニケーション VI (1)	2	廃止（～2022）
GP52	グローバル・コミュニケーション VI (2)	2	

コード	授業科目	単位	備考
グローバル・スタディーズ領域			
GP71	グローバル・スタディーズ I (1)	2	
GP72	グローバル・スタディーズ I (2)	2	
GP73	グローバル・スタディーズ II (1)	2	
GP74	グローバル・スタディーズ II (2)	2	
GP75	グローバル・スタディーズ III (1)	2	
GP76	グローバル・スタディーズ III (2)	2	
GP77	グローバル・スタディーズ IV (1)	2	廃止（～2022）
GP78	グローバル・スタディーズ IV (2)	2	廃止（～2022）
GP79	グローバル・スタディーズ V (1)	2	廃止（～2022）
GP80	グローバル・スタディーズ V (2)	2	廃止（～2022）
GP81	グローバル・スタディーズ VI (1)	2	廃止（～2022）
GP82	グローバル・スタディーズ VI (2)	2	廃止（～2022）
GP83	グローバル・スタディーズ VII (1)	2	
GP84	グローバル・スタディーズ VII (2)	2	
GP85	グローバル・スタディーズ VIII (1)	2	廃止（～2022）
GB12	法律学 [含国際法]	4	廃止（～2022）
GB13	法律学 I	2	
GB14	法律学 II	2	

▼卒業要件

3つの領域からそれぞれ4単位以上、合計12単位以上修得していること

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a7 グローバル社会コース科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
GM11	国際政治学 1	2		GM45	UNESCO and the World Heritage Convention	2		GM73	地域研究 3	2	
GM12	国際政治学 2	2						GM74	地域研究 4	2	
GD22	国際経済学 1	2		GM46	International Policies for Cultural Sustainability	2		GM75	地域研究 5	2	
GD23	国際経済学 2	2						GM81	国際環境論 1	2	
GM15	政治学 1	2		GM51	文化多様性実習	2		GM82	国際環境論 2	2	
GM16	政治学 2	2		GM52	文化遺産学	2		GM83	NGOと市民社会	2	
GM17	マクロ経済学	2		GM53	国際開発論 1	2	廃止（～2022）	GM84	食と環境	2	
GM18	ミクロ経済学	2		GM54	国際開発論 2	2	廃止（～2022）	GM85	資源と環境	2	
GM19	経済政策論	2		GM55	難民・移民論	2		GL12	Talking about Global Issues	2	
GM20	開発経済論	2		GM57	現代人権論	2		GL14	Project Planning for International Cooperation	2	
GD32	ICT社会論	2		GM58	世界の人權	2		GL15	Japan in the Global Context	2	
GM25	ソーシャルビジネス論	2		GM61	国際問題特殊講義 1	2		GL18	情報処理入門 1	2	
GM31	国際機関論	2		GM62	国際問題特殊講義 2	2		GL19	情報処理入門 2	2	
GM35	公法とガバナンス	2	廃止（～2022）	GM66	中国の法と政治	2					
GM37	国際法	2		GM71	地域研究 1	2					
GM41	地球環境論	2	廃止（～2022）	GM72	地域研究 2	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a8 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

大学院（社会文化学専攻博士前期課程）

コード	授業科目	単位	備考
TG27	中国思想文化研究特論 I - 1	2	
TG28	中国思想文化研究特論 I - 2	2	
TG41	フランス文化研究特論 I - 1	2	
TG42	フランス文化研究特論 I - 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

指定された大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目（科目コード左2文字=TF、TG）。

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. English Communication I・言語コミュニケーションの履修順序

English Communication I は、(1) ⇒ (2) の順に履修しなければなりません。

言語コミュニケーションは、(1) ⇒ (2) の順に履修しなければなりません。

※「履修していなければなりません」とは、履修したことがあるかどうかのみを条件としていて、単位が修得できているかどうかは問いません。

3. 外国人留学生の言語コミュニケーション

言語コミュニケーション（計4単位）の代わりに、「2年日本語2」を2単位、「Advanced Japanese Studies (1)」または「Advanced Japanese Studies (2)」のいずれかを2単位履修してください。これらの科目の分野系列は、専攻分野の「言語コミュニケーション」となります。

㊦ アドミッションポリシー ㊧

国際交流学科では、大学の理念に共感し、国際化した社会のなかで自立した女性として実践的に活動することをめざし、そのための幅広い教養と高い専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望する皆さんに進学していただきたいと願っています。

本学科では、自らの問題意識に基づいて探究を行い、自分の意見を正確に発信し、異なる意見も尊重しながら議論を進め、適切な判断を下す力も重要だと考えています。

そのため、興味・関心のある事柄について協力し合って調べることを体験し、また論理的に考え、書き、話す力、すなわち論理的思考力とコミュニケーション能力を養っておくことが望まれます。

本学科では、コース別に受け入れますが、どちらのコースで学んでも高い言語コミュニケーション能力と、深く幅広い専門知識を身に付け、将来、異文化を理解し国際社会に貢献できる人物になりたいと考える学生を望んでいます。

そのため、国際交流の学生には国際社会における様々な現象、動態に関心を持ち、それらの分析や問題解決のために多角的な視野を持って論理的に判断、考察できる能力を身に付けることを期待されます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

国際交流学科は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づいて「関わる力」を備えた卒業生を社会に送り出します。

1. 国際社会が直面する課題について、専門的な知識と柔軟な思考力、的確な判断力を持って、自分の意見を発信し広い視野での国際貢献を実践しうる能力
2. 世界のさまざまな社会や立場に対する深い理解に裏付けられた、異なる背景を持った人々と協働するために真に役立つ言語コミュニケーション能力
3. 言語・文化・社会についての学びを通じ「自分とは異なる他者・文化・社会」を理解する力を獲得し、多様性の中で主体的に協働できる力
4. 政治、経済、社会、文化などさまざまな面でグローバル化が進行する中、それらを伝えるメディアや社会のあり方について、多角的な視座から把握し正確に分析する力
5. ひとつの問題を深く追究することによって養われる探求力と最後までやり抜く課題遂行能力
6. それぞれの専門領域での研究を通して養われる批判的読解力と思考力、アクティブラーニングを通じて獲得される協働力、実践力

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

国際交流学科では、国際社会の諸問題を研究するためには幅広い学問領域を学ぶことが重要であると考えてカリキュラムを組んでいます。国際交流学科に所属する学生は、2年次からグローバル社会コースまたは異文化コミュニケーションコースが開講する専攻分野の必修科目、その他講義科目、演習科目を通して専門性を深めます。

グローバル社会コースでは、国際貢献力を高める「INSPIREプログラム」を2年次から履修し、実践的英語、ICT活用、国内外でのアクティブラーニングを通じて、グローバルマインドとスキル、協働力を養います。また政治、経済、法、人権、文化、環境の諸分野について国際的規模での歴史・理論・制度・課題を、各自の志向に沿った自由度の高い選択方式で多角的に学び、多様性に富むグローバル社会を理解するための知識と思考力を身につけます。

異文化コミュニケーションコースでは、2年次に「異文化コミュニケーション概論」を履修し、異文化間で生じる作用、現象について考察を深めます。異文化コミュニケーションを理解するために必要な知識は、「グローバル・コミュニケーション領域」「グローバル・メディア領域」「グローバル・スタディーズ領域」の3領域の専門科目を体系的に学ぶことによって修得し、広い視野と柔軟な思考力を養います。

3年次から4年次にかけては、演習科目を履修することによって、より専門的な研究を行います。演習科目は少人数のゼミ形式で行われ、学生が中心になって行う研究や発表を通して、専門領域に関する知識や理解を深めるとともに、十分な発信力や説得力を身につけます。そして、多様な情報の整理、問題に対する論理的な考察と分析を通して、4年次にはそれまでに深めた学問の集大成として、卒業論文を執筆します。

現代人として世界を理解し積極的に社会に関わるためには、リベラル・アーツの学びを尊重し、他学科の授業科目や総合現代教養科目も関連分野、全学共通科目として履修することで専門分野との関連性を見出し、教養を深めます。

卒業生像

国際交流学科異文化コミュニケーションコースは、幅広い国際的視野を備え、急速に変化を遂げる世界の現状に柔軟に対応できる人間、すなわち「グローバル・コミュニケーター」の育成を目的とする。本コースの学生は、海外異文化研究等を通して、異文化との接触の現場に実際に身を置く。そこで生じるさまざまな事象—理解や摩擦—を体験し、現代の世界に通じる国際的感覚を養う。このようにして育つ「グローバル・コミュニケーター」は、高いコミュニケーション能力を持ち、広く国際問題を理解するための専門知識を有する人物である。

国際交流学科：異文化コミュニケーションコース カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
コースの専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方を身につける			
	メディア論、異文化コミュニケーション論、地域社会文化研究というコースの3つの学問領域の基礎を学ぶと同時に、自らの意見を外国語によって発信する能力を身につける。 <div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center;">異文化コミュニケーション概論</div>	海外異文化研究などを通して実践的かつ柔軟な異文化理解のスキル、ならびに専門的知識を身につける。 <div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center;">国際(異文化)-4 演習Ⅰ(3年次演習)</div>	演習での学びを中心に、専門分野の知識を深めると同時に、アカデミックで、かつ質の高い卒業論文の完成を目指す。 <div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center;">国際(異文化)-5 演習Ⅱ(4年次演習)</div>
【専門科目】			
国際(異文化)-1 グローバル・メディア領域			
国際(異文化)-2 グローバル・コミュニケーション領域			
国際(異文化)-3 グローバル・スタディーズ領域			
グローバル社会コース科目			

※1 2018年度入学者から国際交流学科は、グローバル社会コースと異文化コミュニケーションコースの2コース制になります。2017年度以前入学者は、2020年度以前の履修要覧で確認してください。

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-6) 合計：最低28単位				54-58ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6	AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低90単位				173-175ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a6) 合計：最低56単位				173-175ページ
a1	必修科目	4	必修	
a2	演習Ⅰ	4	選択必修	
a3	演習Ⅱ	4	選択必修	
a4	●領域科目 グローバル・メディア領域 グローバル・コミュニケーション領域 グローバル・スタディーズ領域		選択	
a5	グローバル社会コース科目	-	選択	
a6	自由選択科目	-	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低22単位			選択必修	175ページ
うち第二外国語余剰分				56ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3]の合計：126単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1)				
5-1	1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a6）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 必修科目（必修・4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GN65	異文化コミュニケーション概論(1)	2	
GN66	異文化コミュニケーション概論(2)	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

異文化コミュニケーション概論(1)(2)は2年次指定科目です。

a2 演習Ⅰ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GH85	国際比較法演習Ⅰ(1)	2	
GH86	国際比較法演習Ⅰ(2)	2	
GT61	国際メディア論演習Ⅰ(1)	2	
GT62	国際メディア論演習Ⅰ(2)	2	
GH11	フランス文化演習Ⅰ(1)	2	
GH12	フランス文化演習Ⅰ(2)	2	
GH45	中国社会文化演習Ⅰ(1)	2	
GH46	中国社会文化演習Ⅰ(2)	2	
GH89	表象文化論演習Ⅰ(1)	2	
GH90	表象文化論演習Ⅰ(2)	2	
GH93	言語コミュニケーション演習Ⅰ(1)	2	
GH94	言語コミュニケーション演習Ⅰ(2)	2	

▼卒業要件

- 左記の科目から(1)(2)科目ペアで最低4単位修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅰの各科目は3年次指定科目です。

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a3 演習Ⅱ（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
GH87	国際比較法演習Ⅱ（1）	2	
GH88	国際比較法演習Ⅱ（2）	2	
GT63	国際メディア論演習Ⅱ（1）	2	
GT64	国際メディア論演習Ⅱ（2）	2	
GH13	フランス文化演習Ⅱ（1）	2	
GH14	フランス文化演習Ⅱ（2）	2	
GH47	中国社会文化演習Ⅱ（1）	2	
GH48	中国社会文化演習Ⅱ（2）	2	
GH91	表象文化論演習Ⅱ（1）	2	
GH92	表象文化論演習Ⅱ（2）	2	
GH95	言語コミュニケーション演習Ⅱ（1）	2	
GH96	言語コミュニケーション演習Ⅱ（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から(1)(2)科目ペアで最低4単位修得していること

▼年次指定科目

演習Ⅱの各科目は4年次指定科目です。

▼履修上の注意

演習Ⅱは、原則として演習Ⅰと同じものを履修しなければなりません。ただし、双方の授業担当者が認めた場合に限り、演習Ⅰとは異なる演習Ⅱを履修することができます。

a4 領域科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
グローバル・メディア領域			
GP24	メディアと社会1	2	
GP25	メディアと社会2	2	
GP26	メディアと社会3	2	
GP27	メディアと社会4	2	
GP28	国際メディア論1	2	
GP29	国際メディア論2	2	
GP30	国際ニュースワークショップ1	2	
GP31	国際ニュースワークショップ2	2	
GP32	メディアワークショップ1	2	
GP33	メディアワークショップ2	2	
GP34	異文化メディア論1	2	
GP35	異文化メディア論2	2	

グローバル・コミュニケーション領域			
GN67	English for Global Communicators	2	
GP36	比較文化論	2	
GP53	リーダーシップ論	2	
GP37	交渉と対話	2	
GP38	言語とアイデンティティー	2	
GP39	グローバル社会と言語	2	
GP40	異文化理解とコミュニケーション	2	
GP94	海外異文化研究1	2	
GP95	海外異文化研究2	2	
GL12	Talking about Global Issues	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
グローバル・スタディーズ領域			
GP54	フランスの社会と文化1	2	
GP55	フランスの社会と文化2	2	
GP56	フランス事情1	2	
GP57	フランス事情2	2	
GP58	東アジアの社会と文化1	2	
GP59	東アジアの社会と文化2	2	
GP60	現代家族法1	2	
GP61	現代家族法2	2	
GB13	法律学Ⅰ	2	
GB14	法律学Ⅱ	2	

▼履修上の注意

- ① 3つの領域からそれぞれ2科目（4単位）以上を履修するようにしてください。
- ② 国際センター主催の「短期留学」に参加し、所定の成績を取め、手続を行った場合は、教授会の議を経て「海外異文化研究」として2単位が認定されます。なお、本単位の認定にあたっては、「異文化コミュニケーション概論」を履修していることが条件となります。

a5 グローバル社会コース科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
GM11	国際政治学 1	2		GM37	国際法	2		GM70	中東地域論		
GM12	国際政治学 2	2		GM55	難民・移民論	2		GM76	ラテンアメリカ地域論		
GD22	国際経済学 1	2		GM78	現代人権論 1	2		GM77	アフリカ地域論		
GD23	国際経済学 2	2		GM79	現代人権論 2	2		GM81	国際環境論 1	2	
GM15	政治学 1	2		GM59	国際問題ワークショップ1	2		GM82	国際環境論 2	2	
GM16	政治学 2	2		GM60	国際問題ワークショップ2	2		GM63	NGO基礎ワークショップ	2	
GM17	マクロ経済学	2		GM47	国際文化協力論	2		GM64	環境学 1	2	
GM18	ミクロ経済学	2		GM48	国際文化政策論 1	2		GM65	環境学 2	2	
GM19	経済政策論	2		GM49	国際文化政策論 2	2		GL20	国際協力プロジェクト実習	2	
GM20	開発経済論	2		GM50	国際協力基礎ワークショップ	2		GL15	Japan in the Global Context	2	
GD32	ICT社会論	2		GM68	東アジア地域論	2		GL21	情報処理入門 I	2	
GM25	ソーシャルビジネス論	2		GM69	東南アジア地域論	2		GL22	情報処理入門 II	2	
GM67	国際機構論	2		GM56	EU論	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a6 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

大学院（社会文化学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考
TG27	中国思想文化研究特論 I - 1	2	
TG28	中国思想文化研究特論 I - 2	2	
TG41	フランス文化研究特論 I - 1	2	
TG42	フランス文化研究特論 I - 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

指定された大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目（科目コード左 2 文字 = TF、TG）。

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- 博物館実習（史学科開講）
- 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

㊦ アドミッションポリシー ㊧

哲学科では、知ることを愛し、固定観念や社会通念にとらわれることなく、理論的、自立的に思考する能力と、他者に対する開かれた態度を身につけようとする人間に入学して欲しいと考えています。また教員養成課程においては、幅広い視野を持ち、総合的思考力を備えた社会科、公民科、地理歴史科、宗教科の教員を目指す人間を求めています。編入学についても、同様の観点から、哲学への関心や志望動機を重視して選考を行います。高等学校では、以下の様な学びを大切にしたいと考えています。

1. 国語、外国語、社会から数学、理科にいたるまで、すべての教科を通じて、ただ細かい知識を学ぶだけではなく、世界、自然、社会、人間について、根本的な原理や構造に対する関心や問いを育む。
2. 現代国語、古典、外国語（英語）を問わず、論說的文章と文学的文章の両方について、表面的な読解に終わらず、納得のいくまで考えながら読む習慣を身につけ、また、文献が生まれた背景（歴史、文化、思想など）にも関心を持つ。
3. 国語や外国語の学習を通じて、文章力・表現力の基礎を養う。そのためにも、哲学書に限定する必要はないので、幅広い読書を心がける。また、様々な考えを持つ他者との対話の機会を持ち、自分の考えたことを的確に表現する文章力とプレゼンテーション力を磨く。
4. 与えられた知識や情報をうのみにせず、論理的根拠や客観的根拠を確かめる習慣を持つ。また、与えられた学習課題に対して既存の答えを出すことに満足するのではなく、問題を掘り下げ、前提を疑う態度を養う。学校での学習だけでなく、日常生活や社会生活においても、固定観念や社会通念にとらわれることなく、幅広い関心を持ち、自分の頭でものを考える習慣を持つ。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

哲学科は、常に探究心を持って自然と人間について根本から探求するとともに、世界や社会の現実にも関心を持ち、他者との対話や他者の理解を通じて、自己のあり方や生き方を主体的に追求することのできる人間を送り出すことを目的とし、以下の6つの力を身につけることを期待します。

1. 真・善・美・聖などの根元的な価値について洞察する力。
2. 古代から現代まで、また世界および日本で展開した哲学、思想、宗教等に見られる多様な世界観や人間観について理解する力。そのために必要とする古典語（日本語を含む）や外国語の運用能力。
3. 社会・道徳・法などについての根本的な理解にたつて、人間のあり方を考察する力。
4. 理論的・自立的に思考し、論理的に自己を表現する力。
5. 自己と他者を正しく理解し、他者と対話しようとする開かれた態度。
6. 現代社会に対する現実的関心を持ち、公共的観点で考察し、判断する力。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

哲学科では、以上に掲げた能力や資質を身につけるため、5つの基本領域を定めています。ただし、哲学としての全体性や総合性を重視する観点から、学生をゼミに分属させることなく、全年次を通して、どの領域の科目でも履修ができるようにしています。

- ①西洋哲学・倫理学
- ②美学・芸術学
- ③キリスト教学・宗教学
- ④日本思想史学
- ⑤生命・環境・社会の哲学

主な専攻分野科目は以下の4種類からなっています。

1. 導入科目（「哲学入門Ⅰ・Ⅱ」）哲学を学ぶための基礎的な力を養います。基礎的知識と視点を獲得し、読解力や文章力を身につけるため、4単位を必修としています。
2. 概論科目（概論・思想史等）各基本領域の基礎的な事項を扱い、学習の土台形成を目指します。
3. 特殊講義科目（特講等）諸分野についての各論の講義で、関心あるテーマについてのより深い理解を目指します。
4. 演習科目（演習）テキストの読解や問題の分析を行い、発表や議論を通して、受講者同士で新たな知見を見出し、共有します。哲学的な分析力、表現力、対話力を重視する観点から、演習科目12単位以上を選択必修とし、かつすべての学年において演習科目を履修することを義務づけています。

これら以外に、ギリシア語・ラテン語などの古典語を学ぶ科目が置かれています。哲学科では、自由で主体的な学びを尊重するために、2年次必修の導入科目以外には、年次指定などは設けず、それぞれの関心に応じて、いつでも自由に履修することができるようになっています。

2年次では、導入科目（「哲学入門Ⅰ・Ⅱ」）によって、哲学全般の基礎知識を身につけ、また論文執筆や哲学的対話の方法を学ぶようになっています。また、全体的・総合的視野を養うために、複数の基本領域にわたって概論科目を履修するよう指導しています。

3年次では、専門的な講義でより深い知識を身につけながら、演習では中心的な役割を担い、テキストの解釈やプレゼンテーションの力を高め、対話する力を磨きます。また、論文執筆力を高めるために、担任の指導のもと、学年レポートを執筆します。

4年次では、「特殊演習」（卒論演習）でメンターの指導を受けながら、学問的な文章の書き方を学び、文献研究や資料調査を進め、卒業論文を執筆します。

卒業生像

哲学科では、ひとりひとりの学生が、講義や演習において原典テキストを精読し、緻密な構成や表現のニュアンスにまで踏みこんで著者の意図を汲みとり、教員や他の学生との対話や質疑応答への参加をつうじて自分の頭で考え、さまざまな問題にたいして総合的に判断できる方法的思考を修得することをめざしています。そのためには、まず真・善・美・聖といった根本的な価値に深く思いをはせる訓練を積みみます。というのも、人生に意味を与えるべき価値観がいちじるしく多様化・相対化した現代社会にあってこそ、自分なりの確かな指針をもつことが重要であると、わたしたちは考えるからです。

その結果、説得力のある根拠を示しながら文章を書く力、相手の知性と感性にとどく言葉を紡ぎ出す力、相手の言葉に真摯に耳を傾けつつ自分の意見も述べて対話する力が身につく、世界内存在者としての自己を理解し、自己を確立すると同時に、他者へと開かれた柔軟性に支えられた協調性が養われます。

上記の特性をそなえた哲学科の卒業生は、哲学・芸術分野における研究者、博物館員・学芸員として、とりわけカトリック系の中学・高校の社会科・宗教科の教員として、またその他の分野において、社会の中で重要な役割を担うことが期待されます。

哲学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	哲学的な問題設定、文献理解、作文、対話などの基礎を身につけるとともに、各領域の概論等の授業によって、基礎的な知識や思考方法を獲得する 哲学-1 【哲学入門Ⅰ・Ⅱ】	専門的な講義でより深い知識を身につけながら、演習では中心的な役割を担い、テキストの解釈やプレゼンテーションの力を高め、対話する力を磨く 哲学-2 【概論・思想史】 諸分野についての基礎知識を学び、学習の土台形成を目指す。	学問的な文章の書き方を学び、文献研究や資料調査を進め、卒業論文制作につなげる 哲学-5 【卒論指導】
		哲学-3 【特講等】 諸分野についての各論の講義。自由に選択し、関心あるテーマについてのより深い理解を目指す。	
		哲学-4 【演習】 テキストの読解、発表や議論を行い、受講者同士で新たな知見を見出し、共有する。	

▼卒業までに必要とする最低単位数（2012～2022年度入学者）

分野系列	卒業必要最低単位数	区分	履修要項掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-5) 合計：最低26単位			39-44ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低98単位			179-182ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1～a3) 合計：最低60単位			179-182ページ
a1 必修科目	4	必修	
a2 演習類	12	選択必修	
a3 自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低26単位		選択必修	182ページ
うち第二外国語余剰分			43ページ
[3] ■ 卒業論文	8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3] の合計：132単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1～5-2)			
5-1 1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2 運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a3）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 必修科目（必修・4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
HA12	哲学入門Ⅰ	2	
HA13	哲学入門Ⅱ	2	廃止（～2022）
HA14	哲学基礎演習	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

哲学入門Ⅰ、哲学入門Ⅱ、哲学基礎演習は2年次指定科目です。

▼履修上の注意

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

必修科目の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
HA13	哲学入門Ⅱ <2>	HA14	哲学基礎演習 <2>

a2 演習類（選択必修・最低12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
HB11	哲学演習Ⅰ	4	廃止(～2022)	HB48	哲学・倫理学演習2(2)	2		HE02	キリスト教学演習1(2)	2	
HB12	哲学演習Ⅱ	4	廃止(～2022)	HB49	哲学・倫理学演習3(1)	2		HE03	キリスト教学演習2(1)	2	
HB13	哲学演習Ⅲ	4	廃止(～2022)	HB50	哲学・倫理学演習3(2)	2		HE04	キリスト教学演習2(2)	2	
HB14	哲学演習Ⅳ	4	廃止(～2022)	HB51	哲学・倫理学演習4(1)	2		HE05	キリスト教学演習3(1)	2	
HB25	哲学演習Ⅴ-1	2	廃止(～2022)	HB52	哲学・倫理学演習4(2)	2		HE06	キリスト教学演習3(2)	2	
HB26	哲学演習Ⅴ-2	2	廃止(～2022)	HB53	哲学・倫理学演習5(1)	2		HE07	キリスト教学演習4(1)	2	
HB16	哲学演習Ⅵ-1	2	廃止(～2022)	HB54	哲学・倫理学演習5(2)	2		HE08	キリスト教学演習4(2)	2	
HB17	哲学演習Ⅵ-2	2	廃止(～2022)	HB55	哲学・倫理学演習6(1)	2					
HB18	哲学演習Ⅶ-1	2	廃止(～2022)	HB56	哲学・倫理学演習6(2)	2					
HB19	哲学演習Ⅶ-2	2	廃止(～2022)	HB57	哲学・倫理学演習7(1)	2					
HB24	哲学史演習Ⅰ	4	廃止(～2022)	HB58	哲学・倫理学演習7(2)	2					
HB22	哲学史演習Ⅱ	4	廃止(～2022)	HB59	哲学・倫理学演習8(1)	2					
HA32	倫理学演習Ⅰ	4	廃止(～2022)	HB60	哲学・倫理学演習8(2)	2					
HA33	倫理学演習Ⅱ	4	廃止(～2022)	HB61	哲学・倫理学演習9(1)	2					
HA36	倫理学演習Ⅲ	4	廃止(～2022)	HB62	哲学・倫理学演習9(2)	2					
HA55	日本思想史学演習Ⅰ	4	廃止(～2022)	HC53	美学・芸術学演習1(1)	2					
HA56	日本思想史学演習Ⅱ	4	廃止(～2022)	HC54	美学・芸術学演習1(2)	2					
HC42	美学・芸術学演習Ⅰ	4	廃止(～2022)	HC55	美学・芸術学演習2(1)	2					
HC43	美学・芸術学演習Ⅱ	4	廃止(～2022)	HC56	美学・芸術学演習2(2)	2					
HC44	美学・芸術学演習Ⅲ	4	廃止(～2022)	HC57	美学・芸術学演習3(1)	2					
HC45	美学・芸術学演習Ⅳ	4	廃止(～2022)	HC58	美学・芸術学演習3(2)	2					
HD71	キリスト教学演習Ⅰ	4	廃止(～2022)	HC59	美学・芸術学演習4(1)	2					
HD72	キリスト教学演習Ⅱ	4	廃止(～2022)	HC60	美学・芸術学演習4(2)	2					
HD73	キリスト教学演習Ⅲ	4	廃止(～2022)	HB71	日本思想史学演習1(1)	2					
HD74	キリスト教学演習Ⅳ	4	廃止(～2022)	HB72	日本思想史学演習1(2)	2					
HB45	哲学・倫理学演習1(1)	2		HB73	日本思想史学演習2(1)	2					
HB46	哲学・倫理学演習1(2)	2		HB74	日本思想史学演習2(2)	2					
HB47	哲学・倫理学演習2(1)	2		HE01	キリスト教学演習1(1)	2					

▼卒業要件

□左記の科目から最低12単位を
修得していること

▼履修上の注意

- ① 各年次において、必ず演習
（「哲学特殊演習」を除く）
を2科目以上登録し、履修す
るようにしてください。
- ② (1)(2)はペアで修得する
必要があります。
- ③ 廃止科目を未修得の場合は、
下記に指定した代替科目を修
得してください。

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

演習類の代替指定科目

コード	旧科目名	コード	代替科目
HB11	哲学演習Ⅰ<4>	HB45	哲学・倫理学演習1(1)<2>
		HB46	哲学・倫理学演習1(2)<2>
HB12	哲学演習Ⅱ<4>	HB47	哲学・倫理学演習2(1)<2>
		HB48	哲学・倫理学演習2(2)<2>
HB13	哲学演習Ⅲ<4>	HB49	哲学・倫理学演習3(1)<2>
		HB50	哲学・倫理学演習3(2)<2>
HB14	哲学演習Ⅳ<4>	HB51	哲学・倫理学演習4(1)<2>
		HB52	哲学・倫理学演習4(2)<2>
HB25	哲学演習Ⅴ-1<4>	HB53	哲学・倫理学演習5(1)<2>
HB26	哲学演習Ⅴ-2<4>	HB54	哲学・倫理学演習5(2)<2>
HB16	哲学演習Ⅵ-1<4>	HB55	哲学・倫理学演習6(1)<2>
HB17	哲学演習Ⅵ-2<4>	HB56	哲学・倫理学演習6(2)<2>
HB18	哲学演習Ⅶ-1<4>	HB57	哲学・倫理学演習7(1)<2>
HB19	哲学演習Ⅶ-2<4>	HB58	哲学・倫理学演習7(2)<2>
HA32	倫理学演習Ⅰ<4>	HB59	哲学・倫理学演習8(1)<2>
		HB60	哲学・倫理学演習8(2)<2>
HA33	倫理学演習Ⅱ<4>	HB61	哲学・倫理学演習9(1)<2>
		HB62	哲学・倫理学演習9(2)<2>
HA55	日本思想史学演習Ⅰ<4>	HB71	日本思想史学演習1(1)<2>
		HB72	日本思想史学演習1(2)<2>

<>内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
HA56	日本思想史学演習Ⅱ<4>	HB73	日本思想史学演習2(1)<2>
		HB74	日本思想史学演習2(2)<2>
HC42	美学・芸術学演習Ⅰ<4>	HC53	美学・芸術学演習1(1)<2>
		HC54	美学・芸術学演習1(2)<2>
HC43	美学・芸術学演習Ⅱ<4>	HC55	美学・芸術学演習2(1)<2>
		HC56	美学・芸術学演習2(2)<2>
HC44	美学・芸術学演習Ⅲ<4>	HC57	美学・芸術学演習3(1)<2>
		HC58	美学・芸術学演習3(2)<2>
HC45	美学・芸術学演習Ⅳ<4>	HC59	美学・芸術学演習4(1)<2>
		HC60	美学・芸術学演習4(2)<2>
HD71	キリスト教学演習Ⅰ<4>	HE01	キリスト教学演習1(1)<2>
		HE02	キリスト教学演習1(2)<2>
HD72	キリスト教学演習Ⅱ<4>	HE03	キリスト教学演習2(1)<2>
		HE04	キリスト教学演習2(2)<2>
HD73	キリスト教学演習Ⅲ<4>	HE05	キリスト教学演習3(1)<2>
		HE06	キリスト教学演習3(2)<2>
HD74	キリスト教学演習Ⅳ<4>	HE07	キリスト教学演習4(1)<2>
		HE08	キリスト教学演習4(2)<2>

a3 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
HA21	哲学概論Ⅰ	2	廃止（～2022）	HD51	キリスト教学特講Ⅰ	4	廃止（～2022）
HA22	哲学概論Ⅱ	2	廃止（～2022）	HD52	キリスト教学特講Ⅱ	4	廃止（～2022）
HA71	哲学概論Ⅲ	2	廃止（～2015）	HD53	キリスト教学特講Ⅲ	4	廃止（～2022）
HA30	倫理学概論Ⅰ	2	廃止（～2022）	HD54	キリスト教学特講Ⅳ	4	廃止（～2022）
HA31	倫理学概論Ⅱ	2	廃止（～2022）	HD60	宗教学特講Ⅰ	2	廃止（～2022）
HA80	哲学・倫理学特講Ⅰ	2	廃止（～2022）	HD61	宗教学特講Ⅱ	2	廃止（～2022）
HA81	哲学・倫理学特講Ⅱ	2	廃止（～2022）	HE11	ギリシア語Ⅰ	4	廃止（～2022）
HA82	哲学・倫理学特講Ⅲ	2	廃止（～2022）	HE13	ギリシア語Ⅱ	4	廃止（～2022）
HA83	哲学・倫理学特講Ⅳ	2	廃止（～2022）	HE12	ラテン語Ⅰ	4	廃止（～2022）
HA84	哲学・倫理学特講Ⅴ	2	廃止（～2022）	HE14	ラテン語Ⅱ	4	廃止（～2022）
HA85	哲学・倫理学特講Ⅵ	2	廃止（～2022）	HE21	哲学特殊演習Ⅰ	2	廃止（～2022）
HA86	哲学・倫理学特講Ⅶ	2	廃止（～2022）	HE22	哲学特殊演習Ⅱ	2	廃止（～2022）
HA87	哲学・倫理学特講Ⅷ	2	廃止（～2022）	HE23	哲学特殊演習Ⅲ	2	廃止（～2022）
HA88	哲学・倫理学特講Ⅸ	2	廃止（～2022）	HE24	哲学特殊演習Ⅳ	2	廃止（～2022）
HA89	哲学・倫理学特講Ⅹ	2	廃止（～2022）	HE25	哲学特殊演習Ⅴ	2	廃止（～2022）
HA90	哲学・倫理学特講Ⅺ	2	廃止（～2022）	HE26	哲学特殊演習Ⅵ	2	廃止（～2022）
HA91	哲学・倫理学特講Ⅻ	2	廃止（～2022）	HE27	哲学特殊演習Ⅶ	2	廃止（～2022）
HA92	哲学・倫理学特講Ⅼ	2	廃止（～2022）	HA15	哲学概論1	2	偶数年度開講
HA93	哲学・倫理学特講Ⅽ	2	廃止（～2022）	HA16	哲学概論2	2	奇数年度開講
HG01	哲学史特講	4	廃止（～2022）	HA17	倫理学概論1	2	奇数年度開講
HA43	西洋古代 中世哲学史Ⅰ	2	廃止（～2022）	HA18	倫理学概論2	2	偶数年度開講
HA44	西洋古代 中世哲学史Ⅱ	2	廃止（～2022）	HC15	美学・芸術学概論1	2	奇数年度開講
HA46	西洋近代哲学史Ⅰ	2	廃止（～2022）	HC16	美学・芸術学概論2	2	偶数年度開講
HA47	西洋近代哲学史Ⅱ	2	廃止（～2022）	HA19	日本思想史学概論1	2	奇数年度開講
HA51	日本倫理思想史Ⅰ	2	廃止（～2022）	HA20	日本思想史学概論2	2	偶数年度開講
HA52	日本倫理思想史Ⅱ	2	廃止（～2022）	HD41	キリスト教学概論1	2	奇数年度開講
HA65	社会思想史Ⅰ	2	廃止（～2022）	HD42	キリスト教学概論2	2	偶数年度開講
HA66	社会思想史Ⅱ	2	廃止（～2022）	HD43	宗教学概論1	2	偶数年度開講
HA63	宗教思想史Ⅰ	2	廃止（～2022）	HD44	宗教学概論2	2	奇数年度開講
HA64	宗教思想史Ⅱ	2	廃止（～2022）	HA94	西洋古代・中世哲学史1	2	偶数年度開講
HC13	美学・芸術学概論Ⅰ	2	廃止（～2022）	HA95	西洋古代・中世哲学史2	2	奇数年度開講
HC14	美学・芸術学概論Ⅱ	2	廃止（～2022）	HA96	西洋近現代哲学史1	2	偶数年度開講
HF10	美学・芸術学特講Ⅰ	2	廃止（～2022）	HA97	西洋近現代哲学史2	2	奇数年度開講
HF11	美学・芸術学特講Ⅱ	2	廃止（～2022）	HA98	社会思想史1	2	奇数年度開講
HF12	美学・芸術学特講Ⅲ	2	廃止（～2022）	HA99	社会思想史2	2	偶数年度開講
HF13	美学・芸術学特講Ⅳ	2	廃止（～2022）	HC17	日本美術史1	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に割り切れる年は休講）
HF14	美学・芸術学特講Ⅴ	2	廃止（～2022）	HC18	日本美術史2	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に割り切れる年は休講）
HF15	美学・芸術学特講Ⅵ	2	廃止（～2022）	HC19	東洋美術史1	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に余りが1となる年は休講）
HC72	日本美術史Ⅰ	2	廃止（～2022）	HC20	東洋美術史2	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に余りが1となる年は休講）
HC73	日本美術史Ⅱ	2	廃止（～2022）	HC23	西洋美術史1	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に余りが2となる年は休講）
HC93	東洋美術史Ⅰ	2	廃止（～2022）	HC24	西洋美術史2	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に余りが2となる年は休講）
HC94	東洋美術史Ⅱ	2	廃止（～2022）	HD55	キリスト教思想史1	2	奇数年度開講
HC82	西洋美術史Ⅰ	2	廃止（～2022）	HD56	キリスト教思想史2	2	偶数年度開講
HC83	西洋美術史Ⅱ	2	廃止（～2022）	HD57	宗教思想史1	2	偶数年度開講
HD14	キリスト教学概論Ⅰ	2	廃止（～2022）	HD58	宗教思想史2	2	奇数年度開講
HD15	キリスト教学概論Ⅱ	2	廃止（～2022）	HB27	哲学・倫理学特講1	2	
HD16	旧約聖書学Ⅰ	2	廃止（～2022）	HB28	哲学・倫理学特講2	2	
HD17	旧約聖書学Ⅱ	2	廃止（～2022）	HB29	哲学・倫理学特講3	2	
HD18	新約聖書学Ⅰ	2	廃止（～2022）	HB30	哲学・倫理学特講4	2	
HD19	新約聖書学Ⅱ	2	廃止（～2022）	HB31	哲学・倫理学特講5	2	奇数年度開講
HD20	宗教学概論Ⅰ	2	廃止（～2022）	HB32	哲学・倫理学特講6	2	奇数年度開講
HD21	宗教学概論Ⅱ	2	廃止（～2022）	HB33	哲学・倫理学特講7	2	偶数年度開講
HD25	キリスト教倫理学Ⅰ	2	廃止（～2022）				
HD32	キリスト教音楽	4	廃止（～2022）				
HD31	キリスト教美術	4	廃止（～2022）				
HD40	キリスト教文学	4	廃止（～2022）				
HD33	キリスト教思想史Ⅰ	2	廃止（～2022）				
HD34	キリスト教思想史Ⅱ	2	廃止（～2022）				

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

(次ページにつづく)

▼自由選択科目につき

コード	授業科目	単位	備考
HB34	哲学・倫理学特講 8	2	偶数年度開講
HB35	哲学・倫理学特講 9	2	
HB36	哲学・倫理学特講10	2	
HB37	哲学・倫理学特講11	2	
HB38	哲学・倫理学特講12	2	
HC35	美学・芸術学特講 1	2	奇数年度開講
HC36	美学・芸術学特講 2	2	偶数年度開講
HC37	美学・芸術学特講 3	2	
HC38	美学・芸術学特講 4	2	
HC39	美学・芸術学特講 5	2	
HC40	美学・芸術学特講 6	2	
HD75	キリスト教学特講 1 (1)	2	
HD76	キリスト教学特講 1 (2)	2	
HD77	キリスト教学特講 2 (1)	2	
HD78	キリスト教学特講 2 (2)	2	
HD79	キリスト教学特講 3 (1)	2	
HD80	キリスト教学特講 3 (2)	2	
HD81	聖書学特講 1	2	
HD82	聖書学特講 2	2	
HD83	宗教学特講 1	2	
HD84	宗教学特講 2	2	
HD85	宗教学特講 3	2	奇数年度開講
HD86	宗教学特講 4	2	偶数年度開講
HD89	キリスト教美術 (1)	2	
HD90	キリスト教美術 (2)	2	
HD91	キリスト教音楽 (1)	2	
HD92	キリスト教音楽 (2)	2	
HD93	キリスト教文学 (1)	2	
HD94	キリスト教文学 (2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
HE28	ギリシア語 I (1)	2	
HE29	ギリシア語 I (2)	2	
HE30	ラテン語 I (1)	2	
HE31	ラテン語 I (2)	2	
HE32	ギリシア語 II (1)	2	
HE33	ギリシア語 II (2)	2	
HE34	ラテン語 II (1)	2	
HE35	ラテン語 II (2)	2	
HE51	哲学特殊演習 1 (1)	1	
HE52	哲学特殊演習 1 (2)	1	
HE53	哲学特殊演習 2 (1)	1	
HE54	哲学特殊演習 2 (2)	1	
HE55	哲学特殊演習 3 (1)	1	
HE56	哲学特殊演習 3 (2)	1	
HE57	哲学特殊演習 4 (1)	1	
HE58	哲学特殊演習 4 (2)	1	
HE59	哲学特殊演習 5 (1)	1	
HE60	哲学特殊演習 5 (2)	1	
HE61	哲学特殊演習 6 (1)	1	
HE62	哲学特殊演習 6 (2)	1	
HE63	哲学特殊演習 7 (1)	1	
HE64	哲学特殊演習 7 (2)	1	

▼分類される科目

哲学科開講科目（科目コード左1文字=H）のうち、必修科目・演習類の対象科目を除いた科目

▼履修上の注意

(1) (2) はペアで修得する必要があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。
- ③ 教職課程履修者について、教職関連科目に関する詳細は、教職課程ガイダンスにて説明します。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

㉟ アドミッションポリシー ㉟

哲学科では、知ることを愛し、固定観念や社会通念にとらわれることなく、理論的、自立的に思考する能力と、他者に対する開かれた態度を身につけようとする人間に入学して欲しいと考えています。また教員養成課程においては、幅広い視野を持ち、総合的思考力を備えた社会科、公民科、地理歴史科、宗教科の教員を目指す人間を求めています。編入学についても、同様の観点から、哲学への関心や志望動機を重視して選考を行います。

高等学校では、以下の様な学びを大切にしたいと考えています。

1. 国語、外国語、社会から数学、理科にいたるまで、すべての教科を通じて、ただ細かい知識を学ぶだけではなく、世界、自然、社会、人間について、根本的な原理や構造に対する関心や問いを育む。
2. 現代国語、古典、外国語（英語）を問わず、論說的文章と文学的文章の両方について、表面的な読解に終わらず、納得のいくまで考えながら読む習慣を身につけ、また、文献が生まれた背景（歴史、文化、思想など）にも関心を持つ。
3. 国語や外国語の学習を通じて、文章力・表現力の基礎を養う。そのためにも、哲学書に限定する必要はないので、幅広い読書を心がける。また、様々な考えを持つ他者との対話の機会を持ち、自分の考えたことを的確に表現する文章力とプレゼンテーション力を磨く。
4. 与えられた知識や情報をうのみにせず、論理的根拠や客観的根拠を確かめる習慣を持つ。また、与えられた学習課題に対して既存の答えを出すことに満足するのではなく、問題を掘り下げ、前提を疑う態度を養う。学校での学習だけでなく、日常生活や社会生活においても、固定観念や社会通念にとらわれることなく、幅広い関心を持ち、自分の頭でものを考える習慣を持つ。

㉟ ディプロマポリシー ㉟

哲学科は、常に探究心を持って自然と人間について根本から探求するとともに、世界や社会の現実にも関心を持ち、他者との対話や他者の理解を通じて、自己のあり方や生き方を主体的に追求することのできる人間を送り出すことを目的とし、以下の6つの力を身につけることを期待します。

1. 真・善・美・聖などの根元的な価値について洞察する力。
2. 古代から現代まで、また世界および日本で展開した哲学、思想、宗教等に見られる多様な世界観や人間観について理解する力。そのために必要とする古典語（日本語を含む）や外国語の運用能力。
3. 社会・道徳・法などについての根本的な理解にたつて、人間のあり方を考察する力。
4. 理論的・自立的に思考し、論理的に自己を表現する力。
5. 自己と他者を正しく理解し、他者と対話しようとする開かれた態度。
6. 現代社会に対する現実的関心を持ち、公共的観点で考察し、判断する力。

㉟ カリキュラムポリシー ㉟

哲学科では、ディプロマポリシーに掲げた能力や資質を身につけるため、5つの基本領域を定めています。ただし、哲学としての全体性や総合性を重視する観点から、学生をゼミに分属させることなく、全年次を通して、どの領域の科目でも履修ができるようにしています。

- ①西洋哲学・倫理学
- ②美学・芸術学
- ③キリスト教学・宗教学
- ④日本思想史学
- ⑤生命・環境・社会の哲学

主な専攻分野科目は以下の4種類からなっています。

1. 導入科目（「哲学基礎演習」）哲学を学ぶための基礎的な力を養います。基礎的知識と視点を獲得し、読解力や文章力を身につけるため、2単位を必修としています。
2. 概論科目（概論・思想史等）各基本領域の基礎的な事項を扱い、学習の土台形成を目指します。
3. 特殊講義科目（特講等）諸分野についての各論の講義で、関心あるテーマについてのより深い理解を目指します。
4. 演習科目（演習）テキストの読解や問題の分析を行い、発表や議論を通して、受講者同士で新たな知見を見出し、共有します。哲学的な分析力、表現力、対話力を重視する観点から、演習科目12単位以上を選択必修とし、かつすべての学年において演習科目を履修することを義務づけています。これら以外に、ギリシア語・ラテン語などの古典語を学ぶ科目が置かれています。哲学科では、自由で主体的な学びを尊重するために、2年次必修の導入科目以外には、年次指定などは設けず、それぞれの関心に応じて、いつでも自由に履修することができるようになっています。

2年次では、導入科目（「哲学基礎演習」）によって、論文執筆や哲学的対話の方法を学ぶようにしています。また、全体的・総合的視野を養うために、複数の基本領域にわたって概論科目を履修するよう指導しています。

3年次では、専門的な講義でより深い知識を身につけながら、演習では中心的な役割を担い、テキストの解釈やプレゼンテーションの力を高め、対話する力を磨きます。また、論文執筆力を高めるために、担任の指導のもと、学年レポートを執筆します。

4年次では、「特殊演習」（卒論演習）でメンターの指導を受けながら、学問的な文章の書き方を学び、文献研究や資料調査を進め、卒業論文を執筆します。

卒業生像

哲学科では、ひとりひとりの学生が、講義や演習において原典テキストを精読し、緻密な構成や表現のニュアンスにまで踏みこんで著者の意図を汲みとり、教員や他の学生との対話や質疑応答への参加をつうじて自分の頭で考え、さまざまな問題にたいして総合的に判断できる方法的思考を修得することをめざしています。そのためには、まず真・善・美・聖といった根本的な価値に深く思いをはせる訓練を積みます。というのも、人生に意味を与えるべき価値観がいちじりしく多様化・相対化した現代社会にあってこそ、自分なりの確かな指針をもつことが重要であると、わたしたちは考えるからです。

その結果、説得力のある根拠を示しながら文章を書く力、相手の知性と感性にとどく言葉を紡ぎ出す力、相手の言葉に真摯に耳を傾けつつ自分の意見も述べて対話する力が身につく、世界内存在者としての自己を理解し、自己を確立すると同時に、他者へと開かれた柔軟性に支えられた協調性が養われます。

上記の特性をそなえた哲学科の卒業生は、哲学・芸術分野における研究者、博物館員・学芸員として、とりわけカトリック系の中学・高校の社会科・宗教科の教員として、またその他の分野において、社会の中で重要な役割を担うことが期待されます。

哲学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	哲学的な問題設定、文献理解、作文、対話などの基礎を身につけるとともに、各領域の概論等の授業によって、基礎的な知識や思考方法を獲得する 哲学-1 【哲学基礎演習】	専門的な講義でより深い知識を身につけながら、演習では中心的な役割を担い、テキストの解釈やプレゼンテーションの力を高め、対話する力を磨く	学問的な文章の書き方を学び、文献研究や資料調査を進め、卒業論文制作につなげる 哲学-5 【卒論指導】
哲学-2 【概論・思想史】 諸分野についての基礎知識を学び、学習の土台形成を目指す。			
哲学-3 【特講等】 諸分野についての各論の講義。自由に選択し、関心あるテーマについてのより深い理解を目指す。			
哲学-4 【演習】 テキストの読解、発表や議論を行い、受講者同士で新たな知見を見出し、共有する。			

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列	卒業必要最低単位数	区分	履修要項掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-6)	合計：最低28単位		54-58ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6 AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)	合計：最低90単位		186-188ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a3)	合計：最低56単位		186-188ページ
a1 必修科目	2	必修	
a2 演習類	12	選択必修	
a3 自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野	合計：最低22単位		188ページ
うち第二外国語余剰分			56ページ
[3] ■ 卒業論文	8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：126単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1)			
5-1 1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要があるので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a3）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 必修科目（必修・2単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
HA14	哲学基礎演習	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

哲学基礎演習は2年次指定科目です。

a2 演習類（選択必修・最低12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
HB45	哲学・倫理学演習 1 (1)	2		HC54	美学・芸術学演習 1 (2)	2	
HB46	哲学・倫理学演習 1 (2)	2		HC55	美学・芸術学演習 2 (1)	2	
HB47	哲学・倫理学演習 2 (1)	2		HC56	美学・芸術学演習 2 (2)	2	
HB48	哲学・倫理学演習 2 (2)	2		HC57	美学・芸術学演習 3 (1)	2	
HB49	哲学・倫理学演習 3 (1)	2		HC58	美学・芸術学演習 3 (2)	2	
HB50	哲学・倫理学演習 3 (2)	2		HC59	美学・芸術学演習 4 (1)	2	
HB51	哲学・倫理学演習 4 (1)	2		HC60	美学・芸術学演習 4 (2)	2	
HB52	哲学・倫理学演習 4 (2)	2		HB71	日本思想史学演習 1 (1)	2	
HB53	哲学・倫理学演習 5 (1)	2		HB72	日本思想史学演習 1 (2)	2	
HB54	哲学・倫理学演習 5 (2)	2		HB73	日本思想史学演習 2 (1)	2	
HB55	哲学・倫理学演習 6 (1)	2		HB74	日本思想史学演習 2 (2)	2	
HB56	哲学・倫理学演習 6 (2)	2		HE01	キリスト教学演習 1 (1)	2	
HB57	哲学・倫理学演習 7 (1)	2		HE02	キリスト教学演習 1 (2)	2	
HB58	哲学・倫理学演習 7 (2)	2		HE03	キリスト教学演習 2 (1)	2	
HB59	哲学・倫理学演習 8 (1)	2		HE04	キリスト教学演習 2 (2)	2	
HB60	哲学・倫理学演習 8 (2)	2		HE05	キリスト教学演習 3 (1)	2	
HB61	哲学・倫理学演習 9 (1)	2		HE06	キリスト教学演習 3 (2)	2	
HB62	哲学・倫理学演習 9 (2)	2		HE07	キリスト教学演習 4 (1)	2	
HC53	美学・芸術学演習 1 (1)	2		HE08	キリスト教学演習 4 (2)	2	

▼卒業要件
左記の科目から最低12単位を
 修得していること

▼履修上の注意
 ① 各年次において、必ず演習
 (「哲学特殊演習」を除く)
 を2科目以上登録し、履修す
 るようにしてください。
 ② (1) (2) はペアで修得する
 必要があります。

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a3 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
HA15	哲学概論 1	2	偶数年度開講	HD55	キリスト教思想史 1	2	奇数年度開講
HA16	哲学概論 2	2	奇数年度開講	HD56	キリスト教思想史 2	2	偶数年度開講
HA17	倫理学概論 1	2	奇数年度開講	HD57	宗教思想史 1	2	偶数年度開講
HA18	倫理学概論 2	2	偶数年度開講	HD58	宗教思想史 2	2	奇数年度開講
HC15	美学・芸術学概論 1	2	奇数年度開講	HB27	哲学・倫理学特講 1	2	
HC16	美学・芸術学概論 2	2	偶数年度開講	HB28	哲学・倫理学特講 2	2	
HA19	日本思想史学概論 1	2	奇数年度開講	HB29	哲学・倫理学特講 3	2	
HA20	日本思想史学概論 2	2	偶数年度開講	HB30	哲学・倫理学特講 4	2	
HD41	キリスト教学概論 1	2	奇数年度開講	HB31	哲学・倫理学特講 5	2	奇数年度開講
HD42	キリスト教学概論 2	2	偶数年度開講	HB32	哲学・倫理学特講 6	2	奇数年度開講
HD43	宗教学概論 1	2	偶数年度開講	HB33	哲学・倫理学特講 7	2	偶数年度開講
HD44	宗教学概論 2	2	奇数年度開講	HB34	哲学・倫理学特講 8	2	偶数年度開講
HA94	西洋古代・中世哲学史 1	2	偶数年度開講	HB35	哲学・倫理学特講 9	2	
HA95	西洋古代・中世哲学史 2	2	奇数年度開講	HB36	哲学・倫理学特講10	2	
HA96	西洋近現代哲学史 1	2	偶数年度開講	HB37	哲学・倫理学特講11	2	
HA97	西洋近現代哲学史 2	2	奇数年度開講	HB38	哲学・倫理学特講12	2	
HA98	社会思想史 1	2	奇数年度開講	HC35	美学・芸術学特講 1	2	奇数年度開講
HA99	社会思想史 2	2	偶数年度開講	HC36	美学・芸術学特講 2	2	偶数年度開講
HC17	日本美術史 1	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に割り切れる年は休講）	HC37	美学・芸術学特講 3	2	
HC18	日本美術史 2	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に割り切れる年は休講）	HC38	美学・芸術学特講 4	2	
HC19	東洋美術史 1	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に余りが1となる年は休講）	HC39	美学・芸術学特講 5	2	
HC20	東洋美術史 2	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に余りが1となる年は休講）	HC40	美学・芸術学特講 6	2	
HC23	西洋美術史 1	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に余りが2となる年は休講）	HD75	キリスト教学特講 1 (1)	2	
HC24	西洋美術史 2	2	2年連続で開講した後1年休講（西暦を3で割った時に余りが2となる年は休講）	HD76	キリスト教学特講 1 (2)	2	
				HD77	キリスト教学特講 2 (1)	2	
				HD78	キリスト教学特講 2 (2)	2	
				HD79	キリスト教学特講 3 (1)	2	
				HD80	キリスト教学特講 3 (2)	2	
				HD81	聖書学特講 1	2	
				HD82	聖書学特講 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

(次ページにつづく)

▼自由選択科目につき

コード	授業科目	単位	備考
HD83	宗教学特講 1	2	
HD84	宗教学特講 2	2	
HD85	宗教学特講 3	2	奇数年度開講
HD86	宗教学特講 4	2	偶数年度開講
HD89	キリスト教美術 (1)	2	
HD90	キリスト教美術 (2)	2	
HD91	キリスト教音楽 (1)	2	
HD92	キリスト教音楽 (2)	2	
HD93	キリスト教文学 (1)	2	
HD94	キリスト教文学 (2)	2	
HE28	ギリシア語 I (1)	2	
HE29	ギリシア語 I (2)	2	
HE30	ラテン語 I (1)	2	
HE31	ラテン語 I (2)	2	
HE32	ギリシア語 II (1)	2	
HE33	ギリシア語 II (2)	2	
HE34	ラテン語 II (1)	2	
HE35	ラテン語 II (2)	2	
HE51	哲学特殊演習 1 (1)	1	
HE52	哲学特殊演習 1 (2)	1	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
HE53	哲学特殊演習 2 (1)	1	
HE54	哲学特殊演習 2 (2)	1	
HE55	哲学特殊演習 3 (1)	1	
HE56	哲学特殊演習 3 (2)	1	
HE57	哲学特殊演習 4 (1)	1	
HE58	哲学特殊演習 4 (2)	1	
HE59	哲学特殊演習 5 (1)	1	
HE60	哲学特殊演習 5 (2)	1	
HE61	哲学特殊演習 6 (1)	1	
HE62	哲学特殊演習 6 (2)	1	
HE63	哲学特殊演習 7 (1)	1	
HE64	哲学特殊演習 7 (2)	1	

▼分類される科目

哲学科開講科目（科目コード左1文字=H）のうち、必修科目・演習類の対象科目を除いた科目

▼履修上の注意

(1) (2) はペアで修得する必要があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

㊦ アドミッションポリシー ㊧

教育学専攻では、さまざまな教育問題を取り上げながら、教育学を基礎とした理論と方法を学習します。単に必要な知識を身につけるだけでなく、豊かな感性や心を育てることも大切にしています。その中で、人が生きる様々な文脈における学びの課題に向き合うための資質・能力が望まれます。

本専攻では、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学・編入学してもらいたいと願っています。

1. 高等学校卒業相当の知識・技能
2. 教育の持つ社会的重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
3. 教育の本質を実証的に理解しようとする知的探究心
4. 広範で多様な現代の教育問題への関心と課題解決への意欲
5. 生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概をもち、教育現場、企業、地域社会、国際社会など、さまざまな「学びの場」で意欲的に活躍したいと考えている方が望まれます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

人々が学び、育ち、共に社会を築く、その営みをグローバルな視点から実践的に解き明かす人の育成を目指し、地域社会、企業、各種の学校、政府機関等、現代社会の多様な教育現場で活躍する人材を養成します。

教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認め、社会に送り出します。

1. 教育学に関する幅広い専門的知識と基本的な研究・調査能力、及び卒業論文を完遂することができる能力。
2. 教育への本質的理解にもとづいて現代の教育課題に真摯にかつしなやかに取り組み、課題の解決に向けて論理的・創造的・批判的に思考し、行動する能力。
3. 自己の関心を追求し、適切な方法をもって問題の解決に取り組む姿勢。
4. 他者との協働を通して根本的な問題等に対応する姿勢。
5. 学校教育現場および企業、地域社会、政府機関や国際機関など、国内外の幅広く多様な現場で活躍する資質。
6. 柔軟性と創造性をもって社会貢献し、より公正な社会の構築に寄与できる力。
7. さまざまな教育現場で求められる豊かな感性及び自己表現力と他者とのコミュニケーション能力。
8. 一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢と意欲。
9. 生涯にわたり、学ぶ姿勢と意欲。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現し、学生のニーズに応じて焦点化された学習が可能となるように「子どもと学びの基礎研究」、「情報教育とメディア開発」、「グローバル教育と生涯学習」の3コースを設けてカリキュラムを構成しています。

教育学専攻では、以下のような方針で2年次（編入学生含む）から4年次への教育課程を編成しています。

1. 教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育学概論」を全体の基盤として位置づける。
2. 開設科目は教育学の幅広い領域を覆い、最新のテーマに対応できるよう多様な展開に努めるが、学生自身の関心に基づく選択履修の機会を最大限に保証するために、必修科目を最小限にとどめる。
3. 国内外のスタディツアーを通して現代社会の実践的課題やその解決に従事する専門家に直接に触れ、創造的思考や批判的思考を養う機会を設ける。
4. 研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に教育学の専門的な研究方法へと導く。3年次には自己の問題関心を追求することのできるプロジェクト型の科目を置き、研究能力を高め自己の力に挑戦する機会とする。これらの過程を通して専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5. 教育学科の特色ある科目群である「人間学習」を置き、協働的、体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6. 2年次（編入学生含む）から4年次への具体的な展開方針は次のようである。
2年次：教育学の基礎を学び、教育学的な問題のとらえ方を理解する。現代的な教育の課題への関心を深め、視野を広げる。
3年次：教育学について発展的に学び、その実証的な研究方法を理解する。現代的な教育の課題に実践的に取り組むための知識と技能を身につける。
4年次：教育学の深い理解に基づき、柔軟性と創造性をもって教育の諸問題を探究する。身に付けた力を生かし社会貢献の道を切り拓く。

卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心ある角度から対象を掘り下げ、実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切に作る社会づくりに貢献する意欲を高め、社会の広い分野において諸課題の発見とその解決に積極的に関わり、活躍することができる人材を養成します。

教育への本質的理解にもとづく柔軟で創造的な思考力と判断力、広範で多様な現代社会における教育の問題に対応する資質と能力、多様なメディアを介した自己表現力と豊かな感性、社会に貢献する意欲と使命感を身につけることによって、国内外の幅広く多様なフィールドにおいて教育のさまざまな課題を理解し、解決に向けて実践的に行動できること、学校教育現場および企業、地域社会、政府機関や国際機関など、生涯にわたる「学び」にかかわる国内外の幅広く多様な現場での活躍が期待されます。

教育学科：教育学専攻カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の基礎を学び、教育学的な問題のとらえ方を理解する ・現代的な教育の課題への関心を深め、多様なフィールドに視野を広げる ・多様なメディアを介した自己表現の方法を体験し、感性を磨く 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の実証的な研究方法について理解する ・現代的課題に実践的に取り組むための知識と技能を身につける ・情報活用力、表現力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性と創造性をもって教育の諸問題を探究する ・自ら課題を設定し、実際に調査・研究を行い卒論にまとめる ・身につけた力を生かす社会貢献の道を切り拓く
1年次 奨励 教育 その他	必履修 教育-1 2年ゼミ	必修 教育-2 学年ゼミ	
	必修 教育-3 基礎理論	必履修 教育-4 自主研究	
	選択/選択必修 教育-5 教育理念・教育史		
	選択 教育-6 教職関連		
	選択/選択必修 教育-7 教育の社会的事項		
	選択 教育-8 発達と教育課程・方法、人間学習、情報メディア、特別講義、その他		

※2017年度以前入学者は、2020年度以前の履修要覧で確認してください。

▼卒業までに必要とする最低単位数（2018～2021年度入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-5)		合計：最低26単位		39-44ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)		合計：最低98単位		192-196ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1～a11)		合計：最低60単位		192-195ページ
a1	基礎理論と学年ゼミ	8	必修	
a2	2年ゼミ	6	選択	
a3	教育理念・教育史	(注)	選択／選択必修	
a4	教育の社会的事項	(注)	選択／選択必修	
a5	発達と教育課程・方法	－	選択	
a6	人間学習	－	選択	
a7	情報メディア	－	選択	
a8	特別講義	－	選択	
a9	教職関連	－	選択	
a10	その他	－	選択	
a11	自主研究	－	選択	
2-b ▼ 関連分野		合計：最低26単位		196ページ
うち第二外国語余剰分				43ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：132単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1～5-2)				
5-1	1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2	運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

教育学専攻では、以下のような4つのコースを設けてカリキュラムを構成しています。詳細は学科の説明会資料や学科のホームページに掲載していますので、それを参照してください。

1. 子どもと学びの基礎研究コース

このコースでは、「人間の成長や学び」を中心に、原理的分野（教育哲学、教育史、教育社会学など）と関係科目によって、教育学を体系的に履修します。

2. 情報教育とメディア開発コース

このコースでは、コンピュータの教育的活用、メディアによる表現、授業設計、学習環境の設計、マルチメディア教材の開発や情報表現等に関する科目を中心に履修します。

3. グローバル教育と生涯学習コース

このコースでは、教育学の基礎的科目、教育社会学や生涯学習に関する科目、人間学習などの科目を中心に履修します。

4. 中高免許取得者コース（2019年度以降入学者対象）

高等学校・中学校教諭免許状の取得を希望するコースで教職関連科目を履修します。

教職課程内に開設された**小学校・幼稚園教員特別プログラム**に登録することで、初等教員免許取得のための科目を履修することができます。

▶教職課程ガイダンスにて説明します。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a11）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 基礎理論と学年ゼミ (必修・8単位) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH17	教育学演習 2 - (1)	2	
JH18	教育学演習 2 - (2)	2	
JH16	教育学演習 3	4	廃止 (～2022)
JH27	教育学演習Ⅲ (1)	2	
JH28	教育学演習Ⅲ (2)	2	

▼卒業要件

左記の必修科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

教育学演習 2 は 3 年次指定科目です。

教育学演習 3 は 4 年次指定科目です。

▼履修上の注意

2023年度以降は「教育学演習 3」にかえて、下記の代替科目を修得してください。

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
JH16	教育学演習 3 < 4 >	JH27	教育学演習Ⅲ (1) < 2 >
		JH28	教育学演習Ⅲ (2) < 2 >

a2 2年ゼミ (選択) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH21	教育学演習 1 - (1)	2	
JH22	教育学演習 1 - (2)	2	
JH32	教育情報基礎演習 1	2	廃止 (～2022)

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

卒業に必要な単位ではありませんが、2年次生全員が履修することになっています。

a3 教育理念・教育史 (選択/選択必修) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC14	教育哲学 2	2	指定科目
JC13	西洋社会思想	2	指定科目
JC10	教育原理	2	①

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼標準履修年次

標準履修年次は 2・3 年次です。

▼履修上の注意

① 「教育原理」は教育学専攻生も履修できる科目
「教育原理 1」「教育原理 2」とは別の科目です。

a4 教育の社会的事項 (選択/選択必修) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC40	教育行政学 2	2	
JC48	社会学概論 1	2	指定科目 隔年
JC49	社会学概論 2	2	指定科目 隔年
JC52	比較教育学	4	廃止 (～2020)
JC55	比較教育学 1	2	
JC56	比較教育学 2	2	
JC47	生涯学習概論	2	
JC39	教育経営	2	
JC91	発展途上国における教育問題 1	2	
JC92	発展途上国における教育問題 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

指定科目 4 科目 (「教育哲学 2」「西洋社会思想」「社会学概論 1」「社会学概論 2」) から 6 単位を修得することとする。

a5 発達と教育課程・方法（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
A群			
JC32	教育心理学Ⅱ	2	
LH12	発達心理学2	2	①
B群			
JC38	教育方法Ⅱ	2	
JC73	教育調査	2	隔年
JC37	教育課程論	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼標準履修年次

「教育調査」の標準履修年次は3・4年次、その他の科目の標準履修年次は2・3年次です。

▼履修上の注意

- ① 「発達心理学2」は、心理学科開講科目です。修得単位は、自動的に「a5：発達と教育課程・方法」に集計されます。

a6 人間学習（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JD45	人間学習原論	2	廃止（～2022）
JD46	人間学習1	2	
JD47	人間学習2	2	
JD48	人間学習3	2	
JD49	人間学習4	2	
JD50	人間学習5	2	
JD51	人間学習6	2	
JD52	人間学習7	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
JD53	人間学習8	2	
JD54	人間学習9	2	
JD55	人間学習10	2	廃止（～2022）
JD56	人間学習11	2	廃止（～2022）
JD57	人間学習12	2	廃止（～2022）

▼標準履修年次

標準履修年次は3・4年次です。

a7 情報メディア（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC34	教育メディア論	2	隔年
JE13	メディア教材開発	2	隔年
JH43	マルチメディア活用演習1	2	廃止（～2022）
JE14	教育情報と学習デザイン	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a8 特別講義（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JB21	教育学特講1	4	廃止（～2022）
JB22	教育学特講2	2	廃止（～2022）
JB23	教育学特講3	2	廃止（～2022）
JB24	教育学特講4	2	廃止（～2022）
JB25	教育学特講5	2	廃止（～2022）
JB26	教育学特講6	2	廃止（～2022）

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
JB27	教育学特講7	2	廃止（～2022）
JB28	教育学特講8	2	廃止（～2022）
JB29	教育学特講9	2	廃止（～2022）
JB31	教育学特講10	2	廃止（～2022）
JC87	体育学特講	2	廃止（～2022）

a9 教職関連（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC71	教育相談Ⅱ	2	中・高
JF16	道徳教育の理論と実践Ⅱ	2	中
JF17	特別活動Ⅱ	2	中・高
JF15	生徒指導〔含進路指導〕Ⅱ	2	中・高

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼標準履修年次

標準履修年次は2・3年次です。

▼履修上の注意

卒業のためには、必ずしもこの分野から履修する必要はありませんが、教職課程履修者にとって必修となる科目があります。

a10 その他（選択）—— 専攻分野

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
JA12	教育学入門	2	廃止（～2022）
JC22	障害者教育・福祉概論	2	廃止（～2022）

大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考
WA71	基礎教育学特論1	2	
WA72	基礎教育学特論2	2	
WA73	基礎教育学特論3	2	
WA74	基礎教育学特論4	2	
WF51	教育実践研究特論1	2	
WF52	教育実践研究特論2	2	
WF53	教育実践研究特論3	2	
WF54	教育実践研究特論4	2	
WF55	教育実践研究特論5	2	
WF56	教育実践研究特論6	2	
WF57	教育実践研究特論7	2	
WF58	教育実践研究特論8	2	
WF59	教育実践研究特論9	2	
WF43	生涯学習研究特論1	2	
WF44	生涯学習研究特論2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考
WF45	生涯学習研究特論3	2	
WF46	生涯学習研究特論4	2	
WF61	国際教育研究特論1	2	
WF62	国際教育研究特論2	2	
WF63	国際教育研究特論3	2	
WF82	生涯学習研究演習1	2	
WF92	国際教育研究演習1	2	
WF93	国際教育研究演習2	2	

▼分類される科目

1. 左記に挙げた学部科目
2. 指定された大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

a11 自主研究（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH19	Myプロジェクト	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

卒業に必要な単位ではありませんが、3年次生が履修することになっています。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。
- ③ 教職課程履修者について、教職課程関連科目に関する詳細は、教職課程ガイダンスにて説明します。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. 履修上の注意

中学「社会」、高校「地理歴史」、高校「公民」の教員免許状取得希望者、または、小学校・幼稚園教員免許状取得希望者の履修については、教職課程ガイダンスにて説明します。

【教育学専攻生も履修できる科目】

次に挙げる科目は、教育学専攻生も履修できます。

コード	授業科目	単位	備考
KA01	道徳教育の理論と実践 I	2	
KA02	教育相談 I	2	
KA03	教育心理学 I	2	
KA04	教育方法 I	2	
KA05	特別活動 I	2	
KA06	生徒指導 [含進路指導] I	2	
KH01	西洋教育史 2	2	
KH02	日本教育史 1	2	廃止（～2022）

コード	授業科目	単位	備考
KH03	日本教育史 2	2	
KH04	教育課程方法論	2	
KH05	教育経営と学校制度	2	
KH06	教育工学	2	隔年
KH11	教育方法とメディア開発	2	隔年
JA13	教育原理 1	2	
JA14	教育原理 2	2	廃止（～2022）

㊦ アドミッションポリシー ㊧

教育学専攻では、さまざまな教育問題を取り上げながら、教育学を基礎とした理論と方法を学習します。単に必要な知識を身につけるだけでなく、豊かな感性や心を育てることも大切にしています。その中で、人が生きる様々な文脈における学びの課題に向き合うための資質・能力が望まれます。

本専攻では、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学・編入学してもらいたいと願っています。

1. 高等学校卒業相当の知識・技能
2. 教育の持つ社会的重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
3. 教育の本質を実証的に理解しようとする知的探究心
4. 広範で多様な現代の教育問題への関心と課題解決への意欲
5. 生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概をもち、教育現場、企業、地域社会、国際社会など、さまざまな「学びの場」で意欲的に活躍したいと考えている方が望まれます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

人々が学び、育ち、共に社会を築く、その営みをグローバルな視点から実践的に解き明かす人の育成を目指し、地域社会、企業、各種の学校、政府機関等、現代社会の多様な教育現場で活躍する人材を養成します。

教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認め、社会に送り出します。

1. 教育学に関する幅広い専門的知識と基本的な研究・調査能力、及び卒業論文を完遂することができる能力。
2. 教育への本質的理解にもとづいて現代の教育課題に真摯にかつしなやかに取り組み、課題の解決に向けて論理的・創造的・批判的に思考し、行動する能力。
3. 自己の関心を追求し、適切な方法をもって問題の解決に取り組む姿勢。
4. 他者との協働を通して根本的な問題等に対応する姿勢。
5. 学校教育現場および企業、地域社会、政府機関や国際機関など、国内外の幅広く多様な現場で活躍する資質。
6. 柔軟性と創造性をもって社会貢献し、より公正な社会の構築に寄与できる力。
7. さまざまな教育現場で求められる豊かな感性及び自己表現力と他者とのコミュニケーション能力。
8. 一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢と意欲。
9. 生涯にわたり、学ぶ姿勢と意欲。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現し、学生のニーズに応じて焦点化された学習が可能となるように「子どもと学びの基礎研究」、「情報教育とメディア開発」、「グローバル教育と生涯学習」の3コースを設けてカリキュラムを構成しています。

教育学専攻では、以下のような方針で2年次（編入学生含む）から4年次への教育課程を編成しています。

1. 教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育学概論」を全体の基盤として位置づける。
2. 開設科目は教育学の幅広い領域を覆い、最新のテーマに対応できるよう多様な展開に努めるが、学生自身の関心に基づく選択履修の機会を最大限に保証するために、必修科目を最小限にとどめる。
3. 国内外のスタディツアーを通して現代社会の実践的課題やその解決に従事する専門家に直接に触れ、創造的思考や批判的思考を養う機会を設ける。
4. 研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に教育学の専門的な研究方法へと導く。3年次には自己の問題関心を追求することのできるプロジェクト型の科目を置き、研究能力を高め自己の力に挑戦する機会とする。これらの過程を通して専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5. 教育学科の特色ある科目群である「人間学習」を置き、協働的、体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6. 2年次（編入学生含む）から4年次への具体的な展開方針は次のようである。
2年次：教育学の基礎を学び、教育学的な問題のとらえ方を理解する。現代的な教育の課題への関心を深め、視野を広げる。
3年次：教育学について発展的に学び、その実証的な研究方法を理解する。現代的な教育の課題に実践的に取り組むための知識と技能を身につける。
4年次：教育学の深い理解に基づき、柔軟性と創造性をもって教育の諸問題を探究する。身に付けた力を生かし社会貢献の道を切り拓く。

卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心ある角度から対象を掘り下げ、実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切に作る社会づくりに貢献する意欲を高め、社会の広い分野において諸課題の発見とその解決に積極的に関わり、活躍することができる人材を養成します。

教育への本質的理解にもとづく柔軟で創造的な思考力と判断力、広範で多様な現代社会における教育の問題に対応する資質と能力、多様なメディアを介した自己表現力と豊かな感性、社会に貢献する意欲と使命感を身につけることによって、国内外の幅広く多様なフィールドにおいて教育のさまざまな課題を理解し、解決に向けて実践的に行動できること、学校教育現場および企業、地域社会、政府機関や国際機関など、生涯にわたる「学び」にかかわる国内外の幅広く多様な現場での活躍が期待されます。

教育学科：教育学専攻カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の基礎を学び、教育学的な問題のとらえ方を理解する ・現代的な教育の課題への関心を深め、多様なフィールドに視野を広げる ・多様なメディアを介した自己表現の方法を体験し、感性を磨く 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の実証的な研究方法について理解する ・現代的課題に実践的に取り組むための知識と技能を身につける ・情報活用力、表現力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性と創造性をもって教育の諸問題を探究する ・自ら課題を設定し、実際に調査・研究を行い卒論にまとめる ・身につけた力を生かす社会貢献の道を切り拓く
1年次 奨励 教育 その他	必履修 教育-1 2年ゼミ	必修 教育-2 学年ゼミ	
	必修 教育-3 基礎理論	必履修 教育-4 自主研究	
	選択/選択必修 教育-5	教育理念・教育史	
	選択 教育-6	教職関連	
	選択/選択必修	教育-7 教育の社会的事項	
	選択 教育-8	発達と教育課程・方法、人間学習、情報メディア、特別講義、その他	

▼卒業までに必要とする最低単位数（2022年度入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-5)		合計：最低26単位		39-44ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)		合計：最低98単位		200-204ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a11)		合計：最低60単位		200-203ページ
a1	基礎理論と学年ゼミ	8	必修	
a2	2年ゼミ	4	選択	
a3	教育理念・教育史	(注)	選択／選択必修	
a4	教育の社会的事項	(注)	選択／選択必修	
a5	発達と教育課程・方法	-	選択	
a6	人間学習	-	選択	
a7	情報メディア	-	選択	
a8	特別講義	-	選択	
a9	教職関連	-	選択	
a10	その他	-	選択	
a11	自主研究	-	選択	
2-b ▼ 関連分野		合計：最低26単位		204ページ
うち第二外国語余剰分				43ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3] の合計：132単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1 ~ 5-2)				
5-1	1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2	運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

教育学専攻では、以下のような4つのコースを設けてカリキュラムを構成しています。詳細は学科の説明会資料や学科のホームページに掲載していますので、それを参照してください。

1. 子どもと学びの基礎研究コース

このコースでは、「人間の成長や学び」を中心に、原理的分野（教育哲学、教育史、教育社会学など）と関係科目によって、教育学を体系的に履修します。

2. 情報教育とメディア開発コース

このコースでは、コンピュータの教育的活用、メディアによる表現、授業設計、学習環境の設計、マルチメディア教材の開発や情報表現等に関する科目を中心に履修します。

3. グローバル教育と生涯学習コース

このコースでは、教育学の基礎的科目、教育社会学や生涯学習に関する科目、人間学習などの科目を中心に履修します。

4. 中高免許取得者コース（2019年度以降入学者対象）

高等学校・中学校教諭免許状の取得を希望するコースで教職関連科目を履修します。

教職課程内に開設された**小学校・幼稚園教員特別プログラム**に登録することで、初等教員免許取得のための科目を履修することができます。

▶教職課程ガイダンスにて説明します。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a11）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 基礎理論と学年ゼミ (必修・8単位) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH17	教育学演習 2 - (1)	2	
JH18	教育学演習 2 - (2)	2	
JH16	教育学演習 3	4	廃止 (～2022)
JH27	教育学演習Ⅲ (1)	2	
JH28	教育学演習Ⅲ (2)	2	

▼卒業要件

左記の必修科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

教育学演習 2 は 3 年次指定科目です。

教育学演習 3 は 4 年次指定科目です。

▼履修上の注意

2023年度以降は「教育学演習 3」にかえて、下記の代替科目を修得してください。

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
JH16	教育学演習 3 < 4 >	JH27	教育学演習Ⅲ (1) < 2 >
		JH28	教育学演習Ⅲ (2) < 2 >

a2 2年ゼミ (選択) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH21	教育学演習 1 - (1)	2	
JH22	教育学演習 1 - (2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

卒業に必要な単位ではありませんが、2年次生全員が履修することになっています。

a3 教育理念・教育史 (選択/選択必修) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC14	教育哲学 2	2	指定科目
JC13	西洋社会思想	2	指定科目
JC10	教育原理	2	①

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼標準履修年次

標準履修年次は 2・3 年次です。

▼履修上の注意

① 「教育原理」は教育学専攻生も履修できる科目
「教育原理 1」「教育原理 2」とは別の科目です。

a4 教育の社会的事項 (選択/選択必修) —— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC40	教育行政学 2	2	
JC48	社会学概論 1	2	指定科目 隔年
JC49	社会学概論 2	2	指定科目 隔年
JC52	比較教育学	4	廃止 (～2020)
JC55	比較教育学 1	2	
JC56	比較教育学 2	2	
JC47	生涯学習概論	2	
JC39	教育経営	2	
JC91	発展途上国における教育問題 1	2	
JC92	発展途上国における教育問題 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

指定科目 4 科目 (「教育哲学 2」「西洋社会思想」「社会学概論 1」「社会学概論 2」) から 6 単位を修得することとする。

a5 発達と教育課程・方法（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
A群			
JC32	教育心理学Ⅱ	2	
LH12	発達心理学2	2	①
B群			
JC73	教育調査	2	隔年
JC37	教育課程論	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼標準履修年次

「教育調査」の標準履修年次は3・4年次、その他の科目の標準履修年次は2・3年次です。

▼履修上の注意

- ① 「発達心理学2」は、心理学科開講科目です。修得単位は、自動的に「a5：発達と教育課程・方法」に集計されます。

a6 人間学習（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JD45	人間学習原論	2	廃止（～2022）
JD46	人間学習1	2	
JD47	人間学習2	2	
JD48	人間学習3	2	
JD49	人間学習4	2	
JD50	人間学習5	2	
JD51	人間学習6	2	
JD52	人間学習7	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
JD53	人間学習8	2	
JD54	人間学習9	2	
JD55	人間学習10	2	廃止（～2022）
JD56	人間学習11	2	廃止（～2022）
JD57	人間学習12	2	廃止（～2022）

▼標準履修年次

標準履修年次は3・4年次です。

a7 情報メディア（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC30	教育方法〔含ICT活用〕	2	
JC34	教育メディア論	2	隔年
JE13	メディア教材開発	2	隔年
JE14	教育情報と学習デザイン	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a8 特別講義（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JB21	教育学特講1	4	廃止（～2022）
JB22	教育学特講2	2	廃止（～2022）
JB23	教育学特講3	2	廃止（～2022）
JB24	教育学特講4	2	廃止（～2022）
JB25	教育学特講5	2	廃止（～2022）
JB26	教育学特講6	2	廃止（～2022）

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

コード	授業科目	単位	備考
JB27	教育学特講7	2	廃止（～2022）
JB28	教育学特講8	2	廃止（～2022）
JB29	教育学特講9	2	廃止（～2022）
JB31	教育学特講10	2	廃止（～2022）
JC87	体育学特講	2	廃止（～2022）

a9 教職関連（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC71	教育相談Ⅱ	2	中・高
JF16	道徳教育の理論と実践Ⅱ	2	中
JF17	特別活動Ⅱ	2	中・高
JF15	生徒指導〔含進路指導〕Ⅱ	2	中・高

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼標準履修年次

標準履修年次は2・3年次です。

▼履修上の注意

卒業のためには、必ずしもこの分野から履修する必要はありませんが、教職課程履修者にとって必修となる科目があります。

a10 その他（選択）—— 専攻分野

学部科目			
コード	授業科目	単位	備考
JA12	教育学入門	2	廃止（～2022）
JC22	障害者教育・福祉概論	2	廃止（～2022）

大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考
WA71	基礎教育学特論1	2	
WA72	基礎教育学特論2	2	
WA73	基礎教育学特論3	2	
WA74	基礎教育学特論4	2	
WF51	教育実践研究特論1	2	
WF52	教育実践研究特論2	2	
WF53	教育実践研究特論3	2	
WF54	教育実践研究特論4	2	
WF55	教育実践研究特論5	2	
WF56	教育実践研究特論6	2	
WF57	教育実践研究特論7	2	
WF58	教育実践研究特論8	2	
WF59	教育実践研究特論9	2	
WF43	生涯学習研究特論1	2	
WF44	生涯学習研究特論2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考
WF45	生涯学習研究特論3	2	
WF46	生涯学習研究特論4	2	
WF61	国際教育研究特論1	2	
WF62	国際教育研究特論2	2	
WF63	国際教育研究特論3	2	
WF82	生涯学習研究演習1	2	
WF92	国際教育研究演習1	2	
WF93	国際教育研究演習2	2	

▼分類される科目

1. 左記に挙げた学部科目
2. 指定された大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

a11 自主研究（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH19	Myプロジェクト	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

卒業に必要な単位ではありませんが、3年次生が履修することになっています。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。
- ③ 教職課程履修者について、教職課程関連科目に関する詳細は、教職課程ガイダンスにて説明します。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. 履修上の注意

中学「社会」、高校「地理歴史」、高校「公民」の教員免許状取得希望者、または、小学校・幼稚園教員免許状取得希望者の履修については、教職課程ガイダンスにて説明します。

【教育学専攻生も履修できる科目】

次に挙げる科目は、教育学専攻生も履修できます。

コード	授業科目	単位	備考
KA01	道徳教育の理論と実践 I	2	
KA02	教育相談 I	2	
KA03	教育心理学 I	2	
KA05	特別活動 I	2	
KA06	生徒指導 [含進路指導] I	2	
KH01	西洋教育史 2	2	

コード	授業科目	単位	備考
KH02	日本教育史 1	2	廃止(～2022)
KH03	日本教育史 2	2	
KH04	教育課程方法論	2	
KH05	教育経営と学校制度	2	
JA13	教育原理 1	2	
JA14	教育原理 2	2	廃止(～2022)

03 アドミッションポリシー 03

教育学専攻では、さまざまな教育問題を取り上げながら、教育学を基礎とした理論と方法を学習します。単に必要な知識を身につけるだけでなく、豊かな感性や心を育てることも大切にしています。その中で、人が生きる様々な文脈における学びの課題に向き合うための資質・能力が望まれます。

本専攻では、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学・編入学してもらいたいと願っています。

0. 高等学校卒業相当の知識・技能
1. 教育の持つ社会的な重要性和人間形成上の意義についての興味、関心
 2. 教育の本質を実証的に理解しようとする知的探究心
 3. 広範で多様な現代の教育問題への関心と課題解決への意欲
 4. 生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概をもち、教育現場、企業、地域社会、国際社会など、さまざまな「学びの場」で意欲的に活躍したいと考えている方が望まれます。

03 ディプロマポリシー 03

人々が学び、育ち、共に社会を築く、その営みをグローバルな視点から実践的に解き明かす人の育成を目指し、地域社会、企業、各種の学校、政府機関等、現代社会の多様な教育現場で活躍する人材を養成します。

教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認め、社会に送り出します。

1. 教育学に関する幅広い専門的知識と基本的な研究・調査能力、及び卒業論文を完遂することができる能力。
2. 教育への本質的理解にもとづいて現代の教育課題に真摯にかつしなやかに取り組み、課題の解決に向けて論理的・創造的・批判的に思考し、行動する能力。
3. 自己の関心を追求し、適切な方法をもって問題の解決に取り組む姿勢。
4. 他者との協働を通して根本的な問題等に対応する姿勢。
5. 学校教育現場および企業、地域社会、政府機関や国際機関など、国内外の幅広く多様な現場で活躍する資質。
6. 柔軟性と創造性をもって社会貢献し、より公正な社会の構築に寄与できる力。
7. さまざまな教育現場で求められる豊かな感性及び自己表現力と他者とのコミュニケーション能力。
8. 一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢と意欲。
9. 生涯にわたり、学ぶ姿勢と意欲。

03 カリキュラムポリシー 03

教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、学生のニーズに応じて焦点化された学習が可能となるように「子どもと学びの基礎研究」、「情報教育とメディア開発」、「グローバル教育と生涯学習」の3分野を設けてカリキュラムを構成しています。

教育学専攻では、以下のような方針で2年次（編入学生含む）から4年次への教育課程を編成しています。

1. 教育学のいずれかの分野を幅広く、体系的に理解した上で教育学全般を理解していくために、各分野に選択必修科目を設ける。
2. 開設科目は教育学の幅広い領域を覆い、最新のテーマに対応できるよう多様な展開に努めるが、学生自身の関心に基づく選択履修の機会を最大限に保証するために、必修科目を最小限にとどめる。
3. 国内外のスタディツアーを通して現代社会の実践的課題やその解決に従事する専門家に直接に触れ、創造的思考や批判的思考を養う機会を設ける。
4. 研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に教育学の専門的な研究方法へと導く。3年次には自己の問題関心を追求することのできるプロジェクト型の科目を置き、研究能力を高め自己の力に挑戦する機会とする。これらの過程を通して専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5. 教育学科の特色ある科目群である「人間学習」を置き、協働的、体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6. 2年次（編入学生含む）から4年次への具体的な展開方針は次のようである。
2年次：教育学の基礎を学び、教育学的な問題のとらえ方を理解する。現代的な教育の課題への関心を深め、視野を広げる。
3年次：教育学について発展的に学び、その実証的な研究方法を理解する。現代的な教育の課題に実践的に取り組むための知識と技能を身につける。
4年次：教育学の深い理解に基づき、柔軟性と創造性をもって教育の諸問題を探究する。身に付けた力を生かし社会貢献の道を切り拓く。

卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心ある角度から対象を掘り下げ、実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切に作る社会づくりに貢献する意欲を高め、社会の広い分野において諸課題の発見とその解決に積極的に関わり、活躍することができる人材を養成します。

教育への本質的理解にもとづく柔軟で創造的な思考力と判断力、広範で多様な現代社会における教育の問題に対応する資質と能力、多様なメディアを介した自己表現力と豊かな感性、社会に貢献する意欲と使命感を身につけることによって、国内外の幅広く多様なフィールドにおいて教育のさまざまな課題を理解し、解決に向けて実践的に行動できること、学校教育現場および企業、地域社会、政府機関や国際機関など、生涯にわたる「学び」にかかわる国内外の幅広く多様な現場での活躍が期待されます。

教育学科：教育学専攻カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップ及び該当科目については、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の基礎を学び、教育学的な問題のとらえ方を理解する ・現代的な教育の課題への関心を深め、多様なフィールドに視野を広げる ・多様なメディアを介した自己表現の方法を体験し、感性を磨く 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の実証的な研究方法について理解する ・現代的課題に実践的に取り組むための知識と技能を身につける ・情報活用力、表現力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性と創造性をもって教育の諸問題を探究する ・自ら課題を設定し、実際に調査・研究を行い卒論にまとめる ・身につけた力を生かす社会貢献の道を切り拓く
	必修 教育-1 2年ゼミ	必修 教育-2 学年ゼミ	
	必修 教育-3 基礎理論	必修 教育-4 自主研究	
	選択/選択必修	教育-5 子どもと学びの基礎研究	
	選択/選択必修	教育-6 情報教育とメディア開発	
	選択/選択必修	教育-7 グローバル教育と生涯学習	
	選択	教育-8 人間学習	
	選択	教育-9 教職関連	
	選択	教育-10 自由選択科目	

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-6)		合計：最低28単位		54-58ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6	AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)		合計：最低90単位		208-211ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a9)		合計：最低56単位		208-211ページ
a1	基礎理論と学年ゼミ	8	必修	
a2	2年ゼミ	-	選択	
a3	自主研究	-	選択	
a4	子どもと学びの基礎研究	(注)	選択／選択必修	
a5	情報教育とメディア開発	(注)	選択／選択必修	
a6	グローバル教育と生涯学習	(注)	選択／選択必修	
a7	人間学習	2	選択必修	
a8	教職関連	-	選択	
a9	自由選択科目	-	選択	
2-b ▼ 関連分野		合計：最低22単位		211ページ
うち第二外国語余剰分				56ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：126単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1)				
5-1	1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

教育学専攻では、以下のような3つの分野を設けてカリキュラムを構成しています。詳細は学科の説明会資料や学科のホームページに掲載していますので、それを参照してください。

1. 子どもと学びの基礎研究分野

この分野では、「人間の成長や学び」を中心に、原理的分野（教育哲学、教育史、教育原理など）と関係科目によって、教育学を体系的に履修します。

2. 情報教育とメディア開発分野

この分野では、コンピュータの教育的活用、メディアによる表現、授業設計、学習環境の設計、メディア教材の開発や情報表現等に関する科目を中心に履修します。

3. グローバル教育と生涯学習分野

この分野では、教育社会学や比較教育学、生涯学習に関する科目を中心に履修します。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要があるので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a11）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 基礎理論と学年ゼミ（必修・8単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH25	教育学演習Ⅱ（1）	2	
JH26	教育学演習Ⅱ（2）	2	
JH27	教育学演習Ⅲ（1）	2	
JH28	教育学演習Ⅲ（2）	2	

▼卒業要件

左記の必修科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

教育学演習Ⅱは3年次指定科目です。

教育学演習Ⅲは4年次指定科目です。

a2 2年ゼミ（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH23	教育学演習Ⅰ（1）	2	
JH24	教育学演習Ⅰ（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

卒業に必要な単位ではありませんが、2年次生全員が履修することになっています。

a3 自主研究（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH19	Myプロジェクト	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

卒業に必要な単位ではありませんが、3年次生が履修することになっています。

a4 子どもと学びの基礎研究（選択／選択必修）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC23	教育哲学	2	指定科目 隔年
JC13	西洋社会思想	2	指定科目 隔年
JA13	教育原理1	2	指定科目
RA22	教育原理2	2	
KH05	教育経営と学校制度	2	
KH15	カリキュラム論	2	
KH16	外国教育史	2	
KH17	日本教育史	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

a4、a5、a6の指定科目10科目から2単位を修得することとする。

▼履修上の注意

a4 指定科目の中から最低1科目は履修することが望ましい。

a5 教育とメディア開発（選択／選択必修）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC30	教育方法〔含ICT活用〕	2	
JC34	教育メディア論	2	指定科目 隔年
JE13	メディア教材開発	2	指定科目 隔年
JE14	教育情報と学習デザイン	2	指定科目

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

a4、a5、a6の指定科目10科目から2単位を修得することとする。

▼履修上の注意

a5 指定科目の中から最低1科目は履修することが望ましい。

a6 グローバル教育と生涯学習（選択／選択必修）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JC48	社会学概論 1	2	指定科目 隔年
JC49	社会学概論 2	2	指定科目 隔年
JC55	比較教育学 1	2	指定科目
JC56	比較教育学 2	2	
JC47	生涯学習概論	2	指定科目
JC93	発展途上国における教育問題(1)	2	
JC94	発展途上国における教育問題(2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

a4、a5、a6 の指定科目10科目から2単位を修得することとする。

▼履修上の注意

a6 指定科目の中から最低1科目は履修することが望ましい。

a7 人間学習（選択必修・最低2単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JD46	人間学習 1	2	
JD47	人間学習 2	2	
JD48	人間学習 3	2	
JD49	人間学習 4	2	
JD50	人間学習 5	2	
JD51	人間学習 6	2	
JD52	人間学習 7	2	
JD53	人間学習 8	2	
JD54	人間学習 9	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること

▼標準履修年次

標準履修年次は3・4年次です。

a8 教職関連（選択）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JH83	教育心理学	2	中・高
LH12	発達心理学 2	2	中・高
JH81	道徳教育の理論と実践	2	中
JH84	特別活動	2	中・高
JH85	生徒指導 [含進路指導]	2	中・高
JH82	教育相談	2	中・高
JH86	特別支援教育概論	2	中・高
JH87	総合的な学習の時間の指導法	2	中・高

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼標準履修年次

標準履修年次は2・3年次です。

▼履修上の注意

卒業のためには、必ずしもこの分野から履修する必要はありませんが、教職課程履修者にとって必修となる科目があります。

a9 その他（選択）—— 専攻分野

大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考
WA71	基礎教育学特論 1	2	
WA72	基礎教育学特論 2	2	
WA73	基礎教育学特論 3	2	
WA74	基礎教育学特論 4	2	
WF51	教育実践研究特論 1	2	
WF52	教育実践研究特論 2	2	
WF53	教育実践研究特論 3	2	
WF54	教育実践研究特論 4	2	
WF55	教育実践研究特論 5	2	
WF56	教育実践研究特論 6	2	
WF57	教育実践研究特論 7	2	
WF58	教育実践研究特論 8	2	
WF59	教育実践研究特論 9	2	
WF43	生涯学習研究特論 1	2	
WF44	生涯学習研究特論 2	2	
WF45	生涯学習研究特論 3	2	
WF46	生涯学習研究特論 4	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考
WF61	国際教育研究特論 1	2	
WF62	国際教育研究特論 2	2	
WF63	国際教育研究特論 3	2	
WF82	生涯学習研究演習 1	2	
WF92	国際教育研究演習 1	2	
WF93	国際教育研究演習 2	2	

▼分類される科目

指定された大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目

▼履修上の注意

大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

- 関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。
- 教職課程履修者について、教職課程関連科目に関する詳細は、教職課程ガイダンスにて説明します。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

- 卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- 博物館実習（史学科開講）
- 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. 履修上の注意

中学「社会」、高校「地理歴史」、高校「公民」の教員免許状取得希望者、または、小学校・幼稚園教員免許状取得希望者の履修については、教職課程ガイダンスにて説明します。

㊦ アドミッションポリシー ㊧

「子どもの成長を喜ぶことができる、感性豊かな教員・保育者」を育成します。専攻内には、4年間の学びを通じて、一人ひとりの子どもに寄り添い、心身の成長を支える教員に不可欠な、豊かな人間性や指導力を伸ばします。

初等教育学専攻は、将来、小学校教員あるいは幼稚園・保育園・子ども園の保育者になることを前提とした特別な専攻です。初等教育コースと幼児教育コースに分かれていて、専攻を修了すると、初等教育コースでは小学校1種の免許が取得でき、幼児教育コースでは幼稚園1種と保育士が取得できるようになっています。したがって、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学してもらいたいと願っています。

1. 高等学校卒業相当の知識・技能
2. 子ども一人ひとりに心をこめて関わることのできる、温かさ豊かな人間性
3. たくましい知的探究心と倫理性、責任感
4. 教職・保育職への情熱としなやかな実行力
5. 教育・保育の持つ社会的な重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
6. 生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概この専攻を希望する者は、現時点で、卒業後は教員あるいは保育士になるという強い意志とそのための努力を惜しまない学生であることが望まれます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

教育学科初等教育学専攻は、豊かな心、確かな力量、強い責任感を持ち、子どもの「いのち」と「こころ」の成長を支える力を持った幼稚園教員、保育士、小学校教員を社会に送り出します。

初等教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認めます。

1. 公正な社会の実現に向けて高い志をもち、教育・保育への本質的理解にもとづいて初等教育・保育に貢献できる資質。
2. 実践現場に必要な教育・養護・福祉等の幅広い視野と深い洞察力、および柔軟性と創造性。
3. 教育学に関する高度な専門的知識と基本的な研究・調査能力を持ち、卒業論文を完遂することができる能力。
4. 論理的かつ批判的な思考力および柔軟で的確な判断力。
5. 実践現場に必要な豊かな感性と自己表現力並びに倫理性。
6. 人格の基礎を培う時期である初等教育・保育に貢献しようとする情熱。
7. 教育・保育に携わる専門家としての深い人間理解力と実践力。
8. 現代社会の教育・保育問題に対して真摯にかつしなやかに対応し、他者と協働して問題解決に取り組む姿勢と意欲。
9. 自らの知的関心を発展させ、生涯学びつづける姿勢と意欲
10. 一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切に社会の実現に貢献しようとする姿勢。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

初等教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現し、学生のニーズに応じた免許・資格取得が可能となるように、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた「初等教育コース」と就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた「幼児教育コース」を置いています。

初等教育学専攻では、以下のような方針で2年次から4年次への教育課程を編成しています。

1. 教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育学概論」を全体の基盤として、さらに多様な教育学関係科目を置く。
2. 以上を基礎として、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた初等教育コースと就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた幼児教育コースを置く。各コースを修了することでそれぞれの学校種の一種教員免許状及び保育士資格を取得できるよう科目を開設する。
3. 聖心の初等教育学として豊かな人間性の育成を重視し、高度な教員・保育者養成を目指して特色あるカリキュラムを展開する。
4. 研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に初等教育学の専門的な研究方法へと導く。専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5. 教育学科の特色ある科目群として「人間学習」を多数展開し、協力して行う体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6. 2年次から4年次への具体的な展開方針は次のようである。
 - 2年次：教育全般や初等教育・保育に関する基礎を学ぶ。教員・保育者に求められる基本的な資質や能力を身に付け、将来の自己像・教員・保育者像を描く。また、保育実習を通して乳幼児の発達や子育てをめぐる諸問題に関心を高めていく。
 - 3年次：広い視点から教育全般や初等教育・保育をとらえる。知識を豊かにし教育の具体的方法について学ぶ。教員・保育者に求められる資質の理解を深め、表現力や感性、豊かな心を磨く。
 - 4年次：幅広い視野、柔軟な思考力、的確な判断力など、教員・保育者に必要な資質・能力を確かなものとし、教育の諸問題を探究する。教職・保育職に対する情熱と使命感を高める。教育実習を実施し、学校と児童・幼児に対する理解を深め、実践的な指導力を身につける。

卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心に基づき実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会づくりに貢献する意欲を高め、責任感と使命感を持って活躍することができる、実践的指導力のある小学校・幼稚園教諭を養成します。

人間愛に支えられ深く他者を理解する力、教職に対する情熱と使命感、教育の基礎理論、初等教育教員として必要な理論と方法や実践する力を身につけ、幅広い教養と思考力そして的確な判断力を備え、自ら困難な問題に立ち向かい、理解者・支援者としての役割を果たすことができる人材、自らの人間力を高め社会に貢献する精神を磨き続ける人材を育てます。初等教育に情熱をもち、幼稚園、あるいは小学校の教員として深い人間理解力と実践力を兼ね備えた、貢献できる教員となることを期待されます。

教育学科：初等教育学専攻（初等教育コース）カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方を身につける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や初等教育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師像を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な実践を知り、広い視点から教育を考える ・子どもの発達を理解し、教育の具体的方法について学ぶ ・教育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師に必要な資質への理解を深める ・教師にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師像に向けた自己課題を明確にする
	必修 初教(小)-1 2年ゼミ	必修 初教(小)-2 学年ゼミ	
1年次 奨励 科目 自由 選択 科目	必修 初教(小)-3 基礎理論		
	必修 初教(小)-4 教職の意義等、教科の指導法、教科内容の概論、教育の社会的事項、教育の課程		
	選択必修 初教(小)-5 教育理念・教育史、発達と学習の過程、教育の方法		
		必修 初教(小)-6 特別活動・生徒指導等、教育実習、教職実践演習	
	選択必修	初教(小)-7 人間学習	
	選択	初教(小)-8 自由選択科目	

※2018年度以前入学者は、2021年度以前の履修要覧で確認してください。

▼卒業までに必要とする最低単位数（2019～2021年度以降入学者）

分野系列	卒業必要最低単位数	区分	履修要項掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-5） 合計：最低26単位			39-44ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b） 合計：最低98単位			215-219ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a15） 合計：最低84単位			215-218ページ
a1 基礎理論と学年ゼミ	10	必修	
a2 特別活動・生徒指導等	12	必修	
a3 教職の意義等	2	必修	
a4 教育実習	6	必修	
a5 教職実践演習	2	必修	
a6 教科の指導法	20	必修	
a7 教科内容の概論	10	選択必修	
a8 教育理念・教育史	2	選択必修	
a9 教育の社会的事項	2	必修	
a10 教育の課程	2	必修	
a11 発達と学習の過程	2	選択必修	
a12 教育の方法	2	選択必修	
a13 人間学習	2	選択必修	
a14 2年ゼミ	－	選択	
a15 自由選択科目	－	選択	
2-b ▼ 関連分野 ⇒憲法2単位を含む 合計：最低14単位		選択必修	219ページ
うち第二外国語余剰分			43ページ
[3] ■ 卒業論文	8単位	必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3]の合計：132単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外（5-1～5-2）			
5-1 1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2 運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

[2-a] 専攻分野（最低84単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a15）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が84単位以上あること

a1 基礎理論と学年ゼミ（必修・10単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JA13	教育原理 1	2	
JH17	教育学演習 2 - (1)	2	
JH18	教育学演習 2 - (2)	2	
JH16	教育学演習 3	4	廃止（～2022）
JH27	教育学演習Ⅲ (1)	2	
JH28	教育学演習Ⅲ (2)	2	

▼卒業要件

- 左記の必修科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

- 教育原理 1 は 2 年次指定科目です。
教育学演習 2 は 3 年次指定科目です。
教育学演習 3 は 4 年次指定科目です。

▼履修上の注意

- 2023年度以降は「教育学演習 3」にかえて、下記の代替科目を修得してください。

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
JH16	教育学演習 3 < 4 >	JH27	教育学演習Ⅲ (1) < 2 >
		JH28	教育学演習Ⅲ (2) < 2 >

a2 特別活動・生徒指導等（必修・12単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
KA01	道徳教育の理論と実践 I	2	
KA05	特別活動 I	2	
KA06	生徒指導〔含進路指導〕 I	2	
KA02	教育相談 I	2	
KA93	特別支援教育概論（幼小）	2	
KB92	総合的な学習の時間の指導法（小学校）	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

a3 教職の意義等（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH13	教職入門 I	2	

▼卒業要件

- 左記の科目を修得していること

a4 教育実習（必修・6単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
KG13	教育実習指導2（小学校）	1	3年次必修
KG14	教育実習指導5（小学校）	1	4年次必修
KH09	教育実習3	2	4年次必修
KH10	教育実習4	2	4年次必修

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼自動登録科目

左記の科目は、自動登録科目です。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録確認時に必ず申し出てください。（⇒p.21）

▼履修上の注意

教育実習は、履修資格に関する条件が別に定められています。（⇒p.219）

a5 教職実践演習（必修・2単位）

コード	授業科目	単位	備考
KG42	教職実践演習（小学校）	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

▼年次指定科目

教職実践演習（小学校）は4年次指定科目です。

a6 教科の指導法（必修・20単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
KB11	国語科教育法 [小学校]	2		KB61	音楽科教育法	2	
KB21	社会科教育法 [小学校]	2		KB72	図画工作科教育法	2	
KB41	算数科教育法	2		KB81	家庭科教育法	2	
KB51	理科教育法	2		KB91	体育科教育法	2	
KB31	生活科教育法	2		KB93	外国語教育法 (小学校)	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

a7 教科内容の概論（選択必修・10単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KA13	国語概論 [含書写]	2	
KA21	社会科概論	2	
KA42	算数概論	2	
KA51	理科概論	2	
KA31	生活科概論	2	
KA63	音楽概論1	2	
KA73	図画工作概論	2	
KA82	家庭科概論	2	
KA92	体育概論	2	
KA94	外国語概論	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低10単位修得していること

a8 教育理念・教育史（選択必修・最低2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH01	西洋教育史2	2	
KH02	日本教育史1	2	廃止（～2022）
KH03	日本教育史2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること**a9 教育の社会的事項（必修・2単位）** 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH05	教育経営と学校制度	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること**a10 教育の課程（必修・2単位）** 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH04	教育課程方法論	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること**a11 発達と学習の過程（選択必修・最低2単位）** 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KA03	教育心理学I	2	
LH11	発達心理学1	2	履修上の注意

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること

▼履修上の注意

「発達心理学1」は心理学科開講科目です。修得単位は、「a11：発達と学習の過程」に集計されます。

a12 教育の方法（選択必修・最低2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KA04	教育方法I	2	
KH11	教育方法とメディア開発	2	隔年
KH06	教育工学	2	隔年

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること

a13 人間学習（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：2・3・4年次

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JD45	人間学習原論	2	廃止(～2022)	JD52	人間学習7	2	
JD46	人間学習1	2		JD53	人間学習8	2	
JD47	人間学習2	2		JD54	人間学習9	2	
JD48	人間学習3	2		JD55	人間学習10	2	廃止(～2022)
JD49	人間学習4	2		JD56	人間学習11	2	廃止(～2022)
JD50	人間学習5	2		JD57	人間学習12	2	廃止(～2022)
JD51	人間学習6	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から最低2単位修得していること

▼標準履修年次

「人間学習原論」の標準履修年次は2・3年次、その他の科目は3・4年次です。

a14 2年ゼミ（選択）

標準履修年次：2年次

コード	授業科目	単位	備考
JH21	教育学演習1-(1)	2	
JH22	教育学演習1-(2)	2	
JH32	教育情報基礎演習1	2	廃止(～2022)

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

卒業に必要な単位ではありませんが、2年次生全員が履修することになっています。なお、「教育情報基礎演習1」を修得することで、免許法施行規則第六十六条の六に定める科目のうち、「情報機器の操作」の科目を修得したことになります。

a15 自由選択科目（選択）

学部科目				大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JA12	教育学入門	2	廃止(～2022)	WA71	基礎教育学特論1	2	
JA14	教育原理2	2	廃止(～2022)	WA72	基礎教育学特論2	2	
JB21	教育学特講1	4	廃止(～2022)	WA73	基礎教育学特論3	2	
JB22	教育学特講2	2	廃止(～2022)	WA74	基礎教育学特論4	2	
JB23	教育学特講3	2	廃止(～2022)	WF51	教育実践研究特論1	2	
JB24	教育学特講4	2	廃止(～2022)	WF52	教育実践研究特論2	2	
JB25	教育学特講5	2	廃止(～2022)	WF53	教育実践研究特論3	2	
JB26	教育学特講6	2	廃止(～2022)	WF54	教育実践研究特論4	2	
JB27	教育学特講7	2	廃止(～2022)	WF55	教育実践研究特論5	2	
JB28	教育学特講8	2	廃止(～2022)	WF56	教育実践研究特論6	2	
JB29	教育学特講9	2	廃止(～2022)	WF57	教育実践研究特論7	2	
JB31	教育学特講10	2	廃止(～2022)	WF58	教育実践研究特論8	2	
JC14	教育哲学2	2		WF59	教育実践研究特論9	2	
JC13	西洋社会思想	2		WF43	生涯学習研究特論1	2	
JC22	障害者教育・福祉概論	2	廃止(～2022)	WF44	生涯学習研究特論2	2	
JC48	社会学概論1	2	隔年	WF45	生涯学習研究特論3	2	
JC49	社会学概論2	2	隔年	WF46	生涯学習研究特論4	2	
JC47	生涯学習概論	2		WF61	国際教育研究特論1	2	
JC73	教育調査	2	隔年	WF62	国際教育研究特論2	2	
JC87	体育学特講	2	廃止(～2022)	WF63	国際教育研究特論3	2	
JH43	マルチメディア活用演習1	2	廃止(～2022)	WF82	生涯学習研究演習1	2	
KH12	保育原理	2	①	WF92	国際教育研究演習1	2	
JC91	発展途上国における教育問題1	2		WF93	国際教育研究演習2	2	
JC92	発展途上国における教育問題2	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

1. 左記に挙げた教育学科科目
2. 指定された大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目

▼履修上の注意

- ① 「保育原理」は、幼稚園教員免許課程登録者のみ履修可能です。
- ② 大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

初等教育学専攻生は、免許法施行規則第六十六条の六に定める「日本国憲法」の科目として、憲法1～4のいずれか1科目（2単位）を必ず修得する必要があります。

▼卒業要件

- 関連分野から憲法1～憲法4のいずれかを必ず含んで最低14単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

- 卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 教育実習の履修要件

教育実習を履修するためには、次の「教育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。すなわち、4年次で教育実習を履修するためには、3年次終了時点で要件を満たすことが必要となります。

また、教育実習の履修資格要件ではありませんが、音楽・図画工作・体育関係の必修科目を修得しておくことが望まれます。

教育実習の履修資格要件（小学校）

科 目	教育実習履修資格要件
教育原理1	修得済であること
教育課程方法論	修得済であること
教育実習指導2	修得済であること
道徳教育の理論と実践Ⅰ 特別活動Ⅰ 生徒指導〔含進路指導〕Ⅰ 教育相談Ⅰ 総合的な学習の時間の指導法（小学校） 特別支援教育概論（幼小）	左の5つの区分の中から4区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること
西洋教育史2 日本教育史1 日本教育史2	
教育経営と学校制度	
教育心理学Ⅰ 発達心理学1	
教育方法Ⅰ 教育方法とメディア開発 教育工学	3科目以上修得済であること
国語科教育法〔小学校〕 社会科教育法〔小学校〕 算数科教育法	
理科教育法 生活科教育法 音楽科教育法 図画工作科教育法 家庭科教育法 体育科教育法 外国語教育法（小学校）	

2. 卒業要件外の科目

次の科目の分野系列は資格関係分野となり、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 次の初等教育学科目（教育学科開講）

コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位
KC12	保育・幼児教育課程論	2	KD43	保育内容〔環境〕	2	KF11	幼児理解（含教育相談）	2
KE17	保育方法論	2	KD53	保育内容〔言葉〕	2	KD83	保育内容の理解と方法 1	2
KD13	保育内容〔健康〕	2	KD74	保育内容〔表現〕	2	KD84	保育内容の理解と方法 2	2
KD33	保育内容〔人間関係〕	2	KA64	音楽概論 2	2	PA02	社会福祉※	2
KD81	保育内容総論	2	KH14	保育者論	2			

※1年次に修得した学生のみ

3. 幼稚園免許状の取得について

初等教育学（初等教育）の専攻生が、幼稚園の免許をあわせて取得する場合、教職課程小学校・幼稚園教員特別プログラムのY1コースに登録しなければなりません。Y1コースの履修方法については、教職課程ガイダンスにて説明します。なお、教育実習指導2（小学校）および教育実習指導5（小学校）を修得することで、教育実習指導3（幼稚園）および教育実習指導6（幼稚園）の履修が免除されます。また、教職実践演習（小学校）を修得することで、保育・教職実践演習の履修が免除されます。

【初等教育学専攻生も履修できる科目】

次に挙げる科目は、初等教育学専攻生も履修できます。

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JC10	教育原理	2	隔年	JC56	比較教育学 2	2	隔年
JC32	教育心理学Ⅱ	2		JC71	教育相談Ⅱ	2	
JC34	教育メディア論	2		JE13	メディア教材開発	2	
JC37	教育課程論	2		JE14	教育情報と学習デザイン	2	
JC38	教育方法Ⅱ	2		JF15	生徒指導〔含進路指導〕Ⅱ	2	
JC39	教育経営	2		JF16	道徳教育の理論と実践Ⅱ	2	
JC40	教育行政学 2	2		JF17	特別活動Ⅱ	2	
JC55	比較教育学 1	2					

㊦ アドミッションポリシー ㊧

「子どもの成長を喜ぶことができる、感性豊かな教員・保育者」を育成します。専攻内には、4年間の学びを通じて、一人ひとりの子どもに寄り添い、心身の成長を支える教員に不可欠な、豊かな人間性や指導力を伸ばします。

初等教育学専攻は、将来、小学校教員あるいは幼稚園・保育園・子ども園の保育者になることを前提とした特別な専攻です。初等教育コースと幼児教育コースに分かれていて、専攻を修了すると、初等教育コースでは小学校1種の免許が取得でき、幼児教育コースでは幼稚園1種と保育士が取得できるようになっています。したがって、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学してもらいたいと願っています。

1. 高等学校卒業相当の知識・技能
2. 子ども一人ひとりに心をこめて関わることのできる、温かさや豊かな人間性
3. たくましい知的探究心と倫理性、責任感
4. 教職・保育職への情熱としなやかな実行力
5. 教育・保育の持つ社会的な重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
6. 生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概この専攻を希望する者は、現時点で、卒業後は教員あるいは保育士になるという強い意志とそのための努力を惜しまない学生であることが望まれます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

教育学科初等教育学専攻は、豊かな心、確かな力量、強い責任感を持ち、子どもの「いのち」と「こころ」の成長を支える力を持った幼稚園教員、保育士、小学校教員を社会に送り出します。

初等教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認めます。

1. 公正な社会の実現に向けて高い志をもち、教育・保育への本質的理解にもとづいて初等教育・保育に貢献できる資質。
2. 実践現場に必要な教育・養護・福祉等の幅広い視野と深い洞察力、および柔軟性と創造性。
3. 教育学に関する高度な専門的知識と基本的な研究・調査能力を持ち、卒業論文を完遂することができる能力。
4. 論理的かつ批判的な思考力および柔軟で的確な判断力。
5. 実践現場に必要な豊かな感性と自己表現力並びに倫理性。
6. 人格の基礎を培う時期である初等教育・保育に貢献しようとする情熱。
7. 教育・保育に携わる専門家としての深い人間理解力と実践力。
8. 現代社会の教育・保育問題に対して真摯にかつしなやかに対応し、他者と協働して問題解決に取り組む姿勢と意欲。
9. 自らの知的関心を発展させ、生涯学びつづける姿勢と意欲
10. 一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

初等教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現し、学生のニーズに応じた免許・資格取得が可能となるように、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた「初等教育コース」と就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた「幼児教育コース」を置いています。

初等教育学専攻では、以下のような方針で2年次から4年次への教育課程を編成しています。

1. 教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育学概論」を全体の基盤として、さらに多様な教育学関係科目を置く。
2. 以上を基礎として、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた初等教育コースと就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた幼児教育コースを置く。各コースを修了することでそれぞれの学校種の一種教員免許状及び保育士資格を取得できるよう科目を開設する。
3. 聖心の初等教育学として豊かな人間性の育成を重視し、高度な教員・保育者養成を目指して特色あるカリキュラムを展開する。
4. 研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に初等教育学の専門的な研究方法へと導く。専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5. 教育学科の特色ある科目群として「人間学習」を多数展開し、協力して行う体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6. 2年次から4年次への具体的な展開方針は次のようである。
 - 2年次：教育全般や初等教育・保育に関する基礎を学ぶ。教員・保育者に求められる基本的な資質や能力を身に付け、将来の自己像・教員・保育者像を描く。また、保育実習を通して乳幼児の発達や子育てをめぐる諸問題に関心を高めていく。
 - 3年次：広い視点から教育全般や初等教育・保育をとらえる。知識を豊かにし教育の具体的方法について学ぶ。教員・保育者に求められる資質の理解を深め、表現力や感性、豊かな心を磨く。
 - 4年次：幅広い視野、柔軟な思考力、的確な判断力など、教員・保育者に必要な資質・能力を確かなものとし、教育の諸問題を探究する。教職・保育職に対する情熱と使命感を高める。教育実習を実施し、学校と児童・幼児に対する理解を深め、実践的な指導力を身につける。

卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心に基づき実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえない「いのち」と「こころ」を大切にする社会づくりに貢献する意欲を高め、責任感と使命感を持って活躍することのできる、実践的指導力のある小学校・幼稚園教諭を養成します。

人間愛に支えられ深く他者を理解する力、教職に対する情熱と使命感、教育の基礎理論、初等教育教員として必要な理論と方法や実践する力を身につけ、幅広い教養と思考力そして的確な判断力を備え、自ら困難な問題に立ち向かい、理解者・支援者としての役割を果たすことができる人材、自らの人間力を高め社会に貢献する精神を磨き続ける人材を育てます。初等教育に情熱をもち、幼稚園、あるいは小学校の教員として深い人間理解力と実践力を兼ね備えた、貢献できる教員となることを期待されます。

教育学科：初等教育学専攻（初等教育コース）カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方をも身に付ける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や初等教育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師像を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な実践を知り、広い視点から教育を考える ・子どもの発達を理解し、教育の具体的方法について学ぶ ・教育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師に必要な資質への理解を深める ・教師にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師像に向けた自己課題を明確にする
	必修 初教(小)-1 2年ゼミ	必修 初教(小)-2 学年ゼミ	
1年次 奨励 表示も 自由 選択 科目	必修 初教(小)-3 基礎理論		
	必修 初教(小)-4 教職の意義等、教科の指導法、教科内容の概論、教育の社会的事項、教育の課程		
	選択必修 初教(小)-5 教育理念・教育史、発達と学習の過程、教育の方法		
		必修 初教(小)-6 特別活動・生徒指導等、教育実習、教職実践演習	
	選択必修	初教(小)-7 人間学習	
	選択	初教(小)-8 自由選択科目	

▼卒業までに必要とする最低単位数（2019年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-5）		合計：最低26単位		39-44ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b）		合計：最低98単位		224-228ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a15）		合計：最低84単位		224-227ページ
a1	基礎理論と学年ゼミ	10	必修	
a2	特別活動・生徒指導等	12	必修	
a3	教職の意義等	2	必修	
a4	教育実習	6	必修	
a5	教職実践演習	2	必修	
a6	教科の指導法	20	必修	
a7	教科内容の概論	10	選択必修	
a8	教育理念・教育史	2	選択必修	
a9	教育の社会的事項	2	必修	
a10	教育の課程	2	必修	
a11	発達と学習の過程	2	選択必修	
a12	教育の方法	2	必修	
a13	人間学習	2	選択必修	
a14	2年ゼミ	－	選択	
a15	自由選択科目	－	選択	
2-b ▼ 関連分野 ⇒憲法2単位を含む		合計：最低14単位		228ページ
うち第二外国語余剰分				43ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：132単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外（5-1～5-2）				
5-1	1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2	運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

[2-a] 専攻分野（最低84単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a15）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が84単位以上あること

a1 基礎理論と学年ゼミ（必修・10単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JA13	教育原理 1	2	
JH17	教育学演習 2 - (1)	2	
JH18	教育学演習 2 - (2)	2	
JH16	教育学演習 3	4	廃止（～2022）
JH27	教育学演習Ⅲ (1)	2	
JH28	教育学演習Ⅲ (2)	2	

▼卒業要件

- 左記の必修科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

- 教育原理 1 は 2 年次指定科目です。
教育学演習 2 は 3 年次指定科目です。
教育学演習 3 は 4 年次指定科目です。

▼履修上の注意

2023年度以降は「教育学演習 3」にかえて、下記の代替科目を修得してください。

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
JH16	教育学演習 3 < 4 >	JH27	教育学演習Ⅲ (1) < 2 >
		JH28	教育学演習Ⅲ (2) < 2 >

a2 特別活動・生徒指導等（必修・12単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
KA01	道徳教育の理論と実践 I	2	
KA05	特別活動 I	2	
KA06	生徒指導〔含進路指導〕 I	2	
KA02	教育相談 I	2	
KA95	特別支援教育概論（小学校）	2	
KB92	総合的な学習の時間の指導法（小学校）	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

a3 教職の意義等（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH13	教職入門 I	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a4 教育実習（必修・6単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
KG15	教育実習指導 2	1	3年次必修
KG16	教育実習指導 5	1	4年次必修
KH09	教育実習 3	2	4年次必修
KH10	教育実習 4	2	4年次必修

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼自動登録科目

左記の科目は、自動登録科目です。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録確認時に必ず申し出てください。（⇒p.21）

▼履修上の注意

教育実習は、履修資格に関する条件が別に定められています。（⇒p.228）

a5 教職実践演習（必修・2単位）

コード	授業科目	単位	備考
KG42	教職実践演習（小学校）	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

▼年次指定科目

教職実践演習（小学校）は4年次指定科目です。

a6 教科の指導法（必修・20単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
KB11	国語科教育法〔小学校〕	2		KB61	音楽科教育法	2	
KB21	社会科教育法〔小学校〕	2		KB72	図画工作科教育法	2	
KB41	算数科教育法	2		KB81	家庭科教育法	2	
KB51	理科教育法	2		KB91	体育科教育法	2	
KB31	生活科教育法	2		KB93	外国語教育法（小学校）	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

a7 教科内容の概論（選択必修・10単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KA13	国語概論 [含書写]	2	
KA21	社会科概論	2	
KA42	算数概論	2	
KA51	理科概論	2	
KA31	生活科概論	2	
KA65	音楽概論	2	
KA73	図画工作概論	2	
KA82	家庭科概論	2	
KA92	体育概論	2	
KA94	外国語概論	2	

▼卒業要件

 左記の科目から最低10単位修得していること

a8 教育理念・教育史（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH01	西洋教育史 2	2	
KH02	日本教育史 1	2	廃止（～2022）
KH03	日本教育史 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

 左記の科目から最低2単位修得していること

a9 教育の社会的事項（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH05	教育経営と学校制度	2	

▼卒業要件

 左記の科目を修得していること

a10 教育の課程（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH04	教育課程方法論	2	

▼卒業要件

 左記の科目を修得していること

a11 発達と学習の過程（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KA03	教育心理学 I	2	
LH11	発達心理学 1	2	履修上の注意

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

 左記の科目から最低2単位修得していること

▼履修上の注意

「発達心理学 1」は心理学科開講科目です。修得単位は、「a11：発達と学習の過程」に集計されます。

a12 教育の方法（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
JC30	教育方法 [含ICT活用]	2	

▼卒業要件

 左記の科目を修得していること

a13 人間学習（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：2・3・4年次

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JD45	人間学習原論	2	廃止(~2022)	JD52	人間学習7	2	
JD46	人間学習1	2		JD53	人間学習8	2	
JD47	人間学習2	2		JD54	人間学習9	2	
JD48	人間学習3	2		JD55	人間学習10	2	廃止(~2022)
JD49	人間学習4	2		JD56	人間学習11	2	廃止(~2022)
JD50	人間学習5	2		JD57	人間学習12	2	廃止(~2022)
JD51	人間学習6	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から最低2単位修得していること

▼標準履修年次

「人間学習原論」の標準履修年次は2・3年次、その他の科目は3・4年次です。

a14 2年ゼミ（選択）

標準履修年次：2年次

コード	授業科目	単位	備考
JH21	教育学演習1-(1)	2	
JH22	教育学演習1-(2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

卒業に必要な単位ではありませんが、2年次生全員が履修することになっています。

a15 自由選択科目（選択）

学部科目				大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JA12	教育学入門	2	廃止(~2022)	WA71	基礎教育学特論1	2	
JA14	教育原理2	2	廃止(~2022)	WA72	基礎教育学特論2	2	
JB21	教育学特講1	4	廃止(~2022)	WA73	基礎教育学特論3	2	
JB22	教育学特講2	2	廃止(~2022)	WA74	基礎教育学特論4	2	
JB23	教育学特講3	2	廃止(~2022)	WF51	教育実践研究特論1	2	
JB24	教育学特講4	2	廃止(~2022)	WF52	教育実践研究特論2	2	
JB25	教育学特講5	2	廃止(~2022)	WF53	教育実践研究特論3	2	
JB26	教育学特講6	2	廃止(~2022)	WF54	教育実践研究特論4	2	
JB27	教育学特講7	2	廃止(~2022)	WF55	教育実践研究特論5	2	
JB28	教育学特講8	2	廃止(~2022)	WF56	教育実践研究特論6	2	
JB29	教育学特講9	2	廃止(~2022)	WF57	教育実践研究特論7	2	
JB31	教育学特講10	2	廃止(~2022)	WF58	教育実践研究特論8	2	
JC14	教育哲学2	2		WF59	教育実践研究特論9	2	
JC13	西洋社会思想	2		WF43	生涯学習研究特論1	2	
JC22	障害者教育・福祉概論	2	廃止(~2022)	WF44	生涯学習研究特論2	2	
JC48	社会学概論1	2	隔年	WF45	生涯学習研究特論3	2	
JC49	社会学概論2	2	隔年	WF46	生涯学習研究特論4	2	
JC47	生涯学習概論	2		WF61	国際教育研究特論1	2	
JC73	教育調査	2	隔年	WF62	国際教育研究特論2	2	
JC87	体育学特講	2	廃止(~2022)	WF63	国際教育研究特論3	2	
KH12	保育原理	2	①	WF82	生涯学習研究演習1	2	
JC91	発展途上国における教育問題1	2		WF92	国際教育研究演習1	2	
JC92	発展途上国における教育問題2	2		WF93	国際教育研究演習2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

1. 左記に挙げた教育学科科目
2. 指定された大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目

▼履修上の注意

- ① 「保育原理」は、幼稚園教員免許課程登録者のみ履修可能です。
- ② 大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

初等教育学専攻生は、免許法施行規則第六十六条の六に定める「日本国憲法」の科目として、憲法1～4のいずれか1科目（2単位）を必ず修得する必要があります。

▼卒業要件

- 関連分野から憲法1～憲法4のいずれかを必ず含んで最低14単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

- 卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 教育実習の履修要件

教育実習を履修するためには、次の「教育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。すなわち、4年次で教育実習を履修するためには、3年次終了時点で要件を満たすことが必要となります。

また、教育実習の履修資格要件ではありませんが、音楽・図画工作・体育関係の必修科目を修得しておくことが望まれます。

教育実習の履修資格要件（小学校）

科 目	教育実習履修資格要件
教育原理 1	修得済であること
教育課程方法論	修得済であること
教育実習指導 2	修得済であること
道徳教育の理論と実践 I 特別活動 I 生徒指導 [含進路指導] I 教育相談 I 総合的な学習の時間の指導法 (小学校) 特別支援教育概論 (小学校)	左の5つの区分の中から4区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること
西洋教育史 2 日本教育史 1 日本教育史 2	
教育経営と学校制度	
教育心理学 I 発達心理学 1	
教育方法 [含ICT活用]	3科目以上修得済であること
国語科教育法 [小学校] 社会科教育法 [小学校] 算数科教育法 理科教育法 生活科教育法 音楽科教育法 図画工作科教育法 家庭科教育法 体育科教育法 外国語教育法 (小学校)	

2. 卒業要件外の科目

次の科目の分野系列は資格関係分野となり、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 次の初等教育学科目（教育学科開講）

コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位
KC12	保育・幼児教育課程論	2	KD74	保育内容〔表現〕	2	KJ01	子どもと健康	2
KE17	保育方法論	2	KA66	子どもと音楽表現	2	KJ02	子どもと人間関係	2
KD13	保育内容〔健康〕	2	KH14	保育者論	2	KJ03	子どもと環境	2
KD33	保育内容〔人間関係〕	2	KF11	幼児理解（含教育相談）	2	KJ04	子どもと言葉	2
KD81	保育内容総論	2	KD83	保育内容の理解と方法1	2	KJ05	子どもと造形表現	2
KD43	保育内容〔環境〕	2	KD84	保育内容の理解と方法2	2			
KD53	保育内容〔言葉〕	2	PA02	社会福祉※	2			

※1年次に修得した学生のみ

3. 幼稚園免許状の取得について

初等教育学（初等教育）の専攻生が、幼稚園の免許をあわせて取得する場合、教職課程小学校・幼稚園教員特別プログラムのY1コースに登録しなければなりません。Y1コースの履修方法については、教職課程ガイダンスにて説明します。なお、教育実習指導2（小学校）および教育実習指導5（小学校）を修得することで、教育実習指導3（幼稚園）および教育実習指導6（幼稚園）の履修が免除されます。また、教職実践演習（小学校）を修得することで、保育・教職実践演習の履修が免除されます。

【初等教育学専攻生も履修できる科目】

次に挙げる科目は、初等教育学専攻生も履修できます。

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JC10	教育原理	2		JC56	比較教育学2	2	
JC32	教育心理学Ⅱ	2		JC71	教育相談Ⅱ	2	
JC37	教育課程論	2		JF15	生徒指導〔含進路指導〕Ⅱ	2	
JC39	教育経営	2		JF16	道徳教育の理論と実践Ⅱ	2	
JC40	教育行政学2	2		JF17	特別活動Ⅱ	2	
JC55	比較教育学1	2					

㊦ アドミッションポリシー ㊧

「子どもの成長を喜ぶことができる、感性豊かな教員・保育者」を育成します。専攻内には、4年間の学びを通じて、一人ひとりの子どもに寄り添い、心身の成長を支える教員に不可欠な、豊かな人間性や指導力を伸ばします。

初等教育学専攻は、将来、小学校教員あるいは幼稚園・保育園・子ども園の保育者になることを前提とした特別な専攻です。初等教育コースと幼児教育コースに分かれていて、専攻を修了すると、初等教育コースでは小学校1種の免許が取得でき、幼児教育コースでは幼稚園1種と保育士が取得できるようになっています。したがって、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学してもらいたいと願っています。

- 0. 高等学校卒業相当の知識・技能
- 1. 子ども一人ひとりに心をこめて関わることのできる、温かさ豊かな人間性
- 2. たくましい知的探究心と倫理性、責任感
- 3. 教職・保育職への情熱としなやかな実行力
- 4. 教育・保育の持つ社会的重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
- 5. 生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概この専攻を希望する者は、現時点で、卒業後は教員あるいは保育士になるという強い意志とそのための努力を惜しまない学生であることが望まれます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

教育学科初等教育学専攻は、豊かな心、確かな力量、強い責任感を持ち、子どもの「いのち」と「こころ」の成長を支える力を持った幼稚園教員、保育士、小学校教員を社会に送り出します。

初等教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認めます。

- 1. 公正な社会の実現に向けて高い志をもち、教育・保育への本質的理解にもとづいて初等教育・保育に貢献できる資質。
- 2. 実践現場に必要な教育・養護・福祉等の幅広い視野と深い洞察力、および柔軟性と創造性。
- 3. 教育学に関する高度な専門的知識と基本的な研究・調査能力を持ち、卒業論文を完遂することができる能力。
- 4. 論理的かつ批判的な思考力および柔軟で的確な判断力。
- 5. 実践現場に必要な豊かな感性と自己表現力並びに倫理性。
- 6. 人格の基礎を培う時期である初等教育・保育に貢献しようとする情熱。
- 7. 教育・保育に携わる専門家としての深い人間理解力と実践力。
- 8. 現代社会の教育・保育問題に対して真摯にかつしなやかに対応し、他者と協働して問題解決に取り組む姿勢と意欲。
- 9. 自らの知的関心を発展させ、生涯学びつづける姿勢と意欲
- 10. 一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切に社会の実現に貢献しようとする姿勢。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

初等教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、学生のニーズに応じた免許・資格取得が可能となるように、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた「初等教育コース」と就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた「幼児教育コース」を置いています。

初等教育学専攻では、以下のような方針で2年次から4年次への教育課程を編成しています。

- 1. 教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育原理1」「教育学演習1－(1)」を全体の基盤として、さらに多様な教育学関係科目を置く。
- 2. 以上を基礎として、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた初等教育コースと就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた幼児教育コースを置く。
各コースを修了することでそれぞれの学校種の一種教員免許状及び保育士資格を取得できるよう科目を開設する。
- 3. 聖心の初等教育学として豊かな人間性の育成を重視し、高度な教員・保育者養成を目指して特色あるカリキュラムを展開する。
- 4. 研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に初等教育学の専門的な研究方法へと導く。専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
- 5. 教育学科の特色ある科目群として「人間学習」を多数展開し、協力して行う体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
- 6. 2年次から4年次への具体的な展開方針は次のようである。
2年次：教育全般や初等教育・保育に関する基礎を学ぶ。教員・保育者に求められる基本的な資質や能力を身に付け、将来の自己像・教員・保育者像を描く。また、保育実習を通して乳幼児の発達や子育てをめぐる諸問題に関心を高めていく。
3年次：広い視点から教育全般や初等教育・保育をとらえる。知識を豊かにし教育の具体的方法について学ぶ。教員・保育者に求められる資質の理解を深め、表現力や感性、豊かな心を磨く。
4年次：幅広い視野、柔軟な思考力、的確な判断力など、教員・保育者に必要な資質・能力を確かなものとし、教育の諸問題を探究する。教職・保育職に対する情熱と使命感を高める。教育実習を実施し、学校と児童・幼児に対する理解を深め、実践的な指導力を身につける。

卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心に基づき実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会づくりに貢献する意欲を高め、責任感と使命感を持って活躍することのできる、実践的指導力のある小学校・幼稚園教諭を養成します。

人間愛に支えられ深く他者を理解する力、教職に対する情熱と使命感、教育の基礎理論、初等教育教員として必要な理論と方法や実践する力を身につけ、幅広い教養と思考力そして的確な判断力を備え、自ら困難な問題に立ち向かい、理解者・支援者としての役割を果たすことができる人材、自らの人間力を高め社会に貢献する精神を磨き続ける人材を育てます。初等教育に情熱をもち、幼稚園、あるいは小学校の教員として深い人間理解力と実践力を兼ね備えた、貢献できる教員となることを期待されます。

教育学科：初等教育学専攻（初等教育コース）カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方を身につける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や初等教育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師像を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な実践を知り、広い視点から教育を考える ・子どもの発達を理解し、教育の具体的方法について学ぶ ・教育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師に必要な資質への理解を深める ・教師にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師像に向けた自己課題を明確にする
	必修 初教(小)-1 2年ゼミ	必修 初教(小)-2 学年ゼミ	
	必修 初教(小)-3 基礎理論		
	必修 初教(小)-4 教職の意義等、教科の指導法、教科内容の概論、教育の社会的事項、教育の課程		
	選択必修 初教(小)-5 教育理念・教育史、発達と学習の過程、教育の方法		
		必修 初教(小)-6 特別活動・生徒指導等、教育実習、教職実践演習	
	選択必修	初教(小)-7 人間学習	
	選択	初教(小)-8 自由選択科目	

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-6）		合計：最低28単位		54-58ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6	AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b）		合計：最低90単位		233-237ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a15）		合計：最低82単位		233-236ページ
a1	基礎理論と学年ゼミ	10	必修	
a2	特別活動・生徒指導等	12	必修	
a3	教職の意義等	2	必修	
a4	教育実習	6	必修	
a5	教職実践演習	2	必修	
a6	教科の指導法	20	必修	
a7	教科内容の概論	10	選択必修	
a8	教育理念・教育史	2	選択必修	
a9	教育の社会的事項	2	必修	
a10	教育の課程	2	必修	
a11	発達と学習の過程	2	選択必修	
a12	教育の方法	2	必修	
a13	人間学習	2	選択必修	
a14	2年ゼミ	—	選択	
a15	自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 ⇒憲法2単位を含む		合計：最低8単位		237ページ
うち第二外国語余剰分				56ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：126単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外（5-1）				
5-1	1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

[2-a] 専攻分野（最低82単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a15）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が82単位以上あること

a1 基礎理論と学年ゼミ（必修・10単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JA13	教育原理 1	2	
JH25	教育学演習Ⅱ (1)	2	
JH26	教育学演習Ⅱ (2)	2	
JH27	教育学演習Ⅲ (1)	2	
JH28	教育学演習Ⅲ (2)	2	

▼卒業要件

- 左記の必修科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

教育原理 1 は 2 年次指定科目です。
教育学演習 2 は 3 年次指定科目です。
教育学演習 3 は 4 年次指定科目です。

a2 特別活動・生徒指導等（必修・12単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
JH81	道徳教育の理論と実践	2	
JH84	特別活動	2	
JH85	生徒指導 [含進路指導]	2	
JH82	教育相談	2	
JH86	特別支援教育概論	2	
JH87	総合的な学習の時間の指導法	2	

▼卒業要件

- 左記の科目をすべて修得していること

a3 教職の意義等（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH19	教職入門	2	

▼卒業要件

- 左記の科目を修得していること

a4 教育実習（必修・6単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
KG15	教育実習指導 2	1	3年次必修
KG16	教育実習指導 5	1	4年次必修
KH09	教育実習 3	2	4年次必修
KH10	教育実習 4	2	4年次必修

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼自動登録科目

左記の科目は、自動登録科目です。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録確認時に必ず申し出てください。（⇒p.21）

▼履修上の注意

教育実習は、履修資格に関する条件が別に定められています。（⇒p.237）

a5 教職実践演習（必修・2単位）

コード	授業科目	単位	備考
KG44	教職実践演習	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

▼年次指定科目

教職実践演習（小学校）は4年次指定科目です。

a6 教科の指導法（必修・20単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
KB12	国語科教育法（小学校）	2		KB61	音楽科教育法	2	
KB22	社会科教育法（小学校）	2		KB72	図画工作科教育法	2	
KB41	算数科教育法	2		KB81	家庭科教育法	2	
KB51	理科教育法	2		KB91	体育科教育法	2	
KB31	生活科教育法	2		KB93	外国語教育法（小学校）	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

a7 教科内容の概論（選択必修・10単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KA13	国語概論 [含書写]	2	
KA21	社会科概論	2	
KA42	算数概論	2	
KA51	理科概論	2	
KA31	生活科概論	2	
KA65	音楽概論	2	
KA73	図画工作概論	2	
KA82	家庭科概論	2	
KA92	体育概論	2	
KA94	外国語概論	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低10単位修得していること

a8 教育理念・教育史（選択必修・最低2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH17	日本教育史	2	
KH16	外国教育史	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること

a9 教育の社会的事項（必修・2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH05	教育経営と学校制度	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a10 教育の課程（必修・2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH15	カリキュラム論	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a11 発達と学習の過程（選択必修・最低2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
JH83	教育心理学	2	
LH11	発達心理学1	2	履修上の注意

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること

▼履修上の注意

「発達心理学1」は心理学科開講科目です。修得単位は、「a11：発達と学習の過程」に集計されます。

a12 教育の方法（必修・2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
JC30	教育方法 [含ICT活用]	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a13 人間学習（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JD46	人間学習 1	2		JD51	人間学習 6	2	
JD47	人間学習 2	2		JD52	人間学習 7	2	
JD48	人間学習 3	2		JD53	人間学習 8	2	
JD49	人間学習 4	2		JD54	人間学習 9	2	
JD50	人間学習 5	2					

▼卒業要件

□左記の科目から最低2単位修得していること

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

a14 2年ゼミ（選択）

標準履修年次：2年次

コード	授業科目	単位	備考
JH21	教育学演習 I (1)	2	
JH22	教育学演習 I (2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

卒業に必要な単位ではありませんが、2年次生全員が履修することになっています。なお、「AI・データサイエンス基礎」を修得することで、免許法施行規則第六十六条の六に定める科目のうち、「情報機器の操作」の科目を修得したことになります。

a15 自由選択科目（選択）

学部科目				大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JC23	教育哲学	2		WA71	基礎教育学特論 1	2	
JC13	西洋社会思想	2		WA72	基礎教育学特論 2	2	
JC48	社会学概論 1	2	隔年	WA73	基礎教育学特論 3	2	
JC49	社会学概論 2	2	隔年	WA74	基礎教育学特論 4	2	
JC47	生涯学習概論	2		WF51	教育実践研究特論 1	2	
KH12	保育原理	2	①	WF52	教育実践研究特論 2	2	
JC93	発展途上国における教育問題 (1)	2		WF53	教育実践研究特論 3	2	
JC94	発展途上国における教育問題 (2)	2		WF54	教育実践研究特論 4	2	
				WF55	教育実践研究特論 5	2	
				WF56	教育実践研究特論 6	2	
				WF57	教育実践研究特論 7	2	
				WF58	教育実践研究特論 8	2	
				WF59	教育実践研究特論 9	2	
				WF43	生涯学習研究特論 1	2	
				WF44	生涯学習研究特論 2	2	
				WF45	生涯学習研究特論 3	2	
				WF46	生涯学習研究特論 4	2	
				WF61	国際教育研究特論 1	2	
				WF62	国際教育研究特論 2	2	
				WF63	国際教育研究特論 3	2	
				WF82	生涯学習研究演習 1	2	
				WF92	国際教育研究演習 1	2	
				WF93	国際教育研究演習 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

1. 左記に挙げた教育学科科目
2. 指定された大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目

▼履修上の注意

- ① 「保育原理」は、幼稚園教員免許課程登録者のみ履修可能です。
- ② 大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

初等教育学専攻生は、免許法施行規則第六十六条の六に定める「日本国憲法」の科目として、憲法1～2のいずれか1科目（2単位）を必ず修得する必要があります。

▼卒業要件

- 関連分野から憲法1～憲法2のいずれかを必ず含んで最低8単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

- 卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 教育実習の履修要件

教育実習を履修するためには、次の「教育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。すなわち、4年次で教育実習を履修するためには、3年次終了時点で要件を満たすことが必要となります。

また、教育実習の履修資格要件ではありませんが、音楽・図画工作・体育関係の必修科目を修得しておくことが望まれます。

教育実習の履修資格要件（小学校）

科 目	教育実習履修資格要件
教育原理 1	修得済であること
カリキュラム論	修得済であること
教育実習指導 2	修得済であること
道徳教育の理論と実践 特別活動 生徒指導 [含進路指導] 教育相談 総合的な学習の時間の指導法 特別支援教育概論	左の4つの区分の中から3区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること
教育経営と学校制度	
発達心理学 1 教育心理学	
教育方法 [含ICT活用]	3科目以上修得済であること
国語科教育法（小学校） 社会科教育法（小学校） 算数科教育法	
理科教育法 生活科教育法 音楽科教育法 図画工作科教育法	
家庭科教育法 体育科教育法 外国語教育法（小学校）	

2. 卒業要件外の科目

次の科目の分野系列は資格関係分野となり、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 次の初等教育学科目（教育学科開講）

コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位
KC12	保育・幼児教育課程論	2	KD74	保育内容〔表現〕	2	KJ01	子どもと健康	2
KE17	保育方法論	2	KA66	子どもと音楽表現	2	KJ02	子どもと人間関係	2
KD13	保育内容〔健康〕	2	KH14	保育者論	2	KJ03	子どもと環境	2
KD33	保育内容〔人間関係〕	2	PB09	子ども理解と援助	2	KJ04	子どもと言葉	2
KD81	保育内容総論	2	KD83	保育内容の理解と方法1	2	KJ05	子どもと造形表現	2
KD43	保育内容〔環境〕	2	KD84	保育内容の理解と方法2	2			
KD53	保育内容〔言葉〕	2	PA02	社会福祉※	2			

※1年次に修得した学生のみ

3. 幼稚園免許状の取得について

初等教育学（初等教育）の専攻生が、幼稚園の免許をあわせて取得する場合、教職課程小学校・幼稚園教員特別プログラムのY1コースに登録しなければなりません。Y1コースの履修方法については、教職課程ガイダンスにて説明します。なお、教育実習指導2および教育実習指導5を修得することで、教育実習指導3および教育実習指導6の履修が免除されます。また、教職実践演習を修得することで、保育・教職実践演習の履修が免除されます。

【初等教育学専攻生も履修できる科目】

次に挙げる科目は、初等教育学専攻生も履修できます。

コード	授業科目	単位	備考
JC55	比較教育学1	2	
JC56	比較教育学2	2	
RA22	教育原理2	2	

㊦ アドミッションポリシー ㊧

「子どもの成長を喜ぶことができる、感性豊かな教員・保育者」を育成します。専攻内には、4年間の学びを通じて、一人ひとりの子どもに寄り添い、心身の成長を支える教員に不可欠な、豊かな人間性や指導力を伸ばします。

初等教育学専攻は、将来、小学校教員あるいは幼稚園・保育園・子ども園の保育者になることを前提とした特別な専攻です。初等教育コースと幼児教育コースに分かれていて、専攻を修了すると、初等教育コースでは小学校1種の免許が取得でき、幼児教育コースでは幼稚園1種と保育士が取得できるようになっています。したがって、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学してもらいたいと願っています。

1. 高等学校卒業相当の知識・技能
2. 子ども一人ひとりに心をこめて関わることのできる、温かさや豊かな人間性
3. たくましい知的探究心と倫理性、責任感
4. 教職・保育職への情熱としなやかな実行力
5. 教育・保育の持つ社会的な重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
6. 生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概この専攻を希望する者は、現時点で、卒業後は教員あるいは保育士になるという強い意志とそのための努力を惜しまない学生であることが望まれます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

教育学科初等教育学専攻は、豊かな心、確かな力量、強い責任感を持ち、子どもの「いのち」と「こころ」の成長を支える力を持った幼稚園教員、保育士、小学校教員を社会に送り出します。

初等教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認めます。

1. 公正な社会の実現に向けて高い志をもち、教育・保育への本質的理解にもとづいて初等教育・保育に貢献できる資質。
2. 実践現場に必要な教育・養護・福祉等の幅広い視野と深い洞察力、および柔軟性と創造性。
3. 教育学に関する高度な専門的知識と基本的な研究・調査能力を持ち、卒業論文を完遂することができる能力。
4. 論理的かつ批判的な思考力および柔軟で的確な判断力。
5. 実践現場に必要な豊かな感性と自己表現力並びに倫理性。
6. 人格の基礎を培う時期である初等教育・保育に貢献しようとする情熱。
7. 教育・保育に携わる専門家としての深い人間理解力と実践力。
8. 現代社会の教育・保育問題に対して真摯にかつしなやかに対応し、他者と協働して問題解決に取り組む姿勢と意欲。
9. 自らの知的関心を発展させ、生涯学びつづける姿勢と意欲
10. 一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

初等教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現し、学生のニーズに応じた免許・資格取得が可能となるように、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた「初等教育コース」と就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた「幼児教育コース」を置いています。

初等教育学専攻では、以下のような方針で2年次から4年次への教育課程を編成しています。

1. 教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育学概論」を全体の基盤として、さらに多様な教育学関係科目を置く。
2. 以上を基礎として、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた初等教育コースと就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた幼児教育コースを置く。各コースを修了することでそれぞれの学校種の一種教員免許状及び保育士資格を取得できるよう科目を開設する。
3. 聖心の初等教育学として豊かな人間性の育成を重視し、高度な教員・保育者養成を目指して特色あるカリキュラムを展開する。
4. 研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に初等教育学の専門的な研究方法へと導く。専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5. 教育学科の特色ある科目群として「人間学習」を多数展開し、協力して行う体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6. 2年次から4年次への具体的な展開方針は次のようである。
 - 2年次：教育全般や初等教育・保育に関する基礎を学ぶ。教員・保育者に求められる基本的な資質や能力を身に付け、将来の自己像・教員・保育者像を描く。また、保育実習を通して乳幼児の発達や子育てをめぐる諸問題に関心を高めていく。
 - 3年次：広い視点から教育全般や初等教育・保育をとらえる。知識を豊かにし教育の具体的方法について学ぶ。教員・保育者に求められる資質の理解を深め、表現力や感性、豊かな心を磨く。
 - 4年次：幅広い視野、柔軟な思考力、的確な判断力など、教員・保育者に必要な資質・能力を確かなものとし、教育の諸問題を探究する。教職・保育職に対する情熱と使命感を高める。教育実習を実施し、学校と児童・幼児に対する理解を深め、実践的な指導力を身につける。

卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心に基づき実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切に作る社会づくりに貢献する意欲を高め、責任感と使命感を持って活躍することのできる、実践的指導力のある小学校・幼稚園教諭を養成します。

人間愛に支えられ深く他者を理解する力、乳幼児期の子どもの教育・保育に対する情熱と使命感、教育の基礎理論、初等教育・保育の専門家として必要な理論と方法や実践する力を身につけ、幅広い教養と思考力そして的確な判断力を備え、自ら困難な問題に立ち向かい、理解者・援助者としての役割を果たすことができる人材、自らの人間力を高め社会に貢献する精神を磨き続ける人材を育てます。初等教育及び保育に情熱をもち、幼稚園、保育所、子ども園の保育者、あるいは小学校の教員として深い人間理解力と実践力を兼ね備え、社会に貢献することが期待されます。

教育学科：初等教育学専攻（幼児教育コース）カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方を身につける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や幼児教育・保育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師・保育士に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師・保育士像を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な実践を知り、広い視点から教育・保育を考える ・子どもの発達を理解し、教育・保育の具体的方法について学ぶ ・教育・保育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師・保育士に必要な資質への理解を深める ・教師・保育士にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職・保育職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職・保育職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師・保育士像に向けた自己課題を明確にする
	必修 初教(幼)-1 2年ゼミ	必修 初教(幼)-2 学年ゼミ	
1年次 奨励 初教(幼)自由 選択科目	必修 初教(幼)-3 基礎理論		
	必修 初教(幼)-4 教職の意義等、幼児の教育課程、幼児教育の方法、幼児理解の理論、保育内容・保育の表現技術、教科内容の概論、教育の社会的事項		
	選択必修 初教(幼)-5 教育理念・教育史、発達と学習の過程		
		必修 初教(幼)-6 教育実習、教職実践演習	
	選択必修	初教(幼)-7 人間学習	
	選択	初教(幼)-8 自由選択科目	

※2018年度以前入学者は、2021年度以前の履修要覧で確認してください。

▼卒業までに必要とする最低単位数（2019～2021年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-5）		合計：最低26単位		39-44ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b）		合計：最低98単位		242-246ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a15）		合計：最低92単位		242-246ページ
a1	基礎理論と学年ゼミ	12	必修	
a2	教職の意義等	2	必修	
a3	教育実習	6	必修	
a4	教職実践演習	2	必修	
a5	幼児の教育課程	2	必修	
a6	幼児教育の方法	2	必修	
a7	幼児理解の理論	4	必修	
a8	保育内容・保育の表現技術	12	必修	
a9	教科内容の概論	12	選択必修	
a10	教育理念・教育史	2	選択必修	
a11	教育の社会的事項	2	必修	
a12	発達と学習の過程	2	選択必修	
a13	人間学習	2	選択必修	
a14	2年ゼミ	—	選択	
a15	自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 ⇒憲法2単位を含む		合計：最低6単位		246ページ
うち第二外国語余剰分				43ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：132単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外（5-1～5-2）				
5-1	1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2	運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

[2-a] 専攻分野（最低92単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a15）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が92単位以上あること

a1 基礎理論と学年ゼミ（必修・12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JA13	教育原理 1	2	
KH12	保育原理	2	
JH17	教育学演習 2 - (1)	2	
JH18	教育学演習 2 - (2)	2	
JH16	教育学演習 3	4	廃止（～2022）
JH27	教育学演習Ⅲ (1)	2	
JH28	教育学演習Ⅲ (2)	2	

▼卒業要件

- 左記の必修科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

- 教育原理 1 は 2 年次指定科目です。
教育学演習 2 は 3 年次指定科目です。
教育学演習 3 は 4 年次指定科目です。

▼標準履修年次

保育原理の標準履修年次は 1 年次です。

▼履修上の注意

2023年度以降は「教育学演習 3」にかえて、下記の代替科目を修得してください。

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
JH16	教育学演習 3 < 4 >	JH27	教育学演習Ⅲ (1) < 2 >
		JH28	教育学演習Ⅲ (2) < 2 >

a2 教職の意義等（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH14	保育者論	2	

▼卒業要件

- 左記の科目を修得していること

a3 教育実習（必修・6単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
KG23	教育実習指導3（幼稚園）	1	3年次必修
KG24	教育実習指導6（幼稚園）	1	4年次必修
KH09	教育実習3	2	4年次必修
KH10	教育実習4	2	4年次必修

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼自動登録科目

左記の科目は、自動登録科目です。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録確認時に必ず申し出てください。（⇒p.21）

▼履修上の注意

教育実習は、履修資格に関する条件が別に定められています。（⇒p.247）

a4 教職実践演習（必修・2単位）

標準履修年次：4年次

コード	授業科目	単位	備考
KG43	保育・教職実践演習	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a5 幼児の教育課程（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KC12	保育・幼児教育課程論	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a6 幼児教育の方法（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KE17	保育方法論	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a7 幼児理解の理論（必修・4単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KF11	幼児理解 [含教育相談]	2	
KA93	特別支援教育概論（幼小）	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

a8 保育内容・保育の表現技術（必修・12単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KD01	保育内容総論	2	
KD13	保育内容 [健康]	2	
KD33	保育内容 [人間関係]	2	
KD43	保育内容 [環境]	2	
KD53	保育内容 [言葉]	2	
KD74	保育内容 [表現]	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

a9 教科内容の概論（選択必修・12単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KA13	国語概論 [含書写]	2	
KA31	生活科概論	2	
KA42	算数概論	2	
KA64	音楽概論 2	2	
KD83	保育内容の理解と方法 1	2	①
KA73	図画工作概論	2	
KD84	保育内容の理解と方法 2	2	②
KA92	体育概論	2	

▼卒業要件

左記の科目から最低12単位修得していること

▼標準履修年次

「音楽概論 2」の標準履修年次は1年次です。

▼履修上の注意

保育士資格希望者は、①と②が必修です。

a10 教育理念・教育史（選択必修・最低2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH01	西洋教育史 2	2	
KH02	日本教育史 1	2	廃止（～2022）
KH03	日本教育史 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること

a11 教育の社会的事項（必修・2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH05	教育経営と学校制度	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a12 発達と学習の過程（選択必修・最低2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KA03	教育心理学 I	2	
LH11	発達心理学 1	2	履修上の注意

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること

▼履修上の注意

「発達心理学 1」は心理学科開講科目です。修得単位は、「a12：発達と学習の過程」に集計されます。

a13 人間学習（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：2・3・4年次

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JD45	人間学習原論	2	廃止(～2022)	JD52	人間学習 7	2	
JD46	人間学習 1	2		JD53	人間学習 8	2	
JD47	人間学習 2	2		JD54	人間学習 9	2	
JD48	人間学習 3	2		JD55	人間学習10	2	廃止(～2022)
JD49	人間学習 4	2		JD56	人間学習11	2	廃止(～2022)
JD50	人間学習 5	2		JD57	人間学習12	2	廃止(～2022)
JD51	人間学習 6	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から最低2単位修得していること

▼標準履修年次

「人間学習原論」の標準履修年次は2・3年次、その他の科目は3・4年次です。

a14 2年ゼミ（選択）

標準履修年次：2年次

コード	授業科目	単位	備考
JH21	教育学演習 1-(1)	2	①
JH22	教育学演習 1-(2)	2	①
JH32	教育情報基礎演習 1	2	①② 廃止(～2022)

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

① 「教育学演習 1」は卒業に必要な単位ではありませんが、2年次生全員が履修することになっています。なお、「教育情報基礎演習 1」を修得することで、免許法施行規則第六十六条の六に定める科目のうち、「情報機器の操作」の科目を修得したことになります。

② 保育士資格取得希望者は「教育情報基礎演習 1」は必修です。

a15 自由選択科目（選択）

学部科目				学部科目				保育士養成課程関係科目			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JA14	教育原理 2	2	※ 廃止(～2022)	KA04	教育方法 I	2		PA04	子ども家庭福祉	2	
JA12	教育学入門	2	廃止(～2022)	KH11	教育方法とメディア開発	2	隔年	PA02	社会福祉	2	
JB21	教育学特講 1	4	廃止(～2022)	JC47	生涯学習概論	2		PA05	子ども家庭支援論	2	
JB22	教育学特講 2	2	廃止(～2022)	KA02	教育相談 I	2		PA06	社会的養護 I	2	
JB23	教育学特講 3	2	廃止(～2022)	JC73	教育調査	2	隔年	PB07	保育の心理学	2	
JB24	教育学特講 4	2	廃止(～2022)	JC87	体育学特講	2	廃止(～2022)	PB08	子ども家庭支援の心理学	2	
JB25	教育学特講 5	2	廃止(～2022)	KH06	教育工学	2	隔年	PB09	子ども理解と援助	2	
JB26	教育学特講 6	2	廃止(～2022)	KA01	道德教育の理論と実践 I	2		PB10	子どもの保健	2	
JB27	教育学特講 7	2	廃止(～2022)	KA05	特別活動 I	2		PB05	子どもの食と栄養	2	
JB28	教育学特講 8	2	廃止(～2022)	KA06	生徒指導 [含進路指導] I	2		PC05	乳児保育 I	2	
JB29	教育学特講 9	2	廃止(～2022)	JH43	マルチメディア 活用演習 1	2	廃止 (～2022)	PC06	乳児保育 II	2	
JB31	教育学特講10	2	廃止(～2022)	JC91	発展途上国における 教育問題 1	2		PC07	子どもの健康と安全	2	
JC14	教育哲学 2	2		JC92	発展途上国における 教育問題 2	2		PC02	障害児保育	2	
JC13	西洋社会思想	2						PC08	社会的養護 II	2	
JC22	障害者教育・福祉概論	2	廃止(～2022)					PC09	子育て支援	2	
JC48	社会学概論 1	2	隔年					PE05	保育実習指導 I (保育所)	1	
JC49	社会学概論 2	2	隔年					PE06	保育実習指導 I (施設)	1	
KH04	教育課程方法論	2						PJ07	保育実習指導 II	1	
								PE03	保育実習 I (保育所)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

(次ページにつづく)

※保育士養成課程における選択必修科目。4単位（2科目）以上の履修が必要。

▼自由選択科目につき

保育士養成課程関係科目				大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
PE04	保育実習Ⅰ（施設）	2		WF53	教育実践研究特論3	2	
PJ08	保育実習Ⅱ	2		WF54	教育実践研究特論4	2	
PJ01	保育の現代的課題	2	※	WF55	教育実践研究特論5	2	
PJ11	子育て支援実習	2	※	WF56	教育実践研究特論6	2	
PJ03	乳幼児理解	2	※	WF57	教育実践研究特論7	2	
PJ04	乳幼児の身体・表現	2	※隔年	WF58	教育実践研究特論8	2	
PJ10	多文化共生保育	2	※	WF59	教育実践研究特論9	2	
PJ06	児童文化論	2	※	WF43	生涯学習研究特論1	2	
				WF44	生涯学習研究特論2	2	
				WF45	生涯学習研究特論3	2	
				WF46	生涯学習研究特論4	2	
				WF61	国際教育研究特論1	2	
				WF62	国際教育研究特論2	2	
				WF63	国際教育研究特論3	2	
				WF82	生涯学習研究演習1	2	
				WF92	国際教育研究演習1	2	
				WF93	国際教育研究演習2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

1. 上記に挙げた教育学科科目
2. 指定された大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目

▼履修上の注意

- ① 大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。
- ② 保育士養成課程関係科目は、保育士資格取得希

望者に限り履修できます。履修については保育士養成課程に関わるガイダンスにて説明します。なお、備考欄に※印のある科目はそこから最低4単位を修得してください。

- ③ 保育実習は履修資格に関する要件が別に定められています。（⇒p.249）

▼標準履修年次

「社会福祉」の標準履修年次は1年次です。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

初等教育学専攻生は、免許法施行規則第六十六条の六に定める「日本国憲法」の科目として、憲法1～4のいずれか1科目（2単位）を必ず修得する必要があります。

▼卒業要件

- 関連分野から憲法1～憲法4のいずれかを必ず含んで最低6単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

【3】卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 教育実習の履修要件

教育実習を履修するためには、次の「教育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。すなわち、4年次で教育実習を履修するためには、3年次終了時点で要件を満たすことが必要となります。

また、教育実習の履修資格要件ではありませんが、音楽・図画工作・体育関係の選択必修科目を修得しておくことが望まれます。

教育実習の履修資格要件（幼稚園）

科 目		教育実習履修資格要件
保育原理		修得済であること
保育・幼児教育課程論		修得済であること
教育実習指導3		修得済であること
保育方法論		修得済であること
保育内容総論		修得済であること
教育原理1 西洋教育史2 日本教育史1 日本教育史2		左の4つの区分の中から3区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること
教育経営と学校制度		
教育心理学I 発達心理学1 幼児理解〔含教育相談〕		
国語概論〔含書写〕 生活科概論 算数概論 音楽概論2 保育内容の理解と方法1 図画工作概論 保育内容の理解と方法2 体育概論		左の8科目の中から2科目以上修得済であること
領域：健康	保育内容〔健康〕	2領域以上修得済であること
領域：人間関係	保育内容〔人間関係〕	
領域：環境	保育内容〔環境〕	
領域：言葉	保育内容〔言葉〕	
領域：表現	保育内容〔表現〕	

2. 卒業要件外の科目

次の科目の分野系列は資格関係分野となり、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 次の初等教育学科目（教育学科開講）

コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位
KH13	教職入門 I	2	KB21	社会科教育法〔小学校〕	2	KB81	家庭科教育法	2
KA21	社会科概論	2	KB31	生活科教育法	2	KB91	体育科教育法	2
KA51	理科概論	2	KB41	算数科教育法	2	KB93	外国語教育法（小学校）	2
KA82	家庭科概論	2	KB51	理科教育法	2	KB92	総合的な学習の時間の指導法（小学校）	2
KA94	外国語概論	2	KB61	音楽科教育法	2	KA63	音楽概論1	2
KB11	国語科教育法〔小学校〕	2	KB72	図画工作科教育法	2			

3. 保育士資格の取得について

本学教育学科初等教育学専攻幼児教育コースに所属している学生は、所定の手続きにより保育士養成課程を履修することができます。

(1) 保育士養成課程に関する科目

<別表第一>

厚労省告示別表第一による教科目			本学の該当教科目			
系列	教科目	設置 単位数	教科目	単位数	必修/ 選択必修	
保育の本質・目的 に関する科目	保育原理（講義）	2	保育原理（講義）	2	必修	
	教育原理（講義）	2	教育原理1（講義）	2	必修	
	子ども家庭福祉（講義）	2	子ども家庭福祉（講義）	2	必修	
	社会福祉（講義）	2	社会福祉（講義）	2	必修	
	子ども家庭支援論（講義）	2	子ども家庭支援論（講義）	2	必修	
	社会的養護Ⅰ（講義）	2	社会的養護Ⅰ（講義）	2	必修	
	保育者論（講義）	2	保育者論（講義）	2	必修	
保育の対象の理解 に関する科目	保育の心理学（講義）	2	保育の心理学（講義）	2	必修	
	子ども家庭支援の心理学（講義）	2	子ども家庭支援の心理学（講義）	2	必修	
	子どもの理解と援助（演習）	1	子ども理解と援助	2	必修	
	子どもの保健（講義）	2	子どもの保健（講義）	2	必修	
	子どもの食と栄養（演習）	2	子どもの食と栄養（演習）	2	必修	
保育の内容・方法 に関する科目	保育の計画と評価（講義）	2	保育・幼児教育課程論（講義）	2	必修	
	保育内容総論（演習）	1	保育内容総論（演習）	2	必修	
	保育内容演習（演習）	5	保育内容（健康）	（演習）	2	必修
			保育内容（人間関係）	（演習）	2	
			保育内容（環境）	（演習）	2	
			保育内容（言葉）	（演習）	2	
			保育内容（表現）	（演習）	2	
	保育内容の理解と方法（演習）	4	保育内容の理解と方法1	（演習）	2	必修
			保育内容の理解と方法2	（演習）	2	必修
	乳児保育Ⅰ（講義）	2	乳児保育Ⅰ（講義）	2	必修	
	乳児保育Ⅱ（演習）	1	乳児保育Ⅱ（演習）	2	必修	
	子どもの健康と安全（演習）	1	子どもの健康と安全（演習）	2	必修	
	障害児保育（演習）	2	障害児保育（演習）	2	必修	
	社会的養護Ⅱ（演習）	1	社会的養護Ⅱ（演習）	2	必修	
子育て支援（演習）	1	子育て支援（演習）	2	必修		
保育実習	保育実習Ⅰ（実習）	4	保育実習Ⅰ（保育所）	（実習）	2	必修
			保育実習Ⅰ（施設）	（実習）	2	必修
	保育実習指導Ⅰ（演習）	2	保育実習指導Ⅰ（保育所）	（演習）	1	必修
			保育実習指導Ⅰ（施設）	（演習）	1	必修
総合演習	保育実践演習（演習）	2	保育・教職実践演習（演習）	2	必修	
設置単位数		51単位以上	本学における設置単位数		62単位	
履修単位数		51単位以上	本学における最低履修単位数		62単位	

<別表第二>

厚労省告示別表第二による教科目			本学の該当教科目		
系列	教科目	設置 単位数	教科目	単位数	必修/ 選択必修
保育の本質・目的 に関する科目	各指定保育士養成施設において 設定	15	教育原理2（講義）	2	選択必修 (4単位以上)
保育の対象の理解 に関する科目			保育の現代的課題（講義）	2	
			子育て支援実習（演習）	2	
保育の内容・方法 に関する科目			乳幼児理解（演習）	2	
			乳幼児の身体・表現（講義）	2	
			多文化共生保育（講義）	2	
			児童文化論（講義）	2	
			保育方法論（講義）	2	

保育実習	保育実習Ⅱ（実習） もしくは保育実習Ⅲ（実習）	2	保育実習Ⅱ（実習）	2	必修
	保育実習指導Ⅱ（演習） もしくは保育実習指導Ⅲ（演習）	1	保育実習指導Ⅱ（演習）	1	必修
設置単位数	18単位以上		本学における設置単位数	19単位	
履修単位数	9単位以上		本学における最低履修単位数	9単位	

＜別表第三＞

厚労省告示による教科目			本学の該当教科目		
系列	教科目	設置単位数	教科目	単位数	必修／ 選択必修
教養科目	外国語、体育以外の科目 （授業形態不問）	6以上	憲法1	2	選択必修 （2単位以上）
			憲法2	2	
			憲法3	2	
			教育情報基礎演習1	2	必修
	外国語（演習）	2	1年英語1	2	必修
			1年英語2	2	必修
体育（講義）	1	体育運動学	1	必修	
体育（実技）	1	体育運動学	1	必修	
設置単位数	10単位以上		本学における設置単位数	12単位	
履修単位数	8単位以上		本学における最低履修単位数	10単位	

(2) 保育実習の履修要件

保育実習を履修するためには、次の「保育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。

＜保育実習の履修資格要件＞

実習種別	科目	実習履修資格要件
保育実習Ⅰ（保育所）	保育原理	修得済であること
	社会福祉	修得済であること
保育実習Ⅰ（施設）	子ども家庭福祉	修得済であること
	子ども家庭支援論	修得済であること
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	両方の実習を終了していること
	保育内容総論	修得済であること
	保育・幼児教育課程論	修得済であること
	保育内容〔健康〕	2領域以上修得済であること
	保育内容〔人間関係〕	
	保育内容〔環境〕	
	保育内容〔言葉〕	
	保育内容〔表現〕	
乳児保育Ⅰ・乳児保育Ⅱ	修得済であること	

※なお、上記要件の他に、次の場合には保育士養成課程委員会に諮られ、実習が許可されないことがあるため、十分注意すること。

- ①履修している授業全般への出席状況や課題提出状況に著しく問題がある場合。
- ②実習予定者として、大学及び実習先の施設から示される遵守すべき事項を守らない等の問題が認められた場合。

(3) 保育実習諸費

保育実習を行う者は、右表の各年次の所定期間に保育実習諸費を納入しなければなりません。なお、一度納入された保育実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還されません。

納入年次	納入金額
2年次	40,000円
3年次	50,000円

4. 小学校免許状の取得について

初等教育学（幼児教育）の専攻生が、小学校の免許をあわせて取得する場合、教職課程小学校・幼稚園教員特別プログラムのS1コースに登録しなければなりません。S1コースの履修方法については、教職課程ガイダンスにて説明します。ただし、幼稚園免許の必修科目である教育実習指導3（幼稚園）および教育実習指導6（幼稚園）を修得することで、小学校免許の必修科目である教育実習指導2（小学校）および教育実習指導5（小学校）の履修は免除されます。また、保育・教職実践演習を修得することで、教職実践演習（小学校）の履修が免除されます。

【初等教育学専攻生も履修できる科目】

次に挙げる科目は、初等教育学専攻生も履修できます。

コード	授業科目	単位	備考
JC10	教育原理	2	隔年
JC32	教育心理学Ⅱ	2	
JC34	教育メディア論	2	
JC37	教育課程論	2	
JC38	教育方法Ⅱ	2	
JC39	教育経営	2	
JC40	教育行政学2	2	

コード	授業科目	単位	備考
JC71	教育相談Ⅱ	2	隔年
JE13	メディア教材開発	2	
JE14	教育情報と学習デザイン	2	
JF15	生徒指導〔含進路指導〕Ⅱ	2	
JF16	道徳教育の理論と実践Ⅱ	2	
JF17	特別活動Ⅱ	2	

㊦ アドミッションポリシー ㊧

「子どもの成長を喜ぶことができる、感性豊かな教員・保育者」を育成します。専攻内には、4年間の学びを通じて、一人ひとりの子どもに寄り添い、心身の成長を支える教員に不可欠な、豊かな人間性や指導力を伸ばします。

初等教育学専攻は、将来、小学校教員あるいは幼稚園・保育園・子ども園の保育者になることを前提とした特別な専攻です。初等教育コースと幼児教育コースに分かれていて、専攻を修了すると、初等教育コースでは小学校1種の免許が取得でき、幼児教育コースでは幼稚園1種と保育士が取得できるようになっています。したがって、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学してもらいたいと願っています。

1. 高等学校卒業相当の知識・技能
2. 子ども一人ひとりに心をこめて関わることのできる、温かさや豊かな人間性
3. たくましい知的探究心と倫理性、責任感
4. 教職・保育職への情熱としなやかな実行力
5. 教育・保育の持つ社会的重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
6. 生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概この専攻を希望する者は、現時点で、卒業後は教員あるいは保育士になるという強い意志とそのための努力を惜しまない学生であることが望まれます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

教育学科初等教育学専攻は、豊かな心、確かな力量、強い責任感を持ち、子どもの「いのち」と「こころ」の成長を支える力を持った幼稚園教員、保育士、小学校教員を社会に送り出します。

初等教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認めます。

1. 公正な社会の実現に向けて高い志をもち、教育・保育への本質的理解にもとづいて初等教育・保育に貢献できる資質。
2. 実践現場に必要な教育・養護・福祉等の幅広い視野と深い洞察力、および柔軟性と創造性。
3. 教育学に関する高度な専門的知識と基本的な研究・調査能力を持ち、卒業論文を完遂することができる能力。
4. 論理的かつ批判的な思考力および柔軟で的確な判断力。
5. 実践現場に必要な豊かな感性と自己表現力並びに倫理性。
6. 人格の基礎を培う時期である初等教育・保育に貢献しようとする情熱。
7. 教育・保育に携わる専門家としての深い人間理解力と実践力。
8. 現代社会の教育・保育問題に対して真摯にかつしなやかに対応し、他者と協働して問題解決に取り組む姿勢と意欲。
9. 自らの知的関心を発展させ、生涯学びつづける姿勢と意欲
10. 一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

初等教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現し、学生のニーズに応じた免許・資格取得が可能となるように、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた「初等教育コース」と就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた「幼児教育コース」を置いています。

初等教育学専攻では、以下のような方針で2年次から4年次への教育課程を編成しています。

1. 教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育学概論」を全体の基盤として、さらに多様な教育学関係科目を置く。
2. 以上を基礎として、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた初等教育コースと就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた幼児教育コースを置く。各コースを修了することでそれぞれの学校種の一種教員免許状及び保育士資格を取得できるよう科目を開設する。
3. 聖心の初等教育学として豊かな人間性の育成を重視し、高度な教員・保育者養成を目指して特色あるカリキュラムを展開する。
4. 研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に初等教育学の専門的な研究方法へと導く。専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5. 教育学科の特色ある科目群として「人間学習」を多数展開し、協力して行う体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6. 2年次から4年次への具体的な展開方針は次のようである。
 - 2年次：教育全般や初等教育・保育に関する基礎を学ぶ。教員・保育者に求められる基本的な資質や能力を身に付け、将来の自己像・教員・保育者像を描く。また、保育実習を通して乳幼児の発達や子育てをめぐる諸問題に関心を高めていく。
 - 3年次：広い視点から教育全般や初等教育・保育をとらえる。知識を豊かにし教育の具体的方法について学ぶ。教員・保育者に求められる資質の理解を深め、表現力や感性、豊かな心を磨く。
 - 4年次：幅広い視野、柔軟な思考力、的確な判断力など、教員・保育者に必要な資質・能力を確かなものとし、教育の諸問題を探究する。教職・保育職に対する情熱と使命感を高める。教育実習を実施し、学校と児童・幼児に対する理解を深め、実践的な指導力を身につける。

卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心に基づき実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえない「いのち」と「こころ」を大切に作る社会づくりに貢献する意欲を高め、責任感と使命感を持って活躍することのできる、実践的指導力のある小学校・幼稚園教諭を養成します。

人間愛に支えられ深く他者を理解する力、乳幼児期の子どもの教育・保育に対する情熱と使命感、教育の基礎理論、初等教育・保育の専門家として必要な理論と方法や実践する力を身につけ、幅広い教養と思考力そして的確な判断力を備え、自ら困難な問題に立ち向かい、理解者・援助者としての役割を果たすことができる人材、自らの人間力を高め社会に貢献する精神を磨き続ける人材を育てます。初等教育及び保育に情熱をもち、幼稚園、保育所、子ども園の保育者、あるいは小学校の教員として深い人間理解力と実践力を兼ね備え、社会に貢献することが期待されます。

教育学科：初等教育学専攻（幼児教育コース）カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方を身につける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や幼児教育・保育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師・保育士に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師・保育士像を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な実践を知り、広い視点から教育・保育を考える ・子どもの発達を理解し、教育・保育の具体的方法について学ぶ ・教育・保育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師・保育士に必要な資質への理解を深める ・教師・保育士にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職・保育職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職・保育職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師・保育士像に向けた自己課題を明確にする
	必修 初教(幼)-1 2年ゼミ	必修 初教(幼)-2 学年ゼミ	
1 年次 奨励 初教(幼)自由 選択科目	必修 初教(幼)-3 基礎理論		
	必修 初教(幼)-4 教職の意義等、幼児の教育課程、幼児教育の方法、幼児理解の理論、保育内容・保育の表現技術、教科内容の概論、教育の社会的事項		
	選択必修 初教(幼)-5 教育理念・教育史、発達と学習の過程		
		必修 初教(幼)-6 教育実習、教職実践演習	
	選択必修	初教(幼)-7 人間学習	
選択	初教(幼)-8 自由選択科目		

▼卒業までに必要とする最低単位数（2022年度入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-5）		合計：最低26単位		39-44ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b）		合計：最低98単位		254-258ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a15）		合計：最低92単位		254-258ページ
a1	基礎理論と学年ゼミ	12	必修	
a2	教職の意義等	2	必修	
a3	教育実習	6	必修	
a4	教職実践演習	2	必修	
a5	幼児の教育課程	2	必修	
a6	幼児教育の方法	2	必修	
a7	幼児理解の理論	4	必修	
a8	保育内容・保育の表現技術	12	必修	
a9	教科内容の概論	12	選択必修	
a10	教育理念・教育史	2	選択必修	
a11	教育の社会的事項	2	必修	
a12	発達と学習の過程	2	選択必修	
a13	人間学習	2	選択必修	
a14	2年ゼミ	—	選択	
a15	自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 ⇒憲法2単位を含む		合計：最低6単位		258ページ
うち第二外国語余剰分				43ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：132単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外（5-1～5-2）				
5-1	1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2	運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

[2-a] 専攻分野（最低92単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a15）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が92単位以上あること

a1 基礎理論と学年ゼミ（必修・12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JA13	教育原理 1	2	
KH12	保育原理	2	
JH17	教育学演習 2 - (1)	2	
JH18	教育学演習 2 - (2)	2	
JH16	教育学演習 3	4	廃止（～2022）
JH27	教育学演習Ⅲ (1)	2	
JH28	教育学演習Ⅲ (2)	2	

▼卒業要件

- 左記の必修科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

- 教育原理 1 は 2 年次指定科目です。
教育学演習 2 は 3 年次指定科目です。
教育学演習 3 は 4 年次指定科目です。

▼標準履修年次

- 保育原理の標準履修年次は 1 年次です。

▼履修上の注意

- 2023年度以降は「教育学演習 3」にかえて、下記の代替科目を修得してください。

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
JH16	教育学演習 3 < 4 >	JH27	教育学演習Ⅲ (1) < 2 >
		JH28	教育学演習Ⅲ (2) < 2 >

a2 教職の意義等（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH14	保育者論	2	

▼卒業要件

- 左記の科目を修得していること

a3 教育実習（必修・6単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
KG25	教育実習指導 3	1	3年次必修
KG26	教育実習指導 6	1	4年次必修
KH09	教育実習 3	2	4年次必修
KH10	教育実習 4	2	4年次必修

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼自動登録科目

左記の科目は、自動登録科目です。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録確認時に必ず申し出てください。（⇒p.21）

▼履修上の注意

教育実習は、履修資格に関する条件が別に定められています。（⇒p.259）

a4 教職実践演習（必修・2単位）

標準履修年次：4年次

コード	授業科目	単位	備考
KG43	保育・教職実践演習	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a5 幼児の教育課程（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KC12	保育・幼児教育課程論	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a6 幼児教育の方法（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KE17	保育方法論	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a7 幼児理解の理論（必修・4単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KF11	幼児理解 [含教育相談]	2	
KA96	特別支援教育・保育総論	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

a8 保育内容・保育の表現技術（必修・12単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KD01	保育内容総論	2	
KD13	保育内容 [健康]	2	
KD33	保育内容 [人間関係]	2	
KD43	保育内容 [環境]	2	
KD53	保育内容 [言葉]	2	
KD74	保育内容 [表現]	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

a9 教科内容の概論（選択必修・12単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KJ01	子どもと健康	2	
KJ02	子どもと人間関係	2	
KJ03	子どもと環境	2	
KJ04	子どもと言葉	2	
KA66	子どもと音楽表現	2	
KJ05	子どもと造形表現	2	
KD83	保育内容の理解と方法 1	2	①
KD84	保育内容の理解と方法 2	2	②

▼卒業要件

左記の科目から最低12単位修得していること

▼標準履修年次

「子どもと音楽表現」の標準履修年次は1年次です。

▼履修上の注意

保育士資格希望者は、①と②が必修です。

a10 教育理念・教育史（選択必修・最低2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH01	西洋教育史 2	2	
KH02	日本教育史 1	2	廃止（～2022）
KH03	日本教育史 2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること

a11 教育の社会的事項（必修・2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH05	教育経営と学校制度	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a12 発達と学習の過程（選択必修・最低2単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KA03	教育心理学 I	2	
LH11	発達心理学 1	2	履修上の注意

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

左記の科目から最低2単位修得していること

▼履修上の注意

「発達心理学 1」は心理学科開講科目です。修得単位は、「a12：発達と学習の過程」に集計されます。

a13 人間学習（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：2・3・4年次

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JD45	人間学習原論	2	廃止(~2022)	JD52	人間学習7	2	
JD46	人間学習1	2		JD53	人間学習8	2	
JD47	人間学習2	2		JD54	人間学習9	2	
JD48	人間学習3	2		JD55	人間学習10	2	廃止(~2022)
JD49	人間学習4	2		JD56	人間学習11	2	廃止(~2022)
JD50	人間学習5	2		JD57	人間学習12	2	廃止(~2022)
JD51	人間学習6	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

□左記の科目から最低2単位修得していること

▼標準履修年次

「人間学習原論」の標準履修年次は2・3年次、その他の科目は3・4年次です。

a14 2年ゼミ（選択）

標準履修年次：2年次

コード	授業科目	単位	備考
JH21	教育学演習1-(1)	2	
JH22	教育学演習1-(2)	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

「教育学演習1」は卒業に必要な単位ではありませんが、2年次生全員が履修することになっています。

a15 自由選択科目（選択）

学部科目				学部科目				保育士養成課程関係科目			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JA14	教育原理2	2	※ 廃止(~2022)	JC30	教育方法〔含ICT活用〕	2		PA04	子ども家庭福祉	2	
JA12	教育学入門	2	廃止(~2022)	JC48	社会学概論1	2	隔年	PA02	社会福祉	2	
JB21	教育学特講1	4	廃止(~2022)	JC49	社会学概論2	2	隔年	PA05	子ども家庭支援論	2	
JB22	教育学特講2	2	廃止(~2022)	KH04	教育課程方法論	2		PA06	社会的養護I	2	
JB23	教育学特講3	2	廃止(~2022)	JC47	生涯学習概論	2		PB07	保育の心理学	2	
JB24	教育学特講4	2	廃止(~2022)	KA02	教育相談I	2		PB08	子ども家庭支援の心理学	2	
JB25	教育学特講5	2	廃止(~2022)	JC73	教育調査	2	隔年	PB09	子ども理解と援助	2	
JB26	教育学特講6	2	廃止(~2022)	JC87	体育学特講	2	廃止(~2022)	PB10	子どもの保健	2	
JB27	教育学特講7	2	廃止(~2022)	KA01	道德教育の理論と実践I	2		PB05	子どもの食と栄養	2	
JB28	教育学特講8	2	廃止(~2022)	KA05	特別活動I	2		PC05	乳児保育I	2	
JB29	教育学特講9	2	廃止(~2022)	KA06	生徒指導〔含進路指導〕I	2		PC06	乳児保育II	2	
JB31	教育学特講10	2	廃止(~2022)	JC91	発展途上国における教育問題1	2		PC07	子どもの健康と安全	2	
JC14	教育哲学2	2		JC92	発展途上国における教育問題2	2		PC08	社会的養護II	2	
JC13	西洋社会思想	2						PC09	子育て支援	2	
JC22	障害者教育・福祉概論	2	廃止(~2022)					PE05	保育実習指導I（保育所）	1	
								PE06	保育実習指導I（施設）	1	
								PJ07	保育実習指導II	1	
								PE03	保育実習I（保育所）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

※保育士養成課程における選択必修科目。4単位（2科目）以上の履修が必要。

(次ページにつづく)

▼自由選択科目につき

保育士養成課程関係科目				大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
PE04	保育実習Ⅰ（施設）	2		WF53	教育実践研究特論3	2	
PJ08	保育実習Ⅱ	2		WF54	教育実践研究特論4	2	
PD01	子どもと遊び	2	※	WF55	教育実践研究特論5	2	
PJ09	子育て支援実習	2	※	WF56	教育実践研究特論6	2	
PD02	子どもと自然	2	※	WF57	教育実践研究特論7	2	
PJ04	乳幼児の身体・表現	2	※隔年	WF58	教育実践研究特論8	2	
PJ05	多文化共生保育	2	※	WF59	教育実践研究特論9	2	
PJ06	児童文化論	2	※	WF43	生涯学習研究特論1	2	
				WF44	生涯学習研究特論2	2	
				WF45	生涯学習研究特論3	2	
				WF46	生涯学習研究特論4	2	
				WF61	国際教育研究特論1	2	
				WF62	国際教育研究特論2	2	
				WF63	国際教育研究特論3	2	
				WF82	生涯学習研究演習1	2	
				WF92	国際教育研究演習1	2	
				WF93	国際教育研究演習2	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

1. 上記に挙げた教育学科科目
2. 指定された大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目

▼履修上の注意

- ① 大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。
- ② 保育士養成課程関係科目は、保育士資格取得希

望者に限り履修できます。履修については保育士養成課程に関わるガイダンスにて説明します。なお、備考欄に※印のある科目はその中から最低4単位を修得してください。

- ③ 保育実習は履修資格に関する要件が別に定められています。（⇒p.261）

▼標準履修年次

「社会福祉」の標準履修年次は1年次です。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

初等教育学専攻生は、免許法施行規則第六十六条の六に定める「日本国憲法」の科目として、憲法1～4のいずれか1科目（2単位）を必ず修得する必要があります。

▼卒業要件

- 関連分野から憲法1～憲法4のいずれかを必ず含んで最低6単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 教育実習の履修要件

教育実習を履修するためには、次の「教育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。すなわち、4年次で教育実習を履修するためには、3年次終了時点で要件を満たすことが必要となります。

また、教育実習の履修資格要件ではありませんが、音楽や造形関係の選択必修科目を修得しておくことが望まれます。

教育実習の履修資格要件（幼稚園）

科 目	教育実習履修資格要件	
保育原理	修得済であること	
保育・幼児教育課程論	修得済であること	
教育実習指導 3	修得済であること	
保育方法論	修得済であること	
保育内容総論	修得済であること	
教育原理 1 西洋教育史 2 日本教育史 1 日本教育史 2	左の4つの区分の中から3区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	
教育経営と学校制度		
教育心理学 I 発達心理学 1		
幼児理解 [含教育相談]	左の8科目の中から2科目以上修得済であること	
子どもと健康 子どもと人間関係 子どもと環境		
子どもと言葉 子どもと音楽環境 子どもと造形表現 保育内容の理解と方法 1 保育内容の理解と方法 2		
領域：健康	保育内容 [健康]	2領域以上修得済であること
領域：人間関係	保育内容 [人間関係]	
領域：環境	保育内容 [環境]	
領域：言葉	保育内容 [言葉]	
領域：表現	保育内容 [表現]	

2. 卒業要件外の科目

次の科目の分野系列は資格関係分野となり、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 次の初等教育学科目（教育学科開講）

コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位
KH13	教職入門 I	2	KB31	生活科教育法	2	KB93	外国語教育法（小学校）	2
KA21	社会科概論	2	KB41	算数科教育法	2	KB92	総合的な学習の時間の指導法（小学校）	2
KA51	理科概論	2	KB51	理科教育法	2	KA63	音楽概論	2
KA82	家庭科概論	2	KB61	音楽科教育法	2	KA95	特別支援教育概論（小学校）	2
KA94	外国語概論	2	KB72	図画工作科教育法	2			
KB11	国語科教育法 [小学校]	2	KB81	家庭科教育法	2			
KB21	社会科教育法 [小学校]	2	KB91	体育科教育法	2			

3. 保育士資格の取得について

本学教育学科初等教育学専攻幼児教育コースに所属している学生は、所定の手続きにより保育士養成課程を履修することができます。

(1) 保育士養成課程に関する科目

<別表第一>

厚労省告示別表第一による教科目			本学の該当教科目			
系列	教科目	設置 単位数	教科目	単位数	必修/ 選択必修	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理（講義）	2	保育原理（講義）	2	必修	
	教育原理（講義）	2	教育原理1（講義）	2	必修	
	子ども家庭福祉（講義）	2	子ども家庭福祉（講義）	2	必修	
	社会福祉（講義）	2	社会福祉（講義）	2	必修	
	子ども家庭支援論（講義）	2	子ども家庭支援論（講義）	2	必修	
	社会的養護Ⅰ（講義）	2	社会的養護Ⅰ（講義）	2	必修	
	保育者論（講義）	2	保育者論（講義）	2	必修	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学（講義）	2	保育の心理学（講義）	2	必修	
	子ども家庭支援の心理学（講義）	2	子ども家庭支援の心理学（講義）	2	必修	
	子どもの理解と援助（演習）	1	子ども理解と援助	2	必修	
	子どもの保健（講義）	2	子どもの保健（講義）	2	必修	
	子どもの食と栄養（演習）	2	子どもの食と栄養（演習）	2	必修	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価（講義）	2	保育・幼児教育課程論（講義）	2	必修	
	保育内容総論（演習）	1	保育内容総論（演習）	2	必修	
	保育内容演習（演習）	5	保育内容（健康）	（演習）	2	必修
			保育内容（人間関係）	（演習）	2	
			保育内容（環境）	（演習）	2	
			保育内容（言葉）	（演習）	2	
			保育内容（表現）	（演習）	2	
	保育内容の理解と方法（演習）	4	保育内容の理解と方法1	（演習）	2	必修
			保育内容の理解と方法2	（演習）	2	必修
	乳児保育Ⅰ（講義）	2	乳児保育Ⅰ（講義）	2	必修	
	乳児保育Ⅱ（演習）	1	乳児保育Ⅱ（演習）	2	必修	
	子どもの健康と安全（演習）	1	子どもの健康と安全（演習）	2	必修	
	障害児保育（演習）	2	特別支援教育・保育総論（演習）	2	必修	
	社会的養護Ⅱ（演習）	1	社会的養護Ⅱ（演習）	2	必修	
子育て支援（演習）	1	子育て支援（演習）	2	必修		
保育実習	保育実習Ⅰ（実習）	4	保育実習Ⅰ（保育所）	（実習）	2	必修
			保育実習Ⅰ（施設）	（実習）	2	必修
	保育実習指導Ⅰ（演習）	2	保育実習指導Ⅰ（保育所）	（演習）	1	必修
			保育実習指導Ⅰ（施設）	（演習）	1	必修
総合演習	保育実践演習（演習）	2	保育・教職実践演習（演習）	2	必修	
設置単位数		51単位以上	本学における設置単位数		62単位	
履修単位数		51単位以上	本学における最低履修単位数		62単位	

<別表第二>

厚労省告示別表第二による教科目			本学の該当教科目		
系列	教科目	設置 単位数	教科目	単位数	必修/ 選択必修
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	15	教育原理2（講義）	2	選択必修 (4単位以上)
			子どもと遊び（講義）	2	
子育て支援実習（演習）			2		
子どもと自然（演習）			2		
乳幼児の身体・表現（講義）			2		
多文化共生保育（講義）			2		
児童文化論（講義）			2		
保育の内容・方法に関する科目	保育方法論（講義）	2	2	必修	

保育実習	保育実習Ⅱ（実習） もしくは保育実習Ⅲ（実習）	2	保育実習Ⅱ（実習）	2	必修
	保育実習指導Ⅱ（演習） もしくは保育実習指導Ⅲ（演習）	1	保育実習指導Ⅱ（演習）	1	必修
設置単位数	18単位以上		本学における設置単位数	19単位	
履修単位数	9単位以上		本学における最低履修単位数	9単位	

＜別表第三＞

厚労省告示による教科目			本学の該当教科目		
系列	教科目	設置単位数	教科目	単位数	必修／ 選択必修
教養科目	外国語、体育以外の科目 （授業形態不問）	6以上	憲法1	2	選択必修 （2単位以上）
			憲法2	2	
			憲法3	2	
	外国語（演習）	2	AI・データサイエンス基礎	2	必修
			1年英語1	2	必修
			1年英語2	2	必修
体育（講義）	1	体育運動学※	1	必修	
体育（実技）	1	体育運動学※	1	必修	
設置単位数	10単位以上		本学における設置単位数	12単位	
履修単位数	8単位以上		本学における最低履修単位数	10単位	

※体育運動学（講義）・（実技）を未修得の学生は、ウエルネス・身体活動（講義）・（実技）を履修すること

(2) 保育実習の履修要件

保育実習を履修するためには、次の「保育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。

＜保育実習の履修資格要件＞

実習種別	科目	実習履修資格要件
保育実習Ⅰ（保育所）	保育原理	修得済であること
	社会福祉	修得済であること
保育実習Ⅰ（施設）	子ども家庭福祉	修得済であること
	子ども家庭支援論	修得済であること
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	両方の実習を終了していること
	保育内容総論	修得済であること
	保育・幼児教育課程論	修得済であること
	保育内容〔健康〕	2領域以上修得済であること
	保育内容〔人間関係〕	
	保育内容〔環境〕	
	保育内容〔言葉〕	
	保育内容〔表現〕	
乳児保育Ⅰ・乳児保育Ⅱ	修得済であること	

※なお、上記要件の他に、次の場合には保育士養成課程委員会に諮られ、実習が許可されないことがあるため、十分注意すること。

①履修している授業全般への出席状況や課題提出状況に著しく問題がある場合。

②実習予定者として、大学及び実習先の施設から示される遵守すべき事項を守らない等の問題が認められた場合。

(3) 保育実習諸費

保育実習を行う者は、右表の各年次の所定期間に保育実習諸費を納入しなければなりません。なお、一度納入された保育実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還されません。

納入年次	納入金額
2年次	40,000円
3年次	50,000円

4. 小学校免許状の取得について

初等教育学（幼児教育）の専攻生が、小学校の免許をあわせて取得する場合、教職課程小学校・幼稚園教員特別プログラムのS1コースに登録しなければなりません。S1コースの履修方法については、教職課程ガイダンスにて説明します。ただし、幼稚園免許の必修科目である教育実習指導3（幼稚園）および教育実習指導6（幼稚園）を修得することで、小学校免許の必修科目である教育実習指導2（小学校）および教育実習指導5（小学校）の履修は免除されます。また、保育・教職実践演習を修得することで、教職実践演習（小学校）の履修が免除されます。

【初等教育学専攻生も履修できる科目】

次に挙げる科目は、初等教育学専攻生も履修できます。

コード	授業科目	単位	備考
JC10	教育原理	2	
JC32	教育心理学Ⅱ	2	
JC37	教育課程論	2	
JC39	教育経営	2	
JC40	教育行政学Ⅱ	2	

コード	授業科目	単位	備考
JC71	教育相談Ⅱ	2	
JF15	生徒指導〔含進路指導〕Ⅱ	2	
JF16	道徳教育の理論と実践Ⅱ	2	
JF17	特別活動Ⅱ	2	

㊦ アドミッションポリシー ㊧

「子どもの成長を喜ぶことができる、感性豊かな教員・保育者」を育成します。専攻内には、4年間の学びを通じて、一人ひとりの子どもに寄り添い、心身の成長を支える教員に不可欠な、豊かな人間性や指導力を伸ばします。

初等教育学専攻は、将来、小学校教員あるいは幼稚園・保育園・子ども園の保育者になることを前提とした特別な専攻です。初等教育コースと幼児教育コースに分かれていて、専攻を修了すると、初等教育コースでは小学校1種の免許が取得でき、幼児教育コースでは幼稚園1種と保育士が取得できるようになっています。したがって、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学してもらいたいと願っています。

- 0. 高等学校卒業相当の知識・技能
- 1. 子ども一人ひとりに心をこめて関わることのできる、温かさや豊かな人間性
- 2. たくましい知的探究心と倫理性、責任感
- 3. 教職・保育職への情熱としなやかな実行力
- 4. 教育・保育の持つ社会的重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
- 5. 生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概この専攻を希望する者は、現時点で、卒業後は教員あるいは保育士になるという強い意志とそのための努力を惜しまない学生であることが望まれます。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

教育学科初等教育学専攻は、豊かな心、確かな力量、強い責任感を持ち、子どもの「いのち」と「こころ」の成長を支える力を持った幼稚園教員、保育士、小学校教員を社会に送り出します。

初等教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認めます。

- 1. 公正な社会の実現に向けて高い志をもち、教育・保育への本質的理解にもとづいて初等教育・保育に貢献できる資質。
- 2. 実践現場に必要な教育・養護・福祉等の幅広い視野と深い洞察力、および柔軟性と創造性。
- 3. 教育学に関する高度な専門的知識と基本的な研究・調査能力を持ち、卒業論文を完遂することができる能力。
- 4. 論理的かつ批判的な思考力および柔軟で的確な判断力。
- 5. 実践現場に必要な豊かな感性と自己表現力並びに倫理性。
- 6. 人格の基礎を培う時期である初等教育・保育に貢献しようとする情熱。
- 7. 教育・保育に携わる専門家としての深い人間理解力と実践力。
- 8. 現代社会の教育・保育問題に対して真摯にかつしなやかに対応し、他者と協働して問題解決に取り組む姿勢と意欲。
- 9. 自らの知的関心を発展させ、生涯学びつづける姿勢と意欲
- 10. 一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

初等教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、学生のニーズに応じた免許・資格取得が可能となるように、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた「初等教育コース」と就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた「幼児教育コース」を置いています。

初等教育学専攻では、以下のような方針で2年次から4年次への教育課程を編成しています。

- 1. 教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育原理1」「教育学演習1-（1）」を全体の基盤として、さらに多様な教育学関係科目を置く。
- 2. 以上を基礎として、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた初等教育コースと就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた幼児教育コースを置く。
各コースを修了することでそれぞれの学校種の一種教員免許状及び保育士資格を取得できるよう科目を開設する。
- 3. 聖心の初等教育学として豊かな人間性の育成を重視し、高度な教員・保育者養成を目指して特色あるカリキュラムを展開する。
- 4. 研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に初等教育学の専門的な研究方法へと導く。専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
- 5. 教育学科の特色ある科目群として「人間学習」を多数展開し、協力して行う体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
- 6. 2年次から4年次への具体的な展開方針は次のようである。
2年次：教育全般や初等教育・保育に関する基礎を学ぶ。教員・保育者に求められる基本的な資質や能力を身に付け、将来の自己像・教員・保育者像を描く。また、保育実習を通して乳幼児の発達や子育てをめぐる諸問題に関心を高めていく。
3年次：広い視点から教育全般や初等教育・保育をとらえる。知識を豊かにし教育の具体的方法について学ぶ。教員・保育者に求められる資質の理解を深め、表現力や感性、豊かな心を磨く。
4年次：幅広い視野、柔軟な思考力、的確な判断力など、教員・保育者に必要な資質・能力を確かなものとし、教育の諸問題を探究する。教職・保育職に対する情熱と使命感を高める。教育実習を実施し、学校と児童・幼児に対する理解を深め、実践的な指導力を身につける。

卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心に基づき実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切に作る社会づくりに貢献する意欲を高め、責任感と使命感を持って活躍することのできる、実践的指導力のある小学校・幼稚園教諭を養成します。

人間愛に支えられ深く他者を理解する力、乳幼児期の子どもの教育・保育に対する情熱と使命感、教育の基礎理論、初等教育・保育の専門家として必要な理論と方法や実践する力を身につけ、幅広い教養と思考力そして的確な判断力を備え、自ら困難な問題に立ち向かい、理解者・援助者としての役割を果たすことができる人材、自らの人間力を高め社会に貢献する精神を磨き続ける人材を育てます。初等教育及び保育に情熱をもち、幼稚園、保育所、子ども園の保育者、あるいは小学校の教員として深い人間理解力と実践力を兼ね備え、社会に貢献することが期待されます。

教育学科：初等教育学専攻（幼児教育コース）カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方を身につける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や幼児教育・保育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師・保育士に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師・保育士像を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な実践を知り、広い視点から教育・保育を考える ・子どもの発達を理解し、教育・保育の具体的方法について学ぶ ・教育・保育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師・保育士に必要な資質への理解を深める ・教師・保育士にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職・保育職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職・保育職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師・保育士像に向けた自己課題を明確にする
	必修 初教(幼)-1 2年ゼミ	必修 初教(幼)-2 学年ゼミ	
	必修 初教(幼)-3 基礎理論		
	必修 初教(幼)-4 教職の意義等、幼児の教育課程、幼児教育の方法、幼児理解の理論、保育内容・保育の表現技術、教科内容の概論、教育の社会的事項		
	選択必修 初教(幼)-5 教育理念・教育史、発達と学習の過程		
		必修 初教(幼)-6 教育実習、教職実践演習	
	選択必修	初教(幼)-7 人間学習	
	選択	初教(幼)-8 自由選択科目	

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-6）		合計：最低28単位		54-58ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6	AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b）		合計：最低90単位		266-270ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a15）		合計：最低82単位		266-269ページ
a1	基礎理論と学年ゼミ	12	必修	
a2	教職の意義等	2	必修	
a3	教育実習	6	必修	
a4	教職実践演習	2	必修	
a5	幼児の教育課程	2	必修	
a6	幼児教育の方法	2	必修	
a7	幼児理解の理論	4	必修	
a8	保育内容・保育の表現技術	12	必修	
a9	教科内容の概論	12	選択必修	
a10	教育理念・教育史	2	選択必修	
a11	教育の社会的事項	2	必修	
a12	発達と学習の過程	2	選択必修	
a13	人間学習	2	選択必修	
a14	2年ゼミ	—	選択	
a15	自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 ⇒憲法2単位を含む		合計：最低8単位		270ページ
うち第二外国語余剰分				56ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3]の合計：126単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外（5-1）				
5-1	1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

[2-a] 専攻分野（最低82単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a15）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が82単位以上あること

a1 基礎理論と学年ゼミ（必修・12単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
JA13	教育原理 1	2	
KH12	保育原理	2	
JH17	教育学演習Ⅱ (1)	2	
JH18	教育学演習Ⅱ (2)	2	
JH27	教育学演習Ⅲ (1)	2	
JH28	教育学演習Ⅲ (2)	2	

▼卒業要件

- 左記の必修科目をすべて修得していること

▼年次指定科目

教育原理 1 は 2 年次指定科目です。
教育学演習 2 は 3 年次指定科目です。
教育学演習 3 は 4 年次指定科目です。

▼標準履修年次

保育原理の標準履修年次は 1 年次です。

a2 教職の意義等（必修・2 単位）

標準履修年次：2・3 年次

コード	授業科目	単位	備考
KH14	保育者論	2	

▼卒業要件

- 左記の科目を修得していること

a3 教育実習（必修・6単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考
KG25	教育実習指導 3	1	3年次必修
KG26	教育実習指導 6	1	4年次必修
KH09	教育実習 3	2	4年次必修
KH10	教育実習 4	2	4年次必修

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

▼自動登録科目

左記の科目は、自動登録科目です。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録確認時に必ず申し出てください。（⇒p.21）

▼履修上の注意

教育実習は、履修資格に関する条件が別に定められています。（⇒p.270）

a4 教職実践演習（必修・2単位）

標準履修年次：4年次

コード	授業科目	単位	備考
KG43	保育・教職実践演習	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a5 幼児の教育課程（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KC12	保育・幼児教育課程論	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a6 幼児教育の方法（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KE17	保育方法論	2	

▼卒業要件

左記の科目を修得していること

a7 幼児理解の理論（必修・4単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
PB09	子ども理解と援助	2	
KA96	特別支援教育・保育総論	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

a8 保育内容・保育の表現技術（必修・12単位） 標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KD01	保育内容総論	2	
KD13	保育内容 [健康]	2	
KD33	保育内容 [人間関係]	2	
KD43	保育内容 [環境]	2	
KD53	保育内容 [言葉]	2	
KD74	保育内容 [表現]	2	

▼卒業要件

左記の科目をすべて修得していること

a9 教科内容の概論（選択必修・12単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KJ01	子どもと健康	2	
KJ02	子どもと人間関係	2	
KJ03	子どもと環境	2	
KJ04	子どもと言葉	2	
KA66	子どもと音楽表現	2	
KJ05	子どもと造形表現	2	
KD83	保育内容の理解と方法 1	2	①
KD84	保育内容の理解と方法 2	2	②

▼卒業要件

 左記の科目から最低12単位修得していること

▼標準履修年次

「子どもと音楽表現」の標準履修年次は1年次です。

▼履修上の注意

保育士資格希望者は、①と②が必修です。

a10 教育理念・教育史（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH16	外国教育史	2	
KH17	日本教育史	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

 左記の科目から最低2単位修得していること

a11 教育の社会的事項（必修・2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
KH05	教育経営と学校制度	2	

▼卒業要件

 左記の科目を修得していること

a12 発達と学習の過程（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：2・3年次

コード	授業科目	単位	備考
JH83	教育心理学	2	
LH11	発達心理学 1	2	履修上の注意

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

 左記の科目から最低2単位修得していること

▼履修上の注意

「発達心理学 1」は心理学科開講科目です。修得単位は、「a12：発達と学習の過程」に集計されます。

a13 人間学習（選択必修・最低2単位）

標準履修年次：3・4年次

コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JD46	人間学習 1	2		JD51	人間学習 6	2	
JD47	人間学習 2	2		JD52	人間学習 7	2	
JD48	人間学習 3	2		JD53	人間学習 8	2	
JD49	人間学習 4	2		JD54	人間学習 9	2	
JD50	人間学習 5	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業要件

 左記の科目から最低2単位修得していること

a14 2年ゼミ（選択）

標準履修年次：2年次

コード	授業科目	単位	備考
JH21	教育学演習Ⅰ（1）	2	
JH22	教育学演習Ⅰ（2）	2	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼履修上の注意

「教育学演習Ⅰ」は卒業に必要な単位ではありませんが、2年次生全員が履修することになっています。

a15 自由選択科目（選択）

学部科目				保育士養成課程関係科目				大学院（人間科学専攻博士前期課程）			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
JC23	教育哲学	2		PA04	子ども家庭福祉	2		WA71	基礎教育学特論1	2	
JC13	西洋社会思想	2		PA02	社会福祉	2		WA72	基礎教育学特論2	2	
JC30	教育方法〔含ICT活用〕	2		PA05	子ども家庭支援論	2		WA73	基礎教育学特論3	2	
JC48	社会学概論1	2	隔年	PA06	社会的養護Ⅰ	2		WA74	基礎教育学特論4	2	
JC49	社会学概論2	2	隔年	PB07	保育の心理学	2		WF51	教育実践研究特論1	2	
KH15	カリキュラム論	2		PB08	子ども家庭支援の心理学	2		WF52	教育実践研究特論2	2	
JC47	生涯学習概論	2		PB10	子どもの保健	2		WF53	教育実践研究特論3	2	
JH82	教育相談	2		PB05	子どもの食と栄養	2		WF54	教育実践研究特論4	2	
JH81	道德教育の理論と実践	2		PC05	乳児保育Ⅰ	2		WF55	教育実践研究特論5	2	
JH84	特別活動	2		PC06	乳児保育Ⅱ	2		WF56	教育実践研究特論6	2	
JH85	生徒指導〔含進路指導〕	2		PC07	子どもの健康と安全	2		WF57	教育実践研究特論7	2	
JC93	発展途上国における 教育問題（1）	2		PC08	社会的養護Ⅱ	2		WF58	教育実践研究特論8	2	
JC94	発展途上国における 教育問題（2）	2		PC09	子育て支援	2		WF59	教育実践研究特論9	2	
				PE05	保育実習指導Ⅰ（保育所）	1		WF43	生涯学習研究特論1	2	
				PE06	保育実習指導Ⅰ（施設）	1		WF44	生涯学習研究特論2	2	
				PJ07	保育実習指導Ⅱ	1		WF45	生涯学習研究特論3	2	
				PE03	保育実習Ⅰ（保育所）	2		WF46	生涯学習研究特論4	2	
				PE04	保育実習Ⅰ（施設）	2		WF61	国際教育研究特論1	2	
				PJ08	保育実習Ⅱ	2		WF62	国際教育研究特論2	2	
				PD01	子どもと遊び	2	※	WF63	国際教育研究特論3	2	
				PJ09	子育て支援実習	2	※	WF82	生涯学習研究演習1	2	
				PD02	子どもと自然	2	※	WF92	国際教育研究演習1	2	
				PJ04	乳幼児の身体・表現	2	※隔年	WF93	国際教育研究演習2	2	
				PJ05	多文化共生保育	2	※				
				PJ06	児童文化論	2	※				

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

※保育士養成課程における選択必修科目。4単位（2科目）以上の履修が必要。

▼分類される科目

1. 上記に挙げた教育学科科目
2. 指定された大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目

▼履修上の注意

- ① 大学院開講科目は、年度ごとに対象科目が指定されます。なお、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。
- ② 保育士養成課程関係科目は、保育士資格取得希

望者に限り履修できます。履修については保育士養成課程に関わるガイダンスにて説明します。なお、備考欄に※印のある科目はその中から最低4単位を修得してください。

- ③ 保育実習は履修資格に関する要件が別に定められています。（⇒p.272）

▼標準履修年次

「社会福祉」の標準履修年次は1年次です。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

初等教育学専攻生は、免許法施行規則第六十六条の六に定める「日本国憲法」の科目として、憲法1～2のいずれか1科目（2単位）を必ず修得する必要があります。

▼卒業要件

- 関連分野から憲法1、憲法2のいずれかを必ず含んで最低8単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

- 卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 教育実習の履修要件

教育実習を履修するためには、次の「教育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。すなわち、4年次で教育実習を履修するためには、3年次終了時点で要件を満たすことが必要となります。

また、教育実習の履修資格要件ではありませんが、音楽や造形関係の選択必修科目を修得しておくことが望まれます。

教育実習の履修資格要件（幼稚園）

科 目		教育実習履修資格要件
保育原理		修得済であること
保育・幼児教育課程論		修得済であること
教育実習指導3		修得済であること
保育方法論		修得済であること
保育内容総論		修得済であること
教育原理1		左の4つの区分の中から3区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること
教育経営と学校制度		
教育心理学 発達心理学1		
子ども理解と援助		左の8科目の中から2科目以上修得済であること
子どもと健康 子どもと人間関係 子どもと環境		
子どもと言葉 子どもと音楽環境 子どもと造形表現 保育内容の理解と方法1 保育内容の理解と方法2		
領域：健康	保育内容 [健康]	2領域以上修得済であること
領域：人間関係	保育内容 [人間関係]	
領域：環境	保育内容 [環境]	
領域：言葉	保育内容 [言葉]	
領域：表現	保育内容 [表現]	

2. 卒業要件外の科目

次の科目の分野系列は資格関係分野となり、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 次の初等教育学科目（教育学科開講）

コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位	コード	授業科目	単位
KH19	教職入門	2	KB31	生活科教育法	2	KB93	外国語教育法（小学校）	2
KA21	社会科概論	2	KB41	算数科教育法	2	JH87	総合的な学習の時間の指導法	2
KA51	理科概論	2	KB51	理科教育法	2	KA63	音楽概論	2
KA82	家庭科概論	2	KB61	音楽科教育法	2	JH86	特別支援教育概論	2
KA94	外国語概論	2	KB72	図画工作科教育法	2			
KB12	国語科教育法（小学校）	2	KB81	家庭科教育法	2			
KB22	社会科教育法（小学校）	2	KB91	体育科教育法	2			

3. 保育士資格の取得について

本学教育学科初等教育学専攻幼児教育コースに所属している学生は、所定の手続きにより保育士養成課程を履修することができます。

(1) 保育士養成課程に関する科目

<別表第一>

厚労省告示別表第一による教科目			本学の該当教科目			
系列	教科目	設置 単位数	教科目	単位数	必修/ 選択必修	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理（講義）	2	保育原理（講義）	2	必修	
	教育原理（講義）	2	教育原理1（講義）	2	必修	
	子ども家庭福祉（講義）	2	子ども家庭福祉（講義）	2	必修	
	社会福祉（講義）	2	社会福祉（講義）	2	必修	
	子ども家庭支援論（講義）	2	子ども家庭支援論（講義）	2	必修	
	社会的養護Ⅰ（講義）	2	社会的養護Ⅰ（講義）	2	必修	
保育の対象の理解に関する科目	保育者論（講義）	2	保育者論（講義）	2	必修	
	保育の心理学（講義）	2	保育の心理学（講義）	2	必修	
	子ども家庭支援の心理学（講義）	2	子ども家庭支援の心理学（講義）	2	必修	
	子どもの理解と援助（演習）	1	子ども理解と援助	2	必修	
	子どもの保健（講義）	2	子どもの保健（講義）	2	必修	
	子どもの食と栄養（演習）	2	子どもの食と栄養（演習）	2	必修	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価（講義）	2	保育・幼児教育課程論（講義）	2	必修	
	保育内容総論（演習）	1	保育内容総論（演習）	2	必修	
	保育内容演習（演習）	5	保育内容（健康）	（演習）	2	必修
			保育内容（人間関係）	（演習）	2	
			保育内容（環境）	（演習）	2	
			保育内容（言葉）	（演習）	2	
			保育内容（表現）	（演習）	2	
	保育内容の理解と方法（演習）	4	保育内容の理解と方法1	（演習）	2	必修
			保育内容の理解と方法2	（演習）	2	必修
	乳児保育Ⅰ（講義）	2	乳児保育Ⅰ（講義）	2	必修	
	乳児保育Ⅱ（演習）	1	乳児保育Ⅱ（演習）	2	必修	
	子どもの健康と安全（演習）	1	子どもの健康と安全（演習）	2	必修	
	障害児保育（演習）	2	特別支援教育・保育総論（演習）	2	必修	
	社会的養護Ⅱ（演習）	1	社会的養護Ⅱ（演習）	2	必修	
子育て支援（演習）	1	子育て支援（演習）	2	必修		
保育実習	保育実習Ⅰ（実習）	4	保育実習Ⅰ（保育所）	（実習）	2	必修
			保育実習Ⅰ（施設）	（実習）	2	必修
	保育実習指導Ⅰ（演習）	2	保育実習指導Ⅰ（保育所）	（演習）	1	必修
			保育実習指導Ⅰ（施設）	（演習）	1	必修
総合演習	保育実践演習（演習）	2	保育・教職実践演習（演習）	2	必修	
設置単位数		51単位以上	本学における設置単位数		62単位	
履修単位数		51単位以上	本学における最低履修単位数		62単位	

<別表第二>

厚労省告示別表第二による教科目			本学の該当教科目		
系列	教科目	設置 単位数	教科目	単位数	必修/ 選択必修
保育の本質・目的 に関する科目	各指定保育士養成施設において 設定	15	教育原理2（講義）	2	選択必修 (4単位以上)
			子どもと遊び（講義）	2	
保育の対象の理解 に関する科目			子育て支援実習（演習）	2	
保育の内容・方法 に関する科目			子どもと自然（演習）	2	
			乳幼児の身体・表現（講義）	2	
			多文化共生保育（講義）	2	
			児童文化論（講義）	2	
			保育方法論（講義）	2	必修
保育実習	保育実習Ⅱ（実習） もしくは保育実習Ⅲ（実習）	2	保育実習Ⅱ（実習）	2	必修
	保育実習指導Ⅱ（演習） もしくは保育実習指導Ⅲ（演習）	1	保育実習指導Ⅱ（演習）	1	必修
設置単位数		18単位以上	本学における設置単位数		19単位
履修単位数		9単位以上	本学における最低履修単位数		9単位

<別表第三>

厚労省告示による教科目			本学の該当教科目		
系列	教科目	設置 単位数	教科目	単位数	必修/ 選択必修
教養科目	外国語、体育以外の科目 (授業形態不問)	6以上	憲法1	2	選択必修 (2単位以上)
			憲法2	2	
			AI・データサイエンス基礎	2	必修
	外国語（演習）	2	1年英語1	2	必修
			1年英語2	2	必修
	体育（講義）	1	ウェルネス・身体活動（講義）	1	必修
体育（実技）	1	ウェルネス・身体活動（実技）	1	必修	
設置単位数		10単位以上	本学における設置単位数		12単位
履修単位数		8単位以上	本学における最低履修単位数		10単位

(2) 保育実習の履修要件

保育実習を履修するためには、次の「保育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。

<保育実習の履修資格要件>

実習種別	科目	実習履修資格要件
保育実習Ⅰ（保育所）	保育原理	修得済であること
	社会福祉	修得済であること
保育実習Ⅰ（施設）	子ども家庭福祉	修得済であること
	子ども家庭支援論	修得済であること
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	両方の実習を終了していること
	保育内容総論	修得済であること
	保育・幼児教育課程論	修得済であること
	保育内容〔健康〕	2領域以上修得済であること
	保育内容〔人間関係〕	
	保育内容〔環境〕	
	保育内容〔言葉〕	
	保育内容〔表現〕	
乳児保育Ⅰ・乳児保育Ⅱ	修得済であること	

※なお、上記要件の他に、次の場合には保育士養成課程委員会に諮られ、実習が許可されないことがあるため、十分注意すること。

- ①履修している授業全般への出席状況や課題提出状況に著しく問題がある場合。
- ②実習予定者として、大学及び実習先の施設から示される遵守すべき事項を守らない等の問題が認められた場合。

(3) 保育実習諸費

保育実習を行う者は、右表の各年次の所定期間に保育実習諸費を納入しなければなりません。なお、一度納入された保育実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還されません。

納入年次	納入金額
2年次	40,000円
3年次	50,000円

4. 小学校免許状の取得について

初等教育学（幼児教育）の専攻生が、小学校の免許をあわせて取得する場合、教職課程小学校・幼稚園教員特別プログラムのS1コースに登録しなければなりません。S1コースの履修方法については、教職課程ガイダンスにて説明します。ただし、幼稚園免許の必修科目である教育実習指導3および教育実習指導6を修得することで、小学校免許の必修科目である教育実習指導2および教育実習指導5の履修は免除されます。また、保育・教職実践演習を修得することで、教職実践演習の履修が免除されます。

【初等教育学専攻生も履修できる科目】

次に挙げる科目は、初等教育学専攻生も履修できます。

コード	授業科目	単位	備考
RA22	教育原理 2	2	

㊦ アドミッションポリシー ㊧

心理学科では、人間の心の働きやその仕組みに興味をもつ人、また、人間の一生涯の発達に関心をもつ人、さらには、こころの問題と支援方法などに興味関心をもつ人など、広く人間のこころの問題に疑問や関心をもつ人に進学してもらいたいと考えています。

さらに、心理学の特色である実証的な研究手法にも関心をもち、主体的に認知、発達、臨床の基礎的知識を学び、それをもとに各自の関心のある専門性を深めたいという学生を受け入れます。

本学科に進学または編入学を希望する学生には、以下のような力、そして態度や姿勢が身につけていることが望まれます。

1. 自らの問題意識に基づく粘り強い探求心をもっていること。
2. 主体的に学ぶ意欲と発信力。
3. 他者と協働するのに必要なコミュニケーション能力。
4. 自分と異なる意見にも耳を傾け、自分の考え方や行動を振り返ることができる謙虚な態度や姿勢。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

心理学は、人間の心理や行動をめぐる様々ななぞについて、科学的に理解することを目指す学問であり、人間を援助することにつながる実践的な学問でもあります。心理学および関連領域の幅広い知識と分析的かつ柔軟な思考力を身につけ、多様化と情報化の進む社会のなかで、主体的に自らの能力を発揮できる卒業生を社会に送り出します。さらに、心理学の専門的な知識をいかす職業に就くことを希望する学生のためには、そのような知識や技能を身につけることも目標としています。

具体的には、次のような能力と資質を身につけて卒業させています。

1. 人間の心の働きやその仕組み、胎児から高齢者までの生涯発達の知識、こころの問題と支援方法に関する基礎的な知識など、幅広い心理学の知識と専門的知識、さらに物事を分析する技能。
2. それぞれの問題意識を実証的に解明しようとする態度・思考力・表現力。客観的科学的な方法で心理学研究をおこなおうとする態度。
3. 主体的に、かつ、他者と協働して物事を行えるコミュニケーション能力。他人の意見に耳を傾ける謙虚な態度。
4. 心理学の知識をいかす職業に就くための基礎的な能力および資質。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

心理学の幅広い基本的な知見を学ぶとともに、認知、発達、臨床の各領域についての心理学の専門的な知見を身につけるために、さらに、心理学の専門的な知識をいかす職業に就くことを希望する学生のためには、そのような知識や技能を身につけるためのカリキュラムも用意しています。同時に、実証的な研究手法を学びながら、各自の関心のある専門性を深めることのできるカリキュラムを編成しています。

- ・ 2年次においては、心理学概論で認知、発達、臨床の3領域の基本的な知見を習得するとともに、実験演習や統計法の授業で実証的な研究の手法を身につけます。心理学実験演習では、クラスの全員が実験を行う実験者と実験を受ける実験参加者の両方を体験します。この授業では、学年を3クラスに分けて、教員の指導のもと、本学科を卒業した院生たちがインストラクターとして入り、きめの細かい指導が行われます。また、心理検査の目的や技法を学ぶ授業もあり、自分自身を知る手がかりになりますし、人間にはいろいろな特徴があり、個人個人の特徴はそれぞれ異なることを知ることもなります。
- ・ 3年次以降においては、各自が関心のある領域の教員のゼミナールに入り、その領域を核として、他の領域の科目や様々な関連科目を選択しながら、心理学の専門性を深めていきます。
- ・ 4年次においては、ゼミナールの教員の指導のもとで、各自の問題意識のもとに仮説を立て、実験や調査、観察によってデータを集め、その結果に基づいて卒業論文を作成します。自ら計画・実施し、今まで学んできた知識や手法を生かすことができます。

卒業生像

心理学科が目標とする卒業生像は、刻々と変化する世界の中で、現状を分析するクールさと、恐れず道を切り開いていくタフさを併せ持つ女性です。具体的には、心理学および関連領域の幅広い知識に加え、分析的かつ柔軟な思考力を身につけることにより、多様化と情報化が進む社会のなかで自らの能力を発揮できる女性の育成を目指します。

心理学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップ及び該当科目については、p.37を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	<p>〈認知〉〈発達〉〈臨床〉の3領域の基本的な知見を学習し、実証的な研究手法を習得する</p> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 「心理学概論」 「臨床心理学概論」 「心理学統計法」 「心理学実験」 「基礎情報処理技法」 </div>	<p>関心領域の専門性を深化させると同時に、他領域や関連する最新の心理学的知見を学習する</p> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 「3年心理学演習」 </div>	<p>学んできた知識と手法を生かして卒業論文を作成する</p> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 「4年心理学演習」 </div>
心理-1 【特講】			
心理-2 【特講以外の自由選択科目】			
公認心理師科目			

▼卒業までに必要とする最低単位数（2012年度以降入学者）

分野系列		卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1～1-5)		合計：最低26単位		39-44ページ
1-1	キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2	キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3	第一外国語	8	必修	
1-4	第二外国語	8	選択必修	
1-5	体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b)		合計：最低98単位		277-278ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1～a3)		合計：最低60単位		277-278ページ
a1	必修科目	16	必修	
a2	4年演習	4	選択必修	
a3	自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野		合計：最低26単位		282ページ
うち第二外国語余剰分				43ページ
[3] ■ 卒業論文		8単位	必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3]の合計：132単位				
[4] ■ 資格関係分野				
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1～5-2)				
5-1	1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2	運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要があるので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a3）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 必修科目（必修・16単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
LK22	心理学実験 1	4	廃止（～2021）
LK23	心理学実験	4	
LK33	心理学統計法	2	
LK41	心理学概論	4	廃止（～2018）
LK44	心理学概論	2	
LK45	臨床心理学概論	2	
LK11	基礎情報処理技法	2	
LK51	3年心理学演習	4	廃止（～2022）
LK12	3年心理学演習（1）	2	
LK13	3年心理学演習（2）	2	

▼卒業要件

- 左記の科目を修得していること

▼年次指定科目

3年心理学演習（1）（2）は3年次指定科目、その他の必修科目は2年次指定科目です。

▼履修上の注意

- ① 廃止科目を未修得の場合は、左記に指定した代替科目を修得してください。
- ② 実験実習費として2年次に25,000円が必要です。

必修科目の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
LK22	心理学実験 1 < 4 >	LK23	心理学実験 < 4 >
LK51	3年心理学演習 < 4 >	LK12	3年心理学演習（1） < 2 >
		LK13	3年心理学演習（2） < 2 >

a2 4年演習（選択必修・最低4単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
LK52	4年心理学演習	4	廃止（～2022）
LK14	4年心理学演習（1）	2	
LK15	4年心理学演習（2）	2	

4年演習の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
LK52	4年心理学演習 < 4 >	LK14	4年心理学演習（1） < 2 >
		LK15	4年心理学演習（2） < 2 >

▼卒業要件

□左記の科目から最低4単位修得していること

▼年次指定科目

4年心理学演習（1）（2）の各科目は、4年次指定科目です。

▼履修上の注意

- ① 廃止科目を未修得の場合は、左記に指定した代替科目を修得してください。
- ② 4年心理学演習の科目を履修するためには、必修科目のうち3年心理学演習を修得していなければなりません。

a3 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

学部科目				学部科目				学部科目			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
LA11	計量心理学特講 1	2	廃止(～2022)	LG14	臨床心理学特講 2	2	廃止(～2022)	LN11	発達・認知心理学特講 1	2	
LA12	計量心理学特講 2	2	廃止(～2022)	LG15	臨床心理学特講 3	2	廃止(～2022)	LN12	発達・認知心理学特講 2	2	
LA13	計量心理学特講 3	2	廃止(～2022)	LG21	臨床心理学特講 4	2	廃止(～2022)	LN13	発達・認知心理学特講 3	2	
LA14	計量心理学特講 4	2	廃止(～2022)	LG23	臨床心理学特講 5	2	廃止(～2022)	LN14	発達・認知心理学特講 4	2	
LA15	計量心理学特講 5	2	廃止(～2022)	LG27	臨床心理学特講 6	2	廃止(～2022)	LN15	発達・認知心理学特講 5	2	
LB31	心理学史	2		LG29	臨床心理学特講 7	2	廃止(～2022)	LN16	発達・認知心理学特講 6	2	
LC13	心理学演習 1	2		LG34	臨床心理学特講 8	2	廃止(～2022)	LN17	発達・認知心理学特講 7	2	
LC14	心理学演習 2	2		LG37	臨床心理学特講 9	2	廃止(～2022)	LN18	発達・認知心理学特講 8	2	
LC15	心理学観察・調査実習	2		LG40	臨床心理学特講10	2	廃止(～2022)	LN19	発達・認知心理学特講 9	2	
LC16	心理学データ解析実習 1	2		LG41	臨床心理学特講11	2	廃止(～2022)	LN20	発達・認知心理学特講10	2	
LC17	心理学データ解析実習 2	2		LG42	臨床心理学特講12	2	廃止(～2022)	LP11	臨床心理学特講 1	2	
LE11	認知心理学特講 1	2	廃止(～2022)	LG51	臨床心理学特講13	2	廃止(～2022)	LP12	臨床心理学特講 2	2	
LE13	認知心理学特講 2	2	廃止(～2022)	LG52	臨床心理学特講14	2	廃止(～2022)	LP13	臨床心理学特講 3	2	
LE16	認知心理学特講 3	2	廃止(～2022)	LH11	発達心理学 1	2		LP14	臨床心理学特講 4	2	
LE21	認知心理学特講 4	2	廃止(～2022)	LH12	発達心理学 2	2		LP15	臨床心理学特講 5	2	
LE24	認知心理学特講 5	2	廃止(～2022)	LM11	公認心理師の職責	2		LP16	臨床心理学特講 6	2	
LE26	認知心理学特講 6	2	廃止(～2022)	LM12	心理学研究法	2		LP17	臨床心理学特講 7	2	
LE31	認知心理学特講 7	2	廃止(～2022)	LM13	感情・人格心理学	2					
LE34	認知心理学特講 8	2	廃止(～2022)	LM14	社会・集団・家族心理学	2					
LE36	認知心理学特講 9	2	廃止(～2022)	LM15	障害者・障害児心理学	2					
LE40	認知心理学特講10	2	廃止(～2022)	LM16	心理的アセスメント	2					
LE44	認知心理学特講11	2	廃止(～2022)	LM17	健康・医療心理学	2					
LE47	認知心理学特講12	2	廃止(～2022)	LM18	教育・学校心理学	2					
LE51	認知心理学特講13	2	廃止(～2022)	LM19	司法・犯罪心理学	2					
LF11	発達心理学特講 1	2	廃止(～2022)	LM20	人体の構造と機能及び疾病	2					
LF14	発達心理学特講 2	2	廃止(～2022)	LM21	精神疾患とその治療	2					
LF17	発達心理学特講 3	2	廃止(～2022)	LM22	関係行政論	2					
LF21	発達心理学特講 4	2	廃止(～2022)	LM23	心理演習	2					
LF24	発達心理学特講 5	2	廃止(～2022)	LM25	知覚・認知心理学	2					
LF27	発達心理学特講 6	2	廃止(～2022)	LM26	学習・言語心理学	2					
LF31	発達心理学特講 7	2	廃止(～2022)	LM27	神経・生理心理学	2					
LF34	発達心理学特講 8	2	廃止(～2022)	LM28	心理学的支援法	2					
LF37	発達心理学特講 9	2	廃止(～2022)	LM29	福祉心理学	2					
LF38	発達心理学特講10	2	廃止(～2022)	LM30	産業・組織心理学	2					
LF39	発達心理学特講11	2	廃止(～2022)	LM31	心理実習 1	1					
LG12	臨床心理学特講 1	2	廃止(～2022)	LM32	心理実習 2	1					

▼分類される科目

心理学科開講科目（科目コード左1文字=L）のうち、必修科目、4年演習の科目を除いた科目

▼履修上の注意

認定心理士の資格を申請するためには、必修の「心理学統計法」2単位に加えて、自由選択科目の中から「心理学データ解析実習1」「心理学データ解析実習2」「心理学研究法」などで少なくとも1科目を修得する必要があります。

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼卒業までに必要とする最低単位数（2021～2022年度入学者）

分野系列	卒業必要 最低単位	区分	履修要項 掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野（1-1～1-5） 合計：最低26単位			39-44ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 体育運動学	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野（2-a・2-b） 合計：最低98単位			280-282ページ
2-a ▼ 専攻分野（a1～a2） 合計：最低60単位			280-281ページ
a1 必修科目	20	必修	
a2 自由選択科目	—	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低26単位		選択必修	282ページ
うち第二外国語余剰分			43ページ
[3] ■ 卒業論文 8単位		必修	290ページ
卒業所要単位合計 [1][2][3] の合計：132単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外（5-1～5-2）			
5-1 1年次生限定科目超過分			45ページ
5-2 運動学超過分			48ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.39-44を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（60単位）、関連分野（26単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が98単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低60単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a2）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が60単位以上あること

a1 必修科目（必修・20単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
LK22	心理学実験 1	4	廃止（～2021）
LK23	心理学実験	4	
LK33	心理学統計法	2	
LK44	心理学概論	2	
LK45	臨床心理学概論	2	
LK11	基礎情報処理技法	2	
LK51	3年心理学演習	4	廃止（～2022）
LK52	4年心理学演習	4	廃止（～2022）
LK12	3年心理学演習（1）	2	
LK13	3年心理学演習（2）	2	
LK14	4年心理学演習（1）	2	
LK15	4年心理学演習（2）	2	

▼卒業要件

- 左記の科目を修得していること

▼年次指定科目

3年心理学演習（1）（2）は3年次指定科目、4年心理学演習（1）（2）は4年次指定科目、その他の必修科目は2年次指定科目です。

▼履修上の注意

- ① 4年心理学演習（1）（2）を履修するためには、必修科目のうち3年心理学演習（1）（2）を修得していなければなりません。
- ② 廃止科目を未修得の場合は、左記に指定した代替科目を修得してください。
- ③ 実験実習費として2年次に25,000円が必要です。

必修科目の代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
LK22	心理学実験 1 < 4 >	LK23	心理学実験 < 4 >
LK51	3年心理学演習 < 4 >	LK12	3年心理学演習（1） < 2 >
		LK13	3年心理学演習（2） < 2 >
LK52	4年心理学演習 < 4 >	LK14	4年心理学演習（1） < 2 >
		LK15	4年心理学演習（2） < 2 >

a2 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

学部科目				学部科目				学部科目			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
LA11	計量心理学特講 1	2	廃止(～2022)	LG14	臨床心理学特講 2	2	廃止(～2022)	LN11	発達・認知心理学特講 1	2	
LA12	計量心理学特講 2	2	廃止(～2022)	LG15	臨床心理学特講 3	2	廃止(～2022)	LN12	発達・認知心理学特講 2	2	
LA13	計量心理学特講 3	2	廃止(～2022)	LG21	臨床心理学特講 4	2	廃止(～2022)	LN13	発達・認知心理学特講 3	2	
LA14	計量心理学特講 4	2	廃止(～2022)	LG23	臨床心理学特講 5	2	廃止(～2022)	LN14	発達・認知心理学特講 4	2	
LA15	計量心理学特講 5	2	廃止(～2022)	LG27	臨床心理学特講 6	2	廃止(～2022)	LN15	発達・認知心理学特講 5	2	
LB31	心理学史	2		LG29	臨床心理学特講 7	2	廃止(～2022)	LN16	発達・認知心理学特講 6	2	
LC13	心理学演習 1	2		LG34	臨床心理学特講 8	2	廃止(～2022)	LN17	発達・認知心理学特講 7	2	
LC14	心理学演習 2	2		LG37	臨床心理学特講 9	2	廃止(～2022)	LN18	発達・認知心理学特講 8	2	
LC15	心理学観察・調査実習	2		LG40	臨床心理学特講10	2	廃止(～2022)	LN19	発達・認知心理学特講 9	2	
LC16	心理学データ解析実習 1	2		LG41	臨床心理学特講11	2	廃止(～2022)	LN20	発達・認知心理学特講10	2	
LC17	心理学データ解析実習 2	2		LG42	臨床心理学特講12	2	廃止(～2022)	LP11	臨床心理学特講 1	2	
LE11	認知心理学特講 1	2	廃止(～2022)	LG51	臨床心理学特講13	2	廃止(～2022)	LP12	臨床心理学特講 2	2	
LE13	認知心理学特講 2	2	廃止(～2022)	LG52	臨床心理学特講14	2	廃止(～2022)	LP13	臨床心理学特講 3	2	
LE16	認知心理学特講 3	2	廃止(～2022)	LH11	発達心理学 1	2		LP14	臨床心理学特講 4	2	
LE21	認知心理学特講 4	2	廃止(～2022)	LH12	発達心理学 2	2		LP15	臨床心理学特講 5	2	
LE24	認知心理学特講 5	2	廃止(～2022)	LM11	公認心理師の職責	2		LP16	臨床心理学特講 6	2	
LE26	認知心理学特講 6	2	廃止(～2022)	LM12	心理学研究法	2		LP17	臨床心理学特講 7	2	
LE31	認知心理学特講 7	2	廃止(～2022)	LM13	感情・人格心理学	2					
LE34	認知心理学特講 8	2	廃止(～2022)	LM14	社会・集団・家族心理学	2					
LE36	認知心理学特講 9	2	廃止(～2022)	LM15	障害者・障害児心理学	2					
LE40	認知心理学特講10	2	廃止(～2022)	LM16	心理的アセスメント	2					
LE44	認知心理学特講11	2	廃止(～2022)	LM17	健康・医療心理学	2					
LE47	認知心理学特講12	2	廃止(～2022)	LM18	教育・学校心理学	2					
LE51	認知心理学特講13	2	廃止(～2022)	LM19	司法・犯罪心理学	2					
LF11	発達心理学特講 1	2	廃止(～2022)	LM20	人体の構造と機能及び疾病	2					
LF14	発達心理学特講 2	2	廃止(～2022)	LM21	精神疾患とその治療	2					
LF17	発達心理学特講 3	2	廃止(～2022)	LM22	関係行政論	2					
LF21	発達心理学特講 4	2	廃止(～2022)	LM23	心理演習	2					
LF24	発達心理学特講 5	2	廃止(～2022)	LM25	知覚・認知心理学	2					
LF27	発達心理学特講 6	2	廃止(～2022)	LM26	学習・言語心理学	2					
LF31	発達心理学特講 7	2	廃止(～2022)	LM27	神経・生理心理学	2					
LF34	発達心理学特講 8	2	廃止(～2022)	LM28	心理学的支援法	2					
LF37	発達心理学特講 9	2	廃止(～2022)	LM29	福祉心理学	2					
LF38	発達心理学特講10	2	廃止(～2022)	LM30	産業・組織心理学	2					
LF39	発達心理学特講11	2	廃止(～2022)	LM31	心理実習 1	1					
LG12	臨床心理学特講 1	2	廃止(～2022)	LM32	心理実習 2	1					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

心理学科開講科目（科目コード左1文字=L）のうち、必修科目を除いた科目

▼履修上の注意

認定心理士の資格を申請するためには、必修の「心理学統計法」2単位に加えて、自由選択科目の中から「心理学データ解析実習1」「心理学データ解析実習2」「心理学研究法」などで少なくとも1科目を修得する必要があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.45-49を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低26単位修得していること

▼履修上の注意

- ① 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- ② 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- ① 博物館実習（史学科開講）
- ② 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. 認定心理士の資格

認定心理士の資格を申請するためには、「心理学統計法」（必修科目・2単位）に加えて、「心理学データ解析実習1」「心理学データ解析実習2」「心理学研究法」などで少なくとも1科目を修得する必要があります。

3. 公認心理師の受験資格を得るために

<表1>

公認心理師法施行規則が定める 大学(学部)における必要科目		本学の該当科目			
	科目名	科目コード	科目名	単位数	履修年次
①	公認心理師の職責	LM11	公認心理師の職責	2	3, 4
②	心理学概論	LK44	心理学概論	2	2
③	臨床心理学概論	LK45	臨床心理学概論	2	2
④	心理学研究法	LM12	心理学研究法	2	3, 4
⑤	心理学統計法	LK33	心理学統計法	2	2
⑥	心理学実験	LK22	心理学実験1(2021年度まで)	4	2
		LK23	心理学実験(2022年度より)		
⑦	知覚・認知心理学	LE12	知覚・認知心理学(認知心理学特講1)(2021年度まで)	2	2, 3, 4
		LM25	知覚・認知心理学(2022年度より)		
⑧	学習・言語心理学	LE35	学習・言語心理学(認知心理学特講8)(2021年度まで)	2	2, 3, 4
		LM26	学習・言語心理学(2022年度より)		
⑨	感情・人格心理学	LM13	感情・人格心理学	2	2, 3, 4
⑩	神経・生理心理学	LG13	神経・生理心理学(臨床心理学特講1)(2021年度まで)	2	2, 3, 4
		LM27	神経・生理心理学(2022年度より)		
⑪	社会・集団・家族心理学	LM14	社会・集団・家族心理学	2	2, 3, 4
⑫	発達心理学	LF37	発達心理学特講9(2022年度まで)	計4	2, 3, 4
		LH11	発達心理学1【両科目履修】(2023年度より)		
		LH12	発達心理学2		
⑬	障害者・障害児心理学	LM15	障害者・障害児心理学	2	2, 3, 4
⑭	心理的アセスメント	LM16	心理的アセスメント	2	3, 4
⑮	心理学的支援法	LG43	心理学的支援法(臨床心理学特講12)(2021年度まで)	2	2, 3, 4
		LM28	心理学的支援法(2022年度より)		
⑯	健康・医療心理学	LM17	健康・医療心理学	2	2, 3, 4
⑰	福祉心理学	LG53	福祉心理学(臨床心理学特講14)(2021年度まで)	2	3, 4
		LM29	福祉心理学(2022年度より)		2, 3, 4
⑱	教育・学校心理学	LM18	教育・学校心理学	2	2, 3, 4
⑲	司法・犯罪心理学	LM19	司法・犯罪心理学	2	3, 4
⑳	産業・組織心理学	LG50	産業・組織心理学(臨床心理学特講13)(2021年度まで)	2	2, 3, 4
		LM30	産業・組織心理学(2022年度より)		
㉑	人体の構造と機能及び疾病	LM20	人体の構造と機能及び疾病	2	3, 4
㉒	精神疾患とその治療	LM21	精神疾患とその治療	2	3, 4
㉓	関係行政論	LM22	関係行政論	2	3
㉔	心理演習	LM23	心理演習	2	3
㉕	心理実習	LM24	心理実習(2021年度まで)	計2	4
		LM31	心理実習1【前後期セット履修】(2022年度より)		
		LM32	心理実習2		

心理学科では、国家資格である「公認心理師」の受験資格を得るためのカリキュラムを設けていますが、履修可能な定員は10名程度であり、2年次後期に実施される選抜試験(GPA、試験、面接等)に合格しなければなりません(出願には一定の条件があり、説明会等にて周知します)。当カリキュラムでは、25科目の指定科目(いずれも学科の必修・選択科目、計27科目)のすべてを履修する必要があり、1)2年次より計画的に履修を進めること、2)選抜試験に合格後、3年次後期に「心理演習」を履修すること、3)4年次に「公認心理師実習諸費」70,000円を納入の上、学内外での実習を行う「心理実習1」「心理実習2」を履修すること、等が求められます。なお、本学では、学部3年間+大学院博士前期課程2年間の5年間の受験資格取得を基本と考えています(学部でのカリキュラム卒業後2年間の実務経験で受験資格取得も可能ですが、対象となる実務経験を積める施設は現時点では少ないため、大学院への進学を推奨します。)

㊦ アドミッションポリシー ㊧

心理学科では、人間の心の働きやその仕組みに興味をもつ人、また、人間の一生涯の発達に関心をもつ人、さらには、こころの問題と支援方法などに興味関心をもつ人など、広く人間のこころの問題に疑問や関心をもつ人に進学してもらいたいと考えています。

さらに、心理学の特色である実証的な研究手法にも関心をもち、主体的に認知、発達、臨床の基礎的知識を学び、それをもとに各自の関心のある専門性を深めたいという学生を受け入れます。

本学科に進学または編入学を希望する学生には、以下のような力、そして態度や姿勢が身につけていることが望まれます。

1. 自らの問題意識に基づく粘り強い探求心をもっていること。
2. 主体的に学ぶ意欲と発信力。
3. 他者と協働するのに必要なコミュニケーション能力。
4. 自分と異なる意見にも耳を傾け、自分の考え方や行動を振り返ることができる謙虚な態度や姿勢。

㊦ ディプロマポリシー ㊧

心理学は、人間の心理や行動をめぐる様々ななぞについて、科学的に理解することを目指す学問であり、人間を援助することにつながる実践的な学問でもあります。心理学および関連領域の幅広い知識と分析的かつ柔軟な思考力を身につけ、多様化と情報化の進む社会のなかで、主体的に自らの能力を発揮できる卒業生を社会に送り出します。さらに、心理学の専門的な知識をいかす職業に就くことを希望する学生のためには、そのような知識や技能を身につけることも目標としています。

具体的には、次のような能力と資質を身につけて卒業させています。

1. 人間の心の働きやその仕組み、胎児から高齢者までの生涯発達の知識、こころの問題と支援方法に関する基礎的な知識など、幅広い心理学の知識と専門的知識、さらに物事を分析する技能。
2. それぞれの問題意識を実証的に解明しようとする態度・思考力・表現力。客観的科学的な方法で心理学研究をおこなおうとする態度。
3. 主体的に、かつ、他者と協働して物事を行えるコミュニケーション能力。他人の意見に耳を傾ける謙虚な態度。
4. 心理学の知識をいかす職業に就くための基礎的な能力および資質。

㊦ カリキュラムポリシー ㊧

心理学の幅広い基本的な知見を学ぶとともに、認知、発達、臨床の各領域についての心理学の専門的な知見を身につけるために、さらに、心理学の専門的な知識をいかす職業に就くことを希望する学生のためには、そのような知識や技能を身につけるためのカリキュラムも用意しています。同時に、実証的な研究手法を学びながら、各自の関心のある専門性を深めることのできるカリキュラムを編成しています。

- ・ 2年次においては、心理学概論で認知、発達、臨床の3領域の基本的な知見を習得するとともに、心理学実験や心理学統計法の授業で実証的な研究の手法を身につけます。心理学実験では、クラスの全員が実験を行う実験者と実験を受ける実験参加者の両方を体験します。この授業では、学年を3クラスに分けて、教員の指導のもと、本学科を卒業した院生たちがインストラクターとして入り、きめの細かい指導が行われます。また、心理的アセスメントの目的や技法を学ぶ授業もあり、自分自身を知る手がかりになりますし、人間にはいろいろな特徴があり、個人個人の特徴はそれぞれ異なることを知ることもなります。
- ・ 3年次以降においては、各自が関心のある領域の教員のゼミナールに入り、その領域を核として、他の領域の科目や様々な関連科目を選択しながら、心理学の専門性を深めていきます。
- ・ 4年次においては、ゼミナールの教員の指導のもとで、各自の問題意識のもとに仮説を立て、実験や調査、観察によってデータを集め、その結果に基づいて卒業論文を作成します。自ら計画・実施し、今まで学んできた知識や手法を生かすことができます。

卒業生像

心理学科が目標とする卒業生像は、刻々と変化する世界の中で、現状を分析するクールさと、恐れず道を切り開いていくタフさを併せ持つ女性です。具体的には、心理学および関連領域の幅広い知識に加え、分析的かつ柔軟な思考力を身につけることにより、多様化と情報化が進む社会のなかで自らの能力を発揮できる女性の育成を目指します。

心理学科カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップ及び該当科目については、p.52を参照してください。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	<p>〈認知〉〈発達〉〈臨床〉の3領域の基本的な知見を学習し、実証的な研究手法を習得する</p> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; text-align: center;"> 「心理学概論」 「臨床心理学概論」 「心理学統計法」 「心理学実験」 「基礎情報処理技法」 </div>	<p>関心領域の専門性を深化させると同時に、他領域や関連する最新の心理学的知見を学習する</p> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; text-align: center;"> 「3年心理学演習」 </div>	<p>学んできた知識と手法を生かして卒業論文を作成する</p> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; text-align: center;"> 「4年心理学演習」 </div>
心理-1 【特講】			
心理-2 【特講以外の自由選択科目】			
公認心理師科目			

▼卒業までに必要とする最低単位数（2023年度以降入学者）

分野系列	卒業必要最低単位数	区分	履修要項掲載ページ
[1] ■ 全学必修分野 (1-1 ~ 1-6) 合計：最低28単位			54-58ページ
1-1 キリスト教学Ⅰ	4	選択必修	
1-2 キリスト教学Ⅱ	4	選択必修	
1-3 第一外国語	8	必修	
1-4 第二外国語	8	選択必修	
1-5 ウェルネス・身体活動	2	必修	
1-6 AI・データサイエンス	2	必修	
[2] ■ 専攻課程分野 (2-a・2-b) 合計：最低90単位			287-288ページ
2-a ▼ 専攻分野 (a1 ~ a2) 合計：最低56単位			287-288ページ
a1 必修科目	20	必修	
a2 自由選択科目	-	選択	
2-b ▼ 関連分野 合計：最低22単位		選択必修	288ページ
うち第二外国語余剰分			56ページ
[3] ■ 卒業論文 8単位		必修	290ページ
卒業所要単位数合計 [1][2][3] の合計：126単位			
[4] ■ 資格関係分野			
[5] ■ その他卒業要件外 (5-1)			
5-1 1年次生限定科目超過分			59ページ

◆成績通知書・成績証明書の単位集計欄には、上記分野系列ごとに単位合計が印字されます

必要単位数の他にも、履修方法が定められている場合があります。次ページからの履修要項をよく読んで、定められた要件を満たすように履修してください。

科目の履修にあたっては、シラバス記載の履修条件に従ってください。

以下、分野系列ごとの履修要項を記載しています。卒業に必要な要件もありますので、すべての項目についてよく読んでから、履修計画を立ててください。

[1] 全学必修分野

詳細は、pp.54-58を参照してください。

[2] 専攻課程分野

専攻分野または関連分野から、少なくとも12単位、最低必要単位数を超えて修得する必要がありますので注意してください。



▼卒業要件

- 専攻分野（56単位）、関連分野（22単位）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が90単位以上あること

[2-a] 専攻分野（最低56単位）

▼卒業要件

- 専攻分野の各分野系列（a1～a2）の要件をそれぞれ満たした上で、それらの修得単位の合計が56単位以上あること

a1 必修科目（必修・20単位）—— 専攻分野

コード	授業科目	単位	備考
LK23	心理学実験	4	
LK33	心理学統計法	2	
LK44	心理学概論	2	
LK45	臨床心理学概論	2	
LK11	基礎情報処理技法	2	
LK12	3年心理学演習(1)	2	
LK13	3年心理学演習(2)	2	
LK14	4年心理学演習(1)	2	
LK15	4年心理学演習(2)	2	

▼卒業要件

- 左記の科目を修得していること

▼年次指定科目

3年心理学演習(1)(2)は3年次指定科目、4年心理学演習(1)(2)は4年次指定科目、その他の必修科目は2年次指定科目です。

▼履修上の注意

- ① 4年心理学演習(1)(2)を履修するためには、必修科目のうち3年心理学演習(1)(2)を修得していなければなりません。
- ② 実験実習費として2年次に25,000円が必要です。

a2 自由選択科目（選択）—— 専攻分野

学部科目				学部科目				学部科目			
コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考	コード	授業科目	単位	備考
LB31	心理学史	2		LM25	知覚・認知心理学	2		LP14	臨床心理学特講 4	2	
LC13	心理学演習 1	2		LM26	学習・言語心理学	2		LP15	臨床心理学特講 5	2	
LC14	心理学演習 2	2		LM27	神経・生理心理学	2		LP16	臨床心理学特講 6	2	
LC15	心理学観察・調査実習	2		LM28	心理学的支援法	2		LP17	臨床心理学特講 7	2	
LC16	心理学データ解析実習 1	2		LM29	福祉心理学	2					
LC17	心理学データ解析実習 2	2		LM30	産業・組織心理学	2					
LH11	発達心理学 1	2		LM31	心理実習 1	1					
LH12	発達心理学 2	2		LM32	心理実習 2	1					
LM11	公認心理師の職責	2		LN11	発達・認知心理学特講 1	2					
LM12	心理学研究法	2		LN12	発達・認知心理学特講 2	2					
LM13	感情・人格心理学	2		LN13	発達・認知心理学特講 3	2					
LM14	社会・集団・家族心理学	2		LN14	発達・認知心理学特講 4	2					
LM15	障害者・障害児心理学	2		LN15	発達・認知心理学特講 5	2					
LM16	心理的アセスメント	2		LN16	発達・認知心理学特講 6	2					
LM17	健康・医療心理学	2		LN17	発達・認知心理学特講 7	2					
LM18	教育・学校心理学	2		LN18	発達・認知心理学特講 8	2					
LM19	司法・犯罪心理学	2		LN19	発達・認知心理学特講 9	2					
LM20	人体の構造と機能及び疾病	2		LN20	発達・認知心理学特講10	2					
LM21	精神疾患とその治療	2		LP11	臨床心理学特講 1	2					
LM22	関係行政論	2		LP12	臨床心理学特講 2	2					
LM23	心理演習	2		LP13	臨床心理学特講 3	2					

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

▼分類される科目

心理学科開講科目（科目コード左1文字=L）のうち、必修科目を除いた科目

▼履修上の注意

認定心理士の資格を申請するためには、必修の「心理学統計法」2単位に加えて、自由選択科目の中から「心理学データ解析実習1」「心理学データ解析実習2」「心理学研究法」などで少なくとも1科目を修得する必要があります。

[2-b] 関連分野

詳細は、pp.59-61を参照してください。

▼卒業要件

関連分野から最低22単位修得していること

▼履修上の注意

- 履修に際しては、シラバス等で履修条件を確認してください。
- 大学院開講科目は、大学院学生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

[3] 卒業論文（必修・8単位）

詳細は、p.290を参照してください。

▼卒業要件

卒業論文（8単位）を修得していること

【履修上の諸注意】

1. 卒業要件外の科目

次に挙げる科目は資格関係分野に分類され、修得単位は卒業要件外となります。

- 博物館実習（史学科開講）
- 初等教育学科目（教育学科開講）の一部

2. 認定心理士の資格

認定心理士の資格を申請するためには、「心理学統計法」（必修科目・2単位）に加えて、「心理学データ解析実習1」「心理学データ解析実習2」「心理学研究法」などで少なくとも1科目を修得する必要があります。

3. 公認心理師の受験資格を得るために

<表1>

公認心理師法施行規則が定める 大学（学部）における必要科目		本学の該当科目			
科目名	科目コード	科目名	単位数	履修年次	
① 公認心理師の職責	LM11	公認心理師の職責	2	3, 4	
② 心理学概論	LK44	心理学概論	2	2	
③ 臨床心理学概論	LK45	臨床心理学概論	2	2	
④ 心理学研究法	LM12	心理学研究法	2	3, 4	
⑤ 心理学統計法	LK33	心理学統計法	2	2	
⑥ 心理学実験	LK23	心理学実験	4	2	
⑦ 知覚・認知心理学	LM25	知覚・認知心理学	2	2, 3, 4	
⑧ 学習・言語心理学	LM26	学習・言語心理学	2	2, 3, 4	
⑨ 感情・人格心理学	LM13	感情・人格心理学	2	2, 3, 4	
⑩ 神経・生理心理学	LM27	神経・生理心理学	2	2, 3, 4	
⑪ 社会・集団・家族心理学	LM14	社会・集団・家族心理学	2	2, 3, 4	
⑫ 発達心理学	LH11 LH12	発達心理学1 【両科目履修】 発達心理学2	計4	2, 3, 4	
⑬ 障害者・障害児心理学	LM15	障害者・障害児心理学	2	2, 3, 4	
⑭ 心理的アセスメント	LM16	心理的アセスメント	2	3, 4	
⑮ 心理学的支援法	LM28	心理学的支援法	2	2, 3, 4	
⑯ 健康・医療心理学	LM17	健康・医療心理学	2	2, 3, 4	
⑰ 福祉心理学	LM29	福祉心理学	2	2, 3, 4	
⑱ 教育・学校心理学	LM18	教育・学校心理学	2	2, 3, 4	
⑲ 司法・犯罪心理学	LM19	司法・犯罪心理学	2	3, 4	
⑳ 産業・組織心理学	LM30	産業・組織心理学	2	2, 3, 4	
㉑ 人体の構造と機能及び疾病	LM20	人体の構造と機能及び疾病	2	3, 4	
㉒ 精神疾患とその治療	LM21	精神疾患とその治療	2	3, 4	
㉓ 関係行政論	LM22	関係行政論	2	3	
㉔ 心理演習	LM23	心理演習	2	3	
㉕ 心理実習	LM31 LM32	心理実習1 【前後期セット履修】 心理実習2	計2	4	

心理学科では、国家資格である「公認心理師」の受験資格を得るためのカリキュラムを設けていますが、履修可能な定員は10名程度であり、2年次後期に実施される選抜試験（GPA、試験、面接等）に合格しなければなりません（出願には一定の条件があり、説明会等にて周知します）。当カリキュラムでは、25科目の指定科目（いずれも学科の必修・選択科目、計27科目）のすべてを履修する必要があり、1）2年次より計画的に履修を進めること、2）選抜試験に合格後、3年次後期に「心理演習」を履修すること、3）4年次に「公認心理師実習諸費」70,000円を納入の上、学内外での実習を行う「心理実習1」「心理実習2」を履修すること、等が求められます。なお、本学では、学部3年間+大学院博士前期課程2年間の5年間の受験資格取得を基本と考えています（学部でのカリキュラム卒業後2年間の実務経験で受験資格取得も可能ですが、対象となる実務経験を積める施設は現時点では少ないため、大学院への進学を推奨します。）。

卒業論文

1. 提出資格

卒業論文は、本学に在籍している4年次生で、前期履修登録時に「卒業論文」を履修登録した者が提出することができます。

2. 卒業論文の履修登録

「卒業論文」は、自動登録科目ですので、卒業論文提出予定者（4年次生で卒業論文の単位を未修得の者）は、前期履修登録時に必ずSophieの履修登録画面にて登録されていることを確認してください。履修登録確認期間にも、再度確認してください。履修登録がない場合は卒業論文を提出することができませんので注意してください。

3. 提出スケジュール

卒業論文に関する日程は、教務関係事務日程で確認してください（⇒表紙裏）。詳細については掲示します。

4. 提出に関する注意事項

- ① 卒業論文は、提出期日・時間を厳格に定めています。提出時間にわずかでも遅れた場合、たとえどのような事情があろうと、一切受理されません。また、卒業論文を本人以外の者が提出することはできません。健康管理も含め、十分に注意してください。
- ② 体裁・仕様が所定の規格を満たしていない場合や、必要な書類がそろっていない場合は受理されません。ガイダンスでの説明および掲示物をよく確認し、提出の準備を進めてください。
- ③ 卒業論文が受理されなかった場合は、卒業所要単位を修得できないため、卒業することができません。

5. 評価方法

当該学科・専攻の複数の教員による評価および卒業論文審査会議で合否を決定します。

6. 卒業論文の評価基準と評価

(1) 評価の前提条件

- ・各学科・専攻が定める分量と形式の基準を満たしていること。
- ・剽窃、改竄などの研究倫理に反する行為がないこと。
- ・各学科・専攻が指定する研究指導を受けていること。

(2) 評価基準

各学科・専攻の学問領域によって細部は異なりますが、概ね以下の基準を適用します。

- ・研究テーマの設定（自らの問題意識に基づき、学術的にも意義のあるテーマを設定しているか）
- ・先行研究の把握（先行研究を的確に整理し、先行研究の到達点と問題点を正確に理解しているか）
- ・資料の収集と使用（資料を十分に収集し、それらを正確かつ批判的に使用しているか）
- ・論理的な思考展開（資料に基づく実証を積み重ね、論理的な思考を展開しているか）

(3) 成績評価

上記 (1)(2) に基づき、それらを総合して、「AA」「A」「B」「C」「F」「F (UG)」の判定をし、「C」以上を合格とします。

AA：とくに優れている。

A：優れている。

B：充分である。

C：不十分な点が多い。

F：合格の最低基準を満たしていない。

F (UG)：卒業論文を提出しなかった場合。

* 合格した論文についても、指導教員から形式上の修正等を求められる場合があります。とくに「C」評価の場合には、指導教員からの指示を受け、修正しなければなりません。

第3章

副専攻 (学科開設型、学科横断型)

特別プログラム (グローバルリーダーシップ・プログラム)

副専攻

●副専攻手続き

<登録手続き>

副専攻の履修を希望する場合は、Sophie掲示の日程に従い、4月オリエンテーション期間中に開催のガイダンスへ出席し、手続きを行ってください。副専攻の登録手続き完了後、副専攻別ガイダンスがあります。

すでに副専攻を履修している場合、他の副専攻を履修したり、副専攻を変更することはできません。

<履修中止手続き>

副専攻の履修を取りやめる場合は、届出が必要です。期日までに教務課に申し出て、履修中止の手続きを行ってください。手続きの日程は別途Sophieでお知らせします。履修中止の手続き後に履修を再開したり、新たな副専攻を登録することはできません。

●副専攻の種類

種類	副専攻	履修開始学年
学科が提供する副専攻	英語文化コミュニケーション副専攻 英語学・英語教育学分野 英米文学分野 メディア・コミュニケーション分野 メディアと社会分野（2021年度登録者より）	2年次
	日本語日本文学副専攻	2年次または3年次
	史学副専攻 日本史コース 世界史コース	2年次
	人間関係副専攻	2年次
	国際交流副専攻	2年次または3年次
	哲学副専攻	2年次または3年次
	教育学副専攻	2年次または3年次
	心理学副専攻	2年次
学科横断的に開設される副専攻	総合リベラル・アーツ副専攻 (2023年度登録者まで ^{※2})	2年次 ^{※1} または3年次
	グローバル共生副専攻	2年次または3年次

※1 総合リベラル・アーツ副専攻のみ、2年次後期からも登録手続きを行うことができます。手続きの日程は別途Sophieでお知らせします。

※2 2023年度までに登録した学生の当該副専攻の履修が続く限り、継続します。なお、2023年度学部1年次生は登録できません。

●副専攻の修了要件等

- ・修了要件は各副専攻によって異なります。各副専攻の履修要項を確認してください。
- ・副専攻開始以前に修得した単位を副専攻の修了要件に算入できるかどうかについては、各副専攻の履修要項の「履修開始前の単位」で確認してください。
- ・副専攻の修了要件に含めることができる単位は、「関連分野」の科目に限ります。
- ・総合リベラル・アーツ副専攻について、課題に関係する科目のうち所属学科で開講されている科目は「専攻分野」となりますが、4単位まで副専攻の修了要件に含めることができます。
- ・履修中の副専攻は、成績通知書および和文の成績証明書に記載されます。副専攻を修了した場合、卒業時に副専攻修了証が授与され、卒業後は和文の成績証明書に修了した副専攻が記載されます。
- ・副専攻の修了は、卒業することが前提となります。

英語文化コミュニケーション副専攻

2020年度登録者

●修了要件

英語文化コミュニケーション副専攻の修了要件は、英語文化コミュニケーション副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、分野別に次の要件を満たすよう修得していることです。

1. 英語学・英語教育学分野（修了要件単位合計：最低20単位）

科目群名	科目名 <>内は単位	修了要件
●必修		
入門・概論	英語学概論<4>	左の必修科目をすべて修得していること（計4単位）
●選択必修		
英語基礎研究	英語基礎研究1-1、英語基礎研究2-1 英語基礎研究3-1、同3-2 英語基礎研究8-1、同8-2	左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年英語学演習1-1、同1-2 3年英語学演習2-1、同2-2 3年英語学演習3-1、同3-2	左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年英語学演習1-1、同1-2 4年英語学演習2-1、同2-2 4年英語学演習3-1、同3-2	左の科目から最低2単位修得していること
特講類	英語学特講1-1、同1-2 英語学特講2-1、同2-2 英語学特講3-1、同3-2 英語学特講4-1、同4-2 英語学特講5-1、同5-2 英語学特講6-1、同6-2	左の科目から最低4単位修得していること
●自由選択		
	英作文1、英作文2 英語史 英文法	

2. 英米文学分野（修了要件単位合計：最低20単位）

科目群名	科目名 <>内は単位	修了要件
●選択必修		
入門・概論	英文学史概説1<2>、英文学史概説2<2> 米文学史概説1<2>、米文学史概説2<2> 英文学入門<4>	左の科目から最低4単位修得していること
英語基礎研究	英語基礎研究4-1、同4-2 英語基礎研究5-1、同5-2 英語基礎研究6-1、同6-2	左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年英米文学演習1-1、同1-2 3年英米文学演習2-1、同2-2 3年英米文学演習3-1、同3-2 3年英米文学演習4-1、同4-2	左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年英米文学演習1-1、同1-2 4年英米文学演習2-1、同2-2 4年英米文学演習3-1、同3-2 4年英米文学演習4-1、同4-2	左の科目から最低2単位修得していること
特講類	英米文学特講2-1、同2-2 英米文学特講3-1、同3-2 英米文学特講4-1、同4-2 英米文学特講5-1、同5-2 英米文学特講6-1、同6-2 英米文学特講7-1、同7-2 英米文学特講8-1、同8-2	左の科目から最低4単位修得していること
●自由選択		
	英作文1、英作文2 英語文化論【文学と電子メディア】1、2	

3. メディア・コミュニケーション分野

（修了要件単位合計：最低20単位）

科目群名	科目名 <>内は単位	修了要件
●選択必修		
入門・概論	メディア・コミュニケーション入門1<2> メディア・コミュニケーション入門2<2>	左の科目から最低2単位修得していること
英語基礎研究	英語基礎研究7-1、同7-2 英語基礎研究8-1、同8-2 英語基礎研究9-1、同9-2 英語基礎研究10-1、同10-2	左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年メディア・コミュニケーション演習1-1、同1-2 3年メディア・コミュニケーション演習2-1、同2-2 3年メディア・コミュニケーション演習3-1、同3-2	左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年メディア・コミュニケーション演習1-1、同1-2 4年メディア・コミュニケーション演習2-1、同2-2 4年メディア・コミュニケーション演習3-1、同3-2	左の科目から最低2単位修得していること
特講類	メディア・コミュニケーション特講1 メディア・コミュニケーション特講2-2 メディア・コミュニケーション特講4-1、同4-2 メディア・コミュニケーション特講5-1、同5-2 メディア・コミュニケーション特講6-1、同6-2 メディア・コミュニケーション特講7-1、同7-2 メディア・コミュニケーション特講8-2	左の科目から最低4単位修得していること
●自由選択		
	英作文1、英作文2 メディア・リテラシー	

●副専攻指定科目

英語文化コミュニケーション副専攻の各分野の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄「M1」（英語学・英語教育学分野）、「M2」（英米文学分野）、「M3」（メディア・コミュニケーション分野）と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

●副専攻指定科目

副専攻履修開始前に履修した英語文化コミュニケーション副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- 必修・選択必修のうち、次の科目は年次指定科目です。
英語基礎研究：2年次指定科目
入門・概論科目：2年次指定科目
3年演習：3年次指定科目
4年演習：4年次指定科目
ただし、主専攻における履修の都合上、指定された学年に履修できない副専攻科目がある場合は、英語文化コミュニケーション学科の承認を経て指定以外の学年に副専攻科目の履修を許可します。
- 他学科の開講科目で本副専攻分野の指定科目として認定できるものがある場合は、開講年度の初頭に公示します。
- 各科目の履修条件や人数制限については、履修要覧や研究室でよく確認をしてください。
- 英作文の履修を希望する場合は、2年次後期末（1月末まで）に研究室に申し出ること。また、英作文1、2の両方を履修すること。
- 4年演習の課題として副専攻修了レポートまたは副専攻修了制作を提出します。レポートは英語1,500語程度が目安です。また制作の場合も、英語で解説などを書いて提出することが必須です。

●募集方法

本学科の副専攻は「英語学・英語教育学分野」「英米文学分野」「メディア・コミュニケーション分野」の3分野からなり、分野別に募集します。

英語文化コミュニケーション副専攻

2021～2022年度登録者

●修了要件

英語文化コミュニケーション副専攻の修了要件は、英語文化コミュニケーション副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、分野別に次の要件を満たすよう修得していることです。

1. 英語学・英語教育学分野（修了要件単位合計：最低20単位）

科目群名	科目名 <>内は単位	修了要件
●必修		
入門・概論	英語学概論<4>	左の必修科目をすべて修得していること（計4単位）
●選択必修		
英語基礎研究	英語基礎研究1-1、英語基礎研究1-2 英語基礎研究2-1、同3-1 英語基礎研究3-2、同8-1 英語基礎研究8-2	左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年英語学演習1-1、同1-2 3年英語学演習2-1、同2-2 3年英語学演習3-1、同3-2	左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年英語学演習1-1、同1-2 4年英語学演習2-1、同2-2 4年英語学演習3-1、同3-2	左の科目から最低2単位修得していること
特講類	英語学特講1-1、同1-2 英語学特講2-1、同2-2 英語学特講3-1、同3-2 英語学特講4-1、同4-2 英語学特講5-1、同5-2 英語学特講6-1、同6-2	左の科目から最低4単位修得していること
●自由選択		
	英作文1、英作文2 英語史 英文法	

2. 英米文学分野（修了要件単位合計：最低20単位）

科目群名	科目名 <>内は単位	修了要件
●選択必修		
入門・概論	英文学史概説1<2>、英文学史概説2<2> 米文学史概説1<2>、米文学史概説2<2> 英文学入門<4>	左の科目から最低4単位修得していること
英語基礎研究	英語基礎研究4-1、同4-2 英語基礎研究5-1、同5-2 英語基礎研究6-1、同6-2	左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年英米文学演習1-1、同1-2 3年英米文学演習2-1、同2-2 3年英米文学演習3-1、同3-2 3年英米文学演習4-1、同4-2 3年英米文学演習5-1、同5-2	左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年英米文学演習1-1、同1-2 4年英米文学演習2-1、同2-2 4年英米文学演習3-1、同3-2 4年英米文学演習4-1、同4-2 4年英米文学演習5-1、同5-2	左の科目から最低2単位修得していること
特講類	英米文学特講2-1、同2-2 英米文学特講3-1、同3-2 英米文学特講4-1、同4-2 英米文学特講5-1、同5-2 英米文学特講6-1、同6-2 英米文学特講7-1、同7-2 英米文学特講8-1、同8-2	左の科目から最低4単位修得していること
●自由選択		
	英作文1、英作文2 英語文化論5-1、同5-2	

3. メディアと社会分野

（修了要件単位合計：最低20単位）

科目群名	科目名 <>内は単位	修了要件
●選択必修		
入門・概論	メディア・コミュニケーション入門1<2> メディア・コミュニケーション入門2<2>	左の科目から最低2単位修得していること
英語基礎研究	英語基礎研究7-1、同7-2 英語基礎研究8-1、同8-2 英語基礎研究9-1、同9-2 英語基礎研究10-1、同10-2	左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年メディア・コミュニケーション演習1-1、同1-2 3年メディア・コミュニケーション演習2-1、同2-2 3年メディア・コミュニケーション演習3-1、同3-2	左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年メディア・コミュニケーション演習1-1、同1-2 4年メディア・コミュニケーション演習2-1、同2-2 4年メディア・コミュニケーション演習3-1、同3-2	左の科目から最低2単位修得していること
特講類	メディア・コミュニケーション特講1 メディア・コミュニケーション特講4-1、同4-2 メディア・コミュニケーション特講5-1、同5-2 メディア・コミュニケーション特講6-1、同6-2 メディア・コミュニケーション特講7-1、同7-2 メディア・コミュニケーション特講8-2	左の科目から最低4単位修得していること
●自由選択		
	英作文1、英作文2 メディア・リテラシー	

●副専攻指定科目

英語文化コミュニケーション副専攻の各分野の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄「M1」（英語学・英語教育学分野）、「M2」（英米文学分野）、「M3」（メディアと社会分野）と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

●副専攻指定科目

副専攻履修開始前に履修した英語文化コミュニケーション副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- 必修・選択必修のうち、次の科目は年次指定科目です。
英語基礎研究：2年次指定科目
入門・概論科目：2年次指定科目
3年演習：3年次指定科目
4年演習：4年次指定科目
ただし、主専攻における履修の都合上、指定された学年に履修できない副専攻科目がある場合は、英語文化コミュニケーション学科の承認を経て指定以外の学年に副専攻科目の履修を許可します。
- 他学科の開講科目で本副専攻分野の指定科目として認定できるものがある場合は、開講年度の初頭に公示します。
- 各科目の履修条件や人数制限については、履修要覧や研究室でよく確認をしてください。
- 英作文の履修を希望する場合は、2年次後期末（1月末まで）に研究室に申し出ること。また、英作文1、2の両方を履修すること。
- 4年演習の課題として副専攻修了レポートまたは副専攻修了制作を提出します。レポートは英語1,500語程度が目安です。また制作の場合も、英語で解説などを書いて提出することが必須です。

●募集方法

本学科の副専攻は「英語学・英語教育学分野」「英米文学分野」「メディアと社会分野」の3分野からなり、分野別に募集します。

英語文化コミュニケーション副専攻

2023年度以降登録者

●修了要件

英語文化コミュニケーション副専攻の修了要件は、英語文化コミュニケーション副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、分野別に次の要件を満たすよう修得していることです。

1. 英語学・英語教育学分野（修了要件単位合計：最低20単位）

科目群名	科目名 <>内は単位	修了要件
●必修		
入門・概論	英語学概論1<2> 英語学概論2<2>	左の必修科目をすべて修得していること（計4単位）
●選択必修		
英語基礎研究	英語基礎研究1-1、英語基礎研究1-2 英語基礎研究2-1、同3-1 英語基礎研究3-2、同8-1 英語基礎研究8-2	左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年英語学演習1-1、同1-2 3年英語学演習2-1、同2-2 3年英語学演習3-1、同3-2	左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年英語学演習1-1、同1-2 4年英語学演習2-1、同2-2 4年英語学演習3-1、同3-2	左の科目から最低2単位修得していること
特講類	英語学特講1-1、同1-2 英語学特講2-1、同2-2 英語学特講3-1、同3-2 英語学特講4-1、同4-2 英語学特講5-1、同5-2 英語学特講6-1、同6-2	左の科目から最低4単位修得していること
●自由選択		
	英作文1、英作文2 英語史1<2>、英語史2<2> 英文法	

2. 英米文学分野（修了要件単位合計：最低20単位）

科目群名	科目名 <>内は単位	修了要件
●選択必修		
入門・概論	英文学史概説1<2>、英文学史概説2<2> 米文学史概説1<2>、米文学史概説2<2> 英語文学への招待1<2> 英語文学への招待2<2>	左の科目から最低4単位修得していること
英語基礎研究	英語基礎研究4-1、同4-2 英語基礎研究5-1、同5-2 英語基礎研究6-1、同6-2	左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年英米文学演習1-1、同1-2 3年英米文学演習2-1、同2-2 3年英米文学演習3-1、同3-2 3年英米文学演習4-1、同4-2 3年英米文学演習5-1、同5-2	左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年英米文学演習1-1、同1-2 4年英米文学演習2-1、同2-2 4年英米文学演習3-1、同3-2 4年英米文学演習4-1、同4-2 4年英米文学演習5-1、同5-2	左の科目から最低2単位修得していること
特講類	英米文学特講2-1、同2-2 英米文学特講3-1、同3-2 英米文学特講4-1、同4-2 英米文学特講5-1、同5-2 英米文学特講6-1、同6-2 英米文学特講7-1、同7-2 英米文学特講8-1、同8-2	左の科目から最低4単位修得していること
●自由選択		
	英作文1、英作文2 英語文化論5-1、同5-2	

3. メディアと社会分野

（修了要件単位合計：最低20単位）

科目群名	科目名 <>内は単位	修了要件
●選択必修		
入門・概論	メディア・コミュニケーション入門1<2>	左の科目から最低2単位修得していること
英語基礎研究	英語基礎研究7-1、同7-2 英語基礎研究8-1、同8-2 英語基礎研究9-1、同9-2 英語基礎研究10-1、同10-2	左の科目から最低2単位修得していること
3年演習	3年メディア・コミュニケーション演習1-1、同1-2 3年メディア・コミュニケーション演習2-1、同2-2 3年メディア・コミュニケーション演習3-1、同3-2	左の科目から最低4単位修得していること
4年演習	4年メディア・コミュニケーション演習1-1、同1-2 4年メディア・コミュニケーション演習2-1、同2-2 4年メディア・コミュニケーション演習3-1、同3-2	左の科目から最低2単位修得していること
特講類	メディア・コミュニケーション特講1 メディア・コミュニケーション特講4-1、同4-2 メディア・コミュニケーション特講5-1、同5-2 メディア・コミュニケーション特講6-1、同6-2 メディア・コミュニケーション特講7-1、同7-2 メディア・コミュニケーション特講8-2	左の科目から最低4単位修得していること
●自由選択		
	英作文1、英作文2 メディア・リテラシー	

●副専攻指定科目

英語文化コミュニケーション副専攻の各分野の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄「M1」（英語学・英語教育学分野）、「M2」（英米文学分野）、「M3」（メディアと社会分野）と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

●副専攻指定科目

副専攻履修開始前に履修した英語文化コミュニケーション副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- 必修・選択必修のうち、次の科目は年次指定科目です。
英語基礎研究：2年次指定科目
入門・概論科目：2年次指定科目
3年演習：3年次指定科目
4年演習：4年次指定科目
ただし、主専攻における履修の都合上、指定された学年に履修できない副専攻科目がある場合は、英語文化コミュニケーション学科の承認を経て指定以外の学年に副専攻科目の履修を許可します。
- 他学科の開講科目で本副専攻分野の指定科目として認定できるものがある場合は、開講年度の初頭に公示します。
- 各科目の履修条件や人数制限については、履修要覧や研究室でよく確認をしてください。
- 英作文の履修を希望する場合は、2年次後期末（1月末まで）に研究室に申し出ること。また、英作文1、2の両方を履修すること。
- 4年演習の課題として副専攻修了レポートまたは副専攻修了制作を提出します。レポートは英語1,500語程度が目安です。また制作の場合も、英語で解説などを書いて提出することが必須です。

●募集方法

本学科の副専攻は「英語学・英語教育学分野」「英米文学分野」「メディアと社会分野」の3分野からなり、分野別に募集します。

日本語日本文学副専攻

●修了要件

日本語日本文学副専攻の修了要件は次のとおりです。

- 日本語日本文学副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

●副専攻指定科目

日本語日本文学副専攻の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄に「C1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、日本語日本文学副専攻の指定科目のうち、指定科目の対象外となる科目は、次のとおりです。

- ◎開講されたすべての年度において対象外の科目
研究法実習、日本語教育の世界、日本語教授法、
日本語教育実習、文章表現法、書道

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した日本語日本文学副専攻指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- (1) 演習科目は、3・4年次に履修してください。ただし、3年次に新規登録した場合は、4年次で履修が可能になります。
- (2) 人数制限のある科目（演習科目、文芸創作入門）の履修希望者は、事前の手続きが必要です。優先順位等についてはp.101を参照してください。

史学副専攻

●修了要件

史学副専攻の修了要件は、各コース別に次のとおりです。

1. 日本史コース

- 史学副専攻日本史コースの指定科目の中から、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

2. 世界史コース

- 史学副専攻世界史コースの指定科目の中から、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

●副専攻指定科目

史学副専攻各コースの指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄に「D1」（日本史コース）、「D4」（世界史コース）と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した史学副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- (1) 履修コース（日本史コース、世界史コース）にかかわらず、史学副専攻生が履修可能な科目はすべて履修できます。ただし、他コースの科目は副専攻修了要件単位に含まれませんので、注意してください。
- (2) 修了のための最低必要単位数は20単位ですが、30単位以上修得することを推奨します。
- (3) 日本史コース履修者については、2年次において「日本史史料論1」「日本史史料論2」「日本史史料論3」「日本史史料論4」「史料講読1」「史料講読2」「史料講読4」のうち4単位以上の履修、3年次において「日本史演習Ⅱ-1～Ⅱ-4」「史料講読3」のうち4単位以上の履修を推奨します。なお、「日本史演習Ⅱ-1～Ⅱ-4」を履修する場合は、所定の手続きが必要です。
- (4) 世界史コース履修者については、世界史演習Ⅱを履修することを推奨します。

人間関係副専攻

2012～2022年度入学者

●修了要件

人間関係副専攻の修了要件は、次のとおりです。

次の基礎科目の中から最低4単位修得していること

授業科目	単位	備考
対人社会心理学1	2	
マスコミ社会心理学1	2	
組織心理学1	2	
家族社会学1	2	
職業社会学1	2	
文化人類学1	2	
比較文化学1	2	

上記に挙げた基礎科目を含め人間関係副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

●副専攻指定科目

人間関係副専攻の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄に「E1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、人間関係専攻開講科目のうち、**指定科目の対象外**となる科目は、次のとおりです。

人間関係共通演習、対人社会心理学演習1-1、1-2、対人社会心理学演習2-1、2-2、マスコミ社会心理学演習1-1、1-2、マスコミ社会心理学演習2-1、2-2、組織心理学演習1-1、1-2、組織心理学演習2-1、2-2、家族社会学演習1-1、1-2、家族社会学演習2-1、2-2、職業社会学演習1-1、1-2、職業社会学演習2-1、2-2、文化人類学演習1-1、1-2、文化人類学演習2-1、2-2、比較文化学演習1-1、1-2、比較文化学演習2-1、2-2 データ分析の基礎、多変量解析法、社会調査実習1、社会調査実習1(1)、1(2)、社会調査実習2、社会調査実習2(1)、2(2)、社会調査実習3、社会調査実習3(1)、3(2)、社会心理学論文演習、社会心理学論文演習(1)、(2)、情報活用の社会的実践

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した人間関係副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- (1) 基礎科目の標準履修年次は2年次です。
- (2) 人数制限のある科目は人間関係学科生を優先します。

人間関係副専攻

2023年度以降入学者

●修了要件

人間関係副専攻の修了要件は、次のとおりです。

次の基礎科目の中から最低4単位修得していること

授業科目	単位	備考
社会心理学	2	
家族社会学	2	
職業社会学	2	
文化人類学	2	

上記に挙げた基礎科目を含め人間関係副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

●副専攻指定科目

人間関係副専攻の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄に「E1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した人間関係副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- (1) 基礎科目の標準履修年次は2年次です。
- (2) 人数制限のある科目は人間関係学科生を優先します。

国際交流副専攻

●修了要件

国際交流副専攻の修了要件は次のとおりです。

- 国際交流副専攻の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

●副専攻指定科目

2018年度入学者

グローバル社会コースと異文化コミュニケーションコースそれぞれの「他学科生も履修できる科目」を参照してください。「他学科生も履修できる科目」が副専攻指定科目となります。

年度によって副専攻指定科目が異なるため、履修年度のシラバスまたは履修要覧内の「科目リスト」を参照してください。

2019年度以降入学者

国際交流副専攻の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄に「G1」と記載された科目で、グローバル社会コースと異文化コミュニケーションコースそれぞれの「他学科生も履修できる科目」です。

年度によって副専攻指定科目が異なるため、履修年度のシラバスまたは履修要覧内の「科目リスト」を参照してください。

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した国際交流副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- (1) 副専攻履修にあたっては、関心のある領域の専任教員に相談のうえ、その指導のもとに履修してください。
- (2) 人数制限のある科目は国際交流学科生を優先します。

教育学副専攻

●修了要件

教育学副専攻の修了要件は、次のとおりです。

□教育学副専攻の下記の指定科目について、定められた履修要件を満たすように修得していること

□教育学副専攻の下記の指定科目の中から、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること（下記の表の履修要件に記載された必修・選択必修の最低必要単位数の合計は18単位のため、さらに少なくとも2単位を下記の表に挙げた科目から修得する必要がある）

科目群名	科目名 <>内は単位	履修要件
●必修		
教育の基礎理論	教育原理1<2> 教育原理2<2> (※科目コード JA14) ▼2023年度以降入学者は以下の科目となる 教育原理1<2> 教育原理2<2> (※科目コード RA22)	左の科目を修得していること
●選択必修		
教育の理念・思想・歴史	教育哲学2<2> 西洋教育史2<2> 西洋社会思想<2> 日本教育史1<2> 日本教育史2<2> ▼2023年度以降入学者は以下の科目となる 教育哲学<2> 外国教育史<2> 西洋社会思想<2> 日本教育史<2>	左の科目群から最低3科目8単位修得していること
教育の社会的・制度的・経営的事項	社会学概論1<2> 社会学概論2<2> 教育行政学2<2> 生涯学習概論<2> 比較教育学1<2> 比較教育学2<2> ▼2023年度以降入学者は以下の科目となる 社会学概論1<2> 社会学概論2<2> 教育経営と学校制度<2> 生涯学習概論<2> 比較教育学1<2> 比較教育学2<2>	
発達と学習の過程	教育心理学I<2> 教育心理学II<2> ★発達心理学1<2> ★発達心理学2<2> ▼2023年度以降入学者は以下の科目となる 教育心理学<2> ★発達心理学1<2> ★発達心理学2<2>	左の科目群から最低2科目4単位修得していること
教育の内容・方法	教育課程方法論<2> 教育方法I<2> 教育方法II<2> ▼2023年度以降入学者は以下の科目となる カリキュラム論<2> 教育方法 [ICT活用含む] <2>	
教育学の入門	教育学入門<2>	
総合演習	人間学習1<2> 人間学習2<2> 人間学習3<2> 人間学習4<2> 人間学習5<2> 人間学習6<2> 人間学習7<2> 人間学習8<2> 人間学習9<2>	左の科目群から最低2単位修得していること
自主研究	Myプロジェクト<2>	

★：心理学科開講科目のため、心理学科生は副専攻の単位に算入することはできない

[注意] 今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

●副専攻指定科目

教育学副専攻の各分野の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄に「J1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、指定科目のうち、次の科目は副専攻修了要件単位に含まれません。

教育工学<2>、教育方法とメディア開発<2>、教育学演習1-(1)<2>、教育学演習1-(2)<2>、教育学演習2-(1)<2>、教育学演習I-(1)<2>、教育学演習I-(2)<2>、教育学演習II-(1)<2>

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した教育学副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

(1) 「教育学演習1-(1)」「教育学演習1-(2)」「教育学演習2-(1)」「教育学演習I-(1)」「教育学演習I-(2)」「教育学演習II-(1)」は、教育学・初等教育学専攻生に限定されていますが、副専攻生に限ってはそれぞれ次の条件を満たす場合、受け入れることがあります。

・教育学演習1-(1)、教育学演習1-(2)、教育学演習I-(1)、教育学演習I-(2)

教育学科にとっての2年次の必修に準ずる扱いの科目です。当該年度の教育学科の2年次生のゼミ分け決定後、定員に余裕のあるクラス（前期は概ね22名未満、後期は概ね12名未満）のみ、その人数に応じて副専攻生を受け入れることができます。

・教育学演習2-(1)、教育学演習II-(1)

教育学科にとっての3年次の必修科目です。当該年度の教育学科の3年次生のゼミ分け決定後、定員に余裕のあるクラス（概ね12名未満）のみ、その人数に応じて副専攻生を受け入れることができます。

(2) 教育学副専攻では、小学校および幼稚園の教員免許状取得のための科目の履修はできません。

心理学副専攻

●修了要件

心理学副専攻の修了要件は次のとおりです。

□次の必修科目を修得していること

「心理学概論」(4単位) 廃止(～2018)

「心理学概論」(2単位)

「臨床心理学概論」(2単位)

□心理学副専攻の指定科目の中から必修科目を含んで、関連分野の単位として、合計20単位以上修得していること

●副専攻指定科目

心理学副専攻の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄に「L1」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

なお、心理学科開講科目のうち、**指定科目の対象外**となる科目は、次のとおりです。

◎開講されたすべての年度において対象外の科目

心理学統計法、心理学実験、心理学演習1、心理学演習2、心理学観察・調査実習、心理学データ解析実習1、心理学データ解析実習2、基礎情報処理技法、3年心理学演習(1)(2)、4年心理学演習(1)(2)、公認心理師の職責、心理学研究法、関係行政論、心理演習、心理実習1、心理実習2、社会・集団・家族心理学(*)

(*)～2020年度までは指定科目

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した心理学副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- (1) 2年次からの3年間で修了認定に必要な20単位を修得できなかった場合、副専攻の履修を継続することはできません(副専攻履修中止の扱いとなります)。
- (2) 必修の「心理学概論」「臨床心理学概論」の標準履修年次は2年次です。
- (3) 教育学専攻生と初等教育学専攻生のみ、履修の際、以下に注意すること。
 - ・教育学専攻生は「発達心理学2」を履修しても、副専攻の修了要件に含めることはできません。
 - ・初等教育学専攻生は「発達心理学1」を履修しても、副専攻の修了要件に含めることはできません。

総合リベラル・アーツ副専攻

2023年度以前登録者

●履修の目的

本副専攻は、学生自身が課題を設定し、それに関する授業科目を選んで課題について考え、レポートを作成することをとおして、研究対象への幅広く多様なアプローチの方法を身につけ、また、現代社会の複雑かつ多様な問題について考える力を伸ばすことを目指しています。

●修了要件

総合リベラル・アーツ副専攻の修了要件は、次のとおりです。

□課題に関する科目を16単位以上修得していること

ただし、主専攻(自らが所属する学科)が開講する科目については、4単位まで副専攻修了要件単位に算入することができる。

□「副専攻修了レポート」を修得していること(2単位)

●副専攻指定科目

特定の科目は指定していません。自分のテーマと関心に合わせて、科目を選択して履修してください。

なお、カテゴリとその課題例を次ページにあげますので履修計画を立てる際の参考にしてください。

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修した当該副専攻に関する授業科目の修得単位は、副専攻の単位に算入できます。

●履修上の注意

- (1) 履修計画の作成、副専攻修了レポートの執筆等に関する相談・指導については、本副専攻担当教員に随時申し出てください。担当教員名は別途Sophieで掲示します。
- (2) 副専攻修了レポートの提出を希望する場合は、提出しようとする学期のはじめに、「副専攻修了レポート」を履修登録することが必要です。
- (3) 副専攻修了レポートは、設定した研究課題のために履修した授業の概要と、課題についての考察を含め、3年次後期・4年次前期・後期のいずれかの指定のレポート提出期間中に提出してください。
- (4) 修了レポートは6000字程度とし、授業の概要に2000～3000字、研究課題についての論述に3000～4000字をあてること。なお、授業概要に挙げた科目の合計単位数(修得見込み含む)が16単位を満たしていない場合は、不合格となります。

■カテゴリーとその課題例

推奨授業科目リストは、2022年度開講科目が記載されています。各自2022年度シラバスで検索し、授業内容を確認する等、参考にしてください。

カテゴリーA：「世界のなかで地域を見つめる」

【課題例】		
中東とアフリカの社会と文化を学ぶ —地域研究へのアプローチ		
推奨授業科目	単位	開講学科
現代イスラム論 歴史から見るイスラームと西洋 —アメリカを中心に	2	全学共通
西アジア近代史 【渋谷4大学連携単位互換制度対象科目（各大学からの受講を認めています）】 イスラームの歴史と社会	4	史学科
西アジア文化史 イスラーム美術史／History of Islamic Art	4	史学科
文化人類学1 グローバル共生時代に向けて	2	人間関係学科
文化人類学特講6 結婚と音楽を通して異文化を理解する。	2	人間関係学科
地域研究3	2	国際交流学科
地域研究4 アフリカの開発課題	2	国際交流学科
アラビア語の世界	4	全学共通
世界史文献講読VI-1 預言者ムハンマドの生涯を「読む」	2	史学科
世界史文献講読VI-2 預言者ムハンマドの生涯を「読む」	2	史学科

【課題例】		
ヨーロッパの社会と文化を学ぶ —「ヨーロッパ」とは何かを考える		
推奨授業科目	単位	開講学科
キリスト教学II-1 中世ヨーロッパの文学とその資料媒体から学ぶキリスト教の思想と文化	4	全学共通
ヨーロッパ中世史I 【渋谷4大学連携単位互換制度対象科目（各大学からの受講を認めています）】 中世ヨーロッパにおける「マリア」と「ヨセフ」をめぐる心性	4	史学科
ヨーロッパ中世史II 中世から大航海時代までのイベリア	4	史学科
ヨーロッパ近代史I 【渋谷4大学連携単位互換制度対象科目（各大学からの受講を認めています）】 オランダ史概説（16世紀末から現代まで）	4	史学科
ヨーロッパ近代史II 【前期】移動する人々から見る近世フランスの歴史 【後期】フリーメイソンから見る18世紀フランスの歴史	4	史学科
ヨーロッパ現代史I 映画で学ぶ近現代の世界	4	史学科
地域研究2 EU地域研究（ヨーロッパ統合とEUの現在）	2	国際交流学科
グローバル・スタディーズI（1） フランス人のナショナル・アイデンティティ	2	国際交流学科
グローバル・スタディーズV（1） 旅の諸相：ヘレニズムとヘブライズムをめぐって	2	国際交流学科
西洋美術史I キリスト教図像学1	2	哲学科

カテゴリーB：「多様な文化を比較する」

【課題例】		
世界の言語を比較する		
推奨授業科目	単位	開講学科
第二外国語（オラル）	2	全学共通
アラビア語の世界	4	全学共通
英語学概論 言語の法則を探る	4	英語文化コミュニケーション学科
英語史	4	英語文化コミュニケーション学科
日本語学概論I 現代の日本語（音声・表記・語彙）	2	日本語 日本文学科
日本語史概説I 日本語の語彙・文字・音声の歴史	2	日本語 日本文学科
言語学概論I 第二言語の習得と学習支援	2	日本語 日本文学科
対照言語学I	2	日本語 日本文学科
中国文学概論I	2	日本語 日本文学科
ラテン語I ラテン語初等文法	4	哲学科

【課題例】		
世界の近・現代文学を比較する		
推奨授業科目	単位	開講学科
英文学史概説1 A History of English Literature	2	英語文化コミュニケーション学科
米文学史概説1 18世紀から20世紀初頭まで	2	英語文化コミュニケーション学科
米文学史概説2 20世紀初頭から21世紀まで	2	英語文化コミュニケーション学科
日本文学史V 芥川龍之介を通して見る日本近代文学史	2	日本語 日本文学科
日本文学史VI 文学と近代の誕生	2	日本語 日本文学科
近代文学研究I 『舞姫』への多角的アプローチ	2	日本語 日本文学科
近代文学研究VI 『異郷をゆく』、『異郷をゆくこと』を書く —戦後日本文学におけるいくつかの試みを読む—	2	日本語 日本文学科
ロシア文化史 ロシア文学とさまざまな文化	4	史学科
グローバル・スタディーズII（2） 現代ケベック文学史	2	国際交流学科

カテゴリー C：「持続可能な社会を構築する」

【課題例】			
国際社会における教育協力			
推奨授業科目	単位	開講学科	
グローバル共生基礎 I グローバル共生教育の入門編（2022年度開催中の「女性」をテーマとしたBE*hive企画展示との連携授業として）	2	全学共通	
文化人類学 1 グローバル共生時代に向けて	2	人間関係学科	
比較文化学 1 文化から地球規模の課題について考える	2	人間関係学科	
人間学習 8 グローバル化時代における国際理解教育	2	教育学科	
発展途上国における教育問題 1 国内外フィールド学習に向けた知識基盤の形成	2	教育学科	
発展途上国における教育問題 2 国内外フィールド学習後の知識基盤の形成	2	教育学科	
比較教育学 1	2	教育学科	
公法とガバナンス 国際社会の組織化と国内法の変容	2	国際交流学科	
国際開発論 2 発展途上国世界におけるインクルーシブ教育を通じた「国際教育開発協力」の平等性と公平性を考える	2	国際交流学科	

【課題例】			
気候変動と貧困問題			
推奨授業科目	単位	開講学科	
環境と経済 グローバル化における環境と経済を再考する	2	全学共通	
聖心スピリットと共生 聖心の教育の伝統と現代における教養とは	2	全学共通	
ボランティア研究概論 SDGs社会における市民参加とボランティア	2	全学共通	
グローバル共生研究 V 災害と人間 —3.11以後の社会と文化—	2	全学共通	
自然地理学 1 ～地図と地形の基礎知識を学ぶ～	2	人間関係学科	
地球環境論	2	国際交流学科	
発展途上国における教育問題 1 国内外フィールド学習に向けた知識基盤の形成	2	教育学科	

カテゴリー D：「生涯を通じたキャリアを形作る」

【課題例】			
女性にとっての仕事と家庭			
推奨授業科目	単位	開講学科	
女性とキャリア形成 【渋谷4大学連携単位互換制度対象科目（各大学からの受講を認めています）】	2	全学共通	
キャリアデザイン入門 A	2	全学共通	
キャリアデザイン入門 B アクティブラーニングで学ぶ女性のキャリア	2	全学共通	
ジェンダー学 1	2	全学共通	
ジェンダー学 2 ジェンダーで読むシェイクスピア	2	全学共通	
ジェンダー学 3 ライフコースとジェンダー	2	全学共通	
家族社会学 2 【渋谷4大学連携単位互換制度対象科目（各大学からの受講を認めています）】	2	人間関係学科	
職業社会学 1 働くことを学ぶことを通じて、人間がこの社会をどう生きてゆくかを考える。	2	人間関係学科	
職業社会学 2	2	人間関係学科	

【課題例】			
生涯発達を考える 一人は一生 発展し続ける			
推奨授業科目	単位	開講学科	
ジェンダー学 3 ライフコースとジェンダー	2	全学共通	
ボランティア研究概論 SDGs社会における市民参加とボランティア	2	全学共通	
心理学入門	2	全学共通	
家族社会学 1	2	人間関係学科	
生涯学習概論 (共に生きることを学ぶ社会の構築を目指して)	2	教育学科	
臨床心理学特講11 老年心理学	2	心理学科	
発達心理学特講 6	2	心理学科	
発達心理学 2 生涯発達の心理学	2	心理学科	

グローバル共生副専攻

●履修の目的

本副専攻は、グローバル共生の課題を意識し、そのために求められる知識を身に付け、さらに行動できる人間になることを目指しています。

●修了要件

グローバル共生副専攻の修了要件は、次のとおりです。

- 下記の指定科目について、定められた履修要件を満たすように、合計20単位以上修得していること（下記の表に記載された必修・選択必修から最低12単位、それ以外に自由選択も含めて8単位を修得する必要がある。）
- ただし、主専攻（自らが所属する専攻）が開講する指定科目については、4単位まで副専攻修了要件単位に参入することができる

開講学科	科目名	単位	指定年度				備考
			2020	2021	2022	2023	
●必修							
総合現代教養	グローバル共生総合演習	2	○	○	○	○	履修条件：本副専攻の修了要件を満たすための単位を10以上修得済であること。
●選択必修 （履修要件：以下の科目から最低10単位修得していること）							
総合現代教養	グローバル共生基礎Ⅰ	2	○	○	○	○	
	グローバル共生基礎Ⅱ	2	○	○	○	○	
	グローバル共生研究Ⅰ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	グローバル時代の国際協力概論	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅱ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	赤十字によるグローバルな人道支援の状況	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅲ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	グローバル共生研究Ⅳ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	人新世時代の環境問題	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅴ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	災害と人間	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅵ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	持続的開発目標(SDGs)を捉え直す	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅶ	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅷ	2	×	○	○	○	廃止(～2022)
	現代社会における食料問題とオルタナティブ	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅸ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	平和構築と非暴力の諸課題	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅹ	2	-	○	○	○	廃止(～2022)
	多文化共生社会論	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅺ	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	グローバル・シチズンシップ育成論	2	-	-	-	○	
	グローバル共生研究Ⅻ	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	地球規模課題を探究する	2	-	-	-	○	
	グローバル・ヘルス	2	-	-	-	○	
リーダーシップとチームづくりワークショップ	1	○	○	○	○	定員20名 グローバルリーダーシップ・プログラム履修者のみ登録可能	
グローバルリーダーシップ演習	2	○	○	○	○	後期に履修登録 グローバルリーダーシップ・プログラム履修者のみ登録可能	
サーバントリーダー体験型セミナー	1	○	○	○	○	定員20名 グローバルリーダーシップ・プログラム履修者のみ登録可能	
●自由選択 （履修要件：以下の科目から8単位以内を参入できる。※主専攻の単位は4単位以内まで参入可）							
総合現代教養	ジェンダー学1	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	ジェンダー学2	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	ジェンダー学3	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	ジェンダー学4	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	環境と経済	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	ボランティア研究概論	2	○	○	○	○	

開講学科	科目名	単位	指定年度				備考
			2020	2021	2022	2023	
総合現代教養	ボランティア体験の振り返り	2	○	○	○	○	
	社会福祉論	2	×	○	○	○	
	アラビア語の世界	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	イタリア語の世界	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	ロシア語入門	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	日本の伝統文化	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	現代イスラム論	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	地域づくり演習1	2	○	○	○	○	
	地域づくり演習2	2	○	○	○	○	
	聖心スピリットと共生	2	-	-	-	○	
英語英文学科/ 英語文化コミュニケーション学科	メディア・コミュニケーション特講4-1	2	×	○	○	○	
	メディア・コミュニケーション特講4-2	2	×	○	○	○	
	メディア・コミュニケーション特講7-1	2	×	○	○	○	
日本語 日本文学科	日本文化研究Ⅰ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	日本文化研究Ⅱ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	日本文化研究1	2	-	-	-	○	
	日本文化研究2	2	-	-	-	○	
	日本文化研究Ⅲ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	日本文化研究Ⅳ	2	○	○	○	○	廃止(～2022)
	日本文学史1	2	-	-	-	○	
	日本文学史2	2	-	-	-	○	
	日本文学史3	2	-	-	-	○	
	日本文学史4	2	-	-	-	○	
	日本文学史5	2	-	-	-	○	
	日本文学史6	2	-	-	-	○	
史学科	日本古代史Ⅰ	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	日本古代史Ⅰ-1	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	日本古代史Ⅰ-2	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	日本古代史Ⅰ(1)	2	-	-	-	○	
	日本古代史Ⅰ(2)	2	-	-	-	○	
	日本中世史Ⅰ	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	日本中世史Ⅰ-1	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	日本中世史Ⅰ-2	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	日本中世史Ⅰ(1)	2	-	-	-	○	
	日本中世史Ⅰ(2)	2	-	-	-	○	
	日本近現代史Ⅰ-1	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	日本近現代史Ⅰ-2	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	日本近現代史Ⅰ(1)	2	-	-	-	○	
	日本近現代史Ⅰ(2)	2	-	-	-	○	
	日本中世史Ⅱ-1	2	×	○	○	○	廃止(～2022)
	日本近世史Ⅰ	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	日本近世史Ⅰ-1	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	日本近世史Ⅰ-2	2	-	-	○	○	廃止(～2022)
	日本近世史Ⅰ(1)	2	-	-	-	○	
	日本近世史Ⅰ(2)	2	-	-	-	○	
	中国近代文化史	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	中国近代史	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	中国史	2	-	-	-	○	
	朝鮮近現代史	4	×	○	○	○	廃止(～2022)
	朝鮮史	2	-	-	-	○	
	東南アジア史	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	東南アジア史	2	-	-	-	○	
	西アジア近代史	4	○	○	○	○	廃止(～2022)
	西アジア史(1)	2	-	-	-	○	
	西アジア史(2)	2	-	-	-	○	
西アジア文化史	4	○	○	○	○	廃止(～2022)	
南アジア近代史	4	○	○	○	○	廃止(～2022)	
南アジア史	2	-	-	-	○		
ラテンアメリカ史	4	○	○	○	○	廃止(～2022)	
ラテンアメリカ史	2	-	-	-	○		
日本史フィールドワーク1	2	-	-	-	○		
ヨーロッパ近代史1(1)	2	-	-	-	○		
ヨーロッパ近代史1(2)	2	-	-	-	○		
ヨーロッパ現代史1(1)	2	-	-	-	○		
ヨーロッパ現代史1(2)	2	-	-	-	○		
ロシア史	2	-	-	-	○		
人間関係学科	文化人類学1	2	○	○	○	○	
	文化人類学特講1	2	-	-	-	○	
	文化人類学特講2	2	○	○	○	○	
	文化人類学特講3	2	○	○	○	○	
	文化人類学特講4	2	-	-	-	○	
	文化人類学特講5	2	○	○	○	○	

開講学科	科目名	単位	指定年度				備考
			2020	2021	2022	2023	
人間関係学科	文化人類学特講 6	2	○	○	○	○	
	文化人類学特講 7	2	○	○	○	○	
	文化人類学特講11	2	○	○	○	○	
	比較文化学 1	2	○	○	○	○	
	比較文化学 2	2	○	○	○	○	
	比較文化学特講 1	2	○	○	○	○	
	比較文化学特講 2	2	○	○	○	○	
	比較文化学特講 3	2	○	○	○	○	
	比較文化学特講 4	2	○	○	○	○	
	比較文化学特講 5	2	○	○	○	○	
	比較文化学特講 6	2	○	○	○	○	
	比較文化学特講 7	2	○	○	○	○	
	観光と文化	2	-	-	○	○	
	開発と文化	2	-	-	○	○	
環境と人間	2	-	-	○	○		
国際交流学科	東アジアの社会と文化 (2)	2	○	-	-	-	廃止(～2020)
	中国事情 (2)	2	○	-	-	-	廃止(～2020)
	ICT社会論	2	○	○	○	○	
	開発経済論	2	○	○	○	○	
	難民・移民論	2	○	○	○	○	
	国際機関論	2	○	○	○	○	
	国際法	2	○	○	○	○	
	国際問題特殊講義 1	2	○	○	○	○	
	国際問題特殊講義 2	2	×	○	○	○	
	地球環境論	2	○	○	○	-	廃止(～2022)
	UNESCO and the World Heritage Convention	2	○	○	○	○	
	International Policies for Cultural Sustainability	2	○	○	○	○	
	現代人権論	2	○	○	○	○	
	地域研究 1	2	○	○	○	○	
	地域研究 3	2	○	○	○	○	
	地域研究 4	2	○	○	○	○	
	地域研究 5	2	○	○	○	○	
	文化多様性実習	2	○	○	○	○	
	中国の法と政治	2	○	○	○	○	
	国際開発論 1	2	○	○	○	-	廃止(～2022)
	国際開発論 2	2	○	○	○	-	廃止(～2022)
	グローバル・スタディーズⅢ(1)	2	×	○	○	○	
	グローバル・スタディーズⅢ(2)	2	○	○	○	○	
	グローバル・スタディーズⅣ(1)	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	グローバル・スタディーズⅣ(2)	2	○	○	○	-	廃止(～2022)
	グローバル・スタディーズⅤ(1)	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	グローバル・スタディーズⅤ(2)	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	グローバル・コミュニケーションⅠ(1)	2	○	○	○	○	
	グローバル・コミュニケーションⅠ(2)	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	グローバル・コミュニケーションⅡ(1)	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	グローバル・コミュニケーションⅡ(2)	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	グローバル・コミュニケーションⅢ(1)	2	○	○	○	○	
	グローバル・コミュニケーションⅢ(2)	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	グローバル・メディアⅠ(1)	2	○	○	○	○	
	グローバル・メディアⅠ(2)	2	○	○	○	○	
	グローバル・メディアⅡ(1)	2	○	○	○	○	
	グローバル・メディアⅡ(2)	2	○	○	○	○	
	グローバル・メディアⅢ(1)	2	×	○	○	○	
	グローバル・メディアⅣ(1)	2	×	○	○	○	
	グローバル・メディアⅣ(2)	2	×	○	○	○	
	食と環境	2	-	-	-	○	
	国際環境論 1	2	-	-	-	○	
	東アジアの社会と文化 1	2	-	-	-	○	
	東アジアの社会と文化 2	2	-	-	-	○	
	国際機構論	2	-	-	-	○	
	国際問題ワークショップ 1	2	-	-	-	○	
	国際問題ワークショップ 2	2	-	-	-	○	
国際文化協力論	2	-	-	-	○		
国際文化政策論 2	2	-	-	-	○		
現代人権論 2	2	-	-	-	○		
東南アジア地域論	2	-	-	-	○		
中東地域論	2	-	-	-	○		
ラテンアメリカ地域論	2	-	-	-	○		
アフリカ地域論	2	-	-	-	○		
国際協力基礎ワークショップ	2	-	-	-	○		
東アジア地域論	2	-	-	-	○		
比較文化論	2	-	-	-	○		
リーダーシップ論	2	-	-	-	○		
言語とアイデンティティ	2	-	-	-	○		
国際メディア論 1	2	-	-	-	○		
国際メディア論 2	2	-	-	-	○		
メディアと社会 2	2	-	-	-	○		
メディアと社会 3	2	-	-	-	○		

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること

開講学科	科目名	単位	指定年度				備考
			2020	2021	2022	2023	
国際交流学科	国際ニュースワークショップ1	2	-	-	-	○	
	環境学 1	2	-	-	-	○	
哲学科	日本倫理思想史 I	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	日本思想史学概論 1	2	-	-	-	○	
	日本倫理思想史 II	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	日本思想史学概論 2	2	-	-	-	○	
	日本美術史 I	2	○	○	○	-	廃止(～2022)
	日本美術史 1	2	-	-	-	○	
	日本美術史 II	2	○	○	○	-	廃止(～2022)
	日本美術史 2	2	-	-	-	○	
	東洋美術史 I	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	東洋美術史 1	2	-	-	-	○	
	東洋美術史 II	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	東洋美術史 2	2	-	-	-	○	
	哲学・倫理学特講 1	2	-	-	-	○	
	哲学・倫理学特講 2	2	-	-	-	○	
	宗教思想史 I	2	○	○	○	-	廃止(～2022)
	宗教思想史 1	2	-	-	-	○	
	宗教思想史 II	2	×	○	○	-	廃止(～2022)
	宗教思想史 2	2	-	-	-	○	
	教育学科	日本思想史学演習 I	4	-	-	○	-
日本思想史学演習 1 (1)		2	-	-	-	○	
日本思想史学演習 1 (2)		2	-	-	-	○	
西洋美術史 1		2	-	-	-	○	
西洋美術史 2		2	-	-	-	○	
教育学特講 3		2	×	○	○	-	廃止(～2022)
障害者教育・福祉概論		2	○	○	○	-	廃止(～2022)
発展途上国における教育問題 1		2	○	○	○	○	
発展途上国における教育問題 2		2	○	○	○	○	
発展途上国における教育問題 (1)		2	-	-	-	○	
心理学科	発展途上国における教育問題 (2)	2	-	-	-	○	
	臨床心理学特講 1	2	○	○	○	○	

●副専攻指定科目

グローバル共生副専攻の指定科目は、シラバスおよび授業時間表の副専攻欄に「A5」と記載された科目です。指定科目は開講年度ごとに見直されます。

●履修開始前の単位

副専攻履修開始前に履修したグローバル共生副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に参入できます。

●履修上の注意

- (1) 必修科目の履修にあたっては、履修登録までにグローバル共生副専攻の修了要件を満たすための単位を10単位以上修得していなければなりません。
- (2) グローバル共生副専攻の指定科目の履修にあたっては、シラバスや開講科目一覧等で履修条件を確認してください。
- (3) 選択必修の科目のうち、以下のグローバルリーダーシップ・プログラムの修了要件科目は、グローバルリーダーシップ・プログラム履修者がグローバル共生副専攻を同時に履修する場合のみ履修可能な科目です。
「リーダーシップとチームづくりワークショップ」
「グローバルリーダーシップ演習」
「サーバントリーダー体験型セミナー」
なお、同時履修の場合、履修した上記科目の単位を本副専攻の修了要件単位として算入することができます。
- (4) 人数制限のある科目を履修する際は、事前の手続きが必要となる場合があります。Sophieの掲示板で人数制限のある科目の履修方法を各自でご確認ください。

グローバルリーダーシップ・プログラム

Program in Global Leadership Development

●履修の目的

本プログラムは、グローバル化の時代に世界が直面する難民問題や気候変動をはじめとした地球規模の課題に対応できるリーダーシップの資質や能力、スキルの習得を目指すものです。将来、教育機関、政府機関、NGO、各種法人など、さまざまな組織の中で、そのリーダーシップを発揮することが期待されます。本プログラムは、複数の学科の授業科目、総合現代教養科目、インターンシップ、プロジェクト型授業などにより、学際的に展開されます。学術的かつ実践的な学びにより、リーダーシップに関連する知識、スキル、実践能力をホリスティックに高め、社会貢献ができるグローバルでアクティブなリーダーシップを考え身につけるプログラムです。

●プログラムの特徴

- 本プログラムは、2年間の特別プログラムです。
- 本プログラムは、基本的に英語で実施されます。
英語で授業に参加できることが、本プログラム履修の条件です。
- 本プログラムを修了した場合、ディプロマ（修了証）が授与されます。

●プログラムの手続き

<登録手続き>

本プログラムの履修を希望する場合は、Sophie掲示の日程に従い、ガイダンスへ出席し、手続きを行ってください。本プログラムには、履修定員があります（20名）。2年次の前期途中に行われる選抜試験により、プログラム履修者が確定します。なお、本プログラムの履修開始学年は2年次のみです。

<履修中止手続き>

本プログラムの履修を取りやめる場合は、届出が必要です。所定の期間に教務課へ申し出て、履修中止の手続きを行ってください。手続きの日程は別途Sophieでお知らせします。

●プログラム修了までの基本的な流れ（予定）

	4月	5-6月	8-9月	11月	3月
1年次生				ガイダンス (ジェネラル レクチャー)	
2年次生	ガイダンス 履修手続き 選抜試験 履修者確定	ワークショップ	体験型 セミナー	インターンシップA	
3年次生	インターンシップB				
	リーダーシップ1、2、評価				
4年次生					修了証授与

●修了要件

グローバルリーダーシップ・プログラムの修了要件は、次のとおりです。

- 下記の指定科目から12科目22単位を修得していること
～2022年度登録者まで

修得区分	履修年次	期	コード	科目名	単位	開講学科	備考
必修	2	前期	MB24	Introduction to Leadership	2	英語文化 コミュニケーション 学科	
選択 必修	2	前期	MB23	メディア・コミュニケーション入門1 Introduction to Media and Communication 1	2	英語文化 コミュニケーション 学科	どちら か1科目を修得すること
	2	後期	MB25	メディア・コミュニケーション入門2 Introduction to Media and Communication 2	2	英語文化 コミュニケーション 学科	
選択 必修	2	前期または後期	AS69 AS70 AS71 AS91	[以下の総合現代教養科目から1科目以上] グローバル共生基礎Ⅰ～Ⅱ Basic Studies in Sustainable Futures Ⅰ～Ⅱ グローバル共生研究Ⅰ～Ⅱ Studies in Sustainable Futures Ⅰ～Ⅱ	各2	総合現代 教養	左の科目から最低2単位修得していること
必修	2	前期	AS61	リーダーシップとチームづくりワークショップ Leadership and Team-building	1	総合現代 教養	定員 20名
必修	2	前期	AS63	サーバントリーダー体験型セミナー Servant Leadership Seminar at Asian Rural Institute (ARI)	1	総合現代 教養	定員 20名
必修	2	後期	GN62	English Communication I (2)	2	国際交流 学科	前期に履修登録
必修	2	後期	AS62	グローバルリーダーシップ演習 Seminar for Global Leadership	2	総合現代 教養	後期に履修登録
必修	2	後期	AS64	インターンシップ A Internship A	-	総合現代 教養	成績評価は3年次に通知されます
	3	前期	AS64	インターンシップ B Internship B	2	総合現代 教養	
選択 必修	3	前期	MJ19	メディア・コミュニケーション特講1 Special Studies in Media and Communication 1	2	英語文化 コミュニケーション 学科	どちら か1科目を修得すること
	3	後期	MJ27 MJ28	メディア・コミュニケーション特講7-1・7-2 Special Studies in Media and Communication 7-1・7-2 ^{*1} ^{*2}	2	英語文化 コミュニケーション 学科	
必修	3	前期	AS65	リーダーシップ1 Leadership 1	2	総合現代 教養	
必修	3	後期	AS66	リーダーシップ2 Leadership 2	2	総合現代 教養	
必修	3	後期	AS67	リーダーシップ評価 Leadership Evaluation	2	総合現代 教養	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること。

※1 2019年度以前にメディア・コミュニケーション特講4-2を修得済の場合は、この修得区分を満たしたとみなす。

※2 2021年度以降は、メディア・コミュニケーション特講7-1及び7-2が、この修得区分の科目となる。

廃止科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

代替指定科目

< >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
MB24	Introduction to Leadership	AS97	Introduction to Leadership <2>
AS71	グローバル共生研究Ⅰ	AU01	グローバル時代の国際協力概論<2>
AS72	グローバル共生研究Ⅱ	AU02	赤十字によるグローバルな人道支援の状況<2>
AS74	グローバル共生研究Ⅳ	AU03	人新世時代の環境問題<2>
AS75	グローバル共生研究Ⅴ	AU04	災害と人間<2>
AS76	グローバル共生研究Ⅵ	AU05	持続的開発目標 (SDGs) を捉え直す<2>
AS78	グローバル共生研究Ⅷ	AU07	現代社会における食料問題とオルタナティブ<2>
AS83	グローバル共生研究Ⅸ	AU08	平和構築と非暴力の諸課題<2>
AS89	グローバル共生研究Ⅹ	AU09	多文化共生社会論<2>
AS90	グローバル共生研究Ⅺ	AU10	グローバル・シチズンシップ育成論<2>
AS91	グローバル共生研究Ⅻ	AU11	地球規模課題を探究する<2>

2023年度以降登録者

修得区分	履修年次	期	コード	科目名	単位	開講学科	備考
必修	2	前期	AS97	Introduction to Leadership	2	総合現代教養	
選択必修	2	前期	MB23	メディア・コミュニケーション入門1 Introduction to Media and Communication 1	2	英語文化コミュニケーション学科	どちらか1科目を修得すること
		後期	MB25	メディア・コミュニケーション入門2 Introduction to Media and Communication 2	2	英語文化コミュニケーション学科	
選択必修	2	前期または後期	AS69 AS70	[以下の総合現代教養科目から1科目以上] グローバル共生基礎Ⅰ～Ⅱ	各2	総合現代教養	左の科目から最低2単位修得していること
			AU01	Introduction to International Cooperation in the Global Age			
			AU02	赤十字によるグローバルな人道支援の状況 Status of Global Humanitarian Assistance by the Red Cross			
			AU03	人新世時代の環境問題 Environmental Problems in the Anthropocene Era			
			AU04	災害と人間 Natural Disasters and Human Society			
			AU05	持続的開発目標 (SDGs) を捉え直す Rethinking the Sustainable Development Goals (SDGs)			
			AU07	現代社会における食料問題とオルタナティブ Food Problems and Alternatives in Modern Society			
			AU08	平和構築と非暴力の諸課題 Peacebuilding and Non-Violence Issues			
			AU09	多文化共生社会論 Social Theories for Multiculturalism			
			AU10	グローバル・シチズンシップ育成論 Theories for Fostering Global Citizenship			
			AU11	地球規模課題を探究する Exploring Global Issues			
			AU12	グローバル・ヘルス Global Health			

修得区分	履修年次	期	コード	科目名	単位	開講学科	備考
必修	2	前期	AS61	リーダーシップとチームづくりワークショップ Leadership and Team-building	1	総合現代教養	定員20名
必修	2	前期	AS63	サーバントリーダー体験型セミナー Servant Leadership Seminar at Asian Rural Institute (ARI)	1	総合現代教養	定員20名
必修	2	後期	GN62	English Communication I (2)	2	国際交流学科	前期に履修登録
必修	2	後期	AS62	グローバルリーダーシップ演習 Seminar for Global Leadership	2	総合現代教養	後期に履修登録
必修	2	後期	AS64	インターンシップ A	-	総合現代教養	成績評価は3年次に通知されます
	3	前期	AS64	インターンシップ B	2	総合現代教養	
選択必修	3	前期	MJ19	メディア・コミュニケーション特講1 Special Studies in Media and Communication 1	2	英語文化コミュニケーション学科	どちらか1科目を修得すること
		後期	MJ27 MJ28	メディア・コミュニケーション特講7-1・7-2 Special Studies in Media and Communication 7-1・7-2	2	英語文化コミュニケーション学科	
必修	3	前期	AS65	リーダーシップ1 Leadership 1	2	総合現代教養	
必修	3	後期	AS66	リーダーシップ2 Leadership 2	2	総合現代教養	
必修	3	後期	AS67	リーダーシップ評価 Leadership Evaluation	2	総合現代教養	

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること。

●履修開始前の単位

本プログラム履修開始前に履修した修得単位は、本プログラムの単位に参入できます。

●履修上の注意

- 本プログラムの履修年次は2、3年次あるいは2、4年次（3年次で留学の場合）とします。
- 履修年次が3年次の科目については、3年次で留学、または諸事情で履修ができない場合について、事情を精査した上で、特別に4年次での履修も認める場合があります。
- 3年次前期に「リーダーシップ1」を修得することが、3年次後期に「リーダーシップ2」及び「リーダーシップ評価」履修登録の前提条件になります。
- 3年次前期までにグローバルリーダーシップ・プログラムの修了要件科目を全て修得済の場合でも、3年次後期の「リーダーシップ2」、「リーダーシップ評価」、「インターンシップ」のいずれかが修得できない場合には、本プログラムの修了はできません。
- グローバルリーダーシップ・プログラムの修了要件科目は、原則として再履修できません。2年次終了時点で2年次の指定科目に未修得の単位があった場合は、本プログラムの履修を原則継続することはできません。
- 本プログラムは、副専攻と同時履修可能です。ただし、負担が大きくなりすぎないように熟考のうえ履修してください。

- (7) 履修計画の作成のほか、本プログラムに関する相談は、グローバルリーダーシップ・プログラム担当教員に随時申し出て下さい。担当教員名はSophieに掲示します。
- (8) 本プログラム履修者は、プログラム履修確定後に、所定期間にプログラム費を納入する必要があります。納入金額は以下の通りです。

納入期間 (予定)	納入金額 (予定)
2年次 前期中	51,000円 (アジア学院等でのプログラム参加費含む)
3年次 4月	5,500円

なお、一度納入されたプログラム費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

- (9) 2・3年次に履修する「インターンシップ」は自動登録科目です。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録期間中に必ず教務課に申し出て下さい。
- (10) 標準履修年次が2年次の必修科目「インターンシップA」の2年次終了時の成績は「継続履修」と成績通知書に記載され、単位は修得できません。3年次に「インターンB」を履修することで、3年次終了時に2単位修得することができます。2年次に2単位を修得することはできませんが、履修登録は必要です。

●プログラム履修中止後の科目の取り扱い

- (1) ①2年次の本プログラムの履修を開始する手続き後に行われる選抜試験の不合格者、②本プログラムの履修取りやめを希望し手続きを行った者は、本プログラムの履修を継続することができません。プログラムの履修中止後の履修登録済の科目については、以下の通りの取り扱いとなります。
- (2) 下記は、本プログラムを履修していないと履修を続けられない科目のため、プログラム履修中止後は、履修登録が削除されます。

リーダーシップとチーム作りワークショップ
 サーバントリーダー体験型セミナー
 グローバルリーダーシップ演習
 インターンシップ
 リーダーシップ1
 リーダーシップ2
 リーダーシップ評価

- (3) 下記は、本プログラムを履修していなくても履修を続けられる科目のため、プログラムの履修を中止しても、継続して履修することが可能です。

ただし履修を取りやめたい場合は、履修取消期間中に、各自で履修取消を行ってください。なお、取消対象外科目に指定されている場合、履修取消はできません。

Introduction to Leadership
 グローバル共生基礎Ⅰ～Ⅱ
 グローバル時代の国際協力概論
 赤十字によるグローバルな人道支援の状況
 人新世時代の環境問題
 災害と人間
 持続的開発目標 (SDGs) を捉え直す
 現代社会における食料問題とオルタナティブ
 平和構築と非暴力の諸課題
 多文化共生社会論
 グローバル・シチズンシップ育成論
 地球規模課題を探究する

グローバル・ヘルス

メディア・コミュニケーション特講1

- (4) 下記は、本プログラムを履修していなくても各学科の必修科目等になっており、所属の学科によっては履修を続けられる科目のため、プログラム履修中止後は、履修対象所属外の科目は削除されます。

履修対象所属の学生については、履修を取りやめたい場合、履修取消期間中に各自で履修取消を行ってください。なお、取消対象外科目に指定されている場合、履修取消はできません。

メディア・コミュニケーション入門1

メディア・コミュニケーション入門2

English Communication I (2)

メディア・コミュニケーション特講7-1

メディア・コミュニケーション特講7-2

●プログラムの修了

- (1) プログラムの修了可否については、卒業年次の後期の成績発表後に判定が行われ、掲示板にて修了者のみに通知されます。また、学位授与式にてティプロマ (修了証) が授与されます。
- (2) 本プログラムを修了した場合であっても、卒業証明書や成績証明書には、その旨は記載されません。本プログラムを修了したことを証明できるものは、学位授与式にて渡されるティプロマ (修了証) のみとなり、紛失した場合でも再発行されませんので、取扱いに注意してください。

第4章 資格課程

1. 教職課程履修要項 — 高等学校・中学校・小学校・幼稚園教員免許状取得のために

本学で取得可能な教員免許状

本学で取得できる免許状は、各学科・専攻ごとに次のように文部科学省から課程認定を受けています。

大学院文学研究科 (修士/博士前期課程)	学校種別	免許教科
大学院 英語英文学専攻	高等学校教諭 専修免許状	英語
	中学校教諭 専修免許状	
大学院 日本語日本文学専攻	高等学校教諭 専修免許状	国語
	中学校教諭 専修免許状	
大学院 史学専攻	高等学校教諭 専修免許状	地理歴史
	中学校教諭 専修免許状	社会
大学院 社会文化学専攻	高等学校教諭 専修免許状	公民
	中学校教諭 専修免許状	社会
大学院 哲学専攻	高等学校教諭 専修免許状	公民
	中学校教諭 専修免許状	社会
	高等学校教諭 専修免許状	宗教
	中学校教諭 専修免許状	
大学院 人間科学専攻	高等学校教諭 専修免許状	地理歴史
	高等学校教諭 専修免許状	公民
	中学校教諭 専修免許状	社会
	小学校教諭 専修免許状	
	幼稚園教諭 専修免許状	

現代教養学部	学校種別	免許教科
英語文化コミュニケーション学科	高等学校教諭 一種免許状	英語
	中学校教諭 一種免許状	
日本語日本文学科	高等学校教諭 一種免許状	国語
	中学校教諭 一種免許状	
史学科	高等学校教諭 一種免許状	地理歴史
哲学科	高等学校教諭 一種免許状	地理歴史
	高等学校教諭 一種免許状	公民
	中学校教諭 一種免許状	社会
	高等学校教諭 一種免許状	宗教
中学校教諭 一種免許状		
教育学科 (教育学専攻)	高等学校教諭 一種免許状	公民
	中学校教諭 一種免許状	社会
教育学科 (初等教育学専攻)	小学校教諭 一種免許状	
	幼稚園教諭 一種免許状	

教員免許状の取得要件

教員免許状を取得するためには、以下の基礎資格及び所定の単位を修得する必要があります。更に、小学校及び中学校の教員免許状を取得するためには、介護等体験が必要です。

●基礎資格等 (教育職員免許法第5条別表第1より抜粋)

免許状の種類	第一欄	第二欄	第三欄
	所要資格	基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数 教科及び教職に関する科目
幼稚園教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	75
	一種免許状	学士の学位を有すること。	51
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。 ※B	31
小学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。 ※B	37
中学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。 ※B	35
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59

※A 大学院に1年以上在学し、30単元以上修得した場合を含む (同表備考第2号)

※B 大学に2年以上在学し、62単元以上修得した場合を含む (同表備考第2号及び免許法施行規則第66条の5)

●教科及び教職に関する科目の単位の修得方法

【幼稚園】 (免許法施行規則第2条より抜粋)

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状	
最低修得単位数	第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項 ※ 保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	16	16	12
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10	6

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第四欄	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 幼児理解の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	4	4
	第五欄	教育実践に関する科目	5	5	5
	第六欄	大学が独自に設定する科目	2	2	2
			38	14	2

※「領域に関する専門的事項」の単位の修得方法は、健康、人間関係、環境、言葉及び表現の領域に関する専門的事項を含む科目のうち一以上の科目について修得するものとする。

【小学校】（免許法施行規則第3条より抜粋）

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状	
最低修得単位数	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	30	30	16	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	6
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）						
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	10	6	
		総合的な学習の時間の指導法				
		特別活動の指導法				
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）				
		生徒指導の理論及び方法				
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
第五欄	教育実践に関する科目	5	5	5		
第六欄	大学が独自に設定する科目	2	2	2		
			26	2	2	

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、国語（書写を含む。）、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び英語の教科に関する専門的事項を含む科目のうち一以上の科目について修得するものとする。

※B 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては、国語等の教科の指導法に関する科目についてそれぞれ一単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあっては、六以上の教科の指導法に関する科目（音楽、図画工作又は体育の教科の指導法に関する科目のうち二以上を含む。）についてそれぞれ一単位以上を修得するものとする。

【中学校】（免許法施行規則第4条より抜粋）

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状	
最低修得単位数	第二欄	教科に関する専門的事項 ※A 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ※B	28	28	12	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	6
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）						
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	10	6	
		総合的な学習の時間の指導法				
		特別活動の指導法				
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）				
		生徒指導の理論及び方法				
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
第五欄	教育実践に関する科目	5	5	5		
第六欄	大学が独自に設定する科目	2	2	2		
			28	4	4	

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、次に掲げる免許教科の種類に応じ、それぞれ定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ一単位以上修得するものとする。これらは、一般的包括的な内容を含むものでなければならない。なお、以下「」内に示された事項は当該事項の一以上にわたって行うものとする。

- ・国語 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）、国文学（国文学史を含む。）、漢文学、書道（書写を中心とする。）、社会 日本史・外国史、地理学（地誌を含む。）、「法学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」
- ・英語 英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解
- ・宗教 宗教学、宗教史、「教育学、哲学」

※B 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に関する科目の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては八単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあっては二単位以上を修得するものとする。

【高等学校】（免許法施行規則第6条より抜粋）

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状
最低修得単位数	第二欄	教科に関する専門的事項 ※A 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ※B	24	24
	第三欄	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	10	10
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	8	8
	第五欄	教育実践に関する科目 教育実習 教職実践演習	3 2	3 2
	第六欄	大学が独自に設定する科目	36	12

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、免許教科の種類に応じ、それぞれ定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ一単位以上修得するものとする。これらは、一般的包括的な内容を含むものでなければならない。なお、以下「 」内に示された事項は当該事項の一以上にわたって行うものとする。
・国語 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）、国文学（国文学史を含む。）、漢文学
・地理歴史 日本史、外国史、人文地理学・自然地理学、地誌
・公民 「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」
・英語 英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解
・宗教 宗教学、宗教史、「教理学、哲学」

※B 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に関する科目の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては四単位以上を修得するものとする。

●免許法施行規則第六十六条の六に定める科目の単位の修得方法

【各免許状共通】

「日本国憲法2単位」、「体育2単位」、「外国語コミュニケーション2単位」、「情報機器の操作2単位」

●介護等体験

◆根拠法令

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律および施行規則（平成10年4月1日施行）

◆介護等の体験の期間（施行規則第1条より）

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律第二条第一項の文部科学省令で定める期間は7日間とする。（特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、計7日間）

◆介護等の体験を行う施設（施行規則第2条より）

児童福祉法に規定する施設、生活保護法に規定する施設、社会福祉法に規定する施設、老人福祉法に規定する施設、介護保険法に規定する施設、障害者自立支援法に規定する施設、文部科学大臣が認める施設等

履修上の注意

●全般

- 個別に相談すべき事項の生じたときは、教務課または直接その任に当たっている各学科・専攻の教職課程委員に連絡してください。
- 教職課程一般に関する連絡事項は、Sophie上に掲示するので、毎日必ず確認してください。
- 「教職課程履修カルテ」について
2010年度以降入学者から、教職課程履修の際に「教職課程履修カルテ」の作成が義務付けられています。この「教職課程履修カルテ」は、各自学生が、各年次終了時に様式をSophieからダウンロード、記入して情報を蓄積した後、4年次に履修する科目「教職実践演習」で使用します。詳細は、別途説明会、Sophie掲示で確認してください。「教職課程履修カルテ」の提出がない場合、4年次後期に開講される「教職実践演習」の履修はできません。

●履修の手続き

- 教職課程の履修を希望する者は、毎年3月末から4月上旬に行われる学年別ガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日程等は、別に掲示します。
- 教職課程の履修を希望する者は、登録初年度に所属学科・専攻にて承認を受けた「教職課程履修希望調査フォーム」を教務課に送信して、登録をしなければなりません。詳細については、3月末から4月上旬に行われる学年別ガイダンスにて説明します。
- 上記登録は2年次に開始することを原則としますが、3年次以降に登録を希望する場合は、所属学科・専攻に相談の上、教務課にて所定の手続きをしてください。

●教職課程年間スケジュール

主な年間スケジュールは次のとおりです。

	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
3月末～4月		教職課程ガイダンス(履修概要)	教職課程ガイダンス(学校種別)	教育実習ガイダンス 教育実習諸費納入 教育実習録配布 免許状申請手続き
5月～		介護等体験ガイダンス(前年度申込者対象) 介護等体験費納入		教育実習開始
6月			教職課程履修カルテの提出	
7月			次年度都内公立校教育実習希望者ガイダンス	
9月				教職課程履修カルテの記入
				教職課程履修カルテの提出の予定
10月	教職課程ガイダンス			
11月				免許状申請手続き書類配布および説明会免許状申請料納入
12月	次年度介護等体験希望者対象ガイダンス(申込)			
1月		教育実習手続きガイダンス 教育実習手続き	教育実習学生調書提出	教職課程履修カルテの記入
				教職課程履修カルテの提出の予定
3月	教職課程履修カルテの記入	教職課程履修カルテの記入	教職課程履修カルテの記入	免許状授与(卒業日)

<注1> 介護等体験については、1年次か2年次のどちらかの学年で申込みをし、申込年度の翌年度に合計7日間の介護等体験をする。
<注2> この他、介護等体験学生のための講演会等が複数回開催予定である。

介護等体験

●介護等体験とは

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律により、小学校や中学校教諭免許状取得を希望する者は、1998年度以降入学者から、特別支援学校ならびに社会福祉施設等での「介護等体験」が義務づけられました。本学では介護等体験を授業科目扱いとしていないため単位になりませんが、体験先から「介護等体験証明書」が発行されます。当該証明書は教員免許状申請に必要です。

●体験の期間

教員免許状の種類に応じて必要とされる介護等体験は次のとおりです。

取得希望免許状	介護等体験の要・不要および体験期間
高等学校教諭一種免許状	不要
中学校教諭一種、二種免許状	要7日間 (社会福祉施設5日、特別支援学校2日)
小学校教諭一種、二種免許状	要7日間 (社会福祉施設5日、特別支援学校2日)
幼稚園教諭一種、二種免許状	不要

●申込み手続き

介護等体験の学内申込みは、1年次後期または2年次後期のいずれか一方の所定期間に行います。期間内に所定の手続きをしない者は、翌年度の介護等体験を行うことができません。必ず1年次もしくは2年次後期に介護等体験申込みの手続きを行ってください。本学では、原則として4年次に介護等体験と教育実習の両方を行うことを認めません。

●体験先の決定方式

具体的な体験先の決定については、大学に一任する方式(大学交渉)のみです。大学は希望学生を取りまとめ、特別支援学校の体験申込みは教育委員会へ、社会福祉施設の体験申込みは社会福祉協議会へ申請し決定されます。

●介護等体験に関する注意事項

1. 介護等体験関係ガイダンスの取り扱い
介護等体験申込者は、介護等体験ガイダンス、事前指導および講演会等の出席が義務づけられています。
2. 体験期間中の大学の授業欠席の取り扱い
介護等体験に伴うやむを得ない大学の授業欠席は、所定の期間に公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入します。
3. 体験期間中の体験欠席についての取り扱い
病気その他のやむを得ない理由で介護等体験を欠席する場合は、速やかに体験先及び教務課に届け出て指示に従ってください。無断欠席は絶対にしてはなりません。
4. 介護等体験費
① 介護等体験を行う者は、介護等体験年度5月の所定期間に介護等体験費14,500円を納入しなければなりません。
② 一度納入された介護等体験費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

教育実習

●教育実習とは

本学で教員免許状取得を希望する者は、学部最終学年の4年次に取得を希望する免許に応じて高等学校、中学校、小学校、幼稚園のいずれかの教育現場で実習をします。教育実習は、授業科目として単位になります。

●実習校(園)と実習期間

1. 本学では取得希望免許状の種類と実習校(園)の種類を一致させることを原則としています。教員免許状の種類に応じて必要とされる実習校(園)と実習期間は次のとおりです。

取得希望免許状	実習校(園)	実習期間(単位)
高等学校教諭一種免許状のみ	高等学校	2週間(2単位)
中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状	中学校または高等学校	3週間(4単位)
小学校教諭一種、二種免許状	小学校	4週間(4単位)
幼稚園教諭一種、二種免許状	幼稚園	4週間(4単位)

2. 初等教育学専攻初等教育コース生が幼稚園の免許を取得する場合は、小学校で4週間の教育実習をすることで、幼稚園の教育実習は免除されます。
初等教育学専攻幼児教育コース生が小学校の免許を取得する場合は、幼稚園で4週間の教育実習をすることで、小学

校の教育実習は免除されます。

●教育実習手続き（教育実習要件）

1. 教育実習は4年次前期に履修登録しますが、そのための手続き（教育実習手続依頼フォームの送信）は2年次1月～3年次前期初めの所定の期間に行われます。期間内に所定の手続きを完了しない者は、4年次での教育実習を行うことはできません。
2. 教育実習は教職に就く意志のある者に限られます。希望者は、3年次の手続き（教育実習手続依頼フォームの送信）に先立って、各学科・専攻教職課程委員による、その意志の確認を受けなければなりません。
3. 4年次で教育実習を履修するためには、3年次の終わりまでに教育実習履修資格要件を修得しておかなければなりません。教育実習履修資格要件を満たさない場合は、実習取り消しとなります。

教育実習履修資格要件は、中学校・高等学校（教科別）、小学校（学生所属別）、幼稚園（学生所属別）に次のとおり設定されています。

実習先	教育実習履修資格要件掲載ページ
中学校・高等学校	中学校・高等学校（履修要覧p.316参照）
小学校	初等教育学専攻初等教育コース（履修要覧p.316）
幼稚園	初等教育学専攻幼児教育コース（履修要覧p.316）

※協定校科目等履修生は別途、教育学科の指導に従ってください。

4. 教育実習履修資格要件に規定された科目のうち、時間割上他の専攻必修科目との重なりから当該年次中の履修が不可能な科目のある場合は、当該年次履修登録期間中に、所定の方法でその事情を教務課に届け出て指示に従ってください。
5. 教員免許状取得希望者で、留学を志望する者は速やかにその旨を教務課に届け出て指示に従ってください。

●実習校の決定方式

1. 具体的な実習校の決定については、それを大学に一任する方式（大学交渉）と、実習登録者が個人的に当該学校（園）と交渉のうえ決定する方式（個人交渉）とがあります。
2. 大学交渉の場合には、都内公立校に希望できますが、実習校が決定する保証はありません。また、実習は指定された期間に行わなければなりません。
3. 個人交渉の場合には、出身母校（園）やボランティア先等を希望し、各自で交渉します。また、実習は指定された期間に行わなければなりません。

※地方公立校の場合は、県外実習の受入れが可能か、別途所定手続きが必要かどうかを確かめてから交渉してください。

●教育実習に関する注意事項

1. 教職関係ガイダンスの取り扱い
教職課程を履修する者は、各学年次に指定された教職課程関係ガイダンスや教育実習ガイダンス等への出席が義務づけられています。
2. 実習期間中の大学の授業欠席の取り扱い
教育実習および教育実習事前打ち合わせに伴うやむを得ない大学の授業欠席は、所定の期間に公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入されます。
3. 実習期間中の実習欠席についての取り扱い
① 病気その他のやむを得ない理由で教育実習を欠席する場

合は、速やかに実習先及び指導教員、教務課に届け出て指示に従ってください。無断欠席は絶対にはなりません。

- ② 教育実習期間中に教員採用試験以外の一般企業等の就職活動は認められません。

4. 教育実習諸費

- ① 教育実習を行う者は、教育実習年度4月の所定期間に教育実習諸費を納入しなければなりません。納入金額は以下のとおりです。

取得希望免許状	納入金額
高等学校教諭免許状のみ	2週間合計 23,000円
中学校と高等学校教諭免許状	3週間合計 28,000円
幼稚園／小学校教諭免許状	4週間合計 32,000円

- ② 一度納入された教育実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

●科目等履修生

科目等履修生として教育実習を希望する者は「聖心女子大学科目等履修生規程」および教育実習履修資格要件に規定された要件に従うほか、次の条件を満たさなければなりません。

- ① 実習校は個人交渉校とする。
- ② 教育実習予定年度の前々年度1月に行われる教育実習手続きガイダンスに出席していること。

2. 教職課程履修要項 — 2019～2021年度入学者各学科別

はじめに

教員免許状取得のためには、以下のとおり、3年次の終わりまでに「教育実習の履修要件」を、卒業までに「教員免許状の取得要件」を満たす必要があります。

小学校及び中学校の教員免許状取得のためには、上記に加え、前述の介護等体験が必要です。

教育実習の履修要件について (p.316)

教育実習を行うにあたり、3年次の終わりまでに次の要件を満たしていることが必要です。

	教育実習の履修要件	チェック欄	該当頁
(1)	教育実習は教職に就く意志のある者に限られます。希望者は、2年次1月以降の手続き（「教育実習手続依頼フォーム」の送信）に先立って、各学科・専攻教職課程委員による、その意志の確認を受けていること。	<input type="checkbox"/>	—
(2)	教育実習は4年次に履修しますが、そのための手続き（「教育実習手続依頼フォーム」の送信）は2年次1月以降の所定の期間に行われます。期間内に所定の手続きを完了していること（完了しない者は、4年次での教育実習を行うことはできません）。	<input type="checkbox"/>	—
(3)	原則として全学必修分野の外国語科目（第一外国語及び第二外国語）を標準履修年次に修得していること。	<input type="checkbox"/>	—
(4)	3年次の終わりまでに該当頁記載の教育実習履修要件の科目を修得していること（教育実習履修要件を満たさない場合は、実習取り消しとなります）。	<input type="checkbox"/>	p.316
(5)	上記の条件に加えて、実習教科が英語又は国語の者は次の要件を満たしていることが必要です。 <国語の場合> ・3年次の終わりまでに「文章表現法」4単位分が修得済みであること。 <英語の場合> ・1年次の後期に行われる1年英語のGeneral Testにおいて、定められた点数を取得済みであること（General Testを2019年度までに受けた場合はListening Test及びStructure Testの合計点が120点以上であること。2020年度以降に受けた場合はListening&Structure/Vocabulary Testの合計点が650点以上であること。）。ただし、2年次終了時までに実用英語技能検定2級以上又はTOEIC500点以上のいずれかを取得していればこの条件を満たしているとみなす場合がある。 ・1、2年次の第一外国語必修科目全てを、原則として履修初年度に修得済みであること。	<input type="checkbox"/>	—

※教育実習履修要件のうち、時間割上所属学科・専攻必修科目との重複により当該年次中の履修が不可能な科目のある場合は、当該年次履修登録期間までに、その事情を教務課に申し出て指示に従ってください。

教員免許状の取得要件について (pp.316-330)

教員免許状の取得にあたり、4年次の終わりまでに次の要件を満たしていることが必要です。

表1～表3については、入学年度、所属学科・専攻並びに希望する免許種・教科によって参照すべき頁が異なりますので、注意してください。

	履修単位を計算する上でのチェックリスト	チェック欄	該当頁
(1)	「各免許状共通科目（免許法施行規則第六十六条の六に定める科目）」の4項目を満たした。	<input type="checkbox"/>	p.316
(2)	表1を満たした。 ・「単位数」欄で、「必」に単位数が記入されている科目全てを修得した。 ・「履修方法等」欄で、「○○単位/科目選択必修」等記入されている科目についてそのとおり修得した。 ・「大学が定める単位数（合計）」を満たした。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	p.318 ～ p.330 のうち 該当頁
(3)	表2を満たした。 ・「単位数」欄で、「必」に単位数が記入されている科目全てを修得した。 ・「履修方法等」欄で、「○○単位/科目選択必修」等記入されている科目についてそのとおり修得した。 ・「大学が定める単位数（合計）」を満たした。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	中高： p.317、 小： p.327、 幼： p.329
(4)	表3「大学が独自に設定する科目」に数えられる単位数を計算し、法定単位数を満たした。	<input type="checkbox"/>	p.318 ～ p.330 のうち 該当頁

【1】教育実習の履修要件について

◆中学校・高等学校における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
教育課程論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育実習指導 1	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育原理 教育経営、教育行政学 2 教育心理学Ⅱ、発達心理学 2 教育方法Ⅱ、教育メディア論、メディア教材開発、教育情報と学習デザイン 特別支援教育概論（中高）、道徳教育の理論と実践Ⅱ、総合的な学習の時間の指導法（中高）、特別活動Ⅱ、生徒指導 [含進路指導]Ⅱ、教育相談Ⅱ	左の5つの区分の中から4区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	<input type="checkbox"/>
実習予定教科の指導法（〇〇科教育法）：必修8単位 （高校免許のみ希望する者は必修4単位）	修得済であること	<input type="checkbox"/>

※実習教科が英語科または国語科の者は、前述の要件も満たしていることが必要です。

◆小学校における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
教育原理 1	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育課程方法論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育実習指導 2	修得済であること	<input type="checkbox"/>
日本教育史 1、日本教育史 2、西洋教育史 2 教育経営と学校制度 教育心理学Ⅰ、発達心理学Ⅰ 教育方法Ⅰ、教育工学、教育方法とメディア開発 特別支援教育概論（幼小）、道徳教育の理論と実践Ⅰ、総合的な学習の時間の指導法（小学校）、特別活動Ⅰ、生徒指導 [含進路指導]Ⅰ、教育相談Ⅰ	左の5つの区分の中から4区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	<input type="checkbox"/>
各教科の指導法（〇〇科教育法）	3科目以上修得済であること	<input type="checkbox"/>

※また、要件ではありませんが、音楽、図画工作、体育関係の科目を修得しておくことが望まれます。

◆幼稚園における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
保育原理	修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育・幼児教育課程論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育実習指導 3	修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育方法論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育内容総論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育原理 1、西洋教育史 2、日本教育史 1、日本教育史 2 教育経営と学校制度 教育心理学Ⅰ、発達心理学Ⅰ 幼児理解 [含教育相談]	左の4つの区分の中から3区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	<input type="checkbox"/>
国語概論 [含書写]、算数概論、生活科概論、音楽概論 2、保育内容の理解と方法 1、図画工作概論、保育内容の理解と方法 2、体育概論	左の8科目の中から2科目以上修得済であること	<input type="checkbox"/>
領域：健康 領域：人間関係 領域：環境 領域：言葉 領域：表現	保育内容 [健康] 保育内容 [人間関係] 保育内容 [環境] 保育内容 [言葉] 保育内容 [表現]	左の5つの領域の中から2領域以上修得済であること

※また、要件ではありませんが、音楽、図画工作、体育関係の科目を修得しておくことが望まれます。

【2】教員免許状の取得要件について

◆各免許状共通科目（免許法施行規則第六十六条の六に定める科目）◆

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容			
科目区分	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
日本国憲法	2	憲法 1 憲法 2 憲法 3		2 2 2	これらより 2単位選択必修
体育	2	体育運動学 ウェルネス・身体活動（講義） ウェルネス・身体活動（実技）		2 1 1	これらより 2単位選択必修
外国語コミュニケーション	2	1年英語 1 1年英語 2		2 2	これらより 2単位選択必修
情報機器の操作	2	教育情報基礎演習 1 基礎情報処理技法 情報活用演習		2 2 2	これらより 2単位選択必修

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 共通】 カリキュラムマップ

◆表2◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等	履修年次
					必	選		
第二欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2			1～4
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門Ⅱ	2			1～4
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育経営 教育行政学2		2 2] これらより 2単位選択必修	1～4
				比較教育学1 比較教育学2		2 2		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学Ⅱ 発達心理学2		2 2] これらより 2単位選択必修	2～4
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論(中高)	2			
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2			2～4
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中学：10 高校：8	道徳教育の理論と実践Ⅱ	2		中免のみ「大学が定める単位数」として数えられる。	2～4
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法(中高)	2			2～4
		特別活動の指導法		特別活動Ⅱ	2			1～4
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法Ⅱ 教育メディア論 メディア教材開発 教育情報と学習デザイン		2 2 2 2] これらより 2単位選択必修	2～4 1～4 2～3 2～3
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導[含進路指導]Ⅱ	2			1～4
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談Ⅱ	2			2～4
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法						
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	中学：5 高校：3	教育実習指導1 教育実習指導4 教育実習1 教育実習2	1 1 2	2	中免のみ必修	3 4 4 4
		学校体験活動						
		教職実践演習		2	教職実践演習(中学・高校)	2		
法定最低修得単位数(合計)			中：27 高：23	大学が定める単位数(合計)	中学：34単位以上(法定最低+7単位) 高校：30単位以上(法定最低+7単位)			

※次頁以降「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」は、下記の履修年次に修得することとする。

・2～3年次に修得する科目：英語科教育法2・3、国語科教育法2・3、宗教科教育法2・3、社会科教育法1・2

・3年次に修得する科目：英語科教育法1又は1(1)・(2)、国語科教育法1又は1(1)・(2)、宗教科教育法1又は1(1)・(2)、社会・地理歴史科教育法1・2、社会・公民科教育法1・2

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 英語】 英語文化コミュニケーション学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	中学：28 高校：24	英語学概論 ※1 英語学概論1、英語学概論2	4		これらより 1科目選択必修
				英語史 ※2 英語史1、英語史2		4	
				英文法		2	
				英語学特講1-1		2	
				英語学特講1-2		2	
				英語学特講2-1		2	
				英語学特講3-1		2	
				英語学特講3-2		2	
				英語学特講4-1		2	
				英語学特講4-2		2	
英語学特講5-1		2					
英語学特講6-1		2					
英語学特講6-2		2					
英語文学	英文学史概説1		2	これらより 1科目選択必修			
	英文学史概説2		2				
	米文学史概説1		2				
	米文学史概説2		2				
	英米文学特講2-1		2				
	英米文学特講3-1		2				
	英米文学特講3-2		2				
	英米文学特講4-1		2				
	英米文学特講4-2		2				
	英米文学特講5-1		2				
英米文学特講5-2		2					
英米文学特講6-1		2					
英米文学特講6-2		2					
英米文学特講7-1		2					
英米文学特講7-2		2					
英米文学特講8-1		2					
英米文学特講8-2		2					
英語コミュニケーション	英作文1		2	これらより 4単位選択必修 (※1に注意)			
	英作文2		2				
	英会話 ※1 英会話1、英会話2		4				
	オラルコミュニケーション ※1 オラルコミュニケーション1、オラルコミュニケーション2		4				
	メディア・コミュニケーション特講1		2				
	メディア・コミュニケーション特講4-1		2				
	メディア・コミュニケーション特講4-2		2				
	メディア・コミュニケーション特講5-1		2				
	メディア・コミュニケーション特講5-2		2				
	メディア・コミュニケーション特講6-1		2				
メディア・コミュニケーション特講6-2		2					
メディア・コミュニケーション特講7-1		2					
メディア・コミュニケーション特講7-2		2					
メディア・コミュニケーション特講8-2		2					
異文化理解		2					
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)			英語科教育法1 ※3 英語科教育法1(1)、英語科教育法1(2) 英語科教育法2 英語科教育法3	4 2 2		※高免のみの場合は選択科目 ※高免のみの場合は選択科目	
法定最低修得単位数(合計)			中：28 高：24	大学が定める単位数(合計)		中学：28単位以上 高校：24単位以上	

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。1と2はペアで履修してください。

※2 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。1と2のいずれか一方のみの履修でも、教職の単位として計上可能です。

※3 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)はペアで履修してください。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第二欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	中学：4 高校：12	道徳教育の理論と実践Ⅱ (高免のみ単位として数えられる)		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{A} \end{array} + \begin{array}{c} \text{※B} \\ \text{※B} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 28 \\ 28 \end{array} + \begin{array}{c} 27 \\ 27 \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \\ 0 \end{array} \right) \geq 4$
高校	$\left(\begin{array}{c} \text{C} \\ \text{C} \end{array} + \begin{array}{c} \text{D} \\ \text{D} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 24 \\ 24 \end{array} + \begin{array}{c} 23 \\ 23 \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※E(0又は2)} \\ \text{※E(0又は2)} \end{array} \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 国語】 日本語日本文学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第一欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	中学：28 高校：24	日本語学概論Ⅰ ※1 日本語学概説1	2	これらより 4単位選択必修	
				日本語学概論Ⅱ ※1 日本語学概説2	2		
				文章表現法 ※2 文章表現法(1)、文章表現法(2)	4		
				日本語の文法Ⅰ ※1 日本語の文法	2		
				日本語の文法Ⅱ	2		
				日本語学研究Ⅰ ※1 日本語学研究1	2		
				日本語学研究Ⅱ ※1 日本語学研究2	2		
				日本語学研究Ⅲ	2		
				日本語学研究Ⅳ	2		
				日本文学史Ⅰ ※1 日本文学史1	2		
日本文学史Ⅱ ※1 日本文学史2	2						
日本文学史Ⅲ ※1 日本文学史3	2						
日本文学史Ⅳ ※1 日本文学史4	2						
日本文学史Ⅴ ※1 日本文学史5	2						
日本文学史Ⅵ ※1 日本文学史6	2						
近代文学研究Ⅰ ※1 近代文学研究1	2						
近代文学研究Ⅱ ※1 近代文学研究2	2						
近代文学研究Ⅲ ※1 近代文学研究3	2						
近代文学研究Ⅳ ※1 近代文学研究4	2						
近代文学研究Ⅴ	2						
近代文学研究Ⅵ	2						
近代文学研究Ⅶ	2						
近代文学研究Ⅷ	2						
児童文学研究Ⅰ ※1 児童文学研究	2						
児童文学研究Ⅱ	2						
古典文学講読Ⅰ	2						
古典文学講読Ⅱ	2						
古典文学研究Ⅰ ※1 古典文学研究1	2						
古典文学研究Ⅱ ※1 古典文学研究2	2						
古典文学研究Ⅲ ※1 古典文学研究3	2						
古典文学研究Ⅳ ※1 古典文学研究4	2						
古典文学研究Ⅴ	2						
古典文学研究Ⅵ	2						
古典文学研究Ⅶ	2						
古典文学研究Ⅷ	2						
漢文学	中国文学概論Ⅰ ※1 中国文学概論1	2	中学のみいずれか1科目 選択必修 ※中免のみ単位として数え られる。高免では表3の 単位数への算入も不可				
	中国文学概論Ⅱ ※1 中国文学概論2	2					
	書道	書道Ⅰ ※1 書道	2	中学のみいずれか1科目 選択必修 ※中免のみ単位として数え られる。高免では表3の 単位数への算入も不可			
	(書写を中心とする。)	書道Ⅱ	2				
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	国語科教育法 1 ※2 国語科教育法1(1)、国語科教育法1(2)	4	※高免のみの場合は選択科目 ※高免のみの場合は選択科目			
		国語科教育法 2	2				
		国語科教育法 3	2				
法定最低修得単位数(合計)			中：28 高：24	大学が定める単位数(合計)	中学：28単位以上 高校：24単位以上		

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。

※2 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)はペアで履修してください。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	中学：4 高校：12	道徳教育の理論と実践Ⅱ (高免のみ単位として数えられる)		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{C} \end{array} + \begin{array}{c} \text{※B} \\ \text{D} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 28 \\ 24 \end{array} + \begin{array}{c} 27 \\ 23 \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \\ \text{※E(0又は2)} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} 4 \\ 12 \end{array}$
高校	

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 地理歴史】 哲学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第一欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	日本史概説 <2>	2		これらより1科目 選択必修
				日本古代史Ⅰ ※1 日本古代史Ⅰ(1)、日本古代史Ⅰ(2)	4		
				日本中世史Ⅰ ※1 日本中世史Ⅰ(1)、日本中世史Ⅰ(2)	4		
				日本近世史Ⅱ	4		
				日本近現代史Ⅱ ※1 日本近現代史Ⅱ(1)	4		
				日本文化史Ⅱ ※1 日本文化史Ⅱ	2		
日本美術史Ⅰ ※1 日本美術史Ⅰ	2						
日本美術史Ⅱ ※1 日本美術史Ⅱ	2						
日本倫理思想史Ⅰ ※1 日本思想史学概論1	2						
日本倫理思想史Ⅱ ※1 日本思想史学概論2	2						
外国史概説 <2> ※2	4						
中国古代史 ※1 中国史	4						
東南アジア史	4						
南アジア近代史 ※1 南アジア史	4						
西アジア近代史 ※1 西アジア史(1)、西アジア史(2)	4						
古代ローマ史 ※1 古代地中海世界	4						
ヨーロッパ中世史Ⅱ	4						
ヨーロッパ近代史Ⅰ ※1 ヨーロッパ近代史Ⅰ(1)、ヨーロッパ近代史Ⅰ(2)	4						
ヨーロッパ現代史Ⅰ ※1 ヨーロッパ現代史Ⅰ(1)、ヨーロッパ現代史Ⅰ(2)	4						
ロシア文化史 ※1 ロシア史	4						
西洋古代・中世哲学史Ⅰ ※1 西洋古代・中世哲学史Ⅰ	2						
西洋古代・中世哲学史Ⅱ ※1 西洋古代・中世哲学史Ⅱ	2						
西洋近代哲学史Ⅰ ※1 西洋近代哲学史Ⅰ	2						
西洋近代哲学史Ⅱ ※1 西洋近代哲学史Ⅱ	2						
西洋美術史Ⅰ ※1 西洋美術史Ⅰ	2						
西洋美術史Ⅱ ※1 西洋美術史Ⅱ	2						
東洋美術史Ⅰ ※1 東洋美術史Ⅰ	2						
東洋美術史Ⅱ ※1 東洋美術史Ⅱ	2						
社会思想史Ⅰ	2						
社会思想史Ⅱ	2						
哲学史特講	4						
人文地理学Ⅰ <2>	2						
自然地理学Ⅰ <2>	2						
自然地理学Ⅱ <2>	2						
人文地理学Ⅱ <2>	2						
地誌学Ⅰ <2>	2						
地誌学Ⅱ <2>	2						
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	2						
社会科教育法Ⅰ	2						
社会・地理歴史科教育法Ⅰ	2						
社会・地理歴史科教育法Ⅱ	2						
法定最低修得単位数(合計)	高:24	大学が定める単位数(合計)	高校:24単位以上				

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)に分かれた科目は、いずれか一方のみの履修でも、教職の単位として計上可能です。

※2 2023年度以降、同じ科目名称で単位が2単位となります。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道德教育の理論と実践Ⅱ	2		法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校:併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$(\text{表1で修得した単位数} + \text{表2で修得した単位数}) - (\text{法定最低修得単位数} + \text{法定最低修得単位数}) + (\text{※表3で修得した単位数}) \geq$	中:4 高:12
中学	$(\text{A} + \text{※B}) - (28 + 27) + (0) \geq$	4
高校	$(\text{C} + \text{D}) - (24 + 23) + (\text{※E(0又は2)}) \geq$	12

※「道德教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 公民】 哲学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	24	法学〔含国際法〕<2> ※1 法学Ⅰ<2>	4	①「法学〔含国際法〕<2>」、②「法学Ⅰ<2>」、③「政治学Ⅰ<2>」及び「政治学Ⅱ<2>」、の①～③より1つ選択必修	
				政治学Ⅰ<2>	2		
				政治学Ⅱ<2>	2		
		「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		社会学<2> ※2	4	①「社会学<2>」、②「マクロ経済学<2>」及び「経済政策論<2>」、の①②いずれか一方選択必修	
				マクロ経済学<2>	2		
				経済政策論<2>	2		
		「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		哲学概論Ⅰ ※1 哲学概論1	2	これらより1科目選択必修	
				哲学概論Ⅱ ※1 哲学概論2	2		
				倫理学概論Ⅰ ※1 倫理学概論1	2		
				倫理学概論Ⅱ ※1 倫理学概論2	2		
キリスト教学概論Ⅰ ※1 キリスト教学概論1	2						
キリスト教学概論Ⅱ ※1 キリスト教学概論2	2						
キリスト教倫理学Ⅰ ※1 宗教学特講3	2						
旧約聖書Ⅰ ※1 聖書学特講1	2						
旧約聖書Ⅱ	2						
新約聖書Ⅰ ※1 聖書学特講2	2						
新約聖書Ⅱ	2						
宗教思想Ⅰ ※1 宗教思想史1	2						
宗教思想Ⅱ ※1 宗教思想史2	2						
美学・芸術学概論Ⅰ ※1 美学・芸術学概論1	2						
美学・芸術学概論Ⅱ ※1 美学・芸術学概論2	2						
哲学・倫理学特講Ⅰ ※1 哲学・倫理学特講1	2						
哲学・倫理学特講Ⅱ ※1 哲学・倫理学特講2	2						
哲学・倫理学特講Ⅲ ※1 哲学・倫理学特講3	2						
哲学・倫理学特講Ⅳ ※1 哲学・倫理学特講4	2						
哲学・倫理学特講Ⅴ ※1 哲学・倫理学特講5	2						
哲学・倫理学特講Ⅵ ※1 哲学・倫理学特講6	2						
哲学・倫理学特講Ⅶ ※1 哲学・倫理学特講7	2						
哲学・倫理学特講Ⅷ ※1 哲学・倫理学特講8	2						
哲学・倫理学特講Ⅸ	2						
哲学・倫理学特講Ⅹ	2						
哲学・倫理学特講Ⅺ	2						
哲学・倫理学特講Ⅻ	2						
哲学・倫理学特講Ⅼ	2						
哲学・倫理学特講Ⅽ	2						
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	社会科教育法2 社会・公民科教育法1 社会・公民科教育法2	2 2 2					
法定最低修得単位数（合計）			高：24	大学が定める単位数（合計）		高校：24単位以上	

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。
 ※2 2023年度以降、同じ科目名称で単位が2単位となります。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道徳教育の理論と実践Ⅱ		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{※B} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 28 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 27 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 4$
高校	$\left(\begin{array}{c} \text{C} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{D} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 24 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 23 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※E(0又は2)} \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 宗教】 哲学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄 教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	宗教学	中：28 高：24	比較文化宗教学 1 <2>		2	これらより 2科目選択必修
				比較文化宗教学 2 <2>		2	
		比較文化宗教学 3 <2>			2		
		キリスト教学概論 I ※1 キリスト教学概論 1			2		
キリスト教学概論 II ※1 キリスト教学概論 2		2					
新約聖書学 I ※1 聖書学特講 2		2					
新約聖書学 II		2					
旧約聖書学 I ※1 聖書学特講 1		2					
旧約聖書学 II		2					
宗教史	宗教思想史 I ※1 宗教思想史 1		2	これらより1科目 選択必修			
	宗教思想史 II ※1 宗教思想史 2		2				
	キリスト教思想史 I ※1 キリスト教思想史 1		2				
	キリスト教思想史 II ※1 キリスト教思想史 2		2				
	キリスト教美術 ※1 キリスト教美術 (1)、キリスト教美術 (2)		4				
	キリスト教音楽 ※1 キリスト教音楽 (1)、キリスト教音楽 (2)		4				
	キリスト教文学 ※1 キリスト教文学 (1)、キリスト教文学 (2)		4				
「教理学、哲学」	哲学概論 I ※1 哲学概論 1		2	これらより1科目 選択必修			
	哲学概論 II ※1 哲学概論 2		2				
	倫理学概論 I ※1 倫理学概論 1		2				
	倫理学概論 II ※1 倫理学概論 2		2				
	キリスト教倫理学 I ※1 宗教学特講 3		2				
	キリスト教学特講 II ※1 キリスト教学特講 2 (1)、キリスト教学特講 2 (2)		4				
	キリスト教学特講 III ※1 キリスト教学特講 3 (1)、キリスト教学特講 3 (2)		4				
	キリスト教学特講 IV		4				
	美学・芸術学概論 I ※1 美学・芸術学概論 1		2				
	美学・芸術学概論 II ※1 美学・芸術学概論 2		2				
	哲学・倫理学特講 I ※1 哲学・倫理学特講 1		2				
	哲学・倫理学特講 II ※1 哲学・倫理学特講 2		2				
	哲学・倫理学特講 III ※1 哲学・倫理学特講 3		2				
	哲学・倫理学特講 IV ※1 哲学・倫理学特講 4		2				
	哲学・倫理学特講 V ※1 哲学・倫理学特講 5		2				
	哲学・倫理学特講 VI ※1 哲学・倫理学特講 6		2				
	哲学・倫理学特講 VII ※1 哲学・倫理学特講 7		2				
	哲学・倫理学特講 VIII ※1 哲学・倫理学特講 8		2				
	哲学・倫理学特講 IX		2				
	哲学・倫理学特講 X		2				
哲学・倫理学特講 XI		2					
哲学・倫理学特講 XII		2					
哲学・倫理学特講 XIII		2					
哲学・倫理学特講 XIV		2					
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	宗教科教育法 1 ※2 宗教科教育法 1 (1)、宗教科教育法 1 (2)		4	※高免のみの場合は選択科目 ※高免のみの場合は選択科目			
	宗教科教育法 2		2				
	宗教科教育法 3		2				
法定最低修得単位数 (合計)			中：28 高：24	大学が定める単位数 (合計)		中：28単位以上 高：24単位以上	

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)に分かれた科目は、いずれか一方のみの履修でも、教職の単位として計上可能です。

※2 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)はペアで履修してください。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	中：4 高：12	道徳教育の理論と実践II (高免のみ単位として数えられる)		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq$	中：4 高：12
中学	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{A} \end{array} + \begin{array}{c} \text{※B} \\ \text{※B} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 28 \\ 28 \end{array} + \begin{array}{c} 27 \\ 27 \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \\ 0 \end{array} \right) \geq$	4
高校	$\left(\begin{array}{c} \text{C} \\ \text{C} \end{array} + \begin{array}{c} \text{D} \\ \text{D} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 24 \\ 24 \end{array} + \begin{array}{c} 23 \\ 23 \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※E (0又は2)} \\ \text{※E (0又は2)} \end{array} \right) \geq$	12

※「道徳教育の理論と実践II」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 地理歴史】 史学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	日本史概説	2		これらより1科目 選択必修
				日本中世史Ⅱ-1		2	
				日本近世史Ⅰ ※1 日本近世史Ⅰ(1)、日本近世史Ⅰ(2)		4	
				日本近現代史Ⅰ ※1 日本近現代史Ⅰ(1)、日本近現代史Ⅰ(2)		4	
				日本考古学 ※2		4	
				日本民俗学 ※2		4	
日本文化史Ⅰ ※1 日本文化史Ⅰ		2					
		外国史		外国史概説 ※2	4		
				中国近代史 ※1 中国史		4	
				朝鮮近現代史 ※1 朝鮮史		4	
				西アジア文化史		4	
				古代オリエント史 ※1 古代地中海世界		4	
				ヨーロッパ中世史Ⅰ ※1 ヨーロッパ中世史Ⅰ(1)、ヨーロッパ中世史Ⅰ(2)		4	
				ヨーロッパ近代史Ⅱ		4	
				ヨーロッパ現代史Ⅱ		4	
				アメリカ史 ※1 アメリカ史(1)		4	
				ラテンアメリカ史		4	
		人文地理学・自然地理学		人文地理学Ⅰ<1>	2		
				自然地理学Ⅰ<1>	2		
				自然地理学Ⅱ<1>	2		
				人文地理学Ⅱ<1>		2	
		地誌		地誌学Ⅰ		2	
				地誌学Ⅱ		2	
				地誌学		2	
				世界音楽地誌		4	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
		各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		社会科教育法Ⅰ	2	2	
				社会・地理歴史科教育法Ⅰ			
				社会・地理歴史科教育法Ⅱ	2	2	
法定最低修得単位数(合計)			高:24	大学が定める単位数(合計)			高校:24単位以上

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)に分かれた科目は、いずれか一方のみの履修でも、教職の単位として計上可能です。

※2 2023年度以降、同じ科目名称で単位が2単位となります。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第二欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道徳教育の理論と実践Ⅱ		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校:併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq$	中:4 高:12
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 4$	
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E(0又は2)} \right) \geq 12$	

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状 社会】 教育学科 教育学専攻

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等	
					必	選		
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28	日本史概説 <3> 外国史概説 <3>	2 4		これらより1科目 選択必修	
				地理学 (地誌を含む。)	2 2 2 2 2			
				「法学、政治学」	4 2 2			①「法学 [含国際法] <3>」、 ②「政治学 1 <3>」及び「政治学 2 <3>」、 の①②いずれか一方選択必修
				「社会学、経済学」	4 2 2 2 2			①「社会学<3>」、②「マクロ経済学<3>」 及び「経済政策論<3>」、の①②いずれか 一方選択必修
				「哲学、倫理学、宗教学」	2 2 2 2 4			
				教科及び教科の指導法に関する 科目における複数の事項を合わ せた内容に係る科目				
				各教科の指導法 (情報機器及び 教材の活用を含む。)	2 2 2 2			「社会・地理歴史科教育法 1」 「社会・地理歴史科教育法 2」、 「社会・公民科教育法 1」 「社会・公民科教育法 2」 の組合せて4単位選択必修
法定最低修得単位数 (合計)			中：28	大学が定める単位数 (合計)		中学：34単位以上 (法定最低+6単位)		

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に 設定する科目	-	4	-			法定最低修得単位数を超えて履修した表1 または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq$	中：4 高：12
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq$	4
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E} (0 \text{又は} 2) \right) \geq$	12

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 公民】 教育学科 教育学専攻

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学〔含国際法〕<3> 政治学1<3> 政治学2<3>	4 2 2	①「法学〔含国際法〕<3>」、 ②「政治学1<3>」及び「政治学2<3>」、 の①②いずれか一方選択必修 ①「社会学<3>」、②「マクロ経済学<3>」 及び「経済政策論<3>」、の①②いずれか 一方選択必修
				「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会学<3> マクロ経済学<3> 経済政策論<3> 社会学概論1 社会学概論2	4 2 2 2 2	
				「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概論Ⅰ<3> 哲学概論Ⅱ<3> 教育哲学2 西洋社会思想 キリスト教学特講Ⅰ	2 2 2 2 4	
				教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			
				各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	社会科教育法2 社会・公民科教育法1 社会・公民科教育法2	2 2 2	
法定最低修得単位数（合計）			高：24	大学が定める単位数（合計）		高校：24単位以上	

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道德教育の理論と実践Ⅱ		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{l} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{※B} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 28 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 27 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 4$
高校	$\left(\begin{array}{c} \text{C} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{D} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 24 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 23 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※E(0又は2)} \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 12$

※「道德教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【小学校一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等	
					必	選		
第二欄	教科及び教科の指導法に関する事項	国語 (書写を含む。)	小一 種 30	国語概論〔含書写〕		2	これらより5科目 選択必修	
		社会		社会科概論		2		
		算数		算数概論		2		幼
		理科		理科概論		2		
		生活		生活科概論		2		幼
		音楽		音楽概論1		2		
		図画工作		図画工作概論		2		幼
		家庭		家庭科概論		2		
		体育		体育概論		2		幼
		外国語		外国語概論		2		
	教科及び教科の指導法に関する科目 (情報機器及び教材の活用を含む。)	各教科の指導法	小二種 16	国語科教育法〔小学校〕	2			
		社会		社会科教育法〔小学校〕	2			
		算数		算数科教育法	2			
		理科		理科教育法	2			
		生活		生活科教育法	2			
		音楽		音楽科教育法	2			
		図画工作		図画工作科教育法	2			
		家庭		家庭科教育法	2			
		体育		体育科教育法	2			
		外国語		外国語教育法(小学校)	2			
法定最低修得単位数(合計)			小一:30 小二:16	大学が定める単位数(合計)		小一:30単位以上		

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	2	-			最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、併せて2単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。
 なお、本学では、「大学が定める単位数」を満たせば、下記数式は成立するカリキュラムとなっている。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{小一 種: 2} \\ \text{小二 種: 2} \end{array}$
小一 種	$\left(\text{A} + \text{B} \right) - \left(30 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 2$
小二 種	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(16 + 19 \right) + \left(0 \right) \geq 2$

【幼稚園一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表2◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等	
					必	選		
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	幼一種 10 幼二種 6	教育原理 1 教育原理 2 保育原理 日本教育史 1 日本教育史 2 西洋教育史 2	2 2	小 小 小 小 小 小	これらより 1科目選択必修	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		保育者論	2			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育経営と学校制度	2	小		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 I 発達心理学 1	2 2	小 小	これらより1科目2単位 選択必修	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論(幼小)	2	小		
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程方法論 保育・幼児教育課程論	2 2	小	これらより 1科目選択必修	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	保育方法論	2			
		幼児理解の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		幼児理解[含教育相談]	2			
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習指導 2 教育実習指導 3 教育実習指導 5 教育実習指導 6 教育実習 3 教育実習 4	1 1 1 1 2 2	小 小 小 小 小 小	「教育実習指導 2」 「教育実習指導 5」、 「教育実習指導 3」 「教育実習指導 6」の 組合せて2科目選択必修	
		学校体験活動						
		教職実践演習		2	保育・教職実践演習	2		
法定最低修得単位数(合計)			幼一：21 幼二：17	大学が定める単位数(合計)		幼一：28単位以上(法定最低+7単位)		

【幼稚園一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		共通開設	履修方法等
					必	選		
第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	幼一種 16 幼二種 12	国語概論〔含書写〕		2	小	これらより3科目 選択必修
				算数概論		2	小	
				生活科概論		2	小	
				音楽概論2 保育内容の理解と方法1		2		
				図画工作概論 保育内容の理解と方法2		2	小	
				2				
	2							
	2							
	2							
	2							
法定最低修得単位数（合計）			幼一：16 幼二：12	大学が定める単位数（合計）		幼一：18単位以上（法定最低+2単位）		

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		共通開設	履修方法等
					必	選		
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	幼一：14 幼二：2	-				最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 幼一：併せて14単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$($	表1で	$+$	表2で	$) - ($	表1の	$+$	表2の	$) + ($	※表3で	$) \geq$	幼一種：14 幼二種：2
		修得した単位数		修得した単位数		法定最低修得単位数		法定最低修得単位数		修得した単位数		
幼一種	(A	+	B) - (16	+	21) + (0)	\geq 14
幼二種	(C	+	D) - (12	+	17) + (0)	\geq 2

3. 教職課程履修要項 — 高等学校・中学校・小学校・幼稚園教員免許状取得のために

本学で取得可能な教員免許状

本学で取得できる免許状は、各学科・専攻ごとに次のように文部科学省から課程認定を受けています。

大学院文学研究科 (修士/博士前期課程)	学校種別	免許教科
大学院 英語英文学専攻	高等学校教諭 専修免許状	英語
	中学校教諭 専修免許状	
大学院 日本語日本文学専攻	高等学校教諭 専修免許状	国語
	中学校教諭 専修免許状	
大学院 史学専攻	高等学校教諭 専修免許状	地理歴史
	中学校教諭 専修免許状	社会
大学院 社会文化学専攻	高等学校教諭 専修免許状	公民
	中学校教諭 専修免許状	社会
大学院 哲学専攻	高等学校教諭 専修免許状	公民
	中学校教諭 専修免許状	社会
	高等学校教諭 専修免許状	宗教
	中学校教諭 専修免許状	
大学院 人間科学専攻	高等学校教諭 専修免許状	地理歴史
	高等学校教諭 専修免許状	公民
	中学校教諭 専修免許状	社会
	小学校教諭 専修免許状	
	幼稚園教諭 専修免許状	

現代教養学部	学校種別	免許教科
英語文化コミュニケーション学科	高等学校教諭 一種免許状	英語
	中学校教諭 一種免許状	
日本語日本文学科	高等学校教諭 一種免許状	国語
	中学校教諭 一種免許状	
史学科	高等学校教諭 一種免許状	地理歴史
哲学科	高等学校教諭 一種免許状	地理歴史
	高等学校教諭 一種免許状	公民
	中学校教諭 一種免許状	社会
	高等学校教諭 一種免許状	宗教
中学校教諭 一種免許状		
教育学科 (教育学専攻)	高等学校教諭 一種免許状	公民
	中学校教諭 一種免許状	社会
教育学科 (初等教育学専攻)	小学校教諭 一種免許状	
	幼稚園教諭 一種免許状	

教員免許状の取得要件

教員免許状を取得するためには、以下の基礎資格及び所定の単位を修得する必要があります。更に、小学校及び中学校の教員免許状を取得するためには、介護等体験が必要です。

●基礎資格等 (教育職員免許法第5条別表第1より抜粋)

第一欄		第二欄	第三欄
所要資格		基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数 教科及び教職に関する科目
免許状の種類			
幼稚園教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	75
	一種免許状	学士の学位を有すること。	51
	二種免許状	短期大学の学位を有すること。 ※B	31
小学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
	二種免許状	短期大学の学位を有すること。 ※B	37
中学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
	二種免許状	短期大学の学位を有すること。 ※B	35
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59

※A 大学院に1年以上在学し、30単位以上修得した場合を含む (同表備考第2号)

※B 大学に2年以上在学し、62単位以上修得した場合を含む (同表備考第2号及び免許法施行規則第66条の5)

●教科及び教職に関する科目の単位の修得方法

【幼稚園】 (免許法施行規則第2条より抜粋)

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状	
最低修得単位数	第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項 ※ 保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	16	16	12
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10	6

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第四欄	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 幼児理解の理論及び方法	4	4	4
	第五欄	教育実践に関する科目			
	第六欄	大学が独自に設定する科目	2	2	2

※「領域に関する専門的事項」の単位の修得方法は、健康、人間関係、環境、言葉及び表現の領域に関する専門的事項を含む科目のうち一以上の科目について修得するものとする。

【小学校】（免許法施行規則第3条より抜粋）

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状		
最低修得単位数	第二欄	教科に関する専門的事項 ※A 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ※B	30	30	16		
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	10	10	6		
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目				10	10
第五欄	教育実践に関する科目	5					
第六欄	大学が独自に設定する科目	2	2	2			

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、国語（書写を含む。）、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び英語の教科に関する専門的事項を含む科目のうち一以上の科目について修得するものとする。

※B 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては、国語等の教科の指導法に関する科目についてそれぞれ一単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあっては、六以上の教科の指導法に関する科目（音楽、図画工作又は体育の教科の指導法に関する科目のうち二以上を含む。）についてそれぞれ一単位以上を修得するものとする。

【中学校】（免許法施行規則第4条より抜粋）

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状		
最低修得単位数	第二欄	教科に関する専門的事項 ※A 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ※B	28	28	12		
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	10	10	6		
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目				10	10
第五欄	教育実践に関する科目	5					
第六欄	大学が独自に設定する科目	2	2	2			

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、次に掲げる免許教科の種類に応じ、それぞれ定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ一単位以上修得するものとする。これらは、一般的包括的な内容を含むものでなければならない。なお、以下「」内に示された事項は当該事項の一以上にわたって行うものとする。
 ・国語 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）、国文学（国文学史を含む。）、漢文学、書道（書写を中心とする。）
 ・社会 日本史・外国史、地理学（地誌を含む。）、「法律学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」
 ・英語 英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解
 ・宗教 宗教学、宗教史、「教育学、哲学」

※B 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」に関する科目の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては八単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあっては二単位以上を修得するものとする。

【高等学校】(免許法施行規則第6条より抜粋)

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	
最低修得単位数	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項 ※A 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) ※B	24	24
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10
			教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)					
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	8	8	
		特別活動の指導法			
		教育の方法及び技術			
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			
		生徒指導の理論及び方法			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法			
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	3	3	
		教職実践演習	2	2	
第六欄	大学が独自に設定する科目		36	12	

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、免許教科の種類に応じ、それぞれ定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ一単位以上修得するものとする。これらは、一般的包括的な内容を含むものでなければならない。なお、以下「」内に示された事項は当該事項の一以上にわたって行うものとする。
 ・国語 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)、国文学(国文学史を含む。)、漢文学
 ・地理歴史 日本史、外国史、人文地理学・自然地理学、地誌
 ・公民 「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」、「社会学、経済学(国際経済を含む。)」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」
 ・英語 英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解
 ・宗教 宗教学、宗教史、「教理学、哲学」

※B 「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)」に関する科目の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授受を受ける場合にあっては四単位以上を修得するものとする。

●免許法施行規則第六十六条の六に定める科目の単位の修得方法

【各免許状共通】

「日本国憲法2単位」、「体育2単位」、「外国語コミュニケーション2単位」、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作2単位」

●介護等体験

◆根拠法令

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律および施行規則(平成10年4月1日施行)

◆介護等の体験の期間(施行規則第1条より)

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律第二条第一項の文部科学省令で定める期間は7日間とする。(特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、計7日間)

◆介護等の体験を行う施設(施行規則第2条より)

児童福祉法に規定する施設、生活保護法に規定する施設、社会福祉法に規定する施設、老人福祉法に規定する施設、介護保険法に規定する施設、障害者自立支援法に規定する施設、文部科学大臣が認める施設等

履修上の注意

●全般

- 個別に相談すべき事項の生じたときは、教務課または直接その任に当たっている各学科・専攻の教職課程委員に連絡してください。
- 教職課程一般に関する連絡事項は、Sophie上に掲示するので、毎日必ず確認してください。
- 「教職課程履修カルテ」について
 2010年度以降入学者から、教職課程履修の際に「教職課程履修カルテ」の作成が義務付けられています。この「教職課程履修カルテ」は、各自学生が、各年次終了時に様式をSophieからダウンロード、記入して情報を蓄積した後、4年次に履修する科目「教職実践演習」で使用します。詳細は、別途説明会、Sophie掲示で確認してください。「教職課程履修カルテ」の提出がない場合、4年次後期に開講される「教職実践演習」の履修はできません。

●履修の手続き

- 教職課程の履修を希望する者は、毎年3月末から4月上旬に行われる学年別ガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日程等は、別に掲示します。
- 教職課程の履修を希望する者は、登録初年度に所属学科・専攻にて承認を受けた「教職課程履修希望調査フォーム」を教務課に送信して、登録をしなければなりません。詳細については、3月末から4月上旬に行われる学年別ガイダンスにて説明します。
- 上記登録は2年次に開始することを原則としますが、3年次以降に登録を希望する場合は、所属学科・専攻に相談の上、教務課にて所定の手続きをしてください。

●教職課程年間スケジュール

主な年間スケジュールは次のとおりです。

	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
3月末～4月		教職課程ガイダンス(履修概要)	教職課程ガイダンス(学校種別)	教育実習ガイダンス 教育実習諸費納入 教育実習録配布 免許状申請手続き
5月～		介護等体験ガイダンス(前年度申込者対象) 介護等体験費納入		教育実習開始
6月			教職課程履修カルテの提出	
7月			次年度都内公立校教育実習希望者ガイダンス 次年度姉妹校教育実習希望者対象ガイダンス	
9月				教職課程履修カルテの記入 教職課程履修カルテの提出の予定
10月	教職課程ガイダンス	教職課程ガイダンス		
11月				免許状申請手続き書類配布および説明会免許状申請料納入
12月	次年度介護等体験希望者対象ガイダンス(申込)			
1月		教育実習手続きガイダンス 教育実習手続き	教育実習学生調書提出	教職課程履修カルテの記入 教職課程履修カルテの提出の予定
3月	教職課程履修カルテの記入	教職課程履修カルテの記入	教職課程履修カルテの記入	免許状授与(卒業日)

<注1> 介護等体験については、1年次か2年次のどちらかの学年で申込みをし、申込年度の翌年度に合計7日間の介護等体験をする。
<注2> この他、介護等体験学生のための講演会等が複数回開催予定である。

介護等体験

●介護等体験とは

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律により、小学校や中学校教諭免許状取得を希望する者は、1998年度以降入学者から、特別支援学校ならびに社会福祉施設等での「介護等体験」が義務づけられました。本学では介護等体験を授業科目扱いとしていないため単位になりませんが、体験先から「介護等体験証明書」が発行されます。当該証明書は教員免許状申請に必要です。

●体験の期間

教員免許状の種類に応じて必要とされる介護等体験は次のとおりです。

取得希望免許状	介護等体験の要・不要および体験期間
高等学校教諭一種免許状	不要
中学校教諭一種、二種免許状	要7日間 (社会福祉施設5日、特別支援学校2日)
小学校教諭一種、二種免許状	要7日間 (社会福祉施設5日、特別支援学校2日)
幼稚園教諭一種、二種免許状	不要

●申込み手続き

介護等体験の学内申込みは、1年次後期または2年次後期のいずれか一方の所定期間に行います。期間内に所定の手続きをしない者は、翌年度の介護等体験を行うことができません。必ず1年次もしくは2年次後期に介護等体験申込みの手続きを行ってください。本学では、原則として4年次に介護等体験と教育実習の両方を行うことを認めません。

●体験先の決定方式

具体的な体験先の決定については、大学に一任する方式(大学交渉)のみです。大学は希望学生を取りまとめ、特別支援学校の体験申込みは教育委員会へ、社会福祉施設の体験申込みは社会福祉協議会へ申請し決定されます。

●介護等体験に関する注意事項

1. 介護等体験関係ガイダンスの取り扱い
介護等体験申込者は、介護等体験ガイダンス、事前指導および講演会等の出席が義務づけられています。
2. 体験期間中の大学の授業欠席の取り扱い
介護等体験に伴うやむを得ない大学の授業欠席は、所定の期間に公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入します。
3. 体験期間中の体験欠席についての取り扱い
病気その他のやむを得ない理由で介護等体験を欠席する場合は、速やかに体験先及び教務課に届け出て指示に従ってください。無断欠席は絶対にしてはなりません。
4. 介護等体験費
① 介護等体験を行う者は、介護等体験年度5月の所定期間に介護等体験費14,500円を納入しなければなりません。
② 一度納入された介護等体験費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

教育実習

●教育実習とは

本学で教員免許状取得を希望する者は、学部最終学年の4年次に取得を希望する免許に応じて高等学校、中学校、小学校、幼稚園のいずれかの教育現場で実習をします。教育実習は、授業科目として単位になります。

●実習校(園)と実習期間

1. 本学では取得希望免許状の種類と実習校(園)の種類を一致させることを原則としています。教員免許状の種類に応じて必要とされる実習校(園)と実習期間は次のとおりです。

取得希望免許状	実習校(園)	実習期間(単位)
高等学校教諭一種免許状のみ	高等学校	2週間(2単位)
中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状	中学校または高等学校	3週間(4単位)
小学校教諭一種、二種免許状	小学校	4週間(4単位)
幼稚園教諭一種、二種免許状	幼稚園	4週間(4単位)

2. 初等教育学専攻初等教育コース生が幼稚園の免許を取得する場合は、小学校で4週間の教育実習をすることで、幼稚園の教育実習は免除されます。
初等教育学専攻幼児教育コース生が小学校の免許を取得する場合は、幼稚園で4週間の教育実習をすることで、小学

校の教育実習は免除されます。

●教育実習手続き（教育実習要件）

1. 教育実習は4年次前期に履修登録しますが、そのための手続き（教育実習手続依頼フォームの送信）は2年次1月～3年次前期初めの所定の期間に行われます。期間内に所定の手続きを完了しない者は、4年次での教育実習を行うことはできません。
2. 教育実習は教職に就く意志のある者に限られます。希望者は、3年次の手続き（教育実習手続依頼フォームの送信）に先立って、各学科・専攻教職課程委員による、その意志の確認を受けなければなりません。
3. 4年次で教育実習を履修するためには、3年次の終わりにまでに教育実習履修資格要件を修得しておかなければなりません。教育実習履修資格要件を満たさない場合は、実習取り消しとなります。

教育実習履修資格要件は、中学校・高等学校（教科別）、小学校（学生所属別）、幼稚園（学生所属別）に次のとおり設定されています。

実習先	教育実習履修資格要件掲載ページ
中学校・高等学校	中学校・高等学校（履修要覧p.337参照）
小学校	初等教育学専攻初等教育コース（履修要覧p.337）
幼稚園	初等教育学専攻幼児教育コース（履修要覧p.337）

※協定校科目等履修生は別途、教育学科の指導に従ってください。

4. 教育実習履修資格要件に規定された科目のうち、時間割上他の専攻必修科目との重なりから当該年次中の履修が不可能な科目のある場合は、当該年次履修登録期間中に、所定の方法でその事情を教務課に届け出て指示に従ってください。
5. 教員免許状取得希望者で、留学を志望する者は速やかにその旨を教務課に届け出て指示に従ってください。

●実習校の決定方式

1. 具体的な実習校の決定については、それを大学に一任する方式（大学交渉）と、実習登録者が個人的に当該学校（園）と交渉のうえ決定する方式（個人交渉）とがあります。
 2. 大学交渉の場合には、都内公立校に希望できますが、実習校が決定する保証はありません。また、実習は指定された期間に行わなければなりません。
 3. 個人交渉の場合には、出身母校（園）やボランティア先等を希望し、各自で交渉します。また、実習は指定された期間に行わなければなりません。
- ※地方公立校の場合は、県外実習の受入れが可能か、別途所定手続きが必要かどうかを確かめてから交渉してください。

●教育実習に関する注意事項

1. 教職関係ガイダンスの取り扱い
教職課程を履修する者は、各学年次に指定された教職課程関係ガイダンスや教育実習ガイダンス等への出席が義務づけられています。
2. 実習期間中の大学の授業欠席の取り扱い
教育実習および教育実習事前打ち合わせに伴うやむを得ない大学の授業欠席は、所定の期間に公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入されます。
3. 実習期間中の実習欠席についての取り扱い
 - ① 病気その他のやむを得ない理由で教育実習を欠席する場

合は、速やかに実習先及び指導教員、教務課に届け出て指示に従ってください。無断欠席は絶対にしてはなりません。

- ② 教育実習期間中に教員採用試験以外の一般企業等の就職活動は認められません。

4. 教育実習諸費

- ① 教育実習を行う者は、教育実習年度4月の所定期間に教育実習諸費を納入しなければなりません。納入金額は以下のとおりです。

取得希望免許状	納入金額
高等学校教諭免許状のみ	2週間合計 23,000円
中学校と高等学校教諭免許状	3週間合計 28,000円
幼稚園／小学校教諭免許状	4週間合計 32,000円

- ② 一度納入された教育実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

●科目等履修生

科目等履修生として教育実習を希望する者は「聖心女子大学科目等履修生規程」および教育実習履修資格要件に規定された要件に従うほか、次の条件を満たさなければなりません。

- ① 実習校は個人交渉校とする。
- ② 教育実習予定年度の前々年度1月に行われる教育実習手続きガイダンスに出席していること。

4. 教職課程履修要項 — 2022年度入学者各学科別

はじめに

教員免許状取得のためには、以下のとおり、3年次の終わりまでに「教育実習の履修要件」を、卒業までに「教員免許状の取得要件」を満たす必要があります。

小学校及び中学校の教員免許状取得のためには、上記に加え、前述の介護等体験が必要です。

教育実習の履修要件について (p.337)

教育実習を行うにあたり、3年次の終わりまでに次の要件を満たしていることが必要です。

	教育実習の履修要件	チェック欄	該当頁
(1)	教育実習は教職に就く意志のある者に限られます。希望者は、2年次1月以降の手続き（「教育実習手続依頼フォーム」の送信）に先立って、各学科・専攻教職課程委員による、その意志の確認を受けていること。	<input type="checkbox"/>	—
(2)	教育実習は4年次に履修しますが、そのための手続き（「教育実習手続依頼フォーム」の送信）は2年次1月以降の所定の期間に行われます。期間内に所定の手続きを完了していること（完了しない者は、4年次での教育実習を行うことはできません）。	<input type="checkbox"/>	—
(3)	原則として全学必修分野の外国語科目（第一外国語及び第二外国語）を標準履修年次に修得していること。	<input type="checkbox"/>	—
(4)	3年次の終わりまでに該当記載の教育実習履修要件の科目を修得していること（教育実習履修要件を満たさない場合は、実習取り消しとなります）。	<input type="checkbox"/>	p.337
(5)	上記の条件に加えて、実習教科が英語又は国語の者は次の要件を満たしていることが必要です。 <国語の場合> ・3年次の終わりまでに「文章表現法」4単位分が修得済みであること。 <英語の場合> ・1年次の後期に行われる1年英語のGeneral Testにおいて、定められた点数を取得済みであること（General Testを2019年度までに受けた場合はListening Test及びStructure Testの合計点が120点以上であること。2020年度以降に受けた場合はListening&Structure/Vocabulary Testの合計点が650点以上であること。）。ただし、2年次終了時までに実用英語技能検定2級以上又はTOEIC500点以上のいずれかを取得していればこの条件を満たしているとみなす場合がある。 ・1、2年次の第一外国語必修科目全てを、原則として履修初年度に修得済みであること。	<input type="checkbox"/>	—

※教育実習履修要件のうち、時間割上所属学科・専攻必修科目との重複により当該年次中の履修が不可能な科目のある場合は、当該年次履修登録期間までに、その事情を教務課に申し出て指示に従ってください。

教員免許状の取得要件について (pp.337-351)

教員免許状の取得にあたり、4年次の終わりまでに次の要件を満たしていることが必要です。

表1～表3については、入学年度、所属学科・専攻並びに希望する免許種・教科によって参照すべき頁が異なりますので、注意してください。

	履修単位を計算する上でのチェックリスト	チェック欄	該当頁
(1)	「各免許状共通科目（免許法施行規則第六十六条の六に定める科目）」の4項目を満たした。	<input type="checkbox"/>	p.337
(2)	表1を満たした。 ・「単位数」欄で、「必」に単位数が記入されている科目全てを修得した。 ・「履修方法等」欄で、「○○単位/科目選択必修」等記入されている科目についてそのとおり修得した。 ・「大学が定める単位数（合計）」を満たした。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	p.339 ～ p.351 のうち 該当頁
(3)	表2を満たした。 ・「単位数」欄で、「必」に単位数が記入されている科目全てを修得した。 ・「履修方法等」欄で、「○○単位/科目選択必修」等記入されている科目についてそのとおり修得した。 ・「大学が定める単位数（合計）」を満たした。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	中高： p.338、 小： p.348、 幼： p.350
(4)	表3「大学が独自に設定する科目」に数えられる単位数を計算し、法定単位数を満たした。	<input type="checkbox"/>	p.339 ～ p.351 のうち 該当頁

【1】教育実習の履修要件について

◆中学校・高等学校における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
教育課程論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育実習指導 1	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育原理 教育経営、教育行政学 2 教育心理学Ⅱ、発達心理学 2 教育方法 [含ICT活用]	左の5つの区分の中から4区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	<input type="checkbox"/>
特別支援教育概論(中高)、道徳教育の理論と実践Ⅱ、総合的な学習の時間の指導法(中高)、特別活動Ⅱ、生徒指導 [含進路指導]Ⅱ、教育相談Ⅱ		
実習予定教科の指導法(〇〇科教育法)：必修8単位 (高校免許のみ希望する者は必修4単位)	修得済であること	<input type="checkbox"/>

※実習教科が英語科または国語科の者は、前述の要件も満たしていることが必要です。

◆小学校における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
教育原理 1	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育課程方法論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育実習指導 2	修得済であること	<input type="checkbox"/>
日本教育史 1、日本教育史 2、西洋教育史 2 教育経営と学校制度 教育心理学Ⅰ、発達心理学 1 教育方法 [含ICT活用]	左の5つの区分の中から4区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	<input type="checkbox"/>
特別支援教育概論(小学校)、道徳教育の理論と実践Ⅰ、総合的な学習の時間の指導法(小学校)、特別活動Ⅰ、生徒指導 [含進路指導]Ⅰ、教育相談Ⅰ		
各教科の指導法 (〇〇科教育法)	3科目以上修得済であること	<input type="checkbox"/>

※また、要件ではありませんが、音楽、図画工作、体育関係の科目を修得しておくことが望まれます。

◆幼稚園における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
保育原理	修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育・幼児教育課程論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育実習指導 3	修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育方法論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育内容総論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育原理 1、西洋教育史 2、日本教育史 1、日本教育史 2 教育経営と学校制度 教育心理学Ⅰ、発達心理学 1 幼児理解 [含教育相談]	左の4つの区分の中から3区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	<input type="checkbox"/>
子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと音楽表現、子どもと造形表現、保育内容の理解と方法 1、保育内容の理解と方法 2	左の8科目の中から2科目以上修得済であること	<input type="checkbox"/>
領域：健康 領域：人間関係 領域：環境 領域：言葉 領域：表現	左の5つの領域の中から2領域以上修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育内容 [健康] 保育内容 [人間関係] 保育内容 [環境] 保育内容 [言葉] 保育内容 [表現]		

※また、要件ではありませんが、音楽や造形関係の科目を修得しておくことが望まれます。

【2】教員免許状の取得要件について

◆各免許状共通科目(免許法施行規則第六十六条の六に定める科目)◆

科目区分	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
日本国憲法	2	憲法 1 憲法 2 憲法 3		2 2 2	これらより 2単位選択必修
体育	2	体育運動学 ウェルネス・ 身体活動(講義) ウェルネス・ 身体活動(実技)		2 1 1	これらより 2単位選択必修
外国語コミュニケーション	2	1年英語 1 1年英語 2		2 2	これらより 2単位選択必修
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	基礎情報処理技法 情報活用演習		2 2	これらより 2単位選択必修

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 共通】 カリキュラムマップ

◆表2◆

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における課程認定内容				履修年次	
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数			履修方法等
					必	選		
第二欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		1～4	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門Ⅱ	2		1～4	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育経営 教育行政学2	2 2	}	これらより 2単位選択必修	1～4
				比較教育学1 比較教育学2	2 2			
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学Ⅱ 発達心理学2	2 2	}	これらより 2単位選択必修	2～4
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論(中高)	2			
		教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2		2～4	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中学：10 高校：8	道徳教育の理論と実践Ⅱ	2		中免のみ「大学が定める単位数」として数えられる。 2～4	
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法(中高)	2		2～4	
		特別活動の指導法		特別活動Ⅱ	2		1～4	
		教育の方法及び技術		教育方法 [含ICT活用]	2		2～4	
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法						
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導[含進路指導]Ⅱ	2		1～4	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談Ⅱ	2		2～4	
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	中学：5 高校：3	教育実習指導1 教育実習指導4 教育実習1 教育実習2	1 1 2	2	中免のみ必修 3 4 4 4	
		学校体験活動						
		教職実践演習		2	教職実践演習(中学・高校)	2		4
法定最低修得単位数(合計)			中：27 高：23	大学が定める単位数(合計)	中学：34単位以上(法定最低+7単位) 高校：30単位以上(法定最低+7単位)			

※次頁以降「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)」は、下記の履修年次に修得することとする。

- ・2～3年次に修得する科目：英語科教育法2・3、国語科教育法2・3、宗教科教育法2・3、社会科教育法1・2
- ・3年次に修得する科目：英語科教育法1又は1(1)・(2)、国語科教育法1又は1(1)・(2)、宗教科教育法1又は1(1)・(2)、社会・地理歴史科教育法1・2、社会・公民科教育法1・2

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 英語】 英語文化コミュニケーション学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	中学：28 高校：24	英語学概論 ※1 英語学概論1、英語学概論2	4		これらより 1科目選択必修 これらより 1科目選択必修
				英語学			
				英語学特講1-1			
				英語学特講1-2			
				英語学特講2-1			
				英語学特講3-1			
				英語学特講3-2			
				英語学特講4-1			
				英語学特講4-2			
				英語学特講5-1			
英語学特講6-1							
英語学特講6-2							
英語文学							
英語文学史概説1							
英語文学史概説2							
米文学史概説1							
米文学史概説2							
英米文学特講2-1							
英米文学特講3-1							
英米文学特講3-2							
英米文学特講4-1							
英米文学特講4-2							
英米文学特講5-1							
英米文学特講5-2							
英米文学特講6-1							
英米文学特講6-2							
英米文学特講7-1							
英米文学特講7-2							
英米文学特講8-1							
英米文学特講8-2							
英語コミュニケーション							
英作文1							
英作文2							
英会話 ※1 英会話1、英会話2							
オラルコミュニケーション ※1 オラルコミュニケーション1、オラルコミュニケーション2							
メディア・コミュニケーション特講1							
メディア・コミュニケーション特講4-1							
メディア・コミュニケーション特講4-2							
メディア・コミュニケーション特講5-1							
メディア・コミュニケーション特講5-2							
メディア・コミュニケーション特講6-1							
メディア・コミュニケーション特講6-2							
メディア・コミュニケーション特講7-1							
メディア・コミュニケーション特講7-2							
メディア・コミュニケーション特講8-2							
異文化理解							
異文化理解							
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）							
英語科教育法1 ※3 英語科教育法1(1)、英語科教育法1(2)							
英語科教育法2							
英語科教育法3							
法定最低修得単位数（合計）			中：28 高：24	大学が定める単位数（合計）			中学：28単位以上 高校：24単位以上

- ※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。1と2はペアで履修してください。
- ※2 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。1と2のいずれか一方のみの履修でも、教職の単位として計上可能です。
- ※3 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)はペアで履修してください。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	中学：4 高校：12	道徳教育の理論と実践Ⅱ (高免のみ単位として数えられる)		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$(\text{表1で修得した単位数} + \text{表2で修得した単位数}) - (\text{表1の法定最低修得単位数} + \text{表2の法定最低修得単位数}) + (\text{※表3で修得した単位数}) \geq$	中：4 高：12
中学	$(\text{A} + \text{※B}) - (28 + 27) + (0) \geq$	4
高校	$(\text{C} + \text{D}) - (24 + 23) + (\text{※E(0又は2)}) \geq$	12

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 国語】 日本語日本文学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	中学：28 高校：24	日本語学概論Ⅰ ※1 日本語学概説1	2		これらより 4単位選択必修
				日本語学概論Ⅱ ※1 日本語学概説2	2		
				文章表現法 ※2 文章表現法(1)、文章表現法(2)	4		
				日本語の文法Ⅰ ※1 日本語の文法	2		
				日本語の文法Ⅱ	2		
				日本語学研究Ⅰ ※1 日本語学研究1	2		
				日本語学研究Ⅱ ※1 日本語学研究2	2		
				日本語学研究Ⅲ	2		
				日本語学研究Ⅳ	2		
				日本文学史Ⅰ ※1 日本文学史1	2		
日本文学史Ⅱ ※1 日本文学史2	2						
日本文学史Ⅲ ※1 日本文学史3	2						
日本文学史Ⅳ ※1 日本文学史4	2						
日本文学史Ⅴ ※1 日本文学史5	2						
日本文学史Ⅵ ※1 日本文学史6	2						
近代文学研究Ⅰ ※1 近代文学研究1	2						
近代文学研究Ⅱ ※1 近代文学研究2	2						
近代文学研究Ⅲ ※1 近代文学研究3	2						
近代文学研究Ⅳ ※1 近代文学研究4	2						
近代文学研究Ⅴ	2						
近代文学研究Ⅵ	2						
近代文学研究Ⅶ	2						
近代文学研究Ⅷ	2						
児童文学研究Ⅰ ※1 児童文学研究	2						
児童文学研究Ⅱ	2						
古典文学講読Ⅰ	2						
古典文学講読Ⅱ	2						
古典文学研究Ⅰ ※1 古典文学研究1	2						
古典文学研究Ⅱ ※1 古典文学研究2	2						
古典文学研究Ⅲ ※1 古典文学研究3	2						
古典文学研究Ⅳ ※1 古典文学研究4	2						
古典文学研究Ⅴ	2						
古典文学研究Ⅵ	2						
古典文学研究Ⅶ	2						
古典文学研究Ⅷ	2						
中国文学概論Ⅰ ※1 中国文学概論1	2		中学のみいずれか1科目 選択必修 ※中免のみ単位として数え られる。高免では表3の 単位数への算入も不可				
中国文学概論Ⅱ ※1 中国文学概論2	2						
書道Ⅰ ※1 書道	2		中学のみいずれか1科目 選択必修 ※中免のみ単位として数え られる。高免では表3の 単位数への算入も不可				
書道Ⅱ	2						
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)				国語科教育法1 ※2 国語科教育法1(1)、国語科教育法1(2)	4		※高免のみの場合は選択科目 ※高免のみの場合は選択科目
				国語科教育法2	2		
				国語科教育法3	2		
法定最低修得単位数(合計)			中：28 高：24	大学が定める単位数(合計)			中学：28単位以上 高校：24単位以上

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。

※2 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)はペアで履修してください。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	中学：4 高校：12	道徳教育の理論と実践Ⅱ (高免のみ単位として数えられる)		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 4$
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E(0又は2)} \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状 社会】 哲学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容					
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等		
					必	選			
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28	日本史概説 <2> 外国史概説 <2> ※2 西洋古代・中世哲学史Ⅰ ※1 西洋古代・中世哲学史1 西洋古代・中世哲学史Ⅱ ※1 西洋古代・中世哲学史2 西洋近代哲学史Ⅰ ※1 西洋近現代哲学史1 西洋近代哲学史Ⅱ ※1 西洋近現代哲学史2 日本倫理思想史Ⅰ ※1 日本思想史学概論1 日本倫理思想史Ⅱ ※1 日本思想史学概論2 社会思想史Ⅰ ※1 社会思想史1 社会思想史Ⅱ ※1 社会思想史2 西洋美術史Ⅰ ※1 西洋美術史1 西洋美術史Ⅱ ※1 西洋美術史2 東洋美術史Ⅰ ※1 東洋美術史1 東洋美術史Ⅱ ※1 東洋美術史2 日本美術史Ⅰ ※1 日本美術史1 日本美術史Ⅱ ※1 日本美術史2	2	4	これらより1科目 選択必修		
				人文地理学1 <2> 地誌学1 <2> 地誌学2 <2> 自然地理学1 <2> 自然地理学2 <2> 人文地理学2 <2>	2	2		①「法学 [含国際法] <2>」、 ②「法律学Ⅰ <2>」、③「政治学 1 <2>」及び「政治学2 <2>」、 の①～③より1つ選択必修	
				「法学 [含国際法] <2> ※1 法律学Ⅰ <2> 政治学1 <2> 政治学2 <2>	4	2			
				「社会学、経済学」	社会学 <2> ※2 マクロ経済学 <2> 経済政策論 <2>	4		2	①「社会学<2>」、②「マクロ経 済学<2>」及び「経済政策論<2>」、 の①②いずれか一方選択必修
				「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論Ⅰ ※1 哲学概論1 哲学概論Ⅱ ※1 哲学概論2 倫理学概論Ⅰ ※1 倫理学概論1 倫理学概論Ⅱ ※1 倫理学概論2 キリスト教概論Ⅰ ※1 キリスト教概論1 キリスト教概論Ⅱ ※1 キリスト教概論2 キリスト教倫理Ⅰ ※1 宗教学特講3 宗教思想史Ⅰ ※1 宗教思想史1 宗教思想史Ⅱ ※1 宗教思想史2 キリスト教思想史Ⅰ ※1 キリスト教思想史1 キリスト教思想史Ⅱ ※1 キリスト教思想史2 宗教学概論Ⅰ ※1 宗教学概論1 宗教学概論Ⅱ ※1 宗教学概論2 宗教学特講Ⅰ ※1 宗教学特講1 宗教学特講Ⅱ ※1 宗教学特講2 新約聖書学Ⅰ ※1 聖書学特講2 新約聖書学Ⅱ 美学・芸術学概論Ⅰ ※1 美学・芸術学概論1 美学・芸術学概論Ⅱ ※1 美学・芸術学概論2 旧約聖書学Ⅰ ※1 聖書学特講1 旧約聖書学Ⅱ 哲学・倫理学特講Ⅰ ※1 哲学・倫理学特講1 哲学・倫理学特講Ⅱ ※1 哲学・倫理学特講2 哲学・倫理学特講Ⅲ ※1 哲学・倫理学特講3 哲学・倫理学特講Ⅳ ※1 哲学・倫理学特講4 哲学・倫理学特講Ⅴ ※1 哲学・倫理学特講5 哲学・倫理学特講Ⅵ ※1 哲学・倫理学特講6 哲学・倫理学特講Ⅶ ※1 哲学・倫理学特講7 哲学・倫理学特講Ⅷ ※1 哲学・倫理学特講8 哲学・倫理学特講Ⅸ 哲学・倫理学特講Ⅹ 哲学・倫理学特講Ⅺ 哲学・倫理学特講Ⅻ 哲学・倫理学特講Ⅼ 哲学・倫理学特講Ⅽ	2		2	これらより1科目 選択必修
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	社会科教育法1 社会科教育法2 社会・地理歴史科教育法1 社会・地理歴史科教育法2 社会・公民科教育法1 社会・公民科教育法2	2	2	「社会・地理歴史科教育法1」 「社会・地理歴史科教育法2」、 「社会・公民科教育法1」 「社会・公民科教育法2」の 組合せで4単位選択必修					
法定最低修得単位数 (合計)			中：28	大学が定める単位数 (合計)		中学：28単位以上			

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。
 ※2 2023年度以降、同じ科目名称で単位が2単位となります。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	4	-			法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 4$
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E} (0 \text{又は} 2) \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 地理歴史】 哲学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	日本史概説<2>	2		これらより1科目選択必修
				日本古代史I		4	
				日本古代史I-1 ※1 日本古代史1(1)		2	
				日本古代史I-2 ※1 日本古代史1(2)		2	
				日本中世史I		4	
				日本中世史I-1 ※1 日本中世史1(1)		2	
日本中世史I-2 ※1 日本中世史1(2)		2					
日本近世史II		4					
日本近世史II-1		2					
日本近世史II-2		2					
日本近現代史II		4					
日本近現代史II-1 ※1 日本近現代史2(1)		2					
日本近現代史II-2		2					
日本文化史II ※1 日本文化史2		2					
日本美術史I ※1 日本美術史1		2					
日本美術史II ※1 日本美術史2		2					
日本倫理思想史I ※1 日本思想史学概論1		2					
日本倫理思想史II ※1 日本思想史学概論2		2					
外国史概説<2> ※2	4						
中国古代史 ※1 中国史		4					
東南アジア史		4					
南アジア近代史 ※1 南アジア史		4					
西アジア近代史 ※1 西アジア史(1)、西アジア史(2)		4					
古代ローマ史 ※1 古代地中海世界		4					
ヨーロッパ中世史II		4					
ヨーロッパ近代史I ※1 ヨーロッパ近代史1(1)、ヨーロッパ近代史1(2)		4					
ヨーロッパ現代史I ※1 ヨーロッパ現代史1(1)、ヨーロッパ現代史1(2)		4					
ロシア文化史 ※1 ロシア史		4					
西洋古代・中世哲学史I ※1 西洋古代・中世哲学史1		2					
西洋古代・中世哲学史II ※1 西洋古代・中世哲学史2		2					
西洋近代哲学史I ※1 西洋近現代哲学史1		2					
西洋近代哲学史II ※1 西洋近現代哲学史2		2					
西洋美術史I ※1 西洋美術史1		2					
西洋美術史II ※1 西洋美術史2		2					
東洋美術史I ※1 東洋美術史1		2					
東洋美術史II ※1 東洋美術史2		2					
哲学史特講		4					
人文地理学・自然地理学		2					
自然地理学1<2>		2					
自然地理学2<2>		2					
人文地理学2<2>		2					
地誌		2					
地誌学1<2>		2					
地誌学2<2>		2					
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		2					
社会科教育法1		2					
社会・地理歴史科教育法1		2					
社会・地理歴史科教育法2		2					
法定最低修得単位数(合計)	高:24	大学が定める単位数(合計)	高校:24単位以上				

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)に分かれた科目は、いずれか一方のみの履修でも、教職の単位として計上可能です。

※2 2023年度以降、同じ科目名称で単位が2単位となります。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道徳教育の理論と実践II		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校:併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{l} \text{中: 4} \\ \text{高: 12} \end{array}$
中学	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{C} \end{array} + \begin{array}{c} \text{※B} \\ \text{D} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 28 \\ 24 \end{array} + \begin{array}{c} 27 \\ 23 \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \\ \text{※E(0又は2)} \end{array} \right) \geq \begin{array}{l} 4 \\ 12 \end{array}$

※「道徳教育の理論と実践II」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 公民】 哲学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容							
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等				
					必	選					
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	法律学〔含国際法〕<2> ※1 法律学I<2>		4	①「法律学〔含国際法〕<2>」、②「法律学I<2>」、③「政治学1<2>」及び「政治学2<2>」の①～③より1つ選択必修				
				政治学1<2>		2					
				政治学2<2>		2					
								社会学<2> ※2		4	①「社会学<2>」、②「マクロ経済学<2>」及び「経済政策論<2>」の①②いずれか一方選択必修
							マクロ経済学<2>		2		
								経済政策論<2>		2	
								哲学概論I ※1 哲学概論1		2	これらより1科目選択必修
								哲学概論II ※1 哲学概論2		2	
								倫理学概論I ※1 倫理学概論1		2	
								倫理学概論II ※1 倫理学概論2		2	
				キリスト教学概論I ※1 キリスト教学概論1		2					
				キリスト教学概論II ※1 キリスト教学概論2		2					
				キリスト教倫理学I ※1 宗教学特講3		2					
				旧約聖書学I ※1 聖書学特講1		2					
				旧約聖書学II		2					
				新約聖書学I ※1 聖書学特講2		2					
				新約聖書学II		2					
				宗教思想史I ※1 宗教思想史1		2					
				宗教思想史II ※1 宗教思想史2		2					
				宗教学概論I ※1 宗教学概論1		2					
				宗教学概論II ※1 宗教学概論2		2					
				宗教学特講I ※1 宗教学特講1		2					
				宗教学特講II ※1 宗教学特講2		2					
				美学・芸術学概論I ※1 美学・芸術学概論1		2					
				美学・芸術学概論II ※1 美学・芸術学概論2		2					
				哲学・倫理学特講I ※1 哲学・倫理学特講1		2					
				哲学・倫理学特講II ※1 哲学・倫理学特講2		2					
				哲学・倫理学特講III ※1 哲学・倫理学特講3		2					
				哲学・倫理学特講IV ※1 哲学・倫理学特講4		2					
				哲学・倫理学特講V ※1 哲学・倫理学特講5		2					
				哲学・倫理学特講VI ※1 哲学・倫理学特講6		2					
				哲学・倫理学特講VII ※1 哲学・倫理学特講7		2					
				哲学・倫理学特講VIII ※1 哲学・倫理学特講8		2					
				哲学・倫理学特講IX		2					
				哲学・倫理学特講X		2					
				哲学・倫理学特講XI		2					
				哲学・倫理学特講XII		2					
				哲学・倫理学特講XIII		2					
				哲学・倫理学特講XIV		2					
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目									
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		社会科教育法2		2					
				社会・公民科教育法1		2					
				社会・公民科教育法2		2					
法定最低修得単位数（合計）			高：24	大学が定める単位数（合計）		高校：24単位以上					

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。
 ※2 2023年度以降、同じ科目名称で単位が2単位となります。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道徳教育の理論と実践II		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$(\text{表1で修得した単位数} + \text{表2で修得した単位数}) - (\text{法定最低修得単位数} + \text{法定最低修得単位数}) + (\text{※表3で修得した単位数}) \geq$	中：4 高：12
中学	$(\text{A} + \text{※B}) - (28 + 27) + (0) \geq$	4
高校	$(\text{C} + \text{D}) - (24 + 23) + (\text{※E (0又は2)}) \geq$	12

※「道徳教育の理論と実践II」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 宗教】 哲学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	中学：28 高校：24	比較文化宗教学 1 <2>		2	これらより 2科目選択必修
				比較文化宗教学 2 <2>		2	
				比較文化宗教学 3 <2>		2	
				キリスト教学概論Ⅰ ※1 キリスト教学概論1		2	
				キリスト教学概論Ⅱ ※1 キリスト教学概論2		2	
				宗教学概論Ⅰ ※1 宗教学概論1		2	
				宗教学概論Ⅱ ※1 宗教学概論2		2	
				宗教学特講Ⅰ ※1 宗教学特講1		2	
				宗教学特講Ⅱ ※1 宗教学特講2		2	
				新約聖書学Ⅰ ※1 聖書学特講2		2	
新約聖書学Ⅱ		2					
旧約聖書学Ⅰ ※1 聖書学特講1		2					
旧約聖書学Ⅱ		2					
宗教史		2	これらより1科目 選択必修				
宗教思想史Ⅰ ※1 宗教思想史1		2					
宗教思想史Ⅱ ※1 宗教思想史2		2					
キリスト教思想史Ⅰ ※1 キリスト教思想史1		2					
キリスト教思想史Ⅱ ※1 キリスト教思想史2		2					
キリスト教美術 ※1 キリスト教美術(1)、キリスト教美術(2)		4					
キリスト教音楽 ※1 キリスト教音楽(1)、キリスト教音楽(2)		4					
キリスト教文学 ※1 キリスト教文学(1)、キリスト教文学(2)		4					
「教理学、哲学」		2	これらより1科目 選択必修				
哲学概論Ⅰ ※1 哲学概論1		2					
哲学概論Ⅱ ※1 哲学概論2		2					
倫理学概論Ⅰ ※1 倫理学概論1		2					
倫理学概論Ⅱ ※1 倫理学概論2		2					
キリスト教倫理学Ⅰ ※1 宗教学特講3		2					
キリスト教学特講Ⅱ ※1 キリスト教学特講2(1)、キリスト教学特講2(2)		4					
キリスト教学特講Ⅲ ※1 キリスト教学特講3(1)、キリスト教学特講3(2)		4					
キリスト教学特講Ⅳ		4					
美学・芸術学概論Ⅰ ※1 美学・芸術学概論1		2					
美学・芸術学概論Ⅱ ※1 美学・芸術学概論2		2					
哲学・倫理学特講Ⅰ ※1 哲学・倫理学特講1		2					
哲学・倫理学特講Ⅱ ※1 哲学・倫理学特講2		2					
哲学・倫理学特講Ⅲ ※1 哲学・倫理学特講3		2					
哲学・倫理学特講Ⅳ ※1 哲学・倫理学特講4		2					
哲学・倫理学特講Ⅴ ※1 哲学・倫理学特講5		2					
哲学・倫理学特講Ⅵ ※1 哲学・倫理学特講6		2					
哲学・倫理学特講Ⅶ ※1 哲学・倫理学特講7		2					
哲学・倫理学特講Ⅷ ※1 哲学・倫理学特講8		2					
哲学・倫理学特講Ⅸ		2					
哲学・倫理学特講Ⅹ		2					
哲学・倫理学特講Ⅺ		2					
哲学・倫理学特講Ⅻ		2					
哲学・倫理学特講Ⅼ		2					
宗教科教育法1 ※2 宗教科教育法1(1)、宗教科教育法1(2)		4	※高免のみ場合は選択科目 ※高免のみ場合は選択科目				
宗教科教育法2		2					
宗教科教育法3		2					
法定最低修得単位数(合計)		中：28 高：24	大学が定める単位数(合計)		中：28単位以上 高：24単位以上		

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)に分かれた科目は、いずれか一方のみの履修でも、教職の単位として計上可能です。
 ※2 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)はペアで履修してください。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	中学：4 高校：12	道徳教育の理論と実践Ⅱ (高免のみ単位として数えられる)		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{※B} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 28 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 27 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 4$
高校	$\left(\begin{array}{c} \text{C} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{D} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 24 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 23 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※E(0又は2)} \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 地理歴史】 史学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	日本史概説	2		これらより1科目 選択必修
				日本中世史Ⅱ-1		2	
				日本近世史Ⅰ		4	
				日本近世史Ⅰ-1 ※1 日本近世史1(1)		2	
				日本近世史Ⅰ-2 ※1 日本近世史1(2)		2	
				日本近現代史Ⅰ		4	
日本近現代史Ⅰ-1 ※1 日本近現代史1(1)		2					
日本近現代史Ⅰ-2 ※1 日本近現代史1(2)		2					
日本考古学 ※2		4					
日本民俗学 ※2		4					
日本文化史Ⅰ ※1 日本文化史1		2					
外国史	4						
外国史概説 ※2		4					
中国近代史 ※1 中国史		4					
朝鮮近現代史 ※1 朝鮮史		4					
西アジア文化史		4					
古代オリエント史 ※1 古代地中海世界		4					
ヨーロッパ中世史Ⅰ ※1 ヨーロッパ中世史1(1)、ヨーロッパ中世史1(2)		4					
ヨーロッパ近代史Ⅱ		4					
ヨーロッパ現代史Ⅱ		4					
アメリカ史 ※1 アメリカ史(1)		4					
ラテンアメリカ史		4					
人文地理学・自然地理学	2						
人文地理学1<1>		2					
自然地理学1<1>		2					
自然地理学2<1>							
人文地理学2<1>		2					
地誌	2						
地誌学1		2					
地誌学2		2					
地誌学		2					
世界音楽地誌		4					
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	2						
社会科教育法1		2					
社会・地理歴史科教育法1		2					
社会・地理歴史科教育法2		2					
法定最低修得単位数(合計)	高:24	大学が定める単位数(合計)	高校:24単位以上				

※1 2023年度以降の科目名称です。単位は全て2単位です。(1)と(2)に分かれた科目は、いずれか一方のみの履修でも、教職の単位として計上可能です。
 ※2 2023年度以降、同じ科目名称で単位が2単位となります。

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道德教育の理論と実践Ⅱ		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校:併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中: 4} \\ \text{高: 12} \end{array}$
中学	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{※B} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 28 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 27 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 4$
高校	$\left(\begin{array}{c} \text{C} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{D} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 24 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 23 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※E(0又は2)} \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 12$

※「道德教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状 社会】 教育学科 教育学専攻

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28	日本史概説 <3>	2	}	これらより1科目 選択必修
				外国史概説 <3>	4		
				人文地理学1 <3>	2		
				地誌学1 <3>	2		
				地誌学2 <3>	2		
				自然地理学1 <3>	2		
				自然地理学2 <3>	2		
人文地理学2 <3>	2						
「法律学、政治学」	法律学 [含国際法] <3>	4	}	①「法律学 [含国際法] <3>」、 ②「政治学1 <3>」及び「政治学2 <3>」 の①②いずれか一方選択必修			
	政治学1 <3>	2					
	政治学2 <3>	2					
「社会学、経済学」	社会学 <3>	4	}	①「社会学<3>」、②「マクロ経済学<3>」 及び「経済政策論<3>」の①②いずれか 一方選択必修			
	マクロ経済学 <3>	2					
	経済政策論 <3>	2					
	社会学概論1	2					
	社会学概論2	2					
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論Ⅰ <3>	2	}				
	哲学概論Ⅱ <3>	2					
	教育哲学2	2					
	西洋社会思想	2					
	キリスト教学特講Ⅰ	4					
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	社会科教育法1	2	}	「社会・地理歴史科教育法1」 「社会・地理歴史科教育法2」、 「社会・公民科教育法1」 「社会・公民科教育法2」 の組合せて4単位選択必修			
	社会科教育法2	2					
	社会・地理歴史科教育法1	2					
	社会・地理歴史科教育法2	2					
	社会・公民科教育法1	2					
	社会・公民科教育法2	2					
法定最低修得単位数 (合計)	中：28	大学が定める単位数 (合計)	中学：34単位以上 (法定最低+6単位)				

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	4	-			法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 4$
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E} (0 \text{又は} 2) \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 公民】 教育学科 教育学専攻

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等	
					必	選		
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学 [含国際法] <3> 政治学 1 <3> 政治学 2 <3>	4 2 2	①「法学 [含国際法] <3>」、 ②「政治学 1 <3>」及び「政治学 2 <3>」 の①②いずれか一方選択必修	
				「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会学 <3> マクロ経済学 <3> 経済政策論 <3> 社会学概論 1 社会学概論 2	4 2 2 2 2		①「社会学<3>」、②「マクロ経済学<3>」 及び「経済政策論<3>」の①②いずれか 一方選択必修
				「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概論Ⅰ <3> 哲学概論Ⅱ <3> 教育哲学 2 西洋社会思想 キリスト教学特講Ⅰ	2 2 2 2 4		
				教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
				各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科教育法 2 社会・公民科教育法 1 社会・公民科教育法 2	2 2 2		
法定最低修得単位数（合計）			高：24	大学が定める単位数（合計）		高校：24単位以上		

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道徳教育の理論と実践Ⅱ		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{l} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 4$
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E} (0 \text{ 又は } 2) \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践Ⅱ」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【小学校一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表2◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		共通開設	履修方法等
					必	選		
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	小一 10 小二 6	教育原理 1 教育原理 2 日本教育史 1 日本教育史 2 西洋教育史 2	2		幼 幼 幼 幼 幼	これらより 1科目選択必修
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門 I	2			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育経営と学校制度	2		幼	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 I 発達心理学 1		2 2	幼 幼	これらより1科目 選択必修
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論（小学校）	2			
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程方法論	2		幼	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	小一 10 小二 6	道徳教育の理論と実践 I	2			
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法（小学校）	2			
		特別活動の指導法		特別活動 I	2			
		教育の方法及び技術		教育方法 [含ICT活用]	2			
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		生徒指導 [含進路指導] I	2			
		生徒指導の理論及び方法		教育相談 I	2			
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法						
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習指導 2 教育実習指導 3 教育実習指導 5 教育実習指導 6 教育実習 3 教育実習 4		1 1 1 1 1 1	幼 幼 幼 幼 幼 幼	「教育実習指導 2」 「教育実習指導 5」、 「教育実習指導 3」 「教育実習指導 6」 の組合せで2科目選択必修
		学校体験活動						
		教職実践演習		2	教職実践演習（小学校）	2		
法定最低修得単位数（合計）			小一：27 小二：19	大学が定める単位数（合計）		小一：34単位以上（法定最低+7単位）		

【小学校一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等	
					必	選		
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小一：30 小二：16	国語概論〔含書写〕		2	これらより5科目 選択必修	
				社会		2		
				算数		2		
				理科		2		
				生活		2		
				音楽		2		
				図画工作		2		
				家庭		2		
				体育		2		
				外国語		2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
	(情報通信技術の活用を含む) 各教科の指導法				国語科教育法〔小学校〕	2		
					社会科教育法〔小学校〕	2		
					算数科教育法	2		
					理科教育法	2		
					生活科教育法	2		
					音楽科教育法	2		
					図画工作科教育法	2		
					家庭科教育法	2		
					体育科教育法	2		
外国語教育法(小学校)					2			
法定最低修得単位数(合計)			小一：30 小二：16	大学が定める単位数(合計)		小一：30単位以上		

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	2	-			最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、併せて2単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

なお、本学では、「大学が定める単位数」を満たせば、下記数式は成立するカリキュラムとなっている。

	$(\text{表1で修得した単位数} + \text{表2で修得した単位数}) - (\text{表1の法定最低修得単位数} + \text{表2の法定最低修得単位数}) + (\text{※表3で修得した単位数}) \geq$	小一：2 小二：2
小一：種	$(\text{A} + \text{B}) - (30 + 27) + (0) \geq$	2
小二：種	$(\text{C} + \text{D}) - (16 + 19) + (0) \geq$	2

【幼稚園一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表2◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		共通開設	履修方法等
					必	選		
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	幼一種 10 幼二種 6	教育原理1 教育原理2 保育原理 日本教育史1 日本教育史2 西洋教育史2	2 2 2 2 2	2 2 2 2	小 小 小 小 小	これらより 1科目選択必修
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		保育者論	2			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育経営と学校制度	2		小	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学I 発達心理学1	2 2	小 小	これらより1科目2単位 選択必修	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育・保育総論	2			小
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程方法論 保育・幼児教育課程論	2 2	小	これらより 1科目選択必修	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	保育方法論	2			
		幼児理解の理論及び方法		幼児理解[含教育相談]	2			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法						
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習指導2 教育実習指導3 教育実習指導5 教育実習指導6 教育実習3 教育実習4	1 1 1 1 2 2	小 小 小 小 小 小	「教育実習指導2」 「教育実習指導5」、 「教育実習指導3」 「教育実習指導6」の 組合せで2科目選択必修	
		学校体験活動						
		教職実践演習		2	保育・教職実践演習	2		
法定最低修得単位数(合計)			幼一：21 幼二：17	大学が定める単位数(合計)		幼一：28単位以上(法定最低+7単位)		

【幼稚園一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等	
					必	選		
第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する事項	健康	幼一種 16	子どもと健康		2	これらより3科目 選択必修	
		人間関係		子どもと人間関係		2		
		環境		子どもと環境		2		
		言葉		子どもと言葉		2		
		表現		子どもと音楽表現 子どもと造形表現		2 2		
	領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	保育内容の理解と方法1 保育内容の理解と方法2	幼二種 12			2 2		
				保育内容総論 保育内容〔健康〕 保育内容〔人間関係〕 保育内容〔言葉〕 保育内容〔環境〕 保育内容〔表現〕		2 2 2 2 2		
	法定最低修得単位数（合計）			幼一：16 幼二：12	大学が定める単位数（合計）		幼一：18単位以上（法定最低+2単位）	

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	幼一：14 幼二：2	-			最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 幼一：併せて14単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{幼一種：14} \\ \text{幼二種：2} \end{array}$
幼一種	$\left(\text{A} + \text{B} \right) - \left(16 + 21 \right) + \left(0 \right) \geq 14$
幼二種	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(12 + 17 \right) + \left(0 \right) \geq 2$

5. 教職課程履修要項 — 高等学校・中学校・小学校・幼稚園教員免許状取得のために

本学で取得可能な教員免許状

本学で取得できる免許状は、各学科・専攻ごとに次のように文部科学省から課程認定を受けています。

大学院文学研究科 (修士／博士前期課程)	学校種別	免許教科
大学院 英語英文学専攻	高等学校教諭 専修免許状	英語
	中学校教諭 専修免許状	
大学院 日本語日本文学専攻	高等学校教諭 専修免許状	国語
	中学校教諭 専修免許状	
大学院 史学専攻	高等学校教諭 専修免許状	地理歴史
	中学校教諭 専修免許状	社会
大学院 社会文化学専攻	高等学校教諭 専修免許状	公民
	中学校教諭 専修免許状	社会
大学院 哲学専攻	高等学校教諭 専修免許状	公民
	中学校教諭 専修免許状	社会
	高等学校教諭 専修免許状	宗教
	中学校教諭 専修免許状	
大学院 人間科学専攻	高等学校教諭 専修免許状	地理歴史
	高等学校教諭 専修免許状	公民
	中学校教諭 専修免許状	社会
	小学校教諭 専修免許状	
	幼稚園教諭 専修免許状	

現代教養学部	学校種別	免許教科
英語文化コミュニケーション学科	高等学校教諭 一種免許状	英語
	中学校教諭 一種免許状	
日本語日本文学科	高等学校教諭 一種免許状	国語
	中学校教諭 一種免許状	
史学科	高等学校教諭 一種免許状	地理歴史
	高等学校教諭 一種免許状	地理歴史
哲学科	高等学校教諭 一種免許状	公民
	中学校教諭 一種免許状	社会
	高等学校教諭 一種免許状	宗教
	中学校教諭 一種免許状	
教育学科 (教育学専攻)	高等学校教諭 一種免許状	公民
	中学校教諭 一種免許状	社会
教育学科 (初等教育学専攻)	小学校教諭 一種免許状	
	幼稚園教諭 一種免許状	

教員免許状の取得要件

教員免許状を取得するためには、以下の基礎資格及び所定の単位を修得する必要があります。更に、小学校及び中学校の教員免許状を取得するためには、介護等体験が必要です。

●基礎資格等 (教育職員免許法第5条別表第1より抜粋)

第一欄		第二欄	第三欄
所要資格		基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数
免許状の種類			教科及び教職に関する科目
幼稚園教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	75
	一種免許状	学士の学位を有すること。	51
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。 ※B	31
小学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。 ※B	37
中学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。 ※B	35
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。 ※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59

※A 大学院に1年以上在学し、30単位以上修得した場合を含む (同表備考第2号)

※B 大学に2年以上在学し、62単位以上修得した場合を含む (同表備考第2号及び免許法施行規則第66条の5)

●教科及び教職に関する科目の単位の修得方法

【幼稚園】 (免許法施行規則第2条より抜粋)

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状	
最低修得単位数	第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項 ※ 保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	16	16	12
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10	6

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第四欄	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 幼児理解の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	4	4
	第五欄	教育実践に関する科目	5	5	5
	第六欄	大学が独自に設定する科目	2	2	2
			38	14	2

※「領域に関する専門的事項」の単位の修得方法は、健康、人間関係、環境、言葉及び表現の領域に関する専門的事項を含む科目のうち一以上の科目について修得するものとする。

【小学校】（免許法施行規則第3条より抜粋）

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第二欄	教科に関する専門的事項 ※A 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ※B	30	30	16
	第三欄	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	10	10	6
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	10	10	6
	第五欄	教育実践に関する科目	5	5	5
	第六欄	大学が独自に設定する科目	2	2	2
			26	2	2

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、国語（書写を含む。）、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び英語の教科に関する専門的事項を含む科目のうち一以上の科目について修得するものとする。

※B 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては、国語等の教科の指導法に関する科目についてそれぞれ一単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあっては、六以上の教科の指導法に関する科目（音楽、図画工作又は体育の教科の指導法に関する科目のうち二以上を含む。）についてそれぞれ一単位以上を修得するものとする。

【中学校】（免許法施行規則第4条より抜粋）

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第二欄	教科に関する専門的事項 ※A 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ※B	28	28	12
	第三欄	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	10	10	6
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	10	10	6
	第五欄	教育実践に関する科目	5	5	5
	第六欄	大学が独自に設定する科目	2	2	2
			28	4	4

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、次に掲げる免許教科の種類に応じ、それぞれ定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ一単位以上修得するものとする。これらは、一般的包括的な内容を含むものでなければならない。なお、以下「」内に示された事項は当該事項の一以上にわたって行うものとする。
・国語 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）、国文学（国文学史を含む。）、漢文学、書道（書写を中心とする。）
・社会 日本史・外国史、地理学（地誌を含む。）、「法律学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」
・英語 英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解
・宗教 宗教学、宗教史、「教育学、哲学」

※B 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」に関する科目の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては八単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあっては二単位以上を修得するものとする。

【高等学校】（免許法施行規則第6条より抜粋）

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状
最低修得単位数	第二欄	教科に関する専門的事項 ※A 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ※B	24	24
	第三欄	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）				
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	8	8
		特別活動の指導法		
		教育の方法及び技術		
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
		生徒指導の理論及び方法		
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	3	3
		教職実践演習	2	2
第六欄	大学が独自に設定する科目		36	12

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、免許教科の種類に応じ、それぞれ定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ一単位以上修得するものとする。これらは、一般的包括的な内容を含むものでなければならない。なお、以下「 」内に示された事項は当該事項の一以上にわたって行うものとする。

- ・国語 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）、国文学（国文学史を含む。）、漢文学
- ・地理歴史 日本史、外国史、人文地理学・自然地理学、地誌
- ・公民 「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」
- ・英語 英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解
- ・宗教 宗教学、宗教史、「教理学、哲学」

※B 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」に関する科目の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては四単位以上を修得するものとする。

●免許法施行規則第六十六条の六に定める科目の単位の修得方法

【各免許状共通】

「日本国憲法2単位」、「体育2単位」、「外国語コミュニケーション2単位」、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作2単位」

●介護等体験

◆根拠法令

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律および施行規則（平成10年4月1日施行）

◆介護等の体験の期間（施行規則第1条より）

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律第二条第一項の文部科学省令で定める期間は7日間とする。（特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、計7日間）

◆介護等の体験を行う施設（施行規則第2条より）

児童福祉法に規定する施設、生活保護法に規定する施設、社会福祉法に規定する施設、老人福祉法に規定する施設、介護保険法に規定する施設、障害者自立支援法に規定する施設、文部科学大臣が認める施設等

履修上の注意

●全般

1. 個別に相談すべき事項の生じたときは、教務課または直接その任に当たっている各学科・専攻の教職課程委員に連絡してください。
2. 教職課程一般に関する連絡事項は、Sophie上に掲示するので、毎日必ず確認してください。
3. 「教職課程履修カルテ」について
2010年度以降入学者から、教職課程履修の際に「教職課程履修カルテ」の作成が義務付けられています。この「教職課程履修カルテ」は、各自学生が、各年次終了時に様式をSophieからダウンロード、記入して情報を蓄積した後、4年次に履修する科目「教職実践演習」で使用します。詳細は、別途説明会、Sophie掲示で確認してください。「教職課程履修カルテ」の提出がない場合、4年次後期に開講される「教職実践演習」の履修はできません。

●履修の手続き

1. 教職課程の履修を希望する者は、毎年3月末から4月上旬に行われる学年別ガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日程等は、別に掲示します。
2. 教職課程の履修を希望する者は、登録初年度に所属学科・専攻にて承認を受けた「教職課程履修希望調査フォーム」を教務課に送信して、登録をしなければなりません。詳細については、3月末から4月上旬に行われる学年別ガイダンスにて説明します。
3. 上記登録は2年次に開始することを原則としますが、3年次以降に登録を希望する場合は、所属学科・専攻に相談の上、教務課にて所定の手続きをしてください。

●教職課程年間スケジュール

主な年間スケジュールは次のとおりです。

	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
3月末～4月		教職課程ガイダンス(履修概要)	教職課程ガイダンス(学校種別)	教育実習ガイダンス 教育実習諸費納入 教育実習録配布 免許状申請手続き
5月～		介護等体験ガイダンス(前年度申込者対象) 介護等体験費納入		教育実習開始
6月			教職課程履修カルテの提出	
7月			次年度都内公立校教育実習希望者ガイダンス 次年度姉妹校教育実習希望者対象ガイダンス	
9月				教職課程履修カルテの記入 教職課程履修カルテの提出の予定
10月	教職課程ガイダンス	教職課程ガイダンス		
11月				免許状申請手続き書類配布および説明会免許状申請料納入
12月	次年度介護等体験希望者対象ガイダンス(申込)			
1月		教育実習手続きガイダンス 教育実習手続き	教育実習学生調書提出	教職課程履修カルテの記入 教職課程履修カルテの提出の予定
3月	教職課程履修カルテの記入	教職課程履修カルテの記入	教職課程履修カルテの記入	免許状授与(卒業日)

<注1> 介護等体験については、1年次か2年次のどちらかの学年で申込みをし、申込年度の翌年度に合計7日間の介護等体験をする。
<注2> この他、介護等体験学生のための講演会等が複数回開催予定である。

介護等体験

●介護等体験とは

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律により、小学校や中学校教諭免許状取得を希望する者は、1998年度以降入学者から、特別支援学校ならびに社会福祉施設等での「介護等体験」が義務づけられました。本学では介護等体験を授業科目扱いとしていないため単位になりませんが、体験先から「介護等体験証明書」が発行されます。当該証明書は教員免許状申請に必要です。

●体験の期間

教員免許状の種類に応じて必要とされる介護等体験は次のとおりです。

取得希望免許状	介護等体験の要・不要および体験期間
高等学校教諭一種免許状	不要
中学校教諭一種、二種免許状	要7日間 (社会福祉施設5日、特別支援学校2日)
小学校教諭一種、二種免許状	要7日間 (社会福祉施設5日、特別支援学校2日)
幼稚園教諭一種、二種免許状	不要

●申込み手続き

介護等体験の学内申込みは、1年次後期または2年次後期のいずれか一方の所定期間に行います。期間内に所定の手続きをしない者は、翌年度の介護等体験を行うことができません。必ず1年次もしくは2年次後期に介護等体験申込みの手続きを行ってください。本学では、原則として4年次に介護等体験と教育実習の両方を行うことを認めません。

●体験先の決定方式

具体的な体験先の決定については、大学に一任する方式(大学交渉)のみです。大学は希望学生を取りまとめ、特別支援学校の体験申込みは教育委員会へ、社会福祉施設の体験申込みは社会福祉協議会へ申請し決定されます。

●介護等体験に関する注意事項

1. 介護等体験関係ガイダンスの取り扱い
介護等体験申込者は、介護等体験ガイダンス、事前指導および講演会等の出席が義務づけられています。
2. 体験期間中の大学の授業欠席の取り扱い
介護等体験に伴うやむを得ない大学の授業欠席は、所定の期間に公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入します。
3. 体験期間中の体験欠席についての取り扱い
病気その他のやむを得ない理由で介護等体験を欠席する場合は、速やかに体験先及び教務課に届け出て指示に従ってください。無断欠席は絶対にはなりません。
4. 介護等体験費
① 介護等体験を行う者は、介護等体験年度5月の所定期間に介護等体験費14,500円を納入しなければなりません。
② 一度納入された介護等体験費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

教育実習

●教育実習とは

本学で教員免許状取得を希望する者は、学部最終学年の4年次に取得を希望する免許に応じて高等学校、中学校、小学校、幼稚園のいずれかの教育現場で実習をします。教育実習は、授業科目として単位になります。

●実習校(園)と実習期間

1. 本学では取得希望免許状の種類と実習校(園)の種類を一致させることを原則としています。教員免許状の種類に応じて必要とされる実習校(園)と実習期間は次のとおりです。

取得希望免許状	実習校(園)	実習期間(単位)
高等学校教諭一種免許状のみ	高等学校	2週間(2単位)
中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状	中学校または高等学校	3週間(4単位)
小学校教諭一種、二種免許状	小学校	4週間(4単位)
幼稚園教諭一種、二種免許状	幼稚園	4週間(4単位)

2. 初等教育学専攻初等教育コース生が幼稚園の免許を取得する場合は、小学校で4週間の教育実習をすることで、幼稚園の教育実習は免除されます。
初等教育学専攻幼児教育コース生が小学校の免許を取得する場合は、幼稚園で4週間の教育実習をすることで、小学

校の教育実習は免除されます。

●教育実習手続き（教育実習要件）

1. 教育実習は4年次前期に履修登録しますが、そのための手続き（教育実習手続依頼フォームの送信）は2年次1月～3年次前期初めの所定の期間に行われます。期間内に所定の手続きを完了しない者は、4年次での教育実習を行うことはできません。
2. 教育実習は教職に就く意志のある者に限られます。希望者は、3年次の手続き（教育実習手続依頼フォームの送信）に先立って、各学科・専攻教職課程委員による、その意志の確認を受けなければなりません。
3. 4年次で教育実習を履修するためには、3年次の終わりまでに教育実習履修資格要件を修得しておかなければなりません。教育実習履修資格要件を満たさない場合は、実習取り消しとなります。

教育実習履修資格要件は、中学校・高等学校（教科別）、小学校（学生所属別）、幼稚園（学生所属別）に次のとおり設定されています。

実習先	教育実習履修資格要件掲載ページ
中学校・高等学校	中学校・高等学校（履修要覧p.358参照）
小学校	初等教育学専攻初等教育コース（履修要覧p.358）
幼稚園	初等教育学専攻幼児教育コース（履修要覧p.358）

※協定校科目等履修生は別途、教育学科の指導に従ってください。

4. 教育実習履修資格要件に規定された科目のうち、時間割上他の専攻必修科目との重なりから当該年次中の履修が不可能な科目のある場合は、当該年次履修登録期間中に、所定の方法でその事情を教務課に届け出て指示に従ってください。
5. 教員免許状取得希望者で、留学を志望する者は速やかにその旨を教務課に届け出て指示に従ってください。

●実習校の決定方式

1. 具体的な実習校の決定については、それを大学に一任する方式（大学交渉）と、実習登録者が個人的に当該学校（園）と交渉のうえ決定する方式（個人交渉）とがあります。
2. 大学交渉の場合には、都内公立校に希望できますが、実習校が決定する保証はありません。また、実習は指定された期間に行わなければなりません。
3. 個人交渉の場合には、出身母校（園）やボランティア先等を希望し、各自で交渉します。また、実習は指定された期間に行わなければなりません。

※地方公立校の場合は、県外実習の受入れが可能か、別途所定手続きが必要かどうかを確かめてから交渉してください。

●教育実習に関する注意事項

1. 教職関係ガイダンスの取り扱い
教職課程を履修する者は、各学年次に指定された教職課程関係ガイダンスや教育実習ガイダンス等への出席が義務づけられています。
2. 実習期間中の大学の授業欠席の取り扱い
教育実習および教育実習事前打ち合わせに伴うやむを得ない大学の授業欠席は、所定の期間に公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入されます。
3. 実習期間中の実習欠席についての取り扱い
① 病気その他のやむを得ない理由で教育実習を欠席する場

合は、速やかに実習先及び指導教員、教務課に届け出て指示に従ってください。無断欠席は絶対にはなりません。

- ② 教育実習期間中に教員採用試験以外の一般企業等の就職活動は認められません。

4. 教育実習諸費

- ① 教育実習を行う者は、教育実習年度4月の所定期間に教育実習諸費を納入しなければなりません。納入金額は以下のとおりです。

取得希望免許状	納入金額
高等学校教諭免許状のみ	2週間合計 23,000円
中学校と高等学校教諭免許状	3週間合計 28,000円
幼稚園／小学校教諭免許状	4週間合計 32,000円

- ② 一度納入された教育実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

●科目等履修生

科目等履修生として教育実習を希望する者は「聖心女子大学科目等履修生規程」および教育実習履修資格要件に規定された要件に従うほか、次の条件を満たさなければなりません。

- ① 実習校は個人交渉校とする。
- ② 教育実習予定年度の前々年度1月に行われる教育実習手続きガイダンスに出席していること。

6. 教職課程履修要項 — 2023年度以降入学者各学科別

はじめに

教員免許状取得のためには、以下のとおり、3年次の終わりまでに「教育実習の履修要件」を、卒業までに「教員免許状の取得要件」を満たす必要があります。

小学校及び中学校の教員免許状取得のためには、上記に加え、前述の介護等体験が必要です。

教育実習の履修要件について (p.358)

教育実習を行うにあたり、3年次の終わりまでに次の要件を満たしていることが必要です。

	教育実習の履修要件	チェック欄	該当頁
(1)	教育実習は教職に就く意志のある者に限られます。希望者は、2年次1月以降の手続き（「教育実習手続依頼フォーム」の送信）に先立って、各学科・専攻教職課程委員による、その意志の確認を受けていること。	<input type="checkbox"/>	—
(2)	教育実習は4年次に履修しますが、そのための手続き（「教育実習手続依頼フォーム」の送信）は2年次1月以降の所定の期間に行われます。期間内に所定の手続きを完了していること（完了しない者は、4年次での教育実習を行うことはできません）。	<input type="checkbox"/>	—
(3)	原則として全学必修分野の外国語科目（第一外国語及び第二外国語）を標準履修年次に修得していること。	<input type="checkbox"/>	—
(4)	3年次の終わりまでに該当記載の教育実習履修要件の科目を修得していること（教育実習履修要件を満たさない場合は、実習取り消しとなります）。	<input type="checkbox"/>	p.358
(5)	上記の条件に加えて、実習教科が英語又は国語の者は次の要件を満たしていることが必要です。 <国語の場合> ・3年次の終わりまでに「文章表現法(1)」が修得済みであること。 <英語の場合> ・1年次の後期に行われる1年英語のGeneral Testにおいて、定められた点数を取得済みであること（Listening&Structure/Vocabulary Testの合計点が650点以上であること。）。ただし、2年次終了時までに実用英語技能検定2級以上又はTOEIC500点以上のいずれかを取得していればこの条件を満たしているものとみなす場合がある。 ・1、2年次の第一外国語必修科目全てを、原則として履修初年度に修得済みであること。	<input type="checkbox"/>	—

※教育実習履修要件のうち、時間割上所属学科・専攻必修科目との重複により当該年次中の履修が不可能な科目のある場合は、当該年次履修登録期間までに、その事情を教務課に申し出て指示に従ってください。

教員免許状の取得要件について (pp.358-372)

教員免許状の取得にあたり、4年次の終わりまでに次の要件を満たしていることが必要です。

表1～表3については、入学年度、所属学科・専攻並びに希望する免許種・教科によって参照すべき頁が異なりますので、注意してください。

	履修単位を計算する上でのチェックリスト	チェック欄	該当頁
(1)	「各免許状共通科目（免許法施行規則第六十六条の六に定める科目）」の4項目を満たした。	<input type="checkbox"/>	p.358
(2)	表1を満たした。 ・「単位数」欄で、「必」に単位数が記入されている科目全てを修得した。 ・「履修方法等」欄で、「〇〇単位/科目選択必修」等記入されている科目についてそのとおり修得した。 ・「大学が定める単位数（合計）」を満たした。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	p.360 ～ p.372 のうち 該当頁
(3)	表2を満たした。 ・「単位数」欄で、「必」に単位数が記入されている科目全てを修得した。 ・「履修方法等」欄で、「〇〇単位/科目選択必修」等記入されている科目についてそのとおり修得した。 ・「大学が定める単位数（合計）」を満たした。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	中高： p.359、 小： p.369、 幼： p.371
(4)	表3「大学が独自に設定する科目」に数えられる単位数を計算し、法定単位数を満たした。	<input type="checkbox"/>	p.360 ～ p.372 のうち 該当頁

【1】教育実習の履修要件について

◆中学校・高等学校における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
カリキュラム論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育実習指導 1	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育原理 2 教育経営と学校制度 教育心理学、発達心理学 2 教育方法 [含ICT活用]	左の5つの区分の中から4区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	<input type="checkbox"/>
特別支援教育概論、道徳教育の理論と実践、総合的な学習の時間の指導法、特別活動、生徒指導 [含進路指導]、教育相談		
実習予定教科の指導法 (〇〇科教育法) : 必修8単位 (高校免許のみ希望する者は必修4単位)	修得済であること	<input type="checkbox"/>

※実習教科が英語科または国語科の者は、前述の要件も満たしていることが必要です。

◆小学校における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
教育原理 1	修得済であること	<input type="checkbox"/>
カリキュラム論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育実習指導 2	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育経営と学校制度 教育心理学、発達心理学 1 教育方法 [含ICT活用]	左の4つの区分の中から3区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	<input type="checkbox"/>
特別支援教育概論、道徳教育の理論と実践、総合的な学習の時間の指導法、特別活動、生徒指導 [含進路指導]、教育相談		
各教科の指導法 (〇〇科教育法)	3科目以上修得済であること	<input type="checkbox"/>

※また、要件ではありませんが、音楽、図画工作、体育関係の科目を修得しておくことが望まれます。

◆幼稚園における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
保育原理	修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育・幼児教育課程論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育実習指導 3	修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育方法論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育内容総論	修得済であること	<input type="checkbox"/>
教育原理 1 教育経営と学校制度 教育心理学、発達心理学 1	左の4つの区分の中から3区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること	<input type="checkbox"/>
子ども理解と援助		
子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと音楽表現、子どもと造形表現、保育内容の理解と方法 1、保育内容の理解と方法 2	左の8科目の中から2科目以上修得済であること	<input type="checkbox"/>
領域：健康 領域：人間関係 領域：環境 領域：言葉 領域：表現	左の5つの領域の中から2領域以上修得済であること	<input type="checkbox"/>
保育内容 [健康]		
保育内容 [人間関係]		
保育内容 [環境]		
保育内容 [言葉]		
保育内容 [表現]		

※また、要件ではありませんが、音楽や造形関係の科目を修得しておくことが望まれます。

【2】教員免許状の取得要件について

◆各免許状共通科目 (免許法施行規則第六十六条の六に定める科目)◆

科目区分	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
日本国憲法	2	憲法 1 憲法 2	2	2	これらより 2単位選択必修
体育	2	ウェルネス・身体活動 (講義) ウェルネス・身体活動 (実技)	1	1	
外国語コミュニケーション	2	1年英語 1 1年英語 2	2	2	これらより 2単位選択必修
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	基礎情報処理技法 情報活用演習	2	2	

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 共通】 カリキュラムマップ

◆表2◆

第一欄	免許法施行規則に定める科目区分等			本学における課程認定内容			履修年次	
	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数			履修方法等
					必	選		
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理2	2		1～4	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2		1～4	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育経営と学校制度	2		1～4	
				比較教育学1	2			
				比較教育学2	2			
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2] これらより1科目 選択必修	2～4	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		発達心理学2	2			
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	特別支援教育概論	2		2～4				
	カリキュラム論	2		2～4				
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中学：10 高校：8	道徳教育の理論と実践	2	中免のみ「大学が定める単位数」として数えられる。	2～4	
		総合的な学習の時間の指導法 ※1		総合的な学習の時間の指導法	2		2～4	
		特別活動の指導法		特別活動	2		1～4	
		教育の方法及び技術		教育方法 [含ICT活用]	2		2～4	
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		生徒指導 [含進路指導]	2		1～4	
		生徒指導の理論及び方法		教育相談	2		2～4	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法						
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	中学：5 高校：3	教育実習指導1	1	中免のみ必修	3	
				教育実習指導4	1		4	
		学校体験活動	2	教育実習1	2		4	
教職実践演習	2	教育実習2	2	4				
	法定最低修得単位数(合計)	中：27 高：23	大学が定める単位数(合計)	中学：32単位以上(法定最低+5単位) 高校：28単位以上(法定最低+5単位)				

※1 高等学校一種免許状においては「総合的な探究の時間の指導法」

※2 次頁以降「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)」は、下記の履修年次に修得することとする。

・2～3年次に修得する科目：英語科教育法2・3、国語科教育法2・3、宗教科教育法2・3、社会科教育法1・2

・3年次に修得する科目：英語科教育法1(1)・(2)、国語科教育法1(1)・(2)、宗教科教育法1(1)・(2)、社会・地理歴史科教育法1・2、社会・公民科教育法1・2

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 英語】 英語文化コミュニケーション学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	中学：28 高校：24	英語学概論1	2		
				英語学概論2	2		
				英語史1	2		
				英語史2	2		
				英文法	2		
				英語学特講1-1	2		
				英語学特講1-2	2		
				英語学特講2-1	2		
				英語学特講3-1	2		
				英語学特講3-2	2		
英語学特講4-1	2						
英語学特講4-2	2						
英語学特講5-1	2						
英語学特講6-1	2						
英語学特講6-2	2						
				英文学史概説1	2		これらより 1科目選択必修
				英文学史概説2	2		
				米文学史概説1	2		これらより 1科目選択必修
				米文学史概説2	2		
				英米文学特講2-1	2		
				英米文学特講3-1	2		
				英米文学特講3-2	2		
				英米文学特講4-1	2		
				英米文学特講4-2	2		
				英米文学特講5-1	2		
				英米文学特講5-2	2		
				英米文学特講6-1	2		
				英米文学特講6-2	2		
				英米文学特講7-1	2		
				英米文学特講7-2	2		
				英米文学特講8-1	2		
				英米文学特講8-2	2		
				英作文1	2		英会話1及び2、又は、 オラルコミュニケーション1及び2、の いずれかをペアで4単位 選択必修
				英作文2	2		
				英会話1	2		
				英会話2	2		
				オラルコミュニケーション1	2		
				オラルコミュニケーション2	2		
				メディア・コミュニケーション特講1	2		
				メディア・コミュニケーション特講4-1	2		
				メディア・コミュニケーション特講4-2	2		
				メディア・コミュニケーション特講5-1	2		
				メディア・コミュニケーション特講5-2	2		
				メディア・コミュニケーション特講6-1	2		
				メディア・コミュニケーション特講6-2	2		
				メディア・コミュニケーション特講7-1	2		
				メディア・コミュニケーション特講7-2	2		
				メディア・コミュニケーション特講8-2	2		
				異文化理解	2		
				英語科教育法1(1)	2		※高免のみの場合は選択科目 ※高免のみの場合は選択科目
				英語科教育法1(2)	2		
				英語科教育法2	2		
				英語科教育法3	2		
			法定最低修得単位数(合計)	中：28 高：24	大学が定める単位数(合計)		中：28単位以上 高：24単位以上

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第二欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	中学：4 高校：12	道徳教育の理論と実践 (高免のみ単位として数えられる)	2		法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 4$
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E(0又は2)} \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 国語】 日本語日本文学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学概説1	2	2	これらより 2科目選択必修
				日本語学概説2	2		
				文章表現法(1)	2		
				日本語史概説1	2		
				日本語史概説2	2		
				日本語の文法	2		
日本語学研究1	2						
日本語学研究2	2						
日本文学史1	2	中学のみ必修 ※中免のみ単位として数えられる。高免では表3の単位数への算入も不可					
日本文学史2	2						
日本文学史3	2						
日本文学史4	2						
日本文学史5	2						
日本文学史6	2						
近代文学研究1	2						
近代文学研究2	2						
近代文学研究3	2						
近代文学研究4	2						
児童文学研究	2	※高免のみの場合は選択科目 ※高免のみの場合は選択科目					
古典文学研究1	2						
古典文学研究2	2						
古典文学研究3	2						
漢文学	中国文学概論1	2	2				
中国文学概論2	2						
書道 (書写を中心とする。)	書道	2	2				
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法1(1)	2	2				
	国語科教育法1(2)	2					
	国語科教育法2	2					
	国語科教育法3	2					
法定最低修得単位数(合計)	中:28 高:24	大学が定める単位数(合計)	中学:28単位以上 高校:24単位以上				

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	中学:4 高校:12	道徳教育の理論と実践 (高免のみ単位として数えられる)		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学:併せて4単位以上を修得 高校:併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中:4} \\ \text{高:12} \end{array}$
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 4$
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E}(0 \text{又は} 2) \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状 社会】 哲学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28	日本史概説	2		
				外国史概説	2		
				西洋古代・中世哲学史1	2		
				西洋古代・中世哲学史2	2		
				西洋近現代哲学史1	2		
				西洋近現代哲学史2	2		
				日本思想史学概論1	2		
				日本思想史学概論2	2		
				社会思想史1	2		
				社会思想史2	2		
西洋美術史1	2						
西洋美術史2	2						
東洋美術史1	2						
東洋美術史2	2						
日本美術史1	2						
日本美術史2	2						
日本近現代史2(1)	2						
日本文化史1	2						
中国史	2						
西アジア史(2)	2						
ヨーロッパ中世史1(1)	2						
ヨーロッパ近代史1(1)	2						
ヨーロッパ現代史1(1)	2						
地理学(地誌を含む。)	人文地理学	2	これらより1科目 選択必修				
	地誌学	2					
	自然地理学	2					
	「法学、政治学」	法学Ⅰ	2	①「社会学」、 ②「マクロ経済学」及び「経済政策論」、 の①②いずれか一方選択必修			
		政治学Ⅰ	2				
	「社会学、経済学」	社会学	2				
		マクロ経済学	2	これらより1科目 選択必修			
		経済政策論	2				
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論1	2				
		哲学概論2	2				
		倫理学概論1	2				
		倫理学概論2	2				
		キリスト教学概論1	2				
		キリスト教学概論2	2				
		宗教思想史1	2				
		宗教思想史2	2				
		キリスト教思想史1	2				
		キリスト教思想史2	2				
		宗教学概論1	2				
		宗教学概論2	2				
		宗教学特講1	2				
		宗教学特講2	2				
		宗教学特講3	2				
		聖書学特講1	2				
		聖書学特講2	2				
		キリスト教学特講1(1)	2				
		キリスト教学特講1(2)	2				
		美学・芸術学概論1	2				
		美学・芸術学概論2	2				
		哲学・倫理学特講1	2				
		哲学・倫理学特講2	2				
		哲学・倫理学特講3	2				
		哲学・倫理学特講4	2				
		哲学・倫理学特講5	2				
		哲学・倫理学特講6	2				
		哲学・倫理学特講7	2				
		哲学・倫理学特講8	2				
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	社会科教育法1	2	「社会・地理歴史科教育法1」 「社会・地理歴史科教育法2」、 「社会・公民科教育法1」 「社会・公民科教育法2」の 組合せて4単位選択必修			
		社会科教育法2	2				
		社会・地理歴史科教育法1	2				
		社会・地理歴史科教育法2	2				
		社会・公民科教育法1	2				
		社会・公民科教育法2	2				
法定最低修得単位数(合計)			中:28	大学が定める単位数(合計)	中学:28単位以上		

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	4	-			法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学:併せて4単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中:4} \\ \text{高:12} \end{array}$
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 4$
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E(0又は2)} \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状 宗教】 哲学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等	
					必	選		
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	中学：28 高校：24	キリスト教学概論1		2	これらより 2科目選択必修	
				キリスト教学概論2		2		
				宗教学概論1		2		
				宗教学概論2		2		
				宗教学特講1		2		
				宗教学特講2		2		
				聖書学特講1		2		
				聖書学特講2		2		
				宗教思想史1		2		これらより 1科目選択必修
				宗教思想史2		2		
キリスト教思想史1		2						
キリスト教思想史2		2						
キリスト教美術(1)		2						
キリスト教美術(2)		2						
キリスト教音楽(1)		2						
キリスト教音楽(2)		2						
キリスト教文学(1)		2	これらより 1科目選択必修					
キリスト教文学(2)		2						
哲学概論1		2						
哲学概論2		2						
倫理学概論1		2						
倫理学概論2		2						
宗教学特講3		2						
キリスト教学特講1(1)		2						
キリスト教学特講1(2)		2						
キリスト教学特講2(1)		2						
キリスト教学特講2(2)		2						
キリスト教学特講3(1)		2						
キリスト教学特講3(2)		2						
美学・芸術学概論1		2						
美学・芸術学概論2		2						
哲学・倫理学特講1		2						
哲学・倫理学特講2		2						
哲学・倫理学特講3		2						
哲学・倫理学特講4		2						
哲学・倫理学特講5		2						
哲学・倫理学特講6		2						
哲学・倫理学特講7		2						
哲学・倫理学特講8		2						
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			宗教科教育法1(1)		2	※高免のみの場合は選択科目 ※高免のみの場合は選択科目	
				宗教科教育法1(2)		2		
				宗教科教育法2		2		
				宗教科教育法3		2		
法定最低修得単位数(合計)			中：28 高：24	大学が定める単位数(合計)		中学：28単位以上 高校：24単位以上		

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第二欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	中学：4 高校：12	道徳教育の理論と実践 (高免のみ単位として数えられる)		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	(表1で 修得した単位数) + (表2で 修得した単位数) - (表1の 法定最低修得単位数 + 表2の 法定最低修得単位数) + (※表3で 修得した単位数) ≧ 中：4 高：12
中学	(A + ※B) - (28 + 27) + (0) ≧ 4
高校	(C + D) - (24 + 23) + (※E(0又は2)) ≧ 12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 地理歴史】 史学科

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	日本史概説	2		
				日本考古学	2		
				日本民俗学	2		
				日本文化史1	2		
				日本文化史2	2		
				日本古代史1(1)	2		
				日本古代史1(2)	2		
日本中世史1(1)	2						
日本中世史1(2)	2						
日本近世史1(1)	2						
日本近世史1(2)	2						
日本近現代史1(1)	2						
日本近現代史1(2)	2						
日本近現代史2(1)	2						
		外国史概説	2				
		中国史	2				
		朝鮮史	2				
		西アジア史(1)	2				
		西アジア史(2)	2				
		南アジア史	2				
		古代地中海世界	2				
		ヨーロッパ中世史1(1)	2				
		ヨーロッパ中世史1(2)	2				
		ヨーロッパ近代史1(1)	2				
		ヨーロッパ近代史1(2)	2				
		ヨーロッパ現代史1(1)	2				
		ヨーロッパ現代史1(2)	2				
		ロシア史	2				
		アメリカ史(1)	2				
		人文地理学	2				
		自然地理学	2				
		地誌	2				
		地誌学	2				
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		2			
				2			
				2			
		法定最低修得単位数(合計)	高:24	大学が定める単位数(合計)		高校:24単位以上	

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道徳教育の理論と実践		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校:併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{中:4} \\ \text{高:12} \end{array}$
中学	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{※B} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 28 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 27 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 4$
高校	$\left(\begin{array}{c} \text{C} \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} \text{D} \\ \text{□} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 24 \\ \text{□} \end{array} + \begin{array}{c} 23 \\ \text{□} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※E(0又は2)} \\ \text{□} \end{array} \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【中学校一種免許状 社会】 教育学科 教育学専攻

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28	日本史・外国史	日本史概説 <3>	2	これらより 1科目選択必修
				地理学 (地誌を含む。)	外国史概説	2	
				「法学、政治学」	人文地理学	2	
				「社会学、経済学」	地誌学	2	
					自然地理学	2	
		「哲学、倫理学、宗教学」		法学Ⅰ	2	①「社会学」、②「マクロ経済学<3>」 及び「経済政策論<3>」、の ①②いずれか一方選択必修	
				政治学Ⅰ <3>	2		
				社会学	2		
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		マクロ経済学 <3>	2	①「社会学」、②「マクロ経済学<3>」 及び「経済政策論<3>」、の ①②いずれか一方選択必修	
				経済政策論 <3>	2		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会学概論Ⅰ	2	「社会・地理歴史科教育法Ⅰ」 「社会・地理歴史科教育法Ⅱ」、 「社会・公民科教育法Ⅰ」 「社会・公民科教育法Ⅱ」 の組合せて4単位選択必修				
	社会学概論Ⅱ	2					
	教育哲学Ⅱ	2					
	西洋社会思想	2					
	キリスト教学特講Ⅰ (1)	2					
キリスト教学特講Ⅰ (2)	2						
法定最低修得単位数 (合計)			中：28	大学が定める単位数 (合計)		中学：28単位以上	

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	4	-			法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 中学：併せて4単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq$	中：4 高：12
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq$	4
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E} (0 \text{又は} 2) \right) \geq$	12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【高等学校一種免許状 公民】 教育学科 教育学専攻

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項 「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 「社会学、経済学（国際経済を含む。）」 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	24	法学Ⅰ 政治学Ⅰ<3>	2	}	これらより 1科目選択必修
				社会学 マクロ経済学<3> 経済政策論<3> 社会学概論1 社会学概論2	2 2 2 2		
				哲学概論Ⅰ<3> 哲学概論Ⅱ<3> 教育哲学2 西洋社会思想 キリスト教学特講1(1) キリスト教学特講1(2)	2 2 2 2 2 2		
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		社会科教育法2 社会・公民科教育法1 社会・公民科教育法2	2 2 2		
法定最低修得単位数（合計）			高：24	大学が定める単位数（合計）		高校：24単位以上	

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	12	道徳教育の理論と実践		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 高校：併せて12単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{l} \text{中：4} \\ \text{高：12} \end{array}$
中学	$\left(\text{A} + \text{※B} \right) - \left(28 + 27 \right) + \left(0 \right) \geq 4$
高校	$\left(\text{C} + \text{D} \right) - \left(24 + 23 \right) + \left(\text{※E} (0 \text{又は} 2) \right) \geq 12$

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、2単位分を計上する。

【小学校一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表2◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		共幼小 通開設	履修方法等
					必	選		
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	小一種 10 小二種 6	教育原理 1 日本教育史 外国教育史	2	2 2	幼 小 小	これらより1科目 選択必修
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育経営と学校制度	2		幼	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学 1		2 2	幼 幼	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	2		幼	
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	2		幼	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	小一種 10 小二種 6	道徳教育の理論と実践	2			
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	2			
		特別活動の指導法		特別活動	2			
		教育の方法及び技術		教育方法 [含ICT活用]	2			
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		生徒指導 [含進路指導]	2			
		生徒指導の理論及び方法		進路指導 [含進路指導]	2			
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談	2			
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法								
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習指導 2 教育実習指導 3 教育実習指導 5 教育実習指導 6 教育実習 3 教育実習 4		1 1 1 1 2 2	幼 幼 幼 幼 幼 幼	「教育実習指導 2」 「教育実習指導 5」、 「教育実習指導 3」 「教育実習指導 6」 の組合せで2科目選択必修
		学校体験活動						
		教職実践演習		2	教職実践演習	2		
法定最低修得単位数（合計）			小一：27 小二：19	大学が定める単位数（合計）		小一：32単位以上（法定最低+5単位）		

【小学校一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小一：30 小二：16	国語概論〔含書写〕		2	これらより5科目 選択必修
				社会科概論		2	
				算数概論		2	
				理科概論		2	
				生活科概論		2	
				音楽概論		2	
				図画工作概論		2	
				家庭科概論		2	
				体育概論		2	
				外国語概論		2	
	(情報通信技術の活用を含む) 各教科の指導法	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	小一：30 小二：16	国語科教育法(小学校)	2		
				社会科教育法(小学校)	2		
				算数科教育法	2		
				理科教育法	2		
				生活科教育法	2		
				音楽科教育法	2		
				図画工作科教育法	2		
				家庭科教育法	2		
				体育科教育法	2		
				外国語教育法(小学校)	2		
法定最低修得単位数(合計)			小一：30 小二：16	大学が定める単位数(合計)		小一：30単位以上	

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	2	-			最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、併せて2単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。
なお、本学では、「大学が定める単位数」を満たせば、下記数式は成立するカリキュラムとなっている。

	$(\text{表1で修得した単位数} + \text{表2で修得した単位数}) - (\text{表1の法定最低修得単位数} + \text{表2の法定最低修得単位数}) + (\text{※表3で修得した単位数}) \geq$	小一：2 小二：2
小一：種	$(\text{A} + \text{B}) - (30 + 27) + (0) \geq$	2
小二：種	$(\text{C} + \text{D}) - (16 + 19) + (0) \geq$	2

【幼稚園一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表2◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	幼一種 10 幼二種 6	教育原理1 保育原理 日本教育史 外国教育史	2 2	小 小	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育者論	2		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育経営と学校制度	2	小	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学1	2 2	小 小	これらより1科目 選択必修
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育・保育総論	2		
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論 保育・幼児教育課程論	2 2	小	これらより 1科目選択必修
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論	2			
		幼児理解の理論及び方法	子ども理解と援助	2			
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導2 教育実習指導3 教育実習指導5 教育実習指導6 教育実習3 教育実習4	1 1 1 1 2 2	小 小 小 小 小 小	「教育実習指導2」 「教育実習指導5」、 「教育実習指導3」 「教育実習指導6」の 組合せで2科目選択必修	
		学校体験活動					
		教職実践演習	2	保育・教職実践演習	2		
法定最低修得単位数（合計）			幼一：21 幼二：17	大学が定める単位数（合計）		幼一：26単位以上（法定最低+5単位）	

【幼稚園一種免許状 教育学科 初等教育学専攻】

◆表1◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等	
					必	選		
第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	幼一種 16 幼二種 12	子どもと健康		2	これらより3科目 選択必修	
				子どもと人間関係		2		
				子どもと環境		2		
				子どもと言葉		2		
				子どもと音楽表現 子どもと造形表現		2 2		
	領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			保育内容の理解と方法1 保育内容の理解と方法2		2 2		
	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)			保育内容総論 保育内容〔健康〕 保育内容〔人間関係〕 保育内容〔言葉〕 保育内容〔環境〕 保育内容〔表現〕	2 2 2 2 2 2			
	法定最低修得単位数 (合計)			幼一：16 幼二：12	大学が定める単位数 (合計)			幼一：18単位以上 (法定最低+2単位)

◆表3◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
					必	選	
第六欄	大学が独自に設定する科目	-	幼一：14 幼二：2	-			最低修得単位数を超えて履修した表1または表2について、 幼一：併せて14単位以上を修得

※表3を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	$\left(\begin{array}{c} \text{表1で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{表1の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} + \begin{array}{c} \text{表2の} \\ \text{法定最低修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{※表3で} \\ \text{修得した単位数} \end{array} \right) \geq \begin{array}{c} \text{幼一種：14} \\ \text{幼二種：2} \end{array}$
幼一種	$\left(\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{B} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 16 \\ + \\ 21 \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \end{array} \right) \geq 14$
幼二種	$\left(\begin{array}{c} \text{C} \\ \text{D} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} 12 \\ + \\ 17 \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 0 \end{array} \right) \geq 2$

7. 博物館学芸員課程履修要項

●博物館学芸員課程

博物館法第4条に基づく博物館の専門的職員を学芸員といいます。

この課程は学芸員（博物館、美術館、資料館、宝物館、動物園、植物園、水族館等の専門的職員）の資格を得るための課程を履修するコースです。

●資格を得る条件

学芸員となる資格を得るための条件は、博物館法第5条の規程によれば次のとおりです。

- (1) 学士の学位を有すること
- (2) 本学の基準に従い、下記の科目を履修すること

▼必修科目

法定基準		本学基準		備考
科目	単位	授業科目	開講学科	
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2 教育学	博物館学各論1 (廃止) 博物館学各論2 (廃止)
博物館概論	2	博物館概論	2 史学**	
博物館実習	3	博物館実習	3 史学***	
博物館教育論	2	博物館教育論	2 史学**	
博物館経営論	2	博物館経営論*	2 史学**	
博物館展示論	2	博物館展示論*	2 史学**	
博物館資料論	2	博物館資料論*	2 史学**	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論*	2 史学**	
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2 史学**	
単位合計	19	単位合計	19	

※2023年度新設

※※史学開講科目だが、史学科生にとっても関連分野の単位となる。

※※※史学開講科目だが、全学科生とも資格関係分野(卒業要件外単位)となる。

▼履修上の注意 (2022年度以前入学者)

下表の廃止科目を未修得の場合は、右記の科目を履修してください。

廃止科目 (～2022年度まで開講)	科目 (2023年度～開講)	
博物館学各論1	博物館経営論 博物館展示論	この組合せで2科目 4単位を修得すること
博物館学各論2	博物館資料論 博物館資料保存論	この組合せで2科目 4単位を修得すること

▼選択科目系列

次の科目系列のうち、2つ以上の科目系列にわたって8単位以上を修得すること

系列	授業科目	単位	開講学科
文化史	日本文化史1	2	史学
	日本文化史2	2	史学
美術史	日本史史料論1	2	史学
	日本史史料論2	2	史学
	日本史史料論3	2	史学
	日本史史料論4	2	史学
	日本美術史1	2	哲学
	日本美術史2	2	哲学
	東洋美術史1	2	哲学
	東洋美術史2	2	哲学
	西洋美術史1	2	哲学
	西洋美術史2	2	哲学
考古学	日本考古学	2	史学
	日本民俗学	2	史学
自然科学史	科学史1	2	総合現代教養科目
	科学史2	2	総合現代教養科目

※今年度の開講状況はシラバス等で確認すること。

※キリスト教美術(1)、キリスト教美術(2)はペアで修得する必要があります。

▼履修上の注意 (2022年度以前入学者)

以下の廃止科目(2022年度まで開講)について、2022年度以前に単位修得した場合は博物館学芸員課程の選択科目として計上できる。

系列	廃止科目 (～2022年度まで開講)	単位	開講学科
文化史	中国古代文化史	4	史学
	日本文化史I	2	史学
	日本文化史II	2	史学
美術史	東洋陶磁史	2	史学
	古文獻入門	4	史学
	日本史史料論	4	史学
	日本美術史I	2	哲学
	日本美術史II	2	哲学
	東洋美術史I	2	哲学
	東洋美術史II	2	哲学
	西洋美術史I	2	哲学
	西洋美術史II	2	哲学
	キリスト教美術	4	哲学
考古学	日本考古学	4	史学
	古代オリエント史	4	史学
民俗学	日本民俗学	4	史学

●履修上の注意

- (1) 博物館学芸員課程の履修を希望する者は、年度はじめに行われる履修ガイダンスに必ず出席してください。
- (2) 「博物館実習」を除くその他の必修科目については、3年次の終わりまでに修得しておくことが望まれます。
- (3) 選択科目系列を「2つ以上の科目系列にわたって8単位以上修得」とあるのは、資格を取得するための最低限を示したものです。
- (4) 「博物館実習」(3単位)は、卒業要件としての所定単位には数えられません。
- (5) 「博物館実習」の学内実習は、各クラス定員12名を上限として、学内実習クラス分けガイダンスを実施し、履修人数の調整を行います。
- (6) 博物館学芸員課程一般に関する連絡事項は、Sophieの掲示板に掲示します。

●博物館実習の履修

- (1) 「博物館実習」の履修を希望する者は、前年度11月に博物館実習ガイダンス、前年度3月に学内実習クラス分けガイダンスが行われるので、必ず出席してください。博物館実習ガイダンス及び学内実習のクラス分けガイダンス出席は、ともに「博物館実習」履修登録の条件となるので、注意してください。
- (2) 3年次の終わりまでに「博物館概論」「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」をすべて修得した者が、4年次に「博物館実習」を履修できるというのが原則ですが、諸事情により修得できなかった場合は、3年次の終わりまでに上記5科目のうちいずれか3科目を修得し、かつ、4年次に他の2科目を修得する見込みであれば、実習を履修することができます。
なお、2022年度まで開講されていた「博物館学各論1」「博物館学各論2」と、上記「博物館経営論」以下4科目の対応関係は、左記「▼履修上の注意(2022年度以前入学者)」を参照してください。
- (3) 「博物館実習」3単位は、学内・学外の実習を同一年度に修得するものとします。
- (4) 「博物館実習」履修者は、学外の実習受け入れ先が決まっ

博物館学芸員課程

たとき、博物館実習諸費20,000円を納入しなければなりません。また、納入された博物館実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

- (5) 博物館実習に伴う授業の欠席は、公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入されます。

●博物館学芸員課程年間スケジュール

	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
4月	博物館学芸員課程履修ガイダンス (履修概要)	博物館学芸員課程履修ガイダンス (履修概要)	博物館学芸員課程履修ガイダンス (履修概要)	博物館学芸員課程履修ガイダンス (履修概要)
6月頃				博物館実習開始 (学外) 博物館実習諸費納入
11月			博物館実習ガイダンス	
12月			学外博物館実習依頼手続き開始 (～3月頃)	
3月			博物館実習クラス分けガイダンス (3月末)	

●日本語教員課程

日本語教員とは、外国人に対して日本語を教える教員のことで、日本と諸外国との交流が活発化するにつれて、日本語を学習しようとする外国人が増加し、それに対応する教員を質・量ともに確保することが必要とされるようになりました。このような社会的要請を背景として、本学では、日本語教員養成のための課程を置いています。(昭和62(1987)年4月開設)

●日本語教員の資格

現在のところ、社会的に共通化した免許制度は行われていないので、課程修了者には、大学卒業時に、本学において修了証が授与されます。(学士の学位が要件となります。)

●開設の形態

課程修了に必要な科目は、多く日本語日本文学科内に置かれていますが、日本語日本文学科の学生だけを対象とするものではなく、いずれの学科生でも履修可能です。

●履修の方法

日本語教員課程を修了するために必要な科目は、下の表のとおりです。

▼必修科目および標準カリキュラム

分野	所要単位	授業科目	単位	備考	対象学年	標準年次			
						2	3	4	
概説の全体	2	★日本語教育の世界	2		1～4	○			
日本語の構造に関する科目	4	★日本語学概論Ⅰ	2		2～4	○			
		★日本語学概論Ⅱ	2						
	4*	日本語学演習Ⅰ	4		2～4	○			
		日本語学演習Ⅱ	4						
		日本語学演習Ⅲ	4						
		日本語学演習Ⅳ	4						
	4	日本語の文法Ⅰ	2		2～4	○			
		日本語の文法Ⅱ	2						
4	日本語の音声Ⅰ	2		2～4	○				
	日本語の音声Ⅱ	2							
4*	文章表現法	4		2～4	○				
関する科目	4	日本語史概説Ⅰ	2		2～4	○			
日本語史概説Ⅱ		2							
関する科目	4	日本文化研究Ⅰ	2	複数の指定科目の中から選択 次頁参照	2～4				○
日本文化研究Ⅱ		2							
日本文化研究Ⅲ		2							
日本文化研究Ⅳ その他		2							
関する科目	8	言語学概論Ⅰ*	2	2～4	○				
		言語学概論Ⅱ	2						
授法に 関する科目	4	対照言語学Ⅰ	2	2～4	○				
		対照言語学Ⅱ	2						
授法に 関する科目	10	★日本語教授法Ⅰ	4	1～4	○				
		★日本語教授法Ⅱ	4	2～4		○			
		日本語教育実習	2	3・4				○	
科目 外国語	6*	第二外国語と言語の種類が異なる未修得の外国語科目		右記参照	3・4		○	○	
合計	54								

★：日本語教育実習を行う前に必ず修得すべき科目
 ※：教職課程履修者は、日本語教員課程修了時に教員免許状を取得することを条件として、合計14単位の修得を免除する
 *：2020年度～2022年度の履修に関する特別措置として、言語学概論Ⅱを二度履修し、合計4単位修得した場合、言語学概論Ⅰ、言語学概論Ⅱをそれぞれ修得したものとみなす

●開講科目名称の変更について

以下に記載する科目について、開講科目名称が、2022年度以前と2023年度以降で異なります。

旧科目名での科目を未修得の場合は、下記に指定した代替科目を修得してください。

旧科目名	代替科目
日本語学概論Ⅰ	日本語学概説Ⅰ
日本語学概論Ⅱ	日本語学概説Ⅱ
日本語学演習Ⅰ	日本語学演習Ⅰ(1) 日本語学演習Ⅰ(2)
日本語学演習Ⅱ	日本語学演習Ⅱ(1) 日本語学演習Ⅱ(2)
日本語学演習Ⅲ	日本語学演習Ⅲ(1) 日本語学演習Ⅲ(2)
日本語学演習Ⅳ	日本語学演習Ⅳ(1) 日本語学演習Ⅳ(2)
日本語の文法Ⅰ	日本語の文法
日本語の音声Ⅰ	日本語の音声
文章表現法	文章表現法(1) 文章表現法(2)
日本語史概説Ⅰ	日本語史概説Ⅰ
日本語史概説Ⅱ	日本語史概説Ⅱ
日本文化研究Ⅰ	日本文化研究Ⅰ
日本文化研究Ⅱ	日本文化研究Ⅱ
言語学概論Ⅰ	言語学概論Ⅰ
言語学概論Ⅱ	言語学概論Ⅱ
日本語教授法Ⅰ	日本語教授法Ⅰ(1) 日本語教授法Ⅰ(2)
日本語教授法Ⅱ	日本語教授法Ⅱ(1) 日本語教授法Ⅱ(2)
日本語教育実習	日本語教育実習(1) 日本語教育実習(2)

●教職課程履修者への単位免除制度

2019年度以降入学者について、日本語教員課程と並行して教職課程を履修する学生*は、日本語教員課程修了時に教員免許状を取得することを条件として、「日本語学演習」選択必修4単位、「文章表現法」4単位、及び、「外国語科目」6単位の計14単位の修得を免除し、要件単位を合計40単位とします。

※日本語教員課程を修了する年度に教員免許状の取得が見込まれる学生を単位免除制度の適用対象とします。

●履修上の注意

1. 日本語の構造に関する科目

- ① 「日本語学概論」は、「日本語教育実習」を履修する前年度までに修得しておかなければなりません。なお、できるだけ2年次において修得するようにしてください。
- ② 「日本語学演習」「文章表現法」は、定員があります。定員を超えた場合は調整を行いますので、履修希望者はあらかじめ日文研究室所定の手続き(年度初めのガイダンスで説明)を済ませてください。

2. 日本事情に関する科目

日本事情に関する科目は、毎年開講されますが、いずれの科目であるかは、各年度ごとに指定されます。

2022年度以降の指定科目は次の通りです。

開講学科	科目名
英文	英語学特講 6-1 異文化理解
日文	日本文学史 1～6 日本文化研究 1～2
史学	日本史概説 日本文化史 1 日本文化史 2
人間	文化人類学 1 比較文化学 1 社会学
国際	政治学 2 異文化メディア論 1 Japan in the Global Context
哲学	日本思想史学概論 1 日本思想史学概論 2
教育	人間学習 1～9 日本教育史
心理	認知・発達心理学特講 1 臨床心理学特講 1

今年度の開講状況はシラバス等で確認すること。

外国人留学生は、「日本事情 1」2単位「日本事情 2」2単位をこれに充てることができる。

3. 日本語教授法に関する科目

「日本語教授法 I」「日本語教授法 II」「日本語教育実習」は、この順に修得するものとします。ただし、「日本語教授法 I」と「日本語教授法 II」は、同一年次に履修することができます。

4. 外国語科目

日本語教員課程の外国語必修 6 単位の内容は次の通りです。

授業科目	単位	備考
1年～語文法 (1)、 1年～語文法 (2)	計 4	第二外国語と言語の種類が異なる 未修得の「外国語科目」
1年～語オラル (1)、 1年～語オラル (2)	計 2	

外国人留学生は、「2年日本語 2」「Advanced Japanese Studies (1)」「Advanced Japanese Studies (2)」について、日本語教員課程の「外国語科目」の単位とすることができる。

5. その他

日本語教員課程登録者は日本語科目「日本事情」を履修することができます。ただし、日本事情に関する科目の単位として「日本事情」の修得単位を充てることができるのは、外国人留学生に限りです。

●履修の手続き

- 日本語教員課程の履修を希望する者は、登録をしなければなりません。登録については、年度はじめに行われるガイダンスで説明します。ガイダンスの日時等は、別に掲示します。
ガイダンス後に、日本語教員課程履修登録フォームを送信してください。
- 履修を取りやめる場合は、届出が必要です。教務課に申し出て、履修取止めの手続きを行ってください。
- 日本語教員課程一般についての連絡事項は、Sophieの掲示板に掲示します。

●日本語教育実習

- 「日本語教育実習」は 3・4 年次生を対象に行われます。
「日本語教育実習」を履修するためには、日本語教員課程に登録し、以下の要件を満たして*、実習仮登録を行わなければならない。
① 「日本語教育実習」履修希望年度の前年度以前に「日本語教育実習履修資格試験」に合格していること（合格は 3 年間有効とする）
② 履修希望年度の前年度までに「日本語教育の世界」「日本語学概論 I」「日本語学概論 II」「日本語教授法 I」「日本語教授法 II」を修得していること
※①及び②の要件は、日本国際教育支援協会による日本語教育能力検定試験に日本語教育実習履修前年度末までに合格した場合、免除されます。①及び②の要件が免除となる場合も、本学の日本語教育課程修了には、②に定められた要件の科目を含め本学の日本語教員課程に必要なすべての科目を履修している必要があります。
- 「日本語教育実習履修資格試験」は、毎年 12 月に行われます。受験を希望する者は、11 月の所定期間中に申し込みを済ませなければなりません。
- 「日本語教育実習」の一環として行われる見学等のために本学の授業を欠席する場合は、公欠扱いとなります。教務課で「公欠届」を記入し「日本語教育実習」授業担当者の承認印を受けた後、事前に欠席する授業の担当者に提出してください。公欠届の提出された欠席は、出席回数に算入されます。

●科目等履修

- 卒業生等の科目等履修は、課程全体の履修を前提として許可されます。
- 日本語教員課程の科目等履修生は、大学（4 年制）の卒業生または在學生でなければなりません。
- その他の点については「聖心女子大学科目等履修生規程」によります。

●標準年間スケジュール

▼2 年次から履修を開始する標準的なスケジュール

	年度初め	10月	11月	12月	3月
1 年次生	ガイダンス	ガイダンス			
2 年次生	ガイダンス 登録票提出				
3 年次生	ガイダンス		実習履修 資格試験 申込	実習履修 資格試験 実習手続き	
4 年次生	ガイダンス				修了証授与

●日本語教員課程

日本語教員とは、外国人に対して日本語を教える教員のことで、日本と諸外国との交流が活発化するにつれて、日本語を学習しようとする外国人が増加し、それに対応する教員を質・量ともに確保することが必要とされるようになりました。このような社会的要請を背景として、本学では、日本語教員養成のための課程を置いています。(昭和62(1987)年4月開設)

●日本語教員の資格

現在のところ、社会的に共通化した免許制度は行われていないので、課程修了者には、大学卒業時に、本学において修了証が授与されます。(学士の学位が要件となります。)

●開設の形態

課程修了に必要な科目は、多く日本語日文学科内に置かれていますが、日本語日文学科の学生だけを対象とするのではなく、いずれの学科生でも履修可能です。

●履修の方法

日本語教員課程を修了するために必要な科目は、下の表のとおりです。

▼必修科目および標準カリキュラム

分野	所要単位	授業科目	単位	備考	対象学年	標準年次				
						2	3	4		
概説 全体の	2	★日本語教育の世界	2		1~4	○				
日本語の構造に関する科目	4	★日本語学概説1	2		2~4	○				
		★日本語学概説2	2							
	12	4*	日本語学演習1(1)	2		2~4	○			
			日本語学演習1(2)	2						
			日本語学演習2(1)	2						
			日本語学演習2(2)	2						
			日本語学演習3(1)	2						
			日本語学演習3(2)	2						
			日本語学演習4(1)	2						
			日本語学演習4(2)	2						
2	日本語の文法	2		2~4	○					
2	日本語の音声	2		2~4	○					
関する科目 語生活等に 関する科目	4	日本語史概説1 日本語史概説2	2 2		2~4	○				
関する科目 日本語事情に 関する科目	4	日本文化研究1 日本文化研究2 その他	2 2	複数の指定科目の中から選択 右記参照	2~4			○		
関する科目 言語学に関 する科目	4	言語学概論1 言語学概論2	2 2		2~4	○				
関する科目 日本語教授法に 関する科目	4	★日本語教授法I(1)	2		1~4	○				
		★日本語教授法I(2)	2							
	4	★日本語教授法II(1)	2		2~4	○				
		★日本語教授法II(2)	2							
2	日本語教育実習(1)	1		3・4				○		
	日本語教育実習(2)	1								
科目 外国語	6	第二外国語 (卒業要件上の必修科目)			1					
合計	42									

★：日本語教育実習を行う前に必ず修得すべき科目
※：教職課程履修者は、日本語教員課程修了時に教員免許状を取得することを条件として、合計4単位の修得を免除する

●教職課程履修者への単位免除制度

日本語教員課程と並行して教職課程を履修する学生*は、日本語教員課程修了時に教員免許状を取得することを条件として、「日本語学演習」選択必修4単位の修得を免除し、要件単位を合計38単位とします。

※日本語教員課程を修了する年度に教員免許状の取得が見込まれる学生を単位免除制度の適用対象とします。

●履修上の注意

1. 日本語の構造に関する科目

- ① 「日本語学概説1、2」は、「日本語教育実習」を履修する前年度までに修得しておかなければなりません。なお、できるだけ2年次において修得するようにしてください。
- ② 「日本語学演習」は、定員があります。定員を超えた場合は調整を行いますので、履修希望者はあらかじめ日文学研究室所定の手続き(年度初めのガイダンスで説明)を済ませてください。

2. 日本事情に関する科目

日本事情に関する科目は、下の表から4単位分を修得してください。

開講学科	科目名
英文	英語学特講6-1 異文化理解
日文	日本文学史1~6 日本文化研究1~2
史学	日本史概説 日本文化史1 日本文化史2
人間	文化人類学1 比較文化学1 社会学
国際	政治学2 異文化メディア論1 Japan in the Global Context
哲学	日本思想史学概論1 日本思想史学概論2
教育	人間学習1~9 日本教育史
心理	認知・発達心理学特講1 臨床心理学特講1

今年度の開講状況や履修可否はシラバスや科目リスト等で確認すること。

3. 日本語教授法に関する科目

「日本語教授法I」「日本語教授法II」「日本語教育実習」は、この順に修得するものとします。ただし、「日本語教授法I」と「日本語教授法II」は、同一年次に履修することができます。

●履修の手続き

1. 日本語教員課程の履修を希望する者は、登録をしなければなりません。登録については、年度はじめに行われるガイダンスで説明します。ガイダンスの日時等は、別に掲示します。
ガイダンス後に、日本語教員課程履修登録フォームを送信してください。
2. 履修を取りやめる場合は、届出が必要です。教務課に申し出て、履修取止めの手続きを行ってください。
3. 日本語教員課程一般についての連絡事項は、Sophieの掲示板に掲示します。

●日本語教育実習

1. 「日本語教育実習」は3・4年次生を対象に行われます。
「日本語教育実習」を履修するためには、日本語教員課程に登録し、以下の要件を満たして*、実習仮登録を行わなければなりません。
 - ① 「日本語教育実習」履修希望年度の前年度以前に「日本語教育実習履修資格試験」に合格していること（合格は3年間有効とする）
 - ② 履修希望年度の前年度までに「日本語教育の世界」「日本語学概説1」「日本語学概説2」「日本語教授法I」「日本語教授法II」を修得していること

※①及び②の要件は、日本国際教育支援協会による日本語教育能力検定試験に日本語教育実習履修前年度末までに合格した場合、免除されます。①及び②の要件が免除となる場合も、本学の日本語教育課程修了には、②に定められた要件の科目を含め本学の日本語教員課程に必要なすべての科目を履修している必要があります。
2. 「日本語教育実習履修資格試験」は、毎年12月に行われます。受験を希望する者は、11月の所定期間中に申し込みを済ませなければなりません。
3. 「日本語教育実習」の一環として行われる見学等のために本学の授業を欠席する場合は、公欠扱いとなります。教務課で「公欠届」を記入し「日本語教育実習」授業担当者の承認印を受けた後、事前に欠席する授業の担当者に提出してください。公欠届の提出された欠席は、出席回数に算入されます。

●科目等履修

1. 卒業生等の科目等履修は、課程全体の履修を前提として許可されます。
2. 日本語教員課程の科目等履修生は、大学（4年制）の卒業生または在學生でなければなりません。
3. その他の点については「聖心女子大学科目等履修生規程」によります。

●標準年間スケジュール

▼2年次から履修を開始する標準的なスケジュール

	年度初め	10月	11月	12月	3月
1年次生	ガイダンス	ガイダンス			
2年次生	ガイダンス 登録票提出				
3年次生	ガイダンス		実習履修 資格試験 申込	実習履修 資格試験 実習手続き	
4年次生	ガイダンス				修了証授与

10. 司書教諭課程履修要項

●司書教諭

司書教諭とは、小学校・中学校・高等学校の学校図書館の専門的職務を掌る資格をもつ教員のことで、学校図書館法第5条で定められています。

履修資格として、「教育職員免許状を有する者又は卒業時に教育職員免許状取得見込みのある者」であることが必要です。

●司書教諭課程科目

法令による司書教諭課程科目は下の表のとおりです。

法令にある科目		
区分	科目名	単位
必修	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	2
	読書と豊かな人間性	2
	学習指導と学校図書館	2
	情報メディアの活用	2
	合計	10

●協定校において履修する場合

1. 本学学生は、清泉女子大学と聖心女子大学との協定により、清泉女子大学で開講される司書教諭課程科目を、科目等履修生の身分で履修できます。清泉女子大学の履修カリキュラムの指導に従ってください。司書教諭課程履修費、科目等履修料、単位認定料、修了証書交付費等は、清泉女子大学の規定に従います。司書教諭課程の履修を希望する者は、ガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日時場所等は掲示します。
2. 司書教諭課程関係科目の申込みは、学部2～4年次生が対象となります。
3. 司書教諭課程修了証書は、文部科学省初等中等教育局から交付されますが、清泉女子大学等を経由して申請するので、交付時期は申請手続き後1年間かかる予定です。手続き方法、手数料等についてはガイダンスで説明します。
4. 本制度により修得した単位は、本学の所要単位として認定されません。また、本学で定めた各年次の年間登録単位数の上限には含みません。

●その他

司書教諭課程一般に関する連絡事項は、Sophieに掲示します。

11. 司書課程履修要項

●司書

司書とは、図書館で専門的職務に従事する職員のことで、図書館法第4条で定められています。

●司書課程科目

法令による司書課程科目は下の表のとおりです。

法令にある科目						
区分	科目名	単位	区分	科目名	単位	
甲群 必修	図書館概論	2	乙群 選択	図書館基礎特論	1	
	情報資源組織論	2		図書・図書館史	1	
	情報資源組織演習	2		図書館サービス特論	1	
	生涯学習概論	2		図書館情報資源特論	1	
	図書館サービス概論	2		図書館施設論	1	
	児童サービス論	2		図書館総合演習	1	
	図書館情報資源概論	2		図書館実習	1	
	図書館制度・経営論	2		乙群で修得すべき単位数の合計	2	2
	情報サービス論	2				以上
	情報サービス演習	2				
	図書館情報技術論	2				
甲群必修科目の単位数合計			22			
合計			24単位以上			

●協定校において履修する場合

1. 本学学生は、清泉女子大学と聖心女子大学との協定により、清泉女子大学で開講される司書課程科目を、科目等履修生の身分で履修できます。清泉女子大学の履修カリキュラムの指導に従ってください。司書課程履修費、科目等履修料、単位認定料、修了証書交付費等は、清泉女子大学の規定に従います。司書課程の履修を希望する者は、ガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日時場所等は掲示します。
2. 司書課程関係科目の申込みは、学部2～4年次生が対象となります。
3. 司書課程に定める所定の単位を修得した者には、図書館法施行規則第5条第1項第2号により清泉女子大学長から卒業時に修了証書が交付されます。
4. 本制度により修得した単位は、本学の所要単位として認定されません。また、本学で定めた各年次の年間登録単位数の上限には含みません。

●その他

司書課程一般に関する連絡事項は、Sophieに掲示します。

12. 学校司書課程履修要項

●学校司書

学校司書とは、小学校・中学校・高等学校で専ら学校図書館の職務に従事する職員のこと、学校図書館法第6条で定められています。

●学校司書課程科目

文部科学省が定めた「学校司書のモデルカリキュラム」は下の表のとおりです。

学校司書のモデルカリキュラムにある科目		
区分	科目名	単位
必修	学校図書館概論	2
	情報資源組織論	2
	情報資源組織演習	2
	学校教育概論	2
	図書館情報資源概論	2
	読書と豊かな人間性	2
	学校図書館サービス論	2
	学習指導と学校図書館	2
	図書館情報技術論	2
	学校図書館情報サービス論	2
	合計	20

●協定校において履修する場合

1. 本学学生は、清泉女子大学と聖心女子大学との協定により、清泉女子大学で開講される学校司書課程科目を、科目等履修生の身分で履修できます。清泉女子大学の履修カリキュラムの指導に従ってください。学校司書課程履修費、科目等履修料、単位認定料、修了証書交付費等は、清泉女子大学の規定に従います。学校司書課程の履修を希望する者は、ガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日時場所等は掲示します。
2. 学校司書課程関係科目の申込みは、学部2～4年次生が対象となります。
3. 学校司書課程に定める所定の単位を取得した者には、清泉女子大学長から卒業時に修了証書が交付されます。
4. 本制度により修得した単位は、本学の所要単位として認定されません。また、本学で定めた各年次の年間登録単位数の上限には含みません。

●その他

学校司書課程一般に関する連絡事項は、Sophieに掲示します。

●標準年間スケジュール

(司書教諭課程・司書課程・学校司書課程 共通)

▼2年次から履修を開始する標準的なスケジュール (前年度例)

詳細は清泉女子大学の指導に従ってください。ここでは参考までに前年度の例を記載します。

	4月	1月	3月
1年次生		「司書教諭・司書・学校司書課程履修の手引き」掲示 (本学Sophie掲示)	(3月末) 司書教諭・司書・学校司書課程ガイダンス (於清泉女子大学)
2年次生	履修登録・履修料納入 (於本学)		
3年次生	履修登録・履修料納入 (於本学)		
4年次生	履修登録・履修料納入 (於本学)		修了書授与 (司書教諭課程については別途規定あり)

<注1> 本制度では、前期(4月)に当該年度の前期・後期科目を全て履修登録します。

第 1 部 大学院共通事項

大学院

第1章 履修の基本

1. 大学院での履修

(1) 修業年限と在学年限

- ① 修士課程・博士前期課程にあつては、2年以上とし、4年を超えて在学することはできない。
- ② 博士後期課程にあつては、3年以上とし、6年を超えて在学することはできない。
- ③ 長期履修学生制度が適用されている者については、3年以上とし、4年を超えて在学することはできない。

(2) 課程修了の要件

<修士課程・博士前期課程>

修了要件	修士課程・博士前期課程にあつては、学生は2年以上在学し、講義・演習を含め合計30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格しなければならない。なお、30単位以上を修得するに当たっては、別に定める授業科目の履修方法に従わなければならない。
修士論文提出要件	修士論文を提出する者は、本学大学院修士課程・博士前期課程に1年以上在学し、各専攻が課程修了要件として認める科目を提出前年度までに16単位以上修得していなければならない。また修士論文を提出しようとするときは、論文テーマおよび指導教員についてあらかじめ大学院委員会の了承を得なければならない。

<修士課程・博士前期課程> 早期修了学生候補者

修了要件	修士課程・博士前期課程に所属する早期修了学生候補者にあつては、1年以上在学し、講義・演習を含め合計30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格しなければならない。なお、30単位以上を修得するに当たっては、別に定める授業科目の履修方法に従わなければならない。
修士論文提出要件	早期修了学生候補者として修士論文を提出する者は、各専攻が課程修了要件として認める科目を提出前年度までに10単位以上修得していなければならない。また修士論文を提出しようとするときは、論文テーマおよび指導教員についてあらかじめ大学院委員会の了承を得なければならない。

<博士後期課程>

修了要件	博士後期課程にあつては、学生は3年以上在学し、講義・演習を含め合計10単位以上を修得し、かつ博士論文を提出して、その審査および最終試験に合格しなければならない。なお、10単位以上を修得するに当たっては、別に定める授業科目の履修方法に従わなければならない。
博士論文提出要件	博士論文を提出する者は、本学大学院博士後期課程に2年以上在学していなければならない。また博士論文を提出しようとするときは、論文題目および指導教員についてあらかじめ大学院委員会の了承を得なければならない。 ※各専攻の提出要件の詳細はpp.396-397を参照してください。

(3) 単位の修得要件

各授業科目の単位を修得するためには、次の要件を満たさなければなりません。

- ① 授業科目の履修登録がなされていること
- ② 授業回数の3分の2以上出席していること
- ③ 授業担当者から合格の評価(AA・A・B・Cのいずれか)が与えられること
- ④ 授業料等納付金を所定の期日までに納入していること(事情がある場合は、所定の期日までに学生担当副学長に申し出ること)
- ⑤ 所定の健康診断を原則として受診していること

(4) 授業科目の履修

▼修士課程・博士前期課程(30単位以上)

- ① 修了単位のうち、少なくとも20単位は本学当該専攻において修得する
- ② 残りの10単位以上については、各専攻において定める修得方法に従う(各専攻のカリキュラムページ参照)
- ③ 長期履修学生が登録できる1学年当たりの履修登録単位数は、16単位を限度とする。ただし、修了要件に含まれない単位については、この限りでない。

▼博士後期課程(10単位以上)

- ① 修了単位のうち、少なくとも6単位は本学当該専攻において修得する
- ② 残りの4単位以上については、各専攻において定める修得方法に従う(各専攻の「授業科目履修要領」参照)

(5) 本学大学院以外で修得した単位について

以下について、所定の審査を経て、単位の修得を認める場合があります。

- ① 入学前に在籍した他大学院で修得した単位(⇒p.446)
修士課程または博士前期課程に在籍する学生は、本学大学院入学前に在籍した他大学院において修得した単位について、大学院委員会の議を経て了承された場合、修得した単位を本学大学院の修了単位として参入することができます。この場合、認められる単位数の上限は、本学の学部授業科目のうち特に認定された科目を履修して修得した単位と合算して10単位までです。
- ② 委託聴講生制度で修得した単位(⇒p.400)
委託聴講生制度の協定を結んだ他学大学院で委託聴講生として所属専攻の承認を得た上で授業科目を履修し、単位を修得した場合、修得した単位を本学大学院の修了単位に算入することができます。この場合、本学の開講科目とともに履修登録届に記入し、本学の前期履修登録期間に履修登録することが必要です。
- ③ 留学により海外の大学院で修得した単位(⇒p.407)
大学院学生留学規程に基づき、大学院委員会の了承を得て海外の大学院に留学し、修得した単位は、本学の修了要件単位として認定されます。認定単位数の上限は、修士課程および博士前期課程においては10単位、博士後期課程においては4単位です。単位認定を希望する場合は、帰国後速やかに単位認定のための手続きを行ってください。この場合の認定科目の成績評価は「Tr.」と表記されます。(⇒p.407)

(6) 研究指導計画書

毎年度始めに、大学院学生は、論文執筆に向けての計画をより具体化するとともに、その内容について指導教員と確認を行うために研究指導計画書を作成する。手続きの概要は以下のとおりとし、日時などの詳細は別途掲示により行う。

4月上旬：大学院学生は、研究計画について指導教員と面談を行う

4月下旬：面談内容を踏まえ、大学院学生は研究指導計画書の研究計画について作成し、指導教員に提出する。

【手続きの概要】

時期	研究室	指導教員	大学院学生 (留学・休学を除く)	教務課
4月上旬			専攻別ガイダンスにおいて「複数指導体制」及び「研究計画書の作成」等について説明	
			Sophieから用紙を入手し、指導教員の指導に基づいて「研究指導計画書」作成（研究計画欄）	
4月末			「研究指導計画書」作成（研究指導欄）	
			メール添付等、データで提出	
5月			メール添付による提出	受理
			「研究指導計画書」受理(研究室分、院生分)	
			保管	

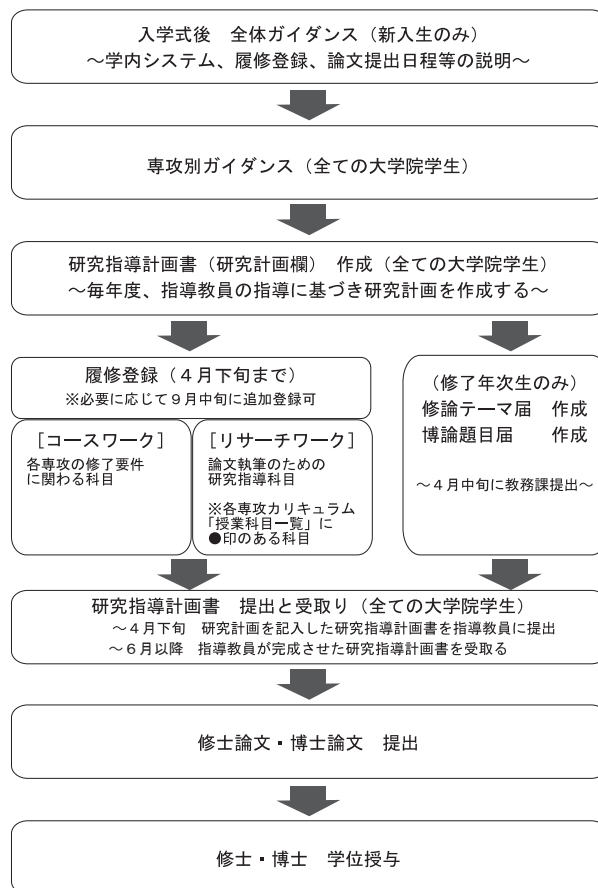
* 指導教員については、下記の規程が適用される。

(修士課程・博士前期課程) 聖心女子大学学位規程 第10条
(博士後期課程) 聖心女子大学学位規程 第15条

*なお、専攻と相談の上で指導教員及び副指導教員を変更することも可能である

*副指導教員については、専任教員とする。

(7) 修了までの流れ



(8) 専攻別「研究指導スケジュール」

▼英語英文学専攻（修士課程）

時期	内容	研究指導概要
1 年次		
4 月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
10月	修士論文中間発表会への参加	2 年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
11月	修士論文資格試験	修士論文提出予定者は、あらかじめ専攻の定める資格試験（Comprehensive Examination）を受ける。
12～3 月	修士論文の執筆指導	指導教員から論文執筆指導を受ける。また必要に応じて、適宜、副指導教員からも指導を受けることができる。
2 年次		
4 月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出	
10～11月	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
	修士論文中間発表会	英語英文学専攻の全専任教員および大学院学生の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
4～12月	修士論文の推敲指導	指導教員から論文草稿の推敲指導を受ける。また必要に応じて、適宜、副指導教員からも指導を受けることができる。
1 月	修士論文の提出	
2 月	修士論文審査及び最終試験	
3 月	学位授与式	

▼英語英文学専攻（修士課程）早期修了学生候補者対象

時期	内容	研究指導概要
学部4 年次		
4 月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
4～5 月	指導体制の確定	指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画書を作成する。
	研究計画書の提出	指導教員による研究指導を随時受ける。
4～12月	卒業論文の執筆	指導教員から論文執筆の指導を受ける。
10～11月	修士論文中間発表会への出席	大学院学生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
1 月	大学院（2 月期）入学試験の出願締切	指導教員と適宜相談の上、出願書類を整える。
	※大学院（2 月期）入学試験が早期履修学生候補者の判定を兼ねる。大学院（2 月期）入学試験に合格し早期修了学生候補者として可になった学生が、早期修了学生候補者となる。	
2 月中旬	大学院（2 月期）入学試験（口述試験）を受験	
2 月下旬	大学院の可否判定、判定結果の通知	早期修了学生候補者の可否判定、判定結果の通知

時期	内容	研究指導概要
3 月	学部卒業	
	※以下の場合には早期修了学生候補者の資格は取り消しとなる。	
	・学部4 年次生で卒業できずに留年した場合 ・大学院授業科目を10単位修得できなかった場合	
1 年次		
4 月	早期修了学生候補者として大学院入学前（学部4 年次生（早期履修学生の間））の既修得単位（10単位）の認定	
	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談の上、研究計画・修士論文テーマを確定する。
10～11月	修士論文題目の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
5～6 月	修士論文資格試験	修士論文提出予定者は、あらかじめ専攻の定める資格試験（Comprehensive Examination）を受ける。
10～11月	修士論文中間発表会	英語英文学専攻の全専任教員および大学院学生の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
4～12月	修士論文の推敲指導	指導教員から論文草稿の推敲指導を受ける。また必要に応じて、適宜、副指導教員からも指導を受けることができる。
1 月	修士論文の提出	
2 月	修士論文の審査及び最終試験	
3 月	学位授与式	

▼日本語日本文学専攻（修士課程）

時期	内容	研究指導概要
1 年次		
4 月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。なお、場合によっては、副指導教員のリサーチワーク科目も履修する。
9 月	修士論文中間発表会への参加	2 年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
2 年次		
4 月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出	
9 月	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。なお、場合によっては、副指導教員のリサーチワーク科目も履修する。
	修士論文中間発表会	日本語日本文学専攻の全専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
10～12月	修士論文の推敲指導	
1 月	修士論文の提出	
2 月	修士論文審査及び最終試験	
3 月	学位授与式	

▼史学専攻（修士課程）

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
10月	修士論文中間発表会への参加	2年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
2月	修士論文発表会への参加	
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導教員と相談のうえ確定する。
	研究計画の確定	
	修士論文題目の提出	
4月	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
	10月	修士論文中間発表会
10～12月	修士論文の推敲指導	
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験	
	修士論文発表会	
3月	学位授与式	

▼社会文化学専攻（博士前期課程）

時期	内容	修得概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し、説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名を決定し、副指導教員1名を仮決定する。指導教員と相談の上、研究計画を確定する。
	研究指導計画書の提出	
4月	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
	7月	修士論文中間発表会への参加(共同演習)
11月	修士論文の計画を発表する(共同演習)	修士論文の進捗状況について社会文化学専攻の全専任教員の前で中間発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。副指導教員を本決定する。
2月	修士論文発表会への参加(共同演習)	修士論文執筆予定者（2年次生）の修士論文発表会に参加し、研究や修士論文作成の方法についての構えを修得する。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導教員と相談の上、確定して、提出する。
	研究計画の確定	
	研究指導計画書の提出	
4月	修士論文題目・指導教員届の提出	指導教員による研究指導を随時受ける。
	リサーチワーク科目の履修開始	
7月	修士論文中間発表会での発表(共同演習)	社会文化学専攻の全専任教員、大学院学生の前で中間発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
11月	1年次生の修士論文の計画発表への参加(共同演習)	1年次生の修士論文計画発表に参加し、コメントする。
	三者面談	正・副指導教員、大学院学生の三者面談を行い、構想及び論点について多角的に検討し、修士論文作成に向けての大筋の調整と主な論点整理を行う。
10～12月	修士論文の推敲指導	指導教員による研究指導を随時受ける。
1月	修士論文提出	

時期	内容	修得概要
2月	修士論文審査及び最終試験（口頭試問）	
3月	修士論文発表会（共同演習）	
	学位授与式	

▼社会文化学専攻（博士後期課程）

時期	内容	修得概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し、説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談の上、研究計画を提出する。
	研究指導計画書の提出	
4月	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
	7月	博士論文中間発表会への参加(共同演習)
11月	博士論文の構想発表を行う(共同演習)	社会文化学専攻の全専任教員、大学院学生の前で博士論文の構想発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導教員と相談の上、確定して、提出する。
	研究計画の確定	
	研究指導計画書の提出	
4月	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
	7月	
11月	共同演習で博士論文の中間報告を発表。その後、博士論文の草稿を提出。	社会文化学専攻の全専任教員、大学院学生の前で博士論文の中間発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
	11月～	
11月～	予備論文提出	博士論文の草稿審査を受けて合格後、予備論文を提出し、査読を受ける。
	3年次	
4月	ガイダンスへの参加	指導教員と相談の上、確定して、提出する。
	研究計画の確定	
	研究指導計画書の提出	
4月	博士論文題目・指導教員届の提出	指導教員による研究指導を随時受ける。
	リサーチワーク科目の履修開始	
4～9月	博士論文の推敲指導	指導教員による研究指導を随時受ける。
10月	博士論文提出	
12～1月	博士論文審査会及び最終試験	
2月	博士論文発表会	
3月	学位授与式	

▼哲学専攻（修士課程）

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制と今後の研究の進め方について説明する。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名の決定。指導教員と相談のうえ研究計画を確定させる。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導の開始。
10月	哲学専攻研究発表会での発表	修士論文の計画についての発表。哲学専攻教員や他の学生と意見交換の実施。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	修士論文作成と提出の順序についての確認。
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出 リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導の継続。
10月	哲学専攻研究発表会での発表	修士論文についての中間発表。哲学専攻教員や他の学生との意見交換の実施。
10～12月	修士論文の推敲指導	
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験	
3月	学位授与式	

▼人間科学専攻（教育学分野）（博士前期課程）

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	修士論文中間発表会への参加	2年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
10月	修士論文中間発表会	研究計画と進捗状況についての中間発表を行ない専攻の全専任教員による指導を受ける。
1月	修士論文発表会への参加	各研究室が実施する学位論文発表会に参加して研究や修士論文作成の方法について修得する。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出 リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	修士論文中間発表会	人間科学専攻（教育研究領域）の全専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
10～12月	修士論文の推敲指導	
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験 修士論文発表会	
3月	学位授与式	

▼人間科学専攻（教育学分野）（博士後期課程）

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ、研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	博士論文中間発表会への参加	2年次生以上が行う発表会参加を通じて研究や論文作成方法について修得する。
3月	博士論文中間発表会	人間科学専攻（教育研究領域）の全専任教員の前で博士論文の構想を発表し、指導を受ける。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	博士論文中間発表会への参加	2年次生以上が行う発表会参加を通じて研究や論文作成方法の向上を図る。
3月	博士論文中間発表会	人間科学専攻（教育研究領域）の全専任教員の前で第1次中間発表を行い、指導を受ける。
3年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	博士論文題目の提出 リサーチワーク科目の履修開始	
7月	博士論文中間発表会	人間科学専攻（教育研究領域）の全専任教員の前で第2次中間発表を行う。
4～9月	博士論文の推敲指導	指導教員による研究指導を随時受ける。
10月	博士論文の提出	
12～2月	博士論文審査会 最終試験 (博士論文発表会)	
3月	学位授与式	

▼人間科学専攻（心理学分野）（博士前期課程）

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	1年次の指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	「心理学修士論文演習」の履修開始（任意）	履修の有無にかかわらず、指導教員による研究指導を随時受ける。
7～10月	修士論文中間発表会への参加	2年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
1月	修士論文発表会への参加	
1～2月	2年次の指導体制の確定	2年次における指導教員1名・副指導教員1名を決定する。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出 「心理学修士論文演習」の履修開始（必須）	指導教員による研究指導を随時受ける。
随時	研究認可申請書の作成と受審	研究認可申請書を作成し、専攻内および大学の倫理審査を受審する。
7～10月	修士論文中間発表会	人間科学専攻（心理学領域）の専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
10～1月	修士論文の推敲指導	

時期	内容	研究指導概要
1月	修士論文の提出	
	修士論文審査 最終試験 (修士論文発表会)	
3月	学位授与式	

▼人間科学専攻（心理学分野）（博士後期課程）

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び 研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ、研究計画を確定する。
随時	「心理学博士論文演習」の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
随時	研究認可申請書の作成と受審	研究認可申請書を作成し、専攻内および大学の倫理審査を受審する。
7月	博士論文中間発表会への参加	2年次生が行う発表を通じて研究や論文作成方法について修得する。
3月	年次活動報告書の提出	当該年度の活動を文書で報告する。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
6月	「心理学博士論文演習」の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
	博士論文計画書の提出	博士論文計画書を提出し、指導教員を含む審査委員3名による審査を受ける。
7月	博士論文計画発表会	人間科学専攻（心理学領域）の専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
8～3月	博士論文の作成開始	博士論文計画書が合格した場合は、博士論文の作成を開始し、随時、推敲指導を受ける。
3月	年次活動報告書の提出	当該年度の活動を文書で報告する。
3年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
4月	博士論文題目の提出	指導教員と相談のうえ確定する。
	「心理学博士論文演習」の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
4～9月	博士論文の推敲指導	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	博士論文計中間発表会	
10月	博士論文の提出	人間科学専攻（心理学領域）の専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
11～1月	博士論文審査 最終試験 (博士論文発表会)	
3月	学位授与式	

▼人文学専攻（博士後期課程）

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関する説明。
	指導体制及び 研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員2名の決定。指導教員と相談のうえ、研究計画を確定する。
4月	リサーチワーク科目の開始	指導教員による研究指導。
	人文学共同演習の履修	研究発表を行い、研究内容について、各領域の教員および学生との意見交換を行う。
7月	大学院論集への投稿	研究指導に基づき、研究成果を投稿する。
1月	人文学共同演習レポート提出	
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関する説明。
	リサーチワーク科目の開始	指導教員による研究指導。
4月	人文学共同演習の履修（必修）	研究発表を行い、研究内容について、各領域の教員および学生との意見交換を行う。
	7月	大学院論集への投稿
1月	人文学共同演習レポート提出	
3年次		
4月	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	博士論文題目の提出	指導教員と相談のうえ確定する。
4月	リサーチワーク科目の開始	指導教員による研究指導。
	人文学共同演習の履修	研究発表を行い、博士論文について各領域の教員および学生との意見交換を行う。
4～9月	博士論文の推敲指導	
10～2月	博士論文の提出	
10～2月	博士論文審査及び 最終試験	
3月	学位授与式	

2. アドミッション・ポリシー

英語英文学専攻修士課程の学生の受入れ方針

(アドミッション・ポリシー)

英語英文学専攻は、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムとそれらの関連分野についての深い学識と幅広い知見、高度な研究遂行能力、および英語の優れた運用能力を大学院学生に身につけさせることが目標です。本専攻では入学希望者に対して以下の1～4の事柄を期待し、5に示す方法で入学希望者に求める水準等を判定します。

1. 修士課程での研究遂行に必要な基礎知識、論理的思考力、分析力、批判力、創意あふれる洞察力を備えていること。
2. 抽象度の高い内容を英語で理解し、発信する能力を備えていること。
3. 英語で開かれていく世界の多様な文化・社会について、的確に理解し、積極的かつ創造的に発信しようとする探究心に富み、そのために必要な思考力・判断力・表現力を養おうとする、前向きな姿勢をもっていること。
4. グローバル化する世界の一員として、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ意欲があり、修了後には本専攻で身につけた学識や能力、培われた豊かな人間性をもとに、社会への貢献を目指していること。
5. 入学希望者が専攻の求める水準に達しているか否かは、専門科目の筆記試験と口述試験によって判定します。筆記試験では、論理的な英語の文章を正確に理解する能力、やや複雑な内容を英語で表現する能力、および専門領域の基本的概念を論述する能力が問われます。口述試験では、主に提出された研究計画と卒業論文要旨等に基づいてなされる質問に対して、学生本人が論理的な回答を明確に示せるかが問われます。英語による質問に対し英語で的確に答える能力も問われます。

日本語日本文学専攻修士課程の学生の受入れ方針

(アドミッション・ポリシー)

日本語日本文学専攻では、カリキュラム・ポリシー（大学院教育課程の編成・実施方針）に基づく科目を受講し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示す学識・態度・能力を身につける素地があることを求め、入学者の受入れにあたって、次のことを実施します。

1. 専門科目の記述試験を実施し、日本の言語・文学・言語教育に関して学士課程修了程度の専門知識を有していることを確認します。試験では、古典文学・近代文学・日本語学・日本語教育学の各分野の重要な事項・人物・概念などに関する問題の中から、二分野以上にわたって選択し、論述することを求めます。知識の正確さと豊かさ、複数の知識を結びつける応用力と判断力、思考の整合性と発展性、文章の的確さと読みやすさを評価します。
2. 英語の記述試験を実施し、英語の基本的な読解力と、日本語の表現力を確認します。日本の言語・文学・言語教育の研究分野でもグローバル化が進み、英語文献を読む機会が増えてきました。試験では、一般的なレベルの英語の長文を読解して、内容を正確に把握すること、また部分的に日本語訳することなどを求めます。基礎的な英語力と、日本語訳の正確さと自然さを評価します。
3. 口述試験を実施し、これまでの学修状況、今後の研究に対する計画性と意欲、社会に対する関心の持ち方を確認します。大学院修士課程入学後の研究計画書を提出してもらい、試験ではそれに基づいて、研究テーマを設定した動機と背

景、研究の進め方、その過程で予想される問題点と対策案、期待される成果とその意義などについて説明を求めます。研究テーマの学術的・社会的価値、計画の現実性、研究に向き合う姿勢、回答の的確さを評価します。

史学専攻修士課程の学生の受入れ方針

(アドミッション・ポリシー)

大学院史学専攻では、歴史に関する幅広い知識と高い専門性を身につけ、歴史に関する研究・教育、文化財の保存・活用などに従事したり、社会に存在するさまざまな課題について、歴史的な文脈のなかで考察し、的確な評価を行い、解決に導いたりすることができる人物を養成することを目指しています。そのため、以下のような能力や姿勢を有する学生を求めます。

1. 専攻を希望する日本史・東洋史・西洋史のそれぞれの分野において、専門文献や史料を読解できる基本的な能力。専門科目試験で判定します。
2. 専攻を希望する日本史・東洋史・西洋史のそれぞれの分野において、研究上必要とされる外国語の読解能力。外国語試験で判定します。
3. 研究課題を設定し、実現可能性のある計画を立て、研究を遂行する能力。研究計画書等で判定します。
4. 学術研究に関心と意欲を持ち、教員からの指導や他の学生との交流を通じて成長しようとする姿勢。口述試験等で評価します。
5. 1～4で述べたような力を総合し、学術論文を作成する能力。すなわち、先行研究を参照しながら、設定した独自の研究課題について、史料に基づき実証的に論じ、論理的かつ明解に表現する能力。卒業論文（またはそれに代わるもの）で評価します。史学専攻では、学部での卒業論文（またはそれに代わるもの）を、大学院進学後の研究能力を客観的に示す手段として最も重要なものと考えています。

社会文化学専攻博士前期課程の学生の受入れ方針

(アドミッション・ポリシー)

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。社会文化学専攻博士前期課程では、社会の動きや人間の生き方に対して深い関心を持ち、深い教養と語学力、他者と協働する姿勢、柔軟な思考力、豊かな人間性と高い倫理性を備えているか、研究課題に対する明確な意識と研究を実行する具体的な計画性を有しているか、博士前期課程終了後には社会に貢献することを目指しているかのそれぞれを、学生を受入れる際の基準として審査します。受け入れの判定については、外国語の試験では、関連分野に関する外国語文献の読解において、その外国語知識・専門知識および翻訳技能、さらには日本語の表現力を測定します。専門科目の試験では、専門知識を測定するとともに、長文の論述によって、思考力・判断力・表現力を測定します。また口述試験においては、研究に対する主体性や研究計画を具体的に構築する思考力・判断力を測定するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていける人材かどうか判定します。

哲学専攻修士課程の学生の受入れ方針

(アドミッション・ポリシー)

哲学専攻では、カリキュラム・ポリシーに基づく各種授業科目を履修し、ディプロマ・ポリシーに示されている学識や諸能力を身につけ、研究を遂行して修士論文を作成する上で必要とされる基礎的な知識や学力があることを入学者に求め、それを確認するため、受け入れにあたって、以下のことを実施します。

1. 専門科目の試験を実施し、哲学についての学士課程修了程度の専門的知識が身につけていること、また授業の履修や論文作成に必要な論理的な思考力や適切な文章力・表現力が身につけていることを確認します。
2. 外国語試験（英語、ドイツ語、フランス語のうち、いずれか一つを選択）を実施し、修士課程で研究を進めていくさいに必要とされる文法的な知識や読解力などの語学力が身につけていることを確認します。
3. 口述試験を実施し、入学前の学修状況や社会での活動、ならびに修士論文作成に関する研究計画を確認します。そのさい、主体的に研究するための動機や目的が明確であること、学問に対して真摯に向き合い、ものごとを根本から問う姿勢があること、他者との議論に必要な表現力・理解力など対話する力があることを確認します。
4. 社会人特別選抜制度や長期履修制度を利用し、社会や家庭等における活動経験から導き出された哲学的な課題の探求を志す社会人も受け入れています。

人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程の学生の受入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、教育研究領域における多様な研究関心と背景を持つ学生を受け入れるため、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設けています。入学者受け入れにあたって、次のような点を重視します。

1. 人間の成長や社会の発展を支える教育および学習の在り方に対して強い関心を持ち、学士課程修了程度の教育学の素養と英語能力があること。
2. 教育および人間の成長発達の支援に関する研究の課題意識が明確であり、計画性をもって有意義な研究を進めることが期待できること。
3. 修了後は専門性に基づいて、学校教育、生涯学習、国際教育協力、マスメディア、情報等の分野で社会に貢献することを目指していること。なお、特色あるカリキュラムとして「教育実践研究」「生涯学習研究」「国際教育研究」の3研究領域を設定していますが、入学者募集においては区別をしていません。また、いずれの領域においても、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設け、様々な研究関心と背景や経験を持つ学生の受け入れを積極的に行っています。現職教員の受け入れも歓迎しています。
4. 受け入れの判定については、外国語の試験では、専門分野の英語文献を読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識を測ると同時に構文の読解力、および日本語の文章力を評価します。専門科目の試験では、学士課程修了程度の教育学に関する基礎知識を測定するとともに、データの読み取りや長文の論述を求め、教育学に関する知識と思考力・表現力を評価します。また口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究計画を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていける人材かどうかを判定します。

人文学専攻博士後期課程の学生の受入れ方針

(アドミッション・ポリシー)

(2022年度以前入学者用)

人文学専攻では、カリキュラム・ポリシーに基づき設置された各種授業科目を受講し、ディプロマ・ポリシーに示されている学識や諸能力を身につけ、研究を遂行して博士論文を作成するために必要とされる知識や学力が備わっていることを入学者に求め、受け入れにあたって、口述試験を実施し、以下のことを確認します。

1. 言語・文学・思想・芸術など人間が創り出してきたあらゆる文化、社会の諸相について、また人間の本质について知的な探究心を持ち、人文系の学問研究に必要な専門的な知識および論理的な思考力を有すること。
2. 従来の発想にとらわれない独創的で明確な研究課題を持ち、博士論文を作成するにあたって主体的に遂行可能な研究計画の見通しを立てられること。
3. 学際的な研究を要する授業に参加し、自らの研究成果を分かりやすく発信する力や、他領域の研究者の話を受け止め、理解する力を有していること。
4. 本専攻を修了したのち、研究者や教育者などとして自立したさい、本専攻で身につけた高い学識や諸能力を、社会に積極的に還元し、社会の発展に寄与することを目指していること。
5. なお、哲学・美学研究領域においては、研究を遂行するにあたって必要とされる高度な外国語の運用能力を身につけていることを確認するため、外国語試験（英語・ドイツ語・フランス語のうち、いずれか一つを選択）を実施します。

(2023年度以降入学者用)

人文学専攻では、カリキュラム・ポリシーに基づき設置された各種授業科目を受講し、ディプロマ・ポリシーに示されている学識や諸能力を身につけ、研究を遂行して博士論文を作成するために必要とされる知識や学力が備わっていることを入学者に求め、受け入れにあたって、口述試験を実施し、以下のことを確認します。

1. 言語・文学・思想・芸術・歴史など人間が創り出してきたあらゆる文化、社会の諸相について、また人間の本质について知的な探究心を持ち、人文系の学問研究に必要な専門的な知識および論理的な思考力を有すること。
2. 従来の発想にとらわれない独創的で明確な研究課題を持ち、博士論文を作成するにあたって主体的に遂行可能な研究計画の見通しを立てられること。
3. 学際的な研究を要する授業に参加し、自らの研究成果を分かりやすく発信する力や、他領域の研究者の話を受け止め、理解する力を有していること。
4. 本専攻を修了したのち、研究者や教育者などとして自立したさい、本専攻で身につけた高い学識や諸能力を、社会に積極的に還元し、社会の発展に寄与することを目指していること。
5. なお、哲学・美学研究領域においては、研究を遂行するにあたって必要とされる高度な外国語の運用能力を身につけていることを確認するため、外国語試験（英語・ドイツ語・フランス語のうち、いずれか一つを選択）を実施する。

社会文化学専攻博士前期課程の学生の受入れ方針

(アドミッション・ポリシー)

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその

構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。社会文化学専攻博士前期課程では、社会の動きや人間の生き方に対して深い関心をもち、深い教養と語学力、他者と協働する姿勢、柔軟な思考力、豊かな人間性と高い倫理性を備えているか、研究課題に対する明確な意識と研究を実行する具体的な計画性を有しているか、博士前期課程終了後には社会に貢献することを目指しているかのそれぞれを、学生を受入れる際の基準として審査します。受け入れの判定については、外国語の試験では、関連分野に関する外国語文献の読解において、その外国語知識・専門知識および翻訳技能、さらには日本語の表現力を測定します。専門科目の試験では、専門知識を測定するとともに、長文の論述によって、思考力・判断力・表現力を測定します。また口述試験においては、研究に対する主体性や研究計画を具体的に構築する思考力・判断力を測定するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていただける人材かどうかを判定します。

人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程の学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、教育研究領域における多様な研究関心と背景を持つ学生を受け入れるため、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設けています。入学者受け入れにあたって、次のような点を重視します。

1. 人間の成長や社会の発展を支える教育および学習の在り方に対して強い関心を持ち、学士課程修了程度の教育学の素養と英語能力があること。
2. 教育および人間の成長発達への支援に関する研究の課題意識が明確であり、計画性をもって有意義な研究を進めることが期待できること。
3. 修了後は専門性に基づいて、学校教育、生涯学習、国際教育協力、マスメディア、情報等の分野で社会に貢献することを目指していること。なお、特色あるカリキュラムとして「教育実践研究」「生涯学習研究」「国際教育研究」の3研究領域を設定していますが、入学者募集においては区別をしていません。また、いずれの領域においても、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設け、様々な研究関心と背景や経験を持つ学生の受け入れを積極的に行っています。現職教員の受け入れも歓迎しています。
4. 受け入れの判定については、外国語の試験では、専門分野の英語文献を読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識を測ると同時に構文の読解力、および日本語の文章力を評価します。専門科目の試験では、学士課程修了程度の教育学に関する基礎知識を測定するとともに、データの読み取りや長文の論述を求め、教育学に関する知識と思考力・表現力を評価します。また口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究計画を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていただける人材かどうかを判定します。

人間科学専攻（心理学分野）博士前期課程の学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）

人間科学専攻博士前期課程（心理学分野）では、「視覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の各領域で学ぶため

に十分な基礎的知識と深い学問的関心を持ち、さらに豊かな人間性と高い倫理性を備えており、修了後には大学院で培われた資質と能力をもとに、専門家として社会に貢献することを目指している方を積極的に受け入れます。心理学の特色である科学的な研究方法を理解し、心理学全般や近接領域の基礎知識に加え特に認知心理学、発達心理学、臨床心理学の基礎的な概念と理論に精通しており、大学院で専門的に学んだ内容と経験を将来の心理実践や研究活動に活かすことを目指す学生を受け入れます。したがって、進学を希望する学生には、以下のような力があることが望まれます。

1. 自らの問題意識に基づく粘り強い探求心
2. 主体的に学ぶ意欲と発信力
3. 他者と協働するのに必要なコミュニケーション力と謙虚な態度受け入れの判定については、英語の試験では、専門分野の英語文献を読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識を測ると同時に構文の読解力、および日本語の文章力を評価します。専門科目の試験では、心理学全般の基礎知識を測定するとともに、長文の論述を求め、特に専門としたい領域の知識と思考力・表現力を評価します。また口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究計画を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶために必要なコミュニケーション力を備えている人材かどうかを判定します。

3. ディプロマ・ポリシー

英語英文学専攻修士課程の学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）

英語英文学専攻は、建学の精神に基づき、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムの各分野における専門的研究を通して、幅広い知識と高い理解力、思考力、判断力、研究遂行能力を有し、かつ高度な英語運用能力を持って国際社会に貢献できる人材の育成を目指します。次のような能力と資質を身につけた修了生を社会に送り出します。

1. 英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムとそれらの関連分野についての深い学識と幅広い知見、および高度な研究遂行能力。英語学分野では、理論・実証両面からの研究を行うための方法論と知識、さらに研究を通じて得られる、人間の存在の基盤としての言語に対する深い理解、英文学分野では、個々の作家・作品についての的確な洞察力と想像力、およびそれらの背景をなす社会や時代思潮に対する知見と学識を涵養することを重視しています。現代社会とジャーナリズム分野では現代社会の諸問題や現象を社会科学的見地から学際的に探求する姿勢。他分野の研究者との協働や自身の研究成果を通して、国際社会へ働きかけができる人材を育成します。
2. 英語の高度な運用能力と英語英文学の専門的知識をもとに、世界の多様な声に耳を傾け、柔軟に受けとめ、自らの意見を自らの言葉で発信する力。それにより対立や無関心を乗り越えて、グローバル化する世界の一員として他者とつながり協働する態度。生涯にわたり、英語の世界への知的、学問的関心を抱き、主体的に探究し続ける姿勢を身につけることを目指します。
3. 本専攻の修了生は、研究者・大学教員、小学校・中学校・高等学校の教員、翻訳・通訳・メディア関係の専門家として、あるいはその他の社会的・職業的活動において広く社会に貢献を果たすことが期待されます。

日本語日本文学専攻修士課程の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

日本語日本文学専攻では、専攻の設ける、日本の言語・文学・言語教育に関する授業科目（ただし、外国の言語・文学・言語教育との対照に関する授業科目を含む）、および修士論文作成のための授業科目を履修し、授業内外の活動を通して自身の知見と体験を豊かにし、修了時に次のような学識・態度・能力を身につけることを期待します。

1. 日本の言語・文学・言語教育に深く関連する時代背景や、社会・文化の特性も含めた、それぞれの分野の体系的な専門知識。さらに分野間を横断することで得られる発展的な知見。また、そのような知識・知見を有した上で、生涯にわたり、理論的に社会と向き合い、主体的に問題を探求し続ける姿勢。
2. 専門的に研究を遂行するために必要な態度、能力および技術。すなわち、人権に配慮し、先行研究を尊重する高い倫理観と、自身を取り巻く研究状況を踏まえて有意義な課題を発見する探究心。また、課題を適切に具体化し、先入観に拘束されない柔軟で論理的な思考によって考察を進め、推論の妥当性を判断し、独自の研究成果を的確に言語化して発信する能力。および、必要な資料を探索・収集して正確に読解し、修得した専門知識を活用して分析する高度な研究技術。
3. 複雑にグローバル化する社会の中で、その一員としての自覚を強く持ち、同じ価値観を共有する人だけでなく、自身と異なる価値観や文化的背景を持つ人に対しても敬意を払い、協働する態度。また、社会の課題を他人事ではなく、自分のこととして受け止め、修得した専門知識と蓄積した経験を活かして、改善・解決に積極的に貢献する力。

史学専攻修士課程の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

大学院史学専攻では、歴史に関する幅広い知識と高い専門性を身につけ、歴史に関する研究・教育、文化財の保存・活用などに従事したり、社会に存在するさまざまな課題について、歴史的な文脈のなかで考察し、的確な評価を行い、解決に導いたりすることができる人物に学位を授与します。そのために、以下のような学習成果を上げることが期待されます。

1. 自身の専攻する日本史、東洋史、西洋史のいずれかの分野の専門的な学識。それに加え、その他の歴史学分野および、自身の研究課題に応じた歴史学以外の学問分野を含む幅広い学識。
2. 先行研究の成果を尊重しつつ、それらを批判的に継承し、自身の研究課題を設定する能力。
3. 史料を的確に読み解いて、新たな史実を発見したり、解釈を行ったりする能力。
4. 課題を追究した成果について、口頭または文章、その他の表現手段によって、論理的かつ明解に説明する能力。
5. 地域や国内、世界の各地に残された歴史文化資源の重要性を理解し、その価値を社会に伝え、関係する人々と協力して保存や活用につなげる能力。
6. 歴史に関する学識を基礎として、職場、家庭、地域社会において、生涯にわたって知的好奇心を維持し、学び続け、貢献する姿勢。

社会文化学専攻博士前期課程の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

流動化する現代社会の実態と変化の方向性を、国家や地域社会といったマクロな視点と、家族やその構成員としての人間という

ミクロな視点の双方から分析、研究することで、社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言できる人材を育成したいと考えています。社会文化学専攻の博士前期課程は、適切な研究倫理のもとで学問を追究し、専攻分野に関する研究能力または高度に専門的な職業等に必要能力を身につけ、柔軟な思考力、的確な判断力によって意見を発信するとともに、多様な他者を尊重し能動的に協働し、地域および国際社会に貢献することのできる、生涯にわたり、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢をもつ修了生に学位を授けます。

1. 適切な研究倫理のもとで学問を追究し、専攻分野に関する研究能力を身につける。
2. 高度に専門的な職業等に必要能力を身につける。
3. 柔軟な思考力、的確な判断力を身につける。
4. 発信する力を身につける。
5. 多様な他者を尊重し能動的に協働し、地域および国際社会に貢献する力を身につける。
6. 生涯にわたり、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢をもつ。

哲学専攻修士課程の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

哲学専攻では、専攻がカリキュラムとして提供する各種の授業科目を履修すること、および修士論文作成についての研究指導を受け、適切な研究方法に基づいて修士論文を作成することによって、次のような能力・資質を身につけることを期待しています。

1. 哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教学の三領域のいずれかを中心とした専門的な研究と、三領域にとらわれない広く学際的な学修・研究とを通じて、専門的な哲学分野に関する広く深い学識と、様々な問題に対応できる柔軟で論理的な思考力、ならびに世界の事象を的確に把握する力を身につけること。
2. 各授業における教員や学生との議論、ならびに修士論文に関する研究指導における対話を通じて、自らの学識に基づき、自己の考えを他者の理解可能な形で論理的に表現する力を高めるとともに、他者の発言の意図を的確に理解する力を養うことで、他者と知的に対話する力を身につけること。
3. 自らの身につけた学識や諸能力ならびに世界についての把握によって、社会に主体的かつ積極的に関わる力を獲得し、専門的な研究者、教員、美術関係の専門家として、またその他の職業・活動において、自らの関わる社会にとって真に有意義な貢献のできる資質を身につけること。

人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、専攻の用意する様々な授業での学習や研究の経験を積み重ねた結果として、修了時に次のような力（知識、技能、態度）を身につけ、総合的な思考力と判断力を備えた人物に修士（人間科学）の学位を授与します。

1. 教育学に関する幅広い視野及び精深な学識。
2. 研究倫理を有し、教育学における適切な研究方法に支えられた高度な研究能力。
3. 現代社会の教育学に関連する諸課題を自ら見出す力、探求心、および問題解決力。
4. 教育と人間の発達・成長の支援に関する実証的な研究能力または教育の現場や国際協力活動、生涯学習などの分野で協働的に職務を遂行できる能力。

5. グローバル時代において自らの専門性に基づいて地域および国際社会に貢献することのできる柔軟な思考力と、的確で総合的な判断力。
6. 独自性のある研究成果を導き出し、それを精確に発信する力。
7. 多様な他者を尊重しつつ、能動的に関わり、協働する態度。
8. 生涯にわたり、知的、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢。

人文学専攻博士後期課程の学位授与方針

(ディプロマ・ポリシー)

(2022年度以前入学者用)

人文学専攻では、「英語・英文学」「日本語・日本文学」「哲学・美学」のいずれかの研究領域において専門的な研究を深めるとともに、三つの領域にまたがる学際的な知見を取り入れることによって、修了時に、次のような能力と資質を有する人材を養成します。

1. 言語・文学・思想・芸術など、さまざまな地域や時代において人間がこれまでに創り出し、培ってきたあらゆる文化や社会の諸相に関する深い関心。また、それらを生みだした人間の本質に対する深い理解と高い学識。
2. 研究倫理を強く持ちつつ、各専門領域における学問研究を追究するとともに、当該領域におけるこれまでの枠組みや方法論・問題意識にとらわれることなく、自らの課題を発見し、その課題の解決に向けて、独創的な発想と的確な手法に基づき、主体的に研究を遂行していく能力。
3. グローバル化する社会の一員として、国内のみならず国際社会においても、高度に専門的な業務に従事し、身につけた深い見識と広い視野、最新の学識をもって、その携わる分野の発展に貢献するために必要とされる能力。
4. 研究者や教育者などとして、専門的な研究とともに学際的な研究によって身につけた広範な教養と対話の力に基づき、多様性を認め、関わる他者と理解し合い、協働することによって人間の文化・社会の発展に大いに寄与する能力。

(2023年度以降入学者用)

人文学専攻では、「英語・英文学」「日本語・日本文学」「哲学・美学」「史学」のいずれかの研究領域において専門的な研究を深めるとともに、四つの領域にまたがる学際的な知見を取り入れることによって、修了時に、次のような能力と資質を有する人材を養成します。

1. 言語・文学・思想・芸術・歴史など、さまざまな地域や時代において人間がこれまでに創り出し、培ってきたあらゆる文化や社会の諸相に関する深い関心。また、それらを生みだした人間の本質に対する深い理解と高い学識。
2. 研究倫理を強く持ちつつ、各専門領域における学問研究を追究するとともに、当該領域におけるこれまでの枠組みや方法論・問題意識にとらわれることなく、自らの課題を発見し、その課題の解決に向けて、独創的な発想と的確な手法に基づき、主体的に研究を遂行していく能力。
3. グローバル化する社会の一員として、国内のみならず国際社会においても、高度に専門的な業務に従事し、身につけた深い見識と広い視野、最新の学識をもって、その携わる分野の発展に貢献するために必要とされる能力。
4. 研究者や教育者などとして、専門的な研究とともに学際的な研究によって身につけた広範な教養と対話の力に基づき、多様性を認め、関わる他者と理解し合い、協働することによって人間の文化・社会の発展に大いに寄与する能力。

社会文化学専攻博士前期課程の学位授与方針

(ディプロマ・ポリシー)

流動化する現代社会の実態と変化の方向性を、国家や地域社会といったマクロな視点と、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析、研究することで、社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言できる人材を育成したいと考えています。社会文化学専攻の博士前期課程は、適切な研究倫理のもとで学問を追究し、専攻分野に関する研究能力または高度に専門的な職業等に必要能力を身につけ、柔軟な思考力、的確な判断力によって意見を発信するとともに、多様な他者を尊重し能動的に協働し、地域および国際社会に貢献することのできる、生涯にわたり、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢をもつ修了生に学位を授けます。

1. 適切な研究倫理のもとで学問を追究し、専攻分野に関する研究能力を身につける。
2. 高度に専門的な職業等に必要能力を身につける。
3. 柔軟な思考力、的確な判断力を身につける。
4. 発信する力を身につける。
5. 多様な他者を尊重し能動的に協働し、地域および国際社会に貢献する力を身につける。
6. 生涯にわたり、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢をもつ。

人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程の学位授与方針

(ディプロマ・ポリシー)

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、専攻の用意する様々な授業での学習や研究の経験を積み重ねた結果として、修了時に次のような力（知識、技能、態度）を身につけ、総合的な思考力と判断力を備えた人物に修士（人間科学）の学位を授与します。

1. 教育学に関する幅広い視野及び精深な学識。
2. 研究倫理を有し、教育学における適切な研究方法に支えられた高度な研究能力。
3. 現代社会の教育学に関連する諸課題を自ら見出す力、探求心、および問題解決力。
4. 教育と人間の発達・成長の支援に関する実証的な研究能力または教育の現場や国際協力活動、生涯学習などの分野で協働的に職務を遂行できる能力。
5. グローバル時代において自らの専門性に基づいて地域および国際社会に貢献することのできる柔軟な思考力と、的確で総合的な判断力。
6. 独自性のある研究成果を導き出し、それを精確に発信する力。
7. 多様な他者を尊重しつつ、能動的に関わり、協働する態度。
8. 生涯にわたり、知的、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢

人間科学専攻（心理学分野）博士前期課程の学位授与方針

(ディプロマ・ポリシー)

人間科学専攻博士前期課程心理学分野では、「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の各領域での学びを通して、専門的知識と研究能力を身につけることにより、多様化する社会のニーズに応え、心理学の専門家として多様な分野で貢献する力を備えた人材の育成を目指します。人間科学専攻博士前期課程心理学分野での講義・演習・実習・研究活動を通し、人間のこころの働きやその仕組み、生涯発達の様相とメカニズム、こころの問題と支援方法に関する高度な専門的知識と技能を習得し、修

了時には次のような3種類の力を身につけていることを期待します。

1. 心理学および関連領域における幅広い知識と領域を俯瞰する広い視野に基づき、科学的、分析的思考力と的確な判断力を発揮して、変化を続ける現代社会の諸問題を見出す力。さらに、専門的知見と技能を活かし課題の解決を図る力と成果を発信し社会に積極的に還元する力。
2. 研究倫理を遵守し、高度な研究能力を保持増進し主体的に学問的探求を続ける謙虚な姿勢。職業倫理を遵守し、生涯にわたり知的、学問的関心を発展させ、継続して研鑽を積む覚悟。
3. 多様な他者を尊重しつつ、近接領域の専門家と連携して課題を見出し、協働して積極的に問題解決を図る能力。

4. カリキュラム・ポリシー

英語英文学専攻修士課程の教育課程の編成・実施方針

(カリキュラム・ポリシー)

英語英文学専攻は、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムについて高度な研究を行います。英語学分野は統語論・形態論・音声学・音韻論・意味論・語用論・英語教育学・第二言語習得など多岐にわたります。英文学分野は英語圏の文学を広く対象とし、デジタルメディアと文学、翻訳、エコクリティシズム、韻文と映像などの領域も扱います。現代社会とジャーナリズム分野は社会言語学、談話分析、マスコミュニケーションの政治経済、メディア社会論などを研究します。以下のような形で教育課程を編成し実施します。

1. 体系的で幅広い学識を培うコースワークと、研究活動の遂行を通して研究能力を育成するリサーチワークとの順次性とバランスに配慮して教育課程を編成しています。コースワークは、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムの各専門領域を過不足なくカバーするように計画されています。リサーチワークとしては「英語英文学論文演習」を設置し、大学院学生（以下「学生」）が定期的に指導教員の指導を受けつつ、修士論文作成に向けて個別研究を進めることができるようにしており、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程となっています。
2. 修了要件（30単位以上）のうち、20単位以上を英語英文学専攻において修得します。また10単位を上限として、英語英文学専攻が承認した本学大学院他専攻の授業科目、ならびに本専攻が承認した、委託聴講制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目を修得することができます。委託聴講制度等の活用により、学生が多角的な視点を身につけるとともに、個別研究の充実を図ることが可能となります。
3. 学生の研究テーマに合わせて、きめ細やかな授業と個別指導を行うのが本専攻の特徴です。授業は論文作成に必要な知識と英語表現力を培い、かつ学生の主体的な参加を促す少人数の演習形式を中心としています。授業においては、学生の発表と全体での討論を重視しています。

日本語日本文学専攻修士課程の教育課程の編成・実施方針

(カリキュラム・ポリシー)

日本語日本文学専攻では、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づいて、日本の言語・文学・言語教育の各分野に関する高度な専門知識を修得し、当該分野における標準的な研究の方法と技術を身につけ、研究成果の集大成として修士論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成します。

1. 日本の言語・文学・言語教育に関する高度な専門知識を修

得するためのコースワーク科目（講義科目）と、当該分野の研究方法を身につけ研究能力を育成するためのリサーチワーク科目（演習科目）を、バランスに配慮しながら、1年目から平行して履修するように編成します。

2. コースワーク科目（講義科目）は、日本の言語・文学・言語教育の分野ごとに体系的に開講し、自分分野に閉じこもらず分野間を横断して幅広い発展的な知識を得るために、複数の分野の授業を履修するように編成します。さらに、より多角的な視点が得られるように、本学大学院の他専攻が開講する授業科目、および委託聴講生制度の協定を結んだ他大学院の授業科目を一定の範囲内で履修することも認めます。
3. リサーチワーク科目（演習科目）は、修了年度内に修士論文を作成するために開講し、日本の言語・文学・言語教育の各分野の指導教員の論文指導が受けられるように編成します。自分の研究テーマに合った指導教員による授業を履修し、研究倫理を遵守すること、資料の探索と収集の方法、文献読解の技術、研究対象の選択と調査の方法、論文執筆の手順などが身につくように授業内容を設定します。
4. 修士論文は、研究成果の集大成として作成し、2年次に提出することを課します。指導体制は、自分の研究テーマの分野の指導教員の他に、隣接分野の教員が副指導教員となり、きめ細やかな複数指導体制を敷きます。

史学専攻修士課程の教育課程の編成・実施方針

(カリキュラム・ポリシー)

大学院史学専攻では、歴史的事象を学術的に探究します。史料を用いて歴史的事象を再構成し、そこから明らかになったことをもとに事象を評価、その成果を論理的かつ明解に説明して社会に伝え、よりよい未来を築くことに貢献します。大学院史学専攻の教育課程は、地域ごとに日本史コース、東洋史コース、西洋史コースに分かれています。各コースでは、古代史から現代史にいたるまでの各時代について学べるようになっています。自分の専攻する地域や時代を中心に、他の地域や時代も学び、高い専門性ととも、広い視野から歴史をとらえる力を養えるように設計されています。授業は、幅広い分野と時代にわたって高度な専門的知識を授けることを目的としたコースワーク科目（研究・特講）と、修士論文の作成に直結する調査研究能力を育成するリサーチワーク科目（論文演習）とに大きく分かれています。コースワーク科目では、地域ごとに古代史から現代史にいたるまでの各時代について多彩な内容をもった授業を開講しています。これらの授業を通じて、大学院生が自らの問題関心に従い、幅広い知識と高い専門性を獲得し、さらに修士論文の執筆にむけ原史料の読解能力や先行研究を把握・整理する力を身につける機会を提供します。リサーチワーク科目では、それらの力を総合して学術論文を作成するための指導を行います。

社会文化学専攻博士前期課程の教育課程の編成・実施方針

(カリキュラム・ポリシー)

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。社会文化学専攻の博士前期課程では、標準修業

年限以内に確実に効果的に目的、目標を達成するため、幅広い学識を培うコースワークと研究能力を育成するリサーチワークのバランスに配慮して教育課程を編成します。開設する授業は、「社会システム領域」および「比較文化領域」の2領域に分けられ、そこからバランスよく履修することによって広い視点の学びを確保します。全員が作成し提出する修士論文については、研究指導および論文作成指導の機会が十分に保証されます。社会文化学専攻の院生は、社会調査の手法に関する授業を取得し、「専門社会調査士」の資格を得ることも可能です。幅広い学識と多角的な視点を身につけるため、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。なお、年次の始めに毎年、研究計画書を提出させ、正副指導教員との綿密な打ち合わせを行い、研究方針を共有します。社会文化学専攻の院生は、社会調査の手法に関する授業を取得し、「専門社会調査士」の資格を得ることも可能です。幅広い学識と多角的な視点を身につけるため、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。

哲学専攻修士課程の教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

哲学専攻では、哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教の三つの領域に関して専門的な知識を獲得することを主たる目的としたコースワーク科目（各種特論）と、修士論文を作成する上で必要な指導を受けることを目的としたリサーチワーク科目（論文演習）とを開講しています。これらの授業においては、ひとりひとりの学生に対してきめ細かい指導を行うことにより、学生が高度な専門性と思考力を獲得し、質の高い修士論文を作成できるよう配慮しています。またみずからの意見を論理的かつ適切に表現し、他者の意見を正確に理解し対話する力を養うことを重視しています。学生は、コースワーク科目ならびにリサーチワーク科目の授業を、各年次を通じてバランスよく履修することが求められます。また、研究に必要な場合には、他専攻の科目や哲学専攻の承認した学部開講科目、委託聴講制度の協定を結んだ他大学の大学院科目を、一定の範囲内で履修することができます。また所定の教職専修免許状取得のため修了要件外の学部開講科目を履修することも可能であり、新規に教員免許を取得する際には長期履修制度を利用できる場合もあります。哲学専攻では、指導教員と副指導教員による複数指導体制をとっており、学業全般に関して複数の指導教員に相談することができるほか、指導教員以外の教員の授業も自由に履修し、指導を受けることができます。

人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、心理学、哲学、教育学にわたる多角的な視点を踏まえて幅広く人間科学全体を鳥瞰するための「人間科学基礎論」および、その上に焦点化された教育研究領域の研究を可能とするために「教育実践研究」「生涯学習研究」「国際教育研究」3つの研究領域の柱を立ててカリキュラムを構成しています。本専攻では、「人間科学基礎論」の科目群を置き、心理学、哲学、教育学にわたる多角的な視点を踏まえて幅広く人間科学全体を鳥瞰する教育内容を学びます。また、その上に焦点化された研究を可能とするための「教育研究」領域の科目群を、3つの研究領域の柱を立てて設置しています。「教育実践研究」では、幼児教育および初等中等教育をめぐる諸問題等を扱います。「生涯学習研究」では、生涯学習の理論やシステムに関する研究を扱います。「国際教育研究」では、グローバルとローカルの双方向の視点から諸外国の教育制度・政策、国際教育協力等について扱います。上記の3つの研究領域が重複する研究課題の設定も可能です。また、演習形式の科目群として、

「教育研究」領域の科目群の3つの研究領域の柱に対応して、「教育実践研究演習1・2」「生涯学習研究演習1・2」「国際教育研究演習1・2」を用意し、自分の専門とする分野の演習を1年次に4単位履修することを定めています。「人間科学特別演習」では、研究を深めて修士論文を作成します。修士論文作成に向けた研究指導、論文作成指導の機会はカリキュラム上も、研究指導体制上も十分に保障されます。なお、本専攻では、一種免許状取得者は、当該免許校種・教科にかかわる先週免許状取得の基礎資格を得るための教職課程を設置しており、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（社会）、高等学校教諭（地理歴史・公民）の専修免許取得が可能です。

人文学専攻博士後期課程の教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー) (2022年度以前入学者用)

人文学専攻では、ディプロマ・ポリシーに基づいて、各領域での高度な専門知識ならびに学際的な教養を身につけ、研究成果として学術的な価値のある独創的な博士論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成し、実施しています。

1. 「英語・英文学」「日本語・日本文学」「哲学・美学」の各研究領域において、それぞれの領域における専門的な知識を深めるためのカリキュラムを編成し、充実したコースワーク科目（講義科目）を設置する。
2. 専門領域の枠組みにとらわれず、幅広い学際的な知識を獲得し、研究を行うために、三領域に共通するコースワーク科目として「人文学特論」を設置する。また相互の専門科目の履修を認める。
3. 高度に専門的、独創的な博士論文を作成するために、十分な訓練が受けられるリサーチワーク科目（演習科目）を設置する。また、各領域において複数指導体制を実施する。
4. 上記2と3に加えて、さらに多面的で柔軟な視座を獲得して博士論文の完成度を高め、また他領域の研究者への発信力を鍛えるために、三領域で合同して運営するリサーチワーク科目として「人文学共同演習」を設置する。
5. 上記4の「人文学共同演習」の一環として、現代の社会における研究のあり方や貢献について学ぶ機会を提供するために、さまざまな分野で活躍している研究者（本専攻の修了者を含む）を招き、講演を実施する。

(2023年度以降入学者用)

人文学専攻では、ディプロマ・ポリシーに基づいて、各領域での高度な専門知識ならびに学際的な教養を身につけ、研究成果として学術的な価値のある独創的な博士論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成し、実施しています。

1. 「英語・英文学」「日本語・日本文学」「哲学・美学」「史学」の各研究領域において、それぞれの領域における専門的な知識を深めるためのカリキュラムを編成し、充実したコースワーク科目（講義科目）を設置する。
2. 専門領域の枠組みにとらわれず、幅広い学際的な知識を獲得し、研究を行うために、四領域に共通するコースワーク科目として「人文学特論」を設置する。また相互の専門科目の履修を認める。
3. 高度に専門的、独創的な博士論文を作成するために、十分な訓練が受けられるリサーチワーク科目（演習科目）を設置する。また、各領域において複数指導体制を実施する。
4. 上記2と3に加えて、さらに多面的で柔軟な視座を獲得して博士論文の完成度を高め、また他領域の研究者への発信力を鍛えるために、四領域で合同して運営するリサーチワ

ーク科目として「人文学共同演習」を設置する。

5. 上記4の「人文学共同演習」の一環として、現代の社会における研究のあり方や貢献について学ぶ機会を提供するために、さまざまな分野で活躍している研究者（本専攻の修了者を含む）を招き、講演を実施する。

社会文化学専攻博士後期課程の教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。

社会文化学専攻の博士後期課程では、提供される講義や演習を通して自ら定めたテーマに必要な学識と高度な研究能力を身につけるために、コースワークとバランスに配慮して教育課程を編成しています。ここでは、思考力・判断力を伸ばすと同時に自発性・創造性を発揮することが目指され、国際的に発信する能力を養います。

博士論文の作成を研究活動の中心として重視し、学会の研究水準を十分に踏まえつつ独創性のある論文を作成するため、研究指導および論文作成指導の機会は十分に保障されます。なお、年次の始めに毎年、研究計画書を提出させ、正副指導教員との綿密な打ち合わせを行い、研究方針を共有します。社会文化学専攻の院生は、社会調査の手法に関する授業を取得し、「専門社会調査士」の資格を得ることも可能です。

幅広い学識と多角的な視点を身につけるため、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。

人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程では、少人数制の演習を重視し、学生による研究活動とこれに対する研究指導とをカリキュラムの中心に置いています。学界の研究水準を踏まえ、かつ独創性を育てるために、複数研究指導体制の下、先行研究を精査し、多角的な観点から問題意識を深化・発展させ、主体的に取り組むことを重視しています。

本専攻では、コースワーク科目として、「教育研究」領域の科目群を、3つの研究領域の柱を立て、多彩な特殊研究科目を設置しています。「教育実践研究」では、幼児教育および初等中等教育をめぐる諸問題等を扱います。「生涯学習研究」では、生涯学習の理論やシステムに関する研究を扱います。「国際教育研究」では、グローバルとローカルの双方向の視点から諸外国の教育制度・政策、国際教育協力等について扱います。上記の3つの研究領域が重複する研究課題の設定も可能です。また、演習形式の科目群として、「教育研究」領域の科目群の3つの研究領域の柱に対応して、「教育実践研究特殊演習1・2」「生涯学習研究特殊演習1・2」「国際教育研究特殊演習1・2」を用意し、自分の専門とする分野の演習を1年次に4単位履修することを定めています。

リサーチワーク科目として、「教育研究論文作成演習」を設置し、教育研究領域が定める博士論文の提出要件を計画的に達成し、博士論文の評価基準に適合した論文の作成が可能となるよう特に留意します。この演習科目は、全年次において履修または再履修可能ですが、修了要件単位には数えません。

指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とし、研究全般について適宜指導教員および副指導教員に相談できる体制を整えています。また、博士論文の中間発表では、当該専攻の専任教員が参加し、指導助言を行います。

人間科学専攻（心理学分野）博士後期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

人間科学専攻博士後期課程（心理学分野）では、「心理学基礎研究」領域と「発達臨床研究」領域において、エキスパートの育成を目指し、体系的で精深な学識を養うためのコースワークと、高度な科学的、実証的研究を遂行する能力を養うためのリサーチワークの両者から成るカリキュラムを編成しています。

心理学分野の博士後期課程では、人間の基礎的な心理学的機序と、その応用領域とも言える発達・教育およびそれらへの臨床的介入に関する学習・研究を、コースワーク科目（「知覚心理学特殊研究」「認知心理学特殊研究」「発達心理学特殊研究Ⅰ」など）においてバランス良く学び、基礎的・応用的な研究能力を培い、最終目標である学位論文の作成を目指します。特に演習科目（「知覚心理学特殊演習」「発達心理学特殊演習Ⅰ」など）では、内外の独創性が高い研究、質のよい論文などを学びながら、国内外の最新の研究動向をふまえ、各自の研究を吟味し、目指す研究の意義を検討します。そしてリサーチワーク科目では、学位論文を構成する主たる研究について指導教員・副指導教員より学会発表・雑誌論文の作成などの指導を受けることにより、将来自立した研究者として独創的な研究を展開していく能力を育成します。

「心理学基礎研究」領域では、身体内外からの種々の情報を抽出する感覚・知覚の機能と学習・記憶などの高次認知処理機能、さらにはそれらの障害状況などについて、その神経生理学的基盤も考慮に入れ、最新の知見・方法論に基づいて基礎的・応用的研究を展開していきます。

「発達臨床研究」領域では、乳児から高齢者に至る生涯発達の視点に立ち、人間の発達や教育の心理学的原理および発達・教育上の諸問題・障害、さらにはそれらに対する臨床的介入・援助などについて、基礎的・応用的研究を進めていきます。

いずれの領域においても、発展性に富み、将来にわたり学界に貢献する学位論文の作成を目指します。

5. 各専攻の教育研究の目的と目指す修了生像

▼英語英文学専攻（修士課程）

英語英文学専攻は、英語学、英文学とそれらの関連分野の高度な研究を目的とし、英語の高度な運用能力および英語英文学の専門的知識と技能をもって現代の国際社会に貢献する人材の育成を目的としている。本専攻を修了した者は、国内外の高等教育機関に進学して研究者・大学教員の道を歩むほか、小学校・中学校・高等学校の教員、翻訳・通訳・メディア関係などの専門職業人として活躍することが期待される。

▼日本語日本文学専攻（修士課程）

日本語日本文学専攻では、日本の言語・文学についての高度な研究を目的とし、社会科学や自然科学等の関連領域にも目を向けながら、世界の言語・文学の一つとして自国のそれらを捉える、柔軟な思考力を持った人材の育成を目指している。研究者はもとより、専門的な知識を備える中学校・高等学校の国語教員や優秀な日本語教員、また編集者など高度な日本語能力を有する人材の育成をも視野に入れ、国内外で活躍する人材の養成に努めるものである。

▼史学専攻（修士課程）

史学専攻は、歴史的事象を学問的に探求するだけでなく、現代社会におけるさまざまな問題を歴史的観点から考え、解決していく能力を身につけた人材を育成することを目指している。修了後は、専門的な歴史研究者のほか、中学校や高等学校などの社会科教師、博物館・美術館の学芸員、編集者など高い専門性の要求される諸分野において自らの知識や能力を活かして活躍することが期待される。

▼社会文化学専攻（博士前期課程・後期課程）

社会文化学専攻は、社会、社会心理、心理、思想、宗教、言語、比較文化といった学際的研究を活かして、それぞれの専門性を高めつつ、幅広く社会に貢献できる人材の育成に努めている。博士前期課程では、グローバルズムに対応できる国際的な視野と、幅広い分野に通用する基本的スキルを修得することをめざしており、修了者は、先端技術、マス・メディア、マーケティング、教育関連の企業や国際機関などでの活躍が期待される。また、博士後期課程では、世界規模で生起している社会文化現象に対して問題発見的な研究を推進し、大学、短期大学など教育機関、もしくは、国や民間の研究機関で専門的に活躍できる人材の育成をめざす。

▼哲学専攻（修士課程）

哲学専攻は、哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教学の三領域のいずれかにおける専門的な研究を行なうとともに、他領域の知識や方法論をも広く学ぶことを通じて、合理的思考力を有する、専門性と学際性とを兼ね備えた、深い教養を有する人材の育成を目的とする。

修了生には、研究を通じて修得した知識や教養をもって、専門的な研究者、中学校・高等学校の社会科教科目（公民、倫理、宗教など）の教員、美術・アート関係の専門家として、あるいはその他の社会的・職業的活動において広く貢献することが求められる。

▼人間科学専攻（教育学分野）（博士前期課程・後期課程）

人間科学専攻教育研究領域は、教育を幅広い人間科学の中に位置づけて研究、教育することを通じ、高度な教養と広い視野のもとに教育学に関する専門的な学識を身に付け、幼児教育、学校教育、社会教育等の現場や国際教育協力活動等において指導的役割を果たす人材、および幅広い分野において教育活動と生涯学習を遂行し研究する人材の育成を目標とする。博士前期および後期課程修了者は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員、その他教育・福祉関係の専門家として、また生涯学習、マスメディア、情報、デザイン、アート、国際協力などの分野で学習の新しい領域と方法を開発することのできる人材として活躍することが期待される。

▼人間科学専攻（心理学分野）（博士前期課程・後期課程）

人間科学専攻心理学分野の「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の3領域では、いずれも多様な心理学の学習、実験・調査・面接の技法、統計的な処理などの訓練を通して分析的に物事を観察する能力と自分の考えを組み立て説得的に発表する技術を身につけることを目標としている。博士前期課程ではスクール・カウンセラーやセラピスト、公務員の心理職、一般企業の教育・人事職など、また、博士後期課程では研究所員、大学、短期大学、専門学校の教員などの仕事を通して、科学的センスと能力によって広く社会に貢献できる人材を育成する。

▼人文学専攻（博士後期課程）

人文学専攻は、言語・文学・思想・芸術などを通して人間の本質に迫ることを目標とする。本専攻では特に「英語・英文学」

「日本語・日本文学」「哲学・美学」「史学」という四つの柱を立てて教育・研究を行っているが、個々の専門領域にとどまらず学際的な視点をもった人材の育成を目指している。本専攻の学生は、博士論文の作成に向けて教員の綿密な指導を受ける。修了者は本格的な学術研究の道を歩むほか、在学中に培った高度な教養と専門性をもって社会のさまざまな分野で活躍することが期待される。

6. 博士論文の提出要件

1. 人文学専攻

1-1 査読付きの学会誌（本学大学院が発行する『聖心女子大学大学院論集』等の紀要を含む）に1本以上の論文が掲載されていること、もしくは所属学会（本学も参加する大学院英文学専攻課程協議会の研究発表会を含む）で1回以上発表の実績があることを提出条件とする。

1-2 仮提出と本提出の条件

本提出に先立って仮提出する博士予備論文は、英語英文学分野においては3万ワード程度、日本語日本文学・哲学美学・史学分野においては400字詰め原稿用紙200枚程度とする。さらに仮提出された博士予備論文は指導教員を含む複数の当該専攻の教員により査読され、博士論文としてふさわしいと判断された場合のみ、本提出を許可される。仮提出された博士予備論文は本提出までに必要な補筆訂正を行うことができる。

2. 社会文化学専攻

2-1 以下の中間審査の過程を経ていること。

1) 1年次後期以降の共同演習時に「博士論文の構想」を発表し、発表した「博士論文の構想」が専攻の合否判定を受けて合格すること。

2) 2年次前期以降の共同演習時に「博士論文の計画」を発表し、かつ「博士論文計画書」を指導教員に提出し、提出した「博士論文計画書」が専攻の合否判定を受けて合格すること。

3) 2年次後期以降の共同演習時に「博士論文の中間報告」を発表し、かつ「博士論文の草稿」を指導教員に提出し、提出した「博士論文の草稿」が専攻の合否判定を受けて合格すること。

4) 随時、専攻に対して博士論文の予備論文（以下「予備論文」という。）を提出し、主査および副査による査読を受けること。

なお、毎年度7月末までに提出すれば、同年度9月末までに、主査および副査の査読が終了するものとする。

5) 予備論文提出時までに、博士論文の内容に関連ある学会発表を1回以上行っていること。

6) 予備論文提出時までに、博士論文の内容に関連ある論文が2篇以上専門学術誌等に掲載されているか、もしくは掲載が決定していること。うち少なくとも1篇は、査読付論文であること。

付 上記4)～6)の確認は、予備論文提出時に行う。

3. 人間科学専攻（教育研究領域）

3-1 以下の中間審査の過程を経ていること。

1) 1年次後期以降 博士論文の構想を「博士論文計画書」として発表すること。

2) 2年次前期以降 博士論文の第1次中間発表をすること。

3) 2年次後期以降 博士論文の第2次中間発表をすること。

4) 2年次末以降 博士予備論文を指導教員に提出すること。

付 上記1) から3) は教育研究領域の専任教員全員で構成する審査会で審査を行い、4) については指導教員と副指導教員2名が審査にあたる。

3-2 博士論文の提出までに、以下の二つの要件を満たしていること。

- 1) 博士論文に関係ある学術論文2本(うち1本は、査読つき論文であること)が専門学術誌等に掲載済みまたは掲載が決定されているものがあること。
- 2) 博士論文に関係ある学会発表を2回以上行っていること。

4. 人間科学専攻(心理学)

4-1 以下の中間審査の過程を経ていること。

- 1) 2年次前期 博士論文の構想を博士論文計画書として提出すること。
- 2) 2年次末以降 博士予備論文を提出すること。

4-2 論文の構想は博士論文計画書(目的、方法、分析、予想される結果、主要文献を含む。以下「計画書」という。)として指導教員に提出する。計画書の書き方については「心理学論文作成演習」の授業で指導を行う。なお、計画書を提出する者は、学会やそれに相当する研究会(いずれも国内、海外を問わず)で、発表を前期課程から通算して最低2度はしていることが必要である。計画書の提出は、その年度の6月末日を期限とし、後期課程2年次以上の者がこれを提出できる。博士論文計画書審査委員会(心理学の専任教員全員で構成する。以下「委員会」という。)は計画書の審査委員を決定する。審査委員は原則として指導教員1名と心理学の専任教員2名の計3名があたり、最終審査は委員会で行うものとする。計画書が審査を通れば、学生は計画書の内容で博士予備論文の作成を始める。ただし、この計画書の有効期限は原則として審査後2年間とする。博士論文が審査で不合格となった場合は、計画書も同時に無効となり、その時点から2年間は計画書も再提出できない。

4-3 博士論文の審査を受けるものは、審査の最終結果が出るまでに、査読のある専門誌に1本、あるいはそれに相当する書物、雑誌、モノグラフなどに1本、最低2本の論文(印刷中を含む)がなければならない。

4-4 過去に本学に博士論文を提出し、審査で不合格となった者は、再度、テーマや内容の重複する計画書及び博士論文を提出することはできない。

7. 修士論文・博士論文の提出

<修士論文>

●「修士論文テーマ・指導教員届」の提出(4月中旬)

日時などの詳細は4月上旬にSophie全学掲示板に掲載する。年度内に修士論文を提出見込みの者は、教務課に提出すること。

なお、提出後にテーマが変更になった場合、改めて提出の必要はありません。

●論文の提出(1月中旬)

日時などの詳細は12月上旬にSophie全学掲示板に掲載する。年度内に修士論文を提出見込みの者は、掲示の指示にしたがって提出物を準備し、教務課に提出すること。

なお、論文の体裁については各専攻で定められたルールにしたがうこと。

●合否の発表(2月中旬)

日時などの詳細は12月上旬にSophie全学掲示板に掲載する。

<博士論文>

●博士学位の種類について

博士の学位は2種類あり、本大学院を修了する者は「課程博士(甲)」を申請する。

A. 課程博士

博士の学位は、大学院学則第16条及び第17条により、本大学院博士後期課程に3年以上在学し、所定の授業科目について10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する(学位規程第5条第1項、第15条、第18条)。

在学年限を1年以上残して退学した場合、再入学することで課程博士(甲)学位を申請することができる。再入学に関する規程は別に定める。

※平成26年度までに本大学院博士後期課程に入学した者については、満期退学後3年以内であれば特別研究員として在籍することにより課程博士(甲)学位を申請することができる。

B. 論文博士

博士の学位は大学院学則第18条により、論文を提出し、本大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ、博士課程修了者と同等以上の学力を有することを確認された者に授与することができる(学位規程第5条第2項、第16条、第19条)。

●申請の流れ(Aは課程博士、Bは論文博士)

A①「博士論文題目・指導教員届」の提出(4月中旬)

日時などの詳細は4月上旬にSophie全学掲示板に掲載する。年度内に博士論文を提出見込みの者は、教務課に提出すること。

A② 論文の提出(10月末日)

日時などの詳細は10月上旬にSophie全学掲示板に掲載する。博士論文を提出見込みの者は、掲示や当該専攻の指示にしたがって提出物を準備し、教務課に提出すること。

なお、論文の体裁については各専攻で定められたルールにしたがうこと。

A③ 最終試験

日時等の詳細は個別に通知する。学位論文に関する最終試験を口頭により行う。

A④ 修了内定者の発表(2月中旬)

日時などの詳細は12月上旬にSophie全学掲示板に掲載する。

B① 論文の提出

博士論文を提出する者は、当該専攻の指示にしたがって提出物を準備し、審査料を添えて当該専攻研究室に提出すること。提出にあたっては事前に教務課へ照会すること。

B② 論文審査料

審査料は次のとおりとする(聖心女子大学博士論文審査料等の徴収に関する規程)。

- (1) 学位規程第16条第2項に該当する者…… 50,000円
- (2) 本学専任教職員…… 50,000円
- (3) その他の者…… 150,000円

B③ 学力の確認

学位論文に関連のある専攻分野の科目及び外国語について、口頭又は筆答の試問の方法によって行う。但し、学位規程第16条第

2項に規定する者が退学後5年以内に学位論文の審査を申請する場合は、第1項の試問を免除することができる(学位規程第19条)。

B④ 合否の発表

博士論文提出後、原則として1年以内に論文の審査及び学力の確認を経て合否を判定する。合否発表の日時などの詳細は別途通知する。合格の場合、3月中旬の学位記授与式において博士学位記を授与する。

8. 修士論文の評価基準

修士論文として合格が認められるためには、所属専攻の指定する方法により研究指導を受け、専攻分野にふさわしいテーマを設定し、先行研究を適切に踏まえ、論文内容、研究方法、表現形式その他について各専攻が定める評価基準に適合する水準のものであることが求められる。また、資料・情報の入手、研究に引用等に関する研究倫理に問題があってはならない。提出された修士論文は、本学学位規程に則り、当該専攻に設置される審査委員による評価および最終試験の結果に基づき、修士論文審査会議で合否を決する。

<各専攻の評価基準>

▼英語英文学専攻

英語英文学専攻では、修士論文の審査において、以下の諸観点(内容・表現・形式)から総合的に判断し評価することとする。

1. 英語英文学専攻の修士論文として適切な主題を扱っているか。
2. 先行研究をよく把握しているか。
3. 客観的で正確な記述がなされているか。
4. 論理的に明快な主張がなされているか。
5. 執筆者独自の視点・考え方が表れているか。
6. 文章は文法的に正確で、使われている語彙は適切か。
7. 章・節などの構成は適切か。
8. 定められたフォーマット・分量を守っているか。
9. 参考文献の選択・数は適切か。
10. 文献引用の形式は適切か。

▼日本語日本文学専攻

日本語日本文学専攻では、修士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の合否を決定することとする。

1. テーマ設定が適切で、研究に独自性があるか。
2. 先行研究を十分に参照しているか。
3. データの信憑性を吟味し、確実な根拠に基づいて主張しているか。
4. 考察の論理的整合性を保っているか。
5. 論文全体の構成が適切で、文章表現が的確であるか。
6. 文献引用の形式が適切であるか。
7. 研究倫理に則っているか。

▼史学専攻

聖心女子大学大学院文学研究科史学専攻では、修士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の合否を決定することとする。

1. 修士論文題目に関する史料、先行研究を正確かつ的確に理解していること。
2. 主張に独自性があり、かつ説得力があること。

3. 主張に論理的な整合性があること。
4. 主題を論じるに適切な分量であり、かつ全体の構成にまとまりを有すること。
5. 文意が正確かつ簡潔に伝わる表現であること。
6. 史料・文献等からの引用の仕方が、学問上の倫理に則り、かつ論理の構成上適切なものであること。

▼社会文化学専攻

大学院社会文化学専攻では、修士論文を以下の視点から判断し、すべて5段階の評定をする。

1. 扱われている主題は社会文化学専攻の修士論文として適切か。
2. 社会文化学に寄与するものか。
3. 扱われている素材・資料は適切か。
4. 素材・資料の提示は適切か。
5. 結論の提示方法は適切か。
6. 論理展開は適切か。
7. 記述内容の正確さは充分か。
8. 記述内容の完成度は充分か。
9. 表現は適切か。
10. 文章表現は優れているか。
11. 文章は充分読みやすいか。
12. 章・節など全体構成は適切か。
13. 原稿枚数は適切か。
14. 用いられている図表等は適切か。
15. 図表等の作成や説明の仕方は適切か。
16. 引用されている参考文献は妥当なものか。
17. 文献引用の形式は適切か。
18. 要旨は論文内容の趣旨を適切に表現しているか。

▼哲学専攻

聖心女子大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻では、修士論文の審査において、以下の諸観点(内容・表現・形式)から総合的に判断し、論文の合否を決定する。

1. 執筆者独自の視点や思考が、客観的に、説得力をもって表現されているか。
2. 先行研究が的確に把握され、必要不可欠な情報が網羅的に述べられているか。
3. 正確かつ簡潔でわかりやすい記述がなされているか。
4. 正書法(文法・語彙・記号の使用等)に則った表記がなされているか。
5. 主題を論じるに適切な分量であり、かつ全体の構成にまとまりを有するか。
6. 作成した図表、統計資料等の信憑性が確保され、かつその扱い方が適切であるか。
7. 文献・データベース等の引用、出典、註等が、学問上の倫理に則っているか。

▼人間科学専攻(教育学分野)

修士論文は以下の基準をもって審査する。

1. 研究テーマに対応する国内外の先行研究を十分に吟味している。
2. 研究テーマに対する問題意識を明確にもち、それを適切に記述している。
3. 研究課題や研究方法・内容に独自性が認められる。

4. 研究テーマの分野の修士論文として適切な研究課題を設定し、必要十分な水準の結果を達成できている。
5. 自ら設定した研究課題の解明のために適切な研究方法がとられている。
6. 研究に用いている資料、収集したデータは適切である。
7. 論文の構成、文体、図表、引用、注記、参考文献リスト等は適切である。
8. 修士論文として適切な分量である。
9. 論文全体の論理構成に一貫性が認められる。

▼人間科学専攻（心理学分野）

聖心女子大学大学院文学研究科人間科学専攻（心理学）では、修士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の可否を決定することとする。

1. 問題意識が明確であり、目的に応じた適切な課題の設定が行われていること。
2. 内外の先行研究を十二分に検討した上で、当該研究を適切に位置づけていること。
3. 研究目的に照らして、適切な研究方法と、それに応じた分析方法が使われていること。
4. 論文の各部の論旨が明確であり、論理の展開において整合性や首尾一貫性を有していること。
5. 学術的および社会的な意義が認められること。

9. 博士論文の評価基準

博士論文として合格が認められるためには、所属専攻の指定する方法により研究指導を受け、専攻分野にふさわしく価値の高いテーマを設定し、学界の研究水準を十分に踏まえつつ独創性を有し、論文内容、研究方法、表現形式その他について各専攻が定める評価基準に適合する水準であって、自立して研究活動を行うに足る研究能力の証左となり得ることが求められる。また、資料・情報の入手、研究の引用等に関する研究倫理に問題があってはならない。提出された博士論文は、本学学位規程に則り、当該専攻に設置される審査委員による評価および最終試験の結果に基づき、博士論文審査会議で可否を決する。

<各専攻の評価基準>

▼人文学専攻

聖心女子大学大学院文学研究科人文学専攻では、博士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の可否を決定することとする。

1. 当該の研究領域において高い学問的価値を有すること。
2. 主張に独自性があり、かつ説得力があること。
3. 主張に論理的な整合性があること。
4. 主題を論じるに適切な分量であり、かつ全体の構成にまとまりを有すること。
5. 文意が正確かつ簡潔に伝わる表現であること。
6. 作成した図表、統計資料等の信憑性が確保され、かつその扱い方が適切であること。
7. 先行研究を十分に踏まえていること。
8. 文献・データベース・各種資料等からの引用の仕方が、学問上の倫理に則り、かつ論理の構成上適切なものであること。

▼社会文化学専攻

大学院社会文化学専攻では、博士論文を以下の視点から判断し、

すべて5段階の評定をする。

1. 扱われている主題は社会文化学専攻の博士論文として適切か。
2. 高い学問的価値を有しているか。
3. 主張に独自性があり、かつ説得力があるか。
4. 扱われている素材・資料は適切か。
5. 素材・資料の提示は適切か。
6. 結論の提示方法は適切か。
7. 論理展開は適切か。
8. 記述内容の正確さは充分か。
9. 記述内容の完成度は充分か。
10. 表現は適切か。
11. 文章表現は優れているか。
12. 文章は充分読みやすいか。
13. 章・節など全体構成は適切か。
14. 主題を論じるに適切な分量であり、かつ全体の構成にまとまりを有しているか。
15. 作成した図表、統計資料等の信憑性は確保されているか。
16. 図表、統計資料等の扱いは適切か。
17. 引用されている参考文献は妥当なものか。
18. 文献引用の形式は適切か。
19. 要旨は論文内容の趣旨を適切に表現しているか。

▼人間科学専攻（教育学分野）

博士論文は以下の基準をもって審査する。

1. 教育と人間形成に関する価値の高いテーマを扱っている。
2. 研究テーマが絞り込まれている。
3. 研究テーマについての先行研究の調査を十分に行っている。
4. 論文の方法論が明確である。
5. 研究の素材となる基本文献、資料、調査データを十分に吟味している。
6. 結論を裏付けるための、必要にして十分な議論と実証が展開されている。
7. 教育研究の領域から見て評価に値する独創性を有する論文である。
8. 資料・情報の入手、研究成果の引用等に関する倫理を遵守している。

▼人間科学専攻（心理学分野）

聖心女子大学大学院文学研究科人間科学専攻（心理学）では、博士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の可否を決定することとする。

1. 問題意識が明確であり、目的に応じた適切な課題の設定が行われていること。
2. 内外の先行研究を十二分に検討した上で、当該研究を適切に位置づけていること。
3. 研究目的に照らして、適切な研究方法と、それに応じた分析方法が使われていること。
4. 論文の各部の論旨が明確であり、論理の展開において整合性や首尾一貫性を有していること。
5. 独創性に富み、学術的および社会的な意義が認められること。

第2章 履修登録

1. 科目履修のルールと諸注意

●履修登録の時期

		前期履修登録	後期履修登録
大学院 開講科目	修士・博士前期課程1年次生 博士後期課程1・2年次生	通年科目 前期科目 後期科目	後期科目
	修士・博士前期課程2年次生 博士後期課程3年次生	通年科目 前期科目 後期科目	なし※
学部開講科目		通年科目 前期科目 後期科目	後期科目
委託聴講科目		通年科目 前期科目 後期科目	

※修士・博士前期課程2年次生および博士後期課程3年次生の履修登録

前期の単位修得状況により、修了、資格取得のために後期科目をさらに履修登録する必要がある場合は、本人の責任において後期履修登録が可能です。

●特殊な登録の方法

<他専攻授業科目の履修登録>

他専攻の授業科目を履修することを希望する学生は、所属専攻代表委員または指導教員に相談の上、教務課で所定の登録手続きを行ってください。

<委託聴講科目の履修登録>

委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院で委託聴講生として授業科目を履修し、単位を修得した場合、本学の修了要件に算入することができます。「委託聴講生制度一覧表」(表1)ならびに各専攻の「授業科目履修要領」参照。この場合、本学の教務課での手続きが必要です。委託聴講を希望する学生は、所属専攻の承認を得た上で、本学の教務課での登録手続き後、協定校において手続きをし、委託聴講料(各大学の規定による)を納付してください。協定校の登録締切りは協定校により異なるので、掲示等で確認してください。(⇒各委託聴講生制度の協定書pp.413-416)

なお、委託聴講先の大学院学生の履修登録が無い場合、当該科目は開講取止めとなります。

【表1】委託聴講生制度一覧表

種別	専攻	協定大学大学院	専攻
大学院英文学専攻委託聴講制度	英語英文学	*1	英米文学他
大学院史学専攻委託聴講制度	史学	東京女子大学大学院人間科学研究科 日本女子大学大学院文学研究科	史学
首都圏宗教単位互換制度	哲学	*2	神道学 宗教学他
大学院人間科学専攻委託聴講制度	人間科学 (教育学分野)	青山学院大学大学院教育人間科学研究科 東洋大学大学院文学研究科	教育学
	人間科学 (心理学分野)	青山学院大学大学院教育人間科学研究科	心理学
カトリック女子大学大学院委託聴講制度	全専攻	清泉女子大学大学院人文科学研究科	*3
		白百合女子大学大学院文学研究科	*4
渋谷4大学連携単位互換制度	英語英文学専攻	実践女子大学大学院文学研究科	英文学
	日本語日本文学専攻	青山学院大学大学院文学研究科 國學院大學大学院研究科 実践女子大学大学院文学研究科	日本文学・日本語文学 国文学
	史学専攻	青山学院大学大学院文学研究科 國學院大學大学院研究科	史学
	哲学専攻	青山学院大学大学院文学研究科 実践女子大学大学院文学研究科	比較芸術学 美術史学

- *1 青山学院大学、東北学院大学、法政大学、上智大学、東洋大学、明治大学、東京女子大学、立教大学、日本女子大学、明治学院大学、津田塾大学
- *2 國學院大學、創価大学、大正大学、東洋英和女学院大学、駒澤大学、立教大学
- *3 言語文化、思想文化、地球市民学
- *4 発達心理学、児童文学、国語国文学、フランス語フランス文学、英語英文学

<科目等履修生制度による履修登録について>

大学院修了単位に算入しない授業科目を履修登録する場合(教職課程、博物館学芸員課程、日本語教員課程、社会調査士等)、教務課で所定の登録手続きを行ってください。自動登録科目についても、この手続きが必要となるので注意してください。また、別途事前登録の手続きが必要となる科目もあるため、手続き方法等に注意してください。(⇒p.402)

大学院入学後、通算して10単位までの学部開講科目の履修登録については、科目等履修料(1単位あたり10,000円)の全額を免除します。ただし、10単位を超える履修については、科目等履修料の半額(1単位あたり5,000円)の納付が必要となります。

●自動登録科目

以下の科目は履修登録を希望する場合でも、履修登録期間前までにあらかじめ履修画面に登録されている科目です。ただし、学部開講科目を大学院修了単位とは別に履修する場合、上記のとおり科目等履修生制度による履修登録の手続きが必要です。

<大学院開講科目>

- TH52 社会文化学共同演習Ⅰ：博士前期課程社会文化学専攻
1年次生のみ
- XC13 人文学共同演習：博士後期課程人文学専攻
2年次生のみ
- ZC13 社会文化学共同演習：博士後期課程社会文化学専攻
2年次生のみ

<学部開講科目（科目等履修生制度による）>

- CF31 日本語教育実習
- DJ41 博物館実習
- RC14 教育実習指導1（中学・高校）
- KG13 教育実習指導2（小学校）
- KG23 教育実習指導3（幼稚園）
- RC15 教育実習指導4（中学・高校）
- KG14 教育実習指導5（小学校）
- KG24 教育実習指導6（幼稚園）
- RC16 教育実習指導1
- KG15 教育実習指導2
- KG25 教育実習指導3
- RC17 教育実習指導4
- KG16 教育実習指導5
- KG26 教育実習指導6
- RC31 教育実習1
- RC32 教育実習2
- KH09 教育実習3
- KH10 教育実習4
- RC51 教職実践演習（中学・高校）
- KG42 教職実践演習（小学校）
- KG43 保育・教職実践演習
- KG44 教職実践演習

●人数制限科目

人数制限科目とは、授業内容等により授業開始前に選抜等を行い、受講人数を制限する科目です。あらかじめ人数を制限する科目については、シラバスに記載されているので、Sophieの事前登録画面または研究室指定の手続きを経て申請してください。また、人数制限の欄に記載がない場合でも、教室等の利用施設の定員数を超えた場合に選抜等が行われることがあります。履修を希望する科目については以下を徹底してください。

- ①選抜等が行なわれるかどうかをシラバスおよびSophieで確認する
 - ②人数制限科目抽選にエントリーする
- 人数制限は、以下の3つの方法で実施します。

	削除不可科目 (Sophie) 抽選	削除可科目 (受講者) 抽選	研究室抽選
応募方法	Sophie事前登録にて申込	Sophie事前登録にて申込	研究室指定の方法による(Google Form等) Sophieの履修登録掲示板参照
申請期間	削除不可(Sophie)抽選受付期間	削除可(受講者)抽選受付期間	研究室抽選受付期間
結果発表	Sophieの事前登録照会	Sophieの事前登録照会	Sophieの履修登録掲示板
履修登録	自動登録(当選者のみ)	自動登録(当選者のみ)	登録期間中に各自で登録
登録削除	不可	可	可

<後期科目について>

・後期科目であっても前期の事前登録期間に人数制限のための選抜等が行われることがあります。選抜等が行われるかどうかをシラバスおよびSophieで確認してください。

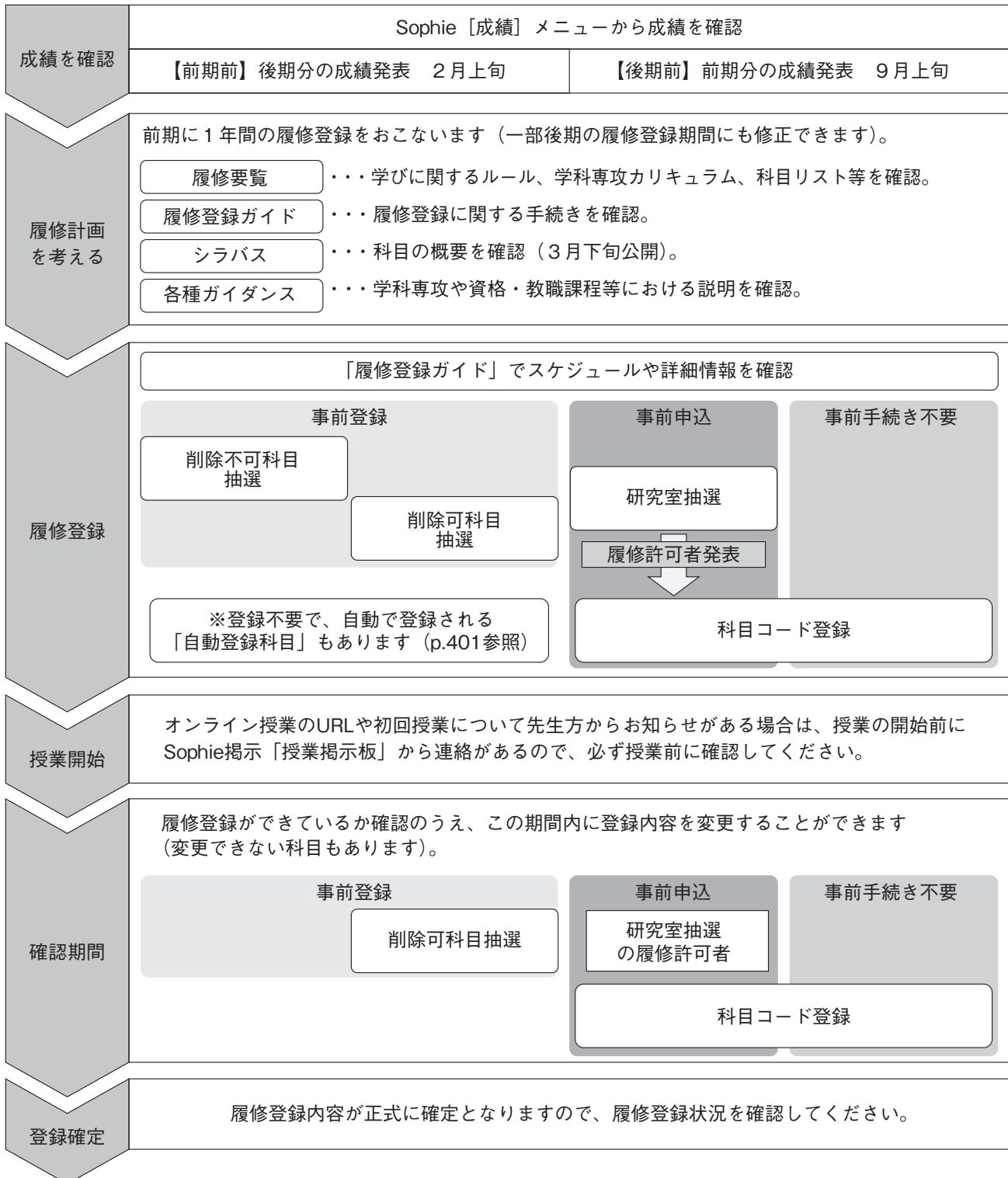
●開講取止め

大学院開講科目は大学院学生の履修登録が無い場合、開講取止めとなります。

●授業科目の聴講

修士論文執筆等の特別な理由で授業科目の聴講を希望する場合、教務課に相談してください。

2023年度 履修登録について



※あくまで大まかなながれのため、履修登録の詳細については「履修登録ガイド」を確認してください。

第3章 授業

●授業期間

半期科目は14週、通年科目は28週が通常の授業期間となります。初回授業では授業に関するオリエンテーションが行われますので必ず出席してください。

●授業時間

授業時間は、以下のとおりです。土曜日は、集中講義等を除き2時間まで授業が行われます。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～ 10:40	10:50～ 12:30	13:30～ 15:10	15:20～ 17:00	17:10～ 18:50

●祝日授業実施

授業日数を確保するため、特定の祝日にも授業を行うことがあります。当該年度の祝日授業実施日程については、学年暦で確認してください。

●土曜開講科目授業実施（みなし土曜日）

土曜日の授業日数を確保するために設けられた日程で、特定の土曜日に2回分の授業を行います。通常の授業時間とは異なりますので、実施日1週間前頃に掲示される内容を必ず確認してください。なお、当該年度の土曜開講科目授業実施（みなし土曜日）日程については、学年暦で確認してください。

参考 過年度に実施されたみなし土曜日の時間割は、以下の通りです。

■通常 [土1] 開講科目 ⇒ 1限・2限に授業実施

■通常 [土2] 開講科目 ⇒ 3限・4限に授業実施

●休講

授業担当者の公務、学会出席、病気等によりやむを得ず授業を休講することがあります。大学からの休講連絡はSophieで配信します。電話やメール等での照会には応じません。休講の情報がなく授業時間を20分経過しても授業担当者が入室しない場合は、教務課に連絡して指示を受けてください。

●補講

休講となった授業は、補講が行なわれます。補講日時等は、Sophieで配信します。

オンデマンド配信で行われる補講について、Sophieで通知される補講日時は配信日時の目安です。詳細は各授業担当者の指示に従ってください。

補講日については学年暦に定めているとおりですが、その他の日程で行われる場合もあります。

●出欠席

(1) 出欠席の確認は授業開始日より行なわれ、その方法は授業担当者が決定し学生に伝えます。

「遅刻または早退3回で1回欠席」といったルールはSophie [授業担当者からのお知らせ] に掲示またはシラバス [その他、履修上の注意事項や特記事項] に示します。

(2) 2020年度より、授業担当者が入力した出欠席情報が、Sophieにより学生にも開示されます。ただし、出欠席情報の更新頻度は、授業担当者・授業の履修人数等により異なりますので、ご承知おきください。

(3) 交通機関による遅延、病気などによってやむを得ず欠席す

る（した）場合は、各自で授業担当者に事情を説明してください。教務課で欠席の連絡を取りつぐことはできません。

(4) 大学を長期（2週間以上）にわたって欠席する（した）場合、および忌引きの場合は学生生活課に連絡してください。〔『学生生活』参照〕また、単位の修得要件（2）（⇒p.382）にも気をつけてください。

●公欠

「公欠」とは、次に掲げるものについて、教務課へ公欠届を提出することにより、所定期間内の履修科目の欠席を認めることを意味します。公欠届が提出された場合の欠席は、授業出席回数に算入されます。公欠届の申請方法、様式はSophieのダウンロードセンターに掲載されています。

(3) の場合を除き、必ず事前に公欠の手続きを教務課で行ってください。

(1) 教育実習、介護等体験、日本語教育実習、博物館実習（学外）、心理実習（学外）等

(2) 「災害救援ボランティア講座」に大学から派遣される場合

(3) 忌引公欠：

公欠期間の最終日の翌日から起算して5日以内（土・日・休校日を除く）に、忌引公欠届（保証人の署名・捺印を要する指定用紙。Sophieに掲載）およびこれを証明する書類（会葬御礼・死亡診断書の写し等）を提出したもの（最長公欠認定日数は次のとおり）。

・配偶者の場合は、死亡した日から起算して連続7日（休日を含む。）の範囲内の期間

・1親等（父母、義父母、子）の場合は、死亡した日から起算して連続7日（休日を含む。）の範囲内の期間

・2親等（祖父母・兄弟姉妹、孫）の場合は、死亡した日から起算して連続3日（休日を含む。）の範囲内の期間

(4) その他特別な事情(災害等)により、大学が認めたもの(就職活動による授業欠席については「公欠」の扱いは認められません)。

なお、(1)～(4)に関して、保育士養成課程における授業欠席については「公欠」の扱いは認められません。

▼出席停止

「学校保健安全法」により定められた感染症(インフルエンザ、麻疹、百日咳等。本学ホームページから確認ができます)に罹患した場合、その旨大学保健センターに速やかに連絡をし、医師の指導に基づき大学への通学を控えてください。その間は「出席停止」の扱いとなり、出席停止期間中の欠席回数は、出席すべき回数から除外されます。病院で医師の診断書を取得し、体調回復後、大学保健センターに提出してください。

●集中講義

授業科目によっては、一定の時期に集中して授業を行う「集中講義」として開講される科目があります。各集中講義の日程は、Sophieの掲示で確認してください。

[履修上の注意事項]

①授業形式が対面、対面（一部オンライン）、オンライン（リアルタイム型）で実施される集中講義科目において、曜時が他の授業科目と重なっている場合や、集中講義科目同士の日程が一部でも重複している場合、出席できる授業はいずれか一

科目のみです。

日時の重複等により出席できなかった集中講義は欠席扱いとなりますのでご注意ください。

- ②集中講義期間中に、「学校保健安全法」により定められた感染症罹患による出席停止になった場合、教務課への申請により、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。集中講義最終日から2週間以内に教務課に手続きを行ってください。

●交通機関の大幅な乱れを伴う災害・交通ストライキや、感染症などの場合の休講・休校について

1. 大学からの連絡・通知手段

大学公式ウェブサイトのトップページの「重要なお知らせ」に本学の対応を掲載します。

(また、代替手段として大学公式SNSで告知する場合があります。)

2. 休講・休校の措置について

- 台風の接近や暴風雨雪などが予想される場合は、前日の午後6時を目途に措置内容を掲載します。休講・休校を解除し授業・諸活動を再開する又は対応を延長するなど、前日の午後6時に告知した対応内容に変更・追加がある場合は当日の午前6時に、午前6時掲載の対応内容に変更・追加がある場合には当日の午前11時を目途に掲載します。
- 本学への主たる交通機関であるJR山手線、東京メトロ日比谷線の運行状況により判断し、上記1. 大学からの連絡・通知手段により措置内容を告知します。
- 学校保健安全法の〈学校において予防すべき感染症〉による患者が一定数を越えた場合の休校措置については、上記1. 大学からの連絡・通知手段により措置内容を告知します。
- 大学が休講・休校になった場合には、学外からご来学の一般の方の活動や課外活動も同時に中止とします。在校中の

場合は諸活動を取りやめ、身の安全を図ってください。

※上記2. は原則です。予測ができない災害(大地震等)の場合など、緊急の対応を要する場合や、そのほか広く本学の対応・措置を告知する必要がある事柄についても、随時大学公式ウェブサイトのトップページの「重要なお知らせ」に掲載しますのでご確認ください。

※登校中または帰宅途中の場合は、原則として帰宅することとし、在校中は大学の指示に従ってください。

大学からの緊急連絡や重要なお知らせがある場合には、大学公式ウェブサイトの「重要なお知らせ」にてお知らせします。在学生の皆さんは、毎日必ず確認するとともに、USH-Cloudからのメールを自分の携帯端末等で確認できるように設定してください。

大学公式ウェブサイト
<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/>



聖心歳時記facebook
<https://www.facebook.com/SeishinDiary>



聖心TopicsTwitter
<https://twitter.com/SeishinTopics>



第4章 試験・レポート

1. 試験・レポートについて

学期末、学年末の成績評価の方法は授業科目によって異なります。評価方法はシラバスに記載されていますので必ず確認するようにしてください。

「定期試験」として実施される場合には、学年暦の「授業および試験」期間に行われます。「教務課提出のレポート」として実施される場合には、所定の期日に教務課に提出します。提出日・提出方法は別途Sophie上に掲示します。それ以外の場合は授業担当者の指示に従ってください。

●試験時間

定期試験の場合の試験時間割は、以下のとおりです。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～ 10:40	10:55～ 12:35	13:30～ 15:10	15:25～ 17:05	17:20～ 19:00

●試験受験上の注意

次の各項を確認の上、試験時間中は試験監督者の指示にすべて従ってください。

- 学生証は常に携帯し、試験時間中は必ず机の上に置く。学生証を忘れた場合は、試験開始までに証明書自動発行機に

て「在学証明書」発行の手続きを行う。

- 座席が指定されている場合は、試験監督者の指示に従い、定められた席に着く。
- 学生証、筆記用具(鉛筆・シャープペンシル・万年筆・ボールペン・消しゴム・その他特別に指示があるもの)以外のものは、机の上に置かない。
- 携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器は、アラームの設定を切り電源も切ってカバンの中にしまう。これらは時計としても使用できない。持ち物は各自の椅子の脇に置く。
- 時計のアラームの設定を切り、時刻表示以外の他の機能がついた時計は使用しない。
- 試験開始後50分までは、試験場から退出しない。
- 遅刻者は試験場に入ることが許されず、受験することができない。ただし試験開始後30分以内の遅刻で、公共交通機関の事故など不可抗力による遅刻であれば、試験監督者の指示に従い、受験することができる。

●レポート作成・提出についての注意

提出するすべてのレポートについて、本学の研究倫理ガイド(⇒p.8)および研究倫理指針(⇒p.467)を熟読し、不正に相当する行為を行わないよう注意してください。

【教務課へのレポート提出に関する注意】

次のことに注意してください。

- (1) 授業担当者に直接届ける、郵送する等しても受理されない。指定された期日に提出すること。
- (2) 教務課指定の「レポート提出票」に必要事項を記入し、掲示の見本どおりの体裁に整えて提出すること。
- (3) 学生証を提示し、本人が提出すること。

2. 追試験・追審査について

以下の理由で、定期試験が受験できなかった、または教務課提出のレポートを提出できなかった場合、指定期間に必要書類を教務課に提出し、授業担当教員の許可が得られれば、所定の手数料を納付し、追試験・追審査の受験が認められます。(出席停止(⇒p.403)の場合は手数料免除) 詳細についてはSophieの掲示を確認してください。

理由	受験料	証明書
病気・怪我	有料	
学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症による欠席(インフルエンザ等)	免除	医師の診断書(試験当日に通院・療養中であったことを証明するもの)。他は不可
忌引(両親、兄弟、姉妹、祖父母)	有料	死亡に関する公的証明書(会葬礼状でも可)
災害(台風、水害、火災等)	免除	官公庁による被災証明書
交通関係(事故、遅延)	有料	(自宅からの通常の通学経路における)交通機関が発行した証明書(インターネット上の遅延証明書は不可)
単位互換科目との試験日程重複	有料	受入れ大学の試験日程を証明するもの(交流学生制度、渋谷4大学間単位互換制度のみ対象)
その他学務部長が正当な理由として認めた場合		必要に応じて求められた書類

●対象となる科目

定期試験、教務課提出のレポート
ただし、第一外国語・第二外国語の追試験は行いません。

●受付期間等(詳細は掲示で確認すること)

追試験 試験日翌日から試験期間最終日まで
※最終日の科目についてはその翌日まで
追審査 レポート提出期限翌日と翌々日
※実施時期 前期8月上旬 後期1月下旬

●申し込みに必要な書類等(詳細は掲示で確認すること)

- (1) 追試験願、または追審査願
- (2) 理由に応じた証明書類(上記の表参照、予め取得しておくこと)
 - ・追試験願、または追審査願が承認されたか否かについては、Sophieで通知します。
 - ・受験が認められた場合は、Sophieでの通知にしたがい、追試験料/追審査料3,000円分の証紙を購入してください(出席停止の場合は免除)。何らかの理由で追試験を受験しなかった場合、または追審査レポートを提出しなかった場合でも返還しません。
 - ・追試験を受験する際には、学生証と追試験受験票(証紙帖付)を必ず持参してください。受験票は試験開始前に教務課にて交付します。受験上の注意は、定期試験に準じます。
 - ・追審査レポートを提出する際には、所定の提出票に必要事項

を記入した上、追審査受験票(証紙帖付)とともに、学生証を提示して教務課に提出してください。受験票はレポート提出前に教務課にて交付します。提出上の注意は、教務課提出のレポートに準じます。

・追試験/追審査による成績評価は定期試験に準じて各授業担当者が行います。

3. 再試験(4年次後期のみ)について

4年次生で、次の(1)~(4)の条件を満たす者に、再試験の受験が認められます。

- (1) 卒業論文審査に合格している者
- (2) 卒業に必要な後期科目又は通年科目が不合格(「F」)となったものの、その科目に合格すれば、その年度に卒業できる見込みがある者
※前期科目は対象外
- (3) 上記(2)でその年度に「F」が2科目以内の者
※「F(OC)」「F(UG)」の科目は再試験の対象外
- (4) 上記(1)~(3)の条件を満たしたうえで再試験の受験願を提出した者のうち、(2)の科目の担当者が再試験の実施を認めた者

●受付期間: 2月中旬(成績通知期間)

再試験実施期間: 2月中旬の指定日

※詳細はSophieの掲示で確認すること

※理由の如何に関わらず受付期間内に申請しなかった場合、受験は認められません。

同様に、指定日に受験しなかった場合は、成績評価の訂正は認められません。

●受験手続等

・成績発表期間に成績を確認し、再試験の受験を希望する者は、教務課にて手続きを行うこと。

・Sophieでの通知にしたがい、再試験料3,000円分の証紙を購入し提出すること。

※一旦納入された再試験料は理由の如何に関わらず返還しません。

【注意】

・再試験受験による成績評価は「C」「F」のいずれかとなります。

4. 不正行為について

【試験における不正行為について】

次の各項の行為は不正行為とします。また、この各項以外でも試験監督者が不正行為と認めた場合は、不正行為とみなす場合があります。

- (1) 試験監督者の指示・注意等に従わない、所定の答案を提出しない、偽名または故意により無記名答案を提出する、不要なことを答案に書くこと。
- (2) 代人受験するまたは代人受験させる、他人の学生証を使用したり受験資格のない者が受験すること。
- (3) 答案・解答を他人と交換する、他人の答案・解答を写すまたは写させる、あるいは盗み見る、答案・解答について声・動作等で伝達を受ける又は伝達すること。
- (4) 試験監督者により使用が許された文献類・辞書類以外の物

を使用する、または借りたり貸したりすること。

- (5) 試験監督者により使用が許された文献類・辞書類以外の物を机の上に置いたり見たりすること（身体や衣服、机等への書き込み等も含む）。
- (6) 通信機能を有する機器または通信機能を有しないことが不明確な機器（音楽プレーヤー等）を、かばん等にしまわず身につけているまたは触れていた場合。
- (7) その他、上記の各項に類すると試験監督者が認めた場合。

【レポートにおける不正行為について】

提出されたすべてのレポートについて、研究倫理ガイド（⇒p.8）および研究倫理指針（⇒p.467）に反する行為があったと認められた場合は、これを不正行為とします。

●不正行為を行なったと認められた場合の処置

試験およびレポートにおいて不正行為を行ったと認められた場合は、次の処置が科されます。

- ・その学期の履修科目（後期の場合は通年科目も含む）の評価はすべて不合格とする
- ・教授会での報告
- ・保証人（保護者）への通知
- ・誓約書（再度不正行為を行なわない旨が記されたもの）の提出

なお、不正行為の内容によっては、学則第54条に則り退学・停学または訓告の懲戒とします。また、これらの処置は、事後（卒業後を含む）に不正行為が発覚した場合も、遡って適用されます。

第5章 成績評価

1. 成績評価

各授業科目の評価は、その科目の授業担当者が行います。成績は、AA・A・B・C・F・出席回数不足・評価不能および認定の評価が与えられます。AA・A・B・Cおよび認定が合格、F・出席回数不足および評価不能が不合格です。

●成績評価の達成水準

評点	評価	可否	達成基準
100～90	AA	合格	学習目標を十分満たし、秀でている
89～80	A	合格	学習目標を満たしている
79～70	B	合格	学習目標をほぼ満たしている
69～60	C	合格	合格と認められる最低水準を満たしている
59～0	F	不合格	合格と認められる最低水準を満たしていない
出席回数不足	F(OC)	不合格	下記参照
評価不能	F(UG)	不合格	

●中間評価：「*」（アスタリスク）が記載されている科目

通年科目によっては、前期終了時点での中間評価を行うことがあります。通年科目における前期評価が出席回数不足以外の場合は、その前期評価にかかわらず、最終的に単位修得できるか否かは後期終了時点での評価によって決まります。

●出席回数不足：F（OC）

欠席が授業回数の3分の1を超えたと授業担当者が判断した場合、評価は「出席回数不足」となり、単位修得はできません。

通年科目については、前期終了時点での欠席が通年の授業回数の3分の1を超えると授業担当者が判断した場合、出席回数不足となり中間評価の時点で評価が確定するので単位修得はできません。（単位修得要件（⇒p.382））この場合、その授業の履修資格は失われないので、履修を継続することは許可されます。

●評価不能：F（UG）

履修科目について、授業担当者が成績評価を与えることができない場合、評価は「評価不能」となり、単位修得はできません。

通年科目における前期評価が、評価不能（成績通知書の記載：F(UG)*）の場合、最終的に単位修得できるか否かは後期終了

時点での評価によって決まります。

評価不能となるのは次の場合です。

- (1) 成績評価時の在籍状態が、休学・退学・留学のいずれかの場合
- (2) 試験および提出したレポート、出席確認等において不正行為があったと認められた場合
また、次の場合も評価不能となることがあります。
- (3) 試験を受けなかった場合
- (4) レポートを提出しなかった場合
- (5) 追試験・追審査を許可されたにもかかわらず受けなかった場合
- (6) まわりの学生に迷惑をかける等、受講態度に問題があり、教職員等から指導を受けても改善が見られない場合

●評価における特記事項

追試験および追審査の成績評価は、定期試験に準じて各授業担当者が行います。

2. 成績通知

●学生本人への通知

成績通知は、下記の日程にてSophieで通知します。

【学生本人への成績通知日】

	通知対象者	成績通知日
前期成績	学部生、大学院学生、交換留学生、科目等履修生、委託聴講生	2023年 9月1日(金)
後期成績		2024年 2月9日(金)

※9月に開講される集中講義や、留学などにより他大学で修得した単位の認定は、上記とは異なる日程で通知することがあります。

●保証人への通知

保証人に対する成績通知は、学期ごとに行います。保証人への成績通知を希望しない場合は、学期ごとに授業終了日までを期限とし、教務課での手続きが必要です。手続きが完了したら、保証人宛に成績は通知しませんが、【学生本人の希望があったので成績は通知しない】旨を通知します。

なお、博士後期課程に在籍する学生の保証人へは郵送しません。

【保証人への成績通知日】

	通知対象者	成績通知日
前期成績	学部生、大学院学生の保証人 (博士後期課程を除く)	2023年 9月1日(金)
後期成績	学部4年次生、修士2年次生の保証人	2024年 2月26日(月)
	学部1～3年次生、修士1年次生の保証人	2024年 3月8日(金)

●成績通知書の見方

- ・AA・A・B・CおよびTrが合格、F・F(OC) およびF(UG)が不合格
- ・「*」(アスタリスク)が記載されている評価は通年科目の中間評価で、確定点ではありません
- ・履修登録済みの科目のうち、前期終了時に成績評価が与えられていない科目の評価欄は[履修中]と表示
右側の欄: 修了要件とこれまでに修得した単位の集計を記載

成績通知書の評価

	最終評価	中間評価	備考
合格	AA	AA*	
	A	A*	
	B	B*	
	C	C*	
	Tr.		認定科目
不合格	F	F*	成績証明書には記載されない
	F(UG)	F(UG)*	成績証明書には記載されない(評価不能)
	F(OC)		成績証明書には記載されない(出席回数不足)

3. 成績評価確認願

成績評価について、具体的な根拠に基づく確認事項がある場合には、定められた期間内に「成績評価確認願」を教務課に提出することができます。

	「成績評価確認願」 受付期間	対象者
前期成績	2023年9月1日(金) ～9月15日(金)	学部生、大学院学生、交換留学生、科目等履修生
後期成績	2024年2月9日(金)	学部1・3・4年次生、修士2年次生、博士2・3年次生、交換留学生、科目等履修生
	2024年2月9日(金) ～2月22日(木)	学部2年次生、修士1年次生、博士1年次生

[注意] 期間外の申し出は一切認められません。

[注意] シラバスの評価方法欄に記載された評価基準と照らし合わせ、具体的な根拠に基づいていることが必要です。

またこの申し出は、成績評価の確認を求めるものであり、成績評価への異議や再考を求めるものではありません。したがって、以下のような理由による「成績評価確認願」の提出は受け付けません。

- ①再考を求めるもの。
- ②担当教員に情状を求めるもの。
- ③他の学生との対比のうね不満を訴えるもの。(「友人はA評価だが、なぜ自分はC評価なのか」など)
- ④具体的な内容の記載がないもの。(「自分なりの努力はした」など)

第6章 留学

外国の大学院に留学を希望する場合、本人にとって教育上有益であると認められるときは、大学院委員会に諮り、学長が許可します。留学を希望する者は所属する専攻代表委員の許可を受けた後、副学長(学務、大学院担当)に留学願を提出してください。なお、留学期間中は本学に在籍料の納付が必要となります。

●留学の期間

留学の期間は原則として1年間とします。ただし、特に必要と認める場合は、大学院委員会の議を得て、引き続き1年に限り、留学期間を延長することができます。留学を許可された者については、1年を限度として、留学期間を大学院学則第2条に定める在学年限に算入することができます。

●単位認定

留学先の大学院において修得した単位の認定は次のとおりとなります。

- (1) 留学先の大学院において修得した単位数のうち、認定される単位数は修士課程・博士前期課程においては10単位、博士後期課程においては4単位を限度とする。
- (2) 学生の所属する専攻の議を経たのち、当該科目の修得単位を本学大学院の修了に必要な単位として認定する。
- (3) 留学先の大学院で修得した単位の認定を希望する場合は、留学前にあらかじめその授業科目の履修につき、所属する専攻において指導を受けておく。
- (4) 留学により修得した単位と委託聴講制度により修得した単位との合計は10単位を超えないものとする。

第7章 資格課程

1. 教職課程

1990年度以降大学院入学者で一種免許状取得者は、当該免許校種・教科に係る専修免許状取得の基礎資格（大学院において教職課程の指定科目24単位以上を修得し、修士の学位を取得する、または大学院に1年以上在学し、大学院において教職課程の指定科目30単位以上修得する）を得たうえで、都道府県教育委員会へ申請することにより専修免許状が授与されます。なお、専修免許状取得のための教職課程の指定科目は、本学大学院開講科目のうち、以下の科目表に記載のあるものに限り（pp.409-412参照）。委託聴講・留学で修得した単位や大学院修了単位に算入を認められた学部開講科目の単位は、専修免許状取得のための単位に含めることはできません。

申請方法は毎年4月上旬にSophieの掲示板に掲示します。なお、一括申請希望者のうち他大学出身者は事前に本学教務課へ必ず申し出てください。

▼本学大学において取得できる教員免許状の種類

大学院 文学研究科 (修士/博士前期課程)	学 校 種 別		免許教科
英 語 英 文 学 専 攻	高等学校教諭	専修免許状	英 語
	中学校教諭	専修免許状	
日 本 語 日 本 文 学 専 攻	高等学校教諭	専修免許状	国 語
	中学校教諭	専修免許状	
史 学 専 攻	高等学校教諭	専修免許状	地理歴史 社 会
	中学校教諭	専修免許状	
社 会 文 化 学 専 攻	高等学校教諭	専修免許状	公 民 社 会
	中学校教諭	専修免許状	
哲 学 専 攻	高等学校教諭	専修免許状	公 民 社 会
	中学校教諭	専修免許状	
	高等学校教諭	専修免許状	宗 教*
	中学校教諭	専修免許状	
人 間 科 学 専 攻	高等学校教諭	専修免許状	地理歴史
	高等学校教諭	専修免許状	公 民
	中学校教諭	専修免許状	社 会
	小学校教諭	専修免許状	
	幼稚園教諭	専修免許状	

※中学校・高等学校専修宗教科免許状については、2004年度以降に修得した単位に限り、申請に使用することができる

▼教職課程年間スケジュール

詳細は、Sophieの掲示板で通知します。

	1年次生	2年次生
4月	教職課程ガイダンス	免許状一括申請手続きガイダンス
11月		免許状一括申請手続き書類配布および説明会、免許状申請料納入
3月		免許状授与

〈注〉この年間スケジュールは、一種免許状取得済で専修免許状に格上げする場合のものです。

〈注〉免許状取得の際の適用法令等状況により、一括申請ができない場合もあります。

▼履修の方法

以下の科目表より、取得を希望する免許校種・教科の教職課程の指定科目を24単位以上（修士の学位を取得する場合）または30単位以上（大学院に1年以上在学する場合）修得してください。

※専修免許状取得のための指定科目は以下のとおりです。（過去に修得した科目については、修得した当該年度の『履修要覧』を参照してください。）

▼その他の注意事項

大学院に在籍しながら新たに一種・二種免許（幼稚園・小学校・中学校）の教職課程を履修する場合、教務課に相談してください。教職課程に関する科目の履修標準単位数は「2年間で42単位」とします。標準を超える履修を希望する場合は、その旨を別途教務課に相談してください。また、教育実習あるいは介護等体験を必要とする教職課程履修の場合は、教育実習要件や介護等体験の実施年度等の条件があるため、しっかりと確認し、大学院在籍期間内の履修計画を立ててください。

なお、新たに一種免許・二種免許の教職課程を履修する場合は、長期履修学生制度を利用することができます。（『聖心女子大学大学院長期履修学生取扱い規程』参照）。

■2019年度以降入学者

【英語英文学専攻】

- ・中学校教諭専修免許状（英語）
- ・高等学校教諭専修免許状（英語）

施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容			
科目区分		授業科目	単位数		
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	英語学研究Ⅰ-1	2		
		英語学研究Ⅰ-2	2		
		英語学研究Ⅱ-1	2		
		英語学研究Ⅱ-2	2		
		英語学研究Ⅲ-1	2		
		英語学研究Ⅲ-2	2		
		英語学研究Ⅳ-1	2		
		言語学研究Ⅰ-1	2		
		言語学研究Ⅰ-2	2		
		言語学研究Ⅱ-1	2		
		言語学研究Ⅱ-2	2		
		英文学研究法Ⅰ-1	2		
		英文学研究法Ⅰ-2	2		
		17世紀英米文学研究Ⅰ-1	2		
		17世紀英米文学研究Ⅰ-2	2		
		19世紀英米文学研究Ⅰ-1	2		
		19世紀英米文学研究Ⅰ-2	2		
		20世紀英米文学研究Ⅰ-1	2		
		20世紀英米文学研究Ⅰ-2	2		
		20世紀英米文学研究Ⅱ-1	2		
		20世紀英米文学研究Ⅱ-2	2		
		現代作品研究Ⅰ-1	2		
		現代作品研究Ⅰ-2	2		
		現代作品研究Ⅱ-1	2		
		現代作品研究Ⅱ-2	2		
		現代作品研究Ⅲ-1	2		
		現代作品研究Ⅲ-2	2		
		近現代文芸論Ⅰ-1	2		
		近現代文芸論Ⅰ-2	2		
		▼2021年度以降に修得した科目のみに適用			
				英語学研究Ⅳ-2	2
				現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ-1	2
				現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ-2	2
				現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ-1	2
				現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ-2	2
				現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ-1	2
		現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ-2	2		

【日本語日本文学専攻】

- ・中学校教諭専修免許状（国語）
- ・高等学校教諭専修免許状（国語）

施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容	
科目区分		授業科目	単位数
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	上代文学研究	4
		中古文学研究	4
		中世文学研究	4
		近世文学研究	4
		近現代文学研究Ⅰ	4
		近現代文学研究Ⅱ	4
		日本語史研究	4
		現代日本語研究	4
		日本語教育学研究Ⅰ	4
		日本語教育学研究Ⅱ	4
		上代文学研究(1)	2
		上代文学研究(2)	2
		中古文学研究(1)	2
		中古文学研究(2)	2
		中世文学研究(1)	2
		中世文学研究(2)	2
		近世文学研究(1)	2
		近世文学研究(2)	2
		近現代文学研究1(1)	2
		近現代文学研究1(2)	2
		近現代文学研究2(1)	2
		近現代文学研究2(2)	2
		日本語学研究(1)	2
		日本語学研究(2)	2
		日本語史研究(1)	2
		日本語史研究(2)	2
現代日本語研究(1)	2		
現代日本語研究(2)	2		
日本語教育学研究1(1)	2		
日本語教育学研究1(2)	2		
日本語教育学研究2(1)	2		
日本語教育学研究2(2)	2		

【史学専攻】

- ・中学校教諭専修免許状（社会）
- ・高等学校教諭専修免許状（地理歴史）

施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容	
科目区分	授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	日本史特講 1 (1)	2
		日本史特講 1 (2)	2
		日本史特講 2 (1)	2
		日本史特講 2 (2)	2
		日本史特講 3 (1)	2
		日本史特講 3 (2)	2
		日本史特講 4 (1)	2
		日本史特講 4 (2)	2
		日本史研究 1 (1)	2
		日本史研究 1 (2)	2
		日本史研究 2 (1)	2
		日本史研究 2 (2)	2
		日本史研究 3 (1)	2
		日本史研究 3 (2)	2
		日本史研究 4 (1)	2
		日本史研究 4 (2)	2
		東洋史特講 1 (1)	2
		東洋史特講 1 (2)	2
		東洋史特講 2 (1)	2
		東洋史特講 2 (2)	2
		東洋史研究 1 (1)	2
		東洋史研究 1 (2)	2
		東洋史研究 2 (1)	2
		東洋史研究 2 (2)	2
		西洋史研究 1 (1)	2
		西洋史研究 1 (2)	2
		西洋史研究 2 (1)	2
		西洋史研究 2 (2)	2
		西洋史研究 3 (1)	2
		西洋史研究 3 (2)	2
		日本古代史特講	4
		日本古代史研究	4
		日本中世史研究	4
		日本近世史特講	4
		日本近現代史研究	4
		日本近現代史特講	4
		日本近世史研究	4
		東洋古代史特講	4
		東洋近世史研究	4
		東洋近代史特講	4
東洋近代史研究	4		
西洋中世史研究	4		
西洋近代史研究	4		
西洋現代史研究	4		
▼2021年度以降に修得した科目のみに適用			
日本中世史特講	4		
日本文化史研究	4		
東洋中世史特講	4		
東洋近世史特講	4		
東洋現代史特講	4		

【社会文化学専攻】

- ・中学校教諭専修免許状（社会）

施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容	
科目区分	授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	社会心理学研究特論 I - 1	2
		社会心理学研究特論 I - 2	2
		社会心理学研究特論 II - 1	2
		社会心理学研究特論 II - 2	2
		社会学研究特論 II - 1	2
		社会学研究特論 II - 2	2
		比較文化研究特論 I - 1	2
		比較文化研究特論 I - 2	2
		文化人類学研究特論 I - 1	2
		文化人類学研究特論 I - 2	2
		社会文化学研究特論 1	2
		社会文化学研究特論 3	2
		社会文化学研究特論 4	2
		中国思想文化研究特論 I - 1	2
		中国思想文化研究特論 I - 2	2
		法学研究特論 I - 1	2
		法学研究特論 I - 2	2
		▼2020年度以前に修得した科目のみに適用	
ドイツ文学研究特論 I - 1	2		
ドイツ文学研究特論 I - 2	2		

【社会文化学専攻】

- ・高等学校教諭専修免許状（公民）

施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容	
科目区分	授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	社会心理学研究特論 I - 1	2
		社会心理学研究特論 I - 2	2
		社会心理学研究特論 II - 1	2
		社会心理学研究特論 II - 2	2
		社会学研究特論 II - 1	2
		社会学研究特論 II - 2	2
		比較文化研究特論 I - 1	2
		比較文化研究特論 I - 2	2
		文化人類学研究特論 I - 1	2
		文化人類学研究特論 I - 2	2
		社会文化学研究特論 1	2
		社会文化学研究特論 3	2
		社会文化学研究特論 4	2
		中国思想文化研究特論 I - 1	2
		中国思想文化研究特論 I - 2	2
		法学研究特論 I - 1	2
		法学研究特論 I - 2	2
		▼2020年度以前に修得した科目のみに適用	
		人格心理学研究特論 I - 1	2
		人格心理学研究特論 I - 2	2
ドイツ文学研究特論 I - 1	2		
ドイツ文学研究特論 I - 2	2		

【哲学専攻】

- ・中学校教諭専修免許状（社会）
- ・高等学校教諭専修免許状（公民）
- ・中学校教諭専修免許状（宗教）
- ・高等学校教諭専修免許状（宗教）

施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容	
科目区分		授業科目	単位数
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	哲学特論Ⅰ	4
		哲学特論Ⅱ	4
		哲学特論Ⅲ	4
		哲学特論Ⅳ	4
		哲学特論Ⅴ	4
		哲学特論Ⅵ-1	2
		哲学特論Ⅵ-2	2
		キリスト教学特論Ⅰ	4
		キリスト教学特論Ⅱ	4
		キリスト教学特論Ⅲ	4
		キリスト教学特論Ⅳ	4
		美学・芸術学特論Ⅰ	4
		美学・芸術学特論Ⅱ	4
		美学・芸術学特論Ⅲ	4
		美学・芸術学特論Ⅳ	4
		現代思想特論Ⅰ-1	2
		現代思想特論Ⅰ-2	2
		現代思想特論Ⅱ-1	2
		現代思想特論Ⅱ-2	2

【人間科学専攻】

- ・中学校教諭専修免許状（社会）
- ・高等学校教諭専修免許状（地理歴史）

施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容	
科目区分		授業科目	単位数
大学が独自に設定する科目	教育の基礎的理解に関する科目	基礎心理学特論1	2
		基礎心理学特論2	2
		基礎心理学特論Ⅰ	2
		基礎心理学特論Ⅱ	2
		人間科学特論1	2
		人間科学特論Ⅰ	2
		人間科学特論Ⅱ	2
		基礎教育学特論2	2
		基礎教育学特論4	2
		生涯発達心理学特論1	2
		生涯発達心理学特論2	2
		生涯発達心理学特論Ⅰ	2
		生涯発達心理学特論Ⅱ	2
		発達心理学特論 （教育分野に関する理論と支援の展開）	2
		障害児心理学特論 （福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
		教育実践研究特論1	2
		教育実践研究特論2	2
		教育実践研究特論3	2
		教育実践研究特論4	2
		国際教育研究特論1	2
		国際教育研究特論2	2
		国際教育研究特論3	2
		▼2021年度以前に修得した科目のみ適用	
		発達認知心理学特論Ⅰ	2
		発達認知心理学特論Ⅱ	2

【人間科学専攻】

- ・高等学校教諭専修免許状（公民）

施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容	
科目区分		授業科目	単位数
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	基礎心理学特論3	2
		基礎心理学特論Ⅲ	2
		大脳生理心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2
		心理統計法特論	2
		家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2
		社会心理学特論Ⅰ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2
		比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2
		精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2
		心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2
		社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2
		犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2
		視聴覚情報処理特論	2
		感性情報処理特論	2
		認知心理学特論1	2
		認知心理学特論2	2
		認知心理学特論Ⅰ	2
		認知心理学特論Ⅱ	2
		学習心理学特論Ⅰ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2
		学習心理学特論Ⅱ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2
		家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2
		社会心理学特論1	2
		社会心理学特論Ⅰ	2
		基礎心理学特論1	2
		基礎心理学特論2	2
		基礎心理学特論Ⅰ	2
		基礎心理学特論Ⅱ	2
		人間科学特論1	2
		人間科学特論Ⅰ	2
		人間科学特論Ⅱ	2
		基礎教育学特論2	2
		基礎教育学特論4	2
		生涯発達心理学特論1	2
		生涯発達心理学特論2	2
		生涯発達心理学特論Ⅰ	2
		生涯発達心理学特論Ⅱ	2
発達心理学特論 （教育分野に関する理論と支援の展開）	2		
障害児心理学特論 （福祉分野に関する理論と支援の展開）	2		
教育実践研究特論1	2		
教育実践研究特論2	2		
教育実践研究特論3	2		
教育実践研究特論4	2		
国際教育研究特論1	2		
国際教育研究特論2	2		
国際教育研究特論3	2		
▼2021年度以前に修得した科目のみ適用			
発達認知心理学特論Ⅰ	2		
発達認知心理学特論Ⅱ	2		

参考：委託聴講生制度協定書

大学院英文学専攻委託聴講制度

●大学院委託聴講生（英語英文学専攻）に関する協定書（抄）

大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。その目的を果たすには単独で履行するよりも、大学間の提携によって協力しあう方がより能率的であることは言うまでもない。最も望ましいのはこの協定が国の内外と国公立の区分なく、学部と大学院の研究と教育との両面におよぶことであろう。このような状態に近づく第一歩として、下記の大学は大学院英文学専攻に委託聴講生の制度（委託聴講による単位互換制度）を設けることに一致した。委託聴講生とは、原則として学生が所属する大学院以外の大学院の授業科目を聴講し、単位を修得することを希望する場合、所属校の専攻主任または指導教員が教育研究上有益であると認めるときに、両大学院間の了解により所属大学院から受入大学院に委託される聴講生のことである。

委託聴講生の取扱いについては次のとおりこれを定める。

- 1) 大学院に在学する学生が教育研究上の必要により、他大学大学院の授業科目を聴講しようとするときは、所属大学院の指導教員の了解を得たうえで所属大学院を通じ、希望する大学院にその旨、申し出るものとする。
- 2) 定められた手続きを経て他大学大学院学生の聴講申し込みを受けたときは、当該大学院は正規の授業に差し支えない限り聴講を許可する。
- 3) 委託聴講生の聴講料については協定校間の協議により、それぞれの大学においてこれを定める。

▼委託聴講に関する細則（抄）

- 第1条 加盟大学大学院の英文学、英語学に関連する専攻課程に在学する学生は、必要単位の一部を他の加盟大学の大学院において修得することができる。
- 2 他大学の大学院において修得できる単位の数は、所属大学院の定めるところによる。
- 第2条 第1条により単位修得の目的で他大学大学院の授業を聴講しようとする学生は、所定の用紙により願い出て、所属大学院の承認と、聴講を希望する他大学院の許可を得なければならない。
- 2 単位修得を目的としない聴講も右に準ずる。
- 第3条 委託聴講の願いが受理されたならば、学生は聴講先の大学院に対し、聴講料を納入しなければならない。
- 2 聴講料は1科目（通年）金2,000円（1学期のみの場合は金1,000円）とする。
- 第4条 委託聴講生の出願期間は原則として4月30日までとする。
- 第5条 委託聴講生を受入れた大学院は、学年末に、委託聴講生の所属大学院に、「委託聴講生成績通知書」を送付するものとする。

大学院史学専攻委託聴講制度

●大学院委託聴講生（史学専攻）に関する協定書（抄）

（趣旨）

第1条 聖心女子大学大学院文学研究科史学専攻と東京女子大学大学院人間科学研究科人間文化科学専攻歴史文化分野は、大学院相互の交流を促進し、学生の教育研究上の必要のため、単位

互換に関する協定を締結し、委託聴講生（聖心女子大学大学院）・特別聴講学生（東京女子大学大学院）（以下「委託聴講生等」という。）の制度を設ける。

（授業科目の履修）

第2条 聖心女子大学大学院文学研究科史学専攻（修士課程）及び東京女子大学大学院人間科学研究科人間文化科学専攻歴史文化分野（博士前期課程）に在籍する学生は、協定先大学院の研究科（以下「協定先大学院」という。）が提供する授業科目を履修し、単位を修得することができる。

2 学生が履修することのできる授業科目の範囲及び修得することのできる単位の上限は、当該学生の所属する大学院（以下「所属大学院」という。）の学則その他諸規則の定めるところによる。

（履修の申請）

第3条 この協定に基づき、協定先大学院の授業科目を履修しようとする学生は、所定の願書にあらかじめ所属大学院の専攻主任又は指導教員の承認を得て、協定先大学院の担当部署に所定期日までに願い出るものとする。

2 履修には、当該授業科目の担当者の許可を必要とするが、協定先大学院において別に定める場合は、この限りではない。

（許可）

第4条 協定先大学院は、前条による願い出を受けたときは、当該大学院の定めるところにより受入れを許可するものとする。ただし、受入れに当たりやむを得ない事情がある場合には、許可しないことがある。

（委託聴講生等）

第5条 前条により受入れを許可した学生を「委託聴講生」（聖心女子大学）、「特別聴講学生」（東京女子大学）とし、当該学生証を交付する。

2 委託聴講生等は、協定先大学院の定める学則その他諸規則を遵守しなければならない。

（成績評価及び単位の認定）

第6条 委託聴講生等の成績評価は、協定先大学院において100点法による表記で行う。ただし、所属大学院での成績評価及び単位認定は、その定めるところによる。

（成績の通知）

第7条 委託聴講生等の成績は、所定の成績通知書により、協定先大学院の教務担当部署から所属大学院の教務担当部署に通知しなければならない。

（聴講料等）

第8条 委託聴講生等の履修に係る聴講料は、通年授業科目2,000円、半期授業科目1,000円とし、一旦納入された聴講料は返還しない。

2 前項に定めるもののほか、教材費等を徴収する必要がある場合は、協定先大学院の定めるところにより徴収することができる。

（施設・設備の利用）

第9条 委託聴講生等は、協定先大学院の認める範囲で、図書館等の施設及び設備を利用することができる。

（運営）

第10条 当該年度に提供する授業科目の種類、内容、時間割等の資料は、前年度末までに協定先大学院に送付するものとする。

第11条 本協定の運営に関する費用は、必要に応じて各校が負担するものとする。

(協議)

第12条 この協定書に定めるもののほか、単位互換の実施に関し必要な事項は、その都度協議し、文書により合意するものとする。

2 前項の文書は、同一正文各1通を双方で保有する。

(改廃)

第13条 本協定の改廃は、双方の協議により行うものとする。

首都圏大学における大学院委託科目等履修制度

●宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する専攻に関する協定書(抄)

古今東西における宗教の多種多様性は言を俟たない。その多様性に着目し、諸宗教間の比較研究を行い、そこから共通性と独自性を抽出する学的営みとして、近代の宗教学は始まった。

この近代宗教学の目的は、さまざまな宗教のパワーが顕在化しつつある現代においても、十分意義を有するものである。そして諸宗教の多様性と宗教が人類文化や個人の人格形成に果たしてきた役割を総合的かつ多角的に研究することは、宗教学の発展に寄与するのみならず、人類の平和、福祉に貢献するものと確信する。そのため宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する大学院間で提携し協定を結び、それぞれの専門性と学的背景をいかしつつ、大学院学生の教育を行うことは、きわめて効率がよく、かつ大学院学生の研究上の教育的効果も増すものと考えられる。

もっとも望ましいのは、この協定が日本内外の国公私立の区別なく、大学院学生が可能な限り自由に研究を遂行するための運営期間を設立することであろう。このような状態に近づく第一歩として、下記の大学は、大学院宗教学専攻および宗教学関係専門科目を開講している専攻間に委託科目等履修生制度を設けることに一致した。

大学院委託科目等履修生(以下「委託履修生」という。)とは、大学院学生が研究上の必要から自己の所属する大学院以外の科目を履修希望する際に、両大学院間の諒解により所属大学院から相手大学院に委託される委託履修生のことであり、その取り扱いについては次のとおりである。

- 1) 大学院に在籍する大学院学生が研究上の必要により、他大学大学院の科目を履修しようとするときは、所属大学院の諒解を得たうえで、所属大学院を通して希望する大学院にその旨を申し出るものとする。
- 2) 定められた手続きを経て、履修申し込みを受けたときは、当該大学院は正規の科目にさしつかえない限り履修を許可する。
- 3) 委託履修生の履修料については、協定校間の協議により別に定める。

▼宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する専攻に関する細則(抄)

第1条 この細則は「首都圏大学における大学院委託科目等履修生制度(宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する専攻)に関する協定書」に基づき、大学院委託科目等履修生制度の運用について定めるものとする。

第2条 本協定書に合意した大学の大学院宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する専攻に在籍する大学院学生は、単位の一部を、本協定書に合意した他の大学の大学院(以下「他の大学院」という。)において修得することができる。

2 他の大学院において修得できる単位の上限は各大学院の規定に従う。

第3条 第1条により委託科目等履修生(以下「委託履修生」と

いう。)が他の大学院の科目を履修しようとするときには、所定の用紙により所属大学院の指導教員の承認と、履修を希望する他の大学院の研究科長の許可を得なければならない。

2 申請期間は原則として4月中旬とする。

第4条 委託履修生は、履修を希望する他の大学院より履修の許可が得られた場合、すみやかに当該大学院に履修料を納入しなければならない。

2 履修料は各大学院で別途定める。

3 納入した履修料は、いかなる理由があっても返還しない。

第5条 履修が許可され受け入れた履修生の大学院での身分は、各大学の定める規定に準拠するものとし、当該受け入れ大学は、図書館等その他研究に必要な施設の利用にできるかぎりの便宜を図るものとする。

第6条 本協定書に合意した大学は、学年末または学期末に委託履修生の所属する大学に「成績通知書」を送付するものとする。

第7条 この細則の改廃は連絡会議の議を経て行う。

大学院人間科学専攻委託聴講制度

●大学院委託聴講生(人間科学専攻-教育学分野)に関する協定書(抄)

(履修科目)

第1条 履修できる授業科目は、当該大学において開講される科目とする。

(修得単位)

第2条 履修した授業科目のうち認定する単位数は一学生あたり10単位を限度とする。

(履修手続)

第3条 履修を希望する者は、所属大学の指導教員の許可を受け、所属大学を通じ、相手大学へ履修許可願書を提出するものとする。

(履修許可)

第4条 履修許可願書を受理した大学は、当該大学の正規授業に支障のない範囲で履修を許可するものとする。

2) 履修を許可した大学は、履修許可証を発行する。

(履修料)

第5条 履修を許可された者は、所定の期日までに、履修料を納入するものとする。

2) 履修料は1単位500円とする。

(単位認定)

第6条 履修した授業科目の成績評価、および単位認定については、それぞれの受け入れる大学が定める方法による。

2) 前項について、協定大学は、毎学期末に報告をするものとする。

(施設の利用)

第7条 協定大学は、学生が授業を受ける上で必要な施設・設備の利用について、便宜を図るものとする。

(協議の見直し)

第8条 協定の運用については、必要に応じて協議するものとする。

(協定の改正)

第9条 協定の改正については、大学間の協議によるものとする。

●大学院委託聴講生(人間科学専攻-心理学分野)に関する協定書(抄)

第1条 標記の大学院文学研究科各専攻に在学する学生は、標記の各専攻に設置される科目を履修し、単位を修得することができる(委託聴講による単位互換)。(以下「委託聴講制度」とい

う。)

- 第2条 委託聴講制度で在学中に修得できる単位数は、所属大学院学則の認める範囲内とする。ただし、10単位を限度とする。
- 第3条 聴講を希望する学生は、所属する大学院の指導教員および専攻主任の承認をえて、所定の願書を受入校に提出する。
- 第4条 願書を受理した大学院は、当該大学院の正規授業に支障のない範囲で履修を許可するものとする。
- 第5条 受入校は学生が履修した科目の成績および単位について、学生が所属する大学院に報告するものとする。
- 2 学生が所属する大学院は受入校からの報告に基づき単位を認定することができる。
- 第6条 本協定の運用については、必要に応じて協議する。
- 第7条 本協定の内規は別に定める。
- 第8条 本協定の改正については、協定大学間の協議による。

カトリック女子大学大学院委託聴講制度

●カトリック女子大学大学院委託生又は委託聴講生に関する協定書(抄)

カトリック女子大学大学院学生が研究上の必要から自己の在籍する大学院以外の大学院の開講する授業科目を履修することを希望するとき、在籍する大学院から相手大学院へ委託生又は委託聴講生として受け入れるために、下記のカトリック女子大学間で協定書を取り交わす。

協定大学名 白百合女子大学 聖心女子大学 清泉女子大学
(受入)

- 第1条 この協定に参加する大学の大学院に在籍する学生が、他の大学の大学院が開講する授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、科目を開講する大学の学長は当該学生を受け入れることができる。
- (委託生又は委託聴講生)
- 第2条 各大学は、前条により受け入れた学生を「大学院委託生又は委託聴講生」として取り扱う。
- (履修期間)
- 第3条 委託生又は委託聴講生の履修期間は、原則として1年間とする。
- (授業科目の範囲及び単位数)
- 第4条 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、10単位の範囲内で科目開設大学の決定による。
- (学生数)
- 第5条 各大学の受け入れる学生数は、科目開設大学の決定による。
- (受入手続き)
- 第6条 委託生又は委託聴講生の受入手続きは、次のとおりとする。
- 1 他の大学の大学院に委託生又は委託聴講生として出願を希望する学生は、定められた期日までに、出願書類を学生の在籍する大学を通じて、受講を希望する科目開設大学に提出するものとする。
 - 2 科目開設大学は、必要に応じて選考を行い、受入れ学生を決定する。
 - 3 科目開設大学は、選考の結果を受講を希望する学生の在籍する大学を通じて当該学生に通知する。
- (単位認定の方法)
- 第7条 委託生又は委託聴講生が科目開設大学において履修した授業科目の成績の評価及び単位の認定については、科目開設大学の定めるところによるものとする。

(出願期間)

- 第8条 委託生又は委託聴講生の出願期間は、原則として4月30日までとする。
- (学生納付金の扱い)
- 第9条 委託生又は委託聴講生の学生納付金は、聴講料のみ徴収することとし、1科目(通年)2,000円とする。ただし、前期又は後期のみ履修の場合は1,000円とする。
- (委託生又は委託聴講生への便宜供与)
- 第10条 委託生又は委託聴講生が履修上必要な施設、設備の利用等については、便宜を供与する。
- (以下略)

渋谷4大学連携単位互換制度

●渋谷4大学連携単位互換制度に関する協定書(抄)

青山学院大学、國學院大學、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、聖心女子大学(以下、「渋谷4大学」という。)は、渋谷4大学の連携・協力に関する基本協定書第2条の規定に基づき、各大学の学部及び大学院において単位互換を実施することに合意し、次の通り協定を締結する。

(趣旨)

第1条 渋谷4大学は、相互に科目を提供することにより、渋谷で学ぶ意義を高めると共に、大学間の交流を深め、学生に対して、所属大学における学びにとどまらない多様な価値観に基づく学修機会を提供することを目的とする。

(名称)

第2条 本協定に基づく単位互換は「渋谷4大学連携単位互換制度」と称する。

(内容)

第3条 渋谷4大学は、他の大学に所属する学生に提供する授業科目を定め、相互に告知するものとする。

2 渋谷4大学に在学する学生は、前項の授業科目を履修し、単位を修得することができる。ただし、各年度において履修できる単位数に上限を設ける。

(資格)

第4条 本協定に基づき、他の大学の授業科目を履修できる学生は、所属大学の定める基準を満たし、その承認を受けた者とする。

(出願)

第5条 本協定に基づき、他の大学の授業科目を履修しようとする学生は、定められた期日までに、受講を希望する授業科目の履修を願出しなければならない。

(許可)

第6条 受入れ大学は、前条の出願に基づき、受講の可否を決定し、すみやかに学生の所属大学へ通知する。

(学生の身分及び学籍)

第7条 前条により受入れを許可した学生を渋谷4大学特別聴講学生(以下、「特別聴講学生」という。)と称し、その者の学籍は、所属大学に置く。

2 各大学は、受け入れた学生に対し、その身分を明らかにする学生証を交付する。

3 特別聴講学生は、受入れ先の大学が定める学則その他諸規則を遵守しなければならない。

(成績評価及び単位の認定)

第8条 特別聴講学生の成績評価は、受入れ先の大学が定める成績評価基準に基づいて行う。

2 特別聴講学生の成績評価に基づく単位の認定および認定できる単位数の上限は、所属大学が定める学則その他諸規則により

行う。

(成績の通知)

第9条 特別聴講学生の成績は、所定の成績通知書により、受け入れた大学の学長から所属大学の学長宛に通知しなければならない。

2 前項の成績の表記には、素点を用いる。

(聴講料等)

第10条 特別聴講学生の聴講料は徴収しない。ただし、別に定める手数料を徴収するものとする。

2 前項に定めるもののほか、受講に必要な教材費等の経費は、特別聴講学生の負担とする。

(施設・設備の利用)

第11条 特別聴講学生は、受入れ先の大学が認める範囲で、図書館等の施設及び設備を利用することができる。

(費用の負担)

第12条 本協定の運営に関する費用は、必要に応じて各校が負担するものとする。

(その他必要な事項)

第13条 この協定書に定めるもののほか、単位互換の運用に関し必要な事項は、別に定める運用規程による。

(改廃)

第14条 本協定の改廃は、渋谷4大学連携単位互換専門部会の協議により行い、連携協議会の承認を得るものとする。

大学院学生の皆さんへ

【研究倫理教育】(照会先：企画部企画課)

本学では、研究倫理教育の一環として、本学大学院学生を対象に独立行政法人日本学術振興会が提供する「研究倫理eラーニング」の受講を義務付けています。受講方法等については、別途通知します。そのほか、研究倫理研修会の開催や研究倫理リーフレットの配付等も行っています。

【ティーチング・アシスタント (TA)】(照会先：企画部企画課)

本学大学院に在学する優秀な学生について、教育的配慮に基づき、本学の学部学生等に対する教育補助業務に従事させるとともに、当該学生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供する制度です。

【リサーチ・アシスタント (RA)】(照会先：企画部企画課)

本学における学術研究の一層の推進に資する研究支援体制の充実・強化並びに若手研究者の養成・確保を促進するため、本学の専任教員が行う研究プロジェクト等に大学院博士後期課程に在学する優秀な学生を研究補助者として参画させ、研究活動の効果的促進、研究体制の充実及び若手研究者としての研究遂行能力を育成する制度です。

【大学院学生の学会参加費等補助制度】(照会先：企画部企画課)

本学大学院学生に学会発表を奨励し、学会で活躍できるよう、学会等参加費や学会発表の際の費用等を支援する制度です。

第2部 大学院カリキュラム

大学院

授業科目一覧

●：リサーチワーク科目

無印：コースワーク科目

コード	授業科目	単位	備考
WL17	英語学研究Ⅰ-1	2	
WL18	英語学研究Ⅰ-2	2	
WL19	英語学研究Ⅱ-1	2	
WL20	英語学研究Ⅱ-2	2	
WL98	英語学研究Ⅲ-1	2	
WL99	英語学研究Ⅲ-2	2	
WM02	英語学研究Ⅳ-1	2	
WM03	英語学研究Ⅳ-2	2	
WL36	言語学研究Ⅰ-1	2	
WL37	言語学研究Ⅰ-2	2	
WL34	言語学研究Ⅱ-1	2	
WL35	言語学研究Ⅱ-2	2	
WL29	英文学研究法Ⅰ-1	2	
WL30	英文学研究法Ⅰ-2	2	
WL40	17世紀英米文学研究Ⅰ-1	2	
WL41	17世紀英米文学研究Ⅰ-2	2	
WL79	19世紀英米文学研究Ⅰ-1	2	
WL80	19世紀英米文学研究Ⅰ-2	2	
WL42	20世紀英米文学研究Ⅰ-1	2	
WL43	20世紀英米文学研究Ⅰ-2	2	
WL44	20世紀英米文学研究Ⅱ-1	2	
WL45	20世紀英米文学研究Ⅱ-2	2	
WL85	現代作品研究Ⅰ-1	2	
WL86	現代作品研究Ⅰ-2	2	
WL87	現代作品研究Ⅱ-1	2	
WL88	現代作品研究Ⅱ-2	2	
WL89	現代作品研究Ⅲ-1	2	
WL90	現代作品研究Ⅲ-2	2	
WL96	近現代文芸論Ⅰ-1	2	
WL97	近現代文芸論Ⅰ-2	2	
WL92	英米文学批評Ⅰ-1	2	
WL93	英米文学批評Ⅰ-2	2	
WL94	翻訳理論と実践Ⅰ-1	2	
WL95	翻訳理論と実践Ⅰ-2	2	
WM04	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ-1	2	
WM05	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ-2	2	
WM06	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ-1	2	
WM07	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ-2	2	
WM08	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ-1	2	
WM09	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ-2	2	
WL01	●英語英文学論文演習Ⅰ-1	2	
WL02	●英語英文学論文演習Ⅰ-2	2	
WL03	●英語英文学論文演習Ⅱ-1	2	
WL04	●英語英文学論文演習Ⅱ-2	2	
WL05	●英語英文学論文演習Ⅲ-1	2	
WL06	●英語英文学論文演習Ⅲ-2	2	
WL07	●英語英文学論文演習Ⅳ-1	2	
WL08	●英語英文学論文演習Ⅳ-2	2	
WL09	●英語英文学論文演習Ⅴ-1	2	
WL10	●英語英文学論文演習Ⅴ-2	2	
WL11	●英語英文学論文演習Ⅵ-1	2	
WL12	●英語英文学論文演習Ⅵ-2	2	
WL38	●英語英文学論文演習Ⅶ-1	2	
WL39	●英語英文学論文演習Ⅶ-2	2	

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

- 修了要件単位のうち、20単位以上を左記の本学大学院の英語英文学専攻において修得する。
- 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。
 - 本学大学院の英語英文学専攻の授業科目、ならびに英語英文学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目
 - 本学大学院の英語英文学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目
- 早期修了学生制度を利用する学生は、学部4年次に10単位を修得し、大学院入学後の1年次において20単位以上を修得するものとする。

●履修方法

英語英文学論文演習Ⅰ-1～Ⅶ-2は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

●修士論文資格試験

修士論文を提出するための条件として、提出予定者は、あらかじめ専攻の定める資格試験（Comprehensive Examination）に合格していなければならない。

●研究指導体制

- 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- 2年次に各学生の修士論文指導教員を決定する（早期修了学生候補者については、1年次に決定する）。大学院学生は定期的に論文演習等を通して修士論文指導教員の論文執筆指導を受け、修士論文を執筆する。
- 修士論文指導教員は、大学院学生の希望と研究領域に応じて、本専攻の専任教員以外にも依頼することができる。

●課程修了の所定単位を修得済みの者が標準修業年限を超えて在学する場合

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として英語英文学論文演習のみ履修することができる。

授業科目一覧

- ：リサーチワーク科目
- 無印：コースワーク科目

コード	授業科目	単位	備考
TA12	上代文学研究 (1)	2	
TA13	上代文学研究 (2)	2	
TA22	中古文学研究 (1)	2	
TA23	中古文学研究 (2)	2	
TA32	中世文学研究 (1)	2	
TA33	中世文学研究 (2)	2	
TA42	近世文学研究 (1)	2	
TA43	近世文学研究 (2)	2	
TA57	近現代文学研究 1 (1)	2	
TA58	近現代文学研究 1 (2)	2	
TA59	近現代文学研究 2 (1)	2	
TA60	近現代文学研究 2 (2)	2	
TA65	日本語学研究 (1)	2	
TA66	日本語学研究 (2)	2	
TA67	日本語史研究 (1)	2	
TA68	日本語史研究 (2)	2	
TA73	現代日本語研究 (1)	2	
TA74	現代日本語研究 (2)	2	
TA75	日本語教育学研究 1 (1)	2	
TA76	日本語教育学研究 1 (2)	2	
TA77	日本語教育学研究 2 (1)	2	
TA78	日本語教育学研究 2 (2)	2	
TA90	●日本文学論文演習 1	4	
TA91	●日本文学論文演習 2	4	
TA92	●日本文学論文演習 3	4	
TA93	●日本文学論文演習 4	4	
TA94	●日本語学論文演習 1	4	
TA95	●日本語学論文演習 2	4	
TA96	●日本語教育学論文演習	4	

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
TA11	上代文学研究 <4>	TA12	上代文学研究 (1) <2>
		TA13	上代文学研究 (2) <2>
TA21	中古文学研究 <4>	TA22	中古文学研究 (1) <2>
		TA23	中古文学研究 (2) <2>
TA31	中世文学研究 <4>	TA32	中世文学研究 (1) <2>
		TA33	中世文学研究 (2) <2>
TA41	近世文学研究 <4>	TA42	近世文学研究 (1) <2>
		TA43	近世文学研究 (2) <2>
TA54	近現代文学研究 I <4>	TA57	近現代文学研究 1 (1) <2>
		TA58	近現代文学研究 1 (2) <2>
TA55	近現代文学研究 II <4>	TA59	近現代文学研究 2 (1) <2>
		TA60	近現代文学研究 2 (2) <2>
TA61	日本語学研究 I <4>	TA65	日本語学研究 (1) <2>
		TA66	日本語学研究 (2) <2>
TA63	日本語史研究 <4>	TA67	日本語史研究 (1) <2>
		TA68	日本語史研究 (2) <2>
TA64	現代日本語研究 <4>	TA73	現代日本語研究 (1) <2>
		TA74	現代日本語研究 (2) <2>
TA71	日本語教育学研究 I <4>	TA75	日本語教育学研究 1 (1) <2>
		TA76	日本語教育学研究 1 (2) <2>
TA72	日本語教育学研究 II <4>	TA77	日本語教育学研究 2 (1) <2>
		TA78	日本語教育学研究 2 (2) <2>
TA81	日本文学論文演習 I <4>	TA90	日本文学論文演習 1 <4>
TA82	日本文学論文演習 II <4>	TA91	日本文学論文演習 2 <4>
TA83	日本文学論文演習 III <4>	TA92	日本文学論文演習 3 <4>
TA84	日本文学論文演習 IV <4>	TA93	日本文学論文演習 4 <4>
TA85	日本語学論文演習 I <4>	TA94	日本語学論文演習 1 <4>
TA86	日本語学論文演習 II <4>	TA95	日本語学論文演習 2 <4>

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位 (30単位以上) は次のように修得する。

- (1) 修了要件単位のうち、20単位以上を左記の本学大学院の日本語日本文学専攻において修得する。
- (2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する (ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない)。
 - ① 本学大学院の修士課程および博士前期課程の授業科目 (専攻を問わない)
 - ② 本学大学院の日本語日本文学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

●履修方法

日本文学論文演習 1～4、日本語学論文演習 1～2、日本語教育学論文演習は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

●研究指導体制

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。
- (6) 修士論文提出年次の大学院学生は「修士論文中間発表会」において発表を行う。これには全専任教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。

●課程修了の所定単位を修得済みの者が標準修業年限を超えて在学する場合

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として日本文学論文演習、日本語学論文演習、または、日本語教育学論文演習のいずれかのみ履修することができる。

授業科目一覧

- ：リサーチワーク科目
- 無印：コースワーク科目

コード	授 業 科 目	単 位	備 考
TC13	日本史研究 1 (1)	2	
TC14	日本史研究 1 (2)	2	
TC15	日本史研究 2 (1)	2	
TC16	日本史研究 2 (2)	2	
TC17	日本史研究 3 (1)	2	
TC18	日本史研究 3 (2)	2	
TC19	日本史研究 4 (1)	2	
TC20	日本史研究 4 (2)	2	
TC23	日本史特講 1 (1)	2	
TC24	日本史特講 1 (2)	2	
TC25	日本史特講 2 (1)	2	
TC26	日本史特講 2 (2)	2	
TC27	日本史特講 3 (1)	2	
TC28	日本史特講 3 (2)	2	
TC29	日本史特講 4 (1)	2	
TC30	日本史特講 4 (2)	2	
TD13	東洋史研究 1 (1)	2	
TD14	東洋史研究 1 (2)	2	
TD15	東洋史研究 2 (1)	2	
TD16	東洋史研究 2 (2)	2	
TD22	東洋史特講 1 (1)	2	
TD23	東洋史特講 1 (2)	2	
TD24	東洋史特講 2 (1)	2	
TD25	東洋史特講 2 (2)	2	
TE13	西洋史研究 1 (1)	2	
TE14	西洋史研究 1 (2)	2	
TE15	西洋史研究 2 (1)	2	
TE16	西洋史研究 2 (2)	2	
TE17	西洋史研究 3 (1)	2	
TE18	西洋史研究 3 (2)	2	
TC11	日本古代史特講	4	廃止(～2023)
TC12	日本古代史研究	4	廃止(～2023)
TC21	日本中世史特講	4	廃止(～2023)
TC22	日本中世史研究	4	廃止(～2023)
TC31	日本近世史特講	4	廃止(～2023)
TC32	日本近世史研究	4	廃止(～2023)
TC61	日本近現代史特講	4	廃止(～2023)
TC62	日本近現代史研究	4	廃止(～2023)
TC51	日本文化史研究	4	廃止(～2023)
TD12	東洋古代史特講	4	廃止(～2023)
TD21	東洋中世史特講	4	廃止(～2023)
TD31	東洋近世史特講	4	廃止(～2023)
TD32	東洋近世史研究	4	廃止(～2023)
TD41	東洋近代史特講	4	廃止(～2023)
TD42	東洋近代史研究	4	廃止(～2023)
TD43	東洋現代史特講	4	廃止(～2023)
TE22	西洋中世史研究	4	廃止(～2023)
TE35	西洋近代史研究	4	廃止(～2023)
TE45	西洋現代史研究	4	廃止(～2023)
TC75	●日本史論文演習	4	
TE54	●世界史論文演習	4	

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

- (1) 修了要件単位のうち、20単位以上を左記の本学大学院の史学専攻において修得する。
- (2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。
 - ① 本学大学院の史学専攻の授業科目、ならびに史学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目。
 - ② 本学大学院の史学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目。
 - ③ 本学の学部授業科目のうち特に認定された科目（修了単位に算入することが認められるのは、8単位までとする）。

●履修方法

日本史論文演習、世界史論文演習は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

●研究指導体制

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文演習」を履修し、定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。

●課程修了の所定単位を修得済みの者が標準修業年限を超えて在学する場合

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として日本史論文演習または、世界史論文演習のみ履修することができる。

授業科目一覧

- ：リサーチワーク科目
- 無印：コースワーク科目

コード	授業科目	単位	備考
●「社会システム研究」領域			
TF31	社会学研究特論Ⅰ-1	2	
TF32	社会学研究特論Ⅰ-2	2	
TF33	社会学研究特論Ⅱ-1	2	
TF34	社会学研究特論Ⅱ-2	2	
TF41	社会心理学研究特論Ⅰ-1	2	
TF42	社会心理学研究特論Ⅰ-2	2	
TF43	社会心理学研究特論Ⅱ-1	2	
TF44	社会心理学研究特論Ⅱ-2	2	
TF55	法学研究特論Ⅰ-1	2	
TF56	法学研究特論Ⅰ-2	2	
TH06	社会文化学研究特論1	2	
TH07	社会文化学研究特論2	2	
●「比較文化研究」領域			
TG41	フランス文化研究特論Ⅰ-1	2	
TG42	フランス文化研究特論Ⅰ-2	2	
TG23	比較文化研究特論Ⅰ-1	2	
TG24	比較文化研究特論Ⅰ-2	2	
TG25	文化人類学研究特論Ⅰ-1	2	
TG26	文化人類学研究特論Ⅰ-2	2	
TG27	中国思想文化研究特論Ⅰ-1	2	
TG28	中国思想文化研究特論Ⅰ-2	2	
TG31	国際開発学研究特論Ⅰ-1	2	
TG32	国際開発学研究特論Ⅰ-2	2	
TH08	社会文化学研究特論3	2	
TH09	社会文化学研究特論4	2	
●共同演習			
TH52	社会文化学共同演習Ⅰ	1	
●論文作成演習			
TH21	●社会文化学論文作成演習Ⅰ-1	2	
TH22	●社会文化学論文作成演習Ⅰ-2	2	
TH23	●社会文化学論文作成演習Ⅱ-1	2	
TH24	●社会文化学論文作成演習Ⅱ-2	2	
TH25	●社会文化学論文作成演習Ⅲ-1	2	
TH26	●社会文化学論文作成演習Ⅲ-2	2	
TH27	●社会文化学論文作成演習Ⅳ-1	2	
TH28	●社会文化学論文作成演習Ⅳ-2	2	
TH31	●社会文化学論文作成演習Ⅴ-1	2	
TH32	●社会文化学論文作成演習Ⅴ-2	2	
TH33	●社会文化学論文作成演習Ⅵ-1	2	
TH34	●社会文化学論文作成演習Ⅵ-2	2	
TH35	●社会文化学論文作成演習Ⅶ-1	2	
TH36	●社会文化学論文作成演習Ⅶ-2	2	
TH37	●社会文化学論文作成演習Ⅷ-1	2	
TH38	●社会文化学論文作成演習Ⅷ-2	2	
TH39	●社会文化学論文作成演習Ⅸ-1	2	
TH40	●社会文化学論文作成演習Ⅸ-2	2	
TH41	●社会文化学論文作成演習Ⅹ-1	2	
TH42	●社会文化学論文作成演習Ⅹ-2	2	
●領域共通			
TH11	多変量解析演習	2	
TH12	社会調査演習	2	
TH13	質的研究演習	2	

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

- (1) 修了要件単位のうち、20単位以上を左記の本学大学院の社会文化学専攻博士前期課程において修得する。
- (2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。
 - ① 本学大学院の社会文化学専攻の授業科目、ならびに社会文化学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目
 - ② 本学大学院の社会文化学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

●履修方法

- (1) 「社会システム研究」領域および「比較文化研究」領域のいずれからも4単位以上を修得する。「共同演習」は1年次に履修することとし、標準修業年限内のすべての年次において再履修可能である。
- (2) 社会文化学論文作成演習Ⅰ-1～Ⅹ-2は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、8単位までとする。
- (3) 専門社会調査士を取得する大学院学生のみ「質的研究演習」「社会調査演習」「多変量解析演習」を3科目セットで受講可能とする。

なお、受講費用については以下の通りとする。

 - ① 社会調査実習費（¥15,000）を4月の所定期間に納入しなければなりません。
 - ② 一度納入された社会調査実習費は理由のいかんにかかわらず返還しません。

●修士論文の作成

修士論文の作成については、指導教員と副指導教員の指導を受ける。

●研究指導体制

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文作成演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。
- (6) 「共同演習」において、年3回発表の機会を設けて、大学院学生はいずれか最低1回は発表する場が設けられている。「共同演習」には全専任教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。
- (7) 例年11月に指導教員・副指導教員・大学院学生の三者面談を行い、構想および論点について多角的に検討し、修士論文作成に向けての大筋の調整と主な論点整理を行う。
- (8) 2月に全専任教員・大学院学生参加で修士論文発表会を行い、1年次生に対しても論文作成の構えを養う。

●課程修了の所定単位を修得済みの者が標準修業年限を超えて在学する場合

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として社会文化学論文作成演習のみ履修することができる。

授業科目一覧

- ：リサーチワーク科目
- 無印：コースワーク科目

コード	授業科目	単位	備考
TJ11	哲学特論Ⅰ	4	
TJ12	哲学特論Ⅱ	4	
TJ13	哲学特論Ⅲ	4	
TJ14	哲学特論Ⅳ	4	
TJ15	哲学特論Ⅴ	4	
TJ17	哲学特論Ⅵ-1	2	
TJ18	哲学特論Ⅵ-2	2	
TJ21	キリスト教学特論Ⅰ	4	
TJ22	キリスト教学特論Ⅱ	4	
TJ23	キリスト教学特論Ⅲ	4	
TJ24	キリスト教学特論Ⅳ	4	
TJ68	キリスト教学特論Ⅴ-1	2	
TJ69	キリスト教学特論Ⅴ-2	2	
TJ26	キリスト教学特論Ⅵ	4	
TJ27	キリスト教学特論Ⅶ-1	2	
TJ28	キリスト教学特論Ⅶ-2	2	
TJ33	美学・芸術学特論Ⅰ	4	
TJ34	美学・芸術学特論Ⅱ	4	
TJ43	美学・芸術学特論Ⅲ	4	
TJ44	美学・芸術学特論Ⅳ	4	
TJ53	現代思想特論Ⅰ-1	2	
TJ54	現代思想特論Ⅰ-2	2	
TJ55	現代思想特論Ⅱ-1	2	
TJ56	現代思想特論Ⅱ-2	2	
TJ61	●哲学論文演習Ⅰ	4	
TJ62	●哲学論文演習Ⅱ	4	
TJ63	●哲学論文演習Ⅲ	4	
TJ64	●哲学論文演習Ⅳ	4	
TJ65	●哲学論文演習Ⅴ	4	
TJ66	●哲学論文演習Ⅵ	4	
TJ67	●哲学論文演習Ⅶ	4	

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

- (1) 修了要件単位のうち、20単位以上を左記の本学大学院の哲学専攻において修得する。
- (2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。
 - ① 本学大学院の哲学専攻の授業科目、ならびに哲学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目
 - ② 本学大学院の哲学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目
 - ③ 本学の学部授業科目のうち特に認定された科目（修了単位に算入することが認められるのは、8単位までとする）

●履修方法

次のように履修することが望ましい。

1年次：20単位以上

2年次：10単位以上

長期履修学生は履修方法について指導教員に相談すること。

哲学論文演習Ⅰ～Ⅶは、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

●修士論文の作成

修士論文の作成については、指導教員と副指導教員の指導を受ける。

●研究指導体制

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員に定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。
- (6) 指導教員および副指導教員以外の専攻の教員も、大学院学生の求めに応じて指導・副指導教員と相談のうえ、必要な指導にあたる。

●課程修了の所定単位を修得済みの者が標準修業年限を超えて在学する場合

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として哲学論文演習のみ履修することができる。

授業科目一覧

●：リサーチワーク科目

無印：コースワーク科目

コード	授 業 科 目	単 位	備 考
●「人間科学基礎論」			
WA12	基礎心理学特論 I	2	廃止(～2022)
WA16	基礎心理学特論 1	2	
WA13	基礎心理学特論 II	2	廃止(～2022)
WA17	基礎心理学特論 2	2	
WA14	基礎心理学特論 III	2	廃止(～2022)
WA18	基礎心理学特論 3	2	
WA15	基礎心理学特論 IV	2	廃止(～2022)
WA19	基礎心理学特論 4	2	
WA21	大脳生理心理学特論	2	
WA22	大脳生理心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
WA31	心理統計法特論	2	
WA41	人間科学特論 I	2	廃止(～2022)
WA43	人間科学特論 1	2	
WA42	人間科学特論 II	2	廃止(～2022)
WA44	人間科学特論 2	2	
WA71	基礎教育学特論 1	2	
WA72	基礎教育学特論 2	2	
WA73	基礎教育学特論 3	2	
WA74	基礎教育学特論 4	2	
●「領域共通」			
WG11	●人間科学特別演習	4	廃止(～2022)
WG14	●人間科学特別演習 (1)	2	
WG15	●人間科学特別演習 (2)	2	
WG22	●心理学修士論文演習	4	廃止(～2022)
WG23	●心理学修士論文演習 (1)	2	
WG24	●心理学修士論文演習 (2)	2	
●「教育研究」領域			
WF51	教育実践研究特論 1	2	
WF52	教育実践研究特論 2	2	
WF53	教育実践研究特論 3	2	
WF54	教育実践研究特論 4	2	
WF55	教育実践研究特論 5	2	
WF56	教育実践研究特論 6	2	
WF57	教育実践研究特論 7	2	
WF58	教育実践研究特論 8	2	
WF59	教育実践研究特論 9	2	
WF43	生涯学習研究特論 1	2	
WF44	生涯学習研究特論 2	2	
WF45	生涯学習研究特論 3	2	
WF46	生涯学習研究特論 4	2	
WF61	国際教育研究特論 1	2	
WF62	国際教育研究特論 2	2	
WF63	国際教育研究特論 3	2	
WF64	国際教育協力研究特論	2	
WF72	教育実践研究演習 1	2	
WF73	教育実践研究演習 2	2	
WF82	生涯学習研究演習 1	2	
WF83	生涯学習研究演習 2	2	
WF92	国際教育研究演習 1	2	
WF93	国際教育研究演習 2	2	

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

- (1) 修了要件単位のうち、20単位以上を本学大学院の人間科学専攻博士前期課程において修得する。
- (2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。
 - ① 本学大学院の人間科学専攻の授業科目、ならびに人間科学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目
 - ② 本学大学院の人間科学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

●履修方法

1. 教育研究領域の専攻生

- (1) 特論については、以下の領域からそれぞれ指定の単位数以上を修得すること。
 「人間科学基礎論」 8単位
 「教育研究」領域 4単位
- (2) 演習については、教育実践研究演習1、教育実践研究演習2、生涯学習研究演習1、生涯学習研究演習2、国際教育研究演習1、国際教育研究演習2の中から、自分の専門とする分野の演習を1年次に4単位履修すること。
- (3) 人間科学特別演習および人間科学特別演習(1)(2)は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、8単位までとする。

2. 発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生

- (1) 特論については、以下の領域からそれぞれ指定の単位数以上を修得すること。
 「人間科学基礎論」 8単位
 「発達心理学研究」・「臨床心理学研究」・「視聴覚情報研究」の領域のうち、自分の専門領域以外の研究領域において合計4単位
- (2) 演習については、自分の専門領域において1年次に履修すること。なお、ここには「心理学修士論文演習(1)(2)」は含まない。
- (3) 心理学修士論文演習(1)(2)は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件には数えない。

3. 臨床心理学研究領域の専攻生

- (1) 特論については、以下の領域からそれぞれ指定の単位数以上を修得すること。
 「人間科学基礎論」 8単位
 「発達心理学研究」・「視聴覚情報研究」領域において合計4単位

●「発達心理学研究」領域

WB06	生涯発達心理学特論 I	2	廃止(～2022)
WB51	生涯発達心理学特論 1	2	
WB07	生涯発達心理学特論 II	2	廃止(～2022)
WB52	生涯発達心理学特論 2	2	
WB08	家族臨床心理学特論	2	※※
WB43	家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	※※
WB12	家族心理学特論	2	
WB41	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
WB13	発達心理学特論	2	
WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
WB15	比較行動学特論	2	
WB45	比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
WB16	障害児心理学特論	2	※※
WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WB21	生涯発達心理学演習 I	4	廃止(～2022)
WB24	生涯発達心理学演習 1（1）	2	
WB25	生涯発達心理学演習 1（2）	2	
WB22	生涯発達心理学演習 II	4	廃止(～2022)
WB26	生涯発達心理学演習 2（1）	2	
WB27	生涯発達心理学演習 2（2）	2	
WB31	老年心理学特論	2	
WB47	老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
WB32	社会心理学特論 I	2	廃止(～2022)
WB33	社会心理学特論 1	2	

●「視聴覚情報研究」領域

WD14	視聴覚情報処理特論	2	
WD41	感性情報処理特論	2	
WD51	認知心理学特論 I	2	廃止(～2022)
WD93	認知心理学特論 1	2	
WD52	認知心理学特論 II	2	廃止(～2022)
WD94	認知心理学特論 2	2	
WD53	認知心理学演習	4	廃止(～2022)
WD95	認知心理学演習（1）	2	
WD96	認知心理学演習（2）	2	
WD62	視聴覚情報処理演習	4	廃止(～2022)
WD97	視聴覚情報処理演習（1）	2	
WD98	視聴覚情報処理演習（2）	2	
WD72	学習心理学特論 I	2	
WD91	学習心理学特論 I（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
WD73	学習心理学特論 II	2	
WD92	学習心理学特論 II（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	

●「臨床心理学研究」領域

WC10	臨床心理学演習	4	廃止(～2022)
WC91	臨床心理学演習（1）	2	※
WC92	臨床心理学演習（2）	2	※
WB17	学校臨床心理学特論	2	※
WB19	フェミニスト・カウンセリング特論	2	※

- (2) 演習については、自分の専門領域において1年次に履修すること。なお、ここには「臨床心理査定演習」や「心理学修士論文演習（1）（2）」は含まない。
- (3) 心理学修士論文演習（1）（2）は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件には数えない。
- (4) 臨床心理基礎実習Ⅰ、Ⅱ（各1単位）は、1年次に履修すること。臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）、臨床心理実習Ⅱは、2年次に履修すること。原則として、臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）、臨床心理実習Ⅱを履修するためには、前年度までに臨床心理基礎実習Ⅰ、Ⅱを履修していなければならない。
- (5) 「臨床心理士」の受験資格取得を希望する場合は、以下の科目が含まれるように修得すること。

▼必修科目

- 臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理学特論Ⅱ
 臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）
 臨床心理面接特論Ⅱ
 臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
 臨床心理査定演習Ⅱ
 臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅱ
 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）
 臨床心理実習Ⅱ

▼選択必修科目（臨床心理学またはその近接領域）

次のA～E群の中からそれぞれ1科目以上合計10単位以上を修得すること。

- A群 心理統計法特論、臨床心理学研究法
- B群 生涯発達心理学特論1、生涯発達心理学特論2
 大脳生理心理学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)
 発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）
 比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）、認知心理学特論1、認知心理学特論2
- C群 家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）、社会心理学特論Ⅰ、社会病理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)、犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）、家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
- D群 障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)
 精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)
 心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)
 老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
 福祉分野に関する理論と支援の展開
- E群 学校臨床心理学特論、心理療法特論Ⅱ、心理療法特論Ⅲ、投影法特論

●「臨床心理学研究」領域

WC76	フェミニスト・カウンセリング特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	※
WC11	臨床心理学特論Ⅰ	2	※
WC12	臨床心理学特論Ⅱ	2	※
WC13	臨床心理面接特論Ⅰ	2	※
WC61	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	※
WC14	臨床心理面接特論Ⅱ	2	※
WC16	臨床心理査定演習Ⅰ	2	※
WC62	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	※
WC17	臨床心理査定演習Ⅱ	2	※
WC22	精神医学特論	2	※※
WC71	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC23	心身医学特論	2	※※
WC72	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC24	社会病理学特論	2	※※
WC73	社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC27	投影法特論	2	※
WC28	犯罪心理学特論	2	※※
WC74	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC42	臨床心理実習	2	※
WC77	産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC78	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2	※※
WC81	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	1	※
WC82	臨床心理実習Ⅱ	1	※
WC83	心理実践実習Ⅰ	2	※
WC84	臨床心理学研究法	2	※※
WC90	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	※※
WC25	心理療法特論Ⅰ	2	廃止（～2022）
WC26	心理療法特論Ⅱ	2	廃止（～2022）
WC93	心理療法特論Ⅰ	2	※
WC32	心理療法特論Ⅲ	2	廃止（～2022）
WC94	心理療法特論Ⅱ	2	※
WC75	心理療法特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	廃止（～2022）
WC95	心理支援に関する理論と実践	2	※
WC41	臨床心理基礎実習	2	廃止（～2022）
WC96	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	※
WC97	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	※

備考：1. ※印は人間科学専攻（博士前期課程）臨床心理学研究領域専攻生のみ履修可
 2. ※※印は、人間科学専攻（博士前期課程）発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生のみ履修可

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

(6)「公認心理師」の受験資格取得を希望する場合は、以下の点に注意すること。

- ・まず、学部（4年制大学）で履修済みの科目が、受験資格取得の要件を満たしているか否かについて、出身大学に確認すること。学部で履修済みの科目が要件を満たしていない場合は、受験資格を取得することはできない。
- ・学部で履修済みの科目が要件を満たし、かつ、本学大学院において以下に従って履修することにより、受験資格を取得することができる。
- ・下記の①～⑩の全てについて、それぞれの名称を含む科目を1科目以上ずつ履修し、⑩は両科目ともに履修すること。
 - ① 保健医療分野に関する理論と支援の展開
 - ② 福祉分野に関する理論と支援の展開
 - ③ 教育分野に関する理論と支援の展開
 - ④ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
 - ⑤ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開
 - ⑥ 心理的アセスメントに関する理論と実践
 - ⑦ 心理支援に関する理論と実践
 - ⑧ 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践
 - ⑨ 心の健康教育に関する理論と実践
 - ⑩ 心理実践実習Ⅰ、臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）

●臨床心理士の受験資格

本学大学院の臨床心理学研究領域は、2018年度より臨床心理士養成指定大学院第1種指定校となったため、2018年度以降入学者は大学院を修了した年に臨床心理士資格試験を受験することができる。

●研究指導体制

1. 教育研究領域

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「人間科学特別演習」または「人間科学特別演習(1)(2)」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。
- (6) 修士論文の中間発表では当該専攻の全専任教員が参加し、指導助言を行う。

2. 発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域、臨床心理学研究領域

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。

代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
●「領域共通」			
WG22	心理学修士論文演習 <4>	WG23	心理学修士論文演習 (1) <2>
		WG24	心理学修士論文演習 (2) <2>
●「発達心理学研究」領域			
WB06	生涯発達心理学特論 I <2>	WB51	生涯発達心理学特論 1 <2>
WB07	生涯発達心理学特論 II <2>	WB52	生涯発達心理学特論 2 <2>
WB21	生涯発達心理学演習 I <4>	WB24	生涯発達心理学演習 1 (1) <2>
		WB25	生涯発達心理学演習 1 (2) <2>
WB22	生涯発達心理学演習 II <4>	WB26	生涯発達心理学演習 2 (1) <2>
		WB27	生涯発達心理学演習 2 (2) <2>
WB32	社会心理学特論 I <2>	WB33	社会心理学特講 1 <2>
●「視聴覚情報研究」領域			
WD51	認知心理学特論 I <2>	WD93	認知心理学特論 1 <2>
WD52	認知心理学特論 II <2>	WD94	認知心理学特論 2 <2>
WD53	認知心理学演習 <4>	WD95	認知心理学演習 (1) <2>
		WD96	認知心理学演習 (2) <2>
WD62	視聴覚情報処理演習 <4>	WD97	視聴覚情報処理演習 (1) <2>
		WD98	視聴覚情報処理演習 (2) <2>
●「臨床心理学研究」領域			
WC10	臨床心理学演習 <4>	WC91	臨床心理学演習 (1) <2>
		WC92	臨床心理学演習 (2) <2>
WC26	心理療法特論 II <2>	WC93	心理療法特論 1 <2>
WC32	心理療法特論 III <2>	WC94	心理療法特論 2 <2>
WC75	心理療法特論 I (心理支援に関する理論と実践) <2>	WC95	心理支援に関する理論と実践 <2>
WC41	臨床心理基礎実習 <2>	WC96	臨床心理基礎実習 I <1>
		WC97	臨床心理基礎実習 II <1>

- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「心理学修士論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。

●領域変更

人間科学専攻教育研究領域、発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域から、臨床心理学研究領域への領域の変更はできない。

●課程修了の所定単位を修得済みの者が標準修業年限を超えて在学する場合

1. 教育研究領域の専攻生

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として人間科学特別演習および人間科学特別演習 (1)(2) のみ履修することができる。

2. 発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域、臨床心理学研究領域の専攻生

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として心理学修士論文演習 (1)(2) のみ履修することができる。

授業科目一覧

●：リサーチワーク科目

無印：コースワーク科目

コード	授業科目	単位	備考
●「人間科学基礎論」			
WA16	基礎心理学特論 1	2	
WA17	基礎心理学特論 2	2	
WA18	基礎心理学特論 3	2	
WA19	基礎心理学特論 4	2	
WA21	大脳生理心理学特論	2	
WA22	大脳生理心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
WA31	心理統計法特論	2	
WA43	人間科学特論 1	2	
WA44	人間科学特論 2	2	
WA71	基礎教育学特論 1	2	
WA72	基礎教育学特論 2	2	
WA73	基礎教育学特論 3	2	
WA74	基礎教育学特論 4	2	
●「領域共通」			
WG14	●人間科学特別演習（1）	2	
WG15	●人間科学特別演習（2）	2	
WG23	●心理学修士論文演習（1）	2	
WG24	●心理学修士論文演習（2）	2	
●「教育研究」領域			
WF51	教育実践研究特論 1	2	
WF52	教育実践研究特論 2	2	
WF53	教育実践研究特論 3	2	
WF54	教育実践研究特論 4	2	
WF55	教育実践研究特論 5	2	
WF56	教育実践研究特論 6	2	
WF57	教育実践研究特論 7	2	
WF58	教育実践研究特論 8	2	
WF59	教育実践研究特論 9	2	
WF43	生涯学習研究特論 1	2	
WF44	生涯学習研究特論 2	2	
WF45	生涯学習研究特論 3	2	
WF46	生涯学習研究特論 4	2	
WF61	国際教育研究特論 1	2	
WF62	国際教育研究特論 2	2	
WF63	国際教育研究特論 3	2	
WF64	国際教育協力研究特論	2	
WF72	教育実践研究演習 1	2	
WF73	教育実践研究演習 2	2	
WF82	生涯学習研究演習 1	2	
WF83	生涯学習研究演習 2	2	
WF92	国際教育研究演習 1	2	
WF93	国際教育研究演習 2	2	
●「発達心理学研究」領域			
WB08	家族臨床心理学特論	2	※※
WB43	家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	※※
WB12	家族心理学特論	2	
WB41	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

- 修了要件単位のうち、20単位以上を本学大学院の人間科学専攻博士前期課程において修得する。
- 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。
 - 本学大学院の人間科学専攻の授業科目、ならびに人間科学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目
 - 本学大学院の人間科学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

●履修方法

1. 教育研究領域の専攻生

- 特論については、以下の領域からそれぞれ指定の単位数以上を修得すること。
「人間科学基礎論」 8単位
「教育研究」領域 4単位
- 演習については、教育実践研究演習 1、教育実践研究演習 2、生涯学習研究演習 1、生涯学習研究演習 2、国際教育研究演習 1、国際教育研究演習 2の中から、自分の専門とする分野の演習を1年次に4単位履修すること。
- 人間科学特別演習（1）（2）は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、8単位までとする。

2. 発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生

- 特論については、以下の領域からそれぞれ指定の単位数以上を修得すること。
「人間科学基礎論」 8単位
「発達心理学研究」・「臨床心理学研究」・「視聴覚情報研究」の領域のうち、自分の専門領域以外の研究領域において合計4単位
- 演習については、自分の専門領域において1年次に履修すること。なお、ここには「心理学修士論文演習（1）（2）」は含まない。
- 心理学修士論文演習（1）（2）は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件には数えない。

3. 臨床心理学研究領域の専攻生

- 特論については、以下の領域からそれぞれ指定の単位数以上を修得すること。
「人間科学基礎論」 8単位
「発達心理学研究」・「視聴覚情報研究」領域において合計4単位
- 演習については、自分の専門領域において1年次に履修すること。なお、ここには「臨床心理査定演習」や「心理学修士論文演習（1）（2）」は含まない。
- 心理学修士論文演習（1）（2）は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件には数えない。
- 臨床心理基礎実習Ⅰ、Ⅱ（各1単位）は、1年次に履修する

●「発達心理学研究」領域

WB13	発達心理学特論	2	
WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
WB15	比較行動学特論	2	
WB45	比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
WB16	障害児心理学特論	2	※※
WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WB24	生涯発達心理学演習 1（1）	2	
WB25	生涯発達心理学演習 1（2）	2	
WB26	生涯発達心理学演習 2（1）	2	
WB27	生涯発達心理学演習 2（2）	2	
WB31	老年心理学特論	2	
WB47	老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
WB33	社会心理学特論 1	2	
WB51	生涯発達心理学特論 1	2	
WB52	生涯発達心理学特論 2	2	

●「視聴覚情報研究」領域

WD14	視聴覚情報処理特論	2	
WD41	感性情報処理特論	2	
WD93	認知心理学特論 1	2	
WD94	認知心理学特論 2	2	
WD95	認知心理学演習（1）	2	
WD96	認知心理学演習（2）	2	
WD97	視聴覚情報処理演習（1）	2	
WD98	視聴覚情報処理演習（2）	2	
WD72	学習心理学特論 I	2	
WD91	学習心理学特論 I（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
WD73	学習心理学特論 II	2	
WD92	学習心理学特論 II（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	

●「臨床心理学研究」領域

WB17	学校臨床心理学特論	2	※
WB19	フェミニスト・カウンセリング特論	2	※
WC76	フェミニスト・カウンセリング特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	※
WC11	臨床心理学特論 I	2	※
WC12	臨床心理学特論 II	2	※
WC13	臨床心理面接特論 I	2	※
WC61	臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践）	2	※
WC14	臨床心理面接特論 II	2	※
WC16	臨床心理査定演習 I	2	※
WC62	臨床心理査定演習 I（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	※
WC17	臨床心理査定演習 II	2	※
WC22	精神医学特論	2	※※
WC71	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC23	心身医学特論	2	※※
WC72	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC24	社会病理学特論	2	※※
WC73	社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC27	投影法特論	2	※

こと。
臨床心理実習 I（心理実践実習 II）、臨床心理実習 II は、2 年次に履修すること。原則として、臨床心理実習 I（心理実践実習 II）、臨床心理実習 II を履修するためには、前年度までに臨床心理基礎実習 I、II を履修していなければならない。
(5) 「臨床心理士」の受験資格取得を希望する場合は、以下の科目が含まれるように修得すること。

- ▼必修科目
臨床心理学特論 I 臨床心理学特論 II
臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践）
臨床心理面接特論 II
臨床心理査定演習 I（心理的アセスメントに関する理論と実践）
臨床心理査定演習 II
臨床心理基礎実習 I 臨床心理基礎実習 II
臨床心理実習 I（心理実践実習 II）
臨床心理実習 II

▼選択必修科目（臨床心理学またはその近接領域）
次の A～E 群の中からそれぞれ 1 科目以上合計 10 単位以上を修得すること。

- A 群 心理統計法特論、臨床心理学研究法
B 群 生涯発達心理学特論 1、生涯発達心理学特論 2
大脳生理心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）
発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）
比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）、認知心理学特論 1、認知心理学特論 2
学習心理学特論 I（教育分野に関する理論と支援の展開）
学習心理学特論 II（教育分野に関する理論と支援の展開）
C 群 家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）、社会心理学特論 I、社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）、犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）、家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
D 群 障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）
老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
福祉分野に関する理論と支援の展開
E 群 学校臨床心理学特論、心理療法特論 II、心理療法特論 III、投影法特論

(6) 「公認心理師」の受験資格取得を希望する場合は、以下の点に注意すること。

- ・まず、学部（4 年制大学）で履修済みの科目が、受験資格取得の要件を満たしているか否かについて、出身大学に確認すること。学部で履修済みの科目が要件を満たしていない場合は、受験資格を取得することはできない。
 - ・学部で履修済みの科目が要件を満たし、かつ、本学大学院において以下に従って履修することにより、受験資格を取得することができる。
 - ・下記の①～⑨の全てについて、それぞれの名称を含む科目を 1 科目以上ずつ履修し、⑩は両科目ともに履修すること。
- ① 保健医療分野に関する理論と支援の展開
 - ② 福祉分野に関する理論と支援の展開
 - ③ 教育分野に関する理論と支援の展開
 - ④ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
 - ⑤ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開

●「臨床心理学研究」領域

WC28	犯罪心理学特論	2	※※
WC74	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC42	臨床心理実習	2	※
WC81	臨床心理実習Ⅰ （心理実践実習Ⅱ）	1	※
WC82	臨床心理実習Ⅱ	1	※
WC77	産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	※※
WC78	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2	※※
WC83	心理実践実習Ⅰ	2	※
WC84	臨床心理学研究法	2	※※
WC90	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	※※
WC91	臨床心理学演習（1）	2	※
WC92	臨床心理学演習（2）	2	※
WC93	心理療法特論1	2	※
WC94	心理療法特論2	2	※
WC95	心理支援に関する理論と実践	2	※
WC96	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	※
WC97	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	※

備考：1. ※印は人間科学専攻（博士前期課程）臨床心理学研究領域専攻生のみ履修可
2. ※※印は、人間科学専攻（博士前期課程）発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生のみ履修可

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

- ⑥ 心理的アセスメントに関する理論と実践
- ⑦ 心理支援に関する理論と実践
- ⑧ 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践
- ⑨ 心の健康教育に関する理論と実践
- ⑩ 心理実践実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）

●臨床心理士の受験資格

本学大学院の臨床心理学研究領域は、2018年度より臨床心理士養成指定大学院第1種指定校となったため、2018年度以降入学者は大学院を修了した年に臨床心理士資格試験を受験することができる。

●研究指導体制

1. 教育研究領域

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「人間科学特別演習（1）（2）」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。
- (6) 修士論文の中間発表では当該専攻の全専任教員が参加し、指導助言を行う。

2. 発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域、臨床心理学研究領域

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「心理学修士論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。

●領域変更

人間科学専攻教育研究領域、発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域から、臨床心理学研究領域への領域の変更はできない。

●課程修了の所定単位を修得済みの者が標準修業年限を超えて在学する場合

1. 教育研究領域の専攻生

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として人間科学特別演習（1）（2）のみ履修することができる。

2. 発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域、臨床心理学研究領域の専攻生

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として心理学修士論文演習（1）（2）のみ履修することができる。

授業科目一覧

- ：リサーチワーク科目
- 無印：コースワーク科目

コード	授 業 科 目	単位	備考
「専門科目」			
XA38	英語学特論Ⅰ-1	2	
XA39	英語学特論Ⅰ-2	2	
XA17	英文学特論Ⅰ-1	2	
XA18	英文学特論Ⅰ-2	2	
XA19	英文学特論Ⅱ-1	2	
XA20	英文学特論Ⅱ-2	2	
XA40	現代社会・ジャーナリズム特論Ⅰ-1	2	
XA41	現代社会・ジャーナリズム特論Ⅰ-2	2	
XA42	日本語学特論Ⅰ(1)	2	
XA43	日本語学特論Ⅰ(2)	2	
XA44	日本語学特論Ⅱ(1)	2	
XA45	日本語学特論Ⅱ(2)	2	
XA46	日本文学特論Ⅰ(1)	2	
XA47	日本文学特論Ⅰ(2)	2	
XA48	史学特論Ⅰ(1)	2	
XA49	史学特論Ⅰ(2)	2	
XA50	史学特論Ⅱ(1)	2	
XA51	史学特論Ⅱ(2)	2	
XA52	史学特論Ⅲ(1)	2	
XA53	史学特論Ⅲ(2)	2	
XA33	哲学・倫理学特論Ⅰ	4	
XA34	哲学・倫理学特論Ⅱ	4	
XA37	哲学・倫理学特論Ⅲ	4	
XA35	美学・芸術学特論Ⅰ	4	
XA36	美学・芸術学特論Ⅱ	4	
「共通科目」①共通講義			
XB11	人文学特論Ⅰ	4	
XB12	人文学特論Ⅱ	4	
XB18	人文学特論Ⅱ-1	2	
XB19	人文学特論Ⅱ-2	2	
XB30	人文学特論Ⅲ(1)	2	
XB31	人文学特論Ⅲ(2)	2	
XB32	人文学特論Ⅳ(1)	2	
XB33	人文学特論Ⅳ(2)	2	
XB15	人文学特論Ⅴ	4	
XB16	人文学特論Ⅵ	4	
XB17	人文学特論Ⅶ	4	
XB20	人文学特論Ⅶ-1	2	
XB21	人文学特論Ⅶ-2	2	
XB40	人文学特論Ⅷ(1)	2	
XB41	人文学特論Ⅷ(2)	2	
XB42	人文学特論Ⅸ(1)	2	
XB43	人文学特論Ⅸ(2)	2	
XB24	人文学特論Ⅹ-1	2	
XB25	人文学特論Ⅹ-2	2	
XB46	人文学特論Ⅺ(1)	2	
XB47	人文学特論Ⅺ(2)	2	
XB48	人文学特論Ⅻ(1)	2	
XB49	人文学特論Ⅻ(2)	2	
XB50	人文学特論Ⅼ(1)	2	
XB51	人文学特論Ⅼ(2)	2	
「共通科目」②共同演習			
XC13	人文学共同演習	0	

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（10単位以上）すべてを、左記の本学大学院人文学専攻において修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

- (1) 専門科目および共通科目の共通講義からそれぞれ4単位以上修得する。
- (2) 共通科目の人文学共同演習は2年次必修である。ただしこの科目による単位修得はできない（無単位）。
- (3) 人文学論文演習は全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。
- (4) 人文学共同演習は、2年次生以外も履修または再履修することが望ましい。

●研究指導体制

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する論文演習を履修し定期的に論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。
- (6) 人文学共同演習において、博士論文の途中経過報告としての研究発表をおこなう。

●在学延長の場合

在学延長を承認された者は、人文学論文演習のみ履修することができる。

「共通科目」③論文演習

XD31	●人文学論文演習 I	4	
XD51	●人文学論文演習 I - 1	2	
XD52	●人文学論文演習 I - 2	2	
XD32	●人文学論文演習 II	4	
XD33	●人文学論文演習 III	4	
XD34	●人文学論文演習 IV	4	
XD35	●人文学論文演習 V	4	
XD36	●人文学論文演習 VI	4	
XD37	●人文学論文演習 VII	4	
XD38	●人文学論文演習 VIII	4	
XD39	●人文学論文演習 IX	4	
XD53	●人文学論文演習 IX - 1	2	
XD54	●人文学論文演習 IX - 2	2	
XD40	●人文学論文演習 X	4	
XD41	●人文学論文演習 XI	4	
XD42	●人文学論文演習 XII	4	
XD44	●人文学論文演習 XIII	4	
XD45	●人文学論文演習 XIV	4	
XD55	●人文学論文演習 XV (1)	2	
XD56	●人文学論文演習 XV (2)	2	
XD57	●人文学論文演習 XVI (1)	2	
XD58	●人文学論文演習 XVI (2)	2	
XD59	●人文学論文演習 XVII (1)	2	
XD60	●人文学論文演習 XVII (2)	2	
XD61	●人文学論文演習 XVIII (1)	2	
XD62	●人文学論文演習 XVIII (2)	2	
XD63	●人文学論文演習 XIX (1)	2	
XD64	●人文学論文演習 XIX (2)	2	
XD65	●人文学論文演習 XX (1)	2	
XD66	●人文学論文演習 XX (2)	2	
XD67	●人文学論文演習 XXI (1)	2	
XD68	●人文学論文演習 XXI (2)	2	
XD69	●人文学論文演習 XXII (1)	2	
XD70	●人文学論文演習 XXII (2)	2	
XD71	●人文学論文演習 XXIII (1)	2	
XD72	●人文学論文演習 XXIII (2)	2	

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

授業科目一覧

- ：リサーチワーク科目
- 無印：コースワーク科目

コード	授 業 科 目	単 位	備 考
(イ) 専門科目			
ZB01	社会学特論Ⅰ-1	2	
ZB02	社会学特論Ⅰ-2	2	
ZB03	社会学特論Ⅱ-1	2	
ZB04	社会学特論Ⅱ-2	2	
ZB11	社会心理学特論Ⅰ-1	2	
ZB12	社会心理学特論Ⅰ-2	2	
ZB13	社会心理学特論Ⅱ-1	2	
ZB14	社会心理学特論Ⅱ-2	2	
ZB25	法学特論Ⅰ-1	2	
ZB26	法学特論Ⅰ-2	2	
ZB29	比較文化特論Ⅰ-1	2	
ZB30	比較文化特論Ⅰ-2	2	
ZB31	文化人類学特論Ⅰ-1	2	
ZB32	文化人類学特論Ⅰ-2	2	
ZB33	中国思想文化特論Ⅰ-1	2	
ZB34	中国思想文化特論Ⅰ-2	2	
ZB35	国際開発学特論Ⅰ-1	2	
ZB36	国際開発学特論Ⅰ-2	2	
ZB37	フランス文化特論Ⅰ-1	2	
ZB38	フランス文化特論Ⅰ-2	2	
ZA31	社会文化学特論1	2	
ZA32	社会文化学特論2	2	
(ロ) 共同演習			
ZC13	社会文化学共同演習	1	
(ハ) 論文演習			
ZD11	●社会文化学論文演習Ⅰ	4	
ZD12	●社会文化学論文演習Ⅱ	4	
ZD13	●社会文化学論文演習Ⅲ	4	
ZD14	●社会文化学論文演習Ⅳ	4	
ZD15	●社会文化学論文演習Ⅴ	4	
ZD16	●社会文化学論文演習Ⅵ	4	
ZD17	●社会文化学論文演習Ⅶ	4	
ZD18	●社会文化学論文演習Ⅷ	4	
ZD19	●社会文化学論文演習Ⅸ	4	
ZD20	●社会文化学論文演習Ⅹ	4	
ZD21	●社会文化学論文演習ⅩⅠ	4	
ZD22	●社会文化学論文演習ⅩⅡ	4	
ZD23	●社会文化学論文演習ⅩⅢ	4	

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（10単位以上）すべてを、左記の本学大学院社会文化学専攻博士後期課程において修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

- (1) 専門科目から8単位以上修得する。
- (2) 社会文化学共同演習は、2年次に履修する。なお、1年次生および3年次生は、必須ではないが履修することが望ましい。
- (3) 社会文化学論文演習は全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

●研究指導体制

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。
- (6) 「共同演習」において、年3回発表の機会を設けて、大学院学生はいずれか最低1回は発表する場が設けられている。「共同演習」には全教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。
- (7) 博士論文作成に向けて、学内発表会を行うとともに、専門学会出席を促し発表させる。
- (8) 社会文化学専攻のホームページにおいて、大学院学生の学会発表論文および投稿論文要旨などを掲載し、研究活動の活性化を促進する。

●在学延長の場合

在学延長を承認された者は、社会文化学論文演習のみ履修することができる。

※2017年度以前入学者は、2019年度以前の履修要覧で確認してください。

授業科目一覧

●：リサーチワーク科目

無印：コースワーク科目

コード	授業科目	単位	備考
●「心理学基礎研究」領域			
YA15	知覚心理学特殊研究	2	
YA25	認知心理学特殊研究	2	
YA31	神経心理学特殊研究	2	
YA32	学習心理学特殊研究	2	
YA52	知覚心理学特殊演習	4	廃止(～2022)
YA91	知覚心理学特殊演習 (1)	2	
YA92	知覚心理学特殊演習 (2)	2	
YA61	認知心理学特殊演習	4	廃止(～2022)
YA93	認知心理学特殊演習 (1)	2	
YA94	認知心理学特殊演習 (2)	2	
YA81	●心理学博士論文演習Ⅳ	4	廃止(～2022)
YA82	●心理学博士論文演習Ⅴ	4	廃止(～2022)
YC14	●心理学博士論文演習 (1)	2	
YC15	●心理学博士論文演習 (2)	2	
●「発達臨床研究」領域			
YB21	比較行動学特殊研究	2	
YB22	発達心理学特殊研究Ⅰ	2	廃止(～2022)
YB24	発達心理学特殊研究1	2	
YB23	発達心理学特殊研究Ⅱ	2	廃止(～2022)
YB25	発達心理学特殊研究2	2	
YB61	発達心理学特殊演習Ⅰ	4	廃止(～2022)
YB94	発達心理学特殊演習1 (1)	2	
YB95	発達心理学特殊演習1 (2)	2	
YB62	家族臨床心理学特殊研究	2	
YB63	フェミニスト・カウンセリング特殊研究	2	
YB64	発達心理学特殊演習Ⅱ	4	廃止(～2022)
YB96	発達心理学特殊演習2 (1)	2	
YB97	発達心理学特殊演習2 (2)	2	
YB65	臨床心理学特殊演習Ⅰ	4	廃止(～2022)
YB98	臨床心理学特殊演習1 (1)	2	
YB99	臨床心理学特殊演習1 (2)	2	
YB91	●心理学博士論文演習Ⅰ	4	廃止(～2022)
YB92	●心理学博士論文演習Ⅱ	4	廃止(～2022)
YB93	●心理学博士論文演習Ⅲ	4	廃止(～2022)
YC14	●心理学博士論文演習 (1)	2	
YC15	●心理学博士論文演習 (2)	2	
●「教育研究」領域			
YD11	教育実践特殊研究 1	2	
YD12	教育実践特殊研究 2	2	
YD13	教育実践特殊研究 3	2	
YD14	教育実践特殊研究 4	2	
YD15	教育実践特殊研究 5	2	
YD16	教育実践特殊研究 6	2	
YD17	教育実践特殊研究 7	2	
YD18	教育実践特殊研究 8	2	
YD19	教育実践特殊研究 9	2	
YD21	生涯学習特殊研究 1	2	
YD22	生涯学習特殊研究 2	2	
YD23	生涯学習特殊研究 3	2	
YD24	生涯学習特殊研究 4	2	
YD31	国際教育特殊研究 1	2	
YD32	国際教育特殊研究 2	2	
YD33	国際教育特殊研究 3	2	
YD34	国際教育協力特殊研究	2	
YD42	教育実践研究特殊演習 1	2	
YD43	教育実践研究特殊演習 2	2	
YD52	生涯学習研究特殊演習 1	2	
YD53	生涯学習研究特殊演習 2	2	

履修要項

●単位の修得方法

1. 教育研究領域の専攻生

修了要件単位（10単位以上）は、すべて本学大学院人間科学専攻博士後期課程において修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

- (1) 特殊研究から2単位以上修得する。
- (2) 特殊演習は、教育研究領域のうち、博士論文の内容に係わる分野において2科目4単位を1年次に履修する。
- (3) 教育研究論文作成演習および教育研究論文作成演習 (1) (2) は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

2. 心理学基礎研究領域、発達臨床研究領域の専攻生

修了要件単位（10単位以上）のうち、本学大学院人間科学専攻博士後期課程において6単位以上を修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

- (1) 特殊演習 (1) (2) は、博士論文の内容に係わる領域（心理学基礎研究、発達臨床研究のいずれか）において1年次に履修する。
- (2) 心理学博士論文演習 (1) (2) は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

●研究指導体制

1. 教育研究領域

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「教育研究論文作成演習」または「教育研究論文作成演習 (1) (2)」を履修し定期的な論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。
- (6) 博士論文の中間発表では当該専攻の全専任教員が参加し、指導助言を行う。

2. 心理学基礎研究領域、発達臨床研究領域

- (1) 入学時に、大学院学生の希望と研究領域および本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、入学後の早い時期に指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「心理学博士論文演習 (1) (2)」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。

●「教育研究」領域			
YD62	国際教育研究特殊演習 1	2	廃止(～2022)
YD63	国際教育研究特殊演習 2	2	
YD71	●教育研究論文作成演習	4	
YD72	●教育研究論文作成演習 (1)	2	
YD73	●教育研究論文作成演習 (2)	2	

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

代替指定科目 < >内は単位数

コード	旧科目名	コード	代替科目
●「心理学基礎領域」研究			
YA52	知覚心理学特殊演習<4>	YA91	知覚心理学特殊演習(1)<2>
		YA92	知覚心理学特殊演習(2)<2>
YA61	認知心理学特殊演習<4>	YA93	認知心理学特殊演習(1)<2>
		YA94	認知心理学特殊演習(2)<2>
YA81	心理学博士論文演習Ⅳ<4>	YC14	心理学博士論文演習(1)<2>
		YC15	心理学博士論文演習(2)<2>
YA82	心理学博士論文演習Ⅴ<4>	YC14	心理学博士論文演習(1)<2>
		YC15	心理学博士論文演習(2)<2>
●「発達臨床研究」領域			
YB61	発達心理学特殊演習Ⅰ<4>	YB94	発達心理学特殊演習Ⅰ(1)<2>
		YB95	発達心理学特殊演習Ⅰ(2)<2>
YB64	発達心理学特殊演習Ⅱ<4>	YB96	発達心理学特殊演習Ⅱ(1)<2>
		YB97	発達心理学特殊演習Ⅱ(2)<2>
YB65	臨床心理学特殊演習Ⅰ<4>	YB98	臨床心理学特殊演習Ⅰ(1)<2>
		YB99	臨床心理学特殊演習Ⅰ(2)<2>
YB91	心理学博士論文演習Ⅰ<4>	YC14	心理学博士論文演習(1)<2>
		YC15	心理学博士論文演習(2)<2>
YB92	心理学博士論文演習Ⅱ<4>	YC14	心理学博士論文演習(1)<2>
		YC15	心理学博士論文演習(2)<2>
YB93	心理学博士論文演習Ⅲ<4>	YC14	心理学博士論文演習(1)<2>
		YC15	心理学博士論文演習(2)<2>

●在学延長の場合

1. 教育研究領域の専攻生

在学延長を承認された者は、教育研究論文作成演習および教育研究論文作成演習(1)(2)のみ履修することができる。

2. 心理学基礎研究領域、発達臨床研究領域の専攻生

在学延長を承認された者は、心理学博士論文演習(1)(2)のみ履修することができる。

※2017年度以前入学者は、2019年度以前の履修要覧で確認してください。

授業科目一覧

●：リサーチワーク科目

無印：コースワーク科目

コード	授業科目	単位	備考
●「心理学基礎研究」領域			
YA15	知覚心理学特殊研究	2	
YA25	認知心理学特殊研究	2	
YA31	神経心理学特殊研究	2	
YA32	学習心理学特殊研究	2	
YA91	知覚心理学特殊演習 (1)	2	
YA92	知覚心理学特殊演習 (2)	2	
YA93	認知心理学特殊演習 (1)	2	
YA94	認知心理学特殊演習 (2)	2	
YC14	●心理学博士論文演習 (1)	2	
YC15	●心理学博士論文演習 (2)	2	
●「発達臨床研究」領域			
YB21	比較行動学特殊研究	2	
YB24	発達心理学特殊研究 1	2	
YB25	発達心理学特殊研究 2	2	
YB62	家族臨床心理学特殊研究	2	
YB63	フェミニスト・カウンセリング特殊研究	2	
YB94	発達心理学特殊演習 1 (1)	2	
YB95	発達心理学特殊演習 1 (2)	2	
YB96	発達心理学特殊演習 2 (1)	2	
YB97	発達心理学特殊演習 2 (2)	2	
YB98	臨床心理学特殊演習 1 (1)	2	
YB99	臨床心理学特殊演習 1 (2)	2	
YC14	●心理学博士論文演習 (1)	2	
YC15	●心理学博士論文演習 (2)	2	
●「教育研究」領域			
YD11	教育実践特殊研究 1	2	
YD12	教育実践特殊研究 2	2	
YD13	教育実践特殊研究 3	2	
YD14	教育実践特殊研究 4	2	
YD15	教育実践特殊研究 5	2	
YD16	教育実践特殊研究 6	2	
YD17	教育実践特殊研究 7	2	
YD18	教育実践特殊研究 8	2	
YD19	教育実践特殊研究 9	2	
YD21	生涯学習特殊研究 1	2	
YD22	生涯学習特殊研究 2	2	
YD23	生涯学習特殊研究 3	2	
YD24	生涯学習特殊研究 4	2	
YD31	国際教育特殊研究 1	2	
YD32	国際教育特殊研究 2	2	
YD33	国際教育特殊研究 3	2	
YD34	国際教育協力特殊研究	2	
YD42	教育実践研究特殊演習 1	2	
YD43	教育実践研究特殊演習 2	2	
YD52	生涯学習研究特殊演習 1	2	
YD53	生涯学習研究特殊演習 2	2	
YD62	国際教育研究特殊演習 1	2	
YD63	国際教育研究特殊演習 2	2	
YD72	●教育研究論文作成演習 (1)	2	
YD73	●教育研究論文作成演習 (2)	2	

本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

1. 教育研究領域の専攻生

修了要件単位（10単位以上）は、すべて本学大学院人間科学専攻博士後期課程において修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

- (1) 特殊研究から2単位以上修得する。
- (2) 特殊演習は、教育研究領域のうち、博士論文の内容に係わる分野において2科目4単位を1年次に履修する。
- (3) 教育研究論文作成演習(1)(2)は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

2. 心理学基礎研究領域、発達臨床研究領域の専攻生

修了要件単位（10単位以上）のうち、本学大学院人間科学専攻博士後期課程において6単位以上を修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

- (1) 特殊演習(1)(2)は、博士論文の内容に係わる領域（心理学基礎研究、発達臨床研究のいずれか）において1年次に履修する。
- (2) 心理学博士論文演習(1)(2)は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

●研究指導体制

1. 教育研究領域

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「教育研究論文作成演習(1)」「教育研究論文作成演習(2)」を履修し定期的な論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。
- (6) 博士論文の中間発表では当該専攻の全専任教員が参加し、指導助言を行う。

2. 心理学基礎研究領域、発達臨床研究領域

- (1) 入学時に、大学院学生の希望と研究領域および本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、入学後の早い時期に指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「心理学博士論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。

●在学延長の場合

1. 教育研究領域の専攻生

在学延長を承認された者は、教育研究論文作成演習(1)(2)のみ履修することができる。

2. 心理学基礎研究領域、発達臨床研究領域の専攻生

在学延長を承認された者は、心理学博士論文演習(1)(2)のみ履修することができる。

諸 規 則

聖心女子大学学則*	439
聖心女子大学大学院学則*	445
聖心女子大学人物の育成及び教育研究上の目的に関する規程	449
聖心女子大学大学院人物の育成及び教育研究上の目的に関する規程	451
聖心女子大学学位規程	453
聖心女子大学履修規程	459
聖心女子大学大学院履修規程	460
聖心女子大学における転科に関する規程	461
聖心女子大学大学院再入学に関する規程	461
聖心女子大学大学院長期履修学生取扱い規程	462
聖心女子大学研究生規程	463
聖心女子大学大学院研究生規程	464
聖心女子大学科目等履修生規程	465
聖心女子大学大学院科目等履修生規程	466
聖心女子大学研究倫理指針	467
聖心女子大学における「人を対象とする研究」ガイドライン	468

*学則における別紙については、本学HPを参照のこと

聖心女子大学学則

第 1 章 目的

- 第 1 条 本学は、キリストの精神にもとづき、女子に高度の教養を授けるとともに、専門の学術を、教授研究し、豊かな見識とすぐれた人格をもって、社会と文化の発展に寄与する人物を育成することを目的とする。
- 2 各学科専攻の人物の育成及び教育研究上の目的については、別に定める。

第 1 章の 2 自己点検・評価

- 第 1 条の 2 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行うものとする。
- 2 本学の自己点検・評価については、別に定める。

第 2 章 組織

- 第 2 条 本学に、現代教養学部を置く。
現代教養学部は、次の学科を置く。
英語文化コミュニケーション学科、日本語日本文学科、史学科、人間関係学科、国際交流学科、哲学科、教育学科（教育学専攻、初等教育学専攻）、心理学科
- 第 3 条 現代教養学部の収容定員は、次のとおりとする。

	入学 定員	2 年次 編入学定員	収容 定員	
英語文化コミュニケーション学科	80名	6名	338名	
日本語日本文学科	45名	6名	198名	
史学科	55名	2名	226名	
人間関係学科	60名	2名	246名	
国際交流学科	75名	2名	306名	
哲学科	40名	4名	172名	
教育学科	教育学専攻	35名	4名	152名
	初等教育学専攻	40名	—	160名
心理学科	60名	4名	252名	
合計	490名	30名	2,050名	

- 第 3 条の 2 本学の現代教養学部教育学科初等教育学専攻に小学校教諭、幼稚園教諭及び保育士養成課程を置く。保育士養成課程に関しては別に定める。
- 第 4 条 本学に、大学院を置く。
大学院の学則は、別に定める。
- 第 5 条 本学に、キリスト教文化研究所を置く。
キリスト教文化研究所に関する規則は、別に定める。
- 第 5 条の 2 本学に、心理教育相談所を置く。
心理教育相談所に関する規則は、別に定める。
- 第 5 条の 3 本学に、グローバル共生研究所を置く。
グローバル共生研究所に関する規則は、別に定める。
- 第 6 条 本学に、図書館を置く。
図書館に関する規則は、別に定める。
- 第 7 条 本学に、学寮を置く。
学寮に関する規則は、別に定める。
- 第 8 条 本学に、事務組織を置く。
事務組織に関する規則は、別に定める。
- 第 8 条の 2 第 2 条から第 8 条までに定める組織のほか、本学に次の組織を置くことができる。
- (1) センター
(2) その他、第 9 条に規定する学長が特に必要と認める組織
- 2 前項の組織に関する規則は、別に定める。

第 3 章 職員組織

- 第 9 条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助

教、並びに事務職員その他必要な職員を置く。

- 2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
学長の選出については、別に定める。
- 3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
副学長については、別に定める。
- 4 本学に必要に応じ、学部長を置くことができる。

第 4 章 教授会

- 第 10 条 本学に、教授会を置く。
教授会は、学長、専任の教授、准教授並びに講師をもって組織する。
- 2 教授会は、次に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
(2) 学位の授与
(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 3 教授会は、前項に定めるもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項で、教授会が必要と認める事項について審議し、学長の求めに応じ意見を述べるができる。
- 4 教授会の運営に関する規則は、別に定める。

第 5 章 学年、学期及び休業日

- 第 11 条 学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
- 第 12 条 学年は、次の 2 期に分ける。
前期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで
後期 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで
- 第 13 条 休業日は、次のとおりとする。ただし、第 4 号から第 6 号の休業期間は、年度により別に定める。
- (1) 日曜日
(2) 国民の祝日に関する法律に規定する日
(3) 本学創立記念日（5 月 4 日）
(4) 夏期休業
(5) 冬期休業
(6) 春期休業
- 2 学長は必要に応じて、前項の休業日を臨時に変更することができる。
- 3 学長は必要に応じて、第 1 項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第 6 章 修業年限及び在学年限

- 第 14 条 現代教養学部の修業年限は、4 年とする。
- 第 15 条 在学年限は、8 年を超えることができない。ただし、第 21 条第 1 項及び第 2 項の規定により入学した者は、同条第 3 項により定められた在学すべき年数の 2 倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第 7 章 入学、編入学、転入学、再入学、学士入学及び転科

- 第 16 条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特別の必要がある場合は、第 12 条に規定する後期の始めを入学の時期とすることができる。
- 第 17 条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する女子とする。
- (1) 高等学校を卒業した者
(2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
(3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者、又は文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
 - (7) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- 第 18 条 本学に入学を志願する者は、入学願書その他別に定める書類に所定の入学検定料を添えて、所定の期日内に願出しなければならない。
- 第 19 条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。
- 第 20 条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書その他別に定める書類を提出するとともに、所定の学費を納付しなければならない。
- 2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に対し入学を許可する。
- 第 21 条 本学に編入学、転入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより、選考の上、相当年次への入学を許可することがある。ただし、転入学については、欠員のある場合に限る。
- 2 本学を退学した後に再入学を、また本学を卒業した後に学士入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより、選考の上、相当年次への入学を許可することがある。
- 3 第1項及び第2項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。
- 第 22 条 転科を願出た者には、事情を考慮した上でこれを許可することがある。
- 2 転科に関する規則は、別に定める。

第 8 章 教育課程及び履修方法

- 第 23 条 本学の授業科目は、全学必修科目、総合現代教養科目、基礎課程科目及び専攻課程科目とする。
- 2 授業科目の名称及び単位数は、別表第1に定めるところとする。
- 3 履修方法に関する規則は、別に定める。
- 第 24 条 授業は、講義、演習、実験、実習又は実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。
- 2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 第 25 条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。
- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、前掲各号の組み合わせに応じた時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文については、学修の成果を評価して単位を授与することができる。
- 第 26 条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分けて、編成するものとする。
- 第 27 条 学生は、在学中に別表第1に掲げた授業科目の中から、卒業に要する126単位以上を修得しなければならない。

- 2 単位取得の認定は、試験（論文、報告等を含む。）、平常の成績及び出席状況等を総合して決定する。なお、これらの細目については、別に定める履修要項によるものとする。
 - 3 試験及び卒業論文の成績は、AA、A、B、C、Fの5段階とし、C以上を合格とする。
 - 4 病気又は正当な理由により試験を受けることができなかった者に対しては、願出により追試験を行うことがある。
 - 5 合格点を取得できなかった者に対しては、卒業年次に限り願出により再試験を行うことがある。
 - 6 第1項に規定する卒業に要する単位のうち、第24条第2項に規定する授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。
- 第27条の2 教育職員免許法に定める教員免許状を取得しようとする者は、法定基準の定めるところにより、必要な専門科目等を修得しなければならない。
- 2 本学において取得できる教員免許状並びにその免許教科の種類等は、別表第2のとおりである。
- 第27条の3 博物館法に定める博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、法定基準の定めるところにより、必要な専門科目等を修得しなければならない。
- 第27条の4 児童福祉法に定める保育士の資格を取得しようとする者は、法定基準の定めるところにより、必要な専門科目等を修得しなければならない。
- 第27条の5 本学に日本語教員課程を置く。
- 2 日本語教員課程を修了しようとする者は、別に定める履修要項により、課程の修了に必要な授業科目の単位を修得しなければならない。
- 3 日本語教員課程を修了した者には、卒業時に日本語教員課程修了証を授与する。
- 第27条の6 本学に次の副専攻コースを置く。
- (1) 各専攻コースが開設する副専攻コース
 - (2) 学科横断的に開設される副専攻コース
- 2 副専攻コースを修了しようとする者は、別に定める履修要項により、各コースの修了に必要な授業科目の単位を修得しなければならない。
- 3 副専攻コースを修了した者には、卒業時に副専攻修了証を授与する。
- 第 28 条 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学等において修得した単位等について本学における授業科目の履修により修得したものと認めることがある。
- 第28条の2 前項の規定により学生が履修し、修得した単位は、編入学及び学士入学の場合を除き、教授会の議を経て60単位を超えない範囲で、卒業に必要な単位として認定することができる。
- (1) 本学と国内外の他の大学との協定に基づき、当該大学において履修した授業科目の単位
 - (2) 前号のほか、本学が教育研究上有益であると認める外国の大学において履修した授業科目又は単位認定プログラムの単位
 - (3) 本学の第1年次に入学した学生が、本学に入学する前に他の大学（短期大学及び専門学校を含む）において履修した授業科目の単位
 - (4) 文部科学大臣が別に定める学修で、本学が大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

第 9 章 休学、復学、留学、転学及び退学

- 第 29 条 病気その他やむを得ない理由により休学を希望する者は、所定の様式による休学願を提出し、学長の許可を得なければならない。休学の時期は、前期中に休学を願出た者については後期から、後期中に休学を願出た者については次の年度の前期からの休学が認められる。
- 2 病気のため修学することが適当でないとして認められる者につ

いては、休学を命ずることがある。

第 30 条 休学期間は、1年又は半年とする。ただし、特別の事情がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は、在学期間に算入しない。

第 31 条 休学中の者が復学を希望するときは、所定の様式による復学願を提出し、学長の許可を得なければならない。復学の時期は、前期中に復学を願った者については後期から、後期中に復学を願った者については次の年度の前期からの復学が認められる。

第 32 条 外国の大学に留学しようとする者は、所定の手続きを経て、学長の許可を得なければならない。

2 留学に関する規則は、別に定める。

第 33 条 他の大学への転学を希望する者は、所定の様式による退学願を提出し、学長の許可を得なければならない。

第 34 条 退学を希望する者は、所定の様式による退学願を提出し、学長の許可を得なければならない。退学の時期は、原則として前期末又は学年末とする。

第 35 条 次の各号の1に該当する者について学長は、前条に定める退学願の提出を待たず、教授会の議を経て、退学させることができる。

- (1) 第15条に定める在学年限を超えた者
 - (2) 第30条第2項に定める休学期間に達しても、なお修学できない者
 - (3) 授業料等の納付を怠り、督促を受けても、なお納付しない者
- 2 第1項第3号により退学を命じられた者が、再入学を希望するときは、滞納授業料等を納付することにより再入学を志願することができる。

第 10 章 卒業の認定並びに学士の学位の授与

第 36 条 本学に、4年（第21条第1項及び第2項の規定により入学した者については、同条第3項により定められた在学すべき年数）以上在学し、所定の授業科目の履修並びに単位数を取得し、かつ卒業論文の審査に合格した者に対し、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対し、学士の学位を授与する。

第 37 条 削除

第 11 章 学生納付金

第 38 条 本学の授業料、施設設備費及び諸費（以下「授業料等」という。）並びに入学金については、別表第3に定めるとおりとする。

第 39 条 授業料等は、年額を所定の期間に納付するものとする。ただし、第12条に規定する前期及び後期の2期に分けてそれぞれの所定の期間に納付することもできる。この場合の各期の納付金額は年額の2分の1とする。

第 40 条 休学期間中については、その学期に対応する授業料等の2分の1を納付するものとする。納付の時期は第39条に準ずる。

第 41 条 削除

第 42 条 停学期間中の授業料等は、これを徴収する。

第 43 条 やむを得ない事情があると認められた者に対し、授業料等の全部もしくは、一部を免除することができる。

第 44 条 科目等履修生及び研究生の検定料、科目等履修料、研究料については、別に定める。

第 45 条 既納の授業料等は、原則として返付しない。ただし、前期中の退学が許可された場合に限り、年額の2分の1を減額する。

第 46 条 学生は、在学中に学生納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納付するものとする。

第 47 条 本章に規定するもののほか、学生納付金に関する事項は、別に定める規則によるものとする。

第 12 章 科目等履修生、研究生及び外国人留学生

第 48 条 本学の授業科目のうち一又は数科目を選んで科目履修を志願する者があるときは、一般の授業及び研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生としてこれを許可することができる。

第 49 条 本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、一般の授業及び研究に支障のない場合に限り、選考の上、これを許可することができる。

第 50 条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入学し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

第 51 条 科目等履修生、研究生、外国人留学生に関する規則は、別に定める。

第 13 章 奨学生制度

第 52 条 本学に、奨学金による奨学生制度を置く。奨学生の種別、員数、その選考等については、別に定める。

第 14 章 賞罰

第 53 条 本学学生にして特に表彰に価する行為をした者に対し、学長は、教授会の議を経て表彰することができる。

第 54 条 本学の教育方針に背き、本学の規則に違反し、又は、学生としての本分に反する行為をした者に対し、学長は懲戒する。

2 前項の懲戒の種別は、退学、停学並びに訓告とする。なお、停学期間は、第15条及び第36条の在学期間には算入しない。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
 - (2) 正当な理由がなくて出席常でない者
 - (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- 4 学長は、第1項に定める懲戒を行うに当たり、意見を聴くため、学生懲戒委員会を置く。
- 5 学生懲戒委員会については、別に定める。

第 15 章 公開講座、各種講習会

第 55 条 本学には、公開講座並びに各種講習会を開設することができる。

附 則

この学則は、昭和23年4月1日から施行する。

この学則は、昭和26年4月1日から施行する。

この学則は、昭和32年4月1日から施行する。

この学則は、昭和41年4月1日から施行する。

この学則は、昭和48年9月20日から施行する。

この学則は、昭和49年2月25日から施行する。

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

この学則は、昭和55年8月1日から施行する。

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成2年4月1日から施行する。
(従前の高等学校社会一種免許状の経過措置)
- 2 平成2年3月31日の在籍者及びこの附則施行日以降の聴講生は、改正後の別表第2の規定にかかわらず、高等学校社会一種免許状については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

- この学則は、平成3年4月1日から施行する。
(文学部国語国文学科の存続に関する経過措置)
- 文学部国語国文学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成3年3月31日に当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成4年2月1日から施行する。
この学則は、平成4年4月1日から施行する。
この学則は、平成5年4月1日から施行する。ただし、平成5年3月31日に在籍する者は、単位修得に関する改正規定にかかわらず、なお従前の規定を適用する。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。
この学則は、平成7年4月1日から施行する。
この学則は、平成7年6月20日から施行し、平成7年4月1日から適用する。
この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成9年4月1日から施行する。
この学則は、平成10年4月1日から施行する。
この学則は、平成11年4月1日から施行する。
この学則は、平成12年3月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年6月11日から施行し、平成14年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、平成18年3月31日に在籍する者については、改正後の第27条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成18年11月21日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
(経過措置)
- この学則による改正後の第2条、第3条、別表第1及び別表第2の規定は、この学則の施行日以後に第1年次に入学する者について、平成20年4月1日から適用する。
- 前項の規定は、適用日以後に、第2年次に転科、編入学及び再入学した者について準用する。
- 施行日の前日までに入学した者及び適用日の前日において外国語外国文学科に在籍する者については、なお従前の規定により、外国語外国文学科は、当該学科に在籍する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成21年5月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。
- 改正後の第27条第4項の規定は、平成15年4月1日以後に在籍する者(同日以後に在籍していた者を含む。)について適用し、平成15年3月31日以前に在籍しなくなった者については、同規定にかかわらず、なお従前の例(「秀、優、良、可、不可」の表記)による。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日に在籍する者並びに平成24年4月1日に2年次に編入学する者については、改正後の第23条及び第27条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 前項による改正後の第2条、第3条及び別表第1の規定は、平成26年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。
- 前項の規定は、平成27年4月1日以後に、次のとおり第2年次以上の年次に編入学又は再入学した者について準用する。
第2年次 平成27年4月1日以後
第3年次 平成28年4月1日以後
第4年次 平成29年4月1日以後
- 平成26年3月31日において第1年次に在籍する者については、なお従前の規定による。
- 平成26年3月31日において歴史社会学科に在籍する者については、なお従前の規定による。平成26年4月1日から募集を停止する歴史社会学科は、当該学科に在籍する者の卒業(退学を含む。)を待って廃止する。
- 平成26年3月31日において教育学科教育・心理学専攻に在籍する者については、なお従前の規定による。
- 改正後の第3条の規定にかかわらず、平成26年度から平成28年度までの各学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
英語英文学科	90	6	378	90	6	378	90	6	378
日本語日文学科	45	6	198	45	6	198	45	6	198
哲学科	40	4	172	40	4	172	40	4	172
歴史社会学科	-	6	528	-	-	352	-	-	176
教育学科 教育・心理学専攻	-	8	279	-	-	186	-	-	93
教育学科 初等教育学専攻	40	-	100	40	-	120	40	-	140
教育学科 教育学専攻	25	-	25	25	4	54	25	4	83
史学科	55	-	55	55	2	112	55	2	169
人間関係学科	55	-	55	55	2	112	55	2	169
国際交流学科	60	-	60	60	2	122	60	2	184
心理学科	55	-	55	55	4	114	55	4	173
合計	465	30	1905	465	30	1920	465	30	1935

(履修方法に関する経過措置)

- 8 平成26年3月31日に在籍する者並びに平成26年4月1日に2年次に編入学する者については、改正後の第24条及び第27条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年11月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成28年度以前入学者においては、前項による改正後の第38条及び別表第3の規定にかかわらず、従前の例によることとするが、改正後の特別費及び諸費については統合し、従前の額の合計に20,000円を加えた額をもって諸費とする。これにより平成29年度以降の授業料等(年額)は次のとおりとなる。

[単位：円]

授業料	650,000
施設設備費	200,000
諸費	140,000
計	990,000

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第3条の規定は、平成30年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。
- 3 改正後の第3条の規定にかかわらず、平成30年度から平成32年度までの各学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。
- 4 平成30年3月31日に在籍する者並びに平成30年4月1日に2年次に編入学する者については、改正後の第3条の2及び第27条の3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

	平成30年度			平成31年度			平成32年度		
	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
英語英文学科	90	6	378	90	6	378	90	6	378
日本語日文学科	45	6	198	45	6	198	45	6	198
史学科	55	2	226	55	2	226	55	2	226
人間関係学科	60	2	246	60	2	246	60	2	246
国際交流学科	65	2	266	65	2	266	65	2	266
哲学科	40	4	172	40	4	172	40	4	172
教育学科 教育学専攻	25	4	112	25	4	112	25	4	112
教育学科 初等教育学専攻	50	-	170	50	-	180	50	-	190
心理学科	60	4	237	60	4	242	60	4	247
合計	490	30	1975	490	30	2000	490	30	2025

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- (経過措置)
- 2 前項による改正後の第2条、第3条、第14条及び別表第1、別表第2の規定は、平成31年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。
- 3 前項の規定は、平成32年4月1日以後に編入学する者について準用する。
- 4 第2項の規定は、平成31年4月1日以後に再入学する者について準用する。
- 5 平成31年3月31日において本学に在籍する者については、

なお従前の規定による。

- 6 平成31年4月1日に編入学する者については、なお従前の規定による。
- 7 文学部は、当該学部に在籍する者が、当該学部に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。また、英語英文学科は、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則 (令和3年7月13日教授会了承)

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則 (令和4年2月6日教授会了承)

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則 (令和4年4月12日教授会了承)

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第3条の規定は、令和5年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。
- 3 改正後の第3条の規定にかかわらず、令和5年度から令和7年度までの各学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
英語文化コミュニケーション学科	90	6	378	90	6	378	90	6	378
日本語日文学科	45	6	198	45	6	198	45	6	198
史学科	55	2	226	55	2	226	55	2	226
人間関係学科	60	2	246	60	2	246	60	2	246
国際交流学科	65	2	266	65	2	266	65	2	266
哲学科	40	4	172	40	4	172	40	4	172
教育学科 教育学専攻	35	4	122	35	4	132	35	4	142
教育学科 初等教育学専攻	40	-	190	40	-	180	40	-	170
心理学科	60	4	252	60	4	252	60	4	252
合計	490	30	2050	490	30	2050	490	30	2050

附 則 (令和4年6月14日教授会・令和5年2月6日教授会了承)

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第3条及び第27条の規定は、令和5年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。
- 3 前項の規定は、令和6年4月1日以後に編入学する者について準用する。
- 4 次の者については、なお従前の規定による。
令和5年3月31日において本学に在籍する者
令和5年4月1日に編入学する者並びに第2年次に再入学する者
令和6年4月1日に第3年次に再入学する者
令和7年4月1日に第4年次に再入学する者
- 5 改正後の第3条の規定にかかわらず、令和5年度から令和7年度までの各学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

聖心女子大学学則

	令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
英語文化コミュニケーション学科	80	6	368	80	6	358	80	6	348
日本語日本文学科	45	6	198	45	6	198	45	6	198
史学科	55	2	226	55	2	226	55	2	226
人間関係学科	60	2	246	60	2	246	60	2	246
国際交流学科	75	2	276	75	2	286	75	2	296
哲学科	40	4	172	40	4	172	40	4	172
教育学科 教育学専攻	35	4	122	35	4	132	35	4	142
教育学科 初等教育学専攻	40	-	190	40	-	180	40	-	170
心理学科	60	4	252	60	4	252	60	4	252
合計	490	30	2050	490	30	2050	490	30	2050

附 則（令和5年2月6日教授会了承）

この学則は、令和5年4月1日から施行する。

聖心女子大学大学院学則

第 1 章 目的

- 第 1 条 聖心女子大学大学院（以下「本大学院」という。）は、キリストの精神にもとづき、女性に高度な学術研究への道を開くとともに人格を陶冶し、深い学識を備えた、創造性豊かな教育・研究者、高度な専門的職業人、及び幅広く社会に貢献できる指導的人材の養成をつうじて、人類の文化の発展と福祉の向上に寄与することを目的とする。
- 2 第 2 条第 1 項に定める修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な卓越した能力、又は幅広く社会に有意義な貢献を果たす能力を養うことを目的とする。
- 3 第 2 条第 1 項に定める博士課程は、専攻分野について、独創性ある研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
- 4 各専攻の人物の育成及び教育研究上の目的については、別に定める。

第 1 章の 2 自己点検・評価

- 第 1 条の 2 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、大学院の教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行うものとする。
- 2 本大学院の自己点検・評価については、別に定める。

第 2 章 課程、標準修業年限及び在学年限

- 第 2 条 本大学院に修士課程と博士課程を置く。
- 2 本大学院の修士課程又は本条第 3 項に定める博士前期課程の標準修業年限は 2 年とする。
- 3 本大学院の博士課程の標準修業年限は 5 年とし、これを前期 2 年及び後期 3 年の課程に区分し、前期 2 年の課程は修士課程として取り扱う。
- 4 本大学院の修士課程又は博士前期課程については 4 年、博士後期課程については 6 年を超えて在学することはできない。
- 第 2 条の 2 前条第 2 項に定める標準修業年限を超える一定期間にわたり授業科目を履修することを目的として、入学を志願する者があるときは、選考の上、長期履修学生として入学を許可することができる。
- 2 長期履修学生に関する規程は、別に定める。

第 3 章 研究科、専攻及び収容定員

- 第 3 条 本大学院に次の研究科、専攻及び課程を置く。
人文社会科学研究科

英語英文学専攻	修士課程
日本語日本文学専攻	修士課程
史学専攻	修士課程
社会文化学専攻	博士前期課程、博士後期課程
哲学専攻	修士課程
人文学専攻	博士後期課程
人間科学専攻	博士前期課程、博士後期課程

- 2 人文社会科学研究科の専攻、課程別の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

専攻	修士課程又は博士前期課程		博士後期課程		合計収容定員
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
英語英文学専攻	4 名	8 名	-	-	8 名
日本語日本文学専攻	4 名	8 名	-	-	8 名
史学専攻	4 名	8 名	-	-	8 名
社会文化学専攻	4 名	8 名	2 名	6 名	14 名
哲学専攻	4 名	8 名	-	-	8 名
人文学専攻	-	-	4 名	12 名	12 名
人間科学専攻	12 名	24 名	2 名	6 名	30 名
合計	32 名	64 名	8 名	24 名	88 名

第 4 章 教員及び運営組織

- 第 4 条 本大学院に教授、准教授、講師及び助教を置く。教員は主として学部教員が兼ねる。また、教育研究上必要があるときは、兼任講師を充てることができる。
- 第 5 条 本大学院の学事管理のため、学長、各副学長及び大学院を担当する専任教員をもって、大学院委員会を組織する。
- 2 大学院委員会は、次に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
- 1) 大学院学生の入学及び課程の修了
 - 2) 学位の授与
 - 3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、大学院委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 3 大学院委員会は、前項に定めるもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項で、大学院委員会が必要と認める事項について審議し、学長の求めに応じ意見を述べることができる。
- 4 大学院委員会の運営に関する規則は、別に定める。
- 第 6 条 本大学院の事務を処理するため、必要な事務組織を置く。

第 5 章 教育課程及び履修方法

- 第 7 条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する研究指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。
- 第 8 条 授業科目及び単位数は、別表第 1 に定めるとおりとする。
- 2 本大学院の講義、演習、実験、実習又は実技の授業科目の単位数の計算については、聖心女子大学学則第 25 条の規定を準用する。
- 第 9 条 大学院学生は、前条の授業科目を選択し、履修し、及び指導教員の研究指導を受けなければならない。
- 2 各専攻の修士課程又は博士前期課程において教育上有益と認めるときは、大学院学生が学部の専攻課程科目を履修することを認めることができる。
- 3 前項の規定により大学院学生が履修した学部の専攻課程科目について修得した単位は、各専攻が定める単位数を超えない範囲で、当該専攻において修得したものとみなすことができる。
- 第 10 条 各専攻の修士課程又は博士前期課程において教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより他の大学院とあらかじめ協議の上、大学院学生が当該他大学院の授業科目を履修することを認めることができる。
- 2 前項の規定により大学院学生が履修した他大学院の授業科目について修得した単位は、大学院委員会の議を経て、10 単位を超えない範囲で、当該専攻において修得したものと

みなすことができる。

3 前2項の規定は、大学院学生が外国の大学院へ留学する場合に準用する。

第10条の2 各専攻の修士課程又は博士前期課程において教育上有益と認めるときは、大学院学生が本大学院入学前に大学院において履修修得した単位について、大学院委員会の議を経て、当該専攻において修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により本大学院において履修修得した単位については、10単位を超えないものとする。

3 第1項の規定により他大学院において履修修得した単位については、前条第2項及び第3項に定める単位と合算して10単位を超えないものとする。

第11条 授業科目の履修方法及び研究指導の細目については、各専攻において別に定める。

第6章 修了の認定及び課程の修了要件

第12条 別表第1に掲げた授業科目の単位修得の認定は、試験（論文、報告等を含む。）、平常の成績及び出席状況等を総合して決定する。なお、これらの細目については、別に定める履修要項によるものとする。

2 病気又は正当な理由により試験を受けることができなかつた者に対しては、願い出により追試験を行うことがある。

第13条 授業科目の成績の評価は、AA、A、B、C、Fの5段階とし、C以上を合格とする。

2 修士論文及び最終試験の成績の評価は、合格・不合格とする。

3 博士論文及び最終試験の成績の評価は、合格・不合格とする。

4 成績の評価に関する基準等については、各専攻において別に定める。

第14条 課程修了の認定は、所定の単位を修得し、かつ学位論文を提出した者について、学位論文の審査委員が審査及び最終試験を行い、その成績に基づいて、大学院委員会の議を経て、学長が認定する。

2 前項の学位論文の審査委員、審査方法等については、聖心女子大学学位規程で定める。

第15条 本大学院の修士課程又は博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、第8条に定める授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、在学中に優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項ただし書きの規定の実施に関して必要な事項は、別に定める。

第16条 本大学院の博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、第8条に定める授業科目について10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

第7章 学位の授与

第17条 本大学院の修士課程、博士前期課程又は博士後期課程の所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格し、当該課程を修了した者には、その課程に応じて、それぞれ修士又は博士の学位を授与する。

第18条 前条に定めるもののほか、本大学院の博士後期課程を経ないで、本大学院に学位論文を提出した者がある場合は、当該論文が本大学院が行う博士論文の審査に合格し、かつ博士課程修了者と同等以上の学力を有することが確認されたときは、博士の学位を授与することができる。

第19条 学位の授与については、聖心女子大学学位規程

で定める。

第8章 教育職員免許状取得資格

第20条 本大学院において取得できる教員免許状の種類は、別表第2のとおりとする。

第9章 入学、再入学、休学、復学、留学、転学及び退学

第21条 本大学院の修士課程又は博士前期課程に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第22条 本大学院の博士後期課程に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

第23条 本大学院の入学時期は毎年4月とする。

2 本大学院に入学を志願する者は、所定の手続を行わなければならない。

第24条 本大学院を退学した者で再入学を願い出た者があるときは、別に定めるところにより、当該専攻の審査に基づき、入学審査会及び大学院委員会の議を経てこれを許可することができる。

第25条 病気その他やむを得ない理由により休学を希望する者は、所定の様式による休学願を提出し、学長の許可を得なければならない。休学の時期は、前期中に休学を願い出た者については後期から、後期中に休学を願い出た者については次の年度の前期からの休学が認められる。

2 病気のため修学することが適当でない認められる者については、休学を命ずることがある。

第26条 休学期間は、1年又は半年とする。ただし、特別の事情がある場合は、休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、博士前期（修士）課程では通算して2年、博士後期課程では通算して3年を超えることができない。

3 休学期間は、在学期間に算入しない。

第27条 休学中の者が復学を希望するときは、所定の様式による復学願を提出し、学長の許可を得なければならない。復学の時期は、前期中に復学を願い出た者については後期から、後期中に復学を願い出た者については次の年度の前期からの復学が認められる。

第28条 外国の大学に留学しようとする者は、所定の手続きを経て、学長の許可を得なければならない。

2 留学に関する規則は、別に定める。

第29条 他の大学院から本大学院へ、又は本大学院から他の大学院へ転学を希望する者があるときは、大学院委員会の議を経て許可することができる。

2 他の大学院へ転学を希望する者は、所定の様式による退学願を提出し、学長の許可を得なければならない。

第30条 退学を希望する者は、所定の様式による退学願を提出し、学長の許可を得なければならない。退学の時期は、原則として前期末又は学年末とする。

第31条 次の各号の一に該当する者について学長は、前条に定める退学願の提出を待たず、大学院委員会の議を経て、退学させることができる。

- (1) 第2条第4項に定める在学期間を超えた者
- (2) 第26条第2項に定める休学期間を超えた者
- (3) 授業料等の納付を怠り、督促を受けても、なお納付し

ない者

- 2 第1項第3号により退学を命じられた者が再入学を希望するときは、滞納授業料等を納付することにより再入学を志願することができる。

第 10 章 学年、学期及び休業日

- 第 32 条 学年、学期及び休業日に関しては、学部学則第11条から第13条の規定を準用する。

第 11 章 科目等履修生、委託聴講生、研究生及び外国人留学生

- 第 33 条 本大学院の授業科目のうち一又は数科目を選んで科目履修を希望する者があるときは、授業及び研究指導に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生としてこれを許可することがある。
- 第 34 条 他大学との協定に基づき、委託聴講生として本学の大学院学生に他大学の大学院授業科目を履修させ、又は他大学の大学院学生に本学の大学院授業科目を履修させることができる。
- 第 35 条 本大学院において、特定の課題について研究することを希望する者があるときは、授業及び研究指導に支障のない場合に限り、選考の上、研究生としてこれを許可することがある。
- 第 36 条 大学院の入学資格を有する外国人で、本大学院に外国人留学生として入学を志願する者があるときは、選考の上、入学を許可することがある。
- 第 37 条 科目等履修生、委託聴講生、研究生及び外国人留学生に関する規則は、別に定める。

第 12 章 学生納付金

- 第 38 条 本大学院の授業料及び施設設備費（以下「授業料等」という。）並びに入学金については、別表第3のとおりとする。
- 2 次の各号の一に該当する者の授業料（以下「大学院在籍料」という。）については、別表第3に定める施設設備費を除く授業料の2分の1を納付するものとする。
 - (1) 本大学院の修士課程、博士前期課程又は博士後期課程の所定の単位を修得し、標準修業年限を超えて在学する者
 - (2) 第15条第1項ただし書きにより本学大学院の修士課程又は博士前期課程第1年次に在学した者で、当該課程の所定の単位を修得し、第2年次に在学する者
- 3 学生納付金の納付に関しては、学部学則第39条から第47条の規定を準用する。ただし、前項の各号の一に該当する者の休学期間中については、大学院在籍料を納付するものとする。

第 13 章 その他

- 第 39 条 奨学金、賞罰に関しては、学部学則第52条から第54条の規定を準用する。
- 第 40 条 この学則に規定していない事項については、学部学則の規定を準用する。

附 則

本学則は、昭和27年4月1日から施行する。
 本学則は、平成2年4月1日から施行する。
 本学則は、平成3年4月1日から施行する。
 本学則は、平成4年2月1日から施行する。
 本学則は、平成4年4月1日から施行する。
 本学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 本学則は、平成6年4月1日から施行する。
 (従前の高等学校社会専修免許状の経過措置)
- 2 平成6年3月31日の在籍者は、改正後の別表第2の規定にかかわらず、高等学校社会専修免許状については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成7年4月1日から施行する。
 (文学研究科国文学専攻の存続に関する経過措置)
- 2 文学研究科国文学専攻は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成7年3月31日に当該専攻に在籍する者が、当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 本学則は、平成9年4月1日から施行する。
 (平成9年3月31日に修士課程に在籍する者の在学年限等に関する経過措置)
- 2 修士課程の在学年限並びに人間科学専攻修士課程の存続については、改正後の第2条第4項及び第3条第1項の規定にかかわらず、平成9年3月31日に各専攻に在籍する者が、当該専攻に在籍しなくなるまでの間、従前のとおりとする。

附 則

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
 (文学研究科英文学専攻並びに日本文学専攻の存続に関する経過措置)
- 2 文学研究科英文学専攻並びに日本文学専攻は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成16年3月31日に当該専攻に在籍する者が、当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
 (文学研究科社会文化学専攻修士課程の存続に関する経過措置)
- 2 文学研究科社会文化学専攻修士課程は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成18年3月31日に当該専攻に在籍する者が、当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成18年11月21日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成21年5月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。
- 改正後の第13条第1項の規定は、平成15年4月1日以後に在籍する者（同日以後に在籍していた者を含む。）について適用し、平成15年3月31日以前に在籍しなくなった者については、同規定にかかわらず、なお従前の例（「秀、優、良、可、不可」の表記）による。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年11月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 平成28年度以前入学者においては、前項による改正後の第38条及び別表第3の規定にかかわらず、従前の例によることとするが、改正後の特別費及び諸費については統合し、従前の額の合計に20,000円を加えた額をもって諸費とする。これにより平成29年度以降の授業料等（年額）は次のとおりとなる。

[単位：円]

	他大学卒	本学卒
授業料	470,000	470,000
施設設備費	200,000	125,000
諸費	130,000	130,000
計	800,000	725,000

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年6月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和4年4月12日大学院委員会了承）

- この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、令和5年度の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

専 攻	令和5年度				合計収容定員
	修士課程又は博士前期課程		博士後期課程		
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
英語英文学専攻	4名	14名	-	-	14名
日本語日文学専攻	4名	9名	-	-	9名
史学専攻	4名	9名	-	-	9名
社会文化学専攻	4名	10名	2名	6名	16名
哲学専攻	4名	10名	-	-	10名
人文学専攻	-	-	4名	12名	12名
人間科学専攻	12名	24名	2名	6名	30名
合 計	32名	76名	8名	24名	100名

附 則（令和4年9月27日大学院委員会了承）

- この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 改正後の第3条の規定は、令和5年4月1日以後に第1次に入学する者について適用する。
- 前項の規定は、令和5年4月1日以後に再入学する者について準用する。
- 令和5年3月31日において本大学院に在籍する者については、なお従前の規定による。
- 文学研究科は、当該研究科に在籍する者が、当該研究科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則（令和5年2月6日大学院委員会了承）

この学則は、令和5年4月1日から施行する。

聖心女子大学人物の育成及び教育研究上の目的に関する規程

(趣旨)

第 1 条 聖心女子大学学則（以下「学則」という。）第 1 条第 2 項に基づき、現代教養学部各学科等の人物の育成及び教育研究上の目的を定める。

(英語文化コミュニケーション学科の目的)

第 2 条 英語文化コミュニケーション学科は「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディアと社会」「英語コミュニケーション」「英語文化」の五つの領域を教育研究の対象とし、英語で培われてきた、また今後開かれていく、世界の多様な文化・社会に関する教育研究を通して、英語による様々な日常的訓練と体験を積み重ね、豊富な知識と柔軟な英語運用能力を身につけることによって、グローバル化する世界の一員として積極的かつ創造的に社会に働きかけられる人物の育成を目的とする。

(日本語日本文学の目的)

第 3 条 日本語日本文学は、人間の認識と世界形成の基本は言語にあると考え、日本語と日本語教育、日本文学の本質を明らかにすべく研究を行う。その研究成果の教育を通して、日本語・日本語教育・日本文学の多様なあり方を理解し、既成の枠組みにとらわれず柔軟に思考できる能力と世界に向けて発信できる高いコミュニケーション能力を身につけ、もって様々な分野で社会と深く関わりつつ自身の人生を実現していける人物の育成を目的とする。

(史学科の目的)

第 4 条 史学科は、日本や世界各地における人類の歩みを幅広く学ぶなかで、学生一人一人が自ら問いを立て、その解明のために専門性を生かして情報を集め、さらにそれらを緻密に検証することで自分なりの歴史像を組み立てられるよう導くことを使命とする。また、こうした訓練を経て、現実の社会で日々生起する様々な事象を歴史的な視点から分析・評価し、それらに適切に対処できる人物の育成を目的とする。

(人間関係学科の目的)

第 5 条 人間関係学科は、現代社会とそこに生きる人間の諸問題が複雑化し、大きな転換点を迎えているなか、社会と人間に関する学際的な教育研究を推進する。この教育を基として、自らの目的や使命を自覚し、柔軟で多角的な視点を持ち、実証研究を通して学んだ論理的な分析能力を生かしながら、自らの意見を発信しつつ、社会調査法を活用して真の価値の追求を行い、対立や無関心を乗り越えて、他者と共に生きる社会をつくることに貢献できる人物の育成を目的とする。

(国際交流学科の目的)

第 6 条 国際交流学科は、国際化がもたらす様々な影響および課題をグローバル社会コース・異文化コミュニケーションコースにおいて社会的・文化的視点から総合的に研究し、地域社会から国際社会まで多様な視点に立ち学びを深めることによって、社会的な事象を理論的・実践的に探究する。その上で、自己の価値観を見定め、異なる文化への理解を持ちながら、国際社会の変化に適切に対応できる判断力と協働力を備え、国際的な交流・協働に貢献できる人物の育成を目的とする。

(哲学科の目的)

第 7 条 哲学科は、様々な時代や地域思想に関する検討と、他者との哲学的な対話を通して、世界、自然、社会、人間などについて、その原理や構造を探り、真・善・美・聖などの根元的な諸価値への理解を深めることで、理論的な思考力に基づいて自己の考えを論理的に表現し、他者と対話・協調しながら、社会の様々な課題に対して、自立的かつ総合的な思考力をもって積極的に行動できる人物の育成を目的とする。

(教育学科教育学専攻の目的)

第 8 条 教育学科教育学専攻は、教育学および関連諸科学を探究し、人間形成に関する本質的理解と教育学的思考力を身につけ、家庭や学校、社会における教育と生涯学習の諸課題を多角的にとらえるための教育研究を進める。急速にグローバル化・情報化する社会において自ら常に問いを持ち、体験的で対話的な学びを通じ、解決に向かって具体的に行動し、公正かつ持続可能な社会の構築の担い手となる人物の育成を目的とする。

(教育学科初等教育学専攻の目的)

第 9 条 教育学科初等教育学専攻は、子ども一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切に、深い人間理解に基づいた、感性豊かで実践力のある教育者・保育者の養成を目指す。そのために、教育全般や初等教育・保育の理論と実践に関する基礎的な知識・技能を身につけるのみならず、自己を開き、表現して他者と交流する学びを通して、多様化する現代社会の教育課題に柔軟に対応できる使命感と人間愛に溢れた人物の育成を目的とする。

(心理学科の目的)

第 10 条 心理学科は、認知心理学、発達心理学、臨床心理学の専門的知識と実証的研究手法ならびに関連領域の幅広い教養の修得を基に、人間の心理や行動を科学的に探究し理解する能力を養成する。その上で、現代社会における様々な「こころ」の問題を多角的にとらえ、分析的かつ柔軟な思考力をもって、多様化と情報化が進む現代社会のなかで主体的に自らの能力を発揮できる人物の育成を目的とする。

(所管)

第 11 条 本規程に関する事務は、企画部大学改革推進課が所管する。

(雑則)

第 12 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年9月25日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程にかかわらず、文学部については、従前のとおりとする。

附 則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条及び第5条の規定は、令和5年4月1日以

後に第1年次に入学する者について適用する。

- 3 前項の規定は、令和6年4月1日以後に編入学する者について準用する。
- 4 次の者については、なお従前の規定による。
令和5年3月31日において本学に在籍する者
令和5年4月1日に編入学する者並びに第2年次以上に再入学する者
令和6年4月1日に第3年次以上に再入学する者
令和7年4月1日に第4年次に再入学する者

聖心女子大学大学院人物の育成及び教育研究上の目的に関する規程

(趣旨)

- 第 1 条 聖心女子大学大学院学則(以下「学則」という。)
第 1 条第 4 項に基づき、人文社会科学研究科の各専攻の人物の育成及び教育研究上の目的を定める。

(英語英文学専攻修士課程の目的)

- 第 2 条 英語英文学専攻修士課程は、英語学・英文学とそれらの関連分野を教育研究の対象とし、英語の高度な運用能力及び英語英文学の専門的知識と技能を基に、世界の多様な文化・社会への知見を深め、主体的に研究を行い、自らの言葉で発信する力を身につけることを目指す。その上で、豊かな人間性をもって他者とつながり、研究者・教育者として、またその他の活動において広く柔軟に社会貢献できる人物の育成を目的とする。

(日本語日本文学専攻修士課程の目的)

- 第 3 条 日本語日本文学専攻修士課程は、日本の言語・文学についての高度な研究を遂行する力を身につけた上で、さまざまな学問領域にも目配りをし、国際的な視野で自国の言語や文学をとらえることのできる柔軟な思考力を持った人材を育てることを目指す。研究者はもちろんのこと、中学校・高等学校の国語科教員や日本語教員、編集者など、専門的知識をもって国内外で社会に貢献できる人物の育成を目的とする。

(史学専攻修士課程の目的)

- 第 4 条 史学専攻修士課程は、日本並びに世界に生じた歴史的事象を学問的方法論に基づいて探究する。この学びを通じ、大学院学生は現代社会におけるさまざまな問題を歴史的観点から考え、解決していく能力を養っていく。修了時において、専門的な歴史研究者のほか、中学校・高等学校の教員、博物館・美術館の学芸員、編集者など高い専門性の要求される諸分野において活躍できる能力を身につけた人物の育成を目的とする。

(社会文化学専攻博士前期課程の目的)

- 第 5 条 社会文化学専攻博士前期課程は、現代社会における人々の行動や意識、文化などを総合的に研究することを目指し、国家や地域社会といったマクロな視点と、家族やその構成員としてのミクロな視点を組み合わせ、個々の学生の問題意識を掘り下げていく。異なる分野の二名の教員が綿密に連携して行う複数指導体制を特色とし、きめ細かい修士論文指導を行う。未来の社会の動向を理解し、予測し、あるべき姿を提言できる人物の育成を目的とする。

(哲学専攻修士課程の目的)

- 第 6 条 哲学専攻修士課程は、「哲学・思想史」「美学・芸術学」「キリスト教学」の三つの領域のいずれかにおける専門的な研究を行うとともに、他領域の知識や方法論をも深く学ぶことを目指し、それによって哲学分野に関する専門的知識と論理的で柔軟な思考力、知的対話の力を身につけ、研究者、教育者、芸術関係の専門家として、またそのほかの職業・活動をとらえて、社会に主体的・積極的に貢献できる人物の育成を目的とする。

(人間科学専攻(教育研究領域)博士前期課程の目的)

- 第 7 条 人間科学専攻(教育研究領域)博士前期課程は、教育を幅広い人間科学の中に位置づけつつ、現代社会における人の学びをめぐる諸問題を探究し、実証性をもって問

題解決に向かう教育研究を進める。グローバル時代に求められる明確な課題意識と教育学に関する深い学識を身につけ、多様な教育現場、国際協力活動、生涯学習などの分野で高度な職務を遂行する能力を持ち、地域及び国際社会に貢献できる人物の育成を目的とする。

(人間科学専攻(発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域、臨床心理学研究領域)博士前期課程の目的)

- 第 8 条 人間科学専攻(発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域、臨床心理学研究領域)博士前期課程は、心理学の高度な専門的知識と実証的研究手法並びに関連領域の深く幅広い教養の修得を基に、人間の心理や行動を科学的に探究し理解する能力を深化させる。その上で、心理学に関わる者としての倫理を遵守しつつ、高い専門性に基づいて地域及び国際社会に貢献できる人物の育成を目的とする。

(人文学専攻博士後期課程の目的)

- 第 9 条 人文学専攻博士後期課程は、「英語・英文学」「日本語・日本文学」「哲学・美学」「史学」の四つの研究領域のいずれかにおいて人間の本質に迫る専門的で独創的な研究を行い、また他領域の知識や方法論と接することによって広い視野で自らの学問のありかたをとらえ、発展させることを目指し、そこで得られた専門的知識や論理的思考力によって研究者・教育者として自立し、自らの専門的能力を用いて社会に貢献できる人物の育成を目的とする。

(社会文化学専攻博士後期課程の目的)

- 第 10 条 社会文化学専攻博士後期課程は、現代社会における人々の行動や意識、文化などを総合的に研究し、流動化する現代社会の様相を的確にとらえ、世界規模で生起している社会文化現象に対して問題発見的な研究を行うことを目指す。高度な知見に支えられた博士論文を完成させ、大学、短期大学など教育機関、若しくは国や民間の研究機関で専門的に活躍できる人物の育成を目的とする。

(人間科学専攻(教育研究領域)博士後期課程の目的)

- 第 11 条 人間科学専攻(教育研究領域)博士後期課程は、教育に関する最新の知見と学術的な方法論に基づいて、現代社会における人の学びをめぐる諸問題を探究し、実証性をもって問題解決に向かう教育研究を進める。教育学の領域における、精深で豊かな学識を有し独創性ある研究者として、自立して研究を行う能力を育て、その成果の発信により、又は大学、国際機関などでの高度な業務の遂行により、グローバル化する社会に貢献できる人物の育成を目的とする。

(人間科学専攻(心理学基礎研究領域、発達臨床研究領域)博士後期課程の目的)

- 第 12 条 人間科学専攻(心理学基礎研究領域、発達臨床研究領域)博士後期課程は、博士前期課程からさらに学識と教養を深め、創造性を発揮し、主体的かつ自律的に人間の心理や行動の探究を続ける能力を養成する。その上で、豊かな人間性と高い倫理性を兼ね備えた研究者・教育者、若しくは専門的職業人として、地域及び国際社会に指導的な立場で貢献できる人物の育成を目的とする。

(所管)

- 第 13 条 本規程に関する事務は、企画部大学改革推進課が所管する。

(雑則)

第 14 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第9条の規定は、令和5年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。
- 3 前項の規定は、令和5年4月1日以後に再入学する者について準用する。
- 4 令和5年3月31日において本大学院に在籍する者については、なお従前の規定による。

聖心女子大学学位規程

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規程は、学位規則（昭和28年文部省令第9号、以下「規則」という。）及び聖心女子大学学則（以下「大学学則」という。）並びに聖心女子大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）により、聖心女子大学（以下「本学」という。）が授与する学位について、必要な事項を定めることを目的とする。

(学位の種類)

第 2 条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

第2条の2 学士の学位の種類は次のとおりとする。

	学科名	学位（専攻分野）
現代教養学部	英語文化コミュニケーション学科	学士（英語英文学）
	日本語日本文学科	学士（日本語日本文学）
	史学科	学士（史学）
	人間関係学科	学士（人間関係）
	国際交流学科	学士（国際交流）
	哲学科	学士（哲学）
	教育学科	学士（教育学）
		学士（初等教育学）
心理学科	学士（心理学）	

第2条の3 修士の学位の種類は次のとおりとする。

	専攻名	学位（専攻分野）
人文社会科学部	英語英文学専攻	修士（英語英文学）
	日本語日本文学専攻	修士（日本語日本文学）
	史学専攻	修士（史学）
	哲学専攻	修士（哲学）
	社会文化学専攻	修士（社会文化学）
	人間科学専攻	修士（人間科学）
修士（心理学）		

第2条の4 博士の学位の種類は次のとおりとする。

	専攻名	学位（専攻分野）
人文社会科学部	人文学専攻	博士（文学）
	社会文化学専攻	博士（社会文化学）
	人間科学専攻	博士（人間科学）
博士（心理学）		

(学士の学位授与の要件)

第 3 条 学士の学位は、大学学則第27条及び第36条により、本学に4年以上在学し、所定の授業科目について126単位を修得した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第 4 条 修士の学位は、大学院学則第15条及び第17条により、聖心女子大学大学院（以下「本大学院」という。）の修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。ただし、大学院学則第15条第1項ただし書きにより本大学院の修士課程又は博士前期課程に在学する者については、当該課程に1年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第 5 条 博士の学位は、大学院学則第16条及び第17条により、本大学院博士後期課程に3年以上在学し、所定の授業科目について10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導

を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、博士の学位は大学院学則第18条により、論文を提出し、本大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ、博士課程修了者と同等以上の学力を有することを確認された者に授与することができる。なお、授与する学位は、第2条の4に準じる。

第 2 章 学士の学位

(卒業論文の提出)

第 6 条 卒業論文を提出する者は、本学に3年以上在学し、本学の当該学科専攻（以下「当該学科専攻」という。）の定める授業科目の単位を修得していなければならない。

2 卒業論文を提出しようとするときは、指導教員についてあらかじめ教授会の議を経て、学長の承認を受けなければならない。

3 前項の指導教員は、当該学科専攻の専任教員とする。

4 指導のため必要があると認めるときは、教授会の議を経て、前項に定める指導教員に代えて本学の他の学科専攻（以下「他の学科専攻」という。）の専任教員あるいは本学の非常勤講師の身分にある者を指導教員とすることができる。

5 卒業論文の提出は、毎年度所定の日に行うものとする。

(審査委員)

第 7 条 卒業論文が受理されたときは、当該学科専攻において主査1名、副査1名の審査委員を選び論文の審査に当たるものとする。

2 主査は当該論文の指導教員とし、副査は当該学科専攻の専任教員から選出するものとする。

3 審査のため必要があると認めるときは、教授会の議を経て、前項に定める副査に代えて他の学科専攻の専任教員あるいは本学の非常勤講師の身分にある者を副査とすることができる。

(論文の合否判定並びに教授会への報告)

第 8 条 卒業論文の合否判定は、審査委員による審査結果の報告に基づき、卒業論文審査会議で行う。卒業論文審査会議は、教授会構成員及び審査委員により構成される。

2 卒業論文審査会議は、前項に規定する論文の合否判定の結果を教授会に報告しなければならない。

(学士の学位授与)

第 9 条 教授会は、前条第2項の報告及び第3条の学位授与の要件について審議し、学位を授与することの可否を議決する。

2 学長は、教授会の議を経て、学士の学位を授与する。

3 学士の学位の授与は、毎年3月に行う。

第 3 章 修士の学位

(修士論文の提出)

第 10 条 修士論文を提出する者は、本大学院修士課程又は博士前期課程に原則として1年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けなければならない。

2 修士論文を提出しようとするときは、論文の題目及び指導教員についてあらかじめ大学院委員会の議を経て、学長の承認を受けなければならない。

3 前項の指導教員は、本大学院当該専攻（以下「当該専攻」という。）の専任教員とする。

4 前項に定める指導教員については、本学を退職した後、当該専攻の非常勤講師の身分にある者を含むものとする。

5 修士論文の提出は、毎年度所定の日に行うものとする。

(審査委員)

- 第 11 条 修士論文が受理されたときは、当該専攻において主査 1 名、副査 2 名の審査委員を選び論文の審査に当たるものとする。
- 2 主査は当該論文の指導教員とし、副査は当該専攻の専任教員から選出するものとする。
- 3 審査のため必要があると認めるときは、大学院委員会の議を経て、前項に定める副査に代えて本大学院の他の専攻（以下「他の専攻」という。）の専任教員あるいは本大学院の非常勤講師の身分にある者を副査とすることができる。

(最終試験)

- 第 12 条 第 4 条に規定する最終試験には、当該専攻の専任教員が全員で当たることを原則とする。

(論文の合否判定並びに大学院委員会への報告)

- 第 13 条 修士論文の合否判定は、審査委員による審査結果の報告及び当該専攻による最終試験結果の報告に基づき、修士論文審査会議で行う。修士論文審査会議は、大学院委員会構成員のうち、修士課程又は博士前期課程を担当する委員及び審査委員により構成される。
- 2 修士論文審査会議は、前項に規定する論文の合否判定の結果を大学院委員会に報告しなければならない。

(修士の学位授与)

- 第 14 条 大学院委員会は、前条第 2 項の報告及び第 4 条の学位授与の要件について審議し、学位を授与することの可否を議決する。
- 2 学長は、大学院委員会の議を経て、修士の学位を授与する。
- 3 修士の学位の授与は、毎年 3 月に行う。

第 4 章 博士の学位

(課程による者の博士学位申請論文の提出)

- 第 15 条 博士論文を提出する者は、本大学院博士後期課程に 2 年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けなければならない。
- 2 博士論文を提出しようとするときは、論文の題目、内容及び指導教員についてあらかじめ大学院委員会の議を経て、学長の承認を受けなければならない。
- 3 前項の指導教員は、当該専攻の専任教員とする。
- 4 前項に定める指導教員については、本学を退職した後、当該専攻の非常勤講師の身分にある者を含むものとする。
- 5 博士論文は、博士論文審査願、論文目録、論文の要旨及び履歴書を添えて、学長に提出するものとする。
- 6 学位論文及び論文要旨は 1 篇とし、正 1 部、副 3 部、計 4 部を提出しなければならない。
- 7 (削除)
- 8 前各項の規定により博士論文を受理したときは、学長は当該専攻にその審査を付託するものとする。
- 9 博士論文の提出は、毎年度所定の期日までにやるものとする。

(課程によらない者の博士学位申請論文の提出)

- 第 16 条 第 5 条第 2 項による博士論文は、博士学位申請書、論文目録、論文の要旨、履歴書各 3 部及び別に定める論文審査料を添えて、本大学院の該当する専攻（以下「該当する専攻」という。）を経て学長に提出するものとする。
- 2 本大学院の博士後期課程に 3 年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で退学した者が、再入学しないで博士論文を提出する場合は、前項の規定によるものとする。
- 3 前 2 項の規定により博士論文を受理したときは、学長は該当する専攻にその審査を付託するものとする。
- 4 博士論文の提出は、毎年度所定の期日までにやるものとする。

(審査委員)

- 第 17 条 当該専攻又は該当する専攻は学長から博士論文の審査を付託されたときは、主査 1 名、副査 2 名の審査委

員を選び論文の審査に当たるものとする。

- 2 課程による者の博士論文については、主査は当該論文の指導教員とし、副査は当該専攻の専任教員から 1 名を、他の専攻の専任教員から 1 名を選出するものとし、課程によらない者の博士論文については、主査は該当する専攻の専任教員とし、副査は該当する専攻の専任教員から 1 名を、他の専攻の専任教員から 1 名を選出するものとする。
- 3 審査のため必要があると認めるときは、大学院委員会の議を経て、前項に定める他の専攻の専任教員に代えて、それ以外の教員又は他の大学院の教員等を審査委員とすることができる。
- 4 審査のため必要があると認めるときは、第 1 項の規定にかかわらず 2 名を超える副査を審査委員として選出することができる。

(最終試験)

- 第 18 条 第 5 条第 1 項に規定する最終試験には、審査委員及び審査委員以外の当該専攻の専任教員が全員で当たることを原則とする。

(学力の確認)

- 第 19 条 大学院学則第 18 条の規定による学力の確認は、学位論文に関連ある専攻分野の科目及び外国語について、口頭又は筆答の試問の方法によって行う。
- 2 前項に規定する学力の確認は、該当する専攻の専任教員が全員で当たることを原則とする。
- 3 第 16 条第 2 項に規定する者が退学後 5 年以内に学位論文の審査を申請する場合は、第 1 項の試問を免除することができる。

(審査期間)

- 第 20 条 博士論文提出後 1 年以内に論文の審査及び最終試験又は学力の確認を終了しなければならない。ただし、特別の事由があるときは、大学院委員会の議を経て審査期間を 1 年以内に限り延長することができる。

(論文の合否判定)

- 第 21 条 博士論文の合否判定は、審査委員による審査結果の報告並びに当該専攻による最終試験結果の報告又は該当する専攻による学力の確認の報告に基づき、博士論文審査会議で行う。博士論文審査会議は、大学院委員会構成員のうち、博士後期課程を担当する委員及び審査委員により構成される。

(審査結果等の報告並びに審議)

- 第 22 条 博士論文審査会議は、前条に規定する論文の合否判定結果を、その評価に関する意見を付して、大学院委員会に報告しなければならない。
- 2 大学院委員会は、前項の報告及び第 5 条第 1 項又は同条第 2 項の学位授与の要件について審議し、学位を授与することの可否を議決する。
- 3 大学院委員会は、前項の議決をしたときは、文書をもって学長に報告しなければならない。その際は、論文審査要旨並びに最終試験の結果又は学力の確認結果に関する資料を添えるものとする。

(博士の学位授与)

- 第 23 条 学長は、前条第 3 項の報告を受け、博士の学位を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知する。
- 2 博士の学位の授与日は、学位授与承認日とする。なお、学位記の授与は 3 月に行う。

(学位授与の登録及び報告)

- 第 24 条 博士の学位を授与したときは、学長は学位簿に登録し、当該博士の学位を授与した日から 3 月以内に規則第 12 条に規定する学位授与報告書を文部科学大臣に提出するものとする。

(博士論文要旨等の公表)

- 第 25 条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該学

位を授与した日から3月以内に当該博士の学位の授与に係る論文の要旨及び論文審査結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(博士論文の公表)

- 第 26 条 博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から1年以内に当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。
- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を得て、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学所定の手続きを経てインターネットにより行うものとする。

第 5 章 その他

(学位の名称の使用)

- 第 27 条 本学において学位を授与された者が、その学位の名称を用いるときは、「(聖心女子大学)」と付記するものとする。

(学位の取消し)

- 第 28 条 本学において学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は教授会又は大学院委員会の議を経て、その学位を取消し、学位記を返還させることができる。

- (1) 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき
- (2) 学位を授与されたことによる名誉を著しく汚す行為があったとき

(学位記等の様式)

- 第 29 条 学位記及び学位申請関係の様式は、別表1及び別表2のとおりとする。

附 則

この規程は、平成4年3月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。ただし、従前の国文学専攻については、専攻名及び専攻分野を(国文学)とする。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 平成9年3月31日に、大学院人間科学専攻修士課程に在籍する者に授与する修士学位記の様式は、従前のとおりとする。

(読み替え等)

- 3 下記の条項の「当該専攻」又は「該当する専攻」は、人間科学専攻の場合については「当該専攻の研究領域」又は「該当する専攻の研究領域」と読み替えるとともに、第17条第2項及び同条第3項の「他の専攻」に、人間科学専攻の他の研究領域を含めることとする。

なお、研究領域については、以下に区分される。

- (1) 博士前期課程
発達心理学研究領域

臨床心理学研究領域
視聴覚情報研究領域
人間教育過程研究領域

- (2) 博士後期課程
心理学基礎研究領域
発達臨床・教育研究領域

記

第10条第3項、第11条第1項、同条第2項、第12条、第13条第1項、第15条第3項、同条第7項、第16条第1項、同条第3項、第17条第1項、同条第2項、第18条、第19条第2項及び第21条

- 4 下記の条項の「当該専攻」又は「該当する専攻」は、人文学専攻の場合については「当該専攻の研究領域」又は「該当する専攻の研究領域」と読み替えるとともに、第17条第2項及び同条第3項の「他の専攻」に、人文学専攻の他の研究領域を含めることとする。

なお、研究領域については、以下に区分される。

英語英文学研究領域
日本語日本文学研究領域
哲学・美学研究領域

記

第15条第3項、同条第7項、第16条第1項、同条第3項、第17条第1項、同条第2項、第18条、第19条第2項及び第21条

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年11月12日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月13日から施行し、平成16年2月16日から適用する。

附 則

この規程は、平成16年6月8日から施行し、平成16年3月13日から適用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 第3条に規定する「所定の授業科目について124単位を修得し」については、平成18年度1年次入学者から適用し、平成18年度編入学者及び平成18年3月31日に在籍する者については従前のとおり130単位の修得とする。

(経過措置)

- 3 平成18年3月31日に大学院社会文化学専攻修士課程に在籍する者に授与する修士学位記の様式は、従前のとおりとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 平成19年3月31日までに入学した者及び平成20年3月31日に文学部外国語外国文学科に在籍する者に授与する学士学位記の様式は、従前のとおりとする。

- 3 平成19年3月31日に大学院人間科学専攻博士前期課程に在籍する者に授与する修士学位記の様式は、従前のとおりとする。

(読み替え等)

- 4 下記の条項の「当該専攻」又は「該当する専攻」は、人間科学専攻、人文学専攻及び社会文化学専攻の場合については、「当該専攻の研究領域」又は「該当する専攻の研究領

域」と読み替えるとともに、第11条第3項、第17条第2項及び同条第3項の「他の専攻」に人間科学専攻、人文学専攻及び社会文化学専攻の他の研究領域を含めることとする。なお、研究領域については、以下に区分される。

- (1) 人間科学専攻
 - ①博士前期課程
 - 発達心理学研究領域
 - 臨床心理学研究領域
 - 視聴覚情報研究領域
 - 人間教育過程研究領域
 - ②博士後期課程
 - 心理学基礎研究領域
 - 発達臨床・教育研究領域
- (2) 人文学専攻
 - 英語英文学研究領域
 - 日本語日本文学研究領域
 - 哲学・美学研究領域
- (3) 社会文化学専攻
 - ①博士前期課程
 - 家族・社会システム研究領域
 - 比較文化研究領域
 - ②博士後期課程
 - 家族・社会システム研究領域
 - 比較文化研究領域

記

第10条第3項、同条第4項、第11条第1項、同条第2項、同条第3項、第12条、第13条第1項、第15条第3項、同条第4項、同条第8項、第16条第1項、同条第3項、第17条第1項、同条第2項、第18条、第19条第2項及び第21条

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
(読み替え等)
- 2 下記の条項の「当該専攻」又は「該当する専攻」は、人間科学専攻、人文学専攻及び社会文化学専攻の場合については、「当該専攻の研究領域」又は「該当する専攻の研究領域」と読み替えるとともに、第11条第3項、第17条第2項及び同条第3項の「他の専攻」に人間科学専攻、人文学専攻及び社会文化学専攻の他の研究領域を含めることとする。なお、研究領域については、以下に区分される。

- (1) 人間科学専攻
 - ①博士前期課程
 - 発達心理学研究領域
 - 臨床心理学研究領域
 - 視聴覚情報研究領域
 - 教育研究領域
 - ②博士後期課程
 - 心理学基礎研究領域
 - 発達臨床研究領域
 - 教育研究領域
- (2) 人文学専攻
 - 英語英文学研究領域
 - 日本語日本文学研究領域
 - 哲学・美学研究領域
- (3) 社会文化学専攻
 - ①博士前期課程
 - 家族・社会システム研究領域
 - 比較文化研究領域
 - ②博士後期課程
 - 家族・社会システム研究領域
 - 比較文化研究領域

記

第10条第3項、同条第4項、第11条第1項、同条第2項、同条第3項、第12条、第13条第1項、第15条第3項、同条第4項、同条第8項、第16条第1項、同条第3項、第17条第1項、同条第2項、第18条、第19条第2項及び第21条

附 則

この規程は、平成21年5月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成21年6月9日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成25年10月8日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 第29条及び改正後の別表1の規定にかかわらず、次の者に授与する学士学位記の様式は、従前のおりとする。
 - (1) 平成26年3月31日において文学部第1年次に在籍する者
 - (2) 平成26年3月31日において文学部歴史社会学科に在籍する者
 - (3) 平成26年3月31日において文学部教育学科教育・心理学専攻に在籍する者

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
(関連要項廃止)
- 2 「本大学院の博士後期課程に3年以上在学して退学した者が、3年以内に博士論文を提出する場合の取り扱い要項」(平成17年4月1日実施)は、平成27年3月31日をもって廃止する。
(経過措置)
- 3 平成27年3月31日に、大学院博士後期課程に3年以上在学して退学し3年以内の者、及び大学院博士後期課程に在籍する者については、従前のおりとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
(読み替え等)
- 2 下記の条項の「当該専攻」又は「該当する専攻」は、人間科学専攻、人文学専攻及び社会文化学専攻の場合については、「当該専攻の研究領域」又は「該当する専攻の研究領域」と読み替えるとともに、第11条第3項、第17条第2項及び同条第3項の「他の専攻」に人間科学専攻、人文学専攻及び社会文化学専攻の他の研究領域を含めることとする。なお、研究領域については、以下に区分される。

(1) 人間科学専攻

- ①博士前期課程
 - 発達心理学研究領域
 - 臨床心理学研究領域
 - 視聴覚情報研究領域
 - 人間教育過程研究領域
- ②博士後期課程
 - 心理学基礎研究領域
 - 発達臨床・教育研究領域

(2) 人文学専攻

- 英語英文学研究領域
- 日本語日本文学研究領域
- 哲学・美学研究領域

(3) 社会文化学専攻

- ①博士前期課程
 - 社会システム研究領域
 - 比較文化研究領域

- 比較文化研究領域

②博士後期課程

社会システム研究領域
比較文化研究領域

記

第10条第3項、同条第4項、第11条第1項、同条第2項、同条第3項、第12条、第13条第1項、第15条第3項、同条第4項、同条第8項、第16条第1項、同条第3項、第17条第1項、同条第2項、第18条、第19条第2項及び第21条

附 則

(施行期日)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この規程は、平成30年6月1日から施行する。

附 則

- この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 改正後の第2条の2及び別表1の規定にかかわらず、文学部に在籍する者に授与する学士学位記の様式は、従前のとおりとする。

附 則

- この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 改正後の第2条の3、第2条の4及び別表1の規定にかかわらず、文学研究科に在籍する者に授与する修士または博士学位記の様式は、従前の規定による。
- 改正後の第3条の規定は、令和5年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。
- 前項の規定は、令和6年4月1日以後に編入学する者について準用する。
- 次の者については、なお従前の規定による。
令和5年3月31日において本学に在籍する者
令和5年4月1日に編入学する者並びに第2年次以上に再入学する者
令和6年4月1日に第3年次以上に再入学する者
令和7年4月1日に第4年次に再入学する者
- 平成27年4月1日施行の本規程の附則第2項について、人文学専攻の研究領域を次のとおりとする。

(2) 人文学専攻

英語・英文学研究領域
日本語・日本文学研究領域
哲学・美学研究領域
史学研究領域

別表1 学位記の様式

- (1) 学位記様式第1（第3条の規定により授与する学士学位記の様式）

第 号 学 位 記 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> 氏 名 年 月 日生 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 本学現代教養学部〇〇学科所定の課程を修め 本学を卒業したので学士（〇〇）の学位を授与 する </p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 年 月 日 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 聖心女子大学長 氏 名 ㊤ </p>

[備考] 学位記には、所属する学科名を記載し、()内に学位の専攻分野を記載する。

- (2) 学位記様式第2（第4条の規定により授与する修士学位記の様式）

(イ) 修士課程

第 号 学 位 記 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> 氏 名 年 月 日生 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 本学大学院人文社会科学研究科〇〇専攻の修士課程 において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終 試験に合格したので修士（〇〇）の学位を授与する </p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 年 月 日 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 聖心女子大学長 氏 名 ㊤ </p>
--

[備考] 学位記には、所属する専攻名を記載し、()内に学位の専攻分野を記載する。

(ロ) 博士前期課程

第 号 学 位 記 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> 氏 名 年 月 日生 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 本学大学院人文社会科学研究科〇〇専攻の博士前 期課程において所定の単位を修得し学位論文の審査 及び最終試験に合格したので修士（〇〇）の学位を 授与する </p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 年 月 日 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 聖心女子大学長 氏 名 ㊤ </p>
--

[備考] 学位記には、所属する専攻名を記載し、()内に学位の専攻分野を記載する。

- (3) 学位記様式第3（第5条第1項及び第2項の規定により授与する博士学位記の様式）

(イ) 第5条第1項の規定により授与する学位記

甲第 号 学 位 記 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> 氏 名 年 月 日生 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 本学大学院人文社会科学研究科〇〇専攻の博士後 期課程において所定の単位を修得し学位論文の審査 及び最終試験に合格したので博士（〇〇）の学位を 授与する </p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 年 月 日 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 聖心女子大学長 氏 名 ㊤ </p>

[備考] 学位記には、所属する専攻名を記載し、()内に学位の専攻分野を記載する。

(ロ) 第5条第2項の規定により授与する学位記

乙第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日生 本学にて学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので博士(〇〇)の学位を授与する 年 月 日 聖心女子大学長 氏 名 ㊟
--

[備考] 学位記には、()内に学位の専攻分野を記載する。

(2) 論文目録

論 文 目 録 論 文 1 題 目 2 印刷公表の方法及び時期 3 冊 数 参 考 文 献 1 題 目 2 印刷公表の方法及び時期 3 冊 数 年 月 日 学位申請者 氏 名 ㊟
--

別表2 学位申請関係書類の様式

(1) 学位申請書

(イ) 課程博士

博士論文審査願 年 月 日 聖心女子大学長 殿 氏 名 ㊟ 本学学位規程第15条の規定により博士論文に論文目録、論文要旨及び履歴書を添え、博士(〇〇)の学位授与の審査をお願いいたします。

[備考] 下記のとおり、学位には専攻分野を()内に付記する。

専 攻 分 野
文 学
社会文化学
人間科学
心理学

(3) 履歴書

履 歴 書 氏 名 生年月日 本 籍 現 住 所 学 歴 年 月 日 職 歴 年 月 日 研 究 歴 年 月 日 上記のとおり相違ありません。 年 月 日 氏 名 ㊟
--

(ロ) 論文博士

学 位 申 請 書 年 月 日 聖心女子大学長 殿 氏 名 ㊟ 貴学学位規程第16条の規定により、論文に論文目録、論文要旨、履歴書及び論文審査料 円を添え、博士(〇〇)の学位授与の審査をお願いいたします。
--

[備考] 下記のとおり、学位には専攻分野を()内に付記する。

専 攻 分 野
文 学
社会文化学
人間科学
心理学

聖心女子大学履修規程

(目的)

第 1 条 この規程は、聖心女子大学学則（以下「学則」という。）第23条第3項に基づき、聖心女子大学現代教養学部（以下「本学学部」という。）における授業科目、単位数、履修方法等について、必要な事項を定める。

(課程の編成)

第 2 条 本学学部における履修のため、基礎課程及び専攻課程を置く。

2 1年次生は基礎課程に所属し、2年次生から4年次生は専攻課程に所属する。

(専攻決定)

第 3 条 専攻課程における各学科・専攻の所属の決定は、教授会の議を経て学長が決定する。

(学外学修の単位認定)

第 4 条 学則第28条の2により次の単位及び学修について、学長は教授会の議を経て、併せて60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を与えることができる。ただし、単位認定については、所定の手続きによる。

- 1) 本学と国内の他の大学との協定に基づき、当該大学において履修した授業科目の単位。
- 2) 「聖心女子大学学生留学規程」第2条第2項に定める長期留学により、外国の大学において履修した授業科目の単位。ただし、単位認定については「聖心女子大学学生留学規程」により30単位までとする。
- 3) 「聖心女子大学学生留学規程」第2条第3項に定める短期留学により履修した単位。ただし、単位認定は1プログラムにつき2単位とし、同一大学におけるプログラムの複数回の単位認定は認めない。
- 4) 本学学部が開講する以下の科目により、外国の大学とあらかじめ協議の上当該大学において履修した単位。
ア 海外異文化研究（国際交流学科開講科目）
- 5) 本学の第1年次に入学した学生が、本学に入学する前に他の大学（短期大学及び専門学校を含む）において履修した授業科目の単位。ただし、保育士養成課程に係る単位認定については、「聖心女子大学保育士養成課程履修規程」により30単位までとする。
- 6) 文部科学大臣が別に定める学修で、本学が大学教育に相当する水準を有すると認めたもの。

(編入学、転入学、学士入学の単位認定)

第4条の2 編入学、転入学、学士入学する者が他の大学（短期大学及び専門学校を含む）において既に修得した授業科目の単位について、学長は教授会の議を経て、50単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を与えることができる。ただし単位認定については、「聖心女子大学編入学等に関する規程」によるものとする。

(進級要件)

第 5 条 次の年次へ進級するためには、各年次において学則第12条に定める前期及び後期を在学する必要がある。さらに、年次ごとの進級要件は次のとおりとする。

- 1) 2年次への進級には、1年次学年末において20単位以上修得していなければならない。
- 2) 4年次への進級には、3年次学年末において卒業要件外単位を除いて86単位以上修得していなければならない。ただし、3年次学年末に76単位以上86単位未満を修得している者については、成績を考慮の上、進級の可否を学長が決定する。

(卒業要件)

第 6 条 卒業要件として、学則別表第1に定める科目のうち卒業論文8単位を含めた126単位以上を修得しなければならない。

2 卒業するために必要な履修方法については、別に定める。
(教育職員免許状)

第 7 条 各学科・専攻において取得できる教育職員免許法に定める教育職員普通免許状（以下「教員免許状」という。）は学則別表第2に定める。

2 学生は前項で掲げる教員免許状を取得するために、教育職員免許法の定めるところに従い、所要の単位を修得しなければならない。

3 教員免許状取得に必要な要件については、別に定める。
(保育士資格)

第 8 条 本学学部教育学科初等教育学専攻幼児教育コースに保育士養成課程を置く。

2 学生は保育士資格を取得するために、児童福祉法の定めるところに従い、所要の単位を修得しなければならない。

3 保育士資格取得に必要な要件については、別に定める。
(その他の事項)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項については、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 「聖心女子大学文学部教育課程履修内規」（昭和55年4月1日実施）は、平成26年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行し、平成30年度単位認定申請者から適用する。
- 2 平成30年3月31日に在籍する者並びに平成30年4月1日に2年次に編入学する者については、改正後の第8条の規定に関わらず、なお従前の例による。

附 則

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 改正後の規程を文学部に在籍する者に準用する。

ただし、4年次への進級要件については、改正後第5条の規定にかかわらず、なお従前の規定による。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則 (令和3年7月13日教授会・令和4年2月6日教授会了承)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則 (令和4年6月14日教授会・令和5年2月6日教授会了承)

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第6条の規定は、令和5年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。
- 3 前項の規定は、令和6年4月1日以後に編入学する者について準用する。
- 4 次の者については、なお従前の規定による。
令和5年3月31日において本学に在籍する者
令和5年4月1日に編入学する者並びに第2年次以上に再入学する者

令和6年4月1日に第3年次以上に再入学する者
令和7年4月1日に第4年次に再入学する者

附 則（令和5年2月6日教授会了承）

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第5条第2号の規定は、令和5年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。
- 3 前項の規定は、令和6年4月1日以後に編入学する者について準用する。
- 4 次の者については、なお従前の規定による。
令和5年3月31日において本学に在籍する者
令和5年4月1日に編入学する者並びに第2年次または第3年次に再入学する者
令和6年4月1日に第3年次に再入学する者

聖心女子大学履修規程第6条第2項及び第7条第3項にて別に定めた内容は、本履修要覧の該当箇所を参照することとする。

聖心女子大学大学院履修規程

（目的）

- 第1条 この規程は、聖心女子大学大学院学則（以下「学則」という。）第8条及び第11条に基づき、聖心女子大学大学院人文社会科学研究所における授業科目、単位数、履修方法等について、必要な事項を定める。

（修了要件）

- 第2条 修了要件として、修士課程及び修士前期課程は30単位以上、博士後期課程は10単位以上を修得しなければならない。
- 2 修士課程及び博士前期課程を修了するためには、少なくとも20単位は本学当該専攻において修得し、残りの10単位以上については各専攻において別に定める方法に従う。長期履修学生が登録できる1学年当たりの履修登録単位数は、16単位を限度とする。ただし、修了要件に含まれない単位については、この限りではない。博士後期課程を修了するためには、修了単位のうち、少なくとも6単位は本学当該専攻において修得し、残りの4単位については、各専攻において別に定める方法に従う。

（教育職員免許状）

- 第3条 各専攻において取得できる教育職員免許法に定める教育職員普通免許状（以下「教員免許状」という。）は学則別表第2に定める。
- 2 学生は前項で掲げる教員免許状を取得するために、教育職員免許法の定めるところに従い、所要の単位を修得しなければならない。
 - 3 教員免許状取得に必要な要件については、別に定める。

（その他の事項）

- 第4条 この規程に定めるもののほか、必要な事項については、別に定める。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程を文学研究科に在籍する者に準用する。

聖心女子大学大学院履修規程第2条第2項及び第3条第3項にて別に定めた内容は、本履修要覧の該当箇所を参照することとする。

聖心女子大学における転科に関する規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、聖心女子大学学則第22条の規定に基づき、現代教養学部における転科に関する事項を定める。

(出願資格)

第 2 条 転科を出願する学生は、2 年次以上に在籍し、かつ転科の出願時に在学中の者とする。

(出願手続及び審査)

- 第 3 条 転科を志願する者は、「転科願」を所定の期日までに学務部教務課へ提出しなければならない。
- 2 転科の可否は、受入学科等において定員に余裕がある場合に限り、審査の上、教授会の議を経て学長が決定する。
 - 3 審査は年度末に行いその方法は別に定める。
 - 4 転科を許可された者は、所定の期日までに別に定める転科の手続きをしなければならない。

(転科の時期)

第 4 条 転科の時期は、第 2 学年の始めとする。ただし、教育学科教育学専攻と教育学科初等教育学専攻の間の転科に限り第 3 学年の始めとすることができる。

(在学期間)

第 5 条 転科を許可された者の在学年数は、その者が本学に在学した年数を在学年数と認め、在学期間に算入する。

(既修得単位の認定)

第 6 条 転科を許可された者が既に修得した学科目及び修得した単位数（他大学等で修得した単位で本学入学時に認定された単位を含む。）は、審査の上、その全部又は一部を卒業に要する単位として認めることができる。

(雑則)

第 7 条 この規程に定めるもののほか、転科に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成30年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年 7 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成31年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の規程は、文学部に在籍する者に準用する。

聖心女子大学大学院再入学に関する規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、聖心女子大学大学院（以下「本大学院」という。）学則第24条の規定に基づき、再入学に関する事項を定める。

第 2 条 本大学院を退学した者が、退学した日の翌日より 5 年以内に同一専攻に再入学を希望した場合は、選考の上入学を許可することができる。

- 2 再入学の時期は、許可された年度の翌年度ははじめとする。
- 3 再入学を志願することができるのは、1 回限りとする。ただし、他大学院への転学のために退学した者の志願は認めない。
- 4 再入学を許可された者が前在学期間中に既に修得した学科目及び修得した単位数は、修了に要する単位数として認めることができる。
- 5 再入学を許可された者の前在学期間は、修了に要する在学期間に算入することができる。ただし、1 年未満の在学期間は、これに算入しない。前在学期間と再入学後の在学期間は、修士課程・博士前期課程においては通算 4 年を、博士後期課程においては通算 6 年を超えることはできない。

附 則

この規程は、平成16年12月 7 日から施行する。

聖心女子大学大学院長期履修学生取扱い規程

(趣旨)

第 1 条 聖心女子大学大学院学則（以下「学則」という。）第 2 条の 2 に規定する長期履修学生の取り扱いについては学則に定めるもののほか、この規程によるものとする。

(修業年限)

第 2 条 修士課程又は博士前期課程における長期履修学生の修業年限は、3 年とする。

2 長期履修学生については、4 年を超えて在学することはできない。

(資格要件)

第 3 条 長期履修学生の願い出ができる対象を次のとおり定め、2 年の修業年限では大学院の教育課程の履修が困難と認められる者とする。

(1) 新たに修士課程又は博士前期課程に入学する者で、次の各号の一に該当する者。

- ①職業を有している者
- ②育児、親族の介護を行う必要がある者
- ③新規に教員免許状取得を希望する者

(2) 既に修士課程又は博士前期課程に在学する者（最終年次に在学する者を除く）で、次の各号の一に該当する者。

- ①職業を有している者
- ②育児、親族の介護を行う必要がある者
- ③新規の教職課程の履修を既に開始している者

(長期履修の取りやめ)

第 4 条 長期履修学生として入学した者が第 3 条に定める入学後適用資格要件を失った場合は、本人の申請により同人の状況等を審査のうえ、長期履修学生としての身分を学則第 2 条第 2 項による学生へと変更することができる。

(身分の変更)

第 5 条 長期履修学生の手続きは、次のとおり行う。

- (1) 第 3 条の (1) に定める者は、入学願書提出時に長期履修を申請し、大学院委員会の議を経て学長が決定する。
- (2) 第 3 条の (2) 及び第 4 条に定める者は、前年度 1 月末日までに申請し、長期履修の身分を変更する年度の前年度中に大学院委員会の議を経て学長が行う。

2 身分の変更は、在学中 1 回限りとする。

(登録単位数)

第 6 条 長期履修学生が登録できる 1 学年当たりの履修登録単位数は、16 単位を限度とする。ただし、修了要件に含まれない単位については、この限りでない。

(再入学)

第 7 条 長期履修学生が退学し、再入学を願い出た場合は、学則第 24 条の規定を準用する。ただし、再入学後は長期履修制度を利用することはできない。

(授業料等)

第 8 条 長期履修学生の授業料その他の納付金については、学則別表第 3 に定める入学金を除いた総額（2 年分）を、3 年間で分割して納入することができる。

2 長期履修学生の身分が変更された場合は、変更時より学則に定める授業料等を標準修業年限（2 年）で乗じた額と、既に納入した額との差額を所定の期間に納付するものとする。

3 次の場合は、授業料等は学則別表第 3 に定める額を納付するものとする。

- (1) 本規定に定める修業年限を超えて在学する者
- (2) 休学期間中の者
- (3) 2 年次から長期履修学生に身分を変更した学生の、変更後 4 期を超える在籍期間の者

(所管)

第 9 条 本規程に関する事務は、学務部教務課が所管する。

(雑則)

第 10 条 この規程に定めるもののほか、長期履修学生の受入れについて必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度入試から適用する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 7 月 1 日から施行する。

別表（第 8 条関係）

[単位：円]

区分	入学初年度		2 年次		3 年次	
	他大学卒	本学卒	他大学卒	本学卒	他大学卒	本学卒
入学金	250,000	125,000	—	—	—	—
授業料	360,000	360,000	360,000	360,000	360,000	360,000
施設設備費	150,000	95,000	150,000	90,000	150,000	90,000
計	760,000	580,000	510,000	450,000	510,000	450,000

聖心女子大学研究生規程

(目的)

第 1 条 この規程は、聖心女子大学学則（以下「学則」という。）第51条に基づき、研究生の取扱いに関して定めることを目的とする。

(出願資格)

第 2 条 研究生を志願できる者は、次の各号の一に該当する女性（外国の国籍を有する者を含む。）とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 第1号又は第2号に規定する者と同等以上の学力があると本学において認められた者

(出願手続)

第 3 条 研究生を志願する者は、指導教員の内諾を得た上で、所定の期日までに次の各号の書類に、別表に定める検定料を添えて学務部教務課へ提出しなければならない。

- (1) 研究生願
 - (2) 研究計画書
 - (3) 推薦書
 - (4) そのほか本学が別に定める書類
- 2 官公庁、企業、教育研究機関等に所属する者は、前項各号の書類のほか、所属先の長の承諾書を提出しなければならない。
- 3 外国の国籍を有する者は、第1項各号の書類のほか、住民票の写し（国籍、在留資格、在留期間及び在留期間満了日が記載されているもの）を提出しなければならない。

(審査及び受入許可)

第 4 条 研究生の受入れは、志願者の研究課題に係る学科（以下「当該学科」という。）における審査の結果を受け、教授会の議を経て学長が許可する。

2 前項により研究生として許可された者は、所定の期日までに別表に定める研究料及び在籍料を納付し、誓約書及び健康診断書を学務部教務課へ提出しなければならない。

(研究期間)

第 5 条 研究生の研究期間は、原則として4月から翌年3月までの1年間とする。ただし、特別の理由がある場合は、教授会の議を経て研究期間を更新することができる。

(指導教員)

第 6 条 当該学科は、研究生に対して研究環境を整えると共に、当該学科の専任教員を指導教員として充てるものとする。

2 指導教員は、研究生の研究期間中、研究生の研究指導に当たるものとする。

(施設利用)

第 7 条 研究生は、所定の手続きを経て、本学の図書館並びに学内LANシステム（USHnet）を利用することができる。

(報告書の提出)

第 8 条 研究生は、研究期間終了までに、研究課題に関する報告書（任意様式）を作成し当該学科に提出しなければならない。

2 前項の報告書の内容については、教授会において当該学科が報告を行う。

(研究生証明書)

第 9 条 研究期間を終了した研究生には、研究生証明書を交付することができる。

(諸規則の遵守)

第 10 条 研究生は、本学の諸規則を遵守しなければならない。

(身分の取消)

第 11 条 研究生が前条の規定に違反し、又は研究生として不適当と認められる場合は、教授会の議を経て、学長は研究生の身分を取り消すものとする。

(諸費用の返還)

第 12 条 既納の検定料、研究料及び在籍料は理由の如何にかかわらず返還しない。

(委託研究生)

第 13 条 官庁、その他の機関から研究生の委託を受けたときは、この規程を準用する。

(事務)

第 14 条 研究生の事務は学務部教務課が所管し、研究生への個別対応は当該学科が担当する。

(雑則)

第 15 条 この規程に定めるもののほか、研究生に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成7年10月17日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和元年9月24日から施行する。

別表（第3条第1項及び第4条第2項関係）

区分	金額	備 考
検定料	10,000円	本学研究生として在籍し、翌年度も志願する者は、納付を免除する。
研究料	20,000円	年額
在籍料	270,000円	年額

聖心女子大学大学院研究生規程

(目的)

第 1 条 この規程は、聖心女子大学大学院学則（以下「学則」という。）第37条に基づき、研究生の取扱いに関して定めることを目的とする。

(出願資格)

第 2 条 研究生を志願できる者は、次の各号の一に該当する女性（外国の国籍を有する者を含む。）とする。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 第1号又は第2号に規定する者と同等以上の学力があると本学において認められた者

(出願手続)

第 3 条 研究生を志願する者は、指導教員の内諾を得た上で、所定の期日までに次の各号の書類に、別表に定める検定料を添えて学務部教務課へ提出しなければならない。

- (1) 研究生願
 - (2) 研究計画書
 - (3) 推薦書
 - (4) そのほか本学が別に定める書類
- 2 官公庁、企業、教育研究機関等に所属する者は、前項各号の書類のほか、所属先の長の承諾書を提出しなければならない。
- 3 外国の国籍を有する者は、第1項各号の書類のほか、住民票の写し（国籍、在留資格、在留期間及び在留期間満了日が記載されているもの）を提出しなければならない。

(審査及び受入許可)

第 4 条 研究生の受入れは、志願者の研究課題に係る専攻（以下「当該専攻」という。）における審査の結果を受け、大学院委員会の議を経て学長が許可する。

2 前項により研究生として許可された者は、所定の期日までに別表に定める研究料及び在籍料を納付し、誓約書及び健康診断書を学務部教務課へ提出しなければならない。

(研究期間)

第 5 条 研究生の研究期間は、原則として4月から翌年3月までの1年間とする。ただし、特別の理由がある場合は、大学院委員会の議を経て研究期間を更新することができる。

(指導教員)

第 6 条 当該専攻は、研究生に対して研究環境を整えると共に、当該専攻の専任教員を指導教員として充てるものとする。

2 指導教員は、研究生の研究期間中、研究生の研究指導に当たるものとする。

(施設利用)

第 7 条 研究生は、所定の手続きを経て、本学の図書館並びに学内LANシステム（USHnet）を利用することができる。

(報告書の提出)

第 8 条 研究生は、研究期間終了までに、研究課題に関する報告書（任意様式）を作成し当該専攻に提出しなければならない。

2 前項の報告書の内容については、大学院委員会において当該専攻が報告を行う。

(研究生証明書)

第 9 条 研究期間を終了した研究生には、研究生証明書を交付することができる。

(諸規則の遵守)

第 10 条 研究生は、本学の諸規則を遵守しなければならない。

(身分の取消)

第 11 条 研究生が前条の規定に違反し、又は研究生として不適当と認められる場合は、大学院委員会の議を経て、学長は研究生の身分を取り消すものとする。

(諸費用の返還)

第 12 条 既納の検定料、研究料及び在籍料は理由の如何にかかわらず返還しない。

(特別研究生)

第 13 条 研究生を志願する男性がある場合は、特別研究生として受け入れ、この規程を準用する。

(委託研究生)

第 14 条 官庁、その他の機関から研究生の委託を受けたときは、この規程を準用する。

(事務)

第 15 条 研究生の事務は学務部教務課が所管し、研究生への個別対応は当該専攻が担当する。

(雑則)

第 16 条 この規程に定めるもののほか、研究生に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成7年10月17日から施行する。
- 2 この規程の制定に伴い、昭和62年7月14日施行の聖心女子大学大学院研究生に関する暫定規則を廃止する。
- 3 この規程制定の前日に在籍する研究生については、従前のおりとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和元年10月8日から施行する。
- 2 「聖心女子大学大学院特別研究生規程」（平成19年11月19日制定）は、令和元年10月7日をもって廃止する。

別表（第3条第1項及び第4条第2項関係）

区分	金額	備考
検定料	10,000円	本学大学院研究生として在籍し、翌年度も志願する者は、納付を免除する。
研究料	20,000円	年額
在籍料	270,000円	年額

聖心女子大学科目等履修生規程

(目的)

第 1 条 この規程は、聖心女子大学学則（以下「大学学則」という。）第51条に基づき、科目等履修生として本学所定の授業科目を履修する者の取扱いについて必要な事項を定めることを目的とする。

(出願資格)

第 2 条 科目等履修生を志願できる者は、次の各号の一に該当する女性とする。ただし、資格取得を目的として志願する者については、このほか別に定める要件を満たしている者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
- (3) 第1号又は第2号に規定する者と同等以上の学力があると本学において認められた者

2 外国の国籍を有する者については、前項に規定するもののほか、次の各号を満たしている者とする。

- (1) 永住又は1年間以上の在留期間があること
- (2) 希望する授業科目を履修するのに十分な日本語能力を有すること

3 本学大学院に在籍する者が本学学部の授業科目を履修する場合は、本規程を準用する。

(出願手続)

第 3 条 科目等履修生を志願する者は、所定の期日までに次の各号の書類に、別表に定める検定料を添えて提出しなければならない。

- (1) 科目等履修願
- (2) 履修登録届
- (3) 科目等履修の目的・理由書
- (4) そのほか本学が別に定める書類

2 官公庁、企業、教育研究機関等に所属する者は、前項各号の書類のほか、所属先の長の承諾書を提出しなければならない。

3 他大学に在籍する者は、第1項各号の書類のほか、在籍する大学の学長又は学科長の承諾書を提出しなければならない。

4 外国の国籍を有する者は、第1項各号の書類のほか、住民票の写し（国籍、在留資格、在留期間及び在留期間満了日が記載されているもの）を提出しなければならない。

(審査及び履修許可)

第 4 条 科目等履修生を志願する者があつたときは、志願者が履修を希望する授業科目を開設している学科において審査を行い、当該授業科目担当教員の承認を得た後、教授会の議を経て学長が科目等履修生としての履修を許可する。

2 前項により科目等履修生として履修を許可された者は、所定の期日までに別表に定める登録料及び科目等履修料を納付し、誓約書を提出しなければならない。

(履修期間)

第 5 条 科目等履修生の履修期間は、履修が許可された授業科目の開講期間とする。ただし、履修期間の更新を希望する場合は、第3条に規定する手続を取った上で、教授会の議を経て更新することができる。

(履修単位数制限)

第 6 条 科目等履修生が履修することのできる授業科目の単位数は、同一年度内に32単位を超えることができない。

(単位の認定等)

第 7 条 科目等履修生は、履修した授業科目につき試験を受けることができる。

2 試験に合格した者には、当該授業科目の単位を与え、単位修得証明書を交付することができる。

3 本学で科目等履修生として修得した単位の累積をもって、本学の学位を取得することはできない。

(施設利用)

第 8 条 科目等履修生は、所定の手続きを経て、本学の図書館並びに学内LANシステム（US Hnet）を利用することができる。

(諸規則の遵守)

第 9 条 科目等履修生は、本学の諸規則を遵守しなければならない。

(身分の取消)

第 10 条 科目等履修生が前条の規定に違反し、又は科目等履修生として不適当と認められる場合は、教授会の議を経て、学長は科目等履修生の身分を取り消す。

(諸費用の返還)

第 11 条 既納の検定料、登録料及び科目等履修料は理由の如何にかかわらず返還しない。ただし、本学が授業科目の開講を取りやめた場合は、この限りではない。

(他大学との協定に基づく科目等履修生)

第 12 条 他大学との協定に基づき、科目等履修生として本学所定の授業科目を履修する者の取扱いについては、当該大学との協定による。

(事務)

第 13 条 科目等履修生の事務は、学務部教務課が所管する。

(雑則)

第 14 条 この規程に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成10年4月1日から施行する。

2 聖心女子大学科目履修生規程（平成4年4月1日施行）の全部改正に伴い、同規程により修得した単位については従前のおりとする。

3 聖心女子大学聴講生規程及び同施行細則（いずれも昭和45年4月1日施行）は平成10年3月31日をもって廃止する。

附 則

1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。

2 平成15年3月31日に在籍する者はこの規程にかかわらず、従前のおり登録料ならびに科目等履修料の納付を免除する。ただし、本学大学院の各課程の所要の単位を修得し標準年限を越えて在籍する場合は、従前のおり登録料ならびに科目等履修料を全額納付するものとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和元年9月24日から施行する。

別表（第3条第1項及び第4条第2項関係）

区分	金額	備考
検定料	10,000円	本学卒業生、本学大学院に在籍する者及び姉妹校専任教員並びに聖心会会員は、納付を免除する。
登録料	10,000円	本学大学院に在籍する者は、納付を免除する。
科目等履修料	10,000円	1単位当たりの額。ただし、本学副手の職にある者及び姉妹校専任教員並びに聖心会会員は納付を免除する。また、本学大学院に在籍する者は、修士課程又は博士前期課程入学博士後期課程入学からそれぞれ通算して10単位までは全額免除、それを超える履修については半額を免除する。

聖心女子大学大学院科目等履修生規程

(目的)

第 1 条 この規程は、聖心女子大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第37条に基づき、科目等履修生として本学所定の授業科目を履修する者の取扱いについて必要な事項を定めることを目的とする。

(出願資格)

第 2 条 科目等履修生を志願できる者は、次の各号の一に該当する女性とする。ただし、資格取得を目的として志願する者については、このほか別に定める要件を満たしている者とする。

- (1) 大学を卒業した者
 - (2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (3) 第1号又は第2号に規定する者と同等以上の学力があると本学において認められた者
- 2 外国の国籍を有する者については、前項に規定するもののほか、次の各号を満たしている者とする。
- (1) 永住又は1年間以上の在留期間があること
 - (2) 希望する授業科目を履修するのに十分な日本語能力を有すること
- 3 本学学部在籍する者については、早期履修学生として認められている者とする。
- 4 本学大学院博士後期課程に在籍する者が本学大学院博士前期課程の授業科目を履修する場合は、本規程を準用する。

(出願手続)

第 3 条 科目等履修生を志願する者は、所定の期日までに次の各号の書類に、別表に定める検定料を添えて提出しなければならない。

- (1) 科目等履修願
 - (2) 履修登録届
 - (3) 科目等履修の目的・理由書
 - (4) そのほか本学が別に定める書類
- 2 官公庁、企業、教育研究機関等に所属する者は、前項各号の書類のほか、所属先の長の承諾書を提出しなければならない。
- 3 他大学大学院に在籍する者は、第1項各号の書類のほか、在籍する大学院の学長又は研究科長の承諾書を提出しなければならない。
- 4 外国の国籍を有する者は、第1項各号の書類のほか、住民票の写し（国籍、在留資格、在留期間及び在留期間満了日が記載されているもの）を提出しなければならない。

(審査及び履修許可)

第 4 条 科目等履修生を志願する者があったときは、志願者が履修を希望する授業科目を開設している専攻において審査を行い、当該授業科目担当教員の承認を得た後、大学院委員会の議を経て学長が科目等履修生としての履修を許可する。

2 前項により科目等履修生として履修を許可された者は、所定の期日までに別表に定める登録料及び科目等履修料を納付し、誓約書を提出しなければならない。

(履修期間)

第 5 条 科目等履修生の履修期間は、履修が許可された授業科目の開講期間とする。ただし、履修期間の更新を希望する場合は、第3条に規定する手続を取った上で、大学院委員会の議を経て更新することができる。

(履修単位数制限)

第 6 条 科目等履修生が履修することのできる授業科目の単位数は、同一年度内に12単位を超えることができない。ただし、学部の授業科目と同時に履修する場合は、学部授業科目と合わせて32単位以内とする。

2 第2条第3項により履修することのできる授業科目の単位数は、10単位を超えることができない。

(単位の認定等)

第 7 条 科目等履修生は、履修した授業科目につき試験を受けることができる。

2 試験に合格した者には、当該授業科目の単位を与え、単位修得証明書を交付することができる。

3 本学で科目等履修生として修得した単位の累積をもって、本学の学位を取得することはできない。

(施設利用)

第 8 条 科目等履修生は、所定の手続きを経て、本学の図書館並びに学内LANシステム（USHnet）を利用することができる。

(諸規則の遵守)

第 9 条 科目等履修生は、本学の諸規則を遵守しなければならない。

(身分の取消)

第 10 条 科目等履修生が前条の規定に違反し、又は科目等履修生として不適当と認められる場合は、大学院委員会の議を経て、学長は科目等履修生の身分を取り消す。

(諸費用の返還)

第 11 条 既納の検定料、登録料及び科目等履修料は理由の如何にかかわらず返還しない。ただし、本学が授業科目の開講を取りやめた場合は、この限りではない。

(事務)

第 12 条 科目等履修生の事務は、学務部教務課が所管する。

(雑則)

第 13 条 この規程に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 聖心女子大学科目履修生規程（平成4年4月1日施行）の全部改正に伴い、同規程により修得した単位については従前のとおりとする。
- 3 聖心女子大学聴講生規程及び同施行細則（いずれも昭和45年4月1日施行）は平成10年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年5月13日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成30年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和元年10月8日から施行する。

別表（第3条第1項及び第4条第2項関係）

区分	金額	備考
検定料	10,000円	本学卒業生、本学大学院博士後期課程に在籍する者、早期履修学生及び姉妹校専任教員並びに聖心会会員は、納付を免除する。
登録料	10,000円	本学大学院博士後期課程に在籍する者及び早期履修学生は、納付を免除する。
科目等履修料	10,000円	1単位当たりの額。ただし、本学副手の職にある者及び姉妹校専任教員並びに聖心会会員は納付を免除する。また、本学大学院博士後期課程に在籍する者は、博士後期課程入学から通算して10単位までは全額免除、それを超える履修については半額を免除する。

聖心女子大学研究倫理指針

聖心女子大学（以下「本学」という。）における学術的な研究活動は、「聖心女子大学の理念」に基づいて行われ、新たな知の創造と価値の提起をつうじて人類文化の発展と福祉の向上に寄与することを目的としている。本学は学術研究が真理を探究する先人の努力と成果の上に新たな発見、考察を重ねて継承され、今後の世界においてますます重要な役割を担うことを自覚し、その在るべき姿を問い続けるとともに、学術研究に携わる者に高い倫理を求める。本学は研究活動が「学術の中心」としての大学の重要な使命であることに鑑み、大学として研究活動の活性化を支援するため、教育研究環境の整備に努めなければならない。

本学の研究者等は、研究活動のもつ意義と公共性を自覚し、高い倫理に裏づけられた公正で活発な研究を遂行し、国内外との研究交流に努めなければならない。また、研究者等は相互に人格を尊重し、各人の学問的関心と良心に基づいて行われる自主的な研究活動を尊重し、研究に関わるすべての人々の人間としての尊厳に深く配慮することが求められる。

ここに、本学における学術研究の信頼性と公正性を確保し、健全な研究活動が展開されることを目的として、研究活動の倫理に関し本学構成員が遵守すべき基本的な方針を明らかにするために「聖心女子大学研究倫理指針」（以下「指針」という。）を定める。

1.（適用対象）

指針は、本学のすべての構成員を対象とする。指針のなかで、「研究者等」とは、別に定める「聖心女子大学研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」（以下「不正防止規程」という。）第2条第2項に規定する者をいう。

2.（本学の責務）

本学は研究活動を支援するために、必要な教育研究環境を整備しなければならない。この一環として、研究倫理に関わる学内の体制を整備し、必要な規程を定め、組織を設置するものとする。研究活動の不正行為が認められた場合は、速やかに調査を行い、説明責任を果たさなければならない。また、研究倫理の意義の周知徹底のために研修を実施する等、啓発活動に努めるものとする。

3.（研究倫理委員会、研究倫理審査会の設置）

前項の規定に基づき、研究倫理の維持、向上のため本学に研究倫理委員会を置き、各学科に研究倫理審査会を置く。その役割については別に定める。

4.（研究者等の責務）

本学において研究活動を行う研究者等は、活発な研究活動と交流に努め、積極的に研究成果の社会的還元を進めなければならない。この全過程において、以下の各項に定める事柄を遵守するとともに、人権の尊重と福祉に十分配慮し、常に高い研究倫理を保持しなければならない。

5.（公正な研究の確保）

研究者等の行う研究は先行研究の精査の上に立ち、常に公正かつ誠実でなければならない。研究活動にあたって、不正防止規程第2条に規定する不正行為を決して行ってはならない。また、資料、データなどの入手にあたって不正があってはならない。

6.（法令、規則の遵守）

研究者等が研究活動を行うにあたっては、関連する国と地域の関係法令、規則、ガイドライン等を遵守しなければならない。研究者等が所属する学会等の規則がある場合にはその定めにも従うものとする。著作権・著作権、契約事項等を遵守し、他者の知的財産を守らなければならない。

7.（研究資金の適正な執行）

研究者等が公的な補助金その他の研究費により研究活動を行う場合には、定められた資金使用規則に従い、研究費を適正に執行しなければならない。資金は適正に管理し、使途についての説明責任を果たすものとする。

8.（人命、安全の最優先）

研究者等が研究活動を行う際には、研究による周囲の人間、生物、自然環境などへの直接的・間接的な影響に十分配慮しなければならない。特に、研究活動にともなう危険性の排除に努め、人命の尊重と安全の確保を最優先に考えるものとする。

9.（研究対象者、研究協力者への配慮）

研究者等が実験、観察、調査などを行う対象者である個人、団体などに対しては事前に研究の趣旨について説明し、協力の了承を得なければならない。研究の過程と成果の公表に際して研究対象者の個人情報、プライバシー、および尊厳性の保持等に十分配慮し、差別、ハラスメント等の言動があってはならない。協働して研究にあたる協力者についても同様の配慮を行うとともに、研究成果に関する権利を相互に尊重しなければならない。

10.（「人を対象とする研究」の実施）

研究者等が個人または集団を対象に実施する実験、観察、調査等の研究活動については、別に定める「聖心女子大学における『人を対象とする研究』ガイドライン」に則って行わなくてはならない。「人を対象とする研究」の定義は、同ガイドラインが規定する。

11.（利益相反の報告義務）

研究者等は研究活動に関連して利益相反の状況が発生する場合には、別に定める方法により事前に報告し、本学の承認を受けなければならない。

附 則

この研究倫理指針は、平成26年10月7日から施行する。

附 則

この研究倫理指針は、令和4年11月8日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

聖心女子大学における「人を対象とする研究」ガイドライン

1. 「研究倫理指針」と「ガイドライン」の遵守

聖心女子大学(以下「本学」という。)に所属する研究者等(「聖心女子大学研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」第2条第2項に規定する者をいう。以下同じ。)が次項に規定する「人を対象とする研究」を実施しようとするときは、「聖心女子大学研究倫理指針」第10項の規定に基づき、同「研究倫理指針」および、この「ガイドライン」を遵守して行わなければならない。さらに「聖心女子大学個人情報保護規程」その他、国と地域の関係法令、規則等、所属学会等の規程、指針等を遵守して行うものとする。

2. 「人を対象とする研究」の定義

「人を対象とする研究」とは個人または集団から、その対象者本人の個人情報、行動、経験、価値観、信条、学歴、職歴、経済状況、環境、心身の状態等に関する情報・データを、実験、観察、調査(インタビュー、質問紙調査の類)等の臨床的・臨地的方法により収集・採取して行う研究活動をいう。

3. (人権と福祉の尊重)

「人を対象とする研究」を実施するときは、個人の生命、尊厳、人権の尊重と福祉に十分配慮して行わなければならない。研究は安全性を確保した上で、科学的かつ妥当な方法によって行われ、研究の過程で研究対象となる人が受ける精神的・肉体的な負担と苦痛の軽減に努めなければならない。

4. (インフォームド・コンセント)

- (1) 研究対象者には、研究の趣旨と方法を説明し、研究への協力と研究成果の公表についてあらかじめ同意を得なければならない。
- (2) 同意を確認することができない場合は、研究対象者の権利を代弁・保護できる人物の同意を得ることとする。

5. (研究成果公表時の配慮)

- (1) 研究成果の公表に際しては、プライバシーの保護に十分配慮しなければならない。また、個人名や学校・団体名、地名などを実名にする場合は、あらかじめ承諾を得なければならない。
- (2) 個人の特定できる写真、映像等を公表する場合はあらかじめ、研究の対象となる本人ないしその保護者、責任者の承諾を得なければならない。ウェブ上に公表する場合は、特にウェブ上で公表することについても承諾を得なければならない。

6. (本学における研究倫理の審査)

- (1) 「研究倫理指針」第3項の規定に基づき、本学に研究倫理委員会及び各学科の研究倫理審査会を設ける。研究倫理委員会及び研究倫理審査会については別に定める。
- (2) 本学は、各学科が立脚する学問分野の性格と学界の動向を踏まえて、本学に所属する研究者等が実施する研究のうち、「人を対象とする研究」の定義が適用されるものの条件、種類等を細則に定め、そのうち事前に研究倫理審査を必要とするものの範囲を指定する。細則には具体的な審査の手続き、書式等も含める。同細則は、研究倫理委員会の承認を受けなければならない。
- (3) 研究倫理審査会は各学科に所属する複数の専任教員によって組織され、「研究倫理指針」および本「ガイドライン」の趣旨に基づき、別に定める細則に則って、研究倫理審査が必要と判断した研究について研究計画の倫理的な適切性を審査する。また、当該学科に所属する研究者

等の研究に不正が発見された場合には、対処の方策を審議する。

- (4) 研究倫理審査会が「人を対象とする研究」について審査を実施するときは、事前に研究の目的、計画、方法、倫理的配慮等を記した「研究計画書」の提出を求め、これに基づいて審査する。審査を経て、研究倫理委員会で承認された場合には研究を開始することができる。
- (5) 研究倫理審査会での審査の結果、申請が却下され、その決定に承服しがたい場合には、研究者等は決定から一ヶ月以内に文書を以て研究倫理委員会に不服申し立てをすることができる。研究倫理委員会は速やかに審査を開始し、原則として一ヶ月以内に審査を終了する。
- (6) 複数の学科に所属する複数の研究者等が「人を対象とする研究」を行う場合は、所属するいずれかの学科の研究倫理審査会の審査を経て、研究倫理委員会の承認を受ければ研究を開始することができる。
- (7) 研究倫理審査会は、審査結果を研究倫理委員会に報告し、同委員会はその妥当性を審査する。なお、学部の学生が行う研究活動については、この手続きを省略することができる。
- (8) 大学内の部局・組織ないし大学自身が研究の主体となる場合には、直接、研究倫理委員会に申請するものとする。
- (9) 研究倫理委員会での審査の結果、申請が却下された場合には、研究を継続することができない。研究者等は、研究倫理委員会の決定に承服しがたい場合には、決定から一ヶ月以内に文書を以て不服申し立てをすることができる。研究倫理委員会は速やかに再審査を開始し、原則として一ヶ月以内に審査を終了する。

附 則

このガイドラインは、平成26年10月7日から施行する。

附 則

このガイドラインは、令和元年6月11日から施行し、平成31年4月1日から施行する。

附 則

このガイドラインは、令和元年9月27日から施行する。

附 則

このガイドラインは、令和元年10月25日から施行する。

附 則

このガイドラインは、令和4年11月8日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

科目リスト

科目リストの見方

【項目等の説明】

項目	表記	説明
開講学科 (担当研究室)		当該科目を担当する研究室。「総現」は総合現代教養研究室、「メディア」はメディア学習支援センターを意味する
コード		科目をあらわすコード
科目名		科目名
単位		単位数
学年 (学部)		学部生の対象学年。自分の在籍している学年の記載があれば履修可
備考		学部1 年次生が履修可能な科目は以下の種類に分けて表示されている
	A	1 年次生推奨 (入門的・概説的な科目)
	B	意欲・能力のある1 年次生は履修可 (人数制限等では2 年次生以上優先)
	(B)	意欲・能力のある1 年次生で教職課程履修希望の者は履修可 (人数制限等では2 年次生以上優先)
	○	履修可
	空欄	履修不可
院		大学院学生を対象課程。自分の在籍している課程の記載があれば履修可
	M	修士課程、博士前期課程の学生が履修可能な科目
	D	博士後期課程の学生が履修可能な科目
学年 (院)		大学院学生を対象学年。自分の在籍している学年の記載があれば履修可。院 (M、D) の欄と組み合わせて確認すること
再履修	可	再履修 (単位修得済の同一名称の科目を再度履修すること) 可能
	空欄	再履修不可
区分(開講学科、他学科)		学部生に限り、自分の所属している学科・専攻の欄が空欄または「- (ハイフン)」以外ならば、履修可 (記載文字は登録時に設定される分野系列および所属学科専攻コースの略称をあらわす)
	キ	キリスト教学
	外	英語、第二外国語
	体	体育運動学
	卒	卒業論文
	専	専攻分野
	関	関連分野
	資	資格関係分野
	人	人間関係学科生
	心	心理学科生
	教	教育学専攻生
	初	初等教育学専攻生
	初(初)	初等教育学専攻 初等教育/小学校コース専攻生
	初(幼)	初等教育学専攻 幼児教育/幼稚園コース専攻生

項目	表記	説明
副専攻		記載された副専攻コースの指定科目。該当する副専攻コース登録者は履修可
	M 1	英語文化コミュニケーション副専攻 英語学・英語教育学分野
	M 2	英語文化コミュニケーション副専攻 英米文学分野
	M 3	英語文化コミュニケーション副専攻 メディアと社会分野
	C 1	日本語日本文学副専攻
	D 1	史学副専攻 日本史コース
	D 4	史学副専攻 世界史コース
	E 1	人間関係副専攻
	G 1	国際交流副専攻
	H 1	哲学副専攻
	J 1	教育学副専攻
	L 1	心理学副専攻
	A 5	グローバル共生副専攻 年度により要件科目が異なる。詳細はグローバル共生副専攻カリキュラムページを参照のこと
課程		記載された課程の指定科目。該当する課程登録者は履修可
	G	グローバルリーダーシッププログラム
	日	日本語教員課程
	学	博物館学芸員課程
	公	公認心理師
	保	保育士養成課程
教職		記載された資格の指定科目。該当する資格登録者は履修可
	幼	幼稚園教諭
	小	小学校教諭
	中	中学校教諭。登録の教科によって履修可否が分かれる場合には教科名の1文字目を併せて記載。
	高	高等学校教諭。登録の教科によって履修可否が分かれる場合には教科名の1文字目を併せて記載。
特記事項		上記以外の履修条件を記載。よく読んで、履修登録すること。
	前提(履修)	前提 (履修) : 《科目コード》「《科目名》」を履修済の者に限る
	前提(修得)	前提 (修得) : 《科目コード》「《科目名》」を修得済の者に限る
	排除	排除 : 《科目コード》「《科目名》」修得済の者は履修不可

【注意事項】

- ◎今年度の開講状況はシラバス等で確認すること。
- ◎履修に関する注意事項などは、各学科のカリキュラムページで確認すること。
- ◎履修を許可されている科目で区分 (開講学科) に○印がある場合、分野系列は「関連分野」となる (所属学科開講科目においては一部例外となる科目あり)
- ◎履修を許可されている科目で区分 (開講学科) に●印がある場合、分野系列は教職課程ガイダンスにて説明します。
- ◎同時限開講科目は履修登録後に分野系列を変更することはできないので、よく注意して登録すること。
- ◎開講学科以外の学生が、「副専攻」、「課程」、「教職」欄によって履修を許可されている場合で、「区分(他学科)」欄や「特記事項」欄に分野系列の記載がない場合は、分野系列は関連分野となる。

科目コード分類表

科目コード	開講所属	科目担当研究室	科目所属	科目大分類
AA**	教育	教育学研究室	全学必修科目	体育運動学
AB**	-	-	基礎課程科目	1 年次生限定科目
AC**	総現	総合現代教養研究室	総合現代教養科目	運動学
AE**	英文	英文研究室	全学必修科目	英語 (※Advancedのみ総合現代教養科目)
AF**	国際	国際交流研究室		フランス語 (※Advancedのみ総合現代教養科目)
AG**	国際	国際交流研究室		ドイツ語 (※Advancedのみ総合現代教養科目)
AH**	国際	国際交流研究室		スペイン語 (※Advancedのみ総合現代教養科目)
AJ**	国際	国際交流研究室		中国語 (※Advancedのみ総合現代教養科目)
AK**	国際	国際交流研究室		ロシア語 (※Advancedのみ総合現代教養科目)
AL**	国際	国際交流研究室		日本語 (※Advancedのみ総合現代教養科目、一部日本語関連科目は全学必修科目から除く)
AM**	哲学	哲学研究室		キリスト教学Ⅰ
AN**	哲学	哲学研究室		キリスト教学Ⅱ
AR**	総現	総合現代教養研究室	総合現代教養科目	
AS**	総現	総合現代教養研究室		
AT**	総現	総合現代教養研究室		ジェンダー学、ボランティア研究
AU**	総現	総合現代教養研究室		グローバル共生
BA**	-	-	A I ・ データサイエンス基礎	A I ・ データサイエンス基礎
BD**	-	-	基礎課程科目	基礎課程演習
C***	日文	日文研究室	日本語日本文学専攻開講科目	
D***	史学	史学研究室	史学専攻開講科目	
E***	人間	人間関係研究室	人間関係専攻開講科目	
F***			【欠番】	
G***	国際	国際交流研究室	国際交流専攻開講科目	
H***	哲学	哲学研究室	哲学専攻開講科目	
I***	-	-	教務 (委託聴講科目)	
J***	教育	教育学研究室	教育・初等教育学専攻開講科目	
K***	教育	教育学研究室	初等教育学専攻開講科目	
L***	心理	心理学研究室	心理学専攻開講科目	
M***	英文	英文研究室	英語英文学専攻開講科目	
N***			【欠番】	
O***			【欠番】	
P***	教育	教育学研究室	保育士養成課程	
QA**	史学〈1〉	-	教職括弧付科目	史学科開講科目〈1〉
QB**	哲学〈2〉	-		哲学科開講科目〈2〉
QC**	教育〈3〉	-		教育学科開講科目〈3〉
QD**	心理〈4〉	-		心理学科開講科目〈4〉
R***	教育	教育学研究室	教職に関する科目	
SA11	-	-	卒業論文	
SB**	総現	総合現代教養研究室	総合現代教養科目	副専攻修了レポート
TA**	院日文	日文研究室	大学院開講科目	日本語日本文学専攻 修士課程
TC**	院史学	史学研究室		史学専攻 修士課程
TD**	院史学	史学研究室		史学専攻 修士課程
TE**	院史学	史学研究室		史学専攻 修士課程
TF**	院社文	社会文化学研究室		社会文化学専攻 博士前期課程
TG**	院社文	社会文化学研究室		社会文化学専攻 博士前期課程
TH**	院社文	社会文化学研究室		社会文化学専攻 博士前期課程
TJ**	院哲学	哲学研究室		哲学専攻 修士課程
U***			【欠番】	
V***			【欠番】	
WA**	院人科 (教育、心理)	教育学研究室、心理学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻 博士前期課程 人間科学基礎論
WB**	院人科 (心理)	心理学研究室		人間科学専攻 博士前期課程 「発達心理学研究」領域
WC**	院人科 (心理)	心理学研究室		人間科学専攻 博士前期課程 「臨床心理学研究」領域
WD**	院人科 (心理)	心理学研究室		人間科学専攻 博士前期課程 「視聴覚情報研究」領域
WE**	院人科 (教育)	教育学研究室		人間科学専攻 博士前期課程 「人間教育過程研究」領域
WF**	院人科 (教育)	教育学研究室		人間科学専攻 博士前期課程 「教育研究」領域
WG**	院人科 (教育、心理)	教育学研究室、心理学研究室		人間科学専攻 博士前期課程 領域共通
WL**	院英文	英文研究室		英語英文学専攻 修士課程
WM**	院英文	英文研究室		英語英文学専攻 修士課程
X***	院人文	人文学研究室		人文学専攻 博士後期課程
YA**	院人科 (心理)	心理学研究室		人間科学専攻 博士後期課程 「心理学基礎研究」領域
YB**	院人科 (心理)	心理学研究室		人間科学専攻 博士後期課程 「発達臨床研究」領域
YC**	院人科 (教育、心理)	教育学研究室、心理学研究室		人間科学専攻 博士後期課程 領域共通
YD**	院人科 (教育)	教育学研究室		人間科学専攻 博士後期課程 「教育研究」領域
Z***	院社文	社会文化学研究室		社会文化学専攻 博士後期課程

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項	
教育	AA01	ウェルネス・身体活動(講義)	1	講義	1	A				体	体					
教育	AA02	ウェルネス・身体活動(実技)	1	実技	1	A				体	体					
人間 (総現)	AB01	人間関係入門	2	講義	1	A				関	関				1年次生限定科目。2022年度以前入学者は6単位を超えて修得した場合、超過した単位は卒業要件外になる。2023年度以降入学者は、8単位を超えて修得した場合、超過した単位は卒業要件外になる。	
国際 (総現)	AB02	国際交流入門	2	講義	1	A				関	関					
心理 (総現)	AB03	心理学入門	2	講義	1	A				関	関					
英文 (総現)	AB10	英語文化コミュニケーション入門	2	講義	1	A				関	関					
日文 (総現)	AB11	日本語日本文学入門	2	講義	1	A				関	関					
史学 (総現)	AB12	史学入門	2	講義	1	A				関	関					
哲学 (総現)	AB13	哲学入門	2	講義	1	A				関	関					
教育 (総現)	AB14	教育学入門	2	講義	1	A				関	関					
英文 (全学)	AE21	1年英語1	2	講義	1	○				外	外					
英文 (全学)	AE22	1年英語2	2	講義	1	○				外	外					
英文 (全学)	AE25	Academic Reading 1	1	講義	2					外	-					
英文 (全学)	AE26	Academic Reading 2	1	講義	2					外	-					
英文 (全学)	AE27	Academic Writing 1	1	講義	2					外	-					
英文 (全学)	AE28	Academic Writing 2	1	講義	2					外	-					
英文 (全学)	AE31	2年英語(Reading)1	1	講義	2					-	外					
英文 (全学)	AE32	2年英語(Reading)2	1	講義	2					-	外					
英文 (全学)	AE33	2年英語(Oral)1	1	講義	2					-	外					
英文 (全学)	AE34	2年英語(Oral)2	1	講義	2					-	外					
国際 (全学)	AF21	1年フランス語文法(1)	2	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AF22	1年フランス語文法(2)	2	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AF23	1年フランス語オラル(1)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AF24	1年フランス語オラル(2)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AF30	2年フランス語(1)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AF31	2年フランス語(2)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AG21	1年ドイツ語文法(1)	2	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AG22	1年ドイツ語文法(2)	2	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AG23	1年ドイツ語オラル(1)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AG24	1年ドイツ語オラル(2)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AG30	2年ドイツ語(1)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AG31	2年ドイツ語(2)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AH21	1年スペイン語文法(1)	2	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AH22	1年スペイン語文法(2)	2	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AH23	1年スペイン語オラル(1)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AH24	1年スペイン語オラル(2)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AH25	2年スペイン語(1)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AH26	2年スペイン語(2)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AJ21	1年中国語文法(1)	2	講義	1	○				外	外					

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項	
国際 (全学)	AJ22	1年中国語文法(2)	2	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AJ23	1年中国語オラル(1)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AJ24	1年中国語オラル(2)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AJ29	2年中国語(1)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AJ30	2年中国語(2)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AK21	1年コリア語文法(1)	2	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AK22	1年コリア語文法(2)	2	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AK23	1年コリア語オラル(1)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AK24	1年コリア語オラル(2)	1	講義	1	○				外	外					
国際 (全学)	AK25	2年コリア語(1)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AK26	2年コリア語(2)	1	講義	2					外	外					
国際 (全学)	AL12	2年日本語1	2	講義	2					外	外					自動登録科目；外国人留 学生対象；外国人留学生2年 次必修
国際 (全学)	AL13	2年日本語2	2	講義	2,3,4					関	関					履修クラス割当；外国人留 学生対象；前提（修得）： AL12「2年日本語1」
国際 (総現)	AL19	日本事情1	2	講義	2,3,4					関	関					自動登録科目（外国人留 学生1年次生のみ）；外国人 留学生対象；外国人留学生 1年次必修履修
国際 (総現)	AL21	日本事情2	2	講義	2,3,4					関	関					
国際 (全学)	AL22	1年日本語1	3	講義	1	○				外	外					自動登録科目；外国人留 学生対象；外国人留学生1年 次必修
国際 (全学)	AL23	1年日本語2	3	講義	1	○				外	外					
哲学	AM31	キリスト教学Ⅰ-1(1)	2	講義	1,2	A				キ	キ					排他：AM17「キリスト教 学Ⅰ-7」
哲学	AM32	キリスト教学Ⅰ-1(2)	2	講義	1,2	A				キ	キ					
哲学	AM33	キリスト教学Ⅰ-2(1)	2	講義	1,2	A				キ	キ					排他：AM19「キリスト教 学Ⅰ-9」
哲学	AM34	キリスト教学Ⅰ-2(2)	2	講義	1,2	A				キ	キ					
哲学	AM35	キリスト教学Ⅰ-3(1)	2	講義	1,2	A				キ	キ					排他：AM18「キリスト教 学Ⅰ-8」
哲学	AM36	キリスト教学Ⅰ-3(2)	2	講義	1,2	A				キ	キ					
哲学	AM37	キリスト教学Ⅰ-4(1)	2	講義	1,2	A				キ	キ					排他：AM15「キリスト教 学Ⅰ-5」
哲学	AM38	キリスト教学Ⅰ-4(2)	2	講義	1,2	A				キ	キ					
哲学	AM39	キリスト教学Ⅰ-5(1)	2	講義	1,2	A				キ	キ					排他：AM21「キリスト教 学Ⅰ-10」
哲学	AM40	キリスト教学Ⅰ-5(2)	2	講義	1,2	A				キ	キ					
哲学	AM41	キリスト教学Ⅰ-6(1)	2	講義	1,2	A				キ	キ					排他：AM11「キリスト教 学Ⅰ-1」
哲学	AM42	キリスト教学Ⅰ-6(2)	2	講義	1,2	A				キ	キ					
哲学	AM43	キリスト教学Ⅰ-7(1)	2	講義	1,2	A				キ	キ					排他：AM12「キリスト教 学Ⅰ-2」
哲学	AM44	キリスト教学Ⅰ-7(2)	2	講義	1,2	A				キ	キ					
哲学	AM45	キリスト教学Ⅰ-8(1)	2	講義	1,2	A				キ	キ					排他：AM13「キリスト教 学Ⅰ-3」
哲学	AM46	キリスト教学Ⅰ-8(2)	2	講義	1,2	A				キ	キ					
哲学	AN31	キリスト教学Ⅱ-1(1)	2	講義	3,4					キ	キ					「キリスト教学特講Ⅰ(1)」と同一 授業だが、修得しても「キリスト 教学特講Ⅰ(1)」の単位としては 認められない。排他：HD75「キ リスト教学特講Ⅰ(1)」、AN20「キ リスト教学Ⅱ-10」、HD51「キ リスト教学特講Ⅰ」
哲学	AN32	キリスト教学Ⅱ-1(2)	2	講義	3,4					キ	キ					「キリスト教学特講Ⅰ(2)」と同一 授業だが、修得しても「キリスト 教学特講Ⅰ(2)」の単位としては 認められない。排他：HD76「キ リスト教学特講Ⅰ(2)」、AN20「キ リスト教学Ⅱ-10」、HD51「キ リスト教学特講Ⅰ」
哲学	AN33	キリスト教学Ⅱ-2(1)	2	講義	3,4					キ	キ					「キリスト教学特講Ⅱ(1)」と同一 授業だが、修得しても「キリスト 教学特講Ⅱ(1)」の単位としては 認められない。排他：HD77「キ リスト教学特講Ⅱ(1)」、AN21「キ リスト教学Ⅱ-11」、HD52「キ リスト教学特講Ⅱ」
哲学	AN34	キリスト教学Ⅱ-2(2)	2	講義	3,4					キ	キ					「キリスト教学特講Ⅱ(2)」と同一 授業だが、修得しても「キリスト 教学特講Ⅱ(2)」の単位としては 認められない。排他：HD78「キ リスト教学特講Ⅱ(2)」、AN21「キ リスト教学Ⅱ-11」、HD52「キ リスト教学特講Ⅱ」

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
哲学	AN35	キリスト教学Ⅱ-3(1)	2	講義	3,4					キ	キ				「キリスト教学特講3(1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学特講3(1)」の単位としては認められない。排他：HD79「キリスト教学特講3(1)」、AN22「キリスト教学Ⅱ-12」、HD53「キリスト教学特講Ⅲ」
哲学	AN36	キリスト教学Ⅱ-3(2)	2	講義	3,4					キ	キ				「キリスト教学特講3(2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学特講3(2)」の単位としては認められない。排他：HD80「キリスト教学特講3(2)」、AN22「キリスト教学Ⅱ-12」、HD53「キリスト教学特講Ⅲ」
哲学	AN37	キリスト教学Ⅱ-4(1)	2	講義	3,4					キ	キ				「キリスト教美術(1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教美術(1)」の単位としては認められない。排他：HD89「キリスト教美術(1)」、AN17「キリスト教学Ⅱ-7」、AN19「キリスト教学Ⅱ-9」、HD31「キリスト教美術」
哲学	AN38	キリスト教学Ⅱ-4(2)	2	講義	3,4					キ	キ				「キリスト教美術(2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教美術(2)」の単位としては認められない。排他：HD90「キリスト教美術(2)」、AN17「キリスト教学Ⅱ-7」、AN19「キリスト教学Ⅱ-9」、HD31「キリスト教美術」
哲学	AN39	キリスト教学Ⅱ-5(1)	2	講義	3,4					キ	キ				「キリスト教音楽(1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教音楽(1)」の単位としては認められない。排他：HD91「キリスト教音楽(1)」、AN15「キリスト教学Ⅱ-5」、AN18「キリスト教学Ⅱ-8」、HD32「キリスト教音楽」
哲学	AN40	キリスト教学Ⅱ-5(2)	2	講義	3,4					キ	キ				「キリスト教音楽(2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教音楽(2)」の単位としては認められない。排他：HD92「キリスト教音楽(2)」、AN15「キリスト教学Ⅱ-5」、AN18「キリスト教学Ⅱ-8」、HD32「キリスト教音楽」
哲学	AN41	キリスト教学Ⅱ-6(1)	2	講義	3,4					キ	キ				「キリスト教文学(1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教文学(1)」の単位としては認められない。排他：HD93「キリスト教文学(1)」、AN23「キリスト教学Ⅱ-13」、AN25「キリスト教学Ⅱ-15」、HD40「キリスト教文学」
哲学	AN42	キリスト教学Ⅱ-6(2)	2	講義	3,4					キ	キ				「キリスト教文学(2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教文学(2)」の単位としては認められない。排他：HD94「キリスト教文学(2)」、AN23「キリスト教学Ⅱ-13」、AN25「キリスト教学Ⅱ-15」、HD40「キリスト教文学」
哲学	AN43	キリスト教学Ⅱ-7(1)	2	講義	3,4					キ	キ				排他：AN11「キリスト教学Ⅱ-1」
哲学	AN44	キリスト教学Ⅱ-7(2)	2	講義	3,4					キ	キ				
哲学	AN45	キリスト教学Ⅱ-8(1)	2	講義	3,4					キ	キ				排他：AN14「キリスト教学Ⅱ-4」
哲学	AN46	キリスト教学Ⅱ-8(2)	2	講義	3,4					キ	キ				
総現	AR21	憲法1	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS05	現代の脳科学	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS07	科学史1	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				隔年開講
総現	AS08	科学史2	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS10	社会福祉論	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			隔年開講
総現	AS11	児童福祉論	2	講義	1,2,3,4	B				-	関				隔年開講
総現	AS14	ベートルズの詩と音楽	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS24	聖心スピリットと共生	2	講義	1,2,3,4	A				-	関	A5			
総現	AS25	健康な生活と健康科学	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS34	現代を考える	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS35	暮らしのファイナンス	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS37	進化論の世界	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS40	ボランティア体験の振り返り	2	講義	1,2,3,4	A				-	関	A5			
総現	AS57	Advanced Japanese Studies (1)	2	講義	2,3,4					-	関				2022年度以前入学者対象。自動登録科目(履修を許可された外国人留学生3~4年次生)
総現	AS58	Advanced Japanese Studies (2)	2	講義	2,3,4					-	関				
総現	AS59	生活と法律	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS61	リーダーシップとチームづくりワークショップ	1	演習	2					-	○	A5	G		定員20名：グローバルリーダーシップ・プログラム履修者のみ履修可
総現	AS62	グローバルリーダーシップ演習	2	演習	2					-	○	A5	G		

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
総現	AS63	サーバントリーダー体験型セミナー	1	演習	2					-	○	A5	G		定員20名；グローバルリーダーシップ・プログラム履修者のみ履修可
総現	AS64	インターンシップ	2	演習	2,3					-	○		G		自動登録科目（グローバルリーダーシップ・プログラム履修中の2、3年次生のみ）；クラスにより対象学年が異なる。詳細はシラバスを参照。
総現	AS65	リーダーシップ1	2	演習	3					-	○		G		
総現	AS66	リーダーシップ2	2	演習	3					-	○		G		
総現	AS67	リーダーシップ評価	2	演習	3					-	○		G		
総現	AS69	グローバル共生基礎 I	2	講義	1,2,3,4	A				-	関	A5	G		
総現	AS70	グローバル共生基礎 II	2	講義	1,2,3,4	A				-	関	A5	G		
総現	AS79	生命科学の最前線	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS80	総合現代教養演習	2	演習	1,2,3,4	B				-	関				
総現	AS81	学生提案型授業	2	講義	1,2,3,4	A			可	-	関				
総現	AS82	世界の身体表現文化	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS84	地域づくり演習1	2	演習	1,2,3,4	A			可	-	関	A5			
総現	AS85	地域づくり演習2	2	演習	1,2,3,4	A			可	-	関	A5			
総現	AS86	グローバル共生総合演習	2	演習	3,4					-	○	A5			グローバル共生副専攻の修了要件を満たすための単位を10単位以上修得済であること
総現	AS87	音楽と人間	2	講義	1,2,3,4	B				-	関				
総現	AS88	経済同友会連携インターンシップ	2	実習	2					-	関				自動登録科目（経済同友会連携インターンシップの履修許可を受けた学生）
総現	AS92	ジェンダー学入門	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS93	キャリアデザイン入門1	2	講義	1,2,3	B				-	関				
総現	AS94	キャリアデザイン入門2	2	講義	1,2,3	B				-	関				
総現	AS95	憲法2	2	講義	1,2,3,4	A				-	関				
総現	AS96	研究の方法論	2	講義	2,3,4					-	関				
総現	AS97	Introduction to Leadership	2	講義	2,3,4					-	関		G		排他：MB24「Introduction to Leadership」
総現	AT50	ボランティア研究概論	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AT54「ボランティア研究概論1」
総現	AU01	グローバル時代の国際協力概論	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS71「グローバル共生研究I」
総現	AU02	赤十字によるグローバルな人道支援の状況	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS72「グローバル共生研究II」
総現	AU03	人新世時代の環境問題	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS74「グローバル共生研究IV」
総現	AU04	災害と人間	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS75「グローバル共生研究V」
総現	AU05	持続的開発目標（SDGs）を捉え直す	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS76「グローバル共生研究VI」
総現	AU06	地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS77「グローバル共生研究VII」
総現	AU07	現代社会における食料問題とオルタナティブ	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS78「グローバル共生研究VIII」
総現	AU08	平和構築と非暴力の諸課題	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS83「グローバル共生研究IX」
総現	AU09	多文化共生社会論	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS89「グローバル共生研究X」
総現	AU10	グローバル・シナズンシップ育成論	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS90「グローバル共生研究XI」
総現	AU11	地球規模課題を探究する	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			排他：AS91「グローバル共生研究XII」
総現	AU12	グローバル・ヘルス	2	講義	1,2,3,4	B				-	関	A5			
教務	BA01	A I ・ データサイエンス基礎	2	講義	1	A				-	関				自動登録科目（新1年次生（再入学生含む）、教務課が指定した学生）
教務	BD30	基礎課程演習	2	演習	1	○				-	○				
日文	CA13	古典文学の世界	2	講義	1,2	A				専	-	C1			
日文	CA14	近代文学の世界	2	講義	1,2	A				専	-	C1			
日文	CA71	日本文学史1	2	講義	2,3,4					専	関	A5,C1	日	中国, 高国	排他：CA61「日本文学史I」
日文	CA72	日本文学史2	2	講義	2,3,4					専	関	A5,C1	日	中国, 高国	排他：CA62「日本文学史II」
日文	CA73	日本文学史3	2	講義	2,3,4					専	関	A5,C1	日	中国, 高国	排他：CA63「日本文学史III」
日文	CA74	日本文学史4	2	講義	2,3,4					専	関	A5,C1	日	中国, 高国	排他：CA64「日本文学史IV」
日文	CA75	日本文学史5	2	講義	2,3,4					専	関	A5,C1	日	中国, 高国	排他：CA65「日本文学史V」
日文	CA76	日本文学史6	2	講義	2,3,4					専	関	A5,C1	日	中国, 高国	排他：CA66「日本文学史VI」
日文	CB17	古典文学研究1	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CB18	古典文学研究2	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CB19	古典文学研究3	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CB20	古典文学研究4	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CB35	古典文学研究V	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	2022年度以前入学者対象
日文	CB36	古典文学研究VI	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	2022年度以前入学者対象

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
日文	CB39	児童文学研究	2	講義	2,3,4				可	専	-	C1		中国, 高国	
日文	CB42	近代文学研究 1	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CB43	近代文学研究 2	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CB44	近代文学研究 3	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CB45	近代文学研究 4	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CB75	近代文学研究 V	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	2022年度以前入学者対象
日文	CB76	近代文学研究 VI	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	2022年度以前入学者対象
日文	CB83	児童文学研究 II	2	講義	2,3,4				可	専	-	C1		中国, 高国	2022年度以前入学者対象
日文	CC15	古典文学演習 1 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			
日文	CC16	古典文学演習 1 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			前提(履修): CC15「古典文学演習 1 (1)」
日文	CC17	古典文学演習 2 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			
日文	CC18	古典文学演習 2 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			前提(履修): CC17「古典文学演習 2 (1)」
日文	CC19	古典文学演習 3 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			
日文	CC20	古典文学演習 3 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			前提(履修): CC19「古典文学演習 3 (1)」
日文	CC21	古典文学演習 4 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			
日文	CC22	古典文学演習 4 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			前提(履修): CC21「古典文学演習 4 (1)」
日文	CC45	近代文学演習 1 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			
日文	CC46	近代文学演習 1 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			前提(履修): CC45「近代文学演習 1 (1)」
日文	CC47	近代文学演習 2 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			
日文	CC48	近代文学演習 2 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			前提(履修): CC47「近代文学演習 2 (1)」
日文	CC49	近代文学演習 3 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			
日文	CC50	近代文学演習 3 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			前提(履修): CC49「近代文学演習 3 (1)」
日文	CC51	近代文学演習 4 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			
日文	CC52	近代文学演習 4 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1			前提(履修): CC51「近代文学演習 4 (1)」
日文	CC76	研究法実習 1 (1)	1	実習	4					専	-				
日文	CC77	研究法実習 1 (2)	1	実習	4					専	-				前提(履修): CC76「研究法実習 1 (1)」
日文	CC78	研究法実習 2 (1)	1	実習	4					専	-				
日文	CC79	研究法実習 2 (2)	1	実習	4					専	-				前提(履修): CC78「研究法実習 2 (1)」
日文	CC80	研究法実習 3 (1)	1	実習	4					専	-				
日文	CC81	研究法実習 3 (2)	1	実習	4					専	-				前提(履修): CC80「研究法実習 3 (1)」
日文	CC82	研究法実習 4 (1)	1	実習	4					専	-				
日文	CC83	研究法実習 4 (2)	1	実習	4					専	-				前提(履修): CC82「研究法実習 4 (1)」
日文	CD17	日本語の世界	2	講義	1,2	A				専	-	C1			
日文	CD18	日本語教育の世界	2	講義	1,2,3,4	B				○	○		日		
日文	CD19	日本語学概説 1	2	講義	2,3,4					専	関	C1	日	中国, 高国	排他: CD13「日本語学概説 I」
日文	CD20	日本語学概説 2	2	講義	2,3,4					専	関	C1	日	中国, 高国	排他: CD14「日本語学概説 II」
日文	CD24	日本語の文法 II	2	講義	2,3,4					専	-	C1	日	中国, 高国	2022年度以前入学者対象
日文	CD26	日本語の音声 II	2	講義	2,3,4					専	-	C1	日		2022年度以前入学者対象
日文	CD27	日本語史概説 1	2	講義	2,3,4					専	関	C1	日		排他: CD15「日本語史概説 I」
日文	CD28	日本語史概説 2	2	講義	2,3,4					専	関	C1	日		排他: CD16「日本語史概説 II」
日文	CD29	日本語の文法	2	講義	2,3,4					専	-	C1	日	中国, 高国	排他: CD23「日本語の文法 I」
日文	CD30	日本語の音声	2	講義	2,3,4					専	-	C1	日		排他: CD25「日本語の音声 I」
日文	CD56	日本語学研究 III	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	2022年度以前入学者対象
日文	CD57	日本語学研究 IV	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	2022年度以前入学者対象
日文	CD58	日本語学研究 1	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CD59	日本語学研究 2	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	C1		中国, 高国	
日文	CE16	日本語学演習 1 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1	日		
日文	CE17	日本語学演習 1 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1	日		前提(履修): CE16「日本語学演習 1 (1)」
日文	CE18	日本語学演習 2 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1	日		
日文	CE19	日本語学演習 2 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1	日		前提(履修): CE18「日本語学演習 2 (1)」
日文	CE20	日本語学演習 3 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1	日		
日文	CE21	日本語学演習 3 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1	日		前提(履修): CE20「日本語学演習 3 (1)」
日文	CE22	日本語学演習 4 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1	日		
日文	CE23	日本語学演習 4 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	C1	日		前提(履修): CE22「日本語学演習 4 (1)」
日文	CE33	研究法実習 5 (1)	1	実習	4					専	-				
日文	CE34	研究法実習 5 (2)	1	実習	4					専	-				前提(履修): CE33「研究法実習 5 (1)」
日文	CE35	研究法実習 6 (1)	1	実習	4					専	-				

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
日文	CE36	研究法実習 6 (2)	1	実習	4					専	-				前提 (履修) : CE35 「研究法実習 6 (1)」
日文	CE37	研究法実習 7 (1)	1	実習	4					専	-				
日文	CE38	研究法実習 7 (2)	1	実習	4					専	-				前提 (履修) : CE37 「研究法実習 7 (1)」
日文	CF12	日本語教授法 I (1)	2	演習	1,2,3,4	B				○	○		日		排他 : CF11 「日本語教授法 I」
日文	CF13	日本語教授法 I (2)	2	演習	1,2,3,4	B				○	○		日		前提 (履修) : CF12 「日本語教授法 I (1)」。排他 : CF11 「日本語教授法 I」
日文	CF22	日本語教授法 II (1)	2	演習	2,3,4					○	○		日		原則として、「日本語教授法 I (1)」「日本語教授法 I (2)」を修得済であること；ただし、「日本語教授法 I (1)」「日本語教授法 I (2)」と「日本語教授法 II (1)」「日本語教授法 II (2)」を同一年次に履修する場合は、「日本語教授法 I (1)」「日本語教授法 I (2)」の登録ボタンを先に押すこと。排他 : CF21 「日本語教授法 II」
日文	CF23	日本語教授法 II (2)	2	演習	2,3,4					○	○		日		原則として、「日本語教授法 I (1)」「日本語教授法 I (2)」を修得済であること；ただし、「日本語教授法 I (1)」「日本語教授法 I (2)」と「日本語教授法 II (1)」「日本語教授法 II (2)」を同一年次に履修する場合は、「日本語教授法 I (1)」「日本語教授法 I (2)」の登録ボタンを先に押すこと；「日本語教授法 II (1)」を履修済の者に限る。排他 : CF21 「日本語教授法 II」
日文	CF32	日本語教育実習 (1)	1	実習	3,4					○	○		日		自動登録科目；実習資格試験合格者で所定の 5 科目を修得済の者に限る。排他 : CF31 「日本語教育実習」
日文	CF33	日本語教育実習 (2)	1	実習	3,4					○	○		日		自動登録科目；実習資格試験合格者で所定の 5 科目を修得済の者に限る；前提 (履修) : CF32 「日本語教育実習 (1)」。排他 : CF31 「日本語教育実習」
日文	CG12	言語学概論 1	2	講義	2,3,4					専	関	C1	日		排他 : CG23 「言語学概論 I」
日文	CG13	言語学概論 2	2	講義	2,3,4					専	関	C1	日		排他 : CG24 「言語学概論 II」
日文	CG14	文芸創作入門 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	C1			
日文	CG15	文芸創作入門 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	C1			前提 (履修) : CG14 「文芸創作入門 (1)」
日文	CG16	日本文化研究 1	2	講義	2,3,4				可	専	-	A5.C1	日		2024年度以降、日本文化研究 2 と隔年開講とする
日文	CG17	日本文化研究 2	2	講義	2,3,4				可	専	-	A5.C1	日		2024年度以降、日本文化研究 1 と隔年開講とする
日文	CG18	文章表現法 (1)	2	演習	2,3,4					専	-		日	中国、高国	排他 : CG41 「文章表現法」
日文	CG19	文章表現法 (2)	2	演習	2,3,4					専	-		日	中国、高国	2022年度以前入学者対象；前提 (履修) : CG18 「文章表現法 (1)」。排他 : CG41 「文章表現法」
日文	CG20	書道	2	演習	2,3,4					専	-			中国	小学校教員免許状取得希望者の他学科生も対象とする。排他 : CG52 「書道 I」
日文	CG25	対照言語学 I	2	講義	2,3,4					専	関	C1	日		2022年度以前入学者対象
日文	CG26	対照言語学 II	2	講義	2,3,4					専	関	C1	日		2022年度以前入学者対象
日文	CG27	中国文学概論 1	2	講義	2,3,4					専	関	C1		中国、高国	排他 : CG64 「中国文学概論 I」
日文	CG28	中国文学概論 2	2	講義	2,3,4					専	関	C1		中国、高国	排他 : CG65 「中国文学概論 II」
日文	CG29	日本語日本文学特殊研究	2	講義	2,3,4				可	専	関	C1			2023年度以降入学者対象
日文	CG53	書道 II	2	演習	2,3,4					専	-			中国	2022年度以前入学者対象；2023年で閉講；小学校教員免許状取得希望者の他学科生も対象とする。
史学	DA35	教養としての歴史 1	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA36	教養としての歴史 2	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA37	教養としての歴史 3	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA38	教養としての歴史 4	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA39	教養としての歴史 5	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA40	教養としての歴史 6	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA41	教養としての歴史 7	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA42	教養としての歴史 8	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA43	教養としての歴史 9	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA44	教養としての歴史 10	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4			
史学	DA45	教養としての歴史 11	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1,D4			
史学	DA46	教養としての歴史 12	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1,D4			
史学	DA47	教養としての歴史 13	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1,D4			

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履 修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専 攻	課程	教職	特記事項
史学	DA48	教養としての歴史14	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1,D4			
史学	DA54	日本史概説	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	D1		中社, 高地	2022年度以前入学者は教職課程の単位としては使用不可；2022年度以前入学の社会・地歴の免許希望者は「日本史概説〈2〉」を履修すること
史学	DA64	外国史概説	2	講義	1,2,3,4					専	関	D4		中社, 高地	2022年度以前入学者は教職課程の単位としては使用不可；2022年度以前入学の社会・地歴の免許希望者は「外国史概説〈2〉」を履修すること
史学	DA73	地誌学	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1,D4		中社, 高地	2022年度以前入学者は教職課程の単位としては使用不可；2022年度以前入学の社会・地歴の免許希望者は「地誌学〈2〉」を履修すること；排他：DA33「地誌学1」、DA34「地誌学2」
史学	DB19	日本考古学	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1			
史学	DB20	日本民俗学	2	講義	1,2,3,4					専	関	D1			
史学	DB23	日本文化史1	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1		中社, 高地	
史学	DB24	日本文化史2	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB35	日本古代史1(1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D1			
史学	DB36	日本古代史1(2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D1			
史学	DB37	日本古代史2(1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB38	日本古代史2(2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB44	日本中世史1(1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D1			
史学	DB45	日本中世史1(2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D1			
史学	DB46	日本中世史2(1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB47	日本中世史2(2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB67	日本近世史1(1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D1			
史学	DB68	日本近世史1(2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D1			
史学	DB69	日本近世史2(1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB70	日本近世史2(2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB74	日本近現代史1(1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D1			
史学	DB75	日本近現代史1(2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D1			
史学	DB76	日本近現代史2(1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1		中社, 高地	
史学	DB77	日本近現代史2(2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB78	日本史フィールドワーク1	2	講義・ 実習	1,2,3,4				可	専	関	A5,D1			
史学	DB79	日本史フィールドワーク2	2	講義・ 実習	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB80	日本史料論1	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB81	日本史料論2	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB82	日本史料論3	2	講義	2,3,4					専	関	D1			
史学	DB83	日本史料論4	2	講義	2,3,4					専	関	D1			
史学	DB84	史料講読1	2	講義	2,3,4					専	関	D1			
史学	DB85	史料講読2	2	講義	2,3,4					専	関	D1			
史学	DB86	史料講読3	2	講義	2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DB87	史料講読4	2	講義	2,3,4				可	専	関	D1			
史学	DC26	日本史演習I(1)	2	演習	2					専	-				史学(日本史コース)の学生に限る
史学	DC27	日本史演習I(2)	2	演習	2					専	-				
史学	DC28	日本史演習II-1(1)	2	演習	3,4					専	関	D1			
史学	DC29	日本史演習II-1(2)	2	演習	3,4					専	関	D1			
史学	DC30	日本史演習II-2(1)	2	演習	3,4					専	関	D1			前提(修得):「日本史演習I」；日本史コース在籍者以外の履修については条件あり
史学	DC31	日本史演習II-2(2)	2	演習	3,4					専	関	D1			
史学	DC32	日本史演習II-3(1)	2	演習	3,4					専	関	D1			
史学	DC33	日本史演習II-3(2)	2	演習	3,4					専	関	D1			
史学	DC34	日本史演習II-4(1)	2	演習	3,4					専	関	D1			
史学	DC35	日本史演習II-4(2)	2	演習	3,4					専	関	D1			
史学	DC36	日本史演習III-1(1)	2	演習	3,4					専	関				
史学	DC37	日本史演習III-1(2)	2	演習	3,4					専	関				
史学	DC38	日本史演習III-2(1)	2	演習	3,4					専	関				
史学	DC39	日本史演習III-2(2)	2	演習	3,4					専	関				
史学	DC40	日本史演習III-3(1)	2	演習	3,4					専	関				前提(修得):「日本史演習II」
史学	DC46	日本史演習III-3(2)	2	演習	3,4					専	関				
史学	DC47	日本史演習III-4(1)	2	演習	3,4					専	関				
史学	DC48	日本史演習III-4(2)	2	演習	3,4					専	関				
史学	DD24	中国史	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4		中社, 高地	
史学	DD25	朝鮮史	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4			
史学	DD26	東南アジア史	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4			
史学	DD27	西アジア史(1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4			
史学	DD28	西アジア史(2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4		中社, 高地	
史学	DD29	南アジア史	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4			

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
史学	DD30	古代地中海世界	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF24	ヨーロッパ中世史 1 (1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4		中社, 高地	
史学	DF25	ヨーロッパ中世史 1 (2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF26	ヨーロッパ中世史 2 (1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF27	ヨーロッパ中世史 2 (2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF28	ヨーロッパ近代史 1 (1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4		中社, 高地	
史学	DF29	ヨーロッパ近代史 1 (2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4			
史学	DF30	ヨーロッパ近代史 2 (1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF32	ヨーロッパ近代史 2 (2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF34	ヨーロッパ現代史 1 (1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4		中社, 高地	
史学	DF35	ヨーロッパ現代史 1 (2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4			
史学	DF36	ヨーロッパ現代史 2 (1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF37	ヨーロッパ現代史 2 (2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF38	ロシア史	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4			
史学	DF39	アメリカ史 (1)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF40	アメリカ史 (2)	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DF45	ラテンアメリカ史	2	講義	1,2,3,4				可	専	関	A5,D4			
史学	DH23	世界史文献講読 I (1)	2	講義	2					専	-				史学 (世界史コース) の学生に限る
史学	DH24	世界史文献講読 I (2)	2	講義	2					専	-				
史学	DH25	世界史文献講読 II - 1 (1)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH26	世界史文献講読 II - 1 (2)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH27	世界史文献講読 II - 2 (1)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH28	世界史文献講読 II - 2 (2)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH29	世界史文献講読 II - 3 (1)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH30	世界史文献講読 II - 3 (2)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH31	世界史文献講読 II - 4 (1)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH32	世界史文献講読 II - 4 (2)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH33	世界史文献講読 II - 5 (1)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH34	世界史文献講読 II - 5 (2)	2	講義	2,3,4				可	専	関	D4			
史学	DH53	世界史演習 I (1)	2	演習	2					専	-				史学 (世界史コース) の学生に限る
史学	DH54	世界史演習 I (2)	2	演習	2					専	-				
史学	DH67	世界史演習 II - 1 (1)	2	演習	3,4				可	専	-	D4			
史学	DH68	世界史演習 II - 1 (2)	2	演習	3,4				可	専	-	D4			
史学	DH69	世界史演習 II - 2 (1)	2	演習	3,4				可	専	関	D4			
史学	DH70	世界史演習 II - 2 (2)	2	演習	3,4				可	専	関	D4			
史学	DH77	世界史演習 II - 3 (1)	2	演習	3,4				可	専	関	D4			
史学	DH78	世界史演習 II - 3 (2)	2	演習	3,4				可	専	関	D4			
史学	DH79	世界史演習 II - 4 (1)	2	演習	3,4				可	専	関	D4			
史学	DH80	世界史演習 II - 4 (2)	2	演習	3,4				可	専	関	D4			
史学	DH81	世界史演習 II - 5 (1)	2	演習	3,4				可	専	関	D4			
史学	DH82	世界史演習 II - 5 (2)	2	演習	3,4				可	専	関	D4			
史学	DH83	世界史演習 II - 6 (1)	2	演習	3,4				可	専	-	D4			
史学	DH84	世界史演習 II - 6 (2)	2	演習	3,4				可	専	-	D4			
史学	DH85	世界史演習 III - 1 (1)	2	演習	4				可	専	-				
史学	DH86	世界史演習 III - 1 (2)	2	演習	4				可	専	-				
史学	DH87	世界史演習 III - 2 (1)	2	演習	4				可	専	関				
史学	DH88	世界史演習 III - 2 (2)	2	演習	4				可	専	関				
史学	DH89	世界史演習 III - 3 (1)	2	演習	4				可	専	関				
史学	DH90	世界史演習 III - 3 (2)	2	演習	4				可	専	関				
史学	DH91	世界史演習 III - 4 (1)	2	演習	4				可	専	関				
史学	DH92	世界史演習 III - 4 (2)	2	演習	4				可	専	関				
史学	DH93	世界史演習 III - 5 (1)	2	演習	4				可	専	関				
史学	DH94	世界史演習 III - 5 (2)	2	演習	4				可	専	関				
史学	DH95	世界史演習 III - 6 (1)	2	演習	4				可	専	-				
史学	DH96	世界史演習 III - 6 (2)	2	演習	4				可	専	-				
史学	DJ21	博物館概論	2	講義	1,2,3,4					関	関				
史学	DJ26	博物館情報・メディア論	2	講義	2,3,4					関	関				
史学	DJ27	博物館教育論	2	講義	2,3,4					関	関				
史学	DJ28	博物館経営論	2	講義	1,2,3,4					関	関				排他: DJ24「博物館各論1」
史学	DJ29	博物館展示論	2	講義	1,2,3,4					関	関				排他: DJ24「博物館各論1」
史学	DJ30	博物館資料論	2	講義	1,2,3,4					関	関				排他: DJ25「博物館各論2」
史学	DJ32	博物館資料保存論	2	講義	1,2,3,4					関	関				排他: DJ25「博物館各論2」
史学	DJ41	博物館実習	3	実習	4					資	資		学		自動登録科目; 学外の実務実習単位を含む; 分野系列: 資格関係分野
人間	EA01	対人社会心理学 1	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人間	EA05	マスコミ社会心理学 1	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人間	EA08	メディアと社会心理	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			排他: EA07「マス・コミュニケーション論」
人間	EA10	社会心理学	2	講義	2,3,4					専	関	E1			排他: EA16「組織心理学1」

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
人関	EA16	組織心理学 1	2	講義	2,3,4					専	関	E1			排他：EC01「人格心理学 1」 EB15「社会心理学特講 5」
人関	EB01	社会心理学特講 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EB02	社会心理学特講 2	2	講義	3,4					専	心のみ関。 その他は 履修不可	E1			
人関	EB13	社会心理学特講 3	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EB14	社会心理学特講 4	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EB15	社会心理学特講 5	2	講義	2,3,4					専	関	E1			排他：EA16「組織心理学 1」
人関	EB16	社会心理学特講 6	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EB17	社会心理学特講 7	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EB18	社会心理学特講 8	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EB19	社会心理学特講 9	2	講義	3,4					専	関	E1			排他：EB24「社会心理学 特講14」
人関	EB20	社会心理学特講10	2	講義	2,3,4					専	関	E1			排他：EB25「社会心理学 特講15」
人関	EB21	社会心理学特講11	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EB22	社会心理学特講12	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EB92	社会心理学論文演習	4	実習	3,4					専	-				
人関	EB93	情報活用の社会的実践	2	実習	3,4					専	-				
人関	EE11	社会学	4	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			教職課程の単位としては使用 不可
人関	EE17	社会学	2	講義	1,2,3,4	B				専	関		中社, 高公		
人関	EE21	家族社会学 1	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EE22	家族社会学 2	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EE23	家族社会学	2	講義	2,3,4					専	関	E1			排他：EE21「家族社会学 1」
人関	EE32	職業社会学 1	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EE33	職業社会学 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EE34	職業社会学	2	講義	2,3,4					専	関	E1			排他：EE32「職業社会学 1」
人関	EE77	ファッションの社会学	2	講義	2,3,4					専	関	E1			排他：EE76「モードの社会学」
人関	EE91	社会学特講 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EE92	社会学特講 2	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EE93	社会学特講 3	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EE94	社会学特講 4	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EE95	人間関係特講 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EE96	人間関係特講 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			
人関	EE97	社会学特講 5	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EE98	社会学特講 6	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人関	EF01	文化人類学 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5:E1			
人関	EF03	文化人類学	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	E1			排他：EF01「文化人類学 1」
人関	EF12	文化人類学特講 1	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人関	EF13	文化人類学特講 4	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人関	EG12	文化人類学特講 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5:E1			
人関	EG13	文化人類学特講 3	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5:E1			
人関	EG15	文化人類学特講 5	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人関	EG16	文化人類学特講 6	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人関	EG17	文化人類学特講 7	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5:E1			
人関	EG22	文化人類学特講11	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人関	EH01	社会調査実習 1	4	実習	3,4					専	-				
人関	EH02	社会調査実習 2	4	実習	3,4					専	-				
人関	EH03	社会調査実習 3	4	実習	3,4					専	-				
人関	EH04	社会調査実習 1 (1)	2	実習	3,4					専	-				
人関	EH05	社会調査実習 1 (2)	2	実習	3,4					専	-				前提（履修）：EH04「社会 調査実習 1 (1)」
人関	EH06	社会調査実習 2 (1)	2	実習	3,4					専	-				
人関	EH07	社会調査実習 2 (2)	2	実習	3,4					専	-				前提（履修）：EH06「社会 調査実習 2 (1)」
人関	EH08	社会調査実習 3 (1)	2	実習	3,4					専	-				
人関	EH09	社会調査実習 3 (2)	2	実習	3,4					専	-				前提（履修）：EH08「社会 調査実習 3 (1)」
人関	EH10	社会心理学論文演習 (1)	2	実習	3,4					専	-				
人関	EH12	社会心理学論文演習 (2)	2	実習	3,4					専	-				前提（履修）：EH10「社会 心理学論文演習 (1)」
人関	EH21	社会調査入門	2	講義	2,3,4					専	-	E1			
人関	EH24	社会調査の技法	2	講義	2					専	-	E1			排他：EH22「社会調査の 技法 1」EH23「社会調査 の技法 2」；前提（修得）： 「社会調査入門」（人関・心 理以外の学科生）
人関	EH30	社会統計学	2	講義	2,3,4					専	-	E1			
人関	EH31	データ分析の基礎	2	講義	3,4					専	-				
人関	EH32	多変量解析法	2	講義	3,4					専	-				

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
人間	EH33	質的調査法 1	2	講義	2,3,4					専	-	E1			人間関係学科・心理学科以外の学生が履修する場合、人間関係学科開講の「社会調査入門」を前年度までに修得済みであること
人間	EH34	質的調査法 2	2	講義	2,3,4					専	-	E1			
人間	EH35	質的調査法 3	2	講義・演習	2,3,4					専	-	E1			排他：EE40「キャリア形成の社会学」；前提(修得)：「社会調査入門」(人間・心理以外の学科生)
人間	EK01	比較文化宗教学 1	2	講義	2,3,4					専	関	E1			教職課程の単位としては使用不可
人間	EL12	自然地理学 1	2	講義	2,3,4					専	関	E1			偶数年度開講、教職課程の単位としては使用不可。
人間	EL13	自然地理学 2	2	講義	2,3,4					専	関	E1			奇数年度開講、教職課程の単位としては使用不可。
人間	EL14	自然地理学	2	講義	2,3,4					専	関	E1		中社、高地	
人間	EL21	人文地理学 1	2	講義	2,3,4					専	関	E1			偶数年度開講；教職課程の単位としては使用不可。
人間	EL22	人文地理学 2	2	講義	2,3,4					専	関	E1			奇数年度開講；教職課程の単位としては使用不可。
人間	EL23	人文地理学	2	講義	2,3,4					専	関	E1		中社、高地	
人間	EN01	人間関係概論 1	2	講義	2					専	-				排他：EA01「対人社会心理学 1」
人間	EN02	人間関係概論 2	2	講義	2					専	-				2023年度以降入学者対象
人間	EN03	人間関係概論 3	2	講義	2					専	-				排他：EP01「比較文化学 1」
人間	EN11	人間関係共通演習	2	演習	2					専	-				
人間	EP01	比較文化学 1	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP02	比較文化学 2	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP11	比較文化学特講 1	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP12	比較文化学特講 2	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP13	比較文化学特講 3	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP14	比較文化学特講 4	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP15	比較文化学特講 5	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP16	比較文化学特講 6	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP17	比較文化学特講 7	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP18	比較文化学特講 8	2	講義	2,3,4					専	関	E1			
人間	EP19	観光と文化	2	講義	1,2,3,4		B			専	関	A5:E1			
人間	EP20	開発と文化	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	EP21	環境と人間	2	講義	2,3,4					専	関	A5:E1			
人間	ER01	対人社会心理学演習 1-1	2	演習	3					専	-				
人間	ER02	対人社会心理学演習 1-2	2	演習	3					専	-				
人間	ER03	対人社会心理学演習 2-1	2	演習	4					専	-				
人間	ER04	対人社会心理学演習 2-2	2	演習	4					専	-				
人間	ER05	マスコミ社会心理学演習 1-1	2	演習	3					専	-				
人間	ER06	マスコミ社会心理学演習 1-2	2	演習	3					専	-				
人間	ER07	マスコミ社会心理学演習 2-1	2	演習	4					専	-				
人間	ER08	マスコミ社会心理学演習 2-2	2	演習	4					専	-				
人間	ER13	家族社会学演習 1-1	2	演習	3					専	-				
人間	ER14	家族社会学演習 1-2	2	演習	3					専	-				
人間	ER15	家族社会学演習 2-1	2	演習	4					専	-				
人間	ER16	家族社会学演習 2-2	2	演習	4					専	-				
人間	ER17	職業社会学演習 1-1	2	演習	3					専	-				
人間	ER18	職業社会学演習 1-2	2	演習	3					専	-				
人間	ER19	職業社会学演習 2-1	2	演習	4					専	-				
人間	ER20	職業社会学演習 2-2	2	演習	4					専	-				
人間	ER21	文化人類学演習 1-1	2	演習	3					専	-				
人間	ER22	文化人類学演習 1-2	2	演習	3					専	-				
人間	ER23	文化人類学演習 2-1	2	演習	4					専	-				
人間	ER24	文化人類学演習 2-2	2	演習	4					専	-				
人間	ER25	比較文化学演習 1-1	2	演習	3					専	-				
人間	ER26	比較文化学演習 1-2	2	演習	3					専	-				
人間	ER27	比較文化学演習 2-1	2	演習	4					専	-				
人間	ER28	比較文化学演習 2-2	2	演習	4					専	-				
人間	ER29	組織心理学演習 1-1	2	演習	3					専	-				
人間	ER30	組織心理学演習 1-2	2	演習	3					専	-				
人間	ER31	組織心理学演習 2-1	2	演習	4					専	-				
人間	ER32	組織心理学演習 2-2	2	演習	4					専	-				
人間	ER33	社会心理学演習 I-1 (1)	2	演習	3					専	-				
人間	ER34	社会心理学演習 I-1 (2)	2	演習	3					専	-				
人間	ER35	社会心理学演習 I-2 (1)	2	演習	3					専	-				
人間	ER36	社会心理学演習 I-2 (2)	2	演習	3					専	-				
人間	ER37	社会心理学演習 I-3 (1)	2	演習	3					専	-				
人間	ER38	社会心理学演習 I-3 (2)	2	演習	3					専	-				

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履 修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専 攻	課程	教職	特記事項
人間	ER39	社会心理学演習Ⅱ-1(1)	2	演習	4					専	-				
人間	ER40	社会心理学演習Ⅱ-1(2)	2	演習	4					専	-				
人間	ER41	社会心理学演習Ⅱ-2(1)	2	演習	4					専	-				
人間	ER42	社会心理学演習Ⅱ-2(2)	2	演習	4					専	-				
人間	ER43	社会心理学演習Ⅱ-3(1)	2	演習	4					専	-				
人間	ER44	社会心理学演習Ⅱ-3(2)	2	演習	4					専	-				
人間	ER45	社会学演習Ⅰ-1(1)	2	演習	3					専	-				
人間	ER46	社会学演習Ⅰ-1(2)	2	演習	3					専	-				
人間	ER47	社会学演習Ⅰ-2(1)	2	演習	3					専	-				
人間	ER48	社会学演習Ⅰ-2(2)	2	演習	3					専	-				
人間	ER49	社会学演習Ⅰ-3(1)	2	演習	3					専	-				2023年度以降入学者対象
人間	ER50	社会学演習Ⅰ-3(2)	2	演習	3					専	-				
人間	ER51	社会学演習Ⅱ-1(1)	2	演習	4					専	-				
人間	ER52	社会学演習Ⅱ-1(2)	2	演習	4					専	-				
人間	ER53	社会学演習Ⅱ-2(1)	2	演習	4					専	-				
人間	ER54	社会学演習Ⅱ-2(2)	2	演習	4					専	-				
人間	ER55	社会学演習Ⅱ-3(1)	2	演習	4					専	-				2023年度以降入学者対象
人間	ER56	社会学演習Ⅱ-3(2)	2	演習	4					専	-				
人間	ER57	文化人類学演習Ⅰ-1(1)	2	演習	3					専	-				
人間	ER58	文化人類学演習Ⅰ-1(2)	2	演習	3					専	-				
人間	ER59	文化人類学演習Ⅰ-2(1)	2	演習	3					専	-				
人間	ER60	文化人類学演習Ⅰ-2(2)	2	演習	3					専	-				
人間	ER61	文化人類学演習Ⅱ-1(1)	2	演習	4					専	-				
人間	ER62	文化人類学演習Ⅱ-1(2)	2	演習	4					専	-				
人間	ER63	文化人類学演習Ⅱ-2(1)	2	演習	4					専	-				
人間	ER64	文化人類学演習Ⅱ-2(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GB13	法学Ⅰ	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	G1		中社, 高公	2022年度以前入学者は教職課程の単位としては使用不可；2022年度以前入学の社会・公民の免許希望者は「法学Ⅰ(2)」を履修すること
国際	GB14	法学Ⅱ	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	G1			偶数年度開講科目
国際	GC81	国際政治演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				2018年度以降入学者は国際(グローバル)の学生に限る
国際	GC82	国際政治演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GC91	国際政治演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GC92	国際政治演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GD22	国際経済学Ⅰ	2	講義	2,3,4					専	関	G1			奇数年度開講科目
国際	GD23	国際経済学Ⅱ	2	講義	2,3,4					専	関	G1			偶数年度開講科目
国際	GD32	ICT社会論	2	講義	2,3,4					専	関	A5;G1			
国際	GD71	国際経済演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				2018年度以降入学者は国際(グローバル)の学生に限る
国際	GD72	国際経済演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GD81	国際経済演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GD82	国際経済演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GH11	フランス文化演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				2018年度以降入学者は国際(異文化)の学生に限る
国際	GH12	フランス文化演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GH13	フランス文化演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GH14	フランス文化演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GH45	中国社会文化演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GH46	中国社会文化演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GH47	中国社会文化演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GH48	中国社会文化演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GH85	国際比較法演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GH86	国際比較法演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GH87	国際比較法演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GH88	国際比較法演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GH89	表象文化論演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GH90	表象文化論演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GH91	表象文化論演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GH92	表象文化論演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GH93	言語コミュニケーション演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GH94	言語コミュニケーション演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GH95	言語コミュニケーション演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GH96	言語コミュニケーション演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GJ25	フランス語コミュニケーション(1)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象
国際	GJ26	フランス語コミュニケーション(2)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象；履修順序に関する共通ルールに従うこと
国際	GJ35	ドイツ語コミュニケーション(1)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象
国際	GJ36	ドイツ語コミュニケーション(2)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象；履修順序に関する共通ルールに従うこと

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
国際	GJ45	スペイン語コミュニケーション(1)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象
国際	GJ46	スペイン語コミュニケーション(2)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者 対象；履修順序に関する共 通ルールに従うこと
国際	GJ55	中国語コミュニケーション(1)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象
国際	GJ56	中国語コミュニケーション(2)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者 対象；履修順序に関する共 通ルールに従うこと
国際	GJ65	コリア語コミュニケーション(1)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象
国際	GJ66	コリア語コミュニケーション(2)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者 対象；履修順序に関する共 通ルールに従うこと
国際	GK11	グローバル社会概論1	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目(グローバル の2年次生のみ)；2022年 度以前入学者対象
国際	GK12	グローバル社会概論2	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目(グローバルの 2年次生のみ)；2023年度 以降入学者対象；《グロー バル社会概論1》と同一科 目
国際	GK13	グローバル社会概論(1)	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目(グローバルの 2年次生のみ)；2023年度 以降入学者対象；《グロー バル社会概論2》と同一科 目
国際	GK14	グローバル社会概論(2)	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目(グローバルの 2年次生のみ)；2023年度 以降入学者対象；《グロー バル社会概論1》と同一科 目
国際	GK61	Global Communication in English 1	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目(グローバル の2年次生のみ)；2022年 度以前入学者対象
国際	GK62	Global Communication in English 2	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目(グローバル の2年次生のみ)；2023年 度以降入学者対象；《Glob al Communication in Engli sh 1》と同一科目
国際	GK63	Global Communication in English (1)	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目(グローバル の2年次生のみ)；2023年 度以降入学者対象；《Glob al Communication in Engli sh 2》と同一科目
国際	GK64	Global Communication in English (2)	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目(グローバル の2年次生のみ)；2023年 度以降入学者対象；《Glob al Communication in Engli sh 1》と同一科目
国際	GL12	Talking about Global Issues	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度以降入学者対象； GLP選択必修科目
国際	GL14	Project Planning for International Cooperation	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者 対象
国際	GL15	Japan in the Global Context	2	講義	2,3,4					専	関	G1			
国際	GL18	情報処理入門1	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度以前入 学者対象
国際	GL19	情報処理入門2	2	講義	2,3,4					専	関	G1			
国際	GL20	国際協力プロジェクト実習	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象； 《Project Planning for International Cooperation》 と同一科目
国際	GL21	情報処理入門I	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象； 《情報処理入門2》と同一 科目；前提(履修)：GL21 「情報処理入門I」
国際	GL22	情報処理入門II	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象； 《情報処理入門1》と同一 科目；前提(履修)：GL22 「情報処理入門II」
国際	GM11	国際政治学1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2018年度以降入学者対象
国際	GM12	国際政治学2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2018年度以降入学者対象； 偶数年度開講科目
国際	GM15	政治学1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1	中社、高公		2018年度以降入学者対象；教 職課程の単位としては使用 不可；2018年度以降入学 の社会・公民の免許希望 者は「政治学1(2)」を履 修すること
国際	GM16	政治学2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2018年度以降入学者対象；教 職課程の単位としては使用 不可；2018年度以降入学 の社会・公民の免許希望 者は「政治学2(2)」を履 修すること；奇数年度開 講科目
国際	GM17	マクロ経済学	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1	中社、高公		2018年度以降入学者対象；教 職課程の単位としては使用 不可；2018年度以降入学 の社会・公民の免許希望 者は「マクロ経済学(2)」 を履修すること
国際	GM18	ミクロ経済学	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			奇数年度開講科目
国際	GM19	経済政策論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1	中社、高公		2018年度以降入学者対象； 教職課程の単位としては使 用不可；2018年度以降入 学の社会・公民の免許希 望者は「経済政策論(2)」 を履修すること
国際	GM20	開発経済論	2	講義	2,3,4					専	関	A5:G1			偶数年度開講科目

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履 修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専 攻	課程	教職	特記事項
国際	GM25	ソーシャルビジネス論	2	講義	2,3,4					専	関	G1			偶数年度開講科目
国際	GM31	国際機関論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2018年度～2022年度入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GM37	国際法	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			
国際	GM45	UNESCO and the World Heritage Convention	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2022年度以前入学者対象
国際	GM46	International Policies for Cultural Sustainability	2	講義	2,3,4					専	関	A5;G1			2018年度～2022年度入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GM47	国際文化協力論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《UNESCO and the World Heritage Convention》と同一科目
国際	GM48	国際文化政策論 1	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《文化遺産学》と同一科目
国際	GM49	国際文化政策論 2	2	講義	2,3,4					専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《International Policies for Cultural Sustainability》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GM50	国際協力基礎ワークショップ	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《文化多様性実習》と同一科目；偶数年度開講科目
国際	GM51	文化多様性実習	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	A5;G1			2018年度～2022年度入学者対象；偶数年度開講科目
国際	GM52	文化遺産学	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象
国際	GM55	難民・移民論	2	講義	2,3,4					専	関	A5;G1			偶数年度開講科目
国際	GM56	EU論	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《地域研究 2》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GM57	現代人権論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2022年度以前入学者対象
国際	GM58	世界の人権	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2022年度以前入学者対象
国際	GM59	国際問題ワークショップ 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《国際問題特殊講義 1》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GM60	国際問題ワークショップ 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《国際問題特殊講義 2》と同一科目；偶数年度開講科目
国際	GM61	国際問題特殊講義 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2018年度～2022年度入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GM62	国際問題特殊講義 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2018年度～2022年度入学者対象；偶数年度開講科目
国際	GM63	NGO基礎ワークショップ	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《NGOと市民社会》と同一科目
国際	GM64	環境学 1	2	講義	2,3,4					専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《食と環境》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GM65	環境学 2	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《資源と環境》と同一科目；偶数年度開講科目
国際	GM66	中国の法と政治	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2022年度以前入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GM67	国際機構論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《国際機関論》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GM68	東アジア地域論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《中国の法と政治》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GM69	東南アジア地域論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《地域研究 1》と同一科目；偶数年度開講科目
国際	GM70	中東地域論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《地域研究 3》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GM71	地域研究 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2022年度以前入学者対象；偶数年度開講科目
国際	GM72	地域研究 2	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2022年度以前入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GM73	地域研究 3	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2022年度以前入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GM74	地域研究 4	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2022年度以前入学者対象；偶数年度開講科目
国際	GM75	地域研究 5	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2022年度以前入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GM76	ラテンアメリカ地域論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《地域研究 4》と同一科目；偶数年度開講科目
国際	GM77	アフリカ地域論	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5;G1			2023年度以降入学者対象；《地域研究 5》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GM78	現代人権論 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《世界の人権》と同一科目

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
国際	GM79	現代人権論 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象； 《現代人権論》と同一科目
国際	GM81	国際環境論 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5:G1			
国際	GM82	国際環境論 2	2	講義	2,3,4					専	関	G1			
国際	GM83	NGOと市民社会	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2022年度以前入学者対象
国際	GM84	食と環境	2	講義	2,3,4					専	関	A5:G1			2022年度以前入学者対象； 奇数年度開講科目
国際	GM85	資源と環境	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2022年度以前入学者対象； 偶数年度開講科目
国際	GN60	異文化コミュニケーション概論	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目（異文化の2 年次生のみ）；2022年度以前 入学者対象；
国際	GN61	English Communication I (1)	2	講義	2					専	-				履修順序に関する 共通ルールに従うこと
国際	GN62	English Communication I (2)	2	講義	2					専	-		G		自動登録科目（異文化の2 年次生のみ）；2022年度以前 入学者対象；
国際	GN63	English Communication II (1)	2	講義	3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者 対象；GN67《English for Global Communicators》と同一科目； GLP選択必修科目
国際	GN65	異文化コミュニケーション概 論 (1)	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目（異文化の2 年次生のみ）；2023年度以降 入学者対象；《異文化コミュニ ケーション概論》と同一科目
国際	GN66	異文化コミュニケーション概 論 (2)	2	講義	2,3,4					専	-				自動登録科目（異文化の2 年次生のみ）；2023年度以 降入学者対象；《留学プロ ジェクト1》と同一科目
国際	GN67	English for Global Communicators	2	講義	3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象； 《English Communication II (1)》と同一 科目；GLP選択必修科目、排他； GL11「Global Agenda and Trends」
国際	GP11	グローバル・メディア I (1)	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			
国際	GP12	グローバル・メディア I (2)	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5:G1			2022年度以前入学者対象
国際	GP13	グローバル・メディア II (1)	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5:G1			
国際	GP14	グローバル・メディア II (2)	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5:G1			
国際	GP15	グローバル・メディア III (1)	2	講義	2,3,4				可	専	関	A5:G1			2022年度以前入学者対象； 奇数年度開講科目
国際	GP16	グローバル・メディア III (2)	2	講義	2,3,4				可	専	関	G1			2022年度以前入学者対象； 偶数年度開講科目
国際	GP17	グローバル・メディア IV (1)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2022年度以前入学者対象
国際	GP18	グローバル・メディア IV (2)	2	講義	2,3,4				可	専	関	A5:G1			2018年度～2022年度入学者 対象；奇数年度開講科目
国際	GP19	グローバル・メディア V (1)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2022年度以前入学者対象
国際	GP21	グローバル・メディア VI (1)	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			
国際	GP22	グローバル・メディア VI (2)	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2022年度以前入学者対象； 偶数年度開講科目
国際	GP23	グローバル・メディア VII (1)	2	講義	2,3,4				可	専	関	G1			
国際	GP24	メディアと社会 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア I (1)》と 同一科目
国際	GP25	メディアと社会 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア II (1)》と 同一科目
国際	GP26	メディアと社会 3	2	講義	2,3,4				可	専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア IV (2)》と 同一科目；奇数年度開講科目
国際	GP27	メディアと社会 4	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア VI (1)》と 同一科目；偶数年度開講科目
国際	GP28	国際メディア論 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア I (2)》と 同一科目
国際	GP29	国際メディア論 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア II (2)》と 同一科目
国際	GP30	国際ニュースワークショップ 1	2	講義	2,3,4				可	専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア III (1)》と 同一科目；奇数年度開講科目
国際	GP31	国際ニュースワークショップ 2	2	講義	2,3,4				可	専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア III (2)》と 同一科目；偶数年度開講科目
国際	GP32	メディアワークショップ 1	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア IV (1)》と 同一科目
国際	GP33	メディアワークショップ 2	2	講義	2,3,4				可	専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア VII (1)》と 同一科目；偶数年度開講科目
国際	GP34	異文化メディア論 1	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グ ローバル・メディア V (1)》と 同一科目

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
国際	GP35	異文化メディア論 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	G1			2023年度以降入学者対象：《グローバル・メディアVI (2)》と同一科目；偶数年度開講科目
国際	GP36	比較文化論	2	講義	2,3,4					専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象：《グローバル・コミュニケーションI (1)》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GP37	交渉と対話	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象：《グローバル・コミュニケーションIII (2)》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GP38	言語とアイデンティティ	2	講義	2,3,4					専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象：《グローバル・コミュニケーションIV (1)》と同一科目
国際	GP39	グローバル社会と言語	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象：《グローバル・コミュニケーションIV (2)》と同一科目；偶数年度開講科目
国際	GP40	異文化理解とコミュニケーション	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象：《グローバル・コミュニケーションVI (2)》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GP41	グローバル・コミュニケーションI (1)	2	講義	2,3,4					専	関	A5;G1			2022年度以前入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GP45	グローバル・コミュニケーションIII (1)	2	講義	2,3,4					専	関	A5;G1			2018年度～2022年度入学者対象
国際	GP46	グローバル・コミュニケーションIII (2)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GP47	グローバル・コミュニケーションIV (1)	2	講義	2,3,4					専	関	A5;G1			2022年度以前入学者対象
国際	GP48	グローバル・コミュニケーションIV (2)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2022年度以前入学者対象；偶数年度開講科目
国際	GP52	グローバル・コミュニケーションVI (2)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2022年度以前入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GP53	リーダーシップ論	2	講義	2,3,4					専	関	A5,G1			《グローバル・コミュニケーションIII (1)》と同一科目；年度によりグローバル共生副専攻修了要件外となる(詳細はグローバル共生副専攻カリキュラムページを参照)；排他：GL13「グローバル・リーダーシップ論」
国際	GP54	フランスの社会と文化 1	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グローバル・スタディーズI (1)》と同一科目
国際	GP55	フランスの社会と文化 2	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グローバル・スタディーズI (2)》と同一科目
国際	GP56	フランス事情 1	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グローバル・スタディーズII (1)》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GP57	フランス事情 2	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グローバル・スタディーズII (2)》と同一科目；偶数年度開講科目
国際	GP58	東アジアの社会と文化 1	2	講義	1,2,3,4	A			可	専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象；《グローバル・スタディーズIII (1)》と同一科目；奇数年度開講科目
国際	GP59	東アジアの社会と文化 2	2	講義	1,2,3,4	A			可	専	関	A5,G1			2023年度以降入学者対象；《グローバル・スタディーズIII (2)》と同一科目；偶数年度開講科目
国際	GP60	現代家族法 1	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グローバル・スタディーズVII (1)》と同一科目
国際	GP61	現代家族法 2	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2023年度以降入学者対象；《グローバル・スタディーズVII (2)》と同一科目
国際	GP71	グローバル・スタディーズI (1)	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象
国際	GP72	グローバル・スタディーズI (2)	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	G1			
国際	GP73	グローバル・スタディーズII (1)	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GP74	グローバル・スタディーズII (2)	2	講義	1,2,3,4	B			可	専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象；偶数年度開講科目
国際	GP75	グローバル・スタディーズIII (1)	2	講義	1,2,3,4	A			可	専	関	A5;G1			2018年度～2022年度入学者対象；奇数年度開講科目
国際	GP76	グローバル・スタディーズIII (2)	2	講義	1,2,3,4	A			可	専	関	A5;G1			2018年度～2022年度入学者対象；偶数年度開講科目
国際	GP83	グローバル・スタディーズVII (1)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			2018年度～2022年度入学者対象
国際	GP84	グローバル・スタディーズVII (2)	2	講義	2,3,4					専	関	G1			
国際	GP91	留学プロジェクト 1	2	講義・ 演習	2,3,4					専	-				自動登録科目(異文化の2年次生のみ)；2022年度以前入学者対象

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
国際	GP92	留学プロジェクト2	2	講義・演習	3,4					専	-				2018年度～2022年度入学者対象；国際（異文化）の学生に限る
国際	GP94	海外異文化研究1	2	講義・演習	2,3,4					専	-				2018年度以降入学者対象；国際（異文化）の学生に限る；詳細は学科の指導に従うこと
国際	GP95	海外異文化研究2	2	講義・演習	2,3,4					専	-				
国際	GT11	国際文化協力演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				2018年度以降入学者は国際（グローバル）の学生に限る
国際	GT12	国際文化協力演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GT13	国際文化協力演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GT14	国際文化協力演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GT31	国際人権論演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GT32	国際人権論演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GT33	国際人権論演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GT34	国際人権論演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GT41	国際環境論演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GT42	国際環境論演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GT43	国際環境論演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GT44	国際環境論演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
国際	GT61	国際メディア論演習Ⅰ(1)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GT62	国際メディア論演習Ⅰ(2)	2	演習	3,4					専	-				
国際	GT63	国際メディア論演習Ⅱ(1)	2	演習	4					専	-				
国際	GT64	国際メディア論演習Ⅱ(2)	2	演習	4					専	-				
哲学	HA12	哲学入門Ⅰ	2	講義	2					専	-				排他：HA13「哲学入門Ⅱ」
哲学	HA14	哲学基礎演習	2	演習	2					専	-				
哲学	HA15	哲学概論1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	偶数年度開講；排他：HA21「哲学概論Ⅰ」	
哲学	HA16	哲学概論2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	奇数年度開講；排他：HA22「哲学概論Ⅱ」	
哲学	HA17	倫理学概論1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	奇数年度開講；排他：HA30「倫理学概論Ⅰ」	
哲学	HA18	倫理学概論2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	偶数年度開講；排他：HA31「倫理学概論Ⅱ」	
哲学	HA19	日本思想史概論1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	A5,H1	日	中社、高地	奇数年度開講；排他：HA51「日本倫理思想Ⅰ」
哲学	HA20	日本思想史概論2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	A5,H1	日	中社、高地	偶数年度開講；排他：HA52「日本倫理思想Ⅱ」
哲学	HA94	西洋古代・中世哲学史1	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、高地	偶数年度開講；排他：HA43「西洋古代・中世哲学史Ⅰ」	
哲学	HA95	西洋古代・中世哲学史2	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、高地	奇数年度開講；排他：HA44「西洋古代・中世哲学史Ⅱ」	
哲学	HA96	西洋近現代哲学史1	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、高地	偶数年度開講；排他：HA46「西洋近代哲学史Ⅰ」	
哲学	HA97	西洋近現代哲学史2	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、高地	奇数年度開講；排他：HA47「西洋近代哲学史Ⅱ」	
哲学	HA98	社会思想史1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1	中社、高地	奇数年度開講；排他：HA65「社会思想史Ⅰ」	
哲学	HA99	社会思想史2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1	中社、高地	偶数年度開講；排他：HA66「社会思想史Ⅱ」	
哲学	HB27	哲学・倫理学特講1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	A5,H1	中社、中宗、高公、高宗	排他：HA80「哲学・倫理学特講Ⅰ」	
哲学	HB28	哲学・倫理学特講2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	A5,H1	中社、中宗、高公、高宗	排他：HA81「哲学・倫理学特講Ⅱ」	
哲学	HB29	哲学・倫理学特講3	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	排他：HA82「哲学・倫理学特講Ⅲ」	
哲学	HB30	哲学・倫理学特講4	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	排他：HA83「哲学・倫理学特講Ⅳ」	
哲学	HB31	哲学・倫理学特講5	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	奇数年度開講；排他：HA84「哲学・倫理学特講Ⅴ」	
哲学	HB32	哲学・倫理学特講6	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	奇数年度開講；排他：HA85「哲学・倫理学特講Ⅵ」	
哲学	HB33	哲学・倫理学特講7	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	偶数年度開講；排他：HA86「哲学・倫理学特講Ⅶ」	
哲学	HB34	哲学・倫理学特講8	2	講義	2,3,4					専	関	H1	中社、中宗、高公、高宗	偶数年度開講；排他：HA87「哲学・倫理学特講Ⅷ」	
哲学	HB35	哲学・倫理学特講9	2	講義	2,3,4					専	関	H1			
哲学	HB36	哲学・倫理学特講10	2	講義	2,3,4					専	関	H1			
哲学	HB37	哲学・倫理学特講11	2	講義	2,3,4					専	関	H1			
哲学	HB38	哲学・倫理学特講12	2	講義	2,3,4					専	関	H1			
哲学	HB45	哲学・倫理学演習1(1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB46	哲学・倫理学演習1(2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB47	哲学・倫理学演習2(1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB48	哲学・倫理学演習2(2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB49	哲学・倫理学演習3(1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB50	哲学・倫理学演習3(2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履 修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専 攻	課程	教職	特記事項
哲学	HB51	哲学・倫理学演習 4 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB52	哲学・倫理学演習 4 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB53	哲学・倫理学演習 5 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB54	哲学・倫理学演習 5 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB55	哲学・倫理学演習 6 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB56	哲学・倫理学演習 6 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB57	哲学・倫理学演習 7 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB58	哲学・倫理学演習 7 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB59	哲学・倫理学演習 8 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB60	哲学・倫理学演習 8 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB61	哲学・倫理学演習 9 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB62	哲学・倫理学演習 9 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB71	日本思想史演習 1 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	A5,H1			
哲学	HB72	日本思想史演習 1 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	A5,H1			
哲学	HB73	日本思想史演習 2 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HB74	日本思想史演習 2 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HC15	美学・芸術学概論 1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	奇数年度開講; 排他: HC13「美学・芸術学概論 I」
哲学	HC16	美学・芸術学概論 2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	偶数年度開講; 排他: HC14「美学・芸術学概論 II」
哲学	HC17	日本美術史 1	2	講義	2,3,4					専	関	A5	学	中社, 高地	2年連続で開講した後1年休講(西暦を3で割った時に割り切れる年は休講); 排他: HC72「日本美術史 I」
哲学	HC18	日本美術史 2	2	講義	2,3,4					専	関	A5	学	中社, 高地	2年連続で開講した後1年休講(西暦を3で割った時に割り切れる年は休講); 排他: HC73「日本美術史 II」
哲学	HC19	東洋美術史 1	2	講義	2,3,4					専	関	A5	学	中社, 高地	2年連続で開講した後1年休講(西暦を3で割った時に余りが1となる年は休講); 排他: HC93「東洋美術史 I」
哲学	HC20	東洋美術史 2	2	講義	2,3,4					専	関	A5	学	中社, 高地	2年連続で開講した後1年休講(西暦を3で割った時に余りが1となる年は休講); 排他: HC94「東洋美術史 II」
哲学	HC23	西洋美術史 1	2	講義	2,3,4					専	関	A5	学	中社, 高地	2年連続で開講した後1年休講(西暦を3で割った時に余りが2となる年は休講); 排他: HC82「西洋美術史 I」
哲学	HC24	西洋美術史 2	2	講義	2,3,4					専	関	A5	学	中社, 高地	2年連続で開講した後1年休講(西暦を3で割った時に余りが2となる年は休講); 排他: HC83「西洋美術史 II」
哲学	HC35	美学・芸術学特講 1	2	講義	2,3,4					専	関	H1			排他: HF10「美学・芸術学特講 I」
哲学	HC36	美学・芸術学特講 2	2	講義	2,3,4					専	関	H1			排他: HF11「美学・芸術学特講 II」
哲学	HC37	美学・芸術学特講 3	2	講義	2,3,4					専	関	H1			排他: HF12「美学・芸術学特講 III」
哲学	HC38	美学・芸術学特講 4	2	講義	2,3,4					専	関	H1			排他: HF13「美学・芸術学特講 IV」
哲学	HC39	美学・芸術学特講 5	2	講義	2,3,4					専	関	H1			排他: HF14「美学・芸術学特講 V」
哲学	HC40	美学・芸術学特講 6	2	講義	2,3,4					専	関	H1			排他: HF15「美学・芸術学特講 VI」
哲学	HC53	美学・芸術学演習 1 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HC54	美学・芸術学演習 1 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HC55	美学・芸術学演習 2 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HC56	美学・芸術学演習 2 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HC57	美学・芸術学演習 3 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HC58	美学・芸術学演習 3 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HC59	美学・芸術学演習 4 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	-	H1			
哲学	HC60	美学・芸術学演習 4 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	-	H1			
哲学	HD41	キリスト教学概論 1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	奇数年度開講; 排他: HD14「キリスト教学概論 I」
哲学	HD42	キリスト教学概論 2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	偶数年度開講; 排他: HD15「キリスト教学概論 II」
哲学	HD43	宗教学概論 1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	偶数年度開講; 排他: HD20「宗教学概論 I」
哲学	HD44	宗教学概論 2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	奇数年度開講; 排他: HD21「宗教学概論 II」
哲学	HD55	キリスト教思想史 1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	奇数年度開講; 排他: HD33「キリスト教思想史 I」
哲学	HD56	キリスト教思想史 2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	偶数年度開講; 排他: HD34「キリスト教思想史 II」
哲学	HD57	宗教思想史 1	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	A5,H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	偶数年度開講; 排他: HA63「宗教思想史 I」

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
哲学	HD58	宗教思想史 2	2	講義	1,2,3,4	A				専	関	A5,H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	奇数年度開講; 排他: HA64「宗教思想史Ⅱ」
哲学	HD75	キリスト教学特講 1 (1)	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-1(1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-1(1)」の単位としては認められない。排他: AN31「キリスト教学Ⅱ-1(1)」、HD51「キリスト教学特講Ⅰ」、AN20「キリスト教学Ⅱ-10」
哲学	HD76	キリスト教学特講 1 (2)	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-1(2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-1(2)」の単位としては認められない。排他: AN32「キリスト教学Ⅱ-1(2)」、HD51「キリスト教学特講Ⅰ」、AN20「キリスト教学Ⅱ-10」
哲学	HD77	キリスト教学特講 2 (1)	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-2(1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-2(1)」の単位としては認められない。排他: AN33「キリスト教学Ⅱ-2(1)」、HD52「キリスト教学特講Ⅱ」、AN21「キリスト教学Ⅱ-11」
哲学	HD78	キリスト教学特講 2 (2)	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-2(2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-2(2)」の単位としては認められない。排他: AN34「キリスト教学Ⅱ-2(2)」、HD52「キリスト教学特講Ⅱ」、AN21「キリスト教学Ⅱ-11」
哲学	HD79	キリスト教学特講 3 (1)	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-3(1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-3(1)」の単位としては認められない。排他: AN35「キリスト教学Ⅱ-3(1)」、HD53「キリスト教学特講Ⅲ」、AN22「キリスト教学Ⅱ-12」
哲学	HD80	キリスト教学特講 3 (2)	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-3(2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-3(2)」の単位としては認められない。排他: AN36「キリスト教学Ⅱ-3(2)」、HD53「キリスト教学特講Ⅲ」、AN22「キリスト教学Ⅱ-12」
哲学	HD81	聖書学特講 1	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	排他: HD16「旧約聖書学Ⅰ」
哲学	HD82	聖書学特講 2	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	排他: HD17「新約聖書学Ⅰ」
哲学	HD83	宗教学特講 1	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	排他: HD60「宗教学特講Ⅰ」
哲学	HD84	宗教学特講 2	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	排他: HD61「宗教学特講Ⅱ」
哲学	HD85	宗教学特講 3	2	講義	2,3,4					専	関	H1		中社, 中宗, 高公, 高宗	奇数年度開講; 排他: HD25「キリスト教倫理学Ⅰ」
哲学	HD86	宗教学特講 4	2	講義	2,3,4					専	関	H1			偶数年度開講
哲学	HD89	キリスト教美術 (1)	2	講義	2,3,4					専	関		学	中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-4(1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-4(1)」の単位としては認められない。排他: AN37「キリスト教学Ⅱ-4(1)」、HD31「キリスト教美術」、AN17「キリスト教学Ⅱ-7」、AN19「キリスト教学Ⅱ-9」
哲学	HD90	キリスト教美術 (2)	2	講義	2,3,4					専	関		学	中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-4(2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-4(2)」の単位としては認められない。排他: AN38「キリスト教学Ⅱ-4(2)」、HD31「キリスト教美術」、AN17「キリスト教学Ⅱ-7」、AN19「キリスト教学Ⅱ-9」
哲学	HD91	キリスト教音楽 (1)	2	講義	2,3,4					専	関			中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-5(1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-5(1)」の単位としては認められない。排他: AN39「キリスト教学Ⅱ-5(1)」、HD32「キリスト教音楽」、AN15「キリスト教学Ⅱ-5」、AN18「キリスト教学Ⅱ-8」
哲学	HD92	キリスト教音楽 (2)	2	講義	2,3,4					専	関			中宗, 高宗	「キリスト教学Ⅱ-5(2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教学Ⅱ-5(2)」の単位としては認められない。排他: AN40「キリスト教学Ⅱ-5(2)」、HD32「キリスト教音楽」、AN15「キリスト教学Ⅱ-5」、AN18「キリスト教学Ⅱ-8」

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
哲学	HD93	キリスト教文学 (1)	2	講義	2,3,4					専	関			中宗, 高宗	「キリスト教文学Ⅱ-6 (1)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教文学Ⅱ-6 (1)」の単位としては認められない。排他: AN41「キリスト教文学Ⅱ-6 (1)」, HD40「キリスト教文学」、AN23「キリスト教文学Ⅱ-13」、AN25「キリスト教文学Ⅱ-15」
哲学	HD94	キリスト教文学 (2)	2	講義	2,3,4					専	関			中宗, 高宗	「キリスト教文学Ⅱ-6 (2)」と同一授業だが、修得しても「キリスト教文学Ⅱ-6 (2)」の単位としては認められない。排他: AN42「キリスト教文学Ⅱ-6 (2)」, HD40「キリスト教文学」、AN23「キリスト教文学Ⅱ-13」、AN25「キリスト教文学Ⅱ-15」
哲学	HE01	キリスト教文学演習 1 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HE02	キリスト教文学演習 1 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HE03	キリスト教文学演習 2 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HE04	キリスト教文学演習 2 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HE05	キリスト教文学演習 3 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HE06	キリスト教文学演習 3 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HE07	キリスト教文学演習 4 (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HE08	キリスト教文学演習 4 (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関	H1			
哲学	HE28	ギリシア語 I (1)	2	講義	1,2,3,4	A				専	関				排他: HE11「ギリシア語 I」
哲学	HE29	ギリシア語 I (2)	2	講義	1,2,3,4	A				専	関				
哲学	HE30	ラテン語 I (1)	2	講義	1,2,3,4	A				専	関				排他: HE12「ラテン語 I」
哲学	HE31	ラテン語 I (2)	2	講義	1,2,3,4	A				専	関				
哲学	HE32	ギリシア語 II (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関				
哲学	HE33	ギリシア語 II (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関				
哲学	HE34	ラテン語 II (1)	2	演習	2,3,4				可	専	関				
哲学	HE35	ラテン語 II (2)	2	演習	2,3,4				可	専	関				
哲学	HE51	哲学特殊演習 1 (1)	1	演習	4					専	-				排他: HE21「哲学特殊演習 I」
哲学	HE52	哲学特殊演習 1 (2)	1	演習	4					専	-				
哲学	HE53	哲学特殊演習 2 (1)	1	演習	4					専	-				排他: HE22「哲学特殊演習 II」
哲学	HE54	哲学特殊演習 2 (2)	1	演習	4					専	-				
哲学	HE55	哲学特殊演習 3 (1)	1	演習	4					専	-				排他: HE23「哲学特殊演習 III」
哲学	HE56	哲学特殊演習 3 (2)	1	演習	4					専	-				
哲学	HE57	哲学特殊演習 4 (1)	1	演習	4					専	-				排他: HE24「哲学特殊演習 IV」
哲学	HE58	哲学特殊演習 4 (2)	1	演習	4					専	-				
哲学	HE59	哲学特殊演習 5 (1)	1	演習	4					専	-				排他: HE25「哲学特殊演習 V」
哲学	HE60	哲学特殊演習 5 (2)	1	演習	4					専	-				
哲学	HE61	哲学特殊演習 6 (1)	1	演習	4					専	-				排他: HE26「哲学特殊演習 VI」
哲学	HE62	哲学特殊演習 6 (2)	1	演習	4					専	-				
哲学	HE63	哲学特殊演習 7 (1)	1	演習	4					専	-				排他: HE27「哲学特殊演習 VII」
哲学	HE64	哲学特殊演習 7 (2)	1	演習	4					専	-				
教育	JA13	教育原理 1	2	講義	2,3,4					教は関、初は専。 その他は履修不可		J1	保	幼, 小	2018年度以降入学者対象
教育	JC10	教育原理	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は専、初は関。 その他は履修不可				中, 高	2022年度以前入学者対象
教育	JC13	西洋社会思想	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は履修不可		J1	中, 高 (2023年度以降入学者対象)		2026年度以降、隔年開講 (偶数年度) 予定。
教育	JC14	教育哲学 2	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			2022年度以前入学者対象
教育	JC23	教育哲学	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			2023年度以降入学者対象。 2026年度以降、隔年開講 (奇数年度) 予定。
教育	JC30	教育方法 [含ICT活用]	2	講義	1,2,3,4	(B)				教初のみ専、 その他は履修不可		J1	小, 中, 高		2022年度以降入学者対象
教育	JC32	教育心理学 II	2	講義	2,3,4					教は専、初は関。 その他は履修不可		J1		中, 高	2022年度以前入学者対象
教育	JC34	教育メディア論	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は専、初は関。 その他は履修不可				中, 高	偶数年度開講
教育	JC37	教育課程論	2	講義	2,3,4					教は専、初は関。 その他は履修不可				中, 高	2022年度以前入学者対象
教育	JC38	教育方法 II	2	講義	2,3,4					教は専、初は関。 その他は履修不可		J1		中, 高	2021年度以前入学者対象
教育	JC39	教育経営	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は専、初は関。 その他は履修不可				中, 高	2022年度以前入学者対象
教育	JC40	教育行政学 2	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は専、初は関。 その他は履修不可		J1		中, 高	
教育	JC47	生涯学習概論	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1	学		
教育	JC48	社会学概論 1	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は履修不可		J1	中, 高 (2023年度以降入学者対象)		奇数年度開講
教育	JC49	社会学概論 2	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は履修不可		J1	中, 高 (2023年度以降入学者対象)		偶数年度開講

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
教育	JC55	比較教育学 1	2	講義	1,2,3,4	B				教は専、初も含め その他は関		J1		中, 高	2018年度以降入学者対象
教育	JC56	比較教育学 2	2	講義	2,3,4					教は専、初も含め その他は関		J1		中, 高	
教育	JC71	教育相談Ⅱ	2	講義	2,3,4					教は専、初は関。 その他は履修不可				中, 高	
教育	JC73	教育調査	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関					偶数年度開講/2022年度以前入学者対象
教育	JC91	発展途上国における教育問題 1	2	講義	1,2,3,4	B				教初のみ専。 その他は関		A5			2022年度以前入学者対象
教育	JC92	発展途上国における教育問題 2	2	講義	1,2,3,4	B				教初のみ専。 その他は関		A5			スタディツアー参加者対象のみ履修可；2022年度以前入学者対象
教育	JC93	発展途上国における教育問題 (1)	2	講義	1,2,3,4	B				教初のみ専。 その他は関		A5			2023年度以降入学者対象
教育	JC94	発展途上国における教育問題 (2)	2	講義	1,2,3,4	B				教初のみ専。 その他は関		A5			スタディツアー参加者対象のみ履修可；2023年度以降入学者対象
教育	JD46	人間学習 1	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD47	人間学習 2	2	演習	1,2,3,4	B			可	教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD48	人間学習 3	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD49	人間学習 4	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD50	人間学習 5	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD51	人間学習 6	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD52	人間学習 7	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD53	人間学習 8	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD54	人間学習 9	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD55	人間学習10	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD56	人間学習11	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JD57	人間学習12	2	講義	2,3,4					教初のみ専。 その他は関		J1			
教育	JE13	メディア教材開発	2	講義	2,3					教は専、初は関。 その他は履修不可				中, 高 (~2021入学生)	奇数年度開講
教育	JE14	教育情報と学習デザイン	2	講義	2,3					教は専、初は関。 その他は履修不可				中, 高 (~2021入学生)	
教育	JF15	生徒指導 [含進路指導] Ⅱ	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は専、初は関。 その他は履修不可				中, 高	2022年度以前入学者対象
教育	JF16	道徳教育の理論と実践Ⅱ	2	講義	2,3,4					教は専、初は関。 その他は履修不可				中	
教育	JF17	特別活動Ⅱ	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は専、初は関。 その他は履修不可				中, 高	
教育	JH17	教育学演習 2 - (1)	2	演習	3					教初のみ専。 その他は履修不可		J1			クラスにより副専攻修了要件となる。詳細はシラバスを参照。；2022年度以前入学者対象
教育	JH18	教育学演習 2 - (2)	2	演習	3					教初のみ専。 その他は履修不可					2022年度以前入学者対象
教育	JH19	Myプロジェクト	2	講義・ 実習	3					教のみ専。 初も含め その他は 履修不可	-	J1			
教育	JH21	教育学演習 1 - (1)	2	演習	2					教初のみ専。 その他は履修不可		J1			2022年度以前入学者対象
教育	JH22	教育学演習 1 - (2)	2	演習	2					教初のみ専。 その他は履修不可		J1			クラスにより副専攻修了要件となる。詳細はシラバスを参照。；2022年度以前入学者対象
教育	JH23	教育学演習Ⅰ (1)	2	講義	2					教初のみ専、 その他は履修不可		J1			2023年度以降入学者対象
教育	JH24	教育学演習Ⅰ (2)	2	講義	2					教初のみ専、 その他は履修不可		J1			クラスにより副専攻修了要件となる。詳細はシラバスを参照。；2023年度以降入学者対象
教育	JH25	教育学演習Ⅱ (1)	2	講義	3					教初のみ専、 その他は履修不可		J1			2023年度以降入学者対象
教育	JH26	教育学演習Ⅱ (2)	2	講義	3					教初のみ専、 その他は履修不可					2023年度以降入学者対象
教育	JH27	教育学演習Ⅲ (1)	2	講義	4					教初のみ専、 その他は履修不可					
教育	JH28	教育学演習Ⅲ (2)	2	講義	4					教初のみ専、 その他は履修不可					
教育	JH81	道徳教育の理論と実践	2	講義	2,3,4					教初のみ専、 その他は履修不可				小, 中, 高	2023年度以降入学者対象

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
教育	JH82	教育相談	2	講義	2,3,4					教初のみ専、 その他は履修不可				小, 中, 高	2023年度以降入学者対象
教育	JH83	教育心理学	2	講義	2,3,4					教初のみ専、 その他は履修不可	J1		幼, 小, 中, 高		
教育	JH84	特別活動	2	講義	1,2,3,4	(B)				教初のみ専、 その他は履修不可			小, 中, 高		
教育	JH85	生徒指導 [含進路指導]	2	講義	1,2,3,4	(B)				教初のみ専、 その他は履修不可			小, 中, 高		
教育	JH86	特別支援教育概論	2	講義	2,3,4					教初(初)のみ専、 その他は履修不可			小, 中, 高		
教育	JH87	総合的な学習の時間の指導法	2	講義	2,3,4					教初(初)のみ専、 その他は履修不可			小, 中, 高	2023年度以降入学者対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)	
教育	KA01	道德教育の理論と実践 I	2	講義	2,3,4					教は関、初は専。 その他は履修不可			小	2022年度以前入学者対象	
教育	KA02	教育相談 I	2	講義	2,3,4					教は関、初は専。 その他は履修不可			小		
教育	KA03	教育心理学 I	2	講義	2,3,4					教は関、初は専。 その他は履修不可	J1		幼, 小		
教育	KA04	教育方法 I	2	講義	2,3,4					教は関、初は専。 その他は履修不可	J1		小	2021年度以前入学者対象	
教育	KA05	特別活動 I	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は関、初は専。 その他は履修不可			小	2022年度以前入学者対象	
教育	KA06	生徒指導 [含進路指導] I	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は関、初は専。 その他は履修不可			小		
教育	KA13	国語概論 [含書写]	2	講義	2,3,4					初は専、 その他は資			幼, 小 (2022 年度以降入 学者は小のみ)	2021年度以前入学者は小学校 幼稚園の登録者のみ履修可。 2022年度以降入学者は小学校 の登録者のみ履修可。分野系列： 資格関係分野 (初等教育学専 攻生はカリキュラムページ参照)	
教育	KA21	社会科概論	2	講義	2,3,4					初(初)は専、 その他は資			小	分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)	
教育	KA31	生活科概論	2	講義	2,3,4					初は専、 その他は資			幼, 小 (2022 年度以降入 学者は小のみ)	2021年度以前入学者は小学 校幼稚園の登録者のみ履 修可。2022年度以降入学者 は小学校の登録者のみ履修 可。分野系列：資格関係分 野 (初等教育学専攻生はカ リキュラムページ参照)	
教育	KA42	算数概論	2	講義	2,3,4					初は専、 その他は資			幼, 小 (2022 年度以降入 学者は小のみ)	2021年度以前入学者は小学 校幼稚園の登録者のみ履 修可。2022年度以降入学者 は小学校の登録者のみ履修 可。排他：KA41「数学概 論」；分野系列：資格関係 分野 (初等教育学専攻生は カリキュラムページ参照)	
教育	KA51	理科概論	2	講義	2,3,4					初(初)は専、 その他は資			小	分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)	
教育	KA63	音楽概論 1	2	講義	2,3,4					初(初)は専、 その他は資			小	2021年度以前入学者対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)	
教育	KA64	音楽概論 2	2	講義	1,2,3,4	(B)				初(幼)は専、 その他は資			幼	2021年度以前入学者対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)；ク ラスにより対象学年が異 なる。詳細はシラバスを参照。	
教育	KA65	音楽概論	2	講義	2,3,4					初(初)は専、 その他は資			小	2022年度以降入学者対象	
教育	KA66	子どもと音楽表現	2	講義	1,2,3,4	(B)				初(幼)は専、 その他は資			幼		
教育	KA73	図画工作概論	2	講義	2,3,4					初は専、 その他は資			幼, 小 (2022 年度以降入 学者は小のみ)	2021年度以前入学者は小学 校幼稚園の登録者のみ履 修可。2022年度以降入学者 は小学校の登録者のみ履修 可。排他：KA72「造形概 論」；分野系列：資格関係 分野 (初等教育学専攻生は カリキュラムページ参照)	
教育	KA82	家庭科概論	2	講義	2,3,4					初(初)は専、 その他は資			小	排他：KA81「家政学概論」 ；分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)	
教育	KA92	体育概論	2	講義	2,3,4					初は専、 その他は資			幼, 小 (2022 年度以降入 学者は小のみ)	2021年度以前入学者は小学 校幼稚園の登録者のみ履 修可。2022年度以降入学者 は小学校の登録者のみ履修 可。分野系列：資格関係分 野 (初等教育学専攻生はカ リキュラムページ参照)	

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
教育	KA93	特別支援教育概論(幼小)	2	講義	2,3,4						初は専、 その他は資			幼, 小	2019～2021年度入学対象 ；分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KA94	外国語概論	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	2019年度以降入学対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KA95	特別支援教育概論(小学校)	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	2022年度以降入学対象
教育	KA96	特別支援教育・保育総論	2	演習	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資	保		幼	
教育	KB11	国語科教育法〔小学校〕	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	2019～2022年度以降入学 対象；分野系列：資格関係 分野(初等教育学専攻生は カリキュラムページ参照)
教育	KB12	国語科教育法(小学校)	2	講義	2,3,4						初(初)のみ専、 その他は資			小	2023年度以降入学対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KB21	社会科教育法〔小学校〕	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	2019～2022年度以降入学 対象；分野系列：資格関係 分野(初等教育学専攻生は カリキュラムページ参照)
教育	KB22	社会科教育法(小学校)	2	講義	2,3,4						初(初)のみ専、 その他は資			小	2023年度以降入学対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KB31	生活科教育法	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KB41	算数科教育法	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	
教育	KB51	理科教育法	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	
教育	KB61	音楽科教育法	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	
教育	KB72	図画工作科教育法	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	
教育	KB81	家庭科教育法	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	
教育	KB91	体育科教育法	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	
教育	KB92	総合的な学習の時間の指導法 (小学校)	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	
教育	KB93	外国語教育法(小学校)	2	講義	2,3,4						初(初)は専、 その他は資			小	2019年度以降入学対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KC12	保育・幼児教育課程論	2	講義	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	2018年度以降入学対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KD01	保育内容総論	2	演習	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	
教育	KD13	保育内容〔健康〕	2	演習	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	
教育	KD33	保育内容〔人間関係〕	2	演習	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	
教育	KD43	保育内容〔環境〕	2	演習	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	
教育	KD53	保育内容〔言葉〕	2	演習	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	2018年度以降入学対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KD74	保育内容〔表現〕	2	演習	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	
教育	KD83	保育内容の理解と方法1	2	演習	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	
教育	KD84	保育内容の理解と方法2	2	演習	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	2019年度以降入学対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KE17	保育方法論	2	講義	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資		保	幼	2018年度以降入学対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	KF11	幼児理解〔含教育相談〕	2	講義	2,3,4						初(幼)は専、 その他は資			幼	分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)； 2022年度以前入学対象
教育	KG13	教育実習指導2(小学校)	1	演習	3						初は専、 その他は資			小	自動登録科目；2021年度 以前入学対象；分野系 列：資格関係分野(初等 教育学専攻生はカリキュ ラムページ参照)
教育	KG14	教育実習指導5(小学校)	1	演習	4						初は専、 その他は資			小	分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
教育	KG15	教育実習指導 2	1	演習	3					初は専、 その他は資				小	自動登録科目：2022年度 以降入学者対象；分野系 列：資格関係分野（初等教育 学専攻生はカリキュラム ページ参照）
教育	KG16	教育実習指導 5	1	演習	4					初は専、 その他は資				小	
教育	KG23	教育実習指導 3（幼稚園）	1	演習	3					初（幼）は専、 その他は資				幼	自動登録科目：2021年度 以前入学者対象；分野系 列：資格関係分野（初等教育 学専攻生はカリキュラム ページ参照）
教育	KG24	教育実習指導 6（幼稚園）	1	演習	4					初（幼）は専、 その他は資				幼	
教育	KG25	教育実習指導 3	1	演習	3					初（幼）は専、 その他は資				幼	自動登録科目：2022年度 以降入学者対象；分野系 列：資格関係分野（初等教育 学専攻生はカリキュラム ページ参照）
教育	KG26	教育実習指導 6	1	演習	4					初（幼）は専、 その他は資				幼	
教育	KG42	教職実践演習（小学校）	2	演習	4					初（初）は専、 その他は資				小	2018年度以降入学者対象； 分野系列：資格関係分野 （初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照）
教育	KG43	保育・教職実践演習	2	演習	4					初（幼）は専、 その他は資		保		幼	
教育	KG44	教職実践演習	2	演習	4					初（初）のみ専、 その他は資				小、中、高	2023年度以降入学者対象
教育	KH01	西洋教育史 2	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は関、初は専。 その他は履修不可	J1			幼、小	2022年度以前入学者対象
教育	KH03	日本教育史 2	2	講義	1,2,3,4	(B)				教は関、初は専。 その他は履修不可	J1			幼、小	
教育	KH04	教育課程方法論	2	講義	2,3,4					教は関、初は専。 その他は履修不可	J1			小	
教育	KH05	教育経営と学校制度	2	講義	2,3,4					教は関、初は専。 その他は履修不可				幼、小	
教育	KH06	教育工学	2	講義	1,2,3,4	B				教は関、初は専。 その他は履修不可	J1			小	奇数年度開講：2021年度以 前入学者対象
教育	KH09	教育実習 3	2	実習	4					初は専、 その他は資				幼、小	自動登録科目：分野系列； 資格関係分野（初等教育学 専攻生はカリキュラムペ ージ参照）
教育	KH10	教育実習 4	2	実習	4					初は専、 その他は資				幼、小	
教育	KH11	教育方法とメディア開発	2	講義	1,2,3,4	B				教は関、初は専。 その他は履修不可	J1			小	偶数年度開講：2021年度以 前入学者対象
教育	KH12	保育原理	2	講義	1,2,3,4	(B)				初は専、 その他は資		保		幼	2018年度以降入学者対象； 分野系列：資格関係分野 （初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照）
教育	KH13	教職入門 I	2	講義	2,3,4					初（初）は専、 その他は資				小	2018～2022年度入学者対 象；分野系列：資格関係分 野（初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照）
教育	KH14	保育者論	2	講義	2,3,4					初（幼）は専、 その他は資		保		幼	2018年度以降入学者対象； 分野系列：資格関係分野 （初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照）
教育	KH15	カリキュラム論	2	講義	2,3,4					教初のみ専、 その他は履修不可	J1			小、中、高	2023年度以降入学者対象
教育	KH16	外国教育史	2	講義	1,2,3,4	(B)				教初のみ専、 その他は履修不可	J1				
教育	KH17	日本教育史	2	講義	1,2,3,4	(B)				教初のみ専、 その他は履修不可	J1				
教育	KH18	教育経営と学校制度	2	講義	2,3,4					教初のみ専、 その他は履修不可	J1			幼、小、中、 高	
教育	KH19	教職入門	2	講義	1,2,3,4	(B)				初（初）のみ専、 その他は資				小、中、高	2023年度以降入学者対象； 分野系列：資格関係分野 （初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照）
教育	KJ01	子どもと健康	2	講義	2,3,4					初（幼）は専、 その他は資				幼	2022年度以降入学者対象
教育	KJ02	子どもと人間関係	2	講義	2,3,4					初（幼）は専、 その他は資				幼	
教育	KJ03	子どもと環境	2	講義	2,3,4					初（幼）は専、 その他は資				幼	
教育	KJ04	子どもと言葉	2	講義	2,3,4					初（幼）は専、 その他は資				幼	
教育	KJ05	子どもと造形表現	2	講義	2,3,4					初（幼）は専、 その他は資				幼	
心理	LB31	心理学史	2	講義	2,3,4					専	-	L1			
心理	LC13	心理学演習 1	2	演習	2,3,4					専	-				
心理	LC14	心理学演習 2	2	演習	3,4					専	-				
心理	LC15	心理学観察・調査実習	2	実習	2,3,4					専	-				排他：LC12「心理学実験演習 3」
心理	LC16	心理学データ解析実習 1	2	実習	3,4					専	-				排他：LA12「計量心理学特講 2」
心理	LC17	心理学データ解析実習 2	2	実習	2,3,4					専	-				排他：LA14「計量心理学特講 4」

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
心理	LH11	発達心理学 1	2	講義	2,3,4					専	初のみ専。 その他は関	J1:L1	公	幼, 小	教育学専攻生が履修した場合、分野系列は「関連分野」となる。初等教育学専攻生が心理学副専攻を履修している場合、副専攻の修了要件に含めることはできません。2023年度より、公認心理師科目「②発達心理学」は、「発達心理学1」と「発達心理学2」の各2単位、計4単位を要件とする。
心理	LH12	発達心理学 2	2	講義	2,3,4					専	教のみ専。 その他は関	J1:L1	公	中, 高	初等教育学専攻生が履修した場合、分野系列は「関連分野」となる。教育学専攻生が心理学副専攻を履修している場合、副専攻の修了要件に含めることはできません。2023年度より、公認心理師科目「②発達心理学」は、「発達心理学1」と「発達心理学2」の各2単位、計4単位を要件とする。
心理	LK11	基礎情報処理技法	2	実習	2					専	-				
心理	LK12	3年心理学演習(1)	2	演習	3					専	-				排他：LK51「3年心理学演習」
心理	LK13	3年心理学演習(2)	2	演習	3					専	-				排他：LK51「3年心理学演習」
心理	LK14	4年心理学演習(1)	2	演習	4					専	-				排他：LK52「4年心理学演習」
心理	LK15	4年心理学演習(2)	2	演習	4					専	-				排他：LK52「4年心理学演習」
心理	LK23	心理学実験	4	実験・ 実習	2					専	-		公		自動登録科目(心理学科2年次生のみ)；排他：LK22「心理学実験1」
心理	LK33	心理学統計法	2	講義	2					専	-		公		排他：LK32「心理統計法I」
心理	LK44	心理学概論	2	講義	2					専	-	L1	公		排他：LK41「心理学概論」(4単位)
心理	LK45	臨床心理学概論	2	講義	2					専	-	L1	公		
心理	LM11	公認心理師の職責	2	講義	3,4					専	-		公		
心理	LM12	心理学研究法	2	講義	3,4					専	-		公		
心理	LM13	感情・人格心理学	2	講義	2,3,4					専	関	L1	公		
心理	LM14	社会・集団・家族心理学	2	講義	2,3,4					専	人のみ関。 その他は履修不可		公		
心理	LM15	障害者・障害児心理学	2	講義	2,3,4					専	-	L1	公		
心理	LM16	心理的アセスメント	2	講義	3,4					専	-	L1	公		
心理	LM17	健康・医療心理学	2	講義	2,3,4					専	-	L1	公		
心理	LM18	教育・学校心理学	2	講義	2,3,4					専	-	L1	公		
心理	LM19	司法・犯罪心理学	2	講義	3,4					専	-	L1	公		
心理	LM20	人体の構造と機能及び疾病	2	講義	3,4					専	-	L1	公		
心理	LM21	精神疾患とその治療	2	講義	3,4					専	関	L1	公		
心理	LM22	関係行政論	2	講義	3					専	-		公		
心理	LM23	心理演習	2	演習	3					専	-		公		公認心理師受験資格選抜試験に合格した学生のみ履修可
心理	LM25	知覚・認知心理学	2	講義	2,3,4					専	-	L1	公		排他：LE12「知覚・認知心理学(認知心理学特講1)」
心理	LM26	学習・言語心理学	2	講義	2,3,4					専	関	L1	公		排他：LE35「学習・言語心理学(認知心理学特講8)」
心理	LM27	神経・生理心理学	2	講義	2,3,4					専	-	L1	公		排他：LG13「神経・生理心理学(臨床心理学特講1)」
心理	LM28	心理学的支援法	2	講義	2,3,4					専	-	L1	公		排他：LG43「心理学的支援法(臨床心理学特講12)」
心理	LM29	福祉心理学	2	講義	2,3,4					専	関	L1	公		排他：LG53「福祉心理学(臨床心理学特講14)」
心理	LM30	産業・組織心理学	2	講義	2,3,4					専	-	L1	公		排他：LG50「産業・組織心理学(臨床心理学特講13)」
心理	LM31	心理実習 1	1	実習	4					専	-		公		排他：LM24「心理実習」(2単位)、公認心理師受験資格選抜試験に合格した学生のみ履修可
心理	LM32	心理実習 2	1	実習	4					専	-		公		
心理	LN11	発達・認知心理学特講 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	L1			排他：LF11「発達心理学特講1」
心理	LN12	発達・認知心理学特講 2	2	講義	3,4					専	関	L1			排他：LF27「発達心理学特講6」
心理	LN13	発達・認知心理学特講 3	2	講義	3,4					専	-	L1			排他：LG15「臨床心理学特講3」
心理	LN14	発達・認知心理学特講 4	2	講義	2,3,4					専	-	L1			
心理	LN15	発達・認知心理学特講 5	2	講義	2,3,4					専	関	L1			排他：LE21「認知心理学特講4」
心理	LN16	発達・認知心理学特講 6	2	講義	2,3,4					専	関	L1			排他：LF14「発達心理学特講2」
心理	LN17	発達・認知心理学特講 7	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	L1			排他：LF17「発達心理学特講3」
心理	LN18	発達・認知心理学特講 8	2	講義	2,3,4					専	関	L1			排他：LF21「発達心理学特講4」
心理	LN19	発達・認知心理学特講 9	2	講義	2,3,4					専	人関のみ関、 その他は履修不可	L1			排他：LF37「発達心理学特講9」
心理	LN20	発達・認知心理学特講10	2	講義	2,3,4					専	-	L1			排他：LF38「発達心理学特講10」
心理	LP11	臨床心理学特講 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	A5,L1			排他：LG41「臨床心理学特講11」
心理	LP12	臨床心理学特講 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関	L1			排他：LG40「臨床心理学特講10」
心理	LP13	臨床心理学特講 3	2	講義	2,3,4					専	-	L1			

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履 修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専 攻	課程	教職	特記事項
心理	LP14	臨床心理学特講 4	2	講義	2,3,4					専	-	L1			
心理	LP15	臨床心理学特講 5	2	講義	2,3,4					専	関	L1			排他：LG34「臨床心理学特講 8」
心理	LP16	臨床心理学特講 6	2	講義	2,3,4					専	-	L1			排他：LG37「臨床心理学特講 9」
心理	LP17	臨床心理学特講 7	2	講義	2,3,4					専	-	L1			排他：LG29「臨床心理学特講 7」
英文	MA16	英語学概論 1	2	講義	1,2	A				専	関	M1		中英, 高英	自動登録科目 (英語英文学科及び英語文化コミュニケーション学科の2年次生のみ)
英文	MA17	英語学概論 2	2	講義	1,2	A				専	関	M1		中英, 高英	
英文	MA34	英文学史概説 1	2	講義	1,2	A				専	関	M2		中英, 高英	
英文	MA35	英文学史概説 2	2	講義	1,2	A				専	関	M2		中英, 高英	
英文	MB13	米文学史概説 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	-	M2		中英, 高英	
英文	MB14	米文学史概説 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	-	M2		中英, 高英	
英文	MB15	英語史 1	2	講義	2,3,4					専	関	M1		中英, 高英	排他：MA13「英語史」
英文	MB16	英語史 2	2	講義	2,3,4					専	関	M1		中英, 高英	
英文	MB17	英語文学への招待 1	2	講義	1,2	A				専	関	M2			2年次生は副専攻生(M2)の学生に限る
英文	MB18	英語文学への招待 2	2	講義	1,2	A				専	関	M2			
英文	MB19	英会話 1	2	講義	3,4					専	関			中英, 高英	排他：ML41「英会話」
英文	MB20	英会話 2	2	講義	3,4					専	関			中英, 高英	
英文	MB23	メディア・コミュニケーション入門 1	2	講義	1,2	A				専	-	M3	G		
英文	MB25	メディア・コミュニケーション入門 2	2	講義	1,2	A				専	-	M3	G		
英文	MB26	オラルコミュニケーション 1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関			中英, 高英	排他：ML42「オラルコミュニケーション」
英文	MB27	オラルコミュニケーション 2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関			中英, 高英	
英文	MD01	3年英語学演習 1-1	2	演習	3					専	-	M1			自動登録科目 (英語英文学科及び英語文化コミュニケーション学科の3年次生と英語文化コミュニケーション学科の副専攻生)
英文	MD02	3年英語学演習 1-2	2	演習	3					専	-	M1			
英文	MD03	3年英語学演習 2-1	2	演習	3					専	-	M1			
英文	MD04	3年英語学演習 2-2	2	演習	3					専	-	M1			
英文	MD05	3年英語学演習 3-1	2	演習	3					専	-	M1			
英文	MD06	3年英語学演習 3-2	2	演習	3					専	-	M1			
英文	MD07	3年英米文学演習 1-1	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD08	3年英米文学演習 1-2	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD09	3年英米文学演習 2-1	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD10	3年英米文学演習 2-2	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD11	3年英米文学演習 3-1	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD12	3年英米文学演習 3-2	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD13	3年英米文学演習 4-1	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD14	3年英米文学演習 4-2	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD15	3年英米文学演習 5-1	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD16	3年英米文学演習 5-2	2	演習	3					専	-	M2			
英文	MD23	3年メディア・コミュニケーション演習 1-1	2	演習	3					専	-	M3			
英文	MD24	3年メディア・コミュニケーション演習 1-2	2	演習	3					専	-	M3			
英文	MD25	3年メディア・コミュニケーション演習 2-1	2	演習	3					専	-	M3			
英文	MD26	3年メディア・コミュニケーション演習 2-2	2	演習	3					専	-	M3			
英文	MD27	3年メディア・コミュニケーション演習 3-1	2	演習	3					専	-	M3			
英文	MD28	3年メディア・コミュニケーション演習 3-2	2	演習	3					専	-	M3			
英文	MD51	4年英語学演習 1-1	2	演習	4					専	-	M1			自動登録科目 (英語英文学科及び英語文化コミュニケーション学科の4年次生と英語文化コミュニケーション学科の副専攻生)
英文	MD52	4年英語学演習 1-2	2	演習	4					専	-	M1			
英文	MD53	4年英語学演習 2-1	2	演習	4					専	-	M1			
英文	MD54	4年英語学演習 2-2	2	演習	4					専	-	M1			
英文	MD55	4年英語学演習 3-1	2	演習	4					専	-	M1			
英文	MD56	4年英語学演習 3-2	2	演習	4					専	-	M1			
英文	MD57	4年英米文学演習 1-1	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD58	4年英米文学演習 1-2	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD59	4年英米文学演習 2-1	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD60	4年英米文学演習 2-2	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD61	4年英米文学演習 3-1	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD62	4年英米文学演習 3-2	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD63	4年英米文学演習 4-1	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD64	4年英米文学演習 4-2	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD65	4年英米文学演習 5-1	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD66	4年英米文学演習 5-2	2	演習	4					専	-	M2			
英文	MD73	4年メディア・コミュニケーション演習 1-1	2	演習	4					専	-	M3			
英文	MD74	4年メディア・コミュニケーション演習 1-2	2	演習	4					専	-	M3			
英文	MD75	4年メディア・コミュニケーション演習 2-1	2	演習	4					専	-	M3			

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
英文	MD76	4年メディア・コミュニケーション演習2-2	2	演習	4					専	-	M3			自動登録科目(英語英文学科及び英語文化コミュニケーション学科の4年次生と英語文化コミュニケーション学科の副専攻生)
英文	MD77	4年メディア・コミュニケーション演習3-1	2	演習	4					専	-	M3			
英文	MD78	4年メディア・コミュニケーション演習3-2	2	演習	4					専	-	M3			
英文	MF21	英語学特講1-1	2	講義	2,3,4					専	-	M1		中英, 高英	
英文	MF22	英語学特講1-2	2	講義	2,3,4					専	-	M1		中英, 高英	
英文	MF23	英語学特講2-1	2	講義	2,3,4					専	-	M1		中英, 高英	
英文	MF24	英語学特講2-2	2	講義	2,3,4					専	-	M1		中英, 高英	
英文	MF25	英語学特講3-1	2	講義	3,4					専	関	M1		中英, 高英	
英文	MF26	英語学特講3-2	2	講義	3,4					専	関	M1		中英, 高英	
英文	MF27	英語学特講4-1	2	講義	2,3,4					専	-	M1		中英, 高英	
英文	MF28	英語学特講4-2	2	講義	2,3,4					専	-	M1		中英, 高英	
英文	MF29	英語学特講5-1	2	講義	3,4					専	-	M1		中英, 高英	
英文	MF30	英語学特講5-2	2	講義	3,4					専	-	M1		中英, 高英	
英文	MF31	英語学特講6-1	2	講義	2,3,4					専	教初のみ関。 その他は履修不可	M1	日	中英, 高英	
英文	MF32	英語学特講6-2	2	講義	2,3,4					専	教初のみ関。 その他は履修不可	M1		中英, 高英	
英文	MG12	英米文学特講2-1	2	講義	2,3,4					専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG13	英米文学特講2-2	2	講義	2,3,4					専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG14	英米文学特講3-1	2	講義	3,4				可	専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG15	英米文学特講3-2	2	講義	3,4				可	専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG16	英米文学特講4-1	2	講義	2,3,4					専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG17	英米文学特講4-2	2	講義	2,3,4					専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG18	英米文学特講5-1	2	講義	3,4				可	専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG19	英米文学特講5-2	2	講義	3,4				可	専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG21	英米文学特講6-1	2	講義	2,3,4					専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG22	英米文学特講6-2	2	講義	2,3,4					専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG23	英米文学特講7-1	2	講義	3,4				可	専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG24	英米文学特講7-2	2	講義	3,4				可	専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG27	英米文学特講8-1	2	講義	2,3,4				可	専	-	M2		中英, 高英	
英文	MG28	英米文学特講8-2	2	講義	2,3,4				可	専	-	M2		中英, 高英	
英文	MJ19	メディア・コミュニケーション特講1	2	講義	3,4					専	関	M3	G	中英, 高英	
英文	MJ27	メディア・コミュニケーション特講7-1	2	講義	2,3,4					専	-	A5:M3	G	中英, 高英	2021年度以降グローバルリーダーシップ・プログラム要件科目
英文	MJ28	メディア・コミュニケーション特講7-2	2	講義	2,3,4					専	-	M3	G	中英, 高英	2021年度以降グローバルリーダーシップ・プログラム要件科目
英文	MJ30	メディア・コミュニケーション特講8-2	2	講義	3,4					専	関	M3		中英, 高英	
英文	MJ31	メディア・コミュニケーション特講4-1	2	講義	2,3,4					専	-	A5:M3		中英, 高英	
英文	MJ32	メディア・コミュニケーション特講4-2	2	講義	2,3,4					専	-	A5:M3		中英, 高英	2019年度までグローバルリーダーシップ・プログラム要件科目
英文	MJ33	メディア・コミュニケーション特講5-1	2	講義	2,3,4					専	-	M3		中英, 高英	
英文	MJ34	メディア・コミュニケーション特講5-2	2	講義	2,3,4					専	-	M3		中英, 高英	
英文	MJ35	メディア・コミュニケーション特講6-1	2	講義	3,4					専	-	M3		中英, 高英	
英文	MJ36	メディア・コミュニケーション特講6-2	2	講義	3,4					専	-	M3		中英, 高英	
英文	ML21	メディア・リテラシー	2	講義	3					専	-	M3			
英文	ML22	英文法	2	講義	2,3					専	関	M1		中英, 高英	
英文	ML32	英作文1	2	講義	3					専	-	M1: M2: M3		中英, 高英	自動登録科目(英語英文学科及び英語文化コミュニケーション学科の3年次生のみ); クラスにより副専攻修了要件となる分野が異なる。詳細はシラバスを参照。
英文	ML33	英作文2	2	講義	3					専	-	M1: M2: M3		中英, 高英	
英文	ML34	英語発音法	2	講義	3,4					専	-				
英文	ML43	Impromptu Communication Skills	2	講義	3					専	関				
英文	ML44	資格英語1	2	講義	2,3,4					専	-				
英文	ML45	資格英語2	2	講義	2,3,4					専	-				
英文	ML46	Build Your English Skills	2	講義	2,3,4					専	-				
英文	MM31	英語文化論 [児童文学] 1	2	講義	1,2,3,4					-	-			中英・高英	
英文	MM32	英語文化論 [児童文学] 2	2	講義	1,2,3,4					-	-			中英・高英	
英文	MM54	異文化理解	2	講義	1,2,3,4	B				専	関		日	中英, 高英	
英文	MM63	英語文化論1-1	2	講義	1,2,3,4	B				専	関				排他: MM11「英語文化論 [英語と聖書] 1」

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
英文	MM64	英語文化論 1-2	2	講義	1,2,3,4	B				専	関				排他：MM12「英語文化論 [英語と聖書] 2」
英文	MM65	英語文化論 2-1	2	講義	2,3,4				可	専	-				
英文	MM66	英語文化論 2-2	2	講義	2,3,4				可	専	-				
英文	MM67	英語文化論 3-1	2	講義	2,3,4					専	-				排他：MM33「英語文化論 [アメリカ研究] 1」
英文	MM68	英語文化論 3-2	2	講義	2,3,4					専	-				排他：MM34「英語文化論 [アメリカ研究] 2」
英文	MM69	英語文化論 4-1	2	講義	3,4					専	-				排他：MM41「英語文化論 [映画批評] 1」
英文	MM70	英語文化論 4-2	2	講義	3,4					専	-				排他：MM42「英語文化論 [映画批評] 2」
英文	MM71	英語文化論 5-1	2	講義	2					専	関	M2			排他：MM43「英語文化論 [文学と電子メディア] 1」
英文	MM72	英語文化論 5-2	2	講義	2					専	関	M2			排他：MM44「英語文化論 [文学と電子メディア] 2」
英文	MM73	英語文化論 6-1	2	講義	2,3,4					専	関				排他：MM45「英語文化論 [多民族と共生] 1」
英文	MM74	翻訳を通じた企業協力	2	講義・ 実習	3,4				可	専	-	M2			
英文	MP01	英語基礎研究 1-1	2	講義	1,2	B				専	-	M1			2015年度以降入学者対象
英文	MP02	英語基礎研究 1-2	2	講義	1,2	B				専	-	M1			
英文	MP03	英語基礎研究 2-1	2	講義	1,2	B				専	-	M1			
英文	MP04	英語基礎研究 2-2	2	講義	1,2	B				専	-	M1			
英文	MP05	英語基礎研究 3-1	2	講義	1,2	B				専	-	M1			
英文	MP06	英語基礎研究 3-2	2	講義	1,2	B				専	-	M1			
英文	MP07	英語基礎研究 4-1	2	講義	1,2	B				専	-	M2			
英文	MP08	英語基礎研究 4-2	2	講義	1,2	B				専	-	M2			
英文	MP09	英語基礎研究 5-1	2	講義	1,2	B				専	-	M2			
英文	MP10	英語基礎研究 5-2	2	講義	1,2	B				専	-	M2			
英文	MP11	英語基礎研究 6-1	2	講義	1,2	B				専	-	M2			
英文	MP12	英語基礎研究 6-2	2	講義	1,2	B				専	-	M2			
英文	MP13	英語基礎研究 7-1	2	講義	1,2	B				専	-	M3			
英文	MP14	英語基礎研究 7-2	2	講義	1,2	B				専	-	M3			2015年度以降入学者対象； 排他：MC27「2年英文演 習 8-2」
英文	MP15	英語基礎研究 8-1	2	講義	1,2	B				専	-	M1: M3			2015年度以降入学者対象
英文	MP16	英語基礎研究 8-2	2	講義	1,2	B				専	-	M1: M3			
英文	MP17	英語基礎研究 9-1	2	講義	1,2	B				専	-	M3			
英文	MP18	英語基礎研究 9-2	2	講義	1,2	B				専	-	M3			
英文	MP19	英語基礎研究 10-1	2	講義	1,2	B				専	-	M3			
英文	MP20	英語基礎研究 10-2	2	講義	1,2	B				専	-	M3			
教育	PA02	社会福祉	2	講義	1,2,3,4	(B)				初は専、 その他は資			保		2018年度以降入学者対象； 分野系列：資格関係分野 (初等教育学専攻生はカリ キュラムページ参照)
教育	PA04	子ども家庭福祉	2	講義	2,3					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2019年度以降入学者対象
教育	PA05	子ども家庭支援論	2	講義	2,3					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		
教育	PA06	社会的養護 I	2	講義	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		
教育	PB05	子どもの食と栄養	2	演習	2,3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2018年度以降入学者対象
教育	PB07	保育の心理学	2	講義	2,3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2019年度以降入学者対象
教育	PB08	子ども家庭支援の心理学	2	講義	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		
教育	PB09	子ども理解と援助	2	演習	2,3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保	幼(2023年度以 降入学者対象)	2019年度以降入学者対象； 2023年度以降入学者より教 職課程(幼)
教育	PB10	子どもの保健	2	講義	2,3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2019年度以降入学者対象
教育	PC02	障害児保育	2	演習	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2018~2021年度入学者対象
教育	PC05	乳児保育 I	2	講義	2,3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2019年度以降入学者対象
教育	PC06	乳児保育 II	2	演習	2,3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		
教育	PC07	子どもの健康と安全	2	演習	2,3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		
教育	PC08	社会的養護 II	2	演習	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		
教育	PC09	子育て支援	2	演習	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
教育	PD01	子どもと遊び	2	講義	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2022～2023年度入学者対象
教育	PD02	子どもと自然	2	演習	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2022年度以降入学者対象
教育	PE03	保育実習Ⅰ(保育所)	2	実習	2,3					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		自動登録科目；2019年度以降入学者対象；クラスにより対象学年、履修時期が異なる。詳細はシラバスを参照。
教育	PE04	保育実習Ⅰ(施設)	2	実習	3					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		自動登録科目；2019年度以降入学者対象
教育	PE05	保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	演習	2,3					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		自動登録科目；2019年度以降入学者対象；クラスにより対象学年、履修時期が異なる。詳細はシラバスを参照。
教育	PE06	保育実習指導Ⅰ(施設)	1	演習	3					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		自動登録科目；2019年度以降入学者対象
教育	PJ01	保育の現代的課題	2	講義	4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2018～2021年度入学者対象
教育	PJ03	乳幼児理解	2	演習	4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		
教育	PJ04	乳幼児の身体・表現	2	講義	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2018～2023年度入学者対象；偶数年度開講
教育	PJ05	多文化共生保育	2	講義	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2022年度以降入学者対象；2024年度以降、偶数年度開講
教育	PJ06	児童文化論	2	講義	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2018年度以降入学者対象；2024年度以降、奇数年度開講
教育	PJ07	保育実習指導Ⅱ	1	演習	3					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		自動登録科目；2018年度以降入学者対象
教育	PJ08	保育実習Ⅱ	2	実習	3					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		
教育	PJ09	子育て支援実習	2	演習	3,4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2022～2023年度入学者対象
教育	PJ10	多文化共生保育	2	講義	4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		2019～2021年度入学者対象
教育	PJ11	子育て支援実習	2	演習	4					初(幼)は専、 その他は履修不可			保		
哲学 (2)	QB01	日本史概説Ⅰ(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		
哲学 (2)	QB02	日本史概説Ⅱ(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		
哲学 (2)	QB03	外国史概説(2)	4	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		
哲学 (2)	QB04	自然地理学1(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		偶数年度開講、教職課程登録者のうち、社会、地歴の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB05	自然地理学2(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		奇数年度開講、教職課程登録者のうち、社会、地歴の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB06	人文地理学1(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		偶数年度開講、教職課程登録者のうち、社会、地歴の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB07	人文地理学2(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		奇数年度開講、教職課程登録者のうち、社会、地歴の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB08	地誌学1(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		教職課程登録者のうち、社会、地歴の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB09	地誌学2(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		
哲学 (2)	QB10	社会学(2)	4	講義	2,3,4					●	●		中社、高公		教職課程登録者のうち、社会、公民の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB11	比較文化宗教学2(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中宗、高宗		教職課程登録者のうち、宗教の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB12	比較文化宗教学3(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中宗、高宗		
哲学 (2)	QB13	法律学[含国際法](2)	4	講義	2,3,4					●	●		中社、高公		教職課程登録者のうち、社会、公民の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB14	政治学概論[含国際政治]1(2)	4	講義	2,3,4					●	●		中社、高公		
哲学 (2)	QB15	政治学概論[含国際政治]2(2)	4	講義	2,3,4					●	●		中社、高公		
哲学 (2)	QB16	経済学概論[含国際経済](2)	4	講義	2,3,4					●	●		中社、高公		
哲学 (2)	QB21	地誌学1(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		偶数年度開講、教職課程登録者のうち、社会、地歴の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB22	地誌学2(2)	2	講義	2,3,4					●	●		中社、高地		奇数年度開講、教職課程登録者のうち、社会、地歴の免許希望者のみ履修可。

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
哲学 (2)	QB23	日本史概説(2)	2	講義	2,3,4					●	●			中社, 高地	教職課程登録者のうち、社会、地歴の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB24	政治学1(2)	2	講義	2,3,4					●	●			中社, 高公	2018年度以降入学者対象； 教職課程登録者のうち、社会、 公民の免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB25	政治学2(2)	2	講義	2,3,4					●	●			中社, 高公	
哲学 (2)	QB26	マクロ経済学(2)	2	講義	2,3,4					●	●			中社, 高公	
哲学 (2)	QB27	経済政策論(2)	2	講義	2,3,4					●	●			中社, 高公	
哲学 (2)	QB28	比較文化宗教学1(2)	2	講義	2,3,4					●	●			中宗, 高宗	教職課程登録者のうち、宗教の 免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB29	法律学I(2)	2	講義	2,3,4					●	●			中社, 高公	2022年度以前入学の教職課程 登録者のうち、社会、公民の 免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB30	社会学(2)	2	講義	2,3,4					●	●			中社, 高公	2022年度以前入学の教職課程 登録者のうち、社会、地歴の 免許希望者のみ履修可。
哲学 (2)	QB31	外国史概説(2)	2	講義	2,3,4					●	●			中社, 高地	
教育	RA13	教職入門II	2	講義	1,2,3,4	(B)				教初のみ関。 その他は履修不可	-			中, 高	2014~2022年度入学者対象
教育	RA22	教育原理2	2	講義	1,2,3,4	(B)				教のみ専。初は関。 その他は履修不可	-			中, 高	2023年度以降入学者対象
教育	RB13	国語科教育法2	2	講義	2,3					●	●			中国, 高国	分野系列：関連分野
教育	RB14	国語科教育法3	2	講義	2,3					●	●			中国, 高国	
教育	RB15	国語科教育法1(1)	2	講義	3					●	●			中国, 高国	分野系列：関連分野
教育	RB16	国語科教育法1(2)	2	講義	3					●	●			中国, 高国	
教育	RB36	社会科教育法1	2	講義	2,3					●	●			中社, 高地	分野系列：関連分野
教育	RB37	社会科教育法2	2	講義	2,3					●	●			中社, 高公	2019年度以降入学者対象 分野系列：関連分野
教育	RB38	社会・地理歴史科教育法1	2	講義	3					●	●			中社, 高地	分野系列：関連分野
教育	RB39	社会・地理歴史科教育法2	2	講義	3					●	●			中社, 高地	
教育	RB40	社会・公民科教育法1	2	講義	3					●	●			中社, 高公	
教育	RB41	社会・公民科教育法2	2	講義	3					●	●			中社, 高公	
教育	RB73	英語科教育法2	2	講義	2,3					●	●			中英, 高英	分野系列：関連分野
教育	RB74	英語科教育法3	2	講義	2,3					●	●			中英, 高英	
教育	RB75	英語科教育法1(1)	2	講義	3					●	●			中英, 高英	分野系列：関連分野
教育	RB76	英語科教育法1(2)	2	講義	3					●	●			中英, 高英	
教育	RB82	宗教科教育法2	2	講義	2,3					●	●			中宗, 高宗	分野系列：関連分野
教育	RB83	宗教科教育法3	2	講義	2,3					●	●			中宗, 高宗	
教育	RB84	特別支援教育概論(中高)	2	講義	2,3,4					教初のみ関。 その他は履修不可	-			中, 高	2019~2022年度入学者対象
教育	RB85	総合的な学習の時間の指導法(中高)	2	講義	2,3,4					教初のみ関。 その他は履修不可	-			中, 高	
教育	RB86	宗教科教育法1(1)	2	講義	3					●	●			中宗, 高宗	分野系列：関連分野
教育	RB87	宗教科教育法1(2)	2	講義	3					●	●			中宗, 高宗	
教育	RC14	教育実習指導1(中学・高校)	1	演習	3					●	●			中, 高	自動登録科目：2021年度以前 入学者対象；分野系列： 関連分野
教育	RC15	教育実習指導4(中学・高校)	1	演習	4					●	●			中, 高	自動登録科目：2022年度以降 入学者対象；分野系列： 関連分野
教育	RC16	教育実習指導1	1	演習	3					●	●			中, 高	
教育	RC17	教育実習指導4	1	演習	4					●	●			中, 高	自動登録科目 分野系列： 関連分野
教育	RC31	教育実習1	2	実習	4					●	●			中, 高	
教育	RC32	教育実習2	2	実習	4					●	●			中	自動登録科目 分野系列： 関連分野
教育	RC51	教職実践演習(中学・高校)	2	演習	4					●	●			中, 高	
教務	SA11	卒業論文	8	-	4					卒	卒				自動登録科目
総経	SB12	副専攻修了レポート	2	実習	3,4					-	○	A4			クラスにより対象学年が異なる。 詳細はシラバスを参照。
院日文	TA12	上代文学研究(1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA13	上代文学研究(2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA22	中古文学研究(1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA23	中古文学研究(2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA32	中世文学研究(1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA33	中世文学研究(2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA42	近世文学研究(1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA43	近世文学研究(2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA57	近現代文学研究1(1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA58	近現代文学研究1(2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA59	近現代文学研究2(1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA60	近現代文学研究2(2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
院日文	TA65	日本語学研究 (1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA66	日本語学研究 (2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA67	日本語史研究 (1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA68	日本語史研究 (2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA73	現代日本語研究 (1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA74	現代日本語研究 (2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA75	日本語教育学研究 1 (1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA76	日本語教育学研究 1 (2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA77	日本語教育学研究 2 (1)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA78	日本語教育学研究 2 (2)	2	講義	4		M	1,2	可					中国, 高国	
院日文	TA90	日本文学論文演習 1	4	演習			M	1,2	可						修了要件単位外科目：2018 年度以降入学者は、4単位 まで修了要件単位に参入可
院日文	TA91	日本文学論文演習 2	4	演習			M	1,2	可						
院日文	TA92	日本文学論文演習 3	4	演習			M	1,2	可						
院日文	TA93	日本文学論文演習 4	4	演習			M	1,2	可						
院日文	TA94	日本語学論文演習 1	4	演習			M	1,2	可						
院日文	TA95	日本語学論文演習 2	4	演習			M	1,2	可						
院日文	TA96	日本語教育学論文演習	4	演習			M	1,2	可						
院史学	TC11	日本古代史特講	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TC12	日本古代史研究	4	講義	4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TC13	日本史研究 1 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC14	日本史研究 1 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC15	日本史研究 2 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC16	日本史研究 2 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC17	日本史研究 3 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC18	日本史研究 3 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC19	日本史研究 4 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC20	日本史研究 4 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC21	日本中世史特講	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TC22	日本中世史研究	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TC23	日本史特講 1 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC24	日本史特講 1 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC25	日本史特講 2 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC26	日本史特講 2 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC27	日本史特講 3 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC28	日本史特講 3 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC29	日本史特講 4 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC30	日本史特講 4 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TC31	日本近世史特講	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TC32	日本近世史研究	4	講義	4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TC51	日本文化史研究	4	講義	4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TC61	日本近現代史特講	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TC62	日本近現代史研究	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TC75	日本史論文演習	4	演習			M	1,2	可						修了要件単位外科目：2018 年度以降入学者は、4単位 まで修了要件単位に参入可
院史学	TD12	東洋古代史特講	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TD13	東洋史研究 1 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TD14	東洋史研究 1 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TD15	東洋史研究 2 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TD16	東洋史研究 2 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TD21	東洋中世史特講	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TD22	東洋史特講 1 (1)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TD23	東洋史特講 1 (2)	2	講義・ 演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履 修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専 攻	課程	教職	特記事項
院史学	TD24	東洋史特講2 (1)	2	講義・演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TD25	東洋史特講2 (2)	2	講義・演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TD31	東洋近世史特講	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TD32	東洋近世史研究	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TD41	東洋近代史特講	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TD42	東洋近代史研究	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TD43	東洋現代史特講	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TE13	西洋史研究1 (1)	2	講義・演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TE14	西洋史研究1 (2)	2	講義・演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TE15	西洋史研究2 (1)	2	講義・演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TE16	西洋史研究2 (2)	2	講義・演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TE17	西洋史研究3 (1)	2	講義・演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TE18	西洋史研究3 (2)	2	講義・演習	3,4		M	1,2	可	専	-			中社, 高地	
院史学	TE22	西洋中世史研究	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TE35	西洋近代史研究	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TE45	西洋現代史研究	4	講義	3,4		M	1,2	可	専	関			中社, 高地	
院史学	TE54	世界史論文演習	4	講義			M	1,2	可						修了要件単位外科目：2018年度以降入学者は、4単位まで修了要件単位に参入可
院社文	TF31	社会学研究特論I-1	2	講義			M	1,2	可						
院社文	TF32	社会学研究特論I-2	2	講義			M	1,2	可						
院社文	TF33	社会学研究特論II-1	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TF34	社会学研究特論II-2	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TF41	社会心理学研究特論I-1	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TF42	社会心理学研究特論I-2	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TF43	社会心理学研究特論II-1	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TF44	社会心理学研究特論II-2	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TF55	法学研究特論I-1	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TF56	法学研究特論I-2	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TG23	比較文化研究特論I-1	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TG24	比較文化研究特論I-2	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TG25	文化人類学研究特論I-1	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TG26	文化人類学研究特論I-2	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TG27	中国思想文化研究特論I-1	2	講義	3,4		M	1,2	可	専 国際交流	関			中社, 高公	
院社文	TG28	中国思想文化研究特論I-2	2	講義	3,4		M	1,2	可	専 国際交流	関			中社, 高公	
院社文	TG31	国際開発学研究特論I-1	2	講義			M	1,2	可						
院社文	TG32	国際開発学研究特論I-2	2	講義			M	1,2	可						
院社文	TG41	フランス文化研究特論I-1	2	講義	3,4		M	1,2	可	専 国際交流	関				
院社文	TG42	フランス文化研究特論I-2	2	講義	3,4		M	1,2	可	専 国際交流	関				
院社文	TH06	社会文化学研究特論1	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TH07	社会文化学研究特論2	2	講義			M	1,2	可						
院社文	TH08	社会文化学研究特論3	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TH09	社会文化学研究特論4	2	講義			M	1,2	可					中社, 高公	
院社文	TH11	多変量解析演習	2	演習			M	1,2	可						社会文化学専攻生以外は、社会調査士の資格を取得済みであること
院社文	TH12	社会調査演習	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH13	質的研究演習	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH21	社会文化学論文作成演習I-1	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH22	社会文化学論文作成演習I-2	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH23	社会文化学論文作成演習II-1	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH24	社会文化学論文作成演習II-2	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH25	社会文化学論文作成演習III-1	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH26	社会文化学論文作成演習III-2	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH27	社会文化学論文作成演習IV-1	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH28	社会文化学論文作成演習IV-2	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH31	社会文化学論文作成演習V-1	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH32	社会文化学論文作成演習V-2	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH33	社会文化学論文作成演習VI-1	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH34	社会文化学論文作成演習VI-2	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH35	社会文化学論文作成演習VII-1	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH36	社会文化学論文作成演習VII-2	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH37	社会文化学論文作成演習VIII-1	2	演習			M	1,2	可						修了要件単位外科目：2018年度以降入学者は4単位まで修了要件単位に参入可

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
院社文	TH38	社会文化学論文作成演習Ⅷ-2	2	演習			M	1,2	可						修了要件単位外科目：2018年度以降入学者は4単位まで修了要件単位に参入可
院社文	TH39	社会文化学論文作成演習Ⅸ-1	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH40	社会文化学論文作成演習Ⅹ-2	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH41	社会文化学論文作成演習Ⅹ-1	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH42	社会文化学論文作成演習Ⅹ-2	2	演習			M	1,2	可						
院社文	TH52	社会文化学共同演習Ⅰ	1	演習			M	1,2	可						自動登録科目(M1のみ)：2020年度以降入学者対象
院哲学	TJ11	哲学特論Ⅰ	4	講義・演習	3.4		M	1,2	可	専	-			中社, 中宗, 高公, 高宗	「人文学特論Ⅴ」と同一授業
院哲学	TJ12	哲学特論Ⅱ	4	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	「哲学・倫理学特論Ⅰ」と同一授業
院哲学	TJ13	哲学特論Ⅲ	4	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ14	哲学特論Ⅳ	4	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ15	哲学特論Ⅴ	4	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ17	哲学特論Ⅵ-1	2	講義・演習	3.4		M	1,2	可	専	-			中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ18	哲学特論Ⅵ-2	2	講義・演習	3.4		M	1,2	可	専	-			中社, 中宗, 高公, 高宗	「人文学特論Ⅹ-1」と同一授業
院哲学	TJ21	キリスト教学特論Ⅰ	4	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ22	キリスト教学特論Ⅱ	4	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ23	キリスト教学特論Ⅲ	4	講義・演習	3.4		M	1,2	可	専	関			中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ24	キリスト教学特論Ⅳ	4	講義・演習	3.4		M	1,2	可	専	関			中社, 中宗, 高公, 高宗	「人文学特論Ⅵ」と同一授業
院哲学	TJ26	キリスト教学特論Ⅵ	4	講義・演習			M	1,2	可						
院哲学	TJ27	キリスト教学特論Ⅶ-1	2	講義・演習			M	1,2	可						
院哲学	TJ28	キリスト教学特論Ⅶ-2	2	講義・演習			M	1,2	可						
院哲学	TJ33	美学・芸術学特論Ⅰ	4	講義・演習	3.4		M	1,2	可	専	-			中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ34	美学・芸術学特論Ⅱ	4	講義・演習	3.4		M	1,2	可	専	-			中社, 中宗, 高公, 高宗	「美学・芸術学特論Ⅱ」と同一授業
院哲学	TJ43	美学・芸術学特論Ⅲ	4	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ44	美学・芸術学特論Ⅳ	4	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	「美学・芸術学特論Ⅰ」と同一授業
院哲学	TJ53	現代思想特論Ⅰ-1	2	講義・演習	3.4		M	1,2	可	専	-			中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ54	現代思想特論Ⅰ-2	2	講義・演習	3.4		M	1,2	可	専	-			中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ55	現代思想特論Ⅱ-1	2	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ56	現代思想特論Ⅱ-2	2	講義・演習			M	1,2	可					中社, 中宗, 高公, 高宗	
院哲学	TJ61	哲学論文演習Ⅰ	4	演習			M	1,2	可						修了要件単位外科目：2018年度以降入学者は4単位まで修了要件単位に参入可
院哲学	TJ62	哲学論文演習Ⅱ	4	演習			M	1,2	可						
院哲学	TJ63	哲学論文演習Ⅲ	4	演習			M	1,2	可						
院哲学	TJ64	哲学論文演習Ⅳ	4	演習			M	1,2	可						
院哲学	TJ65	哲学論文演習Ⅴ	4	演習			M	1,2	可						
院哲学	TJ66	哲学論文演習Ⅵ	4	演習			M	1,2	可						修了要件単位外科目：2018年度以降入学者は4単位まで修了要件単位に参入可
院哲学	TJ67	哲学論文演習Ⅶ	4	演習			M	1,2	可						
院哲学	TJ68	キリスト教学特論Ⅴ-1	2	講義・演習			M	1,2	可						
院哲学	TJ69	キリスト教学特論Ⅴ-2	2	講義・演習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WA16	基礎心理学特論1	2	講義			M	1,2	可					小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (心理)	WA17	基礎心理学特論2	2	講義			M	1,2	可					小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (心理)	WA18	基礎心理学特論3	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心理)	WA19	基礎心理学特論4	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心)	WA21	大脳生理心理学特論	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心)	WA22	大脳生理心理学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象
院人科 (心)	WA31	心理統計法特論	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (教)	WA42	人間科学特論Ⅱ	2	講義			M	1,2	可					小, 幼, 中社, 高地, 高公	

科目リスト

開講学科 担当研究室	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
院人科 (心理)	WA43	人間科学特論 1	2	講義			M	1,2	可					小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教育)	WA44	人間科学特論 2	2	講義			M	1,2	可					小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教)	WA71	基礎教育学特論 1	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼	
院人科 (教)	WA72	基礎教育学特論 2	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教)	WA73	基礎教育学特論 3	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼	
院人科 (教育)	WA74	基礎教育学特論 4	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (心)	WB08	家族臨床心理学特論	2	講義			M	1,2	可					高公	人間科学専攻(博士前期課程) 発達心理学研究領域、臨床心 理学研究領域、視聴覚情報研 究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WB12	家族心理学特論	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心)	WB13	発達心理学特論	2	講義			M	1,2	可					小, 幼, 中社, 高地	
院人科 (心)	WB15	比較行動学特論	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心)	WB16	障害児心理学特論	2	講義			M	1,2	可					小, 幼, 中社, 高地	人間科学専攻(博士前期課程) 発達心理学研究領域、臨床心 理学研究領域、視聴覚情報研 究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WB17	学校臨床心理学特論	2	講義			M	1,2	可						人間科学専攻(博士前期課 程) 臨床心理学研究領域の 専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WB19	フェミニスト・カウンセリ ング特論	2	講義			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WB24	生涯発達心理学演習 1 (1)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WB25	生涯発達心理学演習 1 (2)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WB26	生涯発達心理学演習 2 (1)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WB27	生涯発達心理学演習 2 (2)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心)	WB31	老年心理学特論	2	講義			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WB33	社会心理学特論 1	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心)	WB41	家族心理学特論(家族関係・ 集団・地域社会における心理 支援に関する理論と実践)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象
院人科 (心)	WB42	発達心理学特論(教育分野に 関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	
院人科 (心)	WB43	家族臨床心理学特論(家族関 係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象； 人間科学専攻(博士前期課 程) 発達心理学研究領域、 臨床心理学研究領域、視聴 覚情報研究領域の専攻生 のみ履修可
院人科 (心)	WB45	比較行動学特論(家族関係・ 集団・地域社会における心理 支援に関する理論と実践)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象
院人科 (心)	WB46	障害児心理学特論(福祉分野 に関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象； 人間科学専攻(博士前期課 程) 発達心理学研究領域、 臨床心理学研究領域、視聴 覚情報研究領域の専攻生 のみ履修可
院人科 (心)	WB47	老年心理学特論(福祉分野に 関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公		2018年度以降入学者対象
院人科 (心理)	WB51	生涯発達心理学特論 1	2	講義			M	1,2	可					小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (心理)	WB52	生涯発達心理学特論 2	2	講義			M	1,2	可					小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (心)	WC11	臨床心理学特論 I	2	講義			M	1,2	可						人間科学専攻(博士前期課 程) 臨床心理学研究領域の 専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC12	臨床心理学特論 II	2	講義			M	1,2	可						
院人科 (心)	WC13	臨床心理面接特論 I	2	講義			M	1,2	可						
院人科 (心)	WC14	臨床心理面接特論 II	2	講義			M	1,2	可						
院人科 (心)	WC16	臨床心理査定演習 I	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心)	WC17	臨床心理査定演習 II	2	演習			M	1,2	可						

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
院人科 (心)	WC22	精神医学特論	2	講義			M	1,2	可					高公	人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC23	心身医学特論	2	講義			M	1,2	可					高公	人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC24	社会病理学特論	2	講義			M	1,2	可					高公	人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC27	投影法特論	2	講義			M	1,2	可						人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC28	犯罪心理学特論	2	講義			M	1,2	可					高公	人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC42	臨床心理実習	2	実習			M	1,2	可						人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC61	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	2	講義			M	1,2	可				公		2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC62	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	演習			M	1,2	可				公		2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC71	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC72	心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC73	社会病理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC74	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC76	フェミニスト・カウンセリング特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	講義			M	1,2	可				公		2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC77	産業心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公		2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC78	健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)	2	講義			M	1,2	可				公		2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC81	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅱ)	1	実習			M	1,2	可				公		2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC82	臨床心理実習Ⅱ	1	実習			M	1,2	可						2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC83	心理実践実習Ⅰ	2	実習			M	1	可				公		2018年度以降入学者対象；人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC84	臨床心理学研究法	2	講義・演習			M	1,2	可						人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心)	WC90	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	講義			M	1,2	可				公		人間科学専攻(博士前期課程)発達心理学研究領域、臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心理)	WC91	臨床心理学演習(1)	2	演習			M	1,2	可						人間科学専攻(博士前期課程)臨床心理学研究領域の専攻生のみ履修可
院人科 (心理)	WC92	臨床心理学演習(2)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WC93	心理療法特論1	2	講義			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WC94	心理療法特論2	2	講義			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WC95	心理支援に関する理論と実践	2	講義			M	1,2	可				公		
院人科 (心理)	WC96	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	実習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WC97	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	実習			M	1,2	可						
院人科 (心)	WD14	視聴覚情報処理特論	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心)	WD41	感性情報処理特論	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心)	WD72	学習心理学特論Ⅰ	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心)	WD73	学習心理学特論Ⅱ	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心)	WD91	学習心理学特論Ⅰ(教育分野に関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	2018年度以降入学者対象
院人科 (心)	WD92	学習心理学特論Ⅱ(教育分野に関する理論と支援の展開)	2	講義			M	1,2	可				公	高公	
院人科 (心理)	WD93	認知心理学特論1	2	講義			M	1,2	可					高公	

科目リスト

開講学科 担当研究室	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
院人科 (心理)	WD94	認知心理学特論 2	2	講義			M	1,2	可					高公	
院人科 (心理)	WD95	認知心理学演習 (1)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WD96	認知心理学演習 (2)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WD97	視聴覚情報処理演習 (1)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WD98	視聴覚情報処理演習 (2)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (教)	WF43	生涯学習研究特論 1	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小	
院人科 (教)	WF44	生涯学習研究特論 2	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小	2021年度以前入学者のみ幼稚園の教職関連科目となる
院人科 (教)	WF45	生涯学習研究特論 3	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				幼	2021年度以前入学者のみ小学校の教職関連科目となる
院人科 (教)	WF46	生涯学習研究特論 4	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				幼	
院人科 (教)	WF51	教育実践研究特論 1	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教)	WF52	教育実践研究特論 2	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教)	WF53	教育実践研究特論 3	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教)	WF54	教育実践研究特論 4	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教)	WF55	教育実践研究特論 5	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				幼	2021年度以前入学者のみ小学校の教職関連科目となる
院人科 (教)	WF56	教育実践研究特論 6	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼	
院人科 (教)	WF57	教育実践研究特論 7	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小	2021年度以前入学者のみ幼稚園の教職関連科目となる
院人科 (教)	WF58	教育実践研究特論 8	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼	
院人科 (教)	WF59	教育実践研究特論 9	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				幼	
院人科 (教)	WF61	国際教育研究特論 1	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教)	WF62	国際教育研究特論 2	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教)	WF63	国際教育研究特論 3	2	講義	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関				小, 幼, 中社, 高地, 高公	
院人科 (教)	WF64	国際教育協力研究特論	2	講義			M	1,2	可						
院人科 (教)	WF72	教育実践研究演習 1	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (教)	WF73	教育実践研究演習 2	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (教)	WF82	生涯学習研究演習 1	2	演習	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関					
院人科 (教)	WF83	生涯学習研究演習 2	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (教)	WF92	国際教育研究演習 1	2	演習	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関					
院人科 (教)	WF93	国際教育研究演習 2	2	演習	3,4		M	1,2	可	教初のみ専。 その他は関					
院人科 (教)	WG11	人間科学特別演習	4	演習			M	1,2	可						
院人科 (教育)	WG14	人間科学特別演習 (1)	2	演習			M	1,2	可						2018年度以降入学者は 8 単位まで修了要件単位に参入可
院人科 (教育)	WG15	人間科学特別演習 (2)	2	演習			M	1,2	可						
院人科 (心理)	WG23	心理学修士論文演習 (1)	2	演習			M	1,2	可						修了要件単位外科目
院人科 (心理)	WG24	心理学修士論文演習 (2)	2	演習			M	1,2	可						修了要件単位外科目
院英文	WL01	英語英文学論文演習 I - 1	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL02	英語英文学論文演習 I - 2	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL03	英語英文学論文演習 II - 1	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL04	英語英文学論文演習 II - 2	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL05	英語英文学論文演習 III - 1	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL06	英語英文学論文演習 III - 2	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL07	英語英文学論文演習 IV - 1	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL08	英語英文学論文演習 IV - 2	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL09	英語英文学論文演習 V - 1	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL10	英語英文学論文演習 V - 2	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL11	英語英文学論文演習 VI - 1	2	演習			M	1,2	可						
院英文	WL12	英語英文学論文演習 VI - 2	2	演習			M	1,2	可						修了要件単位外科目；2018年度以降入学者は 4 単位まで修了要件単位に参入可

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
院英文	WL17	英語学研究Ⅰ-1	2	講義・演習	4		M	1.2	可	専	関			中英、高英	
院英文	WL18	英語学研究Ⅰ-2	2	講義・演習	4		M	1.2	可	専	関			中英、高英	
院英文	WL19	英語学研究Ⅱ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL20	英語学研究Ⅱ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL29	英文学研究法Ⅰ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL30	英文学研究法Ⅰ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL34	言語学研究Ⅱ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL35	言語学研究Ⅱ-2	2	講義・演習	4		M	1.2	可	専	-			中英、高英	
院英文	WL36	言語学研究Ⅰ-1	2	講義・演習			M	1.2	可		-			中英、高英	
院英文	WL37	言語学研究Ⅰ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL38	英語英文学論文演習Ⅶ-1	2	演習			M	1.2	可						修了要件単位外科目：2018年度以降入学者は4単位まで修了要件単位に参入可
院英文	WL39	英語英文学論文演習Ⅶ-2	2	演習			M	1.2	可						
院英文	WL40	17世紀英米文学研究Ⅰ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL41	17世紀英米文学研究Ⅰ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL42	20世紀英米文学研究Ⅰ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL43	20世紀英米文学研究Ⅰ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL44	20世紀英米文学研究Ⅱ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL45	20世紀英米文学研究Ⅱ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL79	19世紀英米文学研究Ⅰ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL80	19世紀英米文学研究Ⅰ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL85	現代作品研究Ⅰ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL86	現代作品研究Ⅰ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL87	現代作品研究Ⅱ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL88	現代作品研究Ⅱ-2	2	講義・演習	3.4		M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL89	現代作品研究Ⅲ-1	2	講義・演習			M	1.2	可	専	-			中英、高英	
院英文	WL90	現代作品研究Ⅲ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL92	英米文学批評Ⅰ-1	2	講義・演習			M	1.2	可						
院英文	WL93	英米文学批評Ⅰ-2	2	講義・演習			M	1.2	可						
院英文	WL94	翻訳理論と実践Ⅰ-1	2	講義・演習			M	1.2	可						
院英文	WL95	翻訳理論と実践Ⅰ-2	2	講義・演習			M	1.2	可						
院英文	WL96	近現代文芸論Ⅰ-1	2	講義・演習	4		M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL97	近現代文芸論Ⅰ-2	2	講義・演習	4		M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL98	英語学研究Ⅲ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WL99	英語学研究Ⅲ-2	2	講義・演習	4		M	1.2	可	専	-			中英、高英	
院英文	WM02	英語学研究Ⅳ-1	2	講義・演習	4		M	1.2	可	専	-			中英、高英	
院英文	WM03	英語学研究Ⅳ-2	2	講義・演習	4		M	1.2	可	専	-			中英、高英	
院英文	WM04	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ-1	2	講義・演習	4		M	1.2	可	専	-			中英、高英	
院英文	WM05	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ-2	2	講義・演習	4		M	1.2	可	専	-			中英、高英	
院英文	WM06	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ-1	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	
院英文	WM07	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ-2	2	講義・演習			M	1.2	可					中英、高英	

科目リスト

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
院英文	WM08	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ-1	2	講義・演習	3.4		M	1.2	可					中英, 高英	
院英文	WM09	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ-2	2	講義・演習	3.4		M	1.2	可					中英, 高英	
院人文	XA17	英文学特論Ⅰ-1	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA18	英文学特論Ⅰ-2	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA19	英文学特論Ⅱ-1	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA20	英文学特論Ⅱ-2	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA33	哲学・倫理学特論Ⅰ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA34	哲学・倫理学特論Ⅱ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA35	美学・芸術学特論Ⅰ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA36	美学・芸術学特論Ⅱ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA37	哲学・倫理学特論Ⅲ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA38	英語学特論Ⅰ-1	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA39	英語学特論Ⅰ-2	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA40	現代社会・ジャーナリズム特論Ⅰ-1	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA41	現代社会・ジャーナリズム特論Ⅰ-2	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA42	日本語学特論Ⅰ(1)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA43	日本語学特論Ⅰ(2)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA44	日本語学特論Ⅱ(1)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA45	日本語学特論Ⅱ(2)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA46	日本文学特論Ⅰ(1)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA47	日本文学特論Ⅰ(2)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA48	史学特論Ⅰ(1)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA49	史学特論Ⅰ(2)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA50	史学特論Ⅱ(1)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA51	史学特論Ⅱ(2)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA52	史学特論Ⅲ(1)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XA53	史学特論Ⅲ(2)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB11	人文学特論Ⅰ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB12	人文学特論Ⅱ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB15	人文学特論Ⅴ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB16	人文学特論Ⅵ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB17	人文学特論Ⅶ	4	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB18	人文学特論Ⅱ-1	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB19	人文学特論Ⅱ-2	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB20	人文学特論Ⅶ-1	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB21	人文学特論Ⅶ-2	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB24	人文学特論Ⅹ-1	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB25	人文学特論Ⅹ-2	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB30	人文学特論Ⅲ(1)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						
院人文	XB31	人文学特論Ⅲ(2)	2	講義・演習			D	1.2,3	可						

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
院人文	XB32	人文学特論Ⅳ (1)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB33	人文学特論Ⅳ (2)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB40	人文学特論Ⅷ (1)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB41	人文学特論Ⅷ (2)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB42	人文学特論Ⅸ (1)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB43	人文学特論Ⅸ (2)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB46	人文学特論ⅩⅠ (1)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB47	人文学特論ⅩⅠ (2)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB48	人文学特論ⅩⅡ (1)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB49	人文学特論ⅩⅡ (2)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB50	人文学特論ⅩⅢ (1)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XB51	人文学特論ⅩⅢ (2)	2	講義・演習			D	1,2,3	可						
院人文	XC13	人文学共同演習	0	演習			D	1,2,3	可						自動登録科目 (D2のみ)
院人文	XD31	人文学論文演習Ⅰ	4	演習			D	1,2,3	可						修了要件単位外科目
院人文	XD32	人文学論文演習Ⅱ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD33	人文学論文演習Ⅲ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD34	人文学論文演習Ⅳ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD35	人文学論文演習Ⅴ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD36	人文学論文演習Ⅵ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD37	人文学論文演習Ⅶ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD38	人文学論文演習Ⅷ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD39	人文学論文演習Ⅸ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD40	人文学論文演習Ⅹ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD41	人文学論文演習ⅩⅠ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD42	人文学論文演習ⅩⅡ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD44	人文学論文演習ⅩⅢ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD45	人文学論文演習ⅩⅣ	4	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD51	人文学論文演習Ⅰ-1	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD52	人文学論文演習Ⅰ-2	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD53	人文学論文演習Ⅸ-1	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD54	人文学論文演習Ⅸ-2	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD55	人文学論文演習ⅩⅤ (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD56	人文学論文演習ⅩⅤ (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD57	人文学論文演習ⅩⅥ (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD58	人文学論文演習ⅩⅥ (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD59	人文学論文演習ⅩⅦ (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD60	人文学論文演習ⅩⅦ (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD61	人文学論文演習ⅩⅧ (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD62	人文学論文演習ⅩⅧ (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD63	人文学論文演習ⅩⅨ (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD64	人文学論文演習ⅩⅨ (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD65	人文学論文演習ⅩⅩ (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD66	人文学論文演習ⅩⅩ (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD67	人文学論文演習ⅩⅪ (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD68	人文学論文演習ⅩⅪ (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD69	人文学論文演習ⅩⅫ (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD70	人文学論文演習ⅩⅫ (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD71	人文学論文演習ⅩⅫⅢ (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人文	XD72	人文学論文演習ⅩⅫⅢ (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心)	YA15	知覚心理学特殊研究	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (心)	YA25	認知心理学特殊研究	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (心)	YA31	神経心理学特殊研究	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (心)	YA32	学習心理学特殊研究	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YA91	知覚心理学特殊演習 (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YA92	知覚心理学特殊演習 (2)	2	演習			D	1,2,3	可						

科目リスト

開講学科 担当研究室	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項
院人科 (心理)	YA93	認知心理学特殊演習 (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YA94	認知心理学特殊演習 (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心)	YB21	比較行動学特殊研究	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YB24	発達心理学特殊研究 1	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YB25	発達心理学特殊研究 2	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (心)	YB62	家族臨床心理学特殊研究	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (心)	YB63	フェミニスト・カウンセリング 特殊研究	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YB94	発達心理学特殊演習 1 (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YB95	発達心理学特殊演習 1 (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YB96	発達心理学特殊演習 2 (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YB97	発達心理学特殊演習 2 (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YB98	臨床心理学特殊演習 1 (1)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YB99	臨床心理学特殊演習 1 (2)	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (心理)	YC14	心理学博士論文演習 (1)	2	演習			D	1,2,3	可						修了要件単位外科目
院人科 (心理)	YC15	心理学博士論文演習 (2)	2	演習			D	1,2,3	可						修了要件単位外科目
院人科 (教)	YD11	教育実践特殊研究 1	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD12	教育実践特殊研究 2	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD13	教育実践特殊研究 3	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD14	教育実践特殊研究 4	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD15	教育実践特殊研究 5	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD16	教育実践特殊研究 6	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD17	教育実践特殊研究 7	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD18	教育実践特殊研究 8	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD19	教育実践特殊研究 9	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD21	生涯学習特殊研究 1	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD22	生涯学習特殊研究 2	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD23	生涯学習特殊研究 3	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD24	生涯学習特殊研究 4	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD31	国際教育特殊研究 1	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD32	国際教育特殊研究 2	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD33	国際教育特殊研究 3	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD34	国際教育協力特殊研究	2	講義			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD42	教育実践研究特殊演習 1	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD43	教育実践研究特殊演習 2	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD52	生涯学習研究特殊演習 1	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD53	生涯学習研究特殊演習 2	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD62	国際教育研究特殊演習 1	2	演習			D	1,2,3	可						
院人科 (教)	YD63	国際教育研究特殊演習 2	2	演習			D	1,2,3	可						

開講学科 (担当研究室)	コード	科目名	単位	講義 形態	学年 (学部)	備考	院	学年 (院)	再 履修	区分 (開講学科)	区分 (他学科)	副 専攻	課程	教職	特記事項	
院人科 (教)	YD71	教育研究論文作成演習	4	演習			D	1,2,3	可							
院人科 (教育)	YD72	教育研究論文作成演習(1)	2	演習			D	1,2,3	可						修了要件単位外科目	
院人科 (教育)	YD73	教育研究論文作成演習(2)	2	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZA31	社会文化学特論1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZA32	社会文化学特論2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB01	社会学特論I-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB02	社会学特論I-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB03	社会学特論II-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB04	社会学特論II-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB11	社会心理学特論I-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB12	社会心理学特論I-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB13	社会心理学特論II-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB14	社会心理学特論II-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB25	法学特論I-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB26	法学特論I-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB29	比較文化特論I-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB30	比較文化特論I-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB31	文化人類学特論I-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB32	文化人類学特論I-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB33	中国思想文化特論I-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB34	中国思想文化特論I-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB35	国際開発学特論I-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB36	国際開発学特論I-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB37	フランス文化特論I-1	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZB38	フランス文化特論I-2	2	講義			D	1,2,3	可							
院社文	ZC13	社会文化学共同演習	1	演習			D	1,2,3	可						自動登録科目(D2のみ): 2020年度以降入学対象	
院社文	ZD11	社会文化学論文演習I	4	演習			D	1,2,3	可						修了要件単位外科目	
院社文	ZD12	社会文化学論文演習II	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD13	社会文化学論文演習III	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD14	社会文化学論文演習IV	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD15	社会文化学論文演習V	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD16	社会文化学論文演習VI	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD17	社会文化学論文演習VII	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD18	社会文化学論文演習VIII	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD19	社会文化学論文演習IX	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD20	社会文化学論文演習X	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD21	社会文化学論文演習XI	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD22	社会文化学論文演習XII	4	演習			D	1,2,3	可							
院社文	ZD23	社会文化学論文演習XIII	4	演習			D	1,2,3	可							

【ナンバリングコードについて】

本学で提供するすべての科目には、学修の段階や履修順序等の教育課程の体系性を示すための番号が以下のルールに従って付与されています。ナンバリングコードはシラバスで確認してください。

レベル	授業形態	使用言語	科目コード			
1桁目	2桁目	3桁目	4桁～7桁目			
0	0	0	A	A	0	0

◆レベル（1桁目）

番号	対象	レベル
1	学部	基礎レベルの科目
2		基礎から専門への導入レベルの科目・専門の科目（初級レベル）
3		専門の科目（中級レベル）
4		専門の科目（上級レベル）
5	大学院	博士前期（修士）課程1年次レベルの科目
6		博士前期（修士）課程2年次レベルの科目・修士論文指導
7		博士後期課程レベルの専門科目・博士論文指導

◆授業形態（2桁目）

番号	授業形態
0	講義
1	演習
2	実習
3	その他（講義・演習など）

◆使用言語（3桁目）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

◆科目コード（4桁～7桁目）

科目リストを参照すること。

【ディプロマポリシーナンバーについて】

各学科で開設される科目と全学共通科目として開設される科目にはそれぞれディプロマポリシーが付与されています。履修要覧のディプロマポリシーを確認の上、シラバスに記載されているディプロマポリシーナンバーを参照して履修計画に活用してください。

2023年度 聖心女子大学大学院 教務関係事務日程

授業開講日
 授業および試験期間
 補講日
 休日・祝日

4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29 昭和の日
30						

4/ 1(土) 入学式・履修ガイダンス
 4/ 3(月)～4/12(水)
 前期抽選および履修登録
 ・詳細は履修登録ガイドを参照のこと
 4/16(日) 春期休暇終了
 4/17(月) 前期授業開始
 ～4/14(金) 修士論文テーマ・指導教員届提出
 締切
 ～4/14(金) 博士論文題目・指導教員届提出締切
 4/21(金)～4/26(水)
 前期抽選および履修登録確認
 4/30(日) 研究指導計画書提出 (指導教員宛)

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9 スポーツの日	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

10/ 9(月) スポーツの日→授業開講
 10/12(木) 後期履修登録確定
 10/20(金) 聖心祭準備 (終日休講)
 10/21(土)・22(日)
 聖心祭
 10/23(月) 聖心祭後片付け (終日休講)
 10/31(火) 博士論文提出期限

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

5/ 1(月)～5/ 2(火)
 創立記念週間 (休日)
 5/ 8(月) 前期履修登録確定
 5/20、5/27 (いずれも土曜日午後)
 補講日

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 文化の日	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23 勤労感謝の日	24	25
26	27	28	29	30		

11/ 3(金) 文化の日→授業開講
 11/ 4(土) 大学創立75周年記念式典
 (終日休講)

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

6/ 3、6/10 (いずれも土曜日午後)
 補講日

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

12/25(月) 冬期休暇開始

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 海の日	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

7/15、7/22 (いずれも土曜日午後)、
 7/31(月) 補講日
 7/24(月)～7/29(土)
 授業及び前期試験期間
 定期試験にかわるレポート
 (教務課提出) 受付期間
 7/17(月) 海の日→授業開講
 7/31(月) 前期授業終了

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1 元旦	2	3	4	5	6
7	8 成人の日	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1/ 6(土) 冬期休暇終了
 1/ 9(火) 授業再開・補講日
 1/16(火)～1/22(月)
 授業及び後期試験
 定期試験にかわるレポート
 (教務課提出) 受付期間
 1/19(金)、1/22(月)
 修士論文提出日
 1/10(水)、1/23(火)～1/29(月)
 補講日
 1/29(月) 授業終了
 1/30(火) 春期休暇開始
 1/25(木)、1/26(金) 追審査
 1/30(火) 追試験

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11 山の日	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8/ 1(火) 夏期休暇開始
 8/ 2(水) 追試験・追審査

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 建国記念の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23 天皇誕生日	24
25	26	27	28	29		

2/ 9(金)～成績公開 (Sophie)
 2/ 9(金) (1日間)
 <修了予定者>
 「成績評価確認願」受付期間
 2/10(土)～2/22(木)
 <修士1年次生・博士1、2年次生>
 「成績評価確認願」受付期間
 2/19(月) 修士・博士論文審査結果発表 (Sophie)
 修了内定者発表 (Sophie)
 2/26(月) 教員免許状大学一括申請最終申請
 者発表 (Sophie)
 日本語教員課程修了内定者発表
 (Sophie)

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18 敬老の日	19	20	21	22	23 秋分の日
24	25	26	27	28	29	30

9/ 1(金)～成績公開 (Sophie)
 9/ 1(金)～9/15(金)
 「成績評価確認願」受付期間
 9/14(木)～9/21(木)
 後期抽選および履修登録
 ・詳細は履修登録ガイドを参照のこと
 9/22(金) 夏期休暇終了
 9/23(土) 後期授業開始
 9/23(土) 秋分の日→授業開講
 9/28(木)～10/3(火)
 後期抽選および履修登録確認

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20 春分の日	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

3/16(土) 学位記授与式



聖心女子大学 履修要覧2023

2023年4月1日発行

発行 聖心女子大学

〒150-8938 東京都渋谷区広尾4丁目3番1号

TEL : 03-3407-5811 (代表)

<http://www.u-sacred-heart.ac.jp>